

序

令和6年1月1日、新しい年の始めに突如として発生した能登半島地震では、多くの児童・生徒が心身ともに苦しい経験をしました。本県では未だ多くの子どもたちが避難先の学校で教育活動を続けるなど、震災に起因する課題が継続していますが、私たちは13年前の経験から能登の地震を自分事と捉え、能登の人々に深く思いを寄せることができました。一方で、新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、学校生活における様々な制約が緩和され、普段通りの学習活動や学校行事が戻りつつあります。

このような中、県教育委員会では「学びの変革」を柱に掲げ、「第7次福島県総合教育計画」（令和4年度～令和12年度）による施策を展開しています。目まぐるしく変化する社会情勢の中で、子どもたち一人一人の多様な幸せと社会全体の幸せである「Well-being」を実現させていくためには、社会の課題に主体的に向き合い、多様な他者と協働して解決に向かう力を育ていくことが不可欠です。復興・創生の過程という困難な状況の中で培われた他者との対話や協働を通して得た学びを、「福島ならではの教育」として充実・発展させるとともに、子どもたちの健やかな成長と自己実現を図るため、「教職員働き方改革アクションプラン」を新たに作成するなど、本県教育のさらなる発展に努めています。

さて、本教育年報は、令和5年度における教育に関する施策概要や事業実績等を集録しており、本県教育行政を一望できる資料として、教育関係者のみならず、多方面の方々に広く御利用いただいております。

県教育委員会といたしましては、学びを支える大人、そして学びの当事者である子どもたちと共や活動を共有していきたいという思いから公式noteのサイトを始めるなど、情報発信の方法を工夫しているところですが、本書が今後も教育施策を推進する上での参考資料として広く活用され、本県教育振興の一助となることを願っています。

令和6年11月

福島県教育委員会

※ 本書は、旧字体等（機種依存文字）が用いられている場合、常用漢字で表記しています。また、敬称は省略しています。

教育年報目次

第1章 教育行政の概観

1 令和5年度の本県教育の概要	1
2 「学びの変革推進プラン」に関連する主な事業・取組	1
3 新しい県立高校改革計画の概要	11

第2章 教育行政

第1節	教育委員会	15
	1 教育委員会	15
	2 審議事項	15
第2節	教育庁組織	18
第3節	企画調整	19
	1 教職員現職教育計画の策定	19
	2 調整事務	19
第4節	広報・広聴	20
	1 教育委員会だより	20
	2 教育年報	20
	3 福島県の教育	20
	4 ふくしま教育ニュース	20
	5 教育庁各課・所・館の広報誌・紙	21
	6 記者発表及び資料提供（投げ込み）件数	23
	7 教育フォーラム	24
	8 「ふくしま教育の日」啓発推進事業	24
	9 「県庁に みんなの声を 届けよう！」プロジェクト	24
第5節	調査統計	25
	1 地方教育費調査（一般統計）	25
	2 学校教員統計調査（基幹統計）	25
	3 進路状況等に関する調査	25
	教職員の給与	25
第6節	1 給料関係	25
	2 諸手当関係	25
	附属機関等	27
第7節	1 福島県社会教育委員の会議	27
	2 福島県文化財保護審議会	28
	市町村教育委員会	29
第8節	1 概要	29
	2 組織	29
	3 令和5年度市町村教育委員会援助指導の概要	30
	職員団体との話し合い	30
第9節	1 福島県教職員組合	30
	2 福島県高等学校教職員組合	30
	3 福島県立高等学校教職員組合	31
	4 福島県学校事務労働組合	31
	審査請求事件及び訴訟事件	31
第10節	1 審査請求事件	31
	2 訴訟事件	31
	公益法人等の指導等並びに公益信託の状況	32
第11節	1 公益法人等	32
	2 公益信託	32

	表彰及び叙勲	32
第12節	1 教育・文化関係表彰	32
	2 文部科学大臣表彰	33
	3 春・秋・高齢者叙勲、死亡叙位・叙勲	33
	奨学育英	35
第13節	1 福島県奨学資金	35
	2 福島県高等学校定時制課程及び通信制課程修学資金貸与制度	35

第3章 教育財政

第1節	令和5年度決算	36
	1 歳入	36
	2 歳出	37
第2節	学校教育施設	39
	1 県立学校	39
	2 幼稚園・小学校・中学校・特別支援学校（市町村立分）	41
第3節	産業教育設備整備事業	42
	産業教育施設・設備の整備	42
第4節	理科教育振興法補助事業	42
	1 理科設備	42
	2 算数・数学特別設備	42
第5節	情報処理設備整備事業	42
	県単独事業	42
第6節	体育施設	43
	1 公立学校施設整備費補助（学校体育諸施設補助）	43
	2 社会体育施設整備費補助	43

第4章 教育の情報化

第1節	基盤整備	44
第2節	人材の育成・活用	44

第5章 義務教育

第1節	概要	45
第2節	学校管理	45
	1 児童生徒数・学級数と教職員定数	45
	2 教職員人事・任用	48
	3 教育職員免許状の授与状況	48
	4 学校の設置及び統廃合	49
	5 学校防火	49
	6 へき地対策	50
第3節	学校教育	51
	1 概要	51
	2 現職教育	53
	3 教育課程	56
	4 学力向上等	56
	5 道徳教育	57
	6 特別活動	58
	7 生徒指導・進路指導	58
	8 幼稚園教育	58

	9	へき地教育	59
	10	環境教育	59
	11	教科用図書	60
	12	教育研究団体	61
第4節		国際化・科学技術の進展等への対応	65
	1	中学生・高校生の科学・技術研究論文	65
	2	中学生・高校生の国際理解・国際交流論文	66

第6章 高等学校教育

第1節		概要	67
第2節		学校管理	68
	1	生徒数と教職員数	68
	2	教職員人事・任用	73
	3	学校の設置及び統廃合 - 公立高等学校の設置・廃止等(令和6年度) -	76
第3節		学校教育	77
	1	概要	77
	2	現職教育	83
	3	教育課程	84
	4	学力向上対策等	85
	5	生徒指導・進路指導	86
	6	学校行事	87
	7	産業教育	87
	8	学校訪問	88
	9	県立学校学校教育指導委員	88
	10	教科用図書	88
	11	教育研究団体	88
第4節		文化活動の振興	90

第7章 特別支援教育

第1節		概要	94
第2節		学校管理	94
	1	児童生徒数と教職員定数	94
	2	特別支援学校及び特別支援学級の実態	97
	3	教職員人事・任用	99
第3節		学校教育	100
	1	概要	100
	2	現職教育	102
	3	教育課程(特別支援学校教育課程運営改善講座)	103
	4	訪問教育	104
	5	生徒指導・進路指導	104
	6	特別活動	105
	7	学校訪問	105
	8	県立学校学校教育指導委員	105
	9	就学相談・支援	105
	10	教科用図書	106
	11	教育研究団体	106

第8章 体育・健康

第1節	概要	107
	1 学校体育の充実	107
	2 学校保健・学校安全の充実	107
	3 食育の推進	107
	4 学校給食の充実	107
第2節	表彰	108
	1 体育関係	108
	2 学校保健・学校安全関係	108
	3 学校給食関係	110
第3節	学校体育	110
	1 学校体育関係各種研修	110
	2 福島県高等学校体育連盟	111
	3 福島県中学校体育連盟	112
第4節	学校保健・学校安全	113
	1 学校保健・学校安全研修会等	113
	2 児童・生徒の健康管理費補助	114
	3 福島県学校保健会	114
	4 独立行政法人日本スポーツ振興センター	114
第5節	学校給食	115
	1 学校給食用パン品質調査	115
	2 食育等に関する研修会等	115
	3 学校給食関係の国庫助成実績	115

第9章 社会教育

第1節	概要	116
	1 社会教育一般	116
	2 地域コミュニティの再生	116
	3 家庭教育	116
	4 青少年教育	116
	5 成人教育	116
	6 子どもの読書活動推進	116
	7 ユネスコ活動	116
	8 チャレンジ！子どもがふみだす体験活動応援事業	116
第2節	社会教育一般	117
	1 社会教育推進体制の充実	117
	2 社会教育施設の整備充実	117
	3 社会教育関係職員の研修	117
	4 社会教育研究集会	117
	5 社会教育指導員の設置	117
	6 社会教育主事の市町村派遣	117
	7 社会教育研修会	118
	8 福島県公民館研究集会	118
	9 社会教育職員研修派遣	118
	10 出版資料	118
第3節	地域コミュニティの再生	118
	1 地域学校協働本部事業	118
	2 東日本大震災福島県復興ライブラリー整備事業	119
第4節	家庭教育	119
	地域でつながる家庭教育応援事業	119
	1 目的	119
	2 家庭教育応援プロジェクト	119

	3 家庭教育応援リーダー育成事業	119
第5節	青少年教育	120
	1 福島県地域学校協働本部	120
	2 ふくしまを十七字で奏でよう絆ふれあい支援事業	120
第6節	成人教育	121
第7節	子どもの読書活動推進	121
	ふくしまの未来をひらく読書の力 プロジェクト	121
	1 福島県子ども読書活動推進会議	121
	2 読書活動支援者育成事業	121
	3 読書活動推進委託事業	121
	4 情報発信プロジェクト「ビブリオバトル福島県大会」	122
第8節	ユネスコ活動	123
	1 ユネスコ協会事務局一覧	123
	2 福島県ユネスコ活動研修会	123
第9節	チャレンジ！子どもがふみだす体験活動応援事業	123
	1 ふくしまキッズパワーアップ事業	123
	2 「ふくしまの未来」へつなぐ体験応援事業	123
	3 心のケアが必要な子どもを対象とした事業	124
第10節	公民館等社会教育施設	124
	1 公民館を除く主な社会教育施設	124
	2 文化施設の整備充実	129
第11節	福島県立図書館	129
	1 概要	129
	2 資料の収集・整理	130
	3 館内奉仕	132
	4 館外奉仕	135
	5 図書館協力	136
第12節	福島県立美術館	138
	1 概要	138
	2 美術品の収集・保存	138
	3 展示事業	139
	4 調査研究事業	142
	5 教育普及事業	142
	6 館外連携	144
第13節	福島県立博物館	145
	1 概要	145
	2 資料収集事業	146
	3 保存管理事業	146
	4 展示事業	148
	5 調査研究事業	150
	6 教育普及事業	152
	7 文化財・自然資料レスキュー	158
	8 ふくしま震災遺産保全プロジェクト	159
	9 三の丸からプロジェクト	159
第14節	福島県自然の家	160
	1 概要	160
	2 教育目標及び基本的視点	161
	3 新型コロナウイルスの影響	161
第15節	福島県郡山自然の家	161
	1 概要	161
	2 施設・設備の概要	163
	3 利用状況	163
	4 企画事業	163
第16節	福島県会津自然の家	167

	1 概要	167
	2 施設・設備の概要	168
	3 利用状況	169
	4 企画事業	169
第17節	福島県いわき海浜自然の家	171
	1 概要	171
	2 施設・設備の概要	173
	3 利用状況	174
	4 企画事業	174

第10章 文化財

第1節	文化財保護体制の充実	178
	1 指定文化財保護体制の充実（文化財パトロール）	178
	2 文化財保護指導者研修会	178
	3 市町村文化財保護担当者会議	178
第2節	埋蔵文化財保護の充実	178
	1 埋蔵文化財保護体制	178
	2 開発事業地内の保護対策	178
	3 令和5年度の復興事業に係る埋蔵文化財調査状況	179
	4 埋蔵文化財保護体制充実のための研修	179
	5 埋蔵文化財保護普及活動	179
	6 市町村埋蔵文化財調査技術協力事業	179
	7 開発事業に伴う試掘・確認・発掘調査件数	180
	8 範囲内容確認調査・史跡整備に係る調査・学術調査	180
	9 令和5年度 試掘・確認調査	181
	10 令和5年度 発掘調査	182
第3節	文化財保存助成の充実	182
	1 令和5年度 文化財保存助成事業	182
	2 令和5年度 指定文化財保存活用事業（災害復旧事業を除く）	183
	3 令和5年度指定文化財保存活用事業（災害復旧事業）	184
第4節	文化財の保護と公開の推進	184
	1 第65回北海道・東北ブロック民俗芸能大会	184
	2 文化財保護強調週間の実施	184
	3 文化財防火デーの実施	184
第5節	銃砲刀剣類の登録状況	185
	1 登録審査委員	185
	2 登録審査会の実施状況	185
	3 銃砲刀剣類の譲受け・相続等の届出状況	185
第6節	福島県文化財センター白河館の運営状況	185
	1 入館者数	185
	2 入館者の内訳と傾向	185
	3 団体利用者の内訳と傾向	186
	4 情報発信事業の利用者	186
	5 資料管理業務	186
	6 研修事業の状況	187
	7 体験学習事業の状況	187
	8 講演会・講習会	188
	9 常設展事業	188
	10 企画展事業	188
	11 ボランティア運営事業	189
	12 市町村への技術支援の状況	189
	13 その他	189

第11章 福利厚生

[教職員の健康管理・福利厚生事業]

第1節	概要	190
第2節	事業実績	190
	1 教職員の健康管理	190
	2 保健事業	192
	3 厚生事業	193
第3節	貸付事業	195
	1 共済組合	195
	2 貸付けの状況	195
第4節	宿泊・保養施設	195
第5節	児童手当（特例給付を含む）	195
第6節	財産形成貯蓄制度	195

[福利給付事業]

第7節	概要	195
第8節	短期給付	196
	1 共済組合	196
	2 互助会	196
第9節	長期給付	197
	1 恩給	197
	2 退職手当	197
	3 年金	198

第12章 福島県教育センター

第1節	概要	200
	1 調査・研究事業	200
	2 研修事業	200
	3 情報教育事業	200
	4 教育相談事業	200
	5 教育図書・資料事業	200
第2節	調査・研究事業	200
	1 調査・研究	200
	2 長期研究員制度による研究	201
第3節	研修事業	201
	1 研修講座の概要	201
	2 研修講座	203
	3 指導主事派遣等	206
第4節	情報教育事業	206
	研修講座の概要	206
	1 ネットワークを活用するための講座（小・中・高・特支）	206
	2 授業実践講座（小・中・高・特支）	206
	3 校務の効率化を目指す講座（小・中・高・特支）	206
第5節	教育相談	207
	1 対象別	207
	2 区分別	207
	3 地区別来所相談件数	207
	4 月別相談件数・回数	207
第6節	教育図書・資料事業	207
	1 教育図書・教育資料の収集	207
	2 教育資料の刊行	207

第13章 福島県特別支援教育センター

第1節	概要	208
	1 教育相談事業	208
	2 教職員研修事業	208
	3 調査研究・教育研究事業	208
	4 教育図書・資料の収集・提供事業	209
	5 広報・啓発事業	209
	6 情報教育事業	209
第2節	教育相談事業	209
	1 教育相談対象	209
	2 形態	209
	3 現状と課題	209
第3節	教職員研修事業	210
	1 教職員の研修講座	210
第4節	調査研究・教育研究事業	212
	1 調査研究	212
	2 教育研究	214
	3 長期研究員制度による研究	216
第5節	教育図書・資料の収集・提供事業	216
	1 教育図書の収集・整理	216
	2 教育関係定期刊行物の収集・整理	216
	3 教育資料の収集・整理	216
	広報・啓発事業	216
第6節	1 所報「特別支援教育」(76号)	216
	2 研究紀要「第37号」	216
	情報教育事業	217
第7節	1 ICT活用支援	217
	2 情報機器活用	217
	3 情報教育ネットワークとWebサイトの充実	217

第1章 教育行政の概観

1 令和5年度の本県教育の概要

県教育委員会においては、令和4年度から「学びの変革」を柱に掲げた第7次福島県総合教育計画（令和3年12月策定）がスタートした。本計画では、福島の良いを大切に「福島ならではの」教育を進めるとともに、それを実現するため、一方通行の画一的な授業から個別最適化された学び、協働的な学び、探究的な学びへと変革していく「学びの変革」とその実現のための環境づくりとしての「学校の在り方の変革」を掲げている。その年次計画である「学びの変革推進プラン」により当該年度に具体的に実施する取組を明らかにした上で主要施策を戦略的に推進し、本県教育の充実を図った。さらに、令和4年7月には、「学びの変革」を実現するための理念と重視する視点を記した「学びの変革実現ビジョン」を公表するとともに、「教育長からのメッセージ」を発出するなど、変革を実現するための体制整備に取り組んだ。

東日本大震災及び原子力発電所事故から12年が経過してもなお、多くの子どもたちが県内外への避難生活を続けているなど厳しい状況が続いているが、富岡支援学校が「ふたば支援学校」と校名を変更し、双葉郡楡葉町への帰還に向けて整備を進めるなど、本県教育の復興に向けて着実に取り組んだ。また、「県立高等学校改革前期実施計画」に基づく統合校5校が開校するとともに、今後の県立学校の在り方を方向付けるため、令和4年1月に策定した「県立高等学校改革後期実施計画」に基づく改革懇談会を開催した。さらに、第二次福島県特別支援学校全体整備計画に基づく特別支援学校の整備を進めた。

新型コロナウイルス感染症は令和5年5月に5類感染症に移行し、大きな影響を受けてきた各種行事・研修等が徐々に再開され、各校での教育活動がコロナ禍前の状況に戻りつつある。

2 「学びの変革推進プラン」に関連する主な事業・取組

(1) 「学びの変革推進プラン」

ア 性質

第7次福島県総合教育計画（令和4年度から令和12年度までの9年間の教育計画）の年次計画として作成するもの。

イ 「学びの変革」とは

- 全ての子どもに必要な資質・能力を育成するため、一方通行の画一的な授業から、個別最適化された学び、協働的な学び、探究的な学びへと変革すること。
- 「子どもたち一人一人に必要な力を確実に育成していく」という本来の学校の役割を果たすことができるよう、学校の在り方の変革も同時に進める。

(2) 令和5年度「学びの変革推進プラン」点検・評価結果報告より

ア 政策を取り巻く現状

令和4年度から「学びの変革」と「学校の在り方の変革」を柱に掲げ、第7次福島県総合教育計画を展開しているところである。その年次計画として「学びの変革推進プラン」を作成するとともに、そのプラン実現のために令和4年7月に「学びの変革実現ビジョン」、「教育長からのメッセージ」をホームページに掲載し、「福島ならではの」教育を推進するための体制整備に努めている。

主な事業のアウトプットは概ね達成しているものの、「施策1『学びの変革』によって資質・能力を確実に育成する」や、「施策2『学校の在り方の変革』によって教員の力、学校の力を最大化する」における基本指標は、未達成のものが多く。引き続き施策の効果的な改善を通して「学びの変革」を推進していくことが必要である。

イ 点検・評価結果報告概要

施策1 「学びの変革」によって資質・能力を確実に育成する

アウトプット指標は概ね目標を達成しているものの、基本指標は未達成が多く、引き続き学力向上に向けた取組が必要である。ICTの導入は着実に進みつつある一方、教員のICT活用指導力は全国でも下位の状況にあり、特定の教員に偏ることなくICT活用力を向上させていくことが求められる。

施策2 「学校の在り方の変革」によって教員の力、学校の力を最大化する

教職員多忙化解消アクションプランⅡ（令和3年度～5年度）に基づき取組を進めてきたが、「時間外勤務時間月80時間を超える教職員の割合」は改善されているものの下げ止まり感がある。令和6年2月、新たに「教職員働き方改革アクションプラン」（令和6年度～10年度）を策定したところであり、改めて学校現場の業務のやり方を見直し、働き方改革を着実に推進することが必要である。

施策3 学びのセーフティネットと個性を伸ばす教育によって多様性を力に変える土壌をつくる

不登校の児童生徒数は小・中学校で増加傾向、高校でやや増加となっており、全国と同様の動きとなっている。引き続き、子どもたちの状況に応じた教育機会の提供や支援を行っていくことが求められる。

施策4 福島で学び、福島に誇りを持つことができる「福島を生きる」教育を推進する

地域における探究学習が進み、震災学習の実施率は令和5年度目標値を達成の見込みとなっている。福島イノベーション・コースト構想を担う人材の育成においては、福島国際研究教育機構（F-REI）の設立を好機と捉え、初等中等教育段階からのシームレスな人材育成が求められる。

施策5 人生100年時代を見通した多様な学びの場をつくる

自分手帳の活用が進み、新体力テストの全国平均との比較値は横ばいとなっているが、令和5年度の目標を達成した。社会教育施設等の利活用促進においては、資料の充実や注目度の高い企画展等の開催など、利用者のニーズを踏まえた取組が引き続き必要である。

施策6 安心して学べる環境を整備する

少人数教育の充実においては、必要な加配教員を確保し、きめ細かな指導体制を維持することができた。避難地域12市町村の特色ある教育においては、特色あるカリキュラム編成・実証に関する取組を通じて、地域で活躍する人材育成に寄与したと考えられる。

ウ 点検・評価結果報告内容

- ※1 ① 達成状況 …… 「達成」「未達成」の判定。(R5最新値が公表されていないものは、予測に基づき「達成見込み」「未達成見込み」の判定)
 ② 見直し判定 …… 「上方」:20%以上向上の開きがある。・「R12達成」:最終目標値を達成。・「下方」:50%以上下向きの開きがある。当該項目に該当の場合、指標の見直しを検討する。(目標値と比較)
 ③ 詳細判定 …… 「改善(+20%)」・「やや改善(+10%)」・「横ばい(±5%)」・「やや悪化(-10%)」・「悪化(-20%)」の判定。(基準値と比較)
 括弧書きは最新値がR5より前の数値の場合、基準値と最新値を比較した結果。
 ※2 「指標の分析」の目的は採点ではなく、対策を練り上げるために実施する。
 ※3 アウトプット=活動実績
 ※4 (↗):指標にプラスの影響を与えた事業、(→):十分な影響を与えられなかった事業

施策1 「学びの変革」によって資質・能力を確実に育成する

基本指標(成果指標)	基準値	最新値	前年比	目標値	令和5年度の指標の状況(予測)※1			指標の分析※2
					達成状況	見直し判定	詳細判定	
地元自治体等と共に課題解決に向けた学習活動を実施した学校の割合(高等学校)	88.2% (R3)	94.8% (R5)	↗	70% (R5)	達成	—	やや改善	令和5年度の目標を大幅に上回って達成した。今後も最終目標の100%に近づいていくことが予想されるが、課題解決に向けた学習活動の基礎となる基本的な学力の向上や、活動を支える教員の多忙化解消における基本指標は未達成のものが多く、これらを改善することでより効果的な学習活動の実施が可能になると考えられる。
地域の課題を解決するための提言や、社会に貢献する何らかの活動を行った生徒の割合(高校在学中)	17.0% (R2)	36.3% (R5)	↗	60.0% (R5)	未達成	—	改善	地域課題探究学習を行う生徒の割合に比べ、地域に対する具体的なアクション数はまだ少なく、目標を達成できなかった。しかし、主体的に行動している生徒が、「ふくしま高校生社会貢献活動コンテスト」等に出場して日頃の探究活動の成果を発表し、客観的な評価を受けてさらに深化させている事例が増え、地域人材等の活用が増加しているため、今後も自治体や社会へ目を向ける取組を積極的に進めるよう支援していく。
自分にはよいところがあると思う児童生徒の割合(小学校)	74.2% (R3)	75.9% (R5)	→	80% (R5)	未達成	—	横ばい	令和5年度は目標値に到達しなかった。各学校においては、学校教育活動全体を通じて自己肯定感を高める取組がなされているが、本調査を活用し、児童一人一人の実態を把握することでさらに具体的な働きかけをしていくことが必要である。
〃 (中学校)	72.9% (R3)	73.1% (R5)	↗	80% (R5)	未達成	—	横ばい	令和5年度は目標値に到達しなかった。各学校においては、学校教育活動全体を通じて自己肯定感を高める取組がなされているが、本調査を活用し、児童一人一人の実態を把握することでさらに具体的な働きかけをしていくことが必要である。
全国学力・学習状況調査の結果をふくしま学力調査等の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っている学校の割合(小・中学校) (「行っている」小学校)	95.1% (R3)	96.8% (R5)	↗	100% (R5)	未達成	—	横ばい	令和5年度全国学力・学習状況調査では全国平均を上回ったものの、目標値100%には達していない。ふくしま学力調査は4回目となり、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映は定着しつつあるが、さらなる周知を図る。
〃 (「よく行っている」小学校)	23.9% (R3)	26.0% (R5)	↗	29% (R5)	未達成	—	横ばい	令和5年度全国学力・学習状況調査では全国平均を下回ったものの、「どちらかといえば行っている」と回答した割合は全国平均を大きく上回った。ふくしま学力調査は4回目となり、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映は定着しつつあるが、さらなる周知を図る。
〃 (「行っている」中学校)	91.7% (R3)	93.4% (R5)	↗	100% (R5)	未達成	—	横ばい	令和5年度全国学力・学習状況調査では全国平均を上回ったものの、目標値100%には達していない。ふくしま学力調査は4回目となり、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映は定着しつつあるが、さらなる周知を図る。
〃 (「よく行っている」中学校)	18.4% (R3)	21.0% (R5)	↗	25.5% (R5)	未達成	—	横ばい	令和5年度全国学力・学習状況調査では全国平均を下回ったものの、令和4年度よりも差は縮まった。ふくしま学力調査は4回目となり、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映は定着しつつあるが、さらなる周知を図る。

基本指標(成果指標)	基準値	最新値	前年比	目標値	令和5年度の指標の状況(予測) ^{※1}			指標の分析 ^{※2}
					達成状況	見直し判定	詳細判定	
全国学力・学習状況調査の全国平均正答率との比較値(全国=100)(小・中学校)(小学校 国語)	99(R3)	100(R5)	↗	102以上(R5)	未達成	-	横ばい	おおむね全国平均であったが、目標を達成できなかった。書くことの領域や記述式の解答に課題が見られる。
〃 (小学校 算数)	95(R3)	98(R5)	↗	100以上(R5)	未達成	-	横ばい	全国平均をやや下回り、目標を達成できなかった。「変化と関係」の領域や記述式の解答に課題が見られる。
〃 (中学校 国語)	101(R3)	99(R5)	→	102以上(R5)	未達成	-	横ばい	おおむね全国平均であったが、目標を達成できなかった。話すこと・聞くことの領域に課題が見られた。
〃 (中学校 数学)	96(R3)	90(R5)	↘	100以上(R5)	未達成	-	やや悪化	全国平均を下回り、目標を達成できなかった。特に、図形とデータの活用の領域、思考力・判断力・表現力を問われる問題に課題が見られる。
ふくしま学力調査の結果の経年比較により、学力が伸びた児童生徒の割合(小・中学校)(小学校 国語)	83.5%(R3)	81.3%(R5)	↗	100%(R5)	未達成	-	横ばい	昨年度より増加したが目標を達成できなかった。約8割の児童が、R4年度調査から学力を伸ばしている一方、学年が上がるにつれて「学力の伸び」が小さくなっている。
〃 (小学校 算数)	73.5%(R3)	63.9%(R5)	↘	100%(R5)	未達成	-	やや悪化	目標を達成できなかった。約6割の児童が、R4年度調査から学力を伸ばしている一方、学年が上がるにつれて中央のレベルより下位の児童の割合が多くなっている。
〃 (中学校 国語)	76.3%(R3)	64.9%(R5)	↘	100%(R5)	未達成	-	やや悪化	目標を達成できなかった。約6割の生徒が、R4年度調査から学力を伸ばしている一方、学年が上がるにつれて「学力の伸び」が小さくなっている。
〃 (中学校 数学)	70.8%(R3)	53.9%(R5)	↘	100%(R5)	未達成	-	悪化	目標を達成できなかった。約5割の児童が、R4年度調査から学力を伸ばしている一方、学年が上がるにつれて中央のレベルより下位の生徒の割合が多くなっている。
家で自分で計画を立てて勉強している児童生徒の割合(小学校)	81.9%(R3)	80.0%(R5)	→	100%(R12)	-	-	横ばい	全国値と比較して高い数値となったが、基準値を下回った。今後においても「ふくしまの家庭学習スタンダード」の活用を図りながら、目標値の達成に向け支援を着実に継続していく。
〃 (中学校)	69.6%(R3)	60.7%(R5)	↘	100%(R12)	-	-	やや悪化	全国値との比較では高い傾向にあるが、昨年度の基準値からは下回った。小学校に比べて「ふくしまの家庭学習スタンダード」の活用が図られていない状況も考えられるため、再度活用の周知を図るとともに、端末の持ち帰りによる家庭学習の充実を目指すなど、個別最適化された学びの実現につなげていきたい。
CEFR A1以上(英検3級以上相当)の英語力を有する生徒の割合(中学3年生)	37.3%(R元)	35.8%(R5)	↘	40.3%(R5)	未達成	-	横ばい	4技能(聞く、読む、話す、書く)のバランスのとれた英語力の育成が求められている中、35.8%となった。令和6年度より「ふくしま英語力向上事業」において英語担当教員の授業力向上に向けた研修の充実や好事例の発信、授業公開における指導助言等により、目標達成を目指す。
CEFR A2以上(英検準2級以上相当)の英語力を有する生徒の割合(高校3年生)	34.7%(R元)	40.6%(R5)	↗	38.1%(R5)	達成	-	やや改善	4技能(聞く、読む、話す、書く)のバランスのとれた英語力の育成が求められている中、40.6%となった。令和6年度より「ふくしま英語力向上事業」において英語担当教員の授業力向上に向けた研修の充実や好事例の発信、授業公開における指導助言等により、さらなる英語力向上に取り組む。

□ 主な取組 複雑な社会の課題を主体的に解決する力の育成

主な事業	概要	決算額	アウトプット指標	対応方針
取組1 複雑な社会の課題を主体的に解決する力の育成				
ふくしまを創る若者のプラットフォーム構築事業(ア)	<p><基本指標> 地域の課題を解決するための提言や、社会に貢献する何らかの活動を行った生徒の割合</p> <p>地域ネットワーク推進委員を県内7地域に配置し、若手人材及び地域人材を発掘し、各校における地域課題探究活動での活用を推進する。また、地域人材や若手人材について、地域人材ネットワークバンクに登録し、各校が活用できるように支援し、学校と地域の連携を強化するとともに、若手人材と地域とのつながりを創出する。各校の特色ある地域課題探究活動を支援し、その取組を発信する場を設け、生徒同士での相乗効果を図る。このような取組により、高校生時代に地域について学び、卒業後には高校生の学びの支援を通して地域に関わり続け、将来的には地域創生の当事者になるというサイクルを作る。</p>	1,322万円	<p>【未達成】</p> <p>地域人材ネットワークバンクの登録者数 実績値:183人 (目標値:200人) ▶前年度[-]</p>	<p>規模・内容・手法を一部見直しして継続</p> <p>当該事業は総合計画の基本指標にプラスの影響を与えた。地域ネットワーク推進委員の配置等を通じて、各校において特色や地域性を活かした課題探究活動が展開されていることがその理由である。次年度は、各高校の地域課題探究活動を充実させるために、地域人材等をICT教材化し、地域人材の新たな発掘に努める。また、全県立高校でICT教材の活用を図り、校内体制に課題がある学校へは教員の研修を充実させるなどして、地域の課題を解決するための提言や社会に貢献する何らかの活動を行った生徒の数の増加を図る。加えて、卒業後に地域に関わり続ける意識の醸成を確認するための工夫の在り方について検討する。</p>
取組2 創造性あふれる人材の育成				
WWLコンソーシアム構築支援事業(ア)	<p><基本指標> 地域の課題を解決するための提言や、社会に貢献する何らかの活動を行った生徒の割合</p> <p>福島における原子力災害からの復興を果たし、持続可能な社会を創造していくグローバルリーダーの資質・能力の育成に取り組む。福島県立ふたば未来学園中学校・高等学校を「WWLコンソーシアム構築支援事業」拠点校に指定し、探究と海外研修を軸とし、また、大学と連携したグローバル人材育成のカリキュラム開発・実践その体制整備を支援する。県内外におけるグローバル人材育成を担う連携校や海外の連携校や国際機関等とも目的と情報を共有し、ネットワークを形成していく。</p>	1,030万円	<p>【未達成】</p> <p>地域の個人、団体との協働による課題探究プロジェクト数 実績値:58件 (R6.3) (目標値:70件) ▶前年度[-]</p>	<p>規模・内容・手法を維持して継続</p> <p>当該事業は総合計画の基本指標に合致し、プラスの影響を与えた。本事業のアウトプット指標については、グループで行う探究の場合には数値が低くなることから、数値が未達成となっているものの、国際会議や海外研修を通じて改善が見込まれるものである。海外研修費の財源については、福島県東日本大震災子ども支援基金を要望している。高校生国際会議に向けた準備については、事業拠点校と連携してR6年度に行うこととしている。</p>
持続可能な社会に向けた産業教育充実事業(ア)	<p><指標> 福島県の教育環境に満足していると回答した県民の割合(意識調査)</p> <p>県内の高校生に対して、次の①～④の事業を実施することで、高校生の地域理解、地域協働、勤労観・職業観の醸成、専門性の向上などキャリア教育の推進を図る。</p> <p>①産業人材パワーアップ事業②工業人材スキルアップ応援事業③専門高校生による小中学生体験学習応援事業④インターンシップによる産業人材育成事業</p>	1,086万円	<p>【達成】</p> <p>小事業3の「専門高校生による小中学生体験学習応援事業」参加校の数 実績値:14校 (R6.3) (目標値:14校) ▶前年度【達成】</p>	<p>規模・内容・手法を一部見直しして継続</p> <p>当該事業は総合計画の基本指標にプラスの影響を与えた。本事業により、生徒児童が地域の産業に対して理解や関心を深め、学びと働くことを結びつけ、将来を考えさせることについて成果が出ているため、実施内容を維持していきたい。さらに今後はSociety5.0を見据え、技術革新と社会課題をつなげ、その解決に取り組む、地域との連携を通じ、地域のことを外部に発信することができる資質・態度を育む内容も加える。また現行よりも幅広く広域に展開していきたい。</p>
取組3 学校段階を見通した確かな資質・能力の育成				
ふくしま幼児教育研修センター事業(ア)	<p><基本指標> 全国学力・学習状況調査の全国平均正答率との比較値(全国=100)(小・中学校)(小学校 国語)</p> <p>県内3地区に、幼児教育推進モデル地区として指定し、3年間で幼児教育施設での教育・保育の質の向上と、幼児教育と小学校教育の円滑な接続のための検証を行う。また、各地区で年2回の研究公開を実施し、それらの成果等を県内に発信し、共有を図る。併せて、幼児教育施設への支援を進めるに当たり、担当部局を一元化するために幼児教育センター設置し、公私・施設類型を越えた一体的な支援体制を確立する。</p>	610万円	<p>【未達成】</p> <p>研究公開への参加園の割合 実績値 29.9%(R6.3) (目標値:30%) ▶前年度[-]</p>	<p>規模・内容・手法を一部見直しして継続</p> <p>当該事業は総合計画の基本指標にプラスの影響を与えた。公開保育や、乳幼児教育施設と小学校で話し合う研修を通じて、幼児教育の質の向上に寄与したと考えられる。ふくしま幼児教育研修センターを令和5年4月に開所し、複数の指導主事により幼児教育モデル3市の研修支援を行った。その一つとして全ての園種が合同研修として取り組んでいる3市は、それぞれに年2回の公開保育を位置づけ、域内の公立私立や施設類型の別を問わずに案内し、幼児教育と幼小連携について数多くの保育者等が研修する機会を引き続き創出していく。</p>

主な事業	概要	決算額	アウトプット指標	対応方針
ふくしま外国語教育創生事業(ノ)	<p><基本指標>CEFR A1以上(英検3級以上相当)の英語力を有する生徒の割合(中学3年生)</p> <p>①小中英語パートナーシップ事業 県内7地区に設けたモデル校の児童生徒に対して、パフォーマンステストコンテンツや英語外部試験の活用により、英語4技能の向上を図る。</p> <p>②英語担当教員ネクストステージ事業 小中高等学校の英語担当教諭に対して、指定校公開授業参観や研修動画視聴、英語外部試験の受検により、授業力と英語力の向上を図る。</p>	1,183万円	<p>【達成】 教員(中学校)のCEFR B2取得率実績: 31.4%(R5.12) (目標値:29.9%) ▶前年度【達成】</p>	<p>事業終了(廃止)→R6後継事業:ふくしま英語力向上事業</p> <p>当該事業は総合計画の基本指標にプラスの影響を与えた。当該事業の実施を通じて、教員が自身の英語力の現在地を把握することで、英語力向上の必要性を認識することができたほか、外部試験の受験経験率の向上に高まりが見られたことがその理由である。なお、本事業の成果と課題をふまえ、次年度からは、教員の指導方法変革を目的にパフォーマンステストを活用した授業改善を行うほか、児童生徒が一人一台端末を活用して「使いながら学ぶ」授業による英語力向上を目指すなど、新規事業を構築する予定。</p>
取組4 エビデンス(根拠)に基づいた教育施策の推進				
一人一人を支えるふくしま学力向上推進事業(→)	<p><基本指標>ふくしま学力調査の結果の経年比較により、学力が伸びた児童生徒の割合</p> <p>児童生徒の学力の伸びを測定し、客観的なデータに基づいて分析することにより、本県児童生徒の一人一人の学力を確実に伸ばす。</p>	3,750万円	<p>【達成】 各学校におけるふくしま学力調査の分析を促す資料の公表件数 実績値:3件 (目標値:3件) ▶前年度【達成】</p>	<p>規模・内容・手法を維持して継続</p> <p>当該事業は、総合計画の児童生徒に関する指標「ふくしま学力調査の結果の経年比較により、学力が伸びた児童生徒の割合(小・中学校)(国語・数学)」に十分な影響を与えられなかったと考えられる。現段階では、分析が十分になされていない学校もあるが、調査の目的についての理解は着実に進んでいる。「分析支援ツール」や「分析報告書」、「学力の伸びを引き出した学校の取組事例集」の周知に加え、結果分析のオンライン研修会、研修支援チームによる学校訪問時の助言、義務教育課の各種事業における取組も含めて児童生徒の学力向上を図っていることから、成果は確保できる見通しである。R6年度は、CBT移行に向けた試行調査や分析手法の普及に向けた研修会を予定している。</p>
取組5 ICTの活用などによる学びの変革				
新時代の学びを支えるICT活用プロジェクト(ノ)	<p><補充指標>児童生徒がコンピューター等のICTを活用する学習活動を行う回数</p> <p>ICTを活用した授業環境を「ふくしま『未来の教室』」と位置付け、県内全ての小中学校において、ICTを活用してより充実した授業が展開されるように授業づくりをサポートする。また、児童生徒が、将来にわたって安全かつ有効にネットワークを活用する基礎を学ぶ機会を保障する。併せて、ICT機器を用いて、個々の学習の状況を的確に把握しつつ、児童生徒の更なる学びを支援するなど、学びの個別最適化を図る。</p>	2,124万円	<p>【未達成】 研修会受講教員の割合 実績値:63.2% (目標値:100%) ▶前年度【達成】</p>	<p>事業終了(廃止)→R6後継事業:ふくしま子供の可能性を伸ばす支援事業</p> <p>当該事業は、総合計画の基本指標にプラスの影響を与えた。当該事業の実施を通じて、教員のICT活用指導力の伸びが少しずつ見られるほか、ICT活用・情報モラル教育に取り組もうとする学校が増えてきていることがその理由である。なお、本事業で得られた成果と課題をふまえ、次年度はこれまでに蓄積してきたことやR5年度未発行のリーフレット等を活用し、ICT活用推進と情報モラル教育指導推進のための研修を継続する予定である。</p>

《施策評価》

アウトプット指標は概ね目標を達成しているものの、基本指標は未達成が多く、引き続き学力向上に向けた取組が必要である。特に全国学力・学習状況調査(算数・数学)については、全国平均を下回っていることに加え、記述式の回答や、思考力・判断力・表現力を中心に、全般的に課題が見られるため、学力調査の結果分析の手法やそれに伴う授業改善の手立てなどにおいて、助言を必要とする教員、学校への支援が重要である。学力調査の結果を分析した授業改善グランドデザインを作成・配布し、学力向上支援アドバイザーや研修支援チームによる支援を行うとともに、学力向上対策会議を開催し、授業改善の手立ての共有をはかるなど、対応策を講じていく。英語力の育成については、目標値を意識したものの、全国平均は下回っており、令和6年度からの新事業によりさらなる英語力向上に取り組む。「自分にはよいところがあると思う児童生徒の割合」は中学校において増加の傾向にあり(R4:72.1%→R5:73.1%)、自己肯定感・自己表現力を育む取組の成果が見られた。授業環境におけるICTの導入は着実に進みつつある一方、教員のICT活用指導力は全都道府県中45位(令和4年度)と低い状況にある。あらゆる場面に対応し、対面とオンライン、紙とデジタル等を組み合わせた最適な指導手法を選択できるよう、特定の教員に偏ることなくICT活用力を向上させることが求められる。

施策2 「学校の在り方の変革」によって教員の力、学校の力を最大化する

基本指標(成果指標)	基準値	最新値	前年比	目標値	令和5年度の指標の状況(予測)			指標の分析
					達成状況	見直し判定	詳細判定	
時間外勤務時間月80時間を超える教職員の割合	12.1% (R2)	14.5% (R5)	↗	4.0% (R5)	未達成	下方	やや改善	平成29年度以降、教職員多忙化解消アクションプラン及び同アクションプランIIを策定し、業務の適正化や時間外勤務時間の削減に向けた取組を行ってきたことで、教職員の超過勤務時間は一定程度削減された。令和5年度においては、欠席連絡をICT機器を利用して行ったり、多忙化解消推進委員を設けたりするなど、学校独自の取組が進んできたこともあり、小学校は管理職以外では減少し、中学校では全職種で減少したが、高等学校と特別支援学校の時間外勤務時間は増加傾向であり、目標を達成できなかった。その要因の1つは、児童生徒一斉下校日、部活動休養日及び部活動練習時間の上限が設定されているにもかかわらず、設定内容が十分に遵守されていない実態があると考えられる。新たに策定した教職員働き方改革アクションプランを実効性のあるものとし、引き続き教職員の働き方改革に取り組んでいく。
英語担当教員のうちCEFR B2以上(英検準1級以上相当)の英語力を有する教員の割合(中学校)	23.3% (R元)	31.4% (R5)	↗	50% (R12)	-	-	やや改善	令和3年度以降、英語担当教員ネクストステージ事業において、教員研修の内容に英語外部試験受験を取り入れている。英語担当教員のうち、CEFR B2以上を取得する教員の割合は前年度より3.3ポイント増加しており、経年では増加傾向にあるが、全国平均とはまだ開きがある状況である。令和5年度外部試験受験者の受験後アンケート結果によると、「英語学習をしていない」と答えた教員の理由として、「忙しくて時間が割けない」という回答が前年同様多かった。日々の業務の中でも英語学習に取り組める環境整備など、引き続き課題解決に取り組んでいく。
“(高等学校)”	55.0% (R元)	66.6% (R5)	↗	80% (R12)	-	-	やや改善	令和3年度以降、英語担当教員ネクストステージ事業において、教員研修の内容に英語外部試験受験を取り入れている。英語担当教員のうち、CEFR B2以上を取得する教員の割合は、経年では増加傾向にあるが、全国平均とはまだ開きがある状況である。
授業にICTを活用して指導できる教員の割合(小・中・高・特別支援学校)(再掲)	63.7% (R元)	72.2% (R4)	↗	100% (R12)	-	-	やや改善	令和3年度から「ふくしま『未来の教室』授業充実事業」(義務教育課)等を展開している。授業にICTを活用し指導ができる教員の割合を増やせるよう、モデル校の取組を県内に広めたり、各地区の実態に応じた研究協議会を実施したりしてきたところであるが、まだまだ全国平均との差がある。今後も、校種による差が大きい現状、ICTを活用した授業について効果が実感できるような取組を引き続き検討していく。
地域の人と連携した授業等を複数回行った教員の割合(小・中・高・特別支援学校)	52.5% (R3)	52.2% (R4)	→	70% (R5)	達成見込み	-	(横ばい)	令和4年度実績を令和5年度6月～11月に調査したものである。実績値は52.2%であり、令和4年度目標値60%には達しなかった。校種別では、小学校では65.9(前年度68.6)%と目標値以上であったが、中学校53.9(同57)%、高校46.5(同34.2)%、特別支援学校36.6(同17.4)%は低めである。要因として、コロナ禍における活動制限や、連携実績の少ない学校での体制づくりが不十分であることが考えられる。

□ 主な取組

主な事業	概要	決算額	アウトプット指標	対応方針
取組1 教職員の働き方改革の推進				
部活動指導員配置促進事業(ア)	<基本指標> 時間外勤務時間月80時間を超える教職員の割合 教員の働き方改革の観点から、適切な練習時間や休養日の設定など部活動の適正化を進めている市町村を対象に、部活動指導員配置に係る経費の一部を補助する。高等学校に対しても部活動指導員を配置する。中学校・高等学校の部活動を担当する教員の支援を行うとともに、部活動の適正化と指導体制の充実を図る。	7,550万円	【達成】 部活動指導員配置人数(中学校、高校)実績値: 中学校:89人 高校:76人 (目標値:中学校89人、高校76人) ▶前年度【未達成】	規模・内容・手法を維持して継続 当該事業は総合計画の基本指標にプラスの影響を与えた。時間外勤務時間が月80時間を超えた教員の割合が、R4の16.5%から14.5%に縮減しており、本事業が一定の効果が上がったと考えられる。教員の働き方改革が求められている中、教育庁全体として教員の多忙化解消に取り組んでおり、重要な施策であることから、部活動指導員の配置人数を増加確保してより多くの教員の負担を軽減するため事業を継続する。近隣市町村同士での情報共有や県スポーツ協会との連携により人材確保に努める。
取組2 教員の養成・採用・研修				
授業の魅力化応援プロジェクト(→)	<補充指標> 全国学力・学習状況調査の結果をふくしま学力調査等の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っている学校の割合(小・中学校) 指導主事による学校訪問や、オンライン研修等により、教員の指導力向上や教員同士の学び合う文化の醸成、授業の質的改善を目指す。 また、研究協力校でのリーディングスキルテスト受検により、児童生徒の基礎的読解力の実態を正確に把握するとともに、読解力向上につながる9年間を通した先進的な教育活動を展開する。	405万円	【達成】 【全国学力・学習状況調査の学校員間「授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っている」を「よくしている」「どちらかといえばしている」と回答した割合 ※小学校 実績値:99% (目標値:99%)	事業終了(廃止)→R6後継事業:ふくしまっ子の可能性を伸ばす支援事業 当該事業は総合計画の基本指標に、十分な影響を与えられなかった。その大きな要因として、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させながら、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善が十分に図られていないことが挙げられる。現在、算数・数学科担当指導主事による支援訪問及びオンライン研修会の認知度は高まっており、少しずつ希望者も増えている。その中、新たな取組として「学力向上アドバイザー」10名による専門的な支援も行っている。次年度は、本庁指導主事による支援訪問だけでなく、学力向上アドバイザーと協同して訪問したり、オンライン研修会にアドバイザーが参加したりすることで、より充実した取組を展開していきたい。
ふくしま外国語教育創生事業(ア)(再掲)	<基本指標> CEFR A1以上(英検3級以上相当)の英語力を有する生徒の割合(中学3年生) ①小中英語パートナーシップ事業 県内7地区に設けたモデル校の児童生徒に対して、パフォーマンステストコンテンツや英語外部試験の活用により、英語4技能の向上を図る。 ②英語担当教員ネクストステージ事業 小中高等学校の英語担当教員に対して、指定校公開授業参観や研修動画視聴、英語外部試験の受検により、授業力と英語力の向上を図る。	1,183万円	【達成】 教員(中学校)のCEFR B2取得率実績: 31.4%(R5.12) (目標値:29.9%) ▶前年度【達成】	事業終了(廃止)→R6後継事業:ふくしま英語力向上事業 当該事業は総合計画の基本指標にプラスの影響を与えた。当該事業の実施を通じて、教員が自身の英語力の現在地を把握することで、英語力向上の必要性を認識することができたほか、外部試験の受験経験率の向上に高まりが見られたことがその理由である。なお、本事業の成果と課題をふまえ、次年度からは、教員の指導方法変革を目的にパフォーマンステストを活用した授業改善を行うほか、児童生徒が一人一台端末を活用して「使いながら学ぶ」授業による英語力向上を目指すなど、新規事業を構築する予定。
取組3 チームとしての学校マネジメントの推進				
福島スクールサポート・スタッフ事業(ア)	<基本指標> 時間外勤務時間月80時間を超える教職員の割合 1 スクール・サポート・スタッフ事業 学習プリントの印刷等を小学校教員に代わって行うサポート・スタッフを配置することで教員の負担軽減を図る。 2 スクール・サポート・スタッフ事業(コロナ分) 上記1の事業で未配置である、全ての公立学校にサポート・スタッフを配置することで、新型コロナウイルス感染症対策の消毒作業等について、教員の負担軽減を図る。	4億5,020万円	【達成】 スクール・サポート・スタッフの配置校数 1通常分 実績値:90校(R5年度) (目標値:90校) 2コロナ分 実績値:470校(R5年度) (目標値:496校) ▶前年度【達成】	規模・内容・手法を一部見直しして継続 当該事業は総合計画の基本指標にプラスの影響を与えた。当該事業の開始前と比べて、1週間の教員一人当たりの勤務時間が約3時間42分削減されており、教員の1日の平均時間外勤務時間削減の大きな要因になったと考えられる。教員の多忙化が解消されることにより、児童・生徒と向き合う時間が確保されるとともに、総合計画の対応指標にあるとおり、学校の指導体制の充実とチーム力の強化が図られ、学校組織の活性化の推進につもつが。教員の働き方改革は喫緊の課題であり、教員の多忙化解消の推進に向けて、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校のスクール・サポート・スタッフ配置に係る予算を職員課が一元的に要求することとした。
優秀教職員による学校のチーム力向上事業(ア)	<基本指標> 時間外勤務時間月80時間を超える教職員の割合 優秀教職員として表彰された者を対象に、研究会等への参加や先進校視察等の研修を実施することで、得意分野の能力を更に向上させ、これらの研修成果を広く県全体の教職員に伝達・普及させる。	103万円	【達成】 研修者実績値:19人 (目標値:17人) ▶前年度【達成】	事業終了(廃止)→R6後継事業:働き方と勤務の在り方変革事業 当該事業は総合計画の基本指標にプラスの影響を与えた。アウトカム指標(時間外勤務時間月80時間を超える教職員の割合)が令和4年度の16.5%から令和5年度に14.5%に縮減されており、本事業の取組が成果として現れていることがその理由である。教職員の得意分野の能力向上についての意識改革が一定程度図られたため、業務改善についての意識改革に実効性があるとされる手法を検討する後継事業を構築していく。
取組4 学校の特色化・魅力化の推進				
<p>●県立高等学校改革の推進 一本県高等学校教育をめぐる課題に対応する-</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 具体的な改革の方向性と再編整備の対象校を含む5年間の後期実施計画に基づき、学校・地域と再編整備に向けた改革懇談会を3回行うとともに、統合校の教育内容について検討を進めた。 ○ 令和7年度に統合するいわき総合・好間統合校について、校名の検討を行い、統合校の名称が「いわき総合高等学校」と決まった。 ○ 併設型中高一貫教育校の開校に向け、県内各地区で小学5年生及び保護者向けの説明会を開催し、周知を図った。また、併設中学校の名称が「福島県立安積中学校」と決まった。 ○ スクールポリシーについて、令和5年度末までに全ての県立高等学校で策定し、公表した。 				

《施策評価》

教職員多忙化解消アクションプランⅡに基づき取組を進めてきたが、本施策の基本指標である「時間外勤務時間月 80 時間を超える教職員の割合」は 14.5% (令和 5 年度) となっており、一定の効果が現れたものの目標値には達していない。

学校現場におけるアクションプランの理解度・実践度の低さに課題があると見られ、ボトムアップ型の業務改善の取組を進めるなど、現場の声を取り入れたより実効性のあるプランへの見直しや、管理職へのさらなる意識付けを進めていく必要がある。

質の高い教育活動を展開するためには、教職員の心身の健康保持や児童生徒と向き合う時間の確保等が不可欠であり、教職員の多忙化は解決すべき喫緊の課題である。教員が主体的に学び、やりがいを持って働くことができる持続可能な教育環境の構築はもとより、児童生徒の健やかな成長と自己実現を図るため、働き方改革を着実に推進することが求められる。

施策3 学びのセーフティネットと個性を伸ばす教育によって多様性を力に変える土壌をつくる

基本指標(成果指標)	基準値	最新値	前年比	目標値	令和5年度の指標の状況(予測)			指標の分析
					達成状況	見直し判定	詳細判定	
不登校の児童生徒数(小・中学校) ※1,000人当たりの出現率	16.4人(R元)	27.0人(R4)	↘	目標値は設定しない	-	-	(悪化)	全国に比べて低いが、不登校児童生徒は全国と同様、年々増加している。R4年度の調査結果では福島県の公立小・中学校の不登校復帰率は、小学校22.1%、中学校33.7%であり、不登校の要因として「無気力・不安」が小学校で41.9%、中学校で40.2%と最も多かった。
不登校の生徒数(高校) ※1,000人当たりの出現率	8.8人(R元)	9.8人(R4)	↘	目標値は設定しない	-	-	(やや悪化)	R5年度は、すべての県立高等学校73校にスクールカウンセラーを配置し、生徒の悩みや不安、問題を早期に把握し、対策を講じているが、基準値から増加傾向である。
個別の教育支援計画の引継ぎ率	71%(R2)	82.9%(R5)	↗	100%(R5)	未達成	-	やや改善	令和5年度は、調査時期を10月1日現在とし(令和3年度と同時期)、令和4年度において、文部科学省の調査時期と合わせて5月1日現在とした結果、実績値減少となった要因を解消した。年度始まりに、個別の教育支援計画を作成し、下半期に向けても引継ぎで活用するよう、特別支援教育課主催の各種会議・協議会において、市町村教育委員会や、小中学校長へ啓発を行った。これにより必要性についての意識を高めるとともに、ケース会議等での活用などの具体的な方法を周知し、引継ぎ率の向上を図った。今後は小中学校の通常学級に在籍する支援の必要な児童生徒について、個別の教育支援計画の作成と引き継ぎ活用を向上させるよう、働きかける。
朝食を食べる児童生徒の割合(小・中・高・特別支援学校)	96.5%(R2)	95.8%(R5)	↗	97.3%(R5)	未達成	-	横ばい	肥満傾向児の出現率が男女ともに全国平均よりも高いため、健康課題の改善が急務である。健康課題の解決につながる食育の推進は、食習慣の改善につながり、子どもの健全な成長を促し、ひいては、健康長寿に寄与する。本県の朝食摂取率は令和4年度までの96%台から95%台へと微減した。特に高等学校の摂取率が90.2%と小中学校と比較すると低い値で推移している。朝食を摂取し望ましい食習慣を身に付けるように継続した食育の推進及び意識啓発を行っていく必要がある。

□ 主な取組

取組	主な事業	概要	決算額	アウトプット指標	対応方針
取組1 不登校児童生徒、帰国児童生徒、外国人児童生徒等への個別支援の充実					
	不登校・いじめ等対策推進事業(ア)	<基本指標>不登校の児童生徒数(小・中学校) 県内においては、震災後不登校の児童生徒が増え続けている。令和元年度より、学校生活に困難を感じる児童生徒の学び機会を確保するために、学校内に特別な学習の場となるスペシャルサポートルーム(SSR)を設置し、その効果が確認されている。今後は、SSRの取組を充実させながら、この取組を県内に広める。いじめについては、県主導型から、児童生徒の取組を支援し広める方向に発展させる。推進校を指定し、それらの取組を県内に広めていくことにより、小中学校におけるいじめ防止等の取組を推進する。	817万円	【達成】 スペシャルサポートルーム(※)実践校数 実績値:24校 (目標値:24校) ▶前年度【達成】	規模・内容・手法を維持して継続 当該事業は総合計画の基本指標にプラスの影響を与え、子どもの居場所づくりの促進を行うことができた。一方で、不登校児童生徒数が増加していることについて、今年度事業の継続と周知、SSRの増設等に取り組んでいく。また、不登校児童生徒の保護者が相談できる窓口一覽を活用し、居場所となる施設を探したり、相談先を選んだりする参考となるよう活用を進める。
	スクールカウンセラー活用事業(ア)	<基本指標>不登校の生徒数(高校) 高校生の問題行動や不登校等を未然に防止するため、個々の生徒の状況を早期に把握し、早期に対応するとともに、教職員の教育相談に関する資質向上を図ることをねらいとし、県立高等学校にスクールカウンセラーを配置する。 また、東日本大震災で被災した県立高等学校及び避難した生徒を受け入れている県立高等学校の生徒等の心のケアにあたるため、スクールカウンセラーを派遣する。	1,066万円	【達成】 スクールカウンセラー配置校数 実績値:82校 (目標値:82校) ▶前年度【達成】	規模・内容・手法を維持して継続 当該事業は総合計画の基本指標において、プラスの影響を与えている。総合計画の施策3において、震災の影響等により心のケアが必要な子どもが多いと記載されている。当該事業では、すべての県立高等学校へスクールカウンセラーを配置することにより、各学校における教育相談体制整備し、高校生に対して問題行動等の早期発見、早期対応することができた。高校生の問題行動や不登校等を未然に防止するために、個々の生徒の状況を早期に把握し、早期に対応するとともに、教職員の教育相談に関する資質向上を図るため、県立高等学校にスクールカウンセラーを配置するとともに、スキルアップのための研修等も検討していく。
取組2 地域で共に学び、共に生きる共生社会の形成に向けた特別支援教育の充実					
	ふくしまの誰一人取り残さない教育体制整備事業(ア)	<補充指標>個別の教育支援計画の引継ぎ率 特別な支援を必要とする子どもたちの乳幼児期から学校卒業後まで、切れ目のない支援と学びを引き継ぎ、子どもや保護者を支える体制を整えるため、市町村の特別支援教育に係る地域支援体制の整備、病気療養中の児童生徒に対する学習支援体制の構築、すべての教員に求められる特別支援教育に関する研修の推進、高等部生徒の就職率向上に向けた取組を行う。	3,431万円	【未達成】 地域支援センター等における相談・研修支援件数 実績値:2,899件 (目標値:3,000件) ▶前年度【-】	規模・内容・手法を維持して継続 当該事業は総合計画の基本指標にプラスの影響を与えた。アウトプット、アウトカム(市町村における教育と福祉の連携率)いずれの指標も一定程度達成できたほか、各種会議や研修、相談支援等において、多くの参加者、相談支援件数があり、教職員の研修ニーズ、児童生徒の支援ニーズに十分応えることができたことその理由である。今後は、障がいのある児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じ、障がいの特性に応じた充実した支援が実施できるよう、事業内容を『障がいのある幼児児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援する』という視点に立ち、幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するという点から、学校や地域において適切な連携強化及び必要な支援が行われるよう、引き続き当事業を継続して実施する。市町村における連携強化につながる取組としては、次年度の各管内における体制促進協議会において、市町村教育委員会と保健福祉関係部局を一同に集め、個別の教育支援計画の活用及び引き継ぎ等に向けた各関係機関の役割について確認し、具体的な取り組みにつなげていく。特別支援教育アドバイザー等の配置による相談・研修支援や、入院児童生徒支援員の配置による学習支援体制の構築、さらに特別支援教育に携わる教員の資質向上に向け、現状分析の結果と考察を生かし、研修体系・研修コンテンツの開発及び研修協力校へサポート等に取り組む。
取組3 家庭教育支援、家庭の経済的支援の充実					
	高校・大学等奨学資金貸付金(ア)	<補充指標>福島県の教育環境に満足していると回答した県民の割合(意識調査) 能力があるにもかかわらず、経済的理由から修学困難と認められる高校・専修学校(高等課程)/大学・高専等に在学する者に対して奨学資金を貸与する。	1億2,979万円	【未達成】 新規貸与者数 実績値:110人 (目標値:719人) ▶前年度【未達成】	規模・内容・手法を維持して継続 当該事業は総合計画の基本指標にプラスの影響を与える。奨学資金を貸与することで、教育の機会均等を図ることがその理由である。奨学資金貸与を希望する者は年々減少しているが、セーフティネットとしての役割を果たしたため奨学資金貸与の制度は必要であり、今後も継続的に事業を行っていく。滞納者に対しては、近年実施できなかった自宅訪問を行い、滞納額の縮減を図る。
	地域でつながる家庭教育応援事業(ア)	<基本指標>不登校の児童生徒数(小・中学校) 本県の家庭教育推進上の大きな課題である「親の学び」を支援するために、家庭教育について親自身が学び機会が充実するように支援する。さらに、企業と連携して、地域の家庭教育の推進を図る。 また、各地域で主体的に家庭教育の支援が行えるよう学習プログラムの活用を進めるとともに、地域で子育て中の親を支援する家庭教育支援者のスキルを高める。	102万円	【未達成】 家庭教育支援者の資質向上に向けた研修会への参加人数 実績値:242人 (目標値:300人) ▶前年度【未達成】	規模・内容・手法を維持して継続 当該事業は総合計画の基本指標にプラスの影響を与えた。その理由は、研修を通して、家庭教育支援者の育成を継続して行うことで、県内全域に支援団体の増加が見込まれること。また、支援団体が福島県家庭教育支援チームとして登録することで、各地域での支援活動を推進し、支援の届きにくい家庭への支援も見込まれるためである。
	元気なふくしまっ子食環境整備事業(ア)	<指標>肥満傾向児出現率の全国平均との比較値(全国=100) 食習慣、肥満等の健康課題に対応するため、栄養教諭を始めとした食育指導者の資質向上を図り、園児・児童生徒等の食生活環境の整備を行うとともに、食育の観点から地場産物活用を促進するため、県内小・中学生を対象に地場産物を活用した料理コンテストを開催し、入賞したレシピを県内に発信する。	249万円	【達成】 コンテスト応募数 実績値:18911件 (R5) (目標値:18500件) ▶前年度【達成】	規模・内容・手法を一部見直しして継続 当該事業は総合計画の基本指標にプラスの影響を与えた。肥満傾向児の出現率の全国との格差については、本事業の実施により、全国との差が大きく開いた震災以降、改善傾向が見られており、コンテスト終了後に求めた保護者からの感想では、コンテスト人取り組むことで料理への関心が高まったとの声が多いことから、継続して実施していく必要がある。一方、震災後に悪化した肥満傾向児の出現率については、令和2年度よりコロナ禍の影響で悪化した。令和4年度は、全国的にさらに数値が悪化する中、本県は前年度と同水準を維持したが震災前の数値まで回復していないことから、栄養に関する専門的な知識を要する栄養教諭が中心となって、積極的に個別指導に取り組んでいくことが重要となっている。このため、栄養教諭が個別指導に必要とされる資質・能力を身につけるための研修等が必要である。

《施策評価》

不登校の児童生徒数は小・中学校で増加傾向、高校でやや増加となっており、全国と同様の動きとなっている。学校になじめない子どもたちの居場所づくりのため、スペシャルサポートルームの設置を進め、児童生徒の心のケアや教職員・保護者等への助言・援助、教職員の教育相談の資質向上のため、公立・私立共にスクールカウンセラーの配置や派遣を行った。

本施策は、誰一人取り残すことなく、全ての子どもたちが可能性や個性を伸ばしていくことが重要であるため、特別支援学校の地域支援センター機能の強化や家庭教育への支援充実などにより引き続き子どもたちの状況に応じた教育機会の提供や支援を行い、多様性を力に変える土壌をつくっていく。

施策4 福島で学び、福島に誇りを持つことができる「福島を生きる」教育を推進する

基本指標(成果指標)	基準値	最新値	前年比	目標値	令和5年度の指標の状況(予測)			指標の分析
					達成状況	見直し判定	詳細判定	
震災学習の実施率(学校における震災学習の実施率(小・中学校))	30.7% (R2)	98.4% (R4)	↘	80.0% (R5)	達成見込み	(上方)	(改善)	小中学校等の自然体験活動等への補助を行う「ふくしまキッズパワーアップ事業」では、震災学習を必須活動としており、R5年度は本事業を活用した小中学校167校、8,729名が震災関連施設の訪問や語り部からの震災に関する講話等とおして震災について学んだ。今後も、より多くの子どもが震災について学び、考えることができるよう支援の充実を図る。
地域の課題を解決するための提言や、社会に貢献する何らかの活動を行った生徒の割合(高校在学中)	17.0% (R2)	36.3% (R5)	↗	60.0% (R5)	未達成	-	改善	地域課題探究学習を行う生徒の割合に比べ、地域に対する具体的なアクション数はまだ少なく、目標を達成できなかった。しかし、主体的に行動している生徒が、「ふくしま高校生社会貢献活動コンテスト」等に出場して日頃の探究活動の成果を発表し、客観的な評価を受けてさらに深化させている事例が増えており、地域人材等の活用が増加しているため、今後も自治体や社会へ目を向ける取組を積極的に進めるよう支援していく。

□ 主な取組

主な事業	概要	決算額	アウトプット指標	対応方針
取組1 東日本大震災・原子力災害の教訓の継承、福島の今と未来の発信				
チャレンジ！子どもが心み活動支援事業(ア)	<p><基本指標> 震災学習の実施率</p> <p>自然体験及び福島ならではの多様な体験活動に加え、震災の正しい理解と復興に立ち向かった人々の思いを理解する震災を学ぶ学習の実施及び被災地や震災関連施設訪問、語り部からの学び等について、子どもたちが復興に主体的に考え、表現する社会体験活動の実施に対し、その経費の一部を補助する。</p> <p>また、不登校傾向の児童・生徒など心のケアを必要とする子どもを対象とした自然体験活動を県内3つの自然の家で実施する。</p>	9,464万円	<p>【未達成】参加人数(キッズパワーアップ事業)実績値: 8,729人(目標値: 10,200人)</p> <p>▶前年度【未達成】</p>	<p>規模・内容・手法を一部見直しして継続</p> <p>当該事業は総合計画の基本指標にプラスの影響を与えた。震災学習や自然体験活動を通じて、教育環境の充実と寄与したことがその理由である。今年度の成果と課題をふまえ、次年度は以下の点を見直して事業を継続する。家庭教育支援チームとの連携により、保護者との関わりをおとした不登校等の子どもたちの支援に取り組み内容を追加する。</p>
震災と復興を未来へつむぐ高校生語り部事業(ア)	<p><基本指標> 地域の課題を解決するための提言や、社会に貢献する何らかの活動を行った生徒の割合</p> <p>震災と復興に関する地域課題探究活動を通して、福島における震災、復興、そして未来について、自分の考えを持ち、自分の言葉で語ることで「高校生語り部」を育成する。</p> <p>この学びの過程で、生徒の思考力、判断力、表現力等を育成するとともに、県内外の高校生等との交流を通して、震災に関わる風化防止、風評払拭につなげる。</p>	699万円	<p>【達成】実践校指定数17校(R5)(目標値: 17校)</p> <p>▶前年度【達成】</p>	<p>規模・内容・手法を一部見直しして継続</p> <p>当該事業は総合計画の基本指標にプラスの影響を与えた。令和5年度からは、事業効果の一層の増大を図るため、語り部活動の範囲を海外へ拡大して事業を継続した結果、複数校で積極的な活動実績があり、オンラインで県外の高校生とつながる学校も増加した。一方、事業に積極的な学校と毎年不参加の学校が固定化されるなど、学校間の温度差が拡大し、新規で「実践校」に応募する学校が増えない。自分の言葉で語ることでできる高校生を育成を目指す本事業は、各校で盛んになりつつある探究活動と密接に結びつく。アウトカム指標達成のためには、教育活動全体を通じて事業参加を検討してもらえよう働きかけていくこと、煩雑さを少しでも緩和することを目指す必要がある。</p>
取組2 福島イノベーション・コースト構想を担う人材の育成				
福島イノベーション人材育成事業(ア)	<p><基本指標> 地域の課題を解決するための提言や、社会に貢献する何らかの活動を行った生徒の割合</p> <p>国家プロジェクトとして浜通り地域等の新たな産業基盤の構築を目指す福島イノベーション・コースト構想の実現に向け、構想を担う人材の育成が求められている。H30年度より県内の対象校において実施している、各校の特色を活かし、地域の企業等と連携したイノベティブな教育プログラムを継続し、チャレンジ精神を持って福島県の復興・創生に貢献する人材の育成を進める。</p>	3,394万円	<p>【未達成】成果報告会参加者数実績値: 110人(目標値: 160人)</p> <p>▶前年度【未達成】</p>	<p>規模・内容・手法を維持して継続</p> <p>当該事業は総合計画の基本指標にプラスの影響を与えた。指標については今年度は未達成となったが、当該事業は総合計画の基本指標にプラスの影響を与えた工業系高校の卒業後県内留保率が事業実施前に比べて伸びており、今後も基本指標にプラスの影響を与えると見込める。</p> <p>成果報告会への参加を幅広く周知しながら、対象校の取組や研究成果の全県的な普及を図っていく。福島の更なる復興を後押しする有為人材を育成するため、今後も継続的な支援が必要である。</p>
取組3 学校と地域の連携・協働の推進				
ふくしまを創る若者のプラットフォーム構築事業(ア)	<p><基本指標> 地域の課題を解決するための提言や、社会に貢献する何らかの活動を行った生徒の割合</p> <p>地域ネットワーク推進委員を県内7地域に配置し、若手人材及び地域人材を発掘し、各校における地域課題探究活動での活用を推進する。また、地域人材や若手人材について、地域人材ネットワークバンクに登録し、各校が活用できるような支援し、学校と地域の連携を強化するとともに、若手人材と地域とのつながりを創出する。各校の特色ある地域課題探究活動を支援し、その取組を発信する場を設け、生徒同士での相乗効果を図る。このような取組により、高校生時代に地域について学び、卒業後には高校生の学びの支援を通して地域に関わり続け、将来的には地域創生の当事者になるというサイクルを作る。</p>	1,322万円	<p>【未達成】地域人材ネットワークバンクの登録者数実績値: 183人(目標値: 200人)</p> <p>▶前年度【-】</p>	<p>規模・内容・手法を一部見直しして継続</p> <p>当該事業は総合計画の基本指標にプラスの影響を与えた。地域ネットワーク推進委員の配置等を通じて、各校において特色や地域性を活かした課題探究活動が展開されていることがその理由である。</p> <p>次年度は、各高校の地域課題探究活動を充実させるために、地域人材等をICT教材化し、地域人材の新たな発掘に努める。また、全県立高校でICT教材の活用を図り、校内体制に課題がある学校へは教員の研修を充実させるなどして、地域の課題を解決するための提言や社会に貢献する何らかの活動を行った生徒の数の増加を図る。</p> <p>加えて、卒業後に地域に関わり続ける意識の醸成を確認するための工夫の在り方について検討する。</p>

《施策評価》

震災学習の実施率は令和4年度実績で98.4%となり、最終目標をほぼ達成することができた。一方で、地域の課題を解決するための提言や、社会に貢献する何らかの活動を行った生徒の割合については令和5年度目標を達成できなかった。地域に対し具体的なアクションができる生徒がまだ少ないため、地域人材等を巻き込んだ活動をアウトプットする生徒相互の勉強会を設けるなど、地域課題探究活動を支援していく。

児童生徒が自分の暮らす地域において探究学習を進め、地域の魅力や課題を改めて見つめ直す機会を設けることで、郷土への理解促進や愛着の醸成に寄与している。福島イノベーション・コースト構想を担う人材の育成においては、福島国際研究教育機構(F-REI)、福島イノベーション・コースト構想推進機構及び県による包括連携協定をふまえた取組を推進しながら、初等中等教育段階からシームレスな人材育成を進める。今後も、学校と地域の協働や地域をフィールドとした探究的な学びを推進し、福島の未来を担う人材の育成に取り組んでいく必要がある。

施策5 人生100年時代を見通した多様な学びの場をつくる

基本指標(成果指標)	基準値	最新値	前年比	目標値	令和5年度の指標の状況(予測)			指標の分析
					達成状況	見直し判定	詳細判定	
全国体力・運動能力、運動習慣等調査における新体力テストの全国平均との比較値(全国=100)(小5 男子)	98.9 (R元)	99.4 (R5)	↘	99.1 以上 (R5)	達成	-	横ばい	R5においては、全国平均値との比較値が前年度と同等となり、目標を達成できた。コロナ禍の影響が一因と考えられているここ数年間の体力低下は、改善傾向が見られた。
〃 (小5 女子)	101.1 (R元)	101.3 (R5)	↘	101.3 以上 (R5)	達成	-	横ばい	R5も全国平均値を上回り、目標を達成できた。コロナ禍の影響が一因と考えられているここ数年間の体力低下は、改善の兆しが見られた。
〃 (中2 男子)	99.3 (R元)	100.1 (R5)	↘	99.5 以上 (R5)	達成	-	横ばい	R5も全国平均値を上回り、目標を達成できた。コロナ禍の影響が一因と考えられているここ数年間の体力低下は、改善傾向が見られた。
〃 (中2 女子)	100.1 (R元)	101.5 (R5)	↗	100.1 以上 (R5)	達成	-	横ばい	R5においては、全国平均値を上回り、目標を達成できた。コロナ禍の影響が一因と考えられているここ数年間の体力低下は、改善傾向が見られた。
自分手帳の活用率(小学生)	95.5% (R2)	100% (R5)	↗	98.5% (R5)	達成	-	横ばい	年度初めの、自分手帳活用講習会(小中高等学校体育担当者連絡協議会)の際に、効果的な活用の仕方等を紹介するなどしているため、年々活用率が上がってきており、目標は達成できた。今後は、デジタル化を図っていくなど、より活用の利便性を高め、活用の質の向上を目指す。
〃 (中学生)	87.9% (R2)	95.6% (R5)	↗	91.9% (R5)	達成	-	横ばい	年度初めの、自分手帳活用講習会(小中高等学校体育担当者連絡協議会)の際に、効果的な活用の仕方等を紹介するなどしているため、年々活用率が上がってきており、目標は達成できた。今後は、デジタル化を図っていくなど、より活用の利便性を向上させ100%を目指す。
〃 (高校生)	23.3% (R2)	38.0% (R5)	↗	40.3% (R5)	未達成	-	改善	中学校から進学する際の引継ぎ(生徒自身が高校へ持参・提出する)が徹底しておらず、目標を達成できなかった。高校生が利用しやすいよう、手帳をデジタル化を進め、ICT端末やスマホ等で利用できるようにする。
肥満傾向児出現率の全国平均との比較値(全国=100)(幼・小・中・高)(再掲)	133.8 (R元)	130.9 (R4)	↗	126.3 (R5)	未達成 見込み	-	(横ばい)	震災後増加した肥満傾向児出現率は、ゆるやかな改善傾向にあった。コロナ禍の影響により、再びR2年度に増加に転じたが、再び、回復傾向に転じ、R4年度は、全国的に数値が悪化(男児計平均 R3:8.84 R4:9.50)する中で、本県は、前年度と同水準(男女計平均 R3、R4:12.44)を維持しており、事業の実施効果があったものとする。一方、震災前の値(H22:10.58)との格差が大きく、震災前の状況に戻っているとは言えず、目標は達成できないと想定される。
県立美術館の入館者数	11,915人 (R2)	86,338人 (R5)	↗	100,000人 (R5)	未達成	-	改善	令和5年度の目標達成率は86.3%である。大規模企画展を4月から8月にかけて2展実施し、各種広報媒体による効果的な広報等による集客に努めた結果、令和4年度より約26%増とはなったが、目標の10万人達成には至らなかった。 令和5年度の企画展等に係る入館者アンケート結果では、男女比は40:60で、年齢層は60歳代が最も多く、次が40歳代で、最も少ないのは10歳未満、次が80歳以上となっている。また、今後見たい展覧会のジャンルでは、海外の美術が最も多く、次が日本画となっている。
県立博物館の入館者数	65,632人 (R2)	96,274人 (R5)	↘	116,500人 (R5)	未達成	-	改善	新型コロナウイルス感染症が5類に引き下げられ、学校団体の教育旅行等の入館者数は元に戻りつつある。 博物館に求められる役割の多様化に対応するため、イベント等館内行事に加え、移動展(アウトリーチ事業)やゲストティーチャー等、幅広い活動の充実を図り、文化観光や地域の活力向上にも取り組んできた。 今年度は春の企画展「GO!GO!5世紀」、夏の企画展「仕事の仕事」をしている仕事、秋の企画展「伝える 災害の記憶」などを実施したが、比較的規模の小さな自主開催であり、入館者数が伸びなかったことや、2月中途からの総合展示室閉室の影響などもあり、96,274人と目標値116,500人を達成することができなかった。
県文化財センター白河館の入館者数	11,249人 (R2)	14,383人 (R5)	↗	30,000人 (R5)	未達成	-	改善	コロナ禍の影響が残り、令和5年も入館者数も厳しい状況が続いている。 また、令和4年度同様、継続して県内の類似施設(福島市:じよーもひあ宮畑、郡山市:大安場古墳)等に児童生徒が流れる傾向も散見される。類似施設と比較して、白河館は「県内遺跡の遺物所蔵数は質・量共に類似施設に比して充実している」、「特定の時代に限らず通史的な理解が深まる展示」が長所があるが、一方で「特定の時代の本物の遺跡に触れることができない」といった短所がある(出土品は実物)。 さらに、新型コロナウイルス感染拡大の影響による移動制限が解除されたが、一般家庭における外出に対する大きな変化が見られないことや学校における新カリキュラムへの移行により、いわゆる「総合学習」のまとめ取りが難しくなり、校外学習の時間の確保ができないため、移動・時間的な面で遠方の施設が敬遠される傾向も見られる。
市町村における文化財保存活用地域計画を作成した市町村数	0 (R2)	3 (R5)	↗	3 (R5)	達成	-	改善	令和3年12月に白河市、及び令和4年7月に会津若松市、令和5年度7月に喜多方市の文化財保存活用地域計画がそれぞれ文化庁の認定を受けた。令和5年度は大熊町、棚倉町、三春町、福島市の4市町が新規に作成を始めた。引き続き計画作成に向けての支援を行うとともに、計画策定市町村が増加していくよう広報に努める。

□ 主な取組

主な事業	概要	決算額	アウトプット指標	対応方針
取組1 生涯にわたり健康マネジメント能力など学び続ける力の育成				
ふくしまっ子健康マネジメントプラン(ア)	<p><基本指標> 自分手帳の活用率 児童生徒の健康課題を解決するため、健康教育に係る専門家を派遣し、運動習慣の形成、食習慣の指導を行うとともに、児童生徒自らが健康課題に取り組めるよう自己マネジメント力を育成するため自分手帳を活用した事業を実施する。また、当事業の成果等を健康マネジメント支援委員会で評価・検証する。</p>	1,609万円	<p>【達成】 自分手帳の配布数実績値: 14,743冊 (目標値: 14,475冊) ▶ 前年度【達成】</p>	<p>規模・内容・手法を一部見直しして継続 当該事業は総合計画の基本指標にプラスの影響を与えた。肥満傾向児の出現率は、震災後悪化したのが、自分手帳の活用率が向上し、児童生徒の健康マネジメント能力の育成が図られた結果、回復傾向が見られた。一方、震災前の状況までには戻っていないことから、改善を進めていくためには、自分手帳を更に有効活用しやすいようにする必要がある。 次年度は、デジタル版自分手帳の設計、開発、保守・管理に係る費用の確保が困難であることから、教育総務課ITライン事業と連携し、デジタル版自分手帳の開発、設計を進める。それにより、高等学校における活用率の向上が見込まれるが、R6～7年度は開発期間のため、実際に活用率の向上が見られるのはR8年度以降になる見込みである。また、運動遊び普及事業については、文化スポーツ局と協議した結果、幼児教育については教育庁の所管との認識の下、次年度以降は本事業では実施しない(幼児教育センターの事業と連携して実施する)</p>
取組2 地域における多様な活動機会の充実				
地域学校協働本部事業(ア)	<p><基本指標> 地域の課題を解決するための提言や、社会に貢献する何らかの活動を行った生徒の割合 1 復興に向けた学びを通じた協働のまちづくり事業 地域と学校が連携・協働のもと幅広い地域住民等が参画し、地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支え、地域を創生する。 ○ 評価・検証委員会・推進委員会: 地域学校協働本部事業の実施に伴い、被災地における問題解決に向けての明確な目標設定や効果測定、事業評価・検証を実施する。 ○ 地域学校協働活動推進・協働活動推進研修: 地域学校協働本部事業にかかわる研修会を実施し、資質等の向上を図る。 ○ 補助市町村: 被災12市町村と避難児童生徒在籍市町村等対象。地域学校協働活動、放課後子ども教室、家庭教育支援活動等 2 地域学校協働活動補助事業 地域の総合窓口として「地域コーディネーター」を配置し、学校の窓口として「地域連携担当教職員」を任命し、地域と学校がパートナーとなって連携・協働していく組織的・継続的な体制を構築する。</p>	13億4,141万円	<p>【達成】 支援自治体・団体数実績値: 41(R5.9) (目標値: 41) ▶ 前年度【達成】</p>	<p>規模・内容・手法を一部見直しして継続 当該事業は総合教育計画の基本指標にプラスの影響を与えた。その理由は自治体等への支援について、子どもの教育環境の改善や地域の活性化、住民の終つくり等の成果を実感しているという声が多く寄せられるなど、本事業に対する必要性や期待がますます大きくなっていることからである。 コーディネーターや地域ボランティアは個々の立場や状況に応じた課題を抱えているため、次年度はより個別具体的な研修内容について検討していく。</p>
取組3 生涯学習の機会の充実				
県立図書館、県立美術館、県立博物館の整備・充実(ア)	<p>県立図書館、県立美術館、県立博物館において、常設展、企画展、教育普及活動などの充実を図り、各施設における利活用を促進する。</p>	1億1,173万円	<p>【未達成】 入館者数(美術館・博物館)実績値 182,612人 (目標値: 216,500人) ▶ 前年度【達成】</p>	<p>規模・内容・手法を維持して継続 当該事業は総合計画の基本指標にプラスの影響を与えた。図書館の指標である総貸出冊数については、前年度比15%程増加し、県民の生涯学習機会の提供に寄与した。次年度の方針等については、以下のとおり。 【県立図書館】 受取館指定サービス・協力貸出の促進、電話・FAX・E-mailなど来館せずに利用できるレファレンスの促進、レファレンス事例の紹介、HPやSNSを活用した情報発信、障がい者や高齢者のための読書環境の整備等により、あらゆる県民が利用できる図書館を目指していく。 【県立美術館】 来館者のアンケート結果や、他館の入館状況も踏まえ、人気の高い大型企画展や、注目度の高い自主企画展を開催する。企画展の運動等を考えながら、常設展を企画する。 新聞、テレビ、HP、SNSなどを活用し、どの年齢層にも企画展の内容や魅力を、わかりやすく伝えるような表現で、企画展開始前から繰り返し広報する。 【県立博物館】 トイレ改修や段差の解消などのバリアフリー化を行い、障がい者や乳幼児のいるファミリー層、高齢者も安心して観覧できる環境整備を行う。 令和5年度に導入した、鶴ヶ城公園内に位置する3施設(県立博物館、鶴ヶ城、茶室麟閣)の共通観覧券について、キャッシュレス対応を検討するなど利便性の向上に努める。 展示室のサイン表示・解説等の多言語化、スマホ等で観覧や周遊のための情報を入手できるコンテンツ配信システムの構築により、来館者の利便性向上と、インバウンド、外国語ユーザーにつなげる。体験型プログラムやイベント、ツアー造成とともに、野外講座、講師派遣などの館外事業をより充実させる。</p>
取組4 地域に根ざした文化の継承と活用				
文化財保存活用促進事業(ア)	<p><補完指標> 市町村における文化財保存活用地域計画を作成した市町村数 福島県文化財保存活用大綱に掲げた措置を実現するための具体的な取組として、次の事業を実施する。 ・「文化財に係る災害時の相互支援に関する協定」「文化財に係る災害時の応援活動支援に関する協定」連絡会議の開催 ・文化財保護行政担当者研修会の開催 ・文化財保護審議会の開催</p>	186万円	<p>【未達成】 文化財保護行政担当者研修会へ参加した市町村数実績値: 36市町村 (目標値: 59市町村) ▶ 前年度【達成】</p>	<p>規模・内容・手法を維持して継続 当該事業は、総合計画の基本指標にプラスの影響を与えた。過半数の市町村が文化財保護行政担当者研修会に参加したことで、市町村職員の文化財保存に係る意識啓発に繋がりを、文化財保存活用地域計画作成の下地を整えることに寄与したと考えられるためである。遠方の市町村が参加しやすいよう、開催回数や適宜オンラインでの会議を検討していきたい。</p>

《施策評価》

全国体力・運動能力、運動習慣等調査における新体力テストの全国平均との比較値は横ばいとなっているが、概ね令和5年度の目標を達成する見込みである。

児童生徒の健康課題の認識や運動習慣の定着を促す自分手帳は、小中学校で活用が進み、令和5年度の目標を達成することができた。一方で、高校での活用率は目標を達成できなかったため、その向上に向けた工夫改善が求められる。被災地での移動図書館や、社会教育施設等の利活用促進においては、サービス向上に向けた資料の充実や、注目度の高い企画展等の開催により、利用者の多様なニーズに応え、地域に根ざした学びの場となるための取組が引き続き必要である。

文化財保存活用地域計画を作成した市町村数も順調に増加しており、事業の成果が現れてきている。

施策6 安心して学べる環境を整備する

基本指標(成果指標)	基準値	最新値	前年比	目標値	令和5年度の指標の状況(予測)			指標の分析
					達成状況	見直し判定	詳細判定	
地元自治体等と共に課題解決に向けた学習活動を実施した学校の割合(高等学校)(再掲)	88.2%(R3)	94.8%(R5)	↗	70%(R5)	達成	—	やや改善	R5年度の目標を大幅に上回って達成した。今後も最終目標の100%に近づいていくことが予想されるが、課題解決に向けた学習活動の基礎となる基本的な学力の向上や、活動を支える教員の多忙化解消における基本指標は未達成のものが多く、これらを改善することでより効果的な学習活動の実施が可能になると考えられる。
地域の課題を解決するための提言や、社会に貢献する何らかの活動を行った生徒の割合(高校在学中)(再掲)	17.0%(R2)	36.3%(R5)	↗	60.0%(R5)	未達成	—	改善	地域課題探究学習を行う生徒の割合に比べ、地域に対する具体的なアクション数はまだ少なく、目標を達成できなかった。しかし、主体的に行動している生徒が、「ふくしま高校生社会貢献活動コンテスト」等に出場して日頃の探究活動の成果を発表し、客観的な評価を受けてさらに深化させている事例が増えており、地域人材等の活用が増加しているため、今後も自治体や社会へ目を向ける取組を積極的に行えるよう支援していく。
不登校の児童生徒数(小・中学校)※1,000人当たりの出現率(再掲)	16.4人(R元)	27.0人(R4)	↘	目標値は設定しない	—	—	(悪化)	全国に比べて低いが、不登校児童生徒は全国と同様、年々増加している。R4年度の調査結果では福島県の公立小・中学校の不登校復帰率は、小学校22.1%、中学校33.7%であり、不登校の要因として「無気力・不安」が小学校で41.9%、中学校で40.2%と最も多かった。
不登校の生徒数(高校)(再掲)	8.8人(R元)	9.8人(R4)	↘	目標値は設定しない	—	—	(やや悪化)	R5年度は、すべての県立高等学校73校にスクールカウンセラーを配置し、生徒の悩みや不安、問題を早期に把握し、対策を講じているが、基準値から増加傾向である。

□ 主な取組

主な事業	概要	決算額	アウトプット指標	対応方針
取組1 少人数教育の充実				
少人数教育推進事業(ノ)	<補完指標> 福島県の教育環境に満足していると回答した県民の割合 学級編制を弾力化し、小学1,2年及び中学1年を「30人学級」、小学3～6年及び中学2,3年を「30人程度学級」とする。国の標準学級数に比して増えた学級数分の加配教員を配置し、一人一人の児童生徒に対するきめ細かな教育を充実させる。	42億9,709万円	加配教員の配置人数 実績値:513人	規模・内容・手法を維持して継続 当該事業は総合計画の基本指標にプラスの影響を与えた。学級編制の弾力化や加配教員の配置を通じて、一人一人の児童生徒に対するきめ細かな教育の充実と寄与したと考えられることがその理由である。R5年度は、513名の加配教員を配置し、各学校において必要な教員を確保して教育活動を進めることができた。各学校における多様化・複雑化する課題に対応するには、少人数教育推進によるきめ細かな教育環境整備が必要不可欠であるため、他事業で実施している教員の多忙化解消や教員の魅力発信等の取り組みを通じた教員の確保を前提としながら必要な加配教員を配置できるよう、引き続き本事業を継続する必要がある。
取組2 避難地域12市町村などの特色ある教育				
福島県教育復興推進事業(ノ)	<基本指標> 地域の課題を解決するための提言や、社会に貢献する何らかの活動を行った生徒の割合 ふるさとの復興を担い世界へ発信していく人材を育成するため双葉郡内8町村の小・中学校で実施する双葉郡教育復興ビジョン推進に係る事業や、ふたば未来学園中学校・高等学校における特色あるカリキュラム編成・実証に関する取組を実施する。 また、南相馬地域の高校における地方創生を担う人材育成のため、講演会や生徒・教員に対する研修等を実施する。	5,725万円	【達成】 先進的な教育手法を取り入れたふるさとの復興を担い、世界へ発信していく能力を持つ人材を生み出すためのカリキュラム受講者数 実績値:1,296人 (目標値:1,250人) ▶前年度【達成】	規模・内容・手法を維持して継続 当該事業は総合計画の基本指標にプラスの影響を与えた。特色あるカリキュラム編成・実証に関する取組を通じて、地域で活躍する人材育成に寄与したと考えられることがその理由である。地域の未来へ向けた教育の復興は必要不可欠であるため、引き続き規模等を維持して継続する。課題に対しては、国担当者へ状況(特にビジョンとふたば未来の)を逐一報告しており、県と国との意思統一に引き続き注力しつつ、国の意向を肅々とビジョン協議会(イノベ機構)やふたば未来学園へ伝達する。
取組3 学びを支える施設設備等の整備				
長寿命化事業(高等学校・特別支援学校)(ノ)	<基本指標> 福島県の教育環境に満足していると回答した県民の割合(意識調査) 老朽化している学校施設の長寿命化を図るため、長寿命化計画に基づき、大規模改修や建替えを計画的に実施する。	6億8,842万円	【未達成】 高等学校の大規模改修工事(設計除く)の実施校数 実績値:4校 (目標値:5校) ▶前年度【達成】	規模・内容・手法を一部見直しして継続 当該事業は総合計画の基本指標にプラスの影響を与えた。高等学校及び特別支援学校の大規模改修工事を計画的に進め、教育環境を改善できたことがその理由である。一方で、整備すべき施設数が数多くあり、少しでも多くの老朽化施設を解消していく必要があるものの、次年度は他の整備事業に圧迫されるため、一時的に整備規模を縮小せざるを得ない。
取組4 防災・危機管理などの安全安心な学校づくり				
教育相談推進事業(ノ)	<基本指標> 不登校の児童生徒数(小・中学校)※1,000人当たりの出現率 1 学校教育相談員活動経費:いじめ問題等解決のため、学校教育相談員の配置と、相談に応じるフリーダイヤルを設置する。 2 緊急時カウンセラー派遣事業:学校に関わる緊急事態発生時に、児童生徒のPTSDを防止するため臨床心理士を学校に派遣する。 3 スクールカウンセラー等派遣事業:問題行動等の未然防止や早期解決のため、SC等を小・中学校に配置する。 4 スクールソーシャルワーカー派遣事業:SSWを配置して、関係機関等と連携し、児童生徒等の心・生活のケアにあたる。 5 サポートティーチャー派遣事業:サポートティーチャー(ST)を学校に派遣し、教科の学習を支援するとともに、授業外、長期休業時や土曜学習会等における相談活動と学習支援を充実し、児童生徒の心のケアと学習のつまづきを解消する。 6 24時間子どもSOS電話相談事業:問題の相談に応じるために、フリーダイヤルを設置し、相談を受ける事業を委託する。	6億6,496万円	スクールカウンセラーへの相談件数 実績値:74,459件 (アウトプット指標未設定)	規模・内容・手法を維持して継続 当該事業は総合計画の基本指標にプラスの影響を与えた。SCやSSWの配置を通じて、1,000人当たりの不登校児童生徒数が全国平均を下回ったことがその理由である。 多様化・複雑化した生徒指導上の問題を解決するためには、SCやSSWとの連携は不可欠である。各校でチームで解決に当たることができるよう教育相談体制を整えるとともに、各校における効果的な活用を促していくためには、引き続き同規模で事業を継続する必要がある。 そのため、本県の児童生徒の状況や相談内容、相談件数を国に丁寧に説明し、補助事業の継続を要望していく。

《施策評価》

少人数教育の充実においては、必要な加配教員を確保し、きめ細かな指導体制を維持することができた。引き続き、過疎・中山間地域における「極」少人数での学びの充実支援を含め、必要な取組を継続していく必要がある。

避難地域12市町村の特色ある教育においては、双葉郡教育復興ビジョンの推進に係る事業や、ふたば未来学園中学校・高等学校における特色あるカリキュラム編成・実証等を通じて、地域の復興を担う人材育成を推進することができた。引き続き、創造的な教育復興の実現に必要な取り組みを継続していく必要がある。

エ 第7次福島県総合教育計画の指標及び最新値一覧

【児童生徒に関する指標】

指 標	最 新 値 (令和5年度)	目 標 値 (令和12年度)	施策との 主な関連
地域の課題を解決するための提言や、社会に貢献する何らかの活動を行った生徒の割合(高校在学中)	36.30%	100%	施策1 施策4
自分にはよいところがあると思う児童生徒の割合(小・中学校)	小学校 75.9% 中学校 73.1%	100%	施策1
ふくしま学力調査の結果の経年比較により、学力が伸びた児童生徒の割合(小・中学校)	小学校 国語 81.3% 算数 63.9% 中学校 国語 64.9% 数学 53.9%	100%	施策1
全国学力・学習状況調査の全国平均正答率との比較値(小・中学校)	小学校6年生 国語 100 算数 98 中学校3年生 国語 99 数学 90	小学校6年生 国語 102以上 算数 100以上 中学校3年生 国語 102以上 数学 100以上	施策1 施策4
全国学力・学習状況調査の結果の上位層と下位層の児童生徒の割合	小学校国語(全国) 上位層 25% (27.1%) 下位層 25% (23.9%) 小学校算数(全国) 上位層 27% (30.0%) 下位層 21% (19.5%) 中学校国語(全国) 上位層 31% (33.4%) 下位層 20% (19.5%) 中学校数学(全国) 上位層 28% (35.3%) 下位層 22% (17.5%)	上位層の児童生徒の割合を全国平均以上 下位層の児童生徒の割合を全国平均以下	施策1
中学3年生のうちCEFR A1以上(英検3級以上相当)高校3年生のうちCEFR A2以上(英検準2級以上相当)の英語力を有する生徒の割合	中学校 35.8% 高等学校 40.6%	50.0%	施策1 施策4 施策5
家で自分で計画を立てて勉強している児童生徒の割合(小・中学校)	小学校 80.0% 中学校 60.7%	100%	施策1
全国体力・運動能力、運動習慣等調査における新体力テストの全国平均との比較値(小・中・高)	小5男子 99.4 小5女子 101.3 中2男子 100.1 中2女子 101.5	100.0以上 101.9以上 100.0以上 100.2以上	施策1 施策5
肥満傾向児出現率の全国平均との比較値(幼・小・中・高)	130.9 (※令和4年度)	100	施策5
朝食を食べる児童生徒の割合(小・中・高・特支)	95.8%	100%	施策3 施策5
不登校の児童生徒数(1,000人当たり)	小・中学校 27.0人 高等学校 9.8人 (※令和4年度)	数値は毎年度把握し分析する(目標値は設定しない)	施策3

【学校に関する指標】

指 標	最 新 値 (令和5年度)	目 標 値 (令和12年度)	施策との 主な関連
地元自治体や企業等と共に課題解決に向けた学習活動を実施した学校、または探究学習等を基に地元自治体に政	94.8%	100%	施策1 施策4

策の提言等を行った学校の割合(高等学校)			
地域の人と連携した授業等を複数回行った教員の割合(小・中・高・特別支援学校)	52.2% (※令和4年度)	100%	施策1 施策2 施策4
学校における震災学習の実施率(小・中学校)	98.4% (※令和4年度)	100%	施策4 施策6
全国学力・学習状況調査の結果をふくしま学力調査等の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っている学校の割合	行っている 小学校 96.8% 中学校 93.4% よく行っている 小学校 26.0% 中学校 21.0%	行っている 100% よく行っている 50%	施策1 施策2
英語担当教員のうち、CEFR B2以上(英検準1級程度以上)の英語力を有する教員の割合	中学校 31.4% 高等学校 66.6%	50% 80%	施策1 施策2
授業にICTを活用して指導できる教員の割合(小・中・高・特別支援学校)	72.2% (※令和4年度)	100%	施策1 施策2
児童生徒がコンピューター等のICTを活用する学習活動を行う回数(1クラスあたり)	ほぼ毎日 小学校 52.6% 中学校 57.9% 週1回以上 小学校 45.3% 中学校 40.1%	ほぼ毎日 100%	施策1
児童生徒が自身の健康課題を認識し解決する力を育成するため、自分手帳を活用している学校の割合	小学校 100% 中学校 95.6% 高等学校 38.0%	100%	施策1 施策5
個別の教育支援計画の引継ぎ率(幼・小・中・高)	82.9%	100%	施策3
時間外勤務時間月80時間及び45時間を超える教職員の割合	80時間超 小学校 7.4% 中学校 25.0% 高等学校 19.3% 特別支援学校 3.2% 全体 14.5% 45時間超 小学校 40.8% 中学校 58.0% 高等学校 50.4% 特別支援学校 23.0%	80時間超 全て0% 45時間超 全て令和2年度の現況 値3分の1以下 (令和6年度達成を目指しその後も80時間超0%維持及び45時間超の減少を目指す)	施策2

【地域に関する指標】

指 標	最 新 値 (令和5年度)	目 標 値 (令和12年度)	施策との 主な関連
県立美術館、県立博物館、県文化財センター白河館の入館者数	美術館 86,338人 博物館 96,274人 文化財センター白河館 14,383人	100,000人 129,000人 30,000人	施策5
市町村における文化財保存活用地域計画を作成した市町村数	3 (※令和5年度まで)	10	施策5

3 新しい県立高校改革計画の概要

これまで県教育委員会では、1997年(平成9年)6月に「県立高等学校改革計画第一次まとめ」(以下、「一次まとめ」という。)、1999年(平成11年)3月に「県立高等学校改革計画第二次まとめ」(以下、「二次まとめ」という。)を策定し、すべての県立高等学校における男女共学化や学校規模の適正化、学校・学科の適正配置、新しいタイプの定時制単位

制高等学校の配置などの取組を進めてきた。

「一次まとめ」及び「二次まとめ」が策定された後も、グローバル化や高度情報化が進展し、産業構造や就業構造の変化等が急速に進む中で、高等学校教育には、多様化する生徒の進路希望への対応、キャリア教育の充実、地域との連携の一層の推進などが求められてきた。

さらに、2011年(平成23年)3月11日に発生した東日本

大震災及び原子力災害などにより、児童生徒数の減少が震災前の予測を大きく上回り、今後10年間で中学校卒業見込者は約5,300人減少することが見込まれており、教育を取り巻く様々な状況は、「二次まとめ」の策定時から大きく、急激に変化している。そこで、今後の急激な社会情勢の変化も考慮しながら長期的な改革の方向性を示し、計画的かつ着実に改革を推進する必要性が生じてきた。

このような中、県教育委員会は、福島県学校教育審議会に対して、2016年（平成28年）5月、「社会の変化に対応した今後の県立高等学校の在り方について」諮問を行い、部会を含めて10回にわたる審議の後、2017年（平成29年）6月に答申を受けた。この答申を踏まえ、県教育委員会では、県立高等学校改革を着実に推進するために、「一次まとめ」及び「二次まとめ」の取組・現状や成果・課題を土台として、今後10年間の県立高等学校改革の方向性を示す基本計画（長期計画）を2018年（平成30年）5月に策定し、併せて、再編整備の具体的な対象校名を含む前半5年間の実施計画（短期計画）を2019年（平成31年）2月に、後半5年間の実施計画（短期計画）を2022年（令和4年）1月に策定した。

(1) 県立高等学校改革基本計画（2019年度～2028年度）

ア 基本理念

「本県の未来を切り拓くチャレンジ精神を持った人づくり」

イ 計画の概要

上記の理念をもとに、高等学校における学びを通じて、地域に軸足を置きながら多様な主体と関わり、自己のアイデンティティと郷土への誇りを育み、生徒一人一人の志を実現させることができるよう、教育の質を向上させることとし、そのために、各高等学校の新たな在り方を検討し、再編整備と特色化を図る中で、より良い教育環境を提供することによって、生徒一人一人の資質や能力を向上させることのできる魅力ある高等学校づくりを推進することを目標に、以下の4つの基本方針と17の取組に沿って高等学校教育の充実を図ることとした。

基本方針1 社会の変化に的確に対応できる生き抜く力を育む高等学校教育の推進

- (1) 生き抜く力を支える確かな学力の向上に向けた取組の推進
- (2) 豊かなこころを育成する取組の推進
- (3) 体力の向上や健康増進に向けた取組の推進
- (4) 様々な課題に果敢に取り組む主体性・協働性を育成する取組の推進
- (5) 地域と連携し、地域の特色を生かした学校づくりの推進

基本方針2 多様な学習内容の確保及び教育の質の向上

- (6) 多様な学習機会の充実
- (7) 中高一貫教育の推進
- (8) 学びのセーフティネットの推進
- (9) 一人一人の夢を実現させる教育力の向上

基本方針3 学校の再編整備・特色化による教育活動の魅力化

- (10) 学ぶ意欲を引き出す望ましい学校規模
- (11) 望ましい学校規模への再編整備の推進
- (12) 進路希望に応じた特色ある高等学校の配置
- (13) 社会の変化に対応した学科の適切な配置
- (14) きめ細かな指導が可能となる教育環境の整備
- (15) 学校の特色化と情報発信

基本方針4 過疎・中山間地域の学習機会の確保と教育環境の向上

- (16) 過疎・中山間地域の学習機会の確保
- (17) 過疎・中山間地域における教育環境の向上

(2) 県立高等学校改革前期実施計画（2019年度～2023年度）

ア 県立高等学校改革前期実施計画策定の趣旨

本計画は、県立高等学校改革基本計画を実効的、計画的に推進し、計画の理念を具現化するために、より具体的な高等学校改革の方向性と再編整備の具体的な対象校を含む前期5年間の方向性を示したものである。

策定に当たっては、第6次福島県総合教育計画の後半4年間における取組を重点化した「頑張る学校応援プラン」との整合性を図るとともに、基本計画の4つの基本方針に沿って、本県の高等学校全体の在り方を示した上で、各地区の中学校卒業見込者数の今後の推移、近年の各高等学校の志願動向や中学3年生の進路希望等を考慮した。また、各高等学校が所在する地域の実状や本県で求められる人材育成の観点等も考慮し、すべての県立高等学校の今後5年間の方向性を示すこととした。

イ 計画の概要

○ 本県の高等学校教育の質的向上に向けた取組の推進

- (1) 学力の向上を目指した取組の推進
- (2) 様々な課題に果敢に取り組み、社会に貢献する自立した人材の育成
- (3) 他者を思いやり、豊かな心を育む取組の推進
- (4) 生涯にわたる健康の保持増進につながる健康教育の推進
- (5) 地域とともにある学校づくりの推進
- (6) 安心して学ぶことのできる環境の支援
- (7) 教員の資質や学校の教育力の向上を目指した取組の推進
- (8) 高等学校における特別支援教育の推進
- (9) ICT機器を活用した教育の充実
- (10) きめ細かな指導が可能となる教職員の確保と配置

○ 社会の変化に対応した魅力ある教育環境づくり

- (1) 県立高等学校の再編整備案

以下の再編整備案を公表した。

【統合】25の対象校に係る12の統合案

梁川・保原、二本松工業・安達東、須賀川・長沼、白河実業・塙工業(併せて修明高校への農業科の集約)、喜多方・喜多方東、耶麻農業・会津農林、大沼・坂下、田島・南会津、湯本・遠野、

小名浜・いわき海星、相馬東・新地、
保原(定時制)・福島中央

【分校の募集停止】2校の募集停止案

安積高等学校御館校、修明高等学校鮫川校

- (2) 過疎・中山間地域の県立高等学校の例外的措置
川俣、湖南、猪苗代、西会津、川口、只見
(湖南、西会津、川口は平成30年度に先行実施)
- (3) 生徒の学びのニーズや進路希望に応じた県立高等学校の特色化

様々な課題に果敢に取り組む主体性・協働性を育成する教育活動の推進や、多様な学習内容の確保及び教育の質の向上の観点から、すべての県立高校を「進学指導拠点校」「進学指導重点校」「キャリア指導推進校」「地域協働推進校」「職業教育推進校」「定時制・通信制高校」の6つの学校群のいずれかに位置づけ、生徒の学びのニーズや進路希望に応じた教育活動を展開できるよう、前期計画期間中の各校の改革の方向性を示した。

(3) 県立高等学校改革後期実施計画(令和6年度～10年度)

ア 県立高等学校改革後期実施計画策定の趣旨

本計画は、県立高等学校改革基本計画の理念を具現化するために、県立高等学校改革の内容や再編整備の具体的な対象校等について5年単位の実施計画(短期計画)を前期・後期に分けて策定することとしたうち、後期5年間(令和6～10年度)の具体的な取組を示したものである。策定に当たっては、令和3年12月に策定した第7次福島県総合教育計画を踏まえている。

イ 計画の概要

○ 本県の高等学校教育の質的向上に向けた取組の推進

後期計画においても、前期計画と同様に、基本計画に示した4つの基本方針を具現化し、社会の在り方が劇的に変わるSociety5.0の時代に必要な資質・能力を身につけた人材の育成を目指して、「福島ならではの教育の充実を図ることとした。

- (1) 学力の向上を目指した取組の推進
- (2) 様々な課題に果敢に取り組む、社会に貢献する自立した人材の育成
- (3) 他者を思いやり、豊かな心を育む取組の推進
- (4) 生涯にわたる健康の保持増進につながる健康教育の推進
- (5) 地域とともにある学校づくりの推進
- (6) 安心して学ぶことのできる環境の支援
- (7) 教員の資質や学校の教育力の向上を目指した取組の推進
- (8) 高等学校における特別支援教育の推進
- (9) ICT機器を活用した教育の充実
- (10) きめ細かな指導が可能となる教職員の確保と配置

○ 社会の変化に対応した魅力ある教育環境づくり

- (1) 県立高等学校の再編整備案
以下の再編整備案を公表した。

【統合】8の対象校に係る4の統合案

福島西・福島北、船引・小野
平商業・四倉、いわき総合・好間

- (2) 過疎・中山間地域の県立高等学校の例外的措置
石川
- (3) 生徒の学びのニーズや進路希望に応じた県立高等学校の特色化

前期計画に引き続き後期計画においても、すべての県立高校を6つの学校群のいずれかに位置づけ、生徒の学びのニーズや進路希望に応じた教育活動が展開できるよう、後期計画期間中の各校の改革の方向性を示した。※特色化のため探究科などの特色ある学科の設置を推進する。

令和5年2月には、各高等学校における存在意義、期待される社会的役割、目指すべき学校像を明確にしたスクール・ミッションを策定した。

育成を目指す資質・能力に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の三つの方針(いわゆる「スクール・ポリシー」)については、スクール・ミッションを前提として、各学校が令和5年度に策定・公表した。

(4) 中高一貫教育後期実施計画

ア 中高一貫教育後期実施計画策定の趣旨

中高一貫教育は、中学校と高等学校を接続し、6年間の計画的、継続的な教育課程及び学習環境のもとで一貫した教育を行うことにより、生徒一人一人の能力・適性、幅広い年齢集団の中での様々な活動により社会性や豊かな人間性を育てていくとともに、学校選択の幅を拡大することを目指して、1999年(平成11年)4月に制度化された。

本県においては、福島県学校教育審議会答申(2001年(平成13年)12月)及び第5次福島県長期総合教育計画(2001年(平成13年)3月)に基づき、本県の教育目標を達成するための施策のひとつである「学びの環境づくり」の一環として、中高一貫教育の導入にかかる基本的な考え方や、中高一貫教育校の形態、配置計画等を示すものとして、2003年(平成15年)3月に「中高一貫教育実施計画」(以下、「前期実施計画」という。)を策定した。

「前期実施計画」に基づき、中高一貫教育校の配置については、広い県土を持つ本県において、児童、生徒、保護者が希望に応じて選択することができるよう配慮し、第5次福島県長期総合教育計画の目標年次である2010年度(平成22年度)までの期間を前期とし、併設型中高一貫教育校として会津学鳳高等学校に併設中学校を開校したほか、連携型中高一貫教育校を東白川郡塙町(塙工業高等学校)、南会津郡南会津町(田島高等学校)、相馬

市（相馬東高等学校）に配置した。「前期実施計画」の期間後、東日本大震災・原子力災害等の影響により後期実施計画の策定は中断していたが、震災等の発生に伴う復興・再生に向けた取組を進めていく中、ふたば未来学園高等学校及び併設中学校を開設するとともに、県内4地区において連携型中高一貫教育を推進してきた。

このような中、県教育委員会は、「6年間を通した計画的・継続的な教育をより魅力的・効果的に展開する特色ある中高一貫教育に関する取組を充実するべきである」との、福島県学校教育審議会答申（2017年（平成29年）6月）を受け、2018年（平成30年）5月に策定した「県立高等学校改革基本計画」の基本方針及び2019年（平成31年）2月に策定した「県立高等学校改革前期実施計画」に基づき、これまでの本県の中高一貫教育の成果や一般の社会情勢を踏まえ、改めて本県における今後の併設型及び連携型中高一貫教育の在り方についての方向性を示すものとして、「中高一貫教育後期実施計画」（以下「後期実施計画」という。）を2020年（令和2年）2月に策定した。

イ 中高一貫教育に関する基本的な考え方

- (ア) 「後期実施計画」の策定に当たっては、福島県学校教育審議会答申（2017年（平成29年）6月）を尊重し、「県立高等学校改革前期実施計画」（2019年（平成31年）2月）等との整合性を図る。
- (イ) これまでの中高一貫教育校での取組を踏まえ、進学面で高い志を持った生徒の進路実現に対応できる新たな中高一貫教育校を検討する。
- (ウ) 新たな中高一貫教育の実施形態の選択に当たっては、中高一貫教育校の教育理念や地域の実情等を考慮して柔軟に対応する。
- (エ) 連携型中高一貫教育校については、県立高等学校改革の動向等を踏まえながら、より良い在り方について引き続き検討する。
- (オ) 中高一貫教育については、本県の未来を担う人材育成の観点から、その在り方について引き続き検討していく。

ウ 計画期間

計画期間は、2018年（平成30年）に策定した「県立高等学校改革基本計画（2019年度～2028年度）」に合わせ、2019年度（令和元年度）から2028年度（令和10年度）までとする。

エ 配置計画

○ 新たな併設型中高一貫教育校の設置

新たな併設型中高一貫教育校を設置するに当たっては、進学面で高い志を持った生徒の進路実現に対応する必要があり、難関大学への進学実績が豊富である高等学校へ併設することが重要である。また、公共交通機関の利便性の良さにより児童生徒の志願がより広範囲から可能であることや、施設整備が可能となる敷地面積を有することなどの点を踏まえる。

さらに、これまで併設型中高一貫教育校を会津と浜通りに配置しており、地域のバランスを踏まえ、今後、全県的な中高一貫教育を展開するためには、中通りへの設置が必須である。以上のことを総合的に判断し、県立高等学校改革に取り組んでいる現状に鑑み、既設の安積高等学校に県立中学校を2025年度（令和7年度）（予定）に併設することとする。

併設中学校は、安積高等学校の同一敷地内に設置することとし、6年間を見通した教育課程に基づく教育活動などを適切に展開するために必要な施設、設備等を整備する。また、募集定員については、一定の人数を確保しつつ、周辺の市町村立中学校への影響を踏まえ、1学級30名の2学級編制とし、通学区域を県下一円とする。

接続する高等学校は、将来の多様な大学への進路希望に対応が可能となるよう、単位制による「普通科」とし、併設中学校と同様に通学区域を県下一円とする。

これらを踏まえ、以下のとおり設置することとした。

福島県立安積中学校・高等学校

- ・ 開校(予定) 2025年度（令和7年度）
- ・ 設置場所 福島県立安積高等学校（郡山市）
- ・ 生徒募集定員 中学校60名（2学級）
- ・ 通学区域 県下一円

○ 連携型中高一貫教育校

これまで東白川郡塙町、南会津郡南会津町、相馬市及び双葉郡に配置していた連携型中高一貫教育校については、以下の点を踏まえるとともに、「県立高等学校改革前期実施計画」の再編整備の状況を踏まえ、連携の新たな仕組みづくりを進め、連携先の中学校の拡充を図ることとした。

- ・ 中学校及び高等学校の連携の柱となる特色ある教育活動を展開するために活用可能な地域の自然環境等の教育資源の状況。
- ・ 対象となる高等学校の教育課程や学科の特色。
- ・ 中学校・高等学校双方において生徒、教員の人的交流等による連携活動をより緊密に行うための中学校と高等学校の立地状況。
- ・ 各中学校から対象となる高等学校への入学者数の状況。
- ・ 地域バランス等。

次のように新たな連携の仕組みづくりを行った。

- ・ 相馬総合高等学校の連携を新地町立中学校へ拡充（令和4年度から）
- ・ 南会津高等学校の連携を南会津町立中学校2校、下郷町立中学校へ拡充（令和5年度から）
- ・ 修明高等学校と東白川郡内の中学校4校との連携を開始（令和5年度から）

第2章 教育行政

第1節 教育委員会

1 教育委員会

令和5年4月1日付けで高橋理里子氏が、浅川なおみ委員の後任として教育委員に任命された。

また、令和5年12月27日付けで吉津健三委員が再任され、同日付けで教育長職務代理者に大村雅恵委員が指名された。

職名	氏名	就任年月日	職業	備考
教育長	大沼 博文	令和4年 4月1日		福島市
委員 教育長職務代理者 (R5.12.27~)	大村 雅恵	令和2年 10月19日	会社 社長	福島市
委員	成澤 勝蔵	令和2年 10月19日	自営業	会津若松市
委員	正木 好男	平成29年 12月24日 (2期目)	会社 顧問	いわき市
委員 教育長職務代理者 (R4.12.26 ~R5.12.26)	吉津 健三	令和元年 12月27日 (2期目)	弁護士	郡山市
委員	高橋 理里子	令和5年 4月1日	会社 役員	福島市

2 審議事項

4月定例会(R5.4.21)

○ 審議事項

- (1) 博物館法施行細則の一部を改正する規則について
- (2) 教育長臨時代理による処理の承認について
- (3) 教育長臨時代理による処理の承認について
- (4) 教職員の懲戒処分について
- (5) 令和6年度福島県公立学校教員採用予定者数について

○ 報告事項

- (1) 令和5年度福島県立高等学校入学者選抜の結果について
- (2) 令和5年度福島県立特別支援学校高等部入学者選抜の結果について
- (3) 福島県社会教育委員の解嘱について
- (4) 訴訟判決について

(5) 訓告処分等について

5月定例会(R5.5.19)

○ 審議事項

- (1) 福島県立図書館協議会委員の任免について
- (2) 福島県社会教育委員の任命について
- (3) 教職員の懲戒処分について
- (4) 教職員の懲戒処分について
- (5) 教職員の懲戒処分について

○ 報告事項

- (1) 令和6年度使用教科用図書の採択等に関する答申について
- (2) 訓告処分等について

6月定例会(R5.6.16)

○ 審議事項

- (1) 教育長臨時代理による処理の承認について
- (2) 令和5年度6月補正予算案（教育委員会関係部分）について
- (3) 工事請負契約案について
- (4) 工事請負契約案について
- (5) 工事請負契約案について
- (6) 工事請負契約案について
- (7) 令和6年度使用教科用図書調査研究資料について
- (8) 教職員の懲戒処分について
- (9) 退職手当の支給制限について

○ 報告事項

- (1) 県立学校教頭の人事について
- (2) 調停について
- (3) 訓告処分等について

7月定例会(R5.7.14)

○ 審議事項

- (1) 技能労務職員の給与及び勤務時間等に関する規則の一部を改正する規則について
- (2) 教育長臨時代理による処理の承認について
- (3) 教職員の懲戒処分について

○ 報告事項

- (1) 令和7年度福島県立中学校入学者選抜について
- (2) 訓告処分等について

○ 協議事項

- (1) 双葉地区特別支援学校の整備について

8月定例会(R5.8.8)

○ 審議事項

- (1) 令和5年度福島県指定文化財等の指定に係る諮問について
- (2) 令和6年度使用県立中学校の教科用図書の採択について
- (3) 令和6年度使用県立特別支援学校小学部・中学部の

教科用図書の採択について

(4) 教職員の懲戒処分について

○ 報告事項

(1) 訓告処分等について

9月定例会 (R5. 9. 8)

○ 審議事項

(1) 令和4年度福島県教育委員会の事務の管理及び執行状況の点検・評価結果について

(2) 令和6年度福島県立中学校入学者選抜について

(3) 令和6年度福島県立高等学校入学者選抜について

(4) 令和6年度福島県立特別支援学校高等部入学者選抜について

(5) 令和7年度福島県立中学校入学者選抜について

(6) 福島県立高等学校学則の一部を改正する規則について

(7) 教職員の懲戒処分について

(8) 令和5年度9月補正予算案（教育委員会関係部分）について

(9) 福島県立特別支援学校条例の一部を改正する条例案について

(10) 工事請負契約案について

(11) 工事請負契約案について

(12) 不動産の取得案について

(13) 令和5年度教育・文化関係表彰について

(14) 令和6年度福島県公立学校実習助手採用予定者数及び令和6年度福島県公立学校寄宿舎指導員採用予定者数について

○ 報告事項

(1) 訓告処分等について

10月定例会 (R5. 10. 20)

○ 審議事項

(1) 教育長臨時代理による処理の承認について

(2) 令和6年度福島県立学校生徒募集定員について

(3) 福島県立図書館協議会委員の任命について

(4) 令和6年度福島県公立学校教員採用候補者選考試験について

(5) 教職員の懲戒処分に関する基準について

(6) 令和6年度人事異動方針及び各人事異動実施要項について

(7) 令和5年度教育・文化関係表彰について

(8) 教育長臨時代理による処理の承認について

○ 報告事項

(1) 教育庁職員の人事について

(2) 調停について

(3) 訓告処分等について

11月定例会 (R5. 11. 17)

○ 審議事項

(1) 公の施設の指定管理者の指定案について

(2) 公の施設の指定管理者の指定案について

(3) 公の施設の指定管理者の指定案について

(4) 公の施設の指定管理者の指定案について

(5) 教職員の懲戒処分について

(6) 令和5年度中学生・高校生の国際理解・国際交流論文朝河貫一賞の受賞者について

(7) 令和5年度中学生・高校生の科学・技術研究論文野口英世賞の受賞者について

(8) 令和5年度福島県教職員研究論文の入賞者について

(9) 退職手当の支給制限について

○ 報告事項

(1) 県立学校教頭の人事について

(2) 訓告処分等について

12月定例会 (R5. 12. 8)

○ 審議事項

(1) 教職員の懲戒処分について

(2) 教職員の懲戒処分について

(3) 教職員の懲戒処分について

(4) 教職員の懲戒処分について

(5) 令和5年度12月補正予算案（教育委員会関係部分）について

(6) 福島県義務教育諸学校等の教育職員の給与等の特別措置に関する条例の一部を改正する条例案について

(7) 工事請負契約案について

(8) 不動産の取得の一部変更案について

(9) 教育長臨時代理による処理の承認について

(10) 退職手当の支給制限について

○ 報告事項

(1) 訓告処分等について

○ 協議事項

(1) 令和7年4月開校の県立学校について

1月定例会 (R6. 1. 19)

○ 審議事項

(1) 教育長臨時代理による処理の承認について

(2) 教育長臨時代理による処理の承認について

(3) 教育長臨時代理による処理の承認について

(4) 教育長臨時代理による処理の承認について

(5) 地方教育行政の組織及び運営に関する法律第29条の規定に基づく意見照会に対する回答案について

(6) 教職員の懲戒処分について

(7) 教職員の懲戒処分に関する基準について

(8) 福島県市町村立学校職員の給与等に関する条例の一部を改正する条例案について

(9) 令和6年度福島県公立学校実習助手採用候補者選考試験の合格者について

(10) 令和6年度福島県公立学校寄宿舎指導員採用候補者選考試験の合格者について

(11) 令和5年度教育・文化関係表彰について

(12) 教育長臨時代理による処理の承認について

○ 報告事項

- (1) 須賀川創英館高等学校生徒の自死に係る第三者調査委員会調査報告書について
- (2) 令和6年度人事異動（教員系）について
- (3) 訓告処分等について

2月定例会 (R6. 2. 9)

○ 審議事項

- (1) 福島県教育委員会における学校運営協議会の設置等に関する規則の一部を改正する規則について
- (2) 福島県立高等学校学則の一部を改正する規則について
- (3) 福島県立特別支援学校学則の一部を改正する規則について
- (4) 福島県自然の家条例の一部を改正する条例案について
- (5) 令和6年度当初予算案（教育委員会関係部分）について
- (6) 教職員の懲戒処分について
- (7) 教職員の懲戒処分について
- (8) 福島県グローバル人材育成基金条例案について
- (9) 福島県立中学校条例の一部を改正する条例案について
- (10) 福島県立高等学校条例の一部を改正する条例案について
- (11) 福島県立特別支援学校条例の一部を改正する条例案について
- (12) 教育長臨時代理による処理の承認について

○ 報告事項

- (1) 訓告処分等について

○ 協議事項

- (1) 令和6年度人事異動（教員系）について

臨時会 (R6. 2. 26)

○ 審議事項

- (1) 教育長臨時代理による処理の承認について
- (2) 教育長臨時代理による処理の承認について
- (3) 校長及び教員としての資質の向上に関する指標[第2版]の改定について
- (4) 教育長臨時代理による処理の承認について
- (5) 教科用図書選定審議会委員の任命について
- (6) 令和6年度教育庁職員（課室長以上・教育事務所長）及び教育機関の長（教員系）の人事について
- (7) 令和6年度市町村公立学校長の人事について
- (8) 令和6年度県立学校長の人事について

○ 報告事項

- (1) 令和6年度教育庁及び教育機関の主要職員（教員系）の人事について
- (2) 令和6年度市町村公立学校副校長及び教頭の人事について
- (3) 令和6年度県立学校副校長及び教頭の人事について
- (4) 令和7年度福島県公立学校教員採用候補者選考試験について

3月定例会 (R6. 3. 22)

○ 審議事項

- (1) 令和6年度学びの変革推進プランについて
- (2) 福島県教育委員会文書等管理規則の一部を改正する規則について
- (3) 福島県教育庁組織規則の一部を改正する規則について
- (4) 福島県指定重要文化財の指定について
- (5) 教職員の懲戒処分について
- (6) 教職員の懲戒処分について
- (7) 教職員の懲戒処分について
- (8) 教職員の懲戒処分に関する基準について
- (9) 懲戒処分の公表基準について
- (10) 令和6年度教育庁職員（課室長以上・教育事務所長）及び教育機関の長の人事について
- (11) 令和6年度市町村公立学校長の人事について
- (12) 令和6年度県立学校長の人事について
- (13) 教育長臨時代理による処理の承認について
- (14) 教職員の懲戒処分について
- (15) 退職手当の支給制限について

○ 報告事項

- (1) 令和6年度教育庁及び教育機関の職員の人事について
- (2) 令和6年度市町村公立学校教職員の人事について
- (3) 令和6年度県立学校教職員の人事について
- (4) 訓告処分等について

第2節 教育庁組織

理事兼政策監 菅野 崇
 教育次長（業務） 平澤 洋介
 県立高校改革監 佐藤 隆広
 教育庁参事（人事・企画） 関場 智彦

課室名	職名	課長等名
教育総務課	課長 庁主幹兼副課長 庁企画主幹兼副課長	堀家 健一 佐藤 保良 吉田 洋子
財務課	課長 主幹兼副課長	松山 政行 長谷部 哲晃
施設財産室	室長 主幹	原 哲朗 木元 正幸
職員課	課長 主幹兼副課長 主幹	佐藤 敏行 高橋 敏幸 渡邊 耕史
福利課	課長 主幹兼副課長	市川 新吾 高橋 美恵子
社会教育課	課長 主幹兼副課長 主幹	鈴木 正和 佐藤 浩幸 小林 雄
文化財課	課長	平山 茂樹
義務教育課	課長 主幹兼副課長 主幹 主幹	川井 孝寿 大橋 直利 遠藤 裕一 橋本 美弥子
高校教育課	課長 主幹兼副課長 主幹 主幹	箱崎 兼一 白井 定喜 太田 隆明 柳橋 幸裕
県立高校改革室	室長 主幹	中野 正人 大内 昭吾
特別支援教育課	課長 主幹兼副課長 主幹	根本 健一 和知 学 千葉 茂
健康教育課	課長 主幹兼副課長 主幹	鈴木 哲 山口 祥枝 木幡 健

教育事務所

教育事務所	所長・次長名	課長名
県北	所長 原 孝行 次長(総) 高橋 正敏 次長(業) 梅宮 賢	総務社会教育(兼) 高橋 正敏 学校教育(兼) 梅宮 賢
県中	所長 齋藤 仁道 次長(総) 関 拓也 次長(業) 酒井 宏尚	総務社会教育(兼) 関 拓也 学校教育(兼) 酒井 宏尚
県南	所長 笠原 聡美 次長(総) 菅野 孝雄 次長(業) 大竹 孝喜	総務社会教育(兼) 菅野 孝雄 学校教育(兼) 大竹 孝喜
会津	所長 吉川 武彦 次長(総) 後藤 竜也 次長(業) 五十嵐博也	総務社会教育(兼) 後藤 竜也 学校教育(兼) 五十嵐博也
南会津	所長 平山 明裕 次長(総) 本多 智洋 次長(業) 稲本 泰彦	総務社会教育(兼) 本多 智洋 学校教育(兼) 稲本 泰彦
相双	所長 武口 隆行 次長(総) 滝本 裕彦 次長(業) 山本 秀和	総務社会教育(兼) 滝本 裕彦 学校教育(兼) 山本 秀和
いわき	所長 佐藤 公一 次長(総) 星 明彦 次長(業) 渡辺 貴生	総務社会教育(兼) 星 明彦 学校教育(兼) 渡辺 貴生

所管教育機関等

教育機関名	所館長名	次長等名
福島県教育センター	佐藤 敏宏	次長 宍戸 喜孝 総務管理部長(兼) 宍戸 喜孝 研究・研修部長 小川 和英
福島県特別支援教育センター	五十嵐登美	主幹兼事務長 高澤 次郎 企画事業部長 橋本 勉
福島県立図書館	石本 仁	副館長 佐藤 尚美
福島県立美術館	根本 和代	副館長心得 増淵 鏡子
福島県立博物館	川名 義則	副館長心得 高橋 充

第3節 企画調整

1 教職員現職教育計画の策定

(1) 福島県公立学校教職員現職教育計画

教職員現職教育担当者会議を開催し、令和6年度の教職員研修計画及び研究学校(地区)指定計画について、策定に関する協議や関係課・所間の調整を行い、「福島県公立学校教職員現職教育計画」を策定した。

(2) 策定計画

回	開催期日	会議の場所	議事及び協議の概要
第1回	5.6.14	正庁	<ul style="list-style-type: none"> ○「令和6年度教職員現職教育計画」作成方針について ○「令和6年度教職員現職教育計画」作成に当たっての具体的計画案及び検討事項について ○「令和6年度教職員現職教育計画」作成関係日程について
第2回	5.9.4	教育委員室	<ul style="list-style-type: none"> ○「令和6年度教職員現職教育計画」作成に当たっての具体的計画案及び検討事項について ○第1回会議からの継続協議事項について ○「令和6年度教職員現職教育計画」作成日程について

(3) 構成員

教育総務課

企画主幹兼副課長、主任主査、管理主事

社会教育課

主幹、主任社会教育主事、社会教育主事

義務教育課

課長、主幹、主任管理主事、主任指導主事、管理主事、指導主事

健康教育課

主幹、主任指導主事、指導主事

特別支援教育課

主幹兼副課長、主任管理主事、主任指導主事、管理主事、指導主事

高校教育課

課長、主幹、主任管理主事、主任指導主事、管理主事、指導主事

教育センター

研究・研修部長、主任指導主事、指導主事

特別支援教育センター

企画事業部長、主任指導主事

2 調整事務

(1) 教育庁内企画・調整事務

- ア 総合教育計画に関する連絡調整
- イ 県教委重点施策に関する連絡調整
- ウ 県教委点検・評価に関する連絡調整
- エ 県重点事業に関する連絡調整
- オ 県重点施策評価に関する連絡調整
- カ 政府予算対策に関する連絡調整
- キ 双葉地区教育構想に関する連絡調整

(2) 知事部局との調整事務

- ア 総務部
 - 行財政改革推進本部、総合教育会議、内部統制推進本部会議
- イ 危機管理部
 - 安全で安心な県づくり推進連絡会議、国土強靱化地域計画推進連絡会議
- ウ 企画調整部
 - 県総合計画・復興計画関係、施策評価関係、県重点事業関係、政府予算対策活動関係、過疎・中山間地域経営戦略本部会議、デジタル社会形成推進本部会議、政策調整会議、企画推進室員会議、新生ふくしま復興推進本部会議、福島イノベーション・コースト構想推進本部会議、地産地消推進会議、地域創生・人口減少対策本部会議、復興対策推進プロジェクトチーム、風評・風化プロジェクトチーム
- エ 生活環境部
 - ユニバーサルデザイン推進本部会議、環境影響評価庁内連絡会議、循環型社会形成庁内推進会議、環境・エネルギー施策推進庁内連絡会議、ふくしまカーボンニュートラル実現会議
- オ 保健福祉部
 - 障がい者施策推進会議、福島県自立支援協議会、子育て支援推進本部会議
- カ 商工労働部
 - 商業まちづくり推進調整会議
- キ 農林水産部
 - ふくしま植樹祭実行委員会、ふくしま県産材利用推進会議
- ク 警察本部
 - 福島県被害者等支援連絡協議会

第4節 広報・広聴

1 教育委員会だより

(1) 編集方針

教育庁の新陣容や教育行政の諸領域の中から広報を要する事項及び教職員に周知させる必要のあるものを掲載し、教育委員会施策の徹底を図る。

(2) 内容

県教育委員会重点施策、県教育委員会所管予算、県教育委員名簿・県教育庁新陣容、県教育庁の組織及び電話番号一覧

(3) 規格・部数

ア 規格 A4判 4ページ

イ 部数 3,750部

(4) 配布対象

市町村教育委員会、県内公立学校、私立団体連合会、各教育関係機関、北海道・東北各県教育委員会等

(5) 発行時期

4月に発行

2 教育年報

(1) 編集方針

令和4年度の県教育行政の成果を記録し、将来に残る公的記録として保存する。

(2) 内容

令和4年度の本県教育行政の実績

(3) 規格・部数

ア 規格 A4判 226ページ

イ 部数 140部

(4) 配布対象

市町村教育委員会、各教育関係機関

3 福島県の教育

(1) 編集方針

本県教育の実績と教育行政の要点を図式化して掲載し、教育庁への来訪者等に配布し、本県教育に対する理解を図る。

(2) 内容

本県教育の実情及び教育行政の要点

(3) 規格・部数

ア 規格 A4判 8ページ カラー

イ 部数 810部

(4) 配布対象

教育機関への来訪者、市町村教育委員会、県内公立学校、各教育関係機関、各都道府県教育委員会等

4 ふくしま教育ニュース

(1) 編集方針

県教育委員会の教育行政施策、実績等を県民、特に保護者を対象として伝えることにより、本県教育に対する理解を図る。7月・11月の年2回発行した。

(2) 内容

ア 第60号(7月発行)

「学びの変革」実現のためのストラテジー

福島県教育委員会公式noteサイト開設

「学びの変革」実現戦略

「学校の在り方の変革」実現戦略

視覚支援学校幼稚部を開設

ふくしまっ子ごはんコンテスト

ふくしまを十七字で奏でよう絆ふれあい支援事業募集

中学生・高校生の科学・技術研究論文「野口英世賞」募集

中学生・高校生の国際理解・国際交流論文「朝河貫一賞」募集

「モラル・エッセイ」コンテスト募集

ふくしま子どもSNS相談

ダイヤルSOS等相談窓口のお知らせ

イ 第61号(11月発行)

「学びの変革」実現のためのストラテジー

不登校児童生徒支援センター(通称roomF)

「県庁にみんなの声を届けよう!」プロジェクト

福島県算数・数学ジュニアオリンピック

2023ひかる活躍ふたば未来学園中学校・高等学校

科学の甲子園ジュニア福島県大会

第11回特別支援学校作業技能大会

令和5年度ふくしま高校生社会貢献活動コンテスト

福島県教育委員会公式note

令和5年度教育フォーラム開催

福島県立博物館冬の企画展「古い道具と昔のくらし」

福島県立美術館「美術館への年賀状展」

福島県立図書館「ようこそ!本の森へ」

ダイヤルSOS等相談窓口のお知らせ

(3) 規格・部数

ア 規格 A4判 4ページ カラー

イ 部数 第60号 217,000部

第61号 210,500部

(4) 配布対象

県内公立学校の全保護者、県外に避難している児童生徒の保護者、私立幼稚園及び小・中・高等学校、市町村教育委員会、各教育関係機関等

5 教育庁各課・所・館の広報誌・紙

課・所・館名	広報誌・紙名	内 容	発行回数	判	ページ	発行部数	配 布 対 象
教育総務課	福島県の教育	本県教育の実情及び教育行政の要点を図式化して表示	1	A 4	8	810	教育機関への来訪者、教育関係機関等
	教育委員会だより	県教育長あいさつ、教育施策及び予算、県教育委員名簿、県教育庁新陣容、組織及び電話番号	1	A 4	4	3,750	県内公立学校、私学団体連合会、教育関係機関等
	教育年報	前年度の県教育行政の実績	1	A 4	218	140	市町村教委、教育関係機関等
	ふくしま教育ニュース	県教育委員会の教育行政施策、実績、事業のお知らせ等	2	A 4	4	第 60 号 217,000 第 61 号 210,500	県内公立学校の全保護者・教職員、教育関係機関等
	「県庁にみんなの声を届けよう！」チラシ	イベント内容の広報	1	A 4	1	7,000	市町村教育委員会、県北地区小学校 5・6 年生全員、県内公立小学校等
福利課	ふくしま福利だより	教職員の福利・厚生事業の紹介等	4	A 4	217・218 号 16 219・220 号 12	各 23,500	全教職員
義務教育課	夜間中学	夜間中学ニーズ調査用	1	A 4 A 2	1	15,000 500	
	夜間中学	県内夜間中学セミナー周知広報用	1	A 4	1	15,000	
	教員採用	教員採用を周知する広報用（web でも発信）	1	A 4	1	1,400	
改革室 県立高校	県立安積中学校（仮）開校に向けた広報活動	開校に向けた学校説明・紹介を説明会で参加者に配付及び県内全小学校へ配布（WEB でも発信）	1	A 3 三つ折り	1	30,000	学校説明会参加者、県内全小学校
特別支援教育課	第 11 回作業技能大会チラシ	作業大会の日時、会場、大会の種目や過去の大会の様子、参加校等の紹介	1	A 4 版	1	400	
	第 11 回作業大会ポスター	作業大会の日時、会場、大会の種目や過去の大会の様子、参加校等の紹介	1	A 2	1	250	
	就労支援リーフレット	企業、事業主向けの理解啓発、特別支援学校の就労に向けた学習や作業実習、実際の就職先等の情報発信	1	A 4	4	1,500	
健康教育課	子どもが作る地場産物活用健康レシピ	「ふくしまっ子ごはんコンテスト」で最優秀賞を獲得した作品を掲載	1	A 4	2	145,000	学校、福島県食育応援企業団
	元気大賞BOOK	各校での体力向上に向けた取組の紹介	1	A 4	74	850	学校、関係機関
	なわとびコンテストチラシ	なわとびコンテストの内容等の周知	1	A 4	1	8,000	学校、関係機関
センター 教育セ	研究紀要	研究及び教育調査の結果、教科指導、情報教育、教育相談の在り方等についてのまとめ	1	A 4	86	1,000	教育機関

課・所・館名	広報誌・紙名	内 容	発行回数	判	ページ	発行部数	配 布 対 象
特別支援教育センター	要覧	本所の沿革、事業内容、研修講座名、職員分掌等（所内印刷）	1	A 4	15	60	特別支援学校、関係機関等
	リーフレット発行	本所の場所、事業内容、研修講座名等の理解啓発（所内印刷）	1	A 5	1	350	来所者、特別支援学校、関係機関等
	研究紀要第37号	令和5年度教育研究・プロジェクト研究のまとめ及び長期研究員研究報告（文書法務課印刷）	1	A 4	62	120	関係機関等
	所報「特別支援教育76号」発行	令和5年度の事業の取組や特別支援教育に関する動向等のまとめ（文書法務課印刷）	1	A 4	30	200	関係機関等
図書館	館報あづま	県立図書館が取り組んでいる事業内容の報告	1	A 4	6	紙媒体 67 HPに掲載	
	図書館だより	県立図書館の資料紹介や行事案内等	6	A 4	2	紙媒体 100 HPに掲載	
	お役に立ちます県立図書館	県・市町村職員への図書館利用案内	1	A 3	2	5,000	
美術館	美術館ニュース	企画展等の事業計画について2ヶ月ごとに取りまとめ。	6	A 4版 三つ折り	1	各 11,000	小・中・高校および公民館等
	ミュージアムカレンダー	令和6年度の事業計画を取りまとめ。	1	A 4版 四つ折り	1	33,000	学校、公民館、観光施設等
博物館	なじよな	季刊発行で博物館の情報をまとめた広報誌	5	A 2 四つ折り	1	各 20,000	県内の学校・公民館・文化施設・図書館および県外文化施設等
	令和年6度年間催し物案内	令和6年度開催の展覧会情報	1	220mm× 400mm 観音折り	1	45,000	県内の学校・公民館・文化施設・図書館および県外文化施設等
	企画展ポスター	企画展の内容を紹介するポスター	3	B 2	1	7,600	県内の学校・公民館・文化施設・図書館および県外文化施設等
	企画展リーフレット	企画展の内容を紹介するリーフレット	3	A 4	1	139,000	県内の学校・公民館・文化施設・図書館および県外文化施設等
文化財センター白河館	まほろん通信	資料紹介、催し物案内、活動状況等を取りまとめ。	4	A 4	4	4,000	県内の学校や県内外の教育機関・文化施設等
自然の家	施設・企画事業案内	施設の特徴・概要、利用案内（費用等）、活動プログラム、施設案内・交通案内	22	A 4版	2	584,232	学校、公民館および関係各所等に配付
	パンフレット (会津・いわき)	施設の特徴・概要、利用案内（費用等）、活動プログラム、施設案内・交通案内	1	A 4版 カラー 4ページ	4	2,500	学校、公民館および関係各所等
	しおね (いわき)	毎年度の利用状況や企画事業の予定・報告書	1	A 4版	6	1,900	小中学校・行政機関等

(2) Webによる広報活動

課所館	広報誌・紙名等	内 容	発行回数
教育総務課	ふくしま教育通信	福島県教育委員会の情報発信	12
職員課	職員課ホームページ	教職員働き方改革アクションプランの掲載、女性教職員活躍推進だより、優秀教職員・若手教職員実践事例集の紹介	随時
社会教育課	機関誌「社会教育」	社会教育に関する情報・活動状況等	1
義務教育課	福島県算数・数学ジュニア・参加募集(ちらし)オリンピック	事業の紹介及び申し込み方法について	1
県立高校改革室	郡山高等学校の探究科への学科改編に向けた広報活動	noteによる発信	2
教育センター	所報ふくしま「窓」	教育関係者の提言や県内教員等の教育研究等についての紹介を教育センターホームページにて配信する。	2
	教育相談コーディネーターを中心としたチーム学校での先手型の教育相談を推進するため	教育相談コーディネーターの役割、校内教育相談体制とマネジメント、先手型教育相談の事例とその成果等について配信する。	1
特別支援教育センター	ホームページ	研修講座案内及び報告、刊行物・図書を紹介(目標値年間10000view)	随時
図書館	福島県立図書館要覧	県立図書館の概要と前年度の実績等を掲載	1
	ホームページ	展示、イベント情報、調べ方案内等、図書館関連情報を随時更新	随時
美術館	ホームページ	企画展等の事業計画を取りまとめ、随時掲載	随時
郡山自然の家	ホームページ	申請書・利用の手引き等企画事業の参加募集・実施結果・ボランティア募集・活動状況紹介、食堂メニューの紹介他	随時
会津自然の家	ホームページ	申請書・利用の手引き等企画事業の参加募集・実施結果・ボランティア募集・活動状況紹介、食堂メニューの紹介他	随時
いわき海浜自然の家	ホームページ	申請書・利用の手引き等企画事業の参加募集・実施結果・ボランティア募集・活動状況紹介、食堂メニュー紹介 他	随時

(3) その他SNSによる広報活動

課所館	SNSの種類	内 容
美術館	X, Instagram	主催事業に関する情報
博物館	Facebook, X	企画展、テーマ展、ポイント展、イベント等の開催告知等
	YouTube	展示解説、講座に関する動画
郡山自然の家	Facebook, Instagram, X	企画事業の情報発信など
	YouTube	活動プログラムや利用上の注意
会津自然の家	Facebook, Instagram, X	主催事業の実施報告、日々の情報発信など
	YouTube	施設利用の説明動画、および企画事業内容プロモーション
いわき海浜自然の家	Facebook, Instagram, X	企画事業の情報発信など
	YouTube	利用方法・活動プログラム

6 記者発表及び資料提供(投げ込み)件数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
記者発表	-	-	1	-	-	-	-	1	1	-	-	1	4
資料提供	47	16	25	21	18	21	43	34	32	32	31	32	352

7 教育フォーラム

(1) タイトル

令和5年度教育フォーラム 魅力ある学校への変革

(2) 主催

福島県教育委員会

(3) 目的

令和4年度から第7次福島県総合教育計画を開始し、個別最適化された学び、協働的な学び、探究的な学びへ転換をする「学びの変革」と、その実現のための環境づくりとしての「学校の在り方の変革」についての行動計画を示し、取り組んでいる。そこで本フォーラムでは、「学校の在り方の変革」を実践している各学校の実践報告をとおして、学校現場における「魅力ある学校への変革」をより一層進め、第7次福島県総合教育計画の推進について展望する機会とするために実施した。

(4) 開催日時

令和5年12月22日（金）13:30～15:30

(5) 会場

教育委員室及び各学校等

(6) 開催形態

意見発表者による発表・質疑応答

※ハイブリッド開催（対面・オンライン）

(7) 実践報告

- ア おおたま学園コミュニティ・スクール
「複数の学校運営協議会を連携させた組織」
～コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の連携を通じた取組～
- イ 県立磐城桜が丘高等学校
「教育コース」を軸とした学校アイデンティティの再構築
- ウ 県立会津支援学校
「学びの変革と学校の在り方の変革、特別支援教育の理念を推進するための本校の取組」

(8) 出席者

- ア 実践報告発表校 3校
おおたま学園コミュニティ・スクール委員会
矢吹 吉信（会長）
県立磐城桜が丘高等学校
渡邊 学（校長）
県立会津支援学校
加藤 香洋（校長）
西尾 祥子（県立博物館 主任学芸員）
- イ アドバイザー 2名
青砥 和希
東日本大震災・原子力災害伝承館 常任研究員
（一社）未来の準備室 理事長
福島県学びの変革推進アドバイザー
長谷川 勇紀
（一財）地域・教育魅力化プラットフォームディレクター
福島県学びの変革推進アドバイザー

- ウ 福島県教育委員会 10名 他
大沼 博文（県教育委員会教育長）
吉津 健三（県教育委員会委員）
高橋 理里子（県教育委員会委員）
成澤 勝蔵（県教育委員会委員）
正木 好男（県教育委員会委員）
大村 雅恵（県教育委員会委員）
菅野 崇（理事兼政策監）
平澤 洋介（教育次長）
関場 智彦（教育庁参事）
堀家 健一（教育総務課長）

エ 傍聴者 県内外から56名 他

※学校代表者が申し込み、教職員複数での参加あり

8 「ふくしま教育の日」啓発推進事業

県民の教育に対する理解、関心を高め、学校教育、社会教育及び文化の充実、発展を期するため、平成15年3月にふくしま教育の日条例を制定し、ふくしま教育の日（11月1日）及びふくしま教育週間（11月1日～7日）を設けている。当該期間を含むその前後の期間において「教育の日」の趣旨にふさわしい取組が実施されるよう、市町村や関係機関に働きかけた。

9 「県庁に みんなの声を 届けよう！」プロジェクト

子どもたちが県政に対する関心をもち、ふくしまの未来の担い手としての意識を高めることを目的として実施している。令和5年度は、子どもたちが危機管理センターを見学することで、災害から身を守り、安全・安心に暮らすことについて自分事として考えた。さらに、福島に移住した方から「ふくしまぐらし」の実際について話を聞くことにより、福島県で暮らすことについて理解を深め、「ふくしまぐらし」について知事や教育長等の前で発表することで、県政に子どもが参画する機会とした。

(1) テーマ

わたしにとっての「ふくしまぐらし。」
～ふくしまの魅力とこれからのふくしま～

(2) 主催 福島県教育委員会

(3) 開催日時 令和5年8月2日（水）13:00～16:20

(4) 会場 福島県庁 北庁舎 危機管理センター

(5) 参加者

小学5・6年生や引率者など20名 他

(6) 内容

- ア 県庁内の見学（危機管理センター）
- イ 意見発表①（グループワーク）
- ウ 意見発表②（知事・教育長等の前で発表、質疑応答）
- エ 知事講評
- オ 修了式

第5節 調査統計

令和5年度において実施した調査統計事業は、次のとおりである。

1 地方教育費調査（一般統計）

この調査は、令和4会計年度において、学校教育、社会教育、生涯学習関連における県及び市町村（教育事務組合を含む。）から支出された経費並びに授業料等の収入実態及び地方教育行政機関の組織等の状況を明らかにし、教育諸施策を検討・立案するための基礎資料を得ることを目的として文部科学省が実施したものである。

2 学校教員統計調査（基幹統計）

この調査は、学校の教員構成並びに教員の個人属性、職務態様及び異動状況等を明らかにすることを目的とする調査である。

3 進路状況等に関する調査

この調査は、中学校、義務教育学校及び高等学校生徒の進路希望及び卒業後の状況を調査し、進路指導及び高等学校の適正配置計画並びに課程・学科等の整備計画の基礎資料を得ることを目的とした県単独調査である。

第6節 教職員の給与

令和5年度の教職員の給与改定については、令和5年10月3日の県人事委員会給与勧告に基づき、給与月額及び諸手当について、令和5年12月県議会及び令和6年2月県議会定例会等において、給与条例の一部改正が提案され、議決・公布された。その概要は、次のとおりである。

1 給料関係

(1) 給料月額（令和5年4月1日適用）

全ての給料表において、初任給を中心に若年層に重点を置いて給料月額が引き上げられた。

(2) 給料の調整額（令和5年4月1日適用）

給料月額の改定に伴い、一部の調整基本額が改められた。

(3) 昇格時号給対応表（令和5年4月1日適用）

給料表の改定に伴い、昇格時号給対応表の一部が改められた。

(4) 降格時号給対応表（令和5年4月1日適用）

給料表の改定に伴い、降格時号給対応表の一部が改められた。

(5) 定年延長に伴う給与措置（令和5年4月1日適用）

定年年齢の引上げに伴い、当分の間60歳超職員の給与が7割水準となった。

2 諸手当関係

(1) 通勤手当（令和6年4月1日適用）

自動車等交通用具使用者の手当額が次のとおり改められた。

片道の 自動車等の 使用距離	手当額	
	自動車	自動車以外の原動 機付きの交通用具
2km以上 4km未満	3,000円	2,000円
4km以上 6km未満	4,500円	2,300円
6km以上 8km未満	5,900円	3,000円
8km以上 10km未満	7,400円	3,700円
10km以上 12km未満	8,900円	4,500円
12km以上 14km未満	10,400円	5,200円
14km以上 16km未満	11,900円	6,000円
16km以上 18km未満	13,400円	6,700円
18km以上 20km未満	14,900円	7,500円
20km以上 22km未満	16,400円	8,200円
22km以上 24km未満	17,900円	9,000円
24km以上 26km未満	19,400円	9,700円
26km以上 28km未満	20,900円	10,500円
28km以上 30km未満	22,400円	11,200円
30km以上 32km未満	23,900円	12,000円
32km以上 34km未満	25,400円	12,700円
34km以上 36km未満	26,900円	13,500円
36km以上 38km未満	28,400円	14,200円
38km以上 40km未満	29,800円	14,900円
40km以上 45km未満	33,400円	16,700円
45km以上 50km未満	36,600円	18,300円
50km以上 55km未満	40,000円	20,000円
55km以上 60km未満	43,100円	21,600円
60km以上 65km未満	45,900円	23,000円
65km以上 70km未満	49,400円	24,700円
70km以上 75km未満	52,900円	26,500円
75km以上 80km未満	56,400円	28,200円
80km以上 85km未満	60,000円	30,000円
85km以上 90km未満	63,500円	31,800円
90km以上 95km未満	67,000円	33,500円
95km以上	70,600円	35,300円

(2) 期末・勤勉手当（令和5年12月1日適用）

支給割合が次のとおり改められた。

◎一般職員

	区分	年間支給割合			
		6月期	12月期	計	
改正前	期末手当	1.20ヶ月	1.20ヶ月	2.40ヶ月	
	勤勉手当	0.975ヶ月	0.975ヶ月	1.95ヶ月	4.35ヶ月
改正後 (5年度)	期末手当	1.20ヶ月	1.25ヶ月	2.45ヶ月	
	勤勉手当	0.975ヶ月	1.025ヶ月	2.00ヶ月	4.45ヶ月
(6年度)	期末手当	1.225ヶ月	1.225ヶ月	2.45ヶ月	
	勤勉手当	1.00ヶ月	1.00ヶ月	2.00ヶ月	4.45ヶ月

◎特定幹部職員

	区分	6月期	12月期	年間支給割合	
改正前	期末手当	1.00ヶ月	1.00ヶ月	2.00ヶ月	計
	勤勉手当	1.175ヶ月	1.175ヶ月	2.35ヶ月	4.35ヶ月
改正後 (5年度)	期末手当	1.00ヶ月	1.05ヶ月	2.05ヶ月	計
	勤勉手当	1.175ヶ月	1.225ヶ月	2.40ヶ月	4.45ヶ月
(6年度)	期末手当	1.025ヶ月	1.025ヶ月	2.05ヶ月	計
	勤勉手当	1.20ヶ月	1.20ヶ月	2.40ヶ月	4.45ヶ月

(3) 特殊勤務手当（令和6年4月1日適用）

公立夜間中学校の開校に伴い、夜間学級を設置する中学校または義務教育学校に勤務する教育職員を支給対象とした夜間学級担当手当を新設。

区 分	手当額
夜間学級に関する業務と して従事する教 育職員	校長、教頭、教諭、養護教諭等 日額 1,100円
	講師、養護助教諭等 日額 800円

第7節 附属機関等

1 福島県社会教育委員の会議

根拠法令

社会教育法（昭和24年法律第207号）第15条並びに福島県社会教育委員の委嘱の基準、定数及び任期に関する条例（昭和24年福島県条例第56条）

目的

社会教育に関する諸計画を立案するとともに教育委員会の諮問に応じ、意見を述べたり必要な研究調査を行ったりし、社会教育に関して教育長を経て教育委員会に助言する。

(1) 福島県社会教育委員

任期 令和4年6月20日～令和6年6月19日

区分	氏名	役職名	備考
学校教育関係者	菅家 篤	小学校長会（磐梯町立磐梯第一小学校長）	
	土屋 好二	中学校長会（西郷村立西郷第一中学校長）	
	郡司 完	高等学校長協会（福島県立ふたば未来学園高等学校長）	
	加藤 香洋	特別支援学校長会（福島県立会津支援学校長）	令和5年5月20日～
社会教育関係団体の関係者	國井 政範	福島県公民館連絡協議会会長（いわき中央公民館長）	
	中島 功	福島県市町村社会教育委員連絡協議会（同顧問）	
	佐藤 裕子	福島県PTA連合会（同研修委員会委員長）	
	江川 純子	福島県婦人団体連合会（同評議員）	
	山岸 敦子	ガールスカウト福島県連盟（同監事）	
	佐藤 靖弘	（公財）福島県総合型スポーツクラブ連絡協議会（同幹事長）	
家庭教育関係者	吉川 和夫	（公財）郡山市ふれあい科学館（特定事業専門員）	副議長
学識関係者	木暮 照正	福島大学地域未来デザインセンター教授	議長
	瀬谷真理子	郡山女子大学家政学部生活科学科准教授	
	本多 環	福島大学客員教授	
公募	千葉登美子	NPO法人ふくしま震災孤児・遺児をみまもる会（同相談員）	
	須藤 基子	鏡石町教育委員会学校教育相談員、社会福祉士	

(2) 定例会の開催

ア 第1回定例会

(ア) 日時 令和5年7月5日(水) 本庁舎5階 正庁

(イ) 内容

- a 辞令交付
- b 報告事項
令和5年度社会教育に関する主要施策・事業及び進捗状況について
- c 審議事項
本県における社会教育推進の在り方について

イ 第2回定例会

(ア) 日時 令和6年2月29日(木)

自治会館3階 大会議室

(イ) 内容

- a 報告事項
令和5年度社会教育関係事業報告について
令和6年度社会教育関係主要施策・事業（案）について
- b 審議事項
本県における社会教育の在り方について

2 福島県文化財保護審議会

(1) 福島県文化財保護審議会委員

任期 令和5年4月1日～令和7年3月31日

氏名	所属等	担当分野	備考
阿部 俊夫	(元)郡山女子大学短期大学部准教授・地方史研究協議会	古文書・歴史資料	副会長
荒木 志伸	山形大学基盤教育院教授・東北史学会・日本考古学協会	考古資料・史跡・埋蔵文化財	
歌川 史哲	いわき市アンモナイトセンター研究員・日本古生物学会 日本地質学会	天然記念物(地質鉱物・古生物)	
遠藤 ゆり子	淑徳大学教授・東北史学会・日本古文書学会 東国戦国史研究会・地方史研究協議会・歴史学研究会	古文書(中世)・書跡・典籍	
狩野 勝重	(元)日本大学教授・工学博士・日本建築学会・ 伝統建築文化推進協議会・文化財景観保全調査室(個人事務所)	建造物・伝統的建造物群	
佐藤 琴	山形大学学術研究院准教授・美術史学会・国際浮世絵学会	絵画	
鈴木 俊行	公益財団法人福島県都市公園・緑化協会福島空港公園事務所長・ 樹木医学会・日本造園学会・日本桜学会	天然記念物(植物)	会長
高橋 あけみ	(元)仙台市博物館副館長・美術史学会・漆工史学会 ・茶の湯文化学会	工芸品・染織	
竹原 明秀	岩手大学教授・日本生態学会・植生学会・日本植物学会	天然記念物(植生)	
丹野 香須美	東北福祉大学兼任講師・いわき市文化財保護審議会委員・ 広野町文化財保護審議会委員・日本民俗学会・ 日本社会科教育学会・福島県民俗学会	有・無形民俗文化財	
辻 秀人	東北学院大学教授・日本考古学協会・福島県考古学会・ 全日本博物館学会	考古資料・史跡・埋蔵文化財	
塘 忠頭	福島大学教授・日本動物学会・日本昆虫学会・日本発生物学会	天然記念物(動物)	
藤井 英二郎	千葉大学名誉教授・日本庭園学会・日本造園学会	史跡・名勝(庭園)	
守谷 早苗	東北史学会・国史談話会・福島県史学会	歴史資料	
若林 繁	(元)東京家政大学教授・美術史学会	彫刻	

(2) 会議

ア 第1回審議会

(ア) 期日 令和5年9月1日(金)

(イ) 場所 福島県庁本庁舎4階 401会議室

(ウ) 内容

- a 福島県指定文化財候補諮問案件等の審議
- b 報告事項

イ 第2回審議会

(ア) 期日 令和6年2月2日(金)

(イ) 場所 福島県庁西庁舎5階 教育委員室

(ウ) 内容

- a 福島県指定文化財候補諮問案件等の審議
- b 新たな県指定文化財の候補について
- c 報告事項

第8節 市町村教育委員会

1 概要

本県の市町村教育委員会数は、令和5年5月1日現在、13市46町村1組合の計60である。

県教育委員会は、市町村教育委員会連絡協議会、都市教育長協議会、町村教育長協議会等との密接な連絡、連携のもとに、教育行政の適正な事務の執行と管理に努めている。

2 組織

令和5年5月1日現在、県内各市町村教育委員会の委員長及び教育長は次のとおりである。

教育委員会名	職務代理者	教育長			
県北(8)			会津(13)		
福島市	渡邊慎太郎	佐藤 秀美	会津若松市	林 健幸	寺木 誠伸
伊達郡川俣町	高橋 友憲	佐久間裕晴	耶麻郡磐梯町	鈴木 修一	高梨 哲夫
伊達市	関根 勝富	菅野 善昌	耶麻郡猪苗代町	渡部由起子	宇南山忠明
伊達郡桑折町	柴田 宣広	会田 智康	喜多方市	遠藤 一幸	佐川 正人
伊達郡国見町	高橋 幸子	菊地 弘美	耶麻郡北塩原村	五十嵐房子	石本 浩一
二本松市	佐藤 英之	丹野 学	耶麻郡西会津町	高橋 誠	五十嵐正彦
安達郡大玉村	齋藤雄一郎	渡辺 敏弘	河沼郡会津坂下町	桑原 里美	鈴木 茂雄
本宮市	谷 明子	松井 義孝	河沼郡湯川村	遠藤 弘	佐原 健一
県中(12)			河沼郡柳津町	鈴木 礼	神田 順一
郡山市	阿部 亜巳	小野 義明	大沼郡会津美里町	小関れい子	歌川 哲由
須賀川市	阿部 昭光	森合 義衛	大沼郡三島町	五十嵐豊子	山口 浩
岩瀬郡鏡石町	添田 健男	渡部 修一	大沼郡金山町	渡部 佳恵	滝沢 敬樹
岩瀬郡天栄村	小針 克彦	長場 壮夫	大沼郡昭和村	五十嵐麻裕子	栗村 良輔
石川郡石川町	瀬谷 玲子	小玉 陽彦	南会津(5)		
石川郡玉川村	円谷 兼一	岡崎 寛人	南会津郡南会津町	河原田信弘	星 英雄
石川郡平田村	瀬谷ノブ子	有賀 真道	南会津郡下郷町	白石 光史	湯田 嘉朗
石川郡浅川町	江田 達徳	真田 秀男	南会津郡檜枝岐村	平野 公樹	平野 好道
石川郡古殿町	阿久津華子	渡邊 宏文	南会津郡只見町	渡部 欣也	渡部 公三
田村市	佐藤由香理	飯村 新市	南会津地方広域市町村圏組合	湯田 嘉朗	星 英雄
田村郡三春町	太田 文枝	添田 直彦	相双(12)		
田村郡小野町	間野 泰博	有賀 仁一	相馬郡新地町	高崎 義典	佐々木孝司
県南(9)			相馬市	宗形 明子	福地 憲司
白河市	高橋 顕	芳賀 祐司	南相馬市	渡辺 金作	大和田博行
西白河郡西郷村	勝又千賀子	秋山 充司	相馬郡飯館村	高橋 祐一	遠藤 哲
西白河郡中島村	高久 美央	面川 三雄	双葉郡浪江町	大清水久雄	笠井 淳一
西白河郡矢吹町	後藤さとみ	大杉 和規	双葉郡葛尾村	渡辺 政廣	松本 忠孝
西白河郡泉崎村	関谷 正文	鈴木 一正	双葉郡双葉町	山本眞理子	舘下 明夫
東白川郡棚倉町	益子 秀一	荒川 文雄	双葉郡大熊町	松岡 保夫	佐藤 由弘
東白川郡塙町	山本津也子	秦 公男	双葉郡富岡町	猪狩いづみ	岩崎 秀一
東白川郡矢祭町	佐川 幸信	菊池 篤志	双葉郡川内村	井出 裕子	堀本晋一郎
東白川郡鮫川村	阿久津光市	武藤 誠	双葉郡檜葉町	宇佐神正道	青木 洋
			双葉郡広野町	渡邊 昇	根本 良政
			いわき(1)		
			いわき市	馬目 順一	服部 樹理

3 令和5年度市町村教育委員会援助指導の概要

県教育委員会は、市町村教育委員会教育長会議、新任教育委員研修会を開催して助言指導を行うとともに、教育行政関係の諸資料等を配布して県内市町村教育委員会への援助に努めた。

(1) 令和5年度福島県市町村教育委員会教育長会議

- ア 主催 福島県教育委員会
- イ 期日 令和5年4月11日(火)
- ウ 会場 本庁舎5階 正庁
- エ 出席者 市町村教育委員会教育長 59名
- オ 内容
令和5年度教育庁各課(室)・所の重点施策の説明

(2) 令和5年度福島県市町村教育委員会新任教育委員研修会

- ア 主催 福島県市町村教育委員会連絡協議会
福島県教育委員会
- イ 期日 令和5年11月27日(月)
- ウ 会場 本庁舎5階 正庁
- エ 参加者 令和5年11月16日以降に就任された委員及び、それ以前に就任し未参加の委員23名
- オ 内容
 - 講話
 - ・演題 「教育委員に期待するもの」
 - ・講師 福島県教育委員会教育長 大沼 博文
 - 講話
 - ・演題 「教育委員に求められる構えと職責」
 - ・講師 元福島県市町村教育委員会連絡協議会副会長 藤田 克彦
 - 協議
 - ・協議題 「地域の教育課題及び教育委員にできること」
 - ・講師 福島県教育庁職員課管理主事 市川 知広

第9節 職員団体との話し合い

令和5年度における「福島県教職員組合」「福島県高等学校教職員組合」「福島県立高等学校教職員組合」「福島県学校事務労働組合」との話し合いのうち、主なものは次のとおりである。

1 福島県教職員組合

(1) 令和5年4月26日

- ア 一時金の支給引上げについて
- イ 年度途中任用者の手当支給について
- ウ 高速道路利用の「7日ルール」について
- エ 60歳超勤務職員の賃金水準の見直しについて
- オ 長時間労働の解消について
- カ 部活動の地域移行について
- キ スクールサポートスタッフの代替活用について
- ク 1学期始業日の設定について
- ケ 特別支援学級への非常勤講師配置について

(2) 令和5年11月8日

- ア 勤務労働条件変更の際の協議交渉の場の設定について
- イ 高齢者の雇用と年金の接続について
- ウ 教育現場における教員確保について

- エ 働き方改革に係る次期プランについて
- オ 部活動の地域移行について
- カ スクールサポートスタッフの配置について
- キ 家族看護休暇の創設について

(3) 令和5年11月20日

- ア 多忙化解消アクションプランⅡについて
- イ ふくしま学力調査について
- ウ 学校現場における人員の確保について
- エ 定年引上げに伴う主任主査の配置について
- オ 部活動の地域移行について
- カ スクールサポートスタッフの全校配置について
- キ 特別支援学級での少人数教育の実現について
- ク 小学校高学年における教科担任制について
- ケ 教員志願者を増やす手立てについて

2 福島県高等学校教職員組合

(1) 令和5年4月27日

- ア Wi-Fi環境の改善について
- イ 授業のデータベース化について
- ウ 人事評価制度について
- エ 在宅勤務について
- オ 会議や研修会の設定日について
- カ 自動採点システムについて
- キ ICT担当職員の業務分担について
- ク 校務支援システムの動作遅延について
- ケ 時差出勤について
- コ 特別支援学校の老朽化・教室不足について

(2) 令和5年11月9日

- ア 養護教諭の複数配置について
- イ スクールサポートスタッフの職務について
- ウ 冷暖房使用予算について
- エ 産業教育手当について
- オ 単身赴任手当の支給要件の改善について
- カ 特別支援学校における業務の効率化について
- キ 教員の舎監業務について

(3) 令和5年11月21日

- ア 寄宿舎の舎監業務について
- イ 部活動の在り方について
- ウ 自動採点システムの導入について
- エ ICT機器に関わる設定や年度末更新作業について
- オ 外部人材との連携について
- カ ICT環境整備を担当する教員の負担軽減について
- キ 老朽化した学校施設の改築促進について
- ク 通勤手当について
- ケ 情報の専科教員の継続的な採用について
- コ Microsoft Teamsアプリの導入について
- サ 県教委が定めた各種事業の指定校における多忙化解消について

3 福島県立高等学校教職員組合

(1) 令和5年4月27日

- ア ICT支援員の契約期間変更について
- イ スクールサポートスタッフについて
- ウ 一人一台端末について
- エ 給与格付けの向上について
- オ 定年引上げに係る情報提供について
- カ 常勤講師の年休引き継ぎについて
- キ 会計年度任用職員の病気休暇について
- ク 出産予定職員への対応について
- ケ 在校時間の上限規制への対応について
- コ 部活動の大会等の精選について

(2) 令和5年11月9日

- ア 事務用パソコンのスペックについて
- イ 部活動指導員の配置について
- ウ 多忙化解消の評価について
- エ 人事院勧告にとらわれない賃金引上げについて
- オ ICT支援員について
- カ 定年延長について
- キ 在校等時間の記録について

(3) 令和5年11月21日

- ア 会計年度任用職員の給与改定について
- イ 夏季休暇について
- ウ 時間外勤務時間の上限規則について
- エ 7校時を設置している学校の時間外労働について
- オ 標準授業持ち時数について
- カ 正確な勤務時間の把握について
- キ PTA等の時間外勤務の割り振りにについて
- ク インターバル勤務について
- ケ 振休取得者の出勤について
- コ 部活動指導員の配置について

4 福島県学校事務労働組合

(1) 令和5年4月26日

- ア 主任主査の人数について
- イ 公務貢献について
- ウ 高齢者部分休業について
- エ 高速道路利用の「7日ルール」について
- オ 短時間再任用職員の配置について
- カ 再任用職員の給与格付けについて
- キ 事務職員の職務範囲について
- ク 任期付き職員の配置状況について
- ケ 金融機関手続きの際の手数料について
- コ 学習旅行における諸費用について

(2) 令和5年11月8日

- ア 主任主査の昇任拡大について
- イ 60歳超の主任主査の位置づけについて
- ウ 命課による複数校勤務について
- エ 学校事務職員の行事等への派遣について
- オ 事務処理の簡素化について
- カ 学校事務職員採用年齢の上限引上げについて
- キ 定欠任期付職員の任用期間について
- ク 交渉に参加する際の職専免の取扱いについて
- ケ 特殊勤務手当について

(3) 令和5年11月20日

- ア 高齢者部分休業について
- イ 短時間再任用の希望者の職場の確保と働き方の選択肢について
- ウ 60歳超の主任主査の位置づけについて
- エ 多忙化解消について
- オ 採用年齢上限の引上げについて
- カ 学校給食費の公会計化について
- キ 経理等における現金の扱いと金融機関手数料について
- ク 命課による複数校勤務について

第10節 審査請求事件及び訴訟事件

1 審査請求事件

令和6年3月31日現在、審査請求事件として審理中のものは1件であり、その概要及び進行状況等は下表のとおりである。

請求事件名	請求年月日	請求の内容	請求者	備考
不利益処分取消請求事件	令4.6.10	令4.5.20付け懲戒処分についてその取消しを請求	公立学校 教員	審理中

2 訴訟事件

令和6年3月31日現在、訴訟事件として係属中のものは1件、令和5年度中に判決等があったものは1件であり、その概要及び進行状況等は下表のとおりである。

請求事件名	請求年月日	請求の内容	請求者	備考
安全な場所で教育を受ける権利の確認等請求控訴事件	令3.3.15	安全な場所で教育を受けることができる権利の確認等	県内住民 多数	令5.12.18判決 (全部勝訴)
損害賠償請求事件	令4.9.2	勤務校でのパワハラによる早期退職等の損害賠償を請求	元公立学校 教員	係属中

第 11 節 公益法人等の指導等並びに公益信託の状況

1 公益法人等

令和 6 年 3 月 31 日現在、県教育委員会の所管に属する公益法人等は 46 法人である。

各法人から事業報告書・収支決算書、事業計画書、収支予算書等の提出を求めた。

法人ごとの内訳は下表のとおり。

法人種別	所管する法人数	令和 5 年度に公益法人又は一般法人に移行した法人数
公益財団法人	25	0
公益社団法人	2	0
一般財団法人	16	0
一般社団法人	2	0
特例民法法人	1	0
計	46	0

2 公益信託

令和 6 年 3 月 31 日現在、県教育委員会の所管に属する公益信託は 3 件である。

なお、令和 5 年度新たに引き受けを許可した公益信託はない。

第 12 節 表彰及び叙勲

令和 5 年度教育・文化関係表彰式は、11 月 7 日(火)ビッグパレットふくしま、令和 6 年 2 月 1 日(木)杉妻会館において行われた。

また、文部科学大臣による地方教育行政功労者表彰式は、10 月 12 日(木)文部科学省講堂、また、教育者表彰式は 11 月 30 日(木)文部科学省講堂において行われた。

1 教育・文化関係表彰

(1) 地方教育行政功労者(5名)

(前)福島市教育委員会委員	佐藤 玲子
(前)伊達市教育委員会委員	菅野千恵子
(前)大玉村教育委員会委員	伊藤 忠和
西郷村教育委員会委員	勝又千賀子
(前)北塩原村教育委員会委員	斎藤 弘幸

(2) 学校教育功労者(15名)

福島市立福島第四中学校長	福地 裕之
郡山市立金透小学校長	近藤 静雄
郡山市立開成小学校長	橋本 一弥
郡山市立芳賀小学校長	増子 春夫
郡山市立郡山第一中学校長	宗形 俊二
会津若松市立城北小学校長	鈴木 基之
会津若松市立第一中学校長	高橋 伸明
いわき市立小名浜第一中学校長	鯨岡 寛泰
いわき市立勿来第一中学校長	丹野 英雄
福島県立福島明成高等学校長	安田 修久
福島県立安積高等学校長	鈴木 芳人
福島県立会津高等学校長	鈴木 義祐
福島県立会津農林高等学校長	佐藤 文男
福島県立磐城高等学校長	柳沼 英樹
福島県立視覚支援学校長	郷家 俊哉

(3) 社会教育関係

ア 社会教育功労者(4名)

日本ボーイスカウト福島連盟東北地区協議会長	本多 勉
一般財団法人福島県婦人団体連合会監事	齋藤 七重
(元)福島市町村社会教育委員連絡協議会副会長	嶋原 明壽
地域家庭教育推進南会津ブロック会議会長	渡部キヨ子

イ 功績顕著な団体・施設(2団体・3施設)

〈社会教育団体〉	喜多方市立松山小学校父母と教師の会
	いわき市立上遠野小学校 P T A
〈社会教育施設〉	
	川俣町中央公民館
	郡山市立桑野地域公民館
	相馬市東部公民館

(4) 文化財保護関係

ア 文化財保護功労者(1名)

福島県文化財保護審査会委員	阿部 俊夫
---------------	-------

イ 功績顕著な団体(1団体)

米沢千歳ザクラ保存会

(5) 学校体育・学校保健関係

ア 学校保健功労者(4名)

西白河郡泉崎村立泉崎第一小学校他 学校歯科医	赤沼 龍一
いわき市立小名浜東小学校 学校医	賀澤 秀雄
いわき市立泉中学校 学校医	今井 徹
福島県立白河高等学校 学校歯科医	五十嵐迪子

(6) へき地教育関係

ア へき地教育功労者(1名)

南会津郡下郷町立下郷中学校長	我妻雄比古
----------------	-------

イ 功績顕著な団体(2団体)

南会津郡只見町立朝日小学校
耶麻郡猪苗代町立吾妻小学校

(7) 特別支援教育関係

- ア 特別支援教育功労者(1名)
 福島県総合療育センター所長 森田 浩之

(8) 永年勤続関係

	小学校	中学校	県立学校	教育庁	計
校長	16	12	5		33
教頭、副校長	28	4	14		46
教員等	181	108	154		443
教育庁				13	13
計	225	124	173	13	535

(9) 特別功績者

- ア 児童・生徒(団体)の部(5団体)
- 郡山市立橘小学校合奏部
 - 会津若松市立第一中学校ブラスバンド部
 - 福島県立ふたば未来学園中学校男子バドミントン部
 - 福島県立ふたば未来学園中学校女子バドミントン部
 - 福島県立ふたば未来学園高等学校男子バドミントン部

- イ 優秀教職員の部(16名)
- | | | | |
|-----------------|---|-----|-------|
| 郡山市立芳山小学校 | 教 | 諭 | 宍戸 智紀 |
| 三春町立三春小学校 | 教 | 諭 | 原田由香里 |
| 棚倉町立棚倉小学校 | 教 | 諭 | 藤田 由紀 |
| 会津若松市立謹教小学校 | 教 | 諭 | 芹沢 志保 |
| 只見町立明和小学校 | 主 | 査 | 舟木 希 |
| 福島市立福島第四中学校 | 教 | 諭 | 三瓶 和久 |
| 二本松市立二本松第一中学校 | 教 | 諭 | 渡邊 恵美 |
| 郡山市立郡山第二中学校 | 教 | 諭 | 本田あゆみ |
| 郡山市立郡山第五中学校 | 教 | 諭 | 吉田由美子 |
| 須賀川市立第二中学校 | 教 | 諭 | 小野塚一洋 |
| 石川町立石川中学校 | 栄 | 養教諭 | 遠藤 由理 |
| 西郷村立西郷第一中学校 | 教 | 諭 | 宮川 智典 |
| 福島県立福島高等学校 | 教 | 諭 | 高橋 昌弘 |
| 福島県立福島南高等学校 | 教 | 諭 | 渡邊 拓也 |
| 福島県立平工業高等学校 | 実 | 習教諭 | 大塚 秋典 |
| 福島県立いわき支援学校くぼた校 | 教 | 諭 | 児玉 光彦 |

- ウ 若手教職員奨励の部(2名)
- | | | | |
|----------------|---|-----|-------|
| 田村市立船引中学校 | 教 | 諭 | 國友 靖展 |
| 福島県立いわき翠の杜高等学校 | 養 | 護教諭 | 渡辺 瑞希 |

- エ 優秀教職員(団体)の部
- 猪苗代町立猪苗代中学校教職員
 - 福島県立会津支援学校教職員

2 文部科学大臣表彰

(1) 地方教育行政功労者表彰(5名)

- | | |
|----------------|-------|
| 郡山市教育委員会委員 | 阿部 晃造 |
| (前)小野町教育委員会委員 | 大千里義市 |
| 磐梯町教育委員会委員 | 宮森 優治 |
| (前)南会津町教育委員会委員 | 渡部 謙一 |
| (前)川内村教育委員会教育長 | 秋元 正 |

表彰(3名)

- | | |
|--------------|-------|
| 会津若松市立城北小学校長 | 鈴木 基之 |
| 福島市立福島第四中学校長 | 福地 裕之 |
| 福島県立安積高等学校長 | 鈴木 芳人 |

3 春・秋・高齢者叙勲、死亡叙位・叙勲

(1) 令和5年春の叙勲

- ア 瑞宝小綬章
- | | |
|-------------|--------------|
| 富田 孝志(教育功労) | 元福島県立福島高等学校長 |
| 星 浩次(教育功労) | 元福島県立磐城高等学校長 |
- イ 瑞宝双光章
- | | |
|-------------|---------------|
| 金子 英昭(教育功労) | 元白河市立白河第二中学校長 |
| 藤田 充(教育功労) | 元白河市立白河第一小学校長 |
| 高梨 光一(教育功労) | 元喜多方市立第一中学校長 |
| 二瓶 洋允(教育功労) | 元伊達市立保原小学校長 |
| 伊藤 孝俊(教育功労) | 元いわき市立平第三中学校長 |
| 吉津 政一(教育功労) | 元只見町立只見中学校長 |

(2) 令和5年秋の叙勲

- ア 瑞宝小綬章
- | | |
|-------------|----------------|
| 本橋 信一(教育功労) | 元福島県立福島工業高等学校長 |
|-------------|----------------|
- イ 瑞宝双光章
- | | |
|-------------|-----------------|
| 福井 一明(教育功労) | 元福島市立福島第一小学校長 |
| 片寄 信(教育功労) | 元いわき市立小名浜第一小学校長 |
| 鈴木 貞安(教育功労) | 元いわき市立平第三小学校長 |
| 根本 保男(教育功労) | 元田村市立船引中学校長 |
| 石井 賢一(教育功労) | 元浪江町立浪江小学校長 |
| 土屋 悦男(教育功労) | 元福島市立福島第三小学校長 |
| 本名 幸平(教育功労) | 元猪苗代町立千里小学校長 |

(2) 高齢者叙勲(令和5年4月1日~令和6年3月1日発令)

- ア 瑞宝小綬章(教育功労)
- | | |
|------------------------|--|
| 野中 恒男(元福島県立喜多方女子高等学校長) | |
| 古旗 恂(元福島県立須賀川高等学校長) | |
- イ 瑞宝双光章(教育功労)
- | | |
|-----------------------|--|
| 大森 邦恩(元矢吹町立善郷小学校長) | |
| 岡部 宏(元船引町立瀬川小学校長) | |
| 黒川満寿生(元いわき市立内郷第一中学校長) | |
| 武田 昭(元相馬市立中村第二中学校長) | |
| 田中 実(元保原町立上保原小学校長) | |
| 門馬 洋二(元大熊町立大野小学校長) | |
| 山勢 重昭(元いわき市立田人第一小学校長) | |
| 相澤 珪二(元郡山市立富田西小学校長) | |
| 高畑 睦雄(元会津若松市立行仁小学校長) | |
| 根本 榮信(元いわき市立綴小学校長) | |
| 福田 利家(元白河市立白河第二小学校長) | |
| 武藤 六郎(元東村立東中学校長) | |
| 目黒 穆雄(元福島市立三河台小学校長) | |
| 渡邊 啓祐(元岩代町立小浜小学校長) | |
| 星 恒行(元田島町立田島小学校長) | |
| 加藤 恭二(元三春町立岩江小学校長) | |

山ノ内不二彦（元喜多方市立第一小学校長）
吉田 健美（元小高町立小高小学校長）
小丸 武恒（元双葉町立双葉南小学校長）
小荒井 實（元喜多方市立関柴小学校長）
齊藤 眞（元飯野町立飯野小学校長）
西山 允雄（元いわき市立小名浜第一小学校長）
三浦 邦雄（元二本松市立杉田小学校長）
安濃 徳雄（元郡山市立高倉小学校長）
大竹 範昌（元郡山市立行健中学校長）
春日會津美（元いわき市立勿来第一中学校長）
菅野 信一（元川俣町立川俣小学校長）
山野邊喜勝（元猪苗代町立猪苗代小学校長）
福田 試作（元会津高田町立永井野小学校長）
藤田 信正（元いわき市立平第二小学校長）
壹岐 武熙（元福島市立西根中学校長）
平野 久英（元会津坂下町立川西小学校長）
岩下 保男（元熱塩加納村立加納小学校長）
瓜生 敏男（元熱塩加納村立会北中学校長）
遠藤 徳（元本宮町立五百川小学校長）
菊地 順雄（元塙町立高城小学校長）
田野入清人（元梁川町立富野小学校長）
渡部 正人（元会津坂下町立広瀬小学校長）

(4) 死亡叙位・叙勲

《令和5年度》

ア 従五位・瑞宝小綬章

湯田 重哉（元福島県立安積黎明高等学校長）
栗原 孝明（元福島県立いわき総合高等学校長）
折笠 悦男（元福島県立会津養護学校長）

イ 従五位

鎌田慶四郎（元郡山市立多田野小学校長）
笠間 富久（元柳津町立柳津小学校長）
古旗 恂（元福島県立須賀川高等学校長）
高橋 義一（元原町市立原町第一小学校長）
村田 達夫（元福島県立富岡養護学校長）
金子 忠雄（元福島市立蓬萊中学校長）

ウ 正六位・瑞宝双光章

中山 雄助（元会津高田町立第一中学校長）
小平 光雄（元福島市立渡利小学校長）
三星 了一（元三島町立三島小学校長）
西楨 泰昌（元原町市立原町第三中学校長）
松本 睦夫（元会津高田町立藤川小学校長）
小林 守男（元福島市立東湯野小学校長）
長嶺 節（元泉崎村立泉崎中学校長）
田仲 功（元いわき市立豊間中学校長）
大友 誠三（元いわき市立湯本第三小学校長）
鈴木 健紀（元郡山市立河内小学校長）
田中 靖則（元会津若松市立城北小学校長）
尾形 博（元福島市立信陵中学校長）

渡邊 捷司（元郡山市立大槻小学校長）
佐川 善雄（元古殿町立古殿中学校長）
小松 榮（元福島市立清明小学校長）
佐久間光弘（元いわき市立内郷第三中学校長）
面川 征洋（元福島市立松陵中学校長）
塩谷 公夫（元福島市立千石小学校長）
吉田 正（元いわき市立藤原小学校長）
遠藤 哲（元福島市立信夫中学校長）
山内 敏夫（元小野町立小野新町小学校長）
目黒昇一郎（元いわき市立大野第一小学校長）

エ 正六位

家久来勝美（元郡山市立安積中学校長）
夏井 宏治（元三春町立中郷小学校長）
角 悟朗（元三春町船引町学校組合立要田小学校長）
中潟 崇雄（元福島市立清水小学校長）
小野 恒夫（元浅川町立浅川中学校長）
千代洋一郎（元会津若松市立坂西小学校長）
福本 分吾（元いわき市立藤原小学校長）
押部 源清（元会津高田町立第一中学校長）
車田 喜宏（元福島市立福島第三中学校長）
佐藤 光良（元原町市立大甕小学校長）
木實谷俊彦（元福島市立岡山小学校長）
佐藤 村夫（元三島町立宮下小学校長）
伊東 圭一（元北塩原村立第一中学校長）
大槻 邦雄（元相馬市立向陽中学校長）
小宅 章夫（元いわき市立勿来第二小学校長）
矢吹 幸久（元いわき市立好間中学校長）
佐久間睦夫（元白河市立白河第一小学校長）
遠藤 康代（元安達町立上川崎小学校長）
齋藤 實（元郡山市立郡山第三中学校長）
吉田 義邦（元郡山市立富田小学校長）
菅原 弘（元国見町立県北中学校長）
船田 宗勝（元本郷町立本郷第二小学校長）
藤島 昭（元長沼町立長沼東小学校長）
鈴木 英夫（元石川町立石川小学校長）
福田 五郎（元会津高田町立高田小学校長）
菅野 信一（元川俣町立川俣小学校長）
田子 良顯（元須賀川市立柏城小学校長）
八巻 誠（元霊山町立霊山中学校長）

オ 従六位・瑞宝双光章

石井 信義（元猪苗代町立翁島小学校長）
佐藤 秀喜（元会津若松市立一箕中学校長）
齊藤征一郎（元いわき市立平第三小学校長）
中畑 満（元白河市立表郷小学校長）
奥 庄一（元会津若松市立永和小学校長）
八代 之宏（元郡山市立桃見台小学校長）

カ 従六位

二瓶 洋一（元二本松市立二本松南小学校長）
星 桂太郎（元中島村立中島中学校長）

- 有賀 究 (元平田村立小平小学校長)
- 石井 辰美 (元須賀川市立稲田中学校長)
- 深谷 恒夫 (元玉川村立須釜小学校長)
- 渡邊 一民 (元福島市立学校歯科医)
- 伊藤 惇 (元二本松市立安達太良小学校長)
- 江原 靖男 (元矢祭町立矢祭中学校長)
- 馬場 純 (元会津高田町立尾岐小学校長)
- 三星 賢二 (元いわき市立平第三小学校長)
- 永倉 彰郎 (元東和町立下太田小学校長)
- 松本 和夫 (元いわき市立錦小学校長)
- キ 正七位・瑞宝双光章
- 高萩 貞弘 (元いわき市立入遠野中学校長)

2 福島県高等学校定時制課程及び通信制課程 修学資金貸与制度

(1) 貸与月額

定時制課程	
1～4学年	14,000円
通信制課程	
1～4学年	14,000円

(2) 令和5年度の貸与状況

学年別	定時制	通信制	計
1年生	0人	0人	0人
2年生	0人	0人	0人
3年生	0人	0人	0人
4年生	2人	0人	2人
計	2人	0人	2人

第13節 奨学育英

1 福島県奨学資金

(1) 貸与金額

区分	貸与月額
高等学校	国公立 自宅 18,000円
	自宅外 23,000円
	私立 自宅 30,000円
	自宅外 35,000円
高等専門学校	18,000円
大学	国公立 35,000円
	私立 40,000円
入学一時金 (H25～)	(一括貸与) 500,000円

(2) 令和5年度の貸与状況

ア 募集期間

(ア) 在学採用

令和5年4月入学以降～6月30日

(イ) 震災特例採用

令和5年4月入学以降～6月30日

イ 奨学生決定

(ア) 在学採用

令和5年8月17日 (高等学校)

令和5年8月17日 (大学・高等専門学校)

(イ) 震災特例採用

令和5年8月8日

ウ 貸与状況

区分	継続貸与	新規貸与		計
		応募者	貸与者	
高等学校 (うち震災特例)	99人 (33人)	44人 (8人)	44人 (8人)	143人 (41人)
大学 高等専門学校	121人	38人	38人	159人
大学等 入学一時金	—	28人	28人	28人
計	220人	110人	110人	330人

第 3 章 教育財政

第 1 節 令和 5 年度決算

1 歳入

(1) 一般会計

(単位：千円)

款	項	決算額	%
分担金及び負担金		0	0.0
	負担金	0	0.0
使用料及び手数料		3,886,448	8.2
	使用料	3,788,418	8.0
	手数料	98,030	0.2
国庫支出金		35,374,257	74.3
	国庫負担金	26,999,275	56.7
	国庫補助金	8,202,246	17.2
	委託金	172,736	0.4
財産収入		248,538	0.5
	財産運用収入	30,374	0.1
	財産売却収入	218,164	0.4
寄附金		600	0.0
	寄附金	600	0.0
繰入金		3,054,912	6.4
	特別会計繰入金	85,179	0.2
	基金繰入金	2,969,733	6.2
諸収入		456,817	1.0
	預金利子	0	0.0
	貸付金元利収入	0	0.0
	受託事業収入	189,193	0.4
	収益事業収入	57,174	0.2
	雑入	210,450	0.4
県債		4,567,100	9.6
	県債	4,567,100	9.6
計		47,588,672	100.00

(2) 福島県奨学資金貸付金特別会計

(単位：千円)

款	項	決算額	%
国庫支出金		0	0.0
	国庫補助金	0	0.0
繰入金		36,993	10.5
	一般会計繰入金	29,992	8.5
	基金繰入金	7,001	2.0
繰越金		1,252	0.4
	繰越金	1,252	0.4
諸収入		312,730	89.1
	預金利子	6	0.0
	貸付金元利収入	312,489	89.0
	雑収入	235	0.1
財産収入		124	0.0
	財産運用収入	124	0.0
計		351,099	100.0

2 歳出

(1) 県予算に占める教育費

(単位：千円)

区分	当初予算額	%	最終予算額	%	決算額	%
県予算	1,338,249,165	100.0	1,408,130,489	100.0	1,372,503,815	100.0
教育費	222,282,451	16.6	214,894,628	15.3	211,889,440	15.4
教育委員会所管分	186,262,291	13.9	180,004,664	12.8	180,456,131	13.1
知事部局所管分	36,020,160	2.7	34,889,964	2.5	31,433,309	2.3
教育委員会所管分総務費	0	0.0	2,606	0.0	5,823	0.0
教育委員会所管分災害復旧費	489,288	0.0	531,186	0.0	383,567	0.0

(最終予算額及び決算額には繰越分を含む)

(2) 教育委員会所管目的別予算及び決算状況

(単位：千円)

区分(款・項・目)	当初予算額	%	最終予算額	%	決算額	%
総務費	0	0.0	2,606	0.0	2,606	0.0
総務管理費	0	0.0	2,606	0.0	2,606	0.0
諸費	0	0.0	2,606	0.0	2,606	0.0
教育費	186,262,291	99.7	180,004,664	99.7	174,507,633	99.7
教育総務費	23,186,023	12.4	18,978,020	10.4	16,901,243	9.7
教育委員会費	10,021	0.0	10,021	0.0	8,893	0.0
事務局費	4,545,598	2.4	4,471,122	2.5	4,405,264	2.5
財務管理費	2,281,010	1.2	2,191,724	1.2	1,869,411	1.1
義務教育指導費	1,589,302	0.9	2,482,616	1.4	2,391,979	1.4
教職員福利厚生費	13,353,843	7.2	8,540,480	4.7	6,984,949	4.0
育英費	355,877	0.2	254,411	0.1	224,935	0.1

区分 (款・項・目)	当初予算額	%	最終予算額	%	決算額	%
恩給及び退職年金費	36,639	0.0	33,098	0.0	31,731	0.0
教育センター費	1,000,259	0.5	980,578	0.5	970,382	0.6
特別支援教育センター費	13,474	0.0	13,970	0.0	13,699	0.0
小学校費	56,110,551	30.0	54,860,157	30.4	54,735,390	31.3
教職員費	56,110,551	30.0	54,860,157	30.4	54,735,390	31.3
中学校費	35,729,171	19.1	35,294,947	19.5	35,206,758	20.1
教職員費	35,729,171	19.1	35,294,947	19.5	35,206,758	20.1
高等学校費	47,589,437	25.5	47,254,497	26.2	45,348,931	25.9
教職員費	33,137,955	17.7	32,800,711	18.2	32,718,066	18.7
高等学校指導費	719,572	0.4	821,489	0.5	612,833	0.4
高等学校管理費	11,695,024	6.3	11,602,183	6.4	10,120,379	5.8
施設等整備費	508,183	0.3	475,722	0.3	470,316	0.3
農業高等学校実習費	209,245	0.1	209,750	0.1	204,039	0.1
水産高等学校実習費	252,263	0.1	246,302	0.1	242,792	0.1
3～6安積中高一貫校整備費	1,067,195	0.6	1,098,340	0.6	980,506	0.6
特別支援学校費	20,349,583	10.9	20,458,783	11.3	19,481,380	11.1
特別支援学校費	1,701,734	0.9	1,813,899	1.0	1,665,597	1.0
教職員費	14,553,298	7.8	14,320,187	7.9	14,267,992	8.2
3～6双葉地区特別支援学校整備費	2,210,671	1.2	2,440,817	1.4	1,972,381	1.1
5～7安達地区特別支援学校整備費	1,883,880	1.0	1,883,880	1.0	1,575,410	0.9
社会教育費	2,510,755	1.4	2,367,111	1.4	2,240,503	1.3
社会教育総務費	358,922	0.2	278,569	0.2	237,720	0.1
図書館費	125,900	0.1	136,643	0.1	134,045	0.1
自然の家費	380,420	0.2	414,196	0.2	402,826	0.2
文化振興費	1,000	0.0	1,000	0.0	1,000	0.0
文化財保護費	612,803	0.3	593,707	0.3	553,772	0.3
美術館費	364,479	0.2	333,960	0.2	314,365	0.2
博物館費	381,286	0.2	320,420	0.2	308,863	0.2
文化財センター費	285,945	0.2	288,616	0.2	287,912	0.2
保健体育費	786,771	0.4	791,149	0.5	593,428	0.3
保健体育総務費	338,150	0.2	315,892	0.2	308,516	0.2
学校保健費	250,636	0.1	359,511	0.2	187,498	0.1
体育振興費	197,985	0.1	115,746	0.1	97,414	0.1
災害復旧費	489,288	0.3	531,186	0.3	465,449	0.3
文教施設災害復旧費	489,288	0.3	531,186	0.3	465,449	0.3
公立文教施設災害復旧費	489,288	0.3	531,186	0.3	465,449	0.3
計	186,751,579	100.0	180,538,456	100.0	174,975,688	100.0

(3) 福島県奨学資金貸付金特別会計

(単位：千円)

区分 (款・項・目)	当初予算額	%	最終予算額	%	決算額	%
奨学資金貸付事業費	404,075	100.0	327,682	100.0	316,116	100.0
奨学資金貸付事業費	404,075	100.0	327,682	100.0	316,116	100.0
貸付金	348,572	86.3	222,803	68.0	211,835	67.0
償還金	201	0.0	2,162	0.7	1,961	0.6
事務費	17,944	4.4	17,538	5.4	17,141	5.4
一般会計繰出金	37,358	9.2	85,179	26.0	85,179	27.0
計	404,075	100.0	327,682	100.0	316,116	100.0

第2節 学校教育施設

1 県立学校

(1) 学校建設の概要

令和5年5月1日現在の県立学校の現況は、別表のとおりである。全体を構造的に見ると、鉄筋コンクリート造が74.5%、鉄骨その他造が23.6%と非木造建物が98.1%を占めており、木造建物が1.9%となった。

別表 県立学校建物の現況 (R5.5.1) [確定値]

区分		中学校		高等学校		特別支援学校		計	
		面積	構成比	面積	構成比	面積	構成比	面積	構成比
校舎		m ²	%	m ²	%	m ²	%	m ²	%
	R	7,586	100.0	643,774	85.8	98,590	92.2	749,950	86.7
	S	0	0.0	91,662	12.2	6,355	5.9	98,017	11.3
	W	0	0.0	15,022	2.0	2,001	1.9	17,023	2.0
	計	7,586	100.0	750,458	100.0	106,946	100.0	864,990	100.0
体育館	R	1,297	100.0	31,145	17.7	6,726	52.6	39,168	20.7
	S	0	0.0	143,410	81.7	6,059	47.4	149,469	78.8
	W	0	0.0	937	0.5	0	0.0	937	0.5
	計	1,297	100.0	175,492	100.0	12,785	100.0	189,574	100.0
	寄宿舍	R	0	0.0	11,304	57.6	3,577	66.7	14,881
S		0	0.0	7,628	38.8	62	1.2	7,690	30.8
W		0	0.0	703	3.6	1,721	32.1	2,424	9.7
計		0	0.0	19,635	100.0	5,360	100.0	24,995	100.0
計		R	8,883	100.0	686,223	72.6	108,893	87.1	803,999
	S	0	0.0	242,700	25.7	12,476	10.0	255,176	23.6
	W	0	0.0	16,662	1.8	3,722	3.0	20,384	1.9
	計	8,883	100.0	945,585	100.0	125,091	100.0	1,079,559	100.0

R 鉄筋コンクリート造、 S 鉄骨その他造、 W 木造

※一部仮設校舎を使用している学校及び別敷地に仮設建物等を用いて学校を開設しているものについては、除外している。

双葉、浪江、浪江津島校、富岡、双葉翔陽、相馬農業飯館校、富岡支援

※構成比率は小数点第2位以下四捨五入

※特別支援学校には視覚・聴覚支援学校面積を含む。

(2) 令和5年度事業実績**ア 高等学校施設整備事業**

事 項	校数	学 校 名	事 業 費 (決算額)	財 源 内 訳		
				国 庫	県 費	その他
長寿命化事業	9	福島東、葵、会津学鳳、会津工業、郡山北工業、喜多方桐桜、岩瀬農業、光南、修明	千円 801,126	千円 0	千円 696,600	千円 104,526
県立高等学校再編整備事業	9	いわき総合、小名浜海星、白河実業、喜多方、二本松実業、伊達、南会津、会津農林、修明	千円 2,568,909	千円 335,715	千円 1,416,900	千円 816,294
安積中高一貫校整備事業	1	安積高校	千円 1,097,524	千円 124,381	千円 819,900	千円 153,243
合 計	19		4,467,559	460,096	2,933,400	1,074,063

イ 特別支援学校施設整備事業

事 項	校数	学 校 名	事 業 費 (決算額)	財 源 内 訳		
				国 庫	県 費	その他
長寿命化事業	3	聴覚支援、石川支援、西郷支援	千円 51,203	千円 0	千円 0	千円 51,203
特別支援学校整備事業	3	ふたば支援、あだち支援、南会津支援(仮称)	千円 4,442,375	千円 327,178	千円 1,475,900	千円 2,639,297
合 計	6		4,493,578	327,178	1,475,900	2,690,500

2 幼稚園・小学校・中学校・特別支援学校（市町村立分）

(1) 構造物保有面積

令和5年5月1日現在 [確定値]

区分	小学校		中学校		小・中学校計		特別支援学校		幼稚園		
	面積	構成比	面積	構成比	面積	構成比	面積	構成比	面積	構成比	
校舎	R	1,367,216	97	856,452	96	2,223,668	96	6,088	86	24,967	26
	S	29,369	2	21,744	2	51,113	2	14	1	37,247	39
	W	17,788	1	14,748	2	32,536	2	968	13	34,150	35
	計	1,414,373	100	892,944	100	2,307,317	100	7,070	100	96,364	100
屋内運動場	R	155,928	45	138,046	55	293,974	49	1,111	98	0	0
	S	185,861	54	110,463	44	296,324	50	26	2	0	0
	W	2,853	1	1,365	1	4,218	1	0	0	0	0
	計	344,642	100	249,874	100	594,516	100	1,137	100	0	0
寄宿舎	R	65	100	1,821	91	1,886	92	0	0	0	0
	S	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	W	0	0	172	9	172	8	0	0	0	0
	計	65	100	1,993	100	2,058	100	0	0	0	0
計	R	1,523,209	87	966,319	87	2,519,528	87	7,199	88	24,967	26
	S	215,230	12	132,207	12	347,437	12	40	0	37,247	39
	W	20,641	1	16,285	1	36,926	1	968	12	34,150	35
	計	1,759,080	100	1,144,811	100	2,903,891	100	8,207	100	96,364	100

R 鉄筋コンクリート造、 S 鉄骨その他造、 W 木造

※一部仮設校舎を使用している学校及び別敷地に仮設建物等を用いて学校を開設しているものについては、除外している。

双葉町

※構成比率は小数点以下四捨五入

※各町村立学校の面積等においては、施設台帳管理システムにて入力された内容を参照した。

※義務教育学校については、前期課程専用部分は小学校に、後期課程専用部分は中学校に、共用部分は各々按分して計上した。

(2) 公立学校施設整備事業（市町村分実績額）

令和5年度

区分	単年度		国庫債務負担行為	
	学校数	負担金及び 交付金 (千円)	学校数	負担金及び 交付金 (千円)
校舎の 新增築	0	0	4	540,280
統合	1	14,970	—	—
不適格建物の 改築	7	233,099	—	—
大規模 改造	53	304,683	—	—
地震補強	—	—	—	—
危険改築	3	331,533	—	—
防災機能 強化	12	113,649	—	—
太陽光 発電等	2	15,435	—	—
長寿命化 改良	9	473,178	—	—
計	(延べ校数) 87	1,486,547	(延べ校数) 4	540,280

※対象学校種別：幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、特別支援学校等

第3節 産業教育設備整備事業

産業教育施設・設備の整備

高等学校産業教育施設・設備等整備

県立高等学校における産業教育のための設備促進を図った。

令和5年度における実施状況は次のとおりである。

設備

県単独事業

老朽設備の整備 135,602千円

第4節 理科教育振興法補助事業

令和5年度の設備現有状況は次のとおりである。

1 理科設備

学校規模別設備現有状況

令和6年3月31日現在

区分 規模別	学校 数	基準金額	現有金額	現有 率
高校	70	7,117,320,000	1,004,925,076	14.1
小計	70	7,117,320,000	1,004,925,076	14.1
視覚支援学校	1	102,594,000	5,484,760	5.3
聴覚支援学校	4	155,914,000	9,771,622	6.3
特別支援学校	19	747,342,000	37,555,020	5.0
小計	24	1,005,850,000	52,811,402	5.3

2 算数・数学特別設備

学校規模別設備現有状況

令和6年3月31日現在

区分 規模別	学校 数	基準金額	現有金額	現有 率
高校	70	163,310,000	63,460,555	38.9
小計	70	163,310,000	63,460,555	38.9
視覚支援学校	1	2,731,000	42,400	1.6
聴覚支援学校	4	5,863,000	616,445	10.5
特別支援学校	19	23,850,000	4,605,870	19.3
小計	24	32,444,000	5,264,715	16.2

第5節 情報処理設備整備事業

令和5年度における事業実施状況は次のとおりである。

県単独事業

教育用コンピュータの整備

県立高校 70校（リース・保守） 327,187千円

第6節 体育施設

1 公立学校施設整備費補助（学校体育諸施設補助）

令和5年度における補助事業実施状況は次のとおりである。

(1) 水泳プール（屋外）

設置者名	施設名	面積(m ²)	交付金額(千円)
該当なし			

(2) 中学校武道場

設置者名	施設名	面積(m ²)	交付金額(千円)
該当なし			

2 社会体育施設整備費補助

令和5年度における補助事業実施状況は次のとおりである。

(1) 地域スポーツセンター

設置者名	施設名	面積(m ²)	交付金額(千円)
南相馬市	南相馬市民プール	189	99,462
会津若松市	河東総合体育館	110	4,662

第4章 教育の情報化

第1節 基盤整備

県立学校、図書館、美術館及び博物館等の教育関係機関が専用イントラネット及び電子メール等のインターネットサービスを利用できるよう、平成11年度から「うつくしま教育ネットワーク」、平成28年度から「ふくしま教育クラウドサービス」を運用し利便性の維持・向上を図っている。

平成30年度からは県立教育機関向けのネットワーク「FACE (Fukushima Advanced Cloud network for Education)」の運用を開始した。

Webシステムについては、情報発信の強化と作業の効率化を図るため、福島県のWebシステム及びNetCommons3を活用したCMS (コンテンツ・マネジメント・システム)により運用し、県立学校を含む教育庁機関及び希望する市町村教育機関のWebサイトによる情報公開を支援した。

県立学校の教職員が校務に使用するパソコンについて、Windows Vista及びWindows 7のサポート終了に備え、平成31年度までに、パソコンの更新を行った。令和5年度から令和7年度にかけてWindows 10のサポート期限到来に備え、特別支援学校の校務用端末の更新・配備を行っている。

また、新学習指導要領及び新時代の学びに必要なICT環境の整備として、令和2年度から3年度にかけて、各県立学校に高速大容量通信及び無線LANネットワークの整備、指導教員に対して1人1台の指導用端末の整備、各県立高校の普通教室に大型提示装置の整備を行った。

県立学校では、情報セキュリティの向上、調査書の電子化への対応等のための統合型校務支援システム及び出勤簿等の電子化のための勤怠管理システムを、令和2年度に整備した。また市町村立学校については、令和元年に「市町村立学校統合型校務支援システムの在り方検討協議会」において、市町村向けの県推奨システムを決定しており、市町村ごとに判断の上、令和2年度より整備している。

過去10年間の県立学校校務用パソコンの整備状況

年度	教職員 PC 配備実績
H26	0台
H27	0台
H28	228台 ※1
H29	2,517台 ※2
H30	1,767台 ※2
R1	1,608台 ※2
R2	0台
R3	0台
R4	0台
R5	20台 ※3

※1 Windows Vista サポート終了に伴う更新等

※2 Windows 7 サポート終了に伴う更新

※3 耐用年数超過及びWindows10 サポート終了に伴う更新

学校の基盤整備状況 (小・中・高・特別支援学校)

項目	福島県	全国平均
児童生徒1人あたりの学習者用コンピュータ台数	1.1台	1.1台
無線LAN又は移動通信システム(LTE等)によりインターネット接続を行う普通教室の割合	96.9%	98.3%
インターネット接続状況(1Gbps以上)	46.7%	81.0%
教育情報セキュリティポリシーの策定率(学校向け)	83.3%	74.2%
普通教室の大型提示装置整備率	89.1%	89.6%
教員の校務用コンピュータ整備率	128.8%	127.7%
教員の指導用コンピュータ整備率	117.0%	133.4%
統合型校務支援システム整備率	88.1%	91.4%
指導者用デジタル教科書整備率	92.6%	89.6%
学習者用デジタル教科書整備率	87.6%	88.2%

文部科学省調べ(令和5年度学校における教育の情報化の実態等に関する調査結果(令和6年3月現在)(確定値))

第2節 人材の育成・活用

すべての教員のICT活用指導力の向上を目指して、研修の充実を図っている。令和5年度には、前年度に作成した「福島県版ICT活用ハンドブック2022」を冊子(B6判)にし、全ての公立学校の教員に配布した。

また、整備されたICT環境を有効に活用し、各学校でICTを利活用した教育の進展を支援するために、全ての県立学校にICT支援員を配置した。支援内容として、ICT機器の活用支援やメンテナンス支援を担った。指導力向上開発校、県立高校改革対象校、特別支援学校と県立中学校には週1回の支援を行い、それ以外の県立高校には月1回の支援を行った。

人材の育成状況

項目	福島県	全国平均
教材研究・指導の準備・評価・校務などにICTを活用する能力	88.1%	89.6%
授業にICTを活用して指導する能力	76.1%	80.4%
児童生徒のICT活用を指導する能力	77.9%	81.6%
情報活用の基礎となる知識や態度について指導する能力	86.5%	88.1%
令和5年度中にICT活用指導力の状況の各項目に関する研修を受講した教員の割合	64.0%	72.1%

文部科学省調べ(令和5年度学校における教育の情報化の実態等に関する調査結果(令和6年3月現在)(確定値))

第5章 義務教育

第1節 概要

今年度は、県内の小・中学校児童生徒の学力の向上を図るため、「一人一人を伸ばすふくしま学力向上推進事業」を基軸とし、「理数教育優秀教員活用事業」や「『ふくしま活用力育成シート』実践事業」を推進した。また、少人数教育充実のために、30人程度学級又は少人数指導の教員を配置するなど、各市町村教育委員会への支援を通して、各小・中学校における日々の授業の工夫改善を図り、学力向上に努めた。

生徒指導関係では、「ピュアハートサポートプロジェクト」の一環として、教育センターに学校教育相談員を配置し、電話相談等を実施した。また、小学校130校、中学校200校、義務教育学校7校に文部科学省事業による緊急スクールカウンセラーを配置し、いじめ問題や不登校等の学校不適応問題への指導援助の強化を図った。

さらに、教育相談研修会や各種連絡協議会を開催し、教職員の資質の向上を図った。

第2節 学校管理

1 児童生徒数・学級数と教職員定数

(1) 小学校

年度	25	26	27	28	29	30	R元	R2	R3	R4	R5
本校	472	468	458	452	444	436	428	417	401	388	381
分室	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
分校	5	5	5	5	5	7	7	6	6	4	4
計	477	473	463	457	449	443	435	423	407	392	385
前差	△7	△4	△10	△6	△8	△6	△8	△12	△16	△15	△7

(2) 令和5年度の学級数別学校数（小学校） ※休校が5校（分校1校含む）あり、0学級になる（5/1時点）。

学級数別	0学級	1～5学級	6～11学級	12～18学級	19～24学級	25学級以上	合計
本校	4	64	169	98	39	7	381
分室	—	—	—	—	—	—	—
分校	1	3	—	—	—	—	4
計	5	67	169	98	39	7	385
構成比	1.3	17.4	43.9	25.5	10.1	1.8	100

(3) 中学校 ※平成19年度から県立中学校を含む。

年度	25	26	27	28	29	30	R元	R2	R3	R4	R5
本校	232	229	224	223	221	219	219	216	211	205	203
分室	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
分校	—	—	—	—	—	2	2	2	2	—	—
計	232	229	224	223	221	221	221	218	213	205	203
前差	△4	△3	△5	△1	△2	0	0	△3	△5	△8	△2

(4) 令和5年度の学級数別学校数（中学校） ※休校が1校あり、0学級になる（5/1時点）。

学級数別	0学級	1～5学級	6～11学級	12～18学級	19～24学級	25学級以上	合 計
本 校	1	78	70	44	10	0	203
分 室	—	—	—	—	—	—	—
分 校	—	—	—	—	—	—	—
計	1	78	70	44	10	0	203
構成比	0.5	38.4	34.5	21.7	4.9	0	100

(5) 義務教育学校 ※令和5年度、義務教育学校は新設なし。

年 度	30	R元	R2	R3	R4	R5
本 校	1	2	3	6	7	7
計	1	2	3	6	7	7
前 差	1	1	1	3	1	0

(6) 令和5年度の学級数別学校数（義務教育学校）

学級数別	1～5学級	6～11学級	12～18学級	19～24学級	25学級以上	合 計
本 校	1	4	1	1	—	7
計	1	4	1	1	—	7
構成比	14.3	57.1	14.3	14.3	0	100

(7) 公立幼稚園の設置状況

年 度	25	26	27	28	29	30	R元	R2	R3	R4	R5
園 数	193	191	184	166	154	149	133	128	123	118	110
園児数	8,320	8,005	7,590	6,603	6,205	6,197	6,010	5,505	5,029	4,458	3,960

(8) 小学校児童数・学級数の推移

年 度	25	26	27	28	29	30	R元	R2	R3	R4	R5
児 童	99,339	96,776	94,686	92,449	90,657	88,781	86,521	85,862	85,017	84,412	83,082
学 級	4,777	4,721	4,668	4,600	4,552	4,510	4,458	4,032	4,059	4,068	4,097

年 度	25	26	27	28	29	30	R元	R2	R3	R4	R5
単 式	4,197	4,103	4,019	3,883	3,814	3,716	3,615	3,172	3,190	3,167	3,161
複 式	203	215	209	225	201	199	207	201	179	178	169
特別支援	377	403	440	492	537	595	636	659	690	723	767

(9) 中学校生徒数・学級数の推移

年 度	25	26	27	28	29	30	R元	R2	R3	R4	R5
生 徒	56,262	54,929	53,608	52,194	50,306	48,473	46,992	45,758	45,050	43,980	43,147
学 級	2,276	2,238	2,209	2,127	2,070	2,036	1,992	1,733	1,716	1,702	1,711

年 度	25	26	27	28	29	30	R元	R2	R3	R4	R5
単 式	2,050	1,997	1,953	1,861	1,792	1,729	1,670	1,409	1,399	1,366	1,347
複 式	8	8	8	12	11	12	14	14	11	8	8
特別支援	218	233	248	254	267	295	308	310	306	328	356

(10) 義務教育学校児童生徒数・学級数の推移

年 度	R元	R2	R3	R4	R5
児童・生徒	432	492	1411	1397	1374
学 級	25	32	74	78	82

年 度	R元	R2	R3	R4	R5
単式	20	21	58	60	61
複式	0	3	3	4	5
特別支援	5	8	13	14	16

(11) 小・中・特別支援学校条例定数の推移

年 度		26	27	28	29	30	R元	R2	R3	R4	R5	R6
小 学 校	教 員	6,979	6,944	6,850	6,812	6,752	6,707	6,634	6,587	6,532	6,508	6,613
	事 務 職 員	468	467	458	455	443	433	415	408	396	392	396
	充 指 導 主 事	25	26	27	29	29	28	29	30	29	27	27
	補 充 教 職 員	332	321	309	257	260	251	236	222	232	254	274
	県単独負担教員	170	141	155	153	162	153	167	156	158	134	112
	学校栄養職員	125	123	121	121	122	118	119	124	122	120	119
中 学 校	教 員	4,324	4,337	4,241	4,240	4,127	4,075	4,040	3,977	3,905	3,864	3,925
	事 務 職 員	228	229	244	241	230	219	208	209	211	207	210
	充 指 導 主 事	38	35	40	40	39	40	39	39	39	41	41
	補 充 教 職 員	143	167	167	163	132	124	117	103	97	99	109
	県単独負担教員	160	151	143	144	134	136	118	110	108	122	144
	学校栄養職員	67	69	70	74	72	67	66	65	65	66	65
市 立 特 別 支 援 学 校	教 員	41	39	32	30	30	60	64	59	63	63	66
	事 務 職 員	2	2	2	2	2	4	4	4	4	4	4
	補 充 教 職 員	13	7	6	6	7	7	6	6	5	5	5
	県単独負担教員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	学校栄養職員	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

2 教職員人事・任用

令和6年度人事異動方針

教育に対する県民の期待と要望に応え、第7次福島県総合教育計画に沿った教育施策を推進するとともに、東日本大震災及び東京電力株式会社福島第一原子力発電所事故からの復興に向けた取組を進め、本県教育の一層の充実と向上発展を目指すためには、適正な人事配置により各学校の教職員組織及び教育庁職員組織を活性化し、教職員の志気の高揚を図らなければならない。

福島県教育委員会は、この実現のため、下記の方針に基づき人事異動を行うものである。

I 基本方針

- 1 全県的視野に立ち、適材を適所に配置し、教育効果及び行政効果の向上を図る。
- 2 教育の機会均等の理念に立脚し、各学校の教職員組織の充実と均衡に努めるとともに、第7次福島県総合教育計画に沿った教育施策を推進するため、教育庁職員組織の充実を図る。
- 3 厳正かつ適正な人事を行い、各学校の教職員及び教育庁職員の志気の高揚を図る。
- 4 教育に対する県民の信頼と期待に応えるため、事の公平性・公正性・透明性の確保に一層努める。
- 5 東京電力株式会社福島第一原子力発電所事故に伴う様々な課題に対して適切に対応するための教員配置等を継続し、復興に向けた取組を進める。

II 重点

- 1 市町村立学校関係
 - (1) 教育の充実を図るため、有能適格な教職員の採用に努めるとともに有為な人材を登用する。
教職員組織の充実と均衡を図るため、計画的な異動を推進する。
 - (2) 特別支援教育及びへき地教育の充実を図るため、適任者を配置するとともに適正な異動を行う。
 - (3) 管理監督の立場となる職への登用に当たっては、その職責の重要性に鑑み、適任者を厳選し、適所に配置する。
- 2 令和6年度公立小・中学校人事(令和6年3月末公表)
 - (1) 異動件数
異動件数2,772件(前年度2,914件)で142件の減少となった。
 - (2) 採用について
本年度は495名(小学校教諭288名、中学校教諭167名、養護教諭22名、事務職員15名、栄養職員3名)を新規に採用した。
 - (3) 異動について
各学校の均衡を図るため、免許状、年齢構成、性別等に考慮して、努めて広域にわたるとともに、各地域の実態に応じ、都市、へき地等相互間の計画的な異動を積極的に行うようにした。
 - (4) 昇任について
 - ア 管理職への昇任は校長50名(小学校37名、中学

校10名、義務教育学校3名、前年度比40名減)、教頭74名(小学校45名、中学校27名、義務教育学校2名、特別支援学校0名、前年度比35名減)、計124名で、前年度より75名減少した。

イ 副校長は小学校5名、中学校3名、義務教育学校9名の計17名を、主幹教諭は小学校35名、中学校26名(県立中2名を含む)、義務教育学校7名の計68名を登用した。

ウ 女性教員の管理職登用に意を用いた。小学校長50名、中学校長11名、義務教育学校1名、小学校教頭73名、中学校教頭15名、義務教育学校1名、特別支援学校1名に加え、主幹教諭27名を登用した。

エ 教頭の昇任は受考者99名に対し、74名で昇任率は74.7%となっている。

(5) 退職について

ア 定年引き上げにより、令和5年度末の退職者数は280名で前年度に比べ318名の減である。

イ 退職者の内訳は定年退職者0名、勸奨による退職者0名、普通退職者280名となっている。

ウ 退職者中、校長は41名(小学校27名、中学校等14名)、教頭は8名となっている。

3 教育職員免許状の授与状況

令和5年度中に本県で授与した教育職員免許状は、総数で1,469件あり前年度より64件減となっている。

普通免許状は、前年度より38件減で1301件、臨時免許状は23件減で168件授与を行った。

普通免許状のうち令和5年度大学卒業者の占める割合は、約78.9%で、1,027件となっている。

免許状の種類別授与件数は、次のとおりである。

小学校教諭専修免許状	10件
同 一種免許状	123件
同 二種免許状	33件
中学校教諭専修免許状	23件
同 一種免許状	209件
同 二種免許状	8件
高等学校教諭専修免許状	27件
同 一種免許状	314件
幼稚園教諭専修免許状	0件
同 一種免許状	72件
同 二種免許状	354件
特別支援学校教諭専修免許状	1件
同 一種免許状	52件
同 二種免許状	56件
養護教諭専修免許状	1件
同 一種免許状	1件
同 二種免許状	5件
栄養教諭専修免許状	0件
同 一種免許状	8件
同 二種免許状	4件

特別支援学校自立活動教諭一種免許状 ……	0件
高等学校教諭特別免許状 ……………	0件
小学校助教諭免許状 ……………	123件
中学校助教諭免許状 ……………	16件
高等学校助教諭免許状 ……………	19件
幼稚園助教諭免許状 ……………	0件
特別支援学校助教諭免許状 ……………	9件
特別支援学校自立教科助教諭免許状 ……	0件
養護助教諭免許状 ……………	1件

4 学校の設置及び統廃合

地域社会における過疎・過密化の進行に伴い地域の事情に応じた教育諸条件の整備充実が図られてきた。学校規模の適正化もその一つであり、地域にあった設置、廃止が計画的に進められている。

公立小・中・義務教育学校の設置・廃止

	廃止 (令和6.3.31)	設置 (令和6.4.1)
小学校	会津若松市立湊小学校	猪苗代町立猪苗代第二小学校
	猪苗代町立吾妻小学校	
	猪苗代町立長瀬小学校	
	猪苗代町立翁島小学校	
	猪苗代町立千里小学校	
	猪苗代町立緑小学校	
	会津美里町立本郷小学校	
	南相馬市立八沢小学校	
	いわき市立草野小学校 絹谷分校	
	いわき市立川前小学校	
	いわき市立桶売小学校	
いわき市立川小白井小学校		
いわき市立入遠野小学校		
中学校	白河市立五箇中学校	福島市立福島四中学校 天神スクール
	会津若松市立湊中学校	
	会津美里町立本郷中学校	
	いわき市立川前中学校	
	いわき市立桶売中学校	
	いわき市立小白井中学校 いわき市立入遠野中学校	
義務教育学校		会津若松市立湊学園 会津美里町立本郷学園

5 学校防火

学校火災は、公有財産を消失し、児童生徒に精神的な打撃を与え学校教育の質の低下を招くとともに、教育行政を停滞させるなど、社会に及ぼす物心両面の影響はきわめて大きい。

県教育委員会は、市町村教育委員会の協力のもと、次の観点から、各学校における防火体制を再点検し、その強化を図って

いるところである。

- ・ 学校防火計画及び防火診断の内容と方法の改善
- ・ 木造校舎を中心とする防火上の施設設備の充実と整備方法の改善
- ・ 児童生徒及び教育関係者の防火意識の高揚と防火訓練の強化

令和5年度の学校火災は、前年度に引き続き、市町村立小・中・義務教育学校・特別支援学校における発生が0件であった。今後とも学校火災の絶無を期するよう努める。

また、昭和50年度以降の県内の学校火災は原因別にみると、放火又は放火の疑い、火遊び、たばこの不始末など生徒指導上の問題と関連の深い火災が多く、防火の面からも生徒指導の一層の充実と強化を図る必要がある。なお、原因不明による火災が突出している。

次に、学校の警備状況を見ると、その多くが機械警備となっており、機械が探知した火災情報の確認から消火活動に至るまで、関係者の連携が一層迅速になるよう検討し、改善を図っていくことが重要である。

さらに、灯油、アルコール、シンナー等の燃えやすい物質や混合爆発、発火等の可能性の高い毒劇物・危険物等薬品の保管については、防火上のみならず、防犯上からも厳重な管理を徹底していくことが必要である。

令和5年度の学校防火診断の概要及び学校管理の状況は次のとおりである。

(1) 令和5年度公立小・中・義務教育学校・特別支援学校防火診断項目

- ア 防火体制について
- イ 警備員、代行員の勤務状況について
- ウ 火気関係設備及び取り扱い状況について
- エ 電気設備について
- オ 消防用設備及びその管理について
- カ その他
 - ・ 諸表簿の管理状況
 - ・ 毒劇物・危険物等薬品の保管状況

(2) 学校防火診断の実施と活用

- ア 各学校における防火診断に係る報告を集約し、実施状況や課題を確認した。
- イ 学校事故防止対策研究協議会は開催できなかったが、各教育事務所から、防火診断の結果や実際の学校火災事例等をもとに、防火対策上必要な措置を市町村教育委員会及び各小・中・義務教育学校・特別支援学校に指導した。
※ 平成21年度より県教育委員会による研修を目的とした学校防火診断は実施しないこととしたが、市町村教育委員会と連携を図りながら、各学校における防火診断の適正な実施を行っていく。

6 へき地対策

(1) へき地学校の状況

ア へき地学校

教育事務所	級地	4級		3級		2級		1級		準1級		特地		教育事務所指定		計	
		本校	分校	本校	分校	本校	分校	本校	分校	本校	分校	本校	分校	本校	分校	本校	分校
小学校	県北							2						10		12	0
	県中					2		3	1		1		1	18		23	3
	県南							1						7		8	0
	会津					3		5						6		14	0
	南会津					7		1						6		14	0
	相双					1		2				1		3		7	0
	いわき					2		3						7	1	12	1
	計	0	0	0	0	15	0	17	1	0	1	1	1	57	1	90	4
中学校	県北							1						8		9	0
	県中					1		3						9		13	0
	県南							1						4		5	0
	会津					1		5						4		10	0
	南会津					4								3		7	0
	相双					1		2				1		1		5	0
	いわき					2		3						4		9	0
	計	0	0	0	0	9	0	15	0	0	0	1	0	33	0	58	0
総計		0	0	0	0	24	0	32	1	0	1	2	1	90	1	148	4
		0		0		24		33		1		3		91		152	

イ 特別へき地学校数、学級数、児童生徒数、教員数(休校中も含む)

級地	小学校												中学校												合計											
	学校数			児童数			学級数			教職員数			学校数			生徒数			学級数			教職員数			学校数			児童生徒数			学級数			教職員数		
	本校	分校	計	本校	分校	計	本校	分校	計	本校	分校	計	本校	分校	計	本校	分校	計	本校	分校	計	本校	分校	計	本校	分校	計	本校	分校	計	本校	分校	計	本校	分校	計
4級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2級	15	0	15	407	0	407	53	0	53	157	0	157	9	0	9	223	0	223	25	0	25	152	0	152	24	0	24	630	0	630	78	0	78	309	0	309
1級	17	1	18	955	3	958	87	1	88	232	4	236	15	0	15	606	0	606	53	0	53	241	0	241	32	1	33	1561	3	1564	140	1	141	473	4	477
準1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
特地	1	1	2	15	6	21	4	2	6	11	3	14	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	3	0	8	8	0	2	2	0	5	5
教育事務所指定	57	1	58	4826	4	4830	365	1	366	967	2	969	33	0	33	2767	0	2767	160	0	160	694	0	694	90	1	91	7593	4	7597	525	1	526	1661	3	1664
合計	90	4	94	6203	13	6216	509	4	513	1367	9	1376	58	0	58	3596	0	3596	238	0	238	1087	0	1087	148	4	152	9784	15	9799	743	4	747	2443	12	2455

(2) へき地教育の振興策

へき地の学校は、概して小規模であり、また、複式学級も多い。したがって、教育条件の改善充実を図るとともに、へき地学校に優秀な教員を確保することが緊要である。

ア へき地教育の人事行政

「令和6年度人事異動方針」第1の2において、「教育の機会均等の理念に立脚し、各学校の教職員組織の充実と

均衡に努めるとともに、第7次福島県総合教育計画に沿った教育施策を推進するため、教育庁職員組織の充実を図る」ことを基本として掲げ、これを受けて令和6年度小・中・特別支援学校教職員人事異動実施要項第2の2の(1)において「異動のための区分を設定し、すべての教職員を在職期間中に都市、平地、へき地の勤務を公平に経験させる」とし、へき地と各地域との計画的な異動の推

進を図った。

(ア) へき地異動の地域区分

県内の地域区分を次のとおりとする。

○ A地域 市の中心部で比較的交通の便のよい地区及び桑折町、国見町、鏡石町、石川町、浅川町、三春町、小野町、棚倉町、埴町、会津坂下町、会津美里町、富岡町の中心部の学校

○ B地域 A及びC地域以外の学校

○ C地域 へき地の学校(人事委員会・教育事務所指定の学校)

(イ) 異動基準

a へき地学校勤務については次の基準による。

○ へき地学校勤務未了者については、へき地学校へ計画的に転出させる。へき地学校勤務満了者であっても、へき地学校に勤務すべき該当者が少ない場合においては、へき地学校へ計画的に転出させる。

○ へき地学校勤務については、別表1による期間勤務した場合は満了とする。ただし、会津ブロック外出身者の会津ブロックへき地学校勤務については、別表2による。

○ すでに、へき地学校勤務満了者が、再び相当期間へき地学校に勤務し、都市又は平地の学校に転出を希望する者については考慮する。相当期間とは、2年以上とする。

別表1 (教員のへき地校勤務年数)

級別	教育事務所指定のへき地	人事委員会指定へき地				
		特・準1級地	1級地	2級地	3級地	4級地以上
勤続年数	4年以上	3年以上		2年以上		

別表2 (教員のへき地校勤務年数)

会津ブロック外出身者の会津ブロックへき地勤務年数(新採は含まない)	へき地級地別	
	教育事務所指定	特・準1級地、1級地以上
	3年以上	2年以上

b 他管内へき地等への計画的異動

小学校・中学校等に勤務する教員のうち、学習指導等実績のある優秀な教員を選考して、他管内へき地等の学校に計画的に異動させ、その教育実践を通して、県内全域の教育の振興・充実を図ることとした。異動先での勤務期間は3年以上である。また、異動先での勤務期間を良好な成績で勤務した者については、教頭昇任選考筆頭試験の一部(指導関係)を免除する施策もあわせて実施した。

イ へき地学校教職員の経済的優遇策

人事委員会指定のへき地学校等に勤務する教職員に対し、次の手当が支給される。

○ へき地手当等の支給

勤務するへき地学校等の級別区分に応じて、次のと

おり支給される。

級地	手当額	支給割合
4級地	(給料の月額+教職調整額+扶養手当)×支給割合	20/100
3級地		16/100
2級地		12/100
1級地		8/100
準1級地		4/100

(注) 給料の月額=給料月額+給料の調整額

○ へき地手当に準ずる手当

へき地学校等又は特別の地域に所在する学校等(人事委員会指定)へ、異動に伴い住居を移転した場合に支給される。

・異動日から5年間

(異動等の日における給料の月額+教職調整額+扶養手当)×4%

・5年を経過した後の1年間

(異動等の日における給料の月額+教職調整額+扶養手当)×2%

ウ へき地学校教職員の配置に対する特別措置

へき地教育振興法第4条の2項に「都道府県は、へき地学校に勤務する教員及び職員の決定について特別の考慮を払わなければならない。」とあり、本県としてもへき地学校教職員及び養護教員、事務職員等の配置について特別措置を講じている。

(3) 今後の問題点

ア へき地学校の教職員配置の改善を図ること。

へき地学校の教職員の年齢構成からみて、中堅教員が少ない傾向にある。今後中堅教員を計画的にへき地に配置していく必要がある。

また、へき地に勤務する教職員の優遇策や地元の受け入れ態勢の整備充実にいっそう努力する必要がある。

イ 都市・平地とへき地との人事異動を推進すること。

へき地学校勤務未了者を解消するため、これまで計画的に平地、へき地の異動を推進してきた。今後一層計画的、広域的な異動を推進する必要がある。

第3節 学校教育

1 概要

(1) 指導行政の基本方針

令和3年12月に新たに策定された本県の教育施策を総合的・計画的に推進するための指針である「第7次福島県総合教育計画」では、福島の良さを大切に「福島ならではの教育」、そして、一方通行の授業を、個別最適化された学び、協働的な学び、探究的な学びへと変革していく「学びの変革」が掲げられ、これらの実現に向け、以下の6つの施策が展開されることとなった。

施策1 「学びの変革」によって資質・能力を確実に育成する

施策2 「学校の在り方の変革」によって教員の力、学校の

力を最大化する

施策3 学びのセーフティネットと個性を伸ばす教育によって多様性を力に変える土壌をつくる

施策4 福島で学び、福島に誇りを持つことができる「福島を生きる」教育を推進する

施策5 人生100年時代を見通した多様な学びの場をつくる

施策6 安心して学べる環境を整備する

(2) 指導組織

各課長を中心に、主幹、主任指導主事、指導主事及び各教育事務所学校教育課長、指導主事、各市町村教育委員会指導主事等(下表)によって、幼稚園、小学校、中学校の指導に当たった。

	県北	県中	県南	会津	南会津	相双	いわき	計
指導主事数 (学校教育課長を含む)	11	12	9	12	7	11	6	68
市町村教育委員会 指導主事等数	24	35	9	14	4	14	22	122

(3) 学校教育指導の重点

学習指導要領の趣旨を踏まえ、資質・能力の育成を図るため、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、教育課程の改善・充実、学習指導と生徒指導の充実に努めた。

ア 教育内容・方法の改善充実に努めた。

(ア) 「学校教育指導の重点」などにより、具体的な実践例を紹介したり指導の重点を示したりし、授業の改善が図られるようにした。

(イ) 本県教育行政の推進を図るため、指導担当者の資質向上のための研修に努めた。

- 指導担当者研究協議会
- 主任指導主事等会議
- 学力向上担当指導主事会議
- 生徒指導担当指導主事会議
- 各教科等担当指導主事事前協議会
- ふくしま教育創造コンソーシアム

(ウ) 小・中学校教育課程研究協議会を開催し、学習指導要領の趣旨の徹底と教員の指導力向上を図った。

- 対象者 各校長・教頭及び教務主任、教科主任等のうちから各校1名参加

(エ) 福島県小・中学校教育研究会を共催し、教育課程実施上の諸問題を研究し、その改善・充実に努めた。

(オ) 各種研究学校(地区)を指定し、指導内容や指導方法の改善・充実に努めた。

- 文部科学省及び国立教育政策研究所の研究委託による研究指定校等
 - ・ 人権教育開発事業 ほか
- 県教育委員会による研究指定校
 - ・ ふくしまの学校キラリ学力向上プロジェクトほか

イ 教職員の資質と指導力の向上に努めた。

(ア) 小学校、中学校初任者研修の実施

(イ) 事務職員、教職経験者、校長研修会、新任校長、新任教頭、新任教務主任等の研修会の実施

(ウ) 中央研修講座への派遣

(エ) 長期研修生(内地留学)の派遣

(オ) 教育研究団体に対する援助と指導

(カ) 教職員研究論文の募集

ウ 免許外教科担当教員の研修の充実と指導力の向上に努めた。

(ア) 中学校免許外教科担任教員研修会

エ 幼稚園教育担当教員の研修の充実と指導力の向上に努めた。

(ア) 幼稚園等新規採用教員研修

(イ) 幼稚園等中堅教諭等資質向上研修

(ウ) 幼稚園教育理解推進事業中央協議会

(エ) 幼稚園等教育課程研究協議会(県内6地区開催)

(オ) 幼児教育実践研修会(県内4地区開催)

オ 生徒指導の充実に努めた。

(ア) 各種研修会を実施し、生徒指導の充実・改善に努めた。

- 不登校・いじめ等対策域別研修会

(県内7地区開催)

(イ) ピュアハートサポートプロジェクトを実施した。

いじめの問題の解消とその未然防止に努めるとともに、不登校等の学校不適応問題の解決に努めた。

- 教育相談体制の充実

- ・ スクールカウンセラー等活用事業
- ・ 緊急時カウンセラー派遣事業
- ・ 学校教育相談員(教育センターに配置)
- ・ スクールソーシャルワーカー派遣事業
- ・ ふくしま24時間子どもSOS
- ・ サポートティーチャー派遣事業
- ・ ふくしま子どもLINE相談

- 道徳教育の充実

- ・ 道徳教育総合支援事業
- ・ 道徳教育推進校による実践研究(県内7地区)

- 教育相談専門研修及び関係機関との連携強化

カ 社会の変化に対応した教育の充実に努めた。

(ア) 情報化社会への対応

- 学校におけるコンピュータ等の整備(市町村教委)

(イ) 国際化への対応

- 語学指導等を行う外国青年招致事業の実施

- 144名の外国JET青年の受入れ(99名を市町村教育委員会が配置)

(4) 県立中学校入学者選抜

ア 基本方針

「令和6年度福島県立中学校入学者選抜における基本方針」

県立中学校(以下「中学校」という。)入学者選抜は、志願者の意欲・能力・適性等を総合的にみる選抜(以下

「一般選抜」という。)によって行う。ただし、ふたば未来学園中学校においては、スポーツ選抜を行うことができる。選抜に当たっては、適性検査等の結果及び小学校の校長から提出される調査書を資料として総合的に判定し、入学予定者を決定するものとする。

(ア) 一般選抜

a 一般選抜は、各中学校の特色に配慮しつつ、各中学校の教育を受けるに足る意欲・能力・適性等を総合的に判断する選抜とし、すべての中学校で実施する。一般選抜には、その募集定員の中に各校の特色に応じて地域枠を設けることができる。なお、地域枠の選抜方法の内容は、一般選抜と同じとする。

b 選抜の資料は次のとおりとする。

(a) 適性検査1

問題発見・解決能力、思考力、判断力、表現力等、小学校における教育において身に付けた総合的な力をみる。

(b) 適性検査2

与えられた課題について考えたことや感じたことなどを文章等で表現する力をみる。

(c) 面接

志願者の目的意識、意欲や長所等をみる。

(d) 調査書

調査書は、福島県教育委員会教育長が定める様式及び調査書作成要領に基づき、志願者の在学している小学校の校長が作成する。

調査書には、各教科の学習の記録、総合的な学習の時間の記録、特別活動の記録、行動の記録などの記載を求め、小学校での学習や生活の状況をみる。

(e) その他

志願者の目的意識や地域への思い等について確認するため、志願理由書を用いることを可能とする。

(イ) スポーツ選抜

a スポーツ選抜は、運動能力や、中学校が行おうとする教育への意欲や態度、適性等を総合的にみて判断する選抜とし、ふたば未来学園中学校において実施する。

b 選抜の資料は次のとおりとする。

(a) 実技検査

中学校が求める生徒像に応じて内容を定めて実施し、運動能力をみる。

(b) 作文

与えられた課題について考えたことや感じたことなどを定められた文字数でまとめ、表現する力をみる。

(c) 面接

志願者の目的意識、意欲や長所等をみる。

(d) 調査書

調査書は、福島県教育委員会教育長が定める様式及び調査書作成要領に基づき、志願者の在学している小学校の校長が作成する。

調査書には、各教科の学習の記録、総合的な学習の時間の記録、特別活動の記録、行動の記録などの記載を求め、小学校での学習や生活の状況をみる。

(e) 志願理由書

志願者の目的意識や小学校での各種大会の成績等をみる。

(ウ) 入学予定者の決定に当たっては、次の手順で行う。

a 一般選抜は、まず、適性検査1及び適性検査2の成績の合計並びに調査書の成績のいずれもが定員内にある者で、かつ調査書の記載事項及び面接の結果に特に問題のない者を入学予定者とし、次にその他の者については、適性検査1及び適性検査2の成績、調査書の記載事項並びに面接の結果を十分に精査して、総合的に判定し、入学予定者を決定する。

ただし、学校の特色に応じて、上記によらず適性検査1及び適性検査2の成績、調査書の記載事項並びに志願理由書及び面接の結果を十分に精査して、総合的に判定し、入学予定者を決定することを可能とする。

b スポーツ選抜は、志願理由書、実技検査及び作文の成績、調査書の記載事項並びに面接の結果を十分に精査して、総合的に判定し、入学予定者を決定する。

(エ) 選抜結果については、志願者に通知するものとする。

(オ) 入学辞退その他の理由により入学予定者の定員に欠員が生じた場合は、入学予定者とならなかった者の中から速やかに新たな入学予定者を決定し、入学の意思を確認の上、補充するものとする。

イ 入学者選抜関係日程

6月8日 第1回県立中学校・高等学校入学者選抜事務調整会議
7月10日 第2回県立中学校・高等学校入学者選抜事務調整会議
8月23日 県立中学校・高等学校入学者選抜方法の改善等に関する調査研究報告書提出
9月28日 入学者選抜実施要綱説明会(県北・県中・県南地区)実施
9月29日 入学者選抜実施要綱説明会(会津・南会津地区)実施
10月1日 入学者選抜実施要綱説明会(相双・いわき地区)実施
10月20日 令和6年度入学者募集定員決定
12月4日～12月8日 出願書類受付
1月6日 一般選抜・スポーツ選抜
1月16日 選抜結果通知書の発送
1月17日～1月23日 入学確約書提出
1月24日～1月30日 欠員補充

2 現職教育

(1) 教職員等中央研修

ア 趣旨

各地域において中心的な役割を担う校長、副校長・教頭、中堅教員に対し、学校の管理運営、学習指導などの諸問題について、それぞれの職務に必要な研修を行い、その識見を高め、指導力の向上を図る。

イ 主催 独立行政法人教職員支援機構

ウ 共催 文部科学省
エ 会場 独立行政法人教職員支援機構
各所属校（オンライン研修）

オ 期間及び参加者

◇校長研修

6月26日（月）～6月30日（金）

田村市立滝根中学校 佐藤 知巨
教育センター 小川 和英

9月4日（月）～9月8日（金）

矢祭町立矢祭小学校 太田 徹

11月27日（月）～12月1日（金）

郡山市立富田東小学校 草野 節夫
郡山市立西田学園 桑名 秀和

◇副校長・教頭等研修

7月3日（月）～7月7日（金）

伊達市立伊達小学校 上遠野直人

8月21日（月）～8月25日（金）

福島市立南向台小学校 鈴木 文恵
会津美里町立本郷中学校 川島 淳

1月29日（月）～2月2日（金）

教育センター 渡邊 大輔

◇中堅教員研修

7月24日（月）～7月28日（金）

鏡石町立第一小学校 落合 優
会津若松市立第一中学校 山口 和晃
飯舘村立いいたて希望の里学園 青山 繁雄

10月23日（月）～10月27日（金）

二本松市立東和中学校 鈴木 直樹

1月22日（月）～1月26日（金）

塙町立塙中学校 後藤 悠理
郡山市立橋小学校 大堀 潤也
郡山市立郡山第五中学校 増子 高宏

◇次世代リーダー育成研修

7月31日（月）～8月4日（金）

本宮市立白岩小学校 藤堂 剛史
玉川村立玉川中学校 大越 龍
下郷町立旭田小学校 森 大二郎
福島市立下川崎小学校 小島 桃子

9月25日（月）～9月29日（金）

相馬市立中村第一中学校 渡部 兼介

11月6日（月）～11月10日（金）

白河市立五箇小学校 神野藤祐二
会津若松市立門田小学校 佐藤 文恵

(2) 各種研修会

ア 福島県公立学校長研修会地区別研修会（公立小・中・特別支援学校長、県立学校長）

(ア) 主催 福島県教育委員会

(イ) 管内・期日・会場・参加人数

○ 県北 6月13日（火）144名

【東和文化センター】

○ 県中 6月29日（木）164名

【たまかわ文化体育館】

○ 県南 7月26日（水）64名

【矢吹町文化センター】

○ 会津 6月21日（水）105名

【湯川村公民館】

○ 南会津 6月21日（水）22名

【南会津町御蔵入交流館】

○ 相双 6月14日（水）53名

【万葉ふれあいホール】

○ いわき 6月15日（木）112名

【各所属校（オンライン研修）】

イ 市町村立小・中・特別支援学校新任校長・副校長研修会

(ア) 主催 福島県教育委員会

(イ) 会場 各所属校（オンライン研修）

福島県教育センター

(ウ) 期日・参加人数

4月24日（月）、4月25日（火） 小学校61名

4月24日（月）、4月26日（水） 中学校33名

(エ) 講師 義務教育課課長 川井 孝寿 他

ウ 市町村立小・中・特別支援学校新任教頭研修会

(ア) 主催 福島県教育委員会

(イ) 会場 各所属校（オンライン研修）

福島県教育センター

(ウ) 期日・参加人数

4月27日（木）、4月28日（金） 小学校61名

4月27日（木）、5月12日（金） 中学校42名

(エ) 講師 義務教育課主幹 遠藤 裕一 他

エ 新任主幹教諭研修会

(ア) 主催 福島県教育委員会

(イ) 会場 福島県教育センター

(ウ) 期日・参加人数

5月23日（火） 小学校13名 中学校11名

(エ) 講師 義務教育課主幹 遠藤 裕一 他

オ 校長のためのマネジメント講座

(ア) 主催 福島県教育委員会

(イ) 会場 各所属校（オンライン研修）

福島県教育センター

(ウ) 期間・参加人数

6月8日（木）～6月9日（金）

小学校31名 中学校14名

(エ) 講師 義務教育課管理主事 國井 博 他

カ 教頭のためのマネジメント講座

(ア) 主催 福島県教育委員会

(イ) 会場 各所属校（オンライン研修）

福島県教育センター

(ウ) 期間・参加人数

8月31日（木）～9月1日（金）

小学校32名 中学校16名

(エ) 講師 義務教育課課長 川井 孝寿 他

キ 公立小・中学校5年経験者研修・中堅教諭等資質向上研修

(ア) 5年経験者研修

- 主催 福島県教育委員会
- 期日
 - (小) 1班：6月6日(火)
6月7日(水)、8月18日(金)
 - 2班：6月6日(火)
6月8日(木)、8月29日(火)
 - (中) 1班：9月8日(金)、10月4日(水)
10月18日(水)
 - 2班：9月15日(金)、10月17日(火)
10月18日(水)
- 会場 福島県教育センター
各所属校(オンライン研修)
- 参加人数 小学校93名 中学校41名
- 講師 義務教育課管理主事 國井 博 他

(イ) 中堅教諭等資質向上研修

- 主催 福島県教育委員会
- 期日
 - (小) 6月19日(月)、6月20日(火)
10月3日(火)
 - (中) 6月27日(火)
9月28日(木)、9月29日(金)
- 会場 福島県教育センター
- 参加人数 小学校53名 中学校29名
- 講師 教育センター依頼の外部講師・大学教授
教育センター指導主事等

ク 2年次教員フォローアップ研修

- (ア) 主催 福島県教育委員会
- (イ) 期日・会場
 - (小) 1班：6月14日(水)
2班：6月30日(金)
 - (中) 6月29日(木)
福島県教育センター
- (ウ) 参加人数 小学校106名 中学校65名

ケ 公立小・中学校初任者研修

- (ア) 校内における研修 120時間以上
各学校で年間を通じて計画し、実施する。
- (イ) 校外における研修 22日間

a 地区別研修A

- (7日間、各教育事務所の計画による)
- ・ 一般研修 1日間
 - ・ 授業研修 2日間
 - ・ へき地校研修 1日間
 - ・ カウンセリング研修 2日間
 - ・ 特別支援学校研修 1日間

b 地区別研修B

- (9日間、各市町村教育委員会の計画による)
- ・ 一般研修 1日間
 - ・ 研究発表集会等研修 5日間

- ・ 社会奉仕体験活動研修 2日間
- ・ 他校種園参観研修 1日間

c 1次研修

- ・ 各所属校(オンライン研修) 2日間
- ・ 磐梯青少年交流の家 1日間

d 2次研修

- ・ 各所属校(オンライン研修) 2日間
- ・ 福島県教育センター 1日間

(ウ) 参加人数 小学校165名 中学校73名

コ 公立小・中・特別支援学校事務職員研修

(ア) 新規採用職員研修

- ・ 対象 令和5年度新規採用者
- ・ 日数 前期3日間、後期5日間
- ・ 参加人数13名(小学校8名、中学校5名)

(イ) 基礎力アップ研修

- ・ 対象 採用後4年目
- ・ 日数 2日間
- ・ 参加人数19名(小学校12名、中学校7名)

(ウ) 応用力アップ研修

- ・ 対象 採用後8年目
- ・ 日数 2日間
- ・ 参加人数19名(小学校13名、中学校6名)

(エ) 実力行アップ研修

- ・ 対象 採用後12年目
- ・ 日数 2日間
- ・ 参加人数 1名(小学校1名)

(オ) 新任係長研修会

- ・ 対象 新任の主任主査
- ・ 日数 2日間
- ・ 参加人数 10名(小学校7名、中学校3名)

サ 事務職員研修(小・中学校)

- 主催 独立行政法人教職員支援機構
- 期間 小学校：9月4日(月)～9月8日(金)
中学校：9月4日(月)～9月8日(金)
- 参加人数 3名(小学校1名、中学校2名)
- 実施方法 集合・宿泊研修

(3) 教員長期研修

(研修機関、研修期間、研修生)

ア 上越教育大学

- (ア) 令和5年4月1日～令和7年3月31日
- 磐梯町立磐梯中学校教諭 舟木 修司
- 南会津町立荒海中学校教諭 田中 元

イ 福島大学

- (ア) 令和5年4月1日～令和7年3月31日
- 本宮市立岩根小学校教諭 菅野 千恵
- 福島市立大笹生小学校教諭 渡邊 佑斗
- 郡山市立薫小学校教諭 北田 香織
- 田村市立船引小学校教諭 山内健太郎
- 郡山市立郡山第五中学校教諭 松井 智宏
- 会津若松市立第四中学校教諭 遠藤 喬子

相馬市立向陽中学校教諭 伊藤 峻
 いわき市立錦小学校教諭 木村 史希
 いわき市立小名浜第二中学校教諭 宗像 祐介

(4) 令和5年度産業・情報技術等指導者養成研修(中学校)

教 科	技術・家庭
氏 名	渡邊 恵理嘉
職 名	教諭
所 属	浪江町立なみえ創成中学校
研修方法	オンライン研修
研修期間	8月1日～8月2日

(5) 教育研究奨励

- ア 名称 福島県教職員研究論文
 イ 主催 福島県教育委員会
 ウ 応募資格 福島県公立幼稚園・小・中(義務教育学校を含む。)・高・特別支援学校等教職員等
 エ 審査委員
 福島大学学校臨床支援センター教授 宗形 潤子
 福島県公立学校退職校長会代表 福士 寛樹
 福島県公立学校退職校長会代表 中村 利幸
 オ 応募数 28点
 カ 入賞者
 (ア) 特選

氏 名・学校名	所 属
天栄村立天栄中学校	団 体
棚倉町立棚倉小学校	団 体
教諭 横田みなみ	南会津町立南郷小学校
養護教諭 松本 冨加	猪苗代町立猪苗代中学校

(イ) 入選

氏 名・学校名	所 属
いわき市立久之浜第二小学校	団 体
塙町立塙小学校	団 体
教諭 久保木壮平	いわき市立中央台東小学校
教諭 國友 靖展	田村市立船引中学校
養護教諭 渡邊 里紗	泉崎村立泉崎中学校
教諭 村松こずえ	葵高等学校

(ウ) 奨励賞

氏 名・学校名	所 属
伊達市立保原小学校	団 体
教諭 岩谷 友太	昭和村立昭和小学校
教諭 菅野 健彦	本宮市立岩根小学校
教諭 尾形 尚樹	小高産業技術高等学校

3 教育課程

令和5年度福島県小・中学校教育課程研究協議会

(1) 令和5年度福島県小学校教育課程研究協議会

- ア 主催 福島県教育委員会
 イ 実施期間
 県北域内 9月6日(水)
 県中域内 9月7日(木)
 県南域内 9月6日(水)
 会津域内 9月25日(月)
 南会津域内 9月14日(木) 小中合同
 相双域内 9月15日(金)
 いわき域内 9月6日(水)
 ウ 実施教科等
 総則、国語、社会、算数、理科、生活、音楽、図画工作、家庭、体育、外国語、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動
 エ 参加者数 388名

(2) 令和5年度福島県中学校教育課程研究協議会

- ア 主催 福島県教育委員会
 イ 実施期間
 県北域内 8月30日(水)
 県中域内 9月14日(木)
 県南域内 8月29日(火)
 会津域内 9月28日(木)
 南会津域内 9月14日(木) 小中合同
 相双域内 9月8日(金)
 いわき域内 9月14日(木)
 ウ 実施教科等
 総則、国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、技術・家庭、外国語、道徳、総合的な学習の時間、特別活動
 エ 参加者数 231名

4 学力向上等

(1) ふくしまの学校“キラリ”学力向上推進事業

- ア ふくしまの学校“キラリ”学力向上推進事業
 イ リーディングスキルを視点とした授業づくり推進

(2) 一人一人を伸ばすふくしま学力向上推進事業

- ア ふくしま学力調査
 イ ふくしま学力調査研究委員会
 ウ 埼玉県教委とのワーキンググループ、連携協議会

(3) 「ふくしま活用力育成シート」実践事業

(4) 未来へはばたけ！イノベーション人材育成事業

- ア 理数教育優秀教員活用事業
 イ ふくしまスーパーサイエンススクール事業
 ウ 理数コンテスト事業
 エ 先端技術体験事業

(5) 少人数教育推進事業

学力向上や人間性・社会性の育成を総合的・効果的に推進するための「個に応じた指導」の徹底を図るため、チーム・

ティーチングや習熟度別等指導、及び30人学級編制等の少人数教育を進め、教員等の目が子ども一人一人に行き届き、きめ細かな指導や評価ができる体制を作る。

- 30人程度学級
- 30人学級編制（小1、小2、中1）

(6) 新時代の学びを支えるICT活用プロジェクト

- ア ふくしま「未来の教室」授業充実事業
- イ 次世代のためのメディアリテラシー育成事業

(7) ふくしま外国語教育創生事業

- ア 英語担当教員ネクストステージ事業
- イ 小中英語パートナーシップ事業

5 道徳教育

(1) 道徳教育

ア 道徳教育を担当する教職員や指導主事等に対し、専門的知見の習得、組織的な取組を推進する力や専門性向上を推進する力を育むことを目的とした研修

- (ア) 主催 独立行政法人教職員支援機構
- (イ) 期日

令和5年11月8日～10日

氏名	勤務先	職名
長澤 昭仁	福島市立庭坂小学校	校長
神尾 孝弘	川俣町立山木屋中学校	校長
松井 誓子	会津教育事務所	指導主事
穴澤 利典	郡山市教育委員会	指導主事
深瀬 和	いわき市総合教育センター	指導主事

イ 小学校教育研究会道徳部会

(ア) 研究主題

「自他との対話を通して、物事を多面的・多角的に考え、自己を見つめて、自己の生き方についての考えを深め、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育む授業の充実」

(イ) 主催 福島県小学校教育研究会

(ウ) 会場・期日

棚倉町立社川小学校

令和5年10月12日

ウ 中学校教育研究会道徳部会

(ア) 研究主題

「自己を見つめ、他者と共によりよい生き方を探求する道徳の学びはどうか」

(イ) 主催 福島県中学校教育研究会

(ウ) 会場・期日

いわき市立小名浜第一中学校

令和5年10月5日

(2) 道徳教育総合支援事業

ア 趣旨

学習指導要領の趣旨並びに児童生徒、学校等の実態を踏まえ、創意工夫を生かした道徳教育を推進するための実践研究を行い、その成果を普及することにより道徳教

育の充実を図る。

イ 福島県道徳教育推進協議会

年2回開催（6月6日、2月6日）

ウ 道徳教育地区別推進協議会

各事務所で設定、1回開催

エ 道徳教育推進校

小学校3校、中学校3校、高等学校1校

オ 道徳教育リーフレット等の作成

「道徳のとびら」（保護者、地域住民及び教職員向け）、

「道徳のかけ橋」「道徳の礎」（教職員向け）

(3) 人権教育

ア 人権教育研究開発事業

○ 趣旨

人権意識を培うための学校教育の在り方について幅広い観点から実践的な研究を行い、人権教育に関する指導方法等の改善及び充実を図る。

○ 推進地域

川内村（川内村教育委員会）

子ども園・義務教育学校（1園1校）

○ 研究テーマ

自他の大切さを認め合い、学び合う子どもの育成

～子ども一人一人を尊重し、支え合い高め合う保育・教育活動を通して～

○ 研究期間 令和4・5年度

イ 人権教育推進研修（NITSオンライン研修）

○ 主催 独立行政法人教職員支援機構

○ 期日 令和5年6月21日～23日

○ 実施方法 Web会議サービスを用いた同時双方向通信によるオンライン研修

○ 参加者 川内村教育委員会主幹兼指導主事 豊田 邦久

川内村立川内小中学園教諭 草野 拓也

(4) 「モラル・エッセイ」コンテスト

ア 趣旨

モラルやマナー、いのち、家族、人との絆など、心温まるちょっといいお話、今伝えたいメッセージ等を募集し、学校と家庭・地域が一体となって、子どもたちの道徳的実践力を養うとともに、県民一丸となって「生きる力」を身に付ける機会とする。

イ 応募期間 令和5年7月3日～9月8日

ウ 応募数

中学校 1042点

高等学校 125点

一般 4点

エ 受賞者

【中学校】

最優秀賞 福島大学附属中学校 1年 横山 和奏

優秀賞 いわき市立中央台北中学校 3年 山内 荘大

会津若松市立第二中学校 1年 星 隆太郎

【高等学校】

最優秀賞 好間高等学校 3年 西山 莉央

優秀賞 福島商業高等学校 2年 酒井 祈愛
 福島商業高等学校 2年 赤間伊吹樹

【一般】

最優秀賞 西郷村在住 蛭田 敦子
 優秀賞 南相馬市在住 手戸みきこ
 鏡石町在住 小貫明日香

○ 参加者
 南相馬市立大甕小学校 校長 石川 貴義
 福島市立杉妻小学校 教諭 横山 雄大
 郡山市立金透小学校 教諭 佐藤 正命
 いわき市総合教育センター 指導主事 深瀬 和
 ふたば未来学園高等学校 教諭 大谷 充晴

6 特別活動

(1) 県小学校教育研究会特別活動部会

- ア 主催 県小学校教育研究会
 イ 研究主題
 様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を發揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、資質・能力を育成する特別活動の指導の在り方
 ウ 県研究協議会
 ○ 会場 下郷町立旭田小学校
 下郷町ふれあいセンター
 ○ 期日 令和5年10月20日

(2) 県中学校教育研究会特別活動部会

- ア 主催 県中学校教育研究会
 イ 研究主題
 様々な集団活動に自主的・協働的に取り組み、集団や個人の課題を解決し、よりよい社会を目指す生徒を育むためにはどうすればよいか。
 ウ 県研究協議会
 ○ 会場 いわき市立錦中学校
 ○ 期日 令和5年10月5日

7 生徒指導・進路指導

(1) 生徒指導

- ア 生徒指導研究推進協議会（オンライン開催）
 国立教育政策研究所主催
 ○ 期日 令和5年7月18日
 ○ 参加者 20名
 イ 生徒指導基幹研修（オンライン開催）
 ○ 期日 令和5年8月1日～8月31日の間の3日間
 を選択
 ○ 参加者 36名
 ウ 教育相談基幹研修
 ○ 期日 令和5年5月24日～5月26日
 ○ 方法 オンライン研修会
 ○ 参加者
 会津若松市立城南小学校 教諭 奥 寿江
 郡山市立第四中学校 教諭 内山あつ子
 会津教育事務所 指導主事 塚原 直樹
 いわき市総合教育センター 指導主事 小野 知子

(1) 進路指導・キャリア教育

- ア キャリア教育指導者養成研修
 ○ 期日 令和5年8月22日～8月25日

8 幼稚園教育

令和5年度公立幼稚園数は、110園で、学級数は281学級であった。幼児数減少により、少人数保育になっているところもある。県全体の公立幼稚園における、1学級あたりの平均園児数は、14.1人である。

幼稚園教育の一層の充実を図るため、私学・法人課及び子育て支援課と連携し、次の事業を実施した。

(1) 幼稚園等教育課程研究協議会

- ア 主催 福島県教育委員会
 イ 期日 県北域内 9月21日(木)
 県中域内 9月26日(火)
 県南域内 9月28日(木)
 会津・南会津域内 9月29日(金)
 相双域内 9月27日(水)
 いわき域内 9月22日(金)

- ウ 内容
 ○ 協議「指導計画の作成と改善による保育の見直し」
 ○ 演習「個別の教育支援計画の作成とケース会議」
 エ 参加者 247名（6地区合計）

(2) 幼児教育実践研修会

- ア 主催 福島県教育委員会
 イ 期日 県北・相双 7月25日(火)
 県中・県南 7月26日(水)
 会津・南会津 7月27日(木)
 いわき 7月31日(月)

- ウ 内容
 ○ 講義・演習「幼児期の遊びと環境構成」
 ○ 講義・演習「子どもの虐待予防と児童相談所の役割」
 ○ 講義・演習「幼児期の遊びを小学校につなぐ」
 ○ 講義・演習「学びをつなぐ幼保小の架け橋期のカリキュラム」
 エ 参加者 293名（4地区合計）

(3) 福島県幼稚園等新規採用教員研修

- ア 主催 福島県教育委員会
 イ 期日 年間
 ウ 内容・日数・会場
 ○ 園内研修…10日（勤務園）
 ・内容…①基礎的素養 ②学級経営 ③教育課程・指導計画 ④幼児理解・評価 ⑤連携
 ○ 園外研修…10日
 ・地区別研修…3日（各教育事務所）
 ・参観研修…3日
 研究実践幼稚園参観（1日）

保育所、認定こども園（保育部）参観（1日）

小学校参観（1日）

・集合研修…3日（県教育センター）

・選択研修…1日

福島大学附属幼稚園研究公開、福島県幼児教育実践
研修会 等への参加

エ 参加者 研修対象者 公立44名 私立39名 計83名

(4) 幼稚園等中堅教諭等資質向上研修

ア 主催 福島県教育委員会

イ 期日 年間

ウ 日数・内容・会場

○ 園内研修…7日以上

- ・保育力の向上に関する研修（3日以上）
- ・教育課題の解決に向けた実践に関する研修（2日以上）
- ・パイオニア研修（2日以上）

○ 園外研修…5日以上

- ・悉皆研修…4日
共通研修（1日）（各教育事務所）
マネジメント研修（2日）（教育センター）
社会体験研修（1日）（社会体験を行う各施設等）
- ・選択研修…1日以上
大学附属幼稚園の研究公開、特別支援教育センターに
おける専門研修等への参加

エ 参加者 研修対象者 公立19名 私立0名 計19名

(5) 幼児教育専門研修

ア 主催 独立行政法人教職員支援機構

イ 期日 令和5年9月11日（月）～9月13日（水）

（Web会議サービスを用いた同時双方向通信による
オンライン研修）

ウ 参加者

認定こども園きぼう	山本 直美
飯舘村立までのりのこども園	安藤 祥子
子育て支援課	瀬川満美子
義務教育課	渡部 和幸

(6) 幼小連携理解推進研修会

ア 主催 福島県教育委員会

イ 期日 令和5年6月27日（火）

ウ 会場 環境創造センター（コミュタンふくしま）

エ 内容

- 講義・協議「幼小連携の充実に向けて」
- 講義・協議「幼児教育の充実に向けて」

オ 参加者 市町村における幼児教育担当者等 18名

(7) 架け橋期の学びをつなぐ推進モデル地区 公開保育

ア 主催 福島県教育委員会・モデル市

イ 期日 田村市 9月1日（金）及び11月8日（水）

喜多方市 10月24日（火）及び11月17日（水）

南相馬市 11月1日（水）及び11月24日（水）

ウ 内容 保育参観及び研究協議等

エ 参加者 329名（3地区合計）

9 へき地教育

本県におけるへき地学校は、県全体の小・中学校別の総数
に対して、小学校89校で22.9%、中学校59校で28.1%を占め、
小・中学校総数に対して26%の割合となっている。

このへき地、山村、過疎地域の教育の振興を図るため、下記
の事業を実施した。

(1) 複式学級担当教員研修会

ア 主催 福島県教育委員会

イ 期日 令和5年5月30日（火）

ウ 会場 福島県教育センター

エ 講師 小学校教諭 他

オ 参加者数 27名

(2) 中学校免許外教科担当教員研修会

ア 主催 福島県教育委員会

イ 期日 1班 令和5年5月17日（水）、18日（木）

5月23日（火）、24日（水）

2班 令和5年5月19日（金）

5月25日（木）、26日（金）

ウ 会場 福島県教育センター

エ 講師 中学校教諭 他

オ 参加者 1班 33名 2班 35名

(2) 全国へき地教育研究大会

第72回全国へき地教育研究大会兵庫大会

ア 主催 文部科学省、全国へき地教育研究連盟

兵庫県教育委員会 他

イ 期日 令和5年10月12日（木）～10月13日（金）

ウ 会場 全体会 姫路市市民会館

分散会 姫路市市民会館

分科会 兵庫県内7校8会場

エ 研究主題

○ 大会主題

「ふるさとに夢や誇りをもって、未来の創り手となる
子どもの育成」～へき地・複式・小規模校の特性を生かし
た学校・学級経営と学習指導の深化・充実をめざして～

オ 新型コロナウイルス感染拡大防止のためハイブリッド開催

(4) 福島県へき地・小規模学校教育研究会

平成22年度末に福島県へき地・小規模学校教育研究会が
解散している。

10 環境教育

学校における環境教育は、学校教育全体を通して行う必要
があり、自然とふれあいを深め自然を愛護することの大切さ
を理解させるように努めている。

(1) 小・中学生3県交流事業「尾瀬子どもサミット」オンラ イン交流会

ア 主催 福島県教育委員会

新潟県教育委員会

群馬県・群馬県教育委員会

イ 期日 令和5年9月29日（金）

ウ 参加校 玉川村立玉川第一小学校（福島県）

南会津町立荒海中学校（福島県）
 魚沼市立堀之内小学校（新潟県）
 魚沼市立広神東小学校（新潟県）
 沼田市立利根小学校（群馬県）
 群馬県立中央中等教育学校（群馬県）

エ 講師 公益財団法人尾瀬保護財団 登坂 秀季 氏

ア 教科用図書選定審議会

(7) 委員 16名

(イ) 任期 令和5年4月1日～令和5年8月31日

(ウ) 開催期日 第1回 令和5年4月17日

第2回 令和5年6月1日

(エ) 会場 第1回 杉妻会館

第2回 杉妻会館

1 1 教科用図書

(1) 令和6年度使用教科用図書の採択

公立小・中学校教科用図書の採択は、「義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律」に基づき、小学校用教科用図書、中学校用教科用図書、学校教育法附則第9条図書を採択した。

イ 教科書展示会

令和5年6月14日から14日間、県内21の会場で開催した。会場及び来会者は次の表のとおりである。

教科書センター (展示会場)	採択地区名	展示教科書 (該当に○印)			展示会場設置場所 (該当に○印)			来会者 総数
		小・中・高	小・中	高	教科書センター	分館	その他	
福島教科書センター(福島市立図書館)	福島地区	○			○			132
伊達教科書センター(伊達市立図書館)	川俣・伊達・安達地区		○		○			88
二本松教科書センター(二本松市文化センター)	〃		○		○			182
郡山教科書センター(郡山市中央図書館)	郡山地区	○			○			90
須賀川教科書センター(文化の森てんえい)	岩瀬地区		○			○		48
〃 (須賀川市中央図書館)	〃		○		○			139
石川教科書センター(石川中学校)	石川地区		○		○			84
三春教科書センター(常葉公民館)	田村地区		○		○			45
〃 (三春小学校)	〃		○		○			71
〃 (小野町ふるさと文化の館)	〃		○		○			16
西白河教科書センター(白河市立図書館)	西白河・東白川地区	○			○			178
東白川教科書センター(棚倉町立図書館)	〃	○			○			63
会津若松教科書センター(会津若松市歴史資料センター)	会津地区	○			○			28
喜多方教科書センター(喜多方第一小学校)	〃	○			○			30
会津坂下教科書センター(坂下南小学校)	〃	○			○			30
南会津教科書センター(南会津町役場)	〃		○		○			8
南会津教科書センター(南会津中学校)	〃		○			○		16
相馬教科書センター(相馬市教育研究実践センター)	相馬地区	○			○			93
双葉教科書センター(富岡町文化交流センター)	双葉地区		○		○			43
いわき教科書センター(いわき市総合教育センター)	いわき地区	○			○			93
県立図書館			○				○	
合 計	(展示会場21箇所) (採択地区11地区)	9	12		18	2	1	1477

ウ 令和6年度使用小学校教科書採択一覧（採択1年目）

採択地区	種目	国語	書写	社会	地図	算数	理科	生活	音楽	図画 工作	家庭	保健	英語	道徳
福島		東書	東書	東書	帝国	東書	啓林館	啓林館	教芸	日文	開隆堂	東書	東書	学研
川俣・伊達・安達		光村	光村	東書	帝国	東書	東書	東書	教出	開隆堂	開隆堂	東書	東書	東書
郡山		光村	光村	東書	帝国	東書	東書	啓林館	教芸	日文	開隆堂	光文	東書	学研
田村		光村	光村	東書	帝国	東書	東書	東書	教芸	開隆堂	開隆堂	東書	三省堂	東書
岩瀬		光村	光村	東書	帝国	東書	東書	東書	教出	日文	開隆堂	東書	三省堂	東書
石川		光村	光村	東書	帝国	東書	東書	東書	教芸	日文	開隆堂	東書	三省堂	東書
西白河・東白川		光村	光村	東書	帝国	東書	東書	東書	教出	日文	開隆堂	東書	東書	光文
会津		光村	光村	東書	帝国	東書	東書	東書	教出	日文	東書	東書	東書	学研
相馬		光村	光村	東書	帝国	教出	東書	東書	教芸	日文	東書	東書	開隆堂	東書
双葉		光村	光村	東書	帝国	東書	東書	東書	教芸	日文	東書	東書	東書	光文
いわき		光村	東書	東書	帝国	東書	東書	東書	教出	日文	東書	東書	東書	東書

エ 令和6年度使用中学校教科書採択一覧（採択4年目）

採択地区	種目	国語	書写	社会 (地理的 分野)	社会 (歴史的 分野)	社会 (公民的 分野)	地図	数学	理科	音楽 (一般)	音楽 (器楽 合奏)	美術	保健 体育	技術 ・家庭 (技術)	技術 ・家庭 (家庭)	英語	道徳
福島		光村	東書	帝国	東書	東書	帝国	東書	東書	教芸	教芸	日文	東書	開隆堂	開隆堂	東書	光村
川俣・伊達・安達		光村	東書	帝国	東書	東書	帝国	東書	東書	教出	教出	日文	東書	東書	東書	東書	東書
郡山		光村	光村	帝国	帝国	東書	帝国	東書	東書	教芸	教芸	日文	学研	東書	東書	東書	東書
田村		光村	光村	帝国	東書	東書	帝国	東書	東書	教出	教出	日文	東書	東書	東書	東書	東書
岩瀬		光村	光村	帝国	東書	東書	帝国	東書	東書	教出	教出	日文	東書	東書	東書	東書	東書
石川		光村	光村	帝国	東書	東書	帝国	東書	東書	教出	教出	日文	東書	東書	東書	東書	東書
西白河・東白川		光村	光村	東書	東書	東書	帝国	東書	東書	教出	教出	日文	東書	東書	開隆堂	東書	日文
会津		光村	光村	東書	東書	東書	帝国	東書	東書	教芸	教芸	日文	学研	東書	東書	東書	日文
相馬		光村	光村	帝国	東書	東書	帝国	東書	東書	教芸	教芸	日文	東書	東書	開隆堂	東書	東書
双葉		光村	光村	東書	東書	東書	帝国	東書	東書	教芸	教芸	日文	東書	東書	東書	東書	東書
いわき		光村	光村	帝国	東書	東書	帝国	東書	東書	教出	教出	日文	東書	東書	東書	東書	教出

(2) 教科用図書無償給与

令和5年度も義務教育諸学校的全児童生徒に教科書の無償給与が行われた。また、令和6年度使用教科用図書無償給与事務説明会を市町村教育委員会及び県立特別支援学校・私立学校等の教科書事務担当者を対象に下表のとおり開催し、適正かつ円滑な事務処理が図られるようにした。

期 日	会 場	参集範囲
令和6年2月13, 14日	県北教育事務所	県 北
令和6年2月15, 16日	郡山合同庁舎	県 中
令和6年2月5日	白河合同庁舎	県 南
令和6年2月8日	道の駅あいづ 湯川・会津坂下	会 津
令和6年2月9日	南会津合同庁舎	南会津
令和6年2月7日	南相馬合同庁舎	相 双
令和6年2月2日	いわき合同庁舎	いわき

1 2 教育研究団体

(1) 福島県国公立幼稚園・子ども園協議会

ア 研究主題（令和5年度）

共通協議 主題	「幼児教育と小学校教育の架け橋期特別委員会」における議論等を踏まえ、幼児教育と小学校教育の円滑な接続の推進について
協議主題 1	「幼児教育と小学校教育の架け橋期特別委員会」における議論等を踏まえ、幼児教育の質に関する認識の共有、家庭や地域との連携の在り方について
協議主題 2	指導計画の作成、保育の展開、指導の過程の評価・改善について

イ 組織及び財政の状況

- 会 長 川田 潤（福島大学附属幼稚園長）
- 会員数 614名
- 令和5年度予算額 2,419,174円
上記のうち補助金 なし

ウ 主な事業

- 福島県公立幼稚園・こども園協議会第1回委員
 (ア) 期日・会場
 令和5年4月19日(水)・福島市吾妻学習センター
- 研究主題研修会
 (ア) 期日・会場
 令和5年5月31日(水)・福島市吾妻学習センター
- (イ) 講師 県教育庁義務教育課指導主事
- ブロック研究協議会
 (ア) 期日・公開園
 県北ブロック・国見町立くにみ幼稚園
 桑折町立醸芳幼稚園 10月18日(水)
 県中ブロック・天栄村立天栄幼稚園 10月13日(金)
 県南ブロック・矢吹町立矢吹幼稚園 10月25日(水)
 会津ブロック・(公開なし) 10月6日(金)
 相双ブロック・飯舘村立までの里こども園
 10月27日(金)
 いわきブロック・いわき市立藤原幼稚園
 10月26日(木)
- (イ) 講師 県教育庁義務教育課指導主事

(2) 福島県小学校教育研究会

- ア 基本主題 (令和4年度～令和6年度)
 (ア) 「児童自らあらゆる他者と豊かにかかわり、未来社会の創り手として必要な力をはぐくむ授業の充実」
- イ 各研究部研究主題

研究部	研究主題
国語	言葉による見方・考え方を働かせ、言葉で理解したり表現したりしながら、自分の思いや考えを広げ深める指導はどうあればよいか。
社会	社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究・解決する活動を通して、国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成する社会科の授業はどうあればよいか。
算数	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、算数を学ぶ楽しさやよさを実感し、生活や学習に主体的にかかわる子どもの育成
理科	自然に親しみ、理科の見方・考え方を働かせ、資質・能力を育成する授業の充実
生活・総合	人々・社会・自然に進んでかかわり、自らの考えを生かして学び合い、深い学びを実感できる子どもの育成
音楽	多様な音楽活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、他者と協働しながら、音楽に親しむ子どもの育成
図画工作	児童一人一人が造形的な見方・考え方を働かせ、資質・能力を発揮して、表現や鑑賞の活動を行い、つくりだす喜びを味わうことのできる図画工作科の指導

研究部	研究主題
家庭	家族の一員として日常生活の課題を解決する力を養い、家族や地域とかかわりながら、生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度をはぐくむ授業の充実
体育	体育や保健の見方・考え方を働かせる学びを通して、心と体の高まりを実感できる子どもの育成
外国語	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、聞くこと・読むこと・話すこと・書くことなどの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成する指導はどうあればよいか。
道徳	自他との対話を通して、物事を多面的・多角的に考え、自己を見つめて、自己の生き方についての考えを深め、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度をはぐくむ授業の充実
特別活動	様々な集団活動に自主的・実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、資質・能力を育成する特別活動の指導の在り方

ウ 組織及び財政の状況

- (ア) 会長 佐野 光洋 (郡山市立小原田小学校)
- (イ) 会員数 4,834名
- (ウ) 令和5年度決算額 3,417,287円

エ 主な事業

- 研究協議会
 (ア) 主催 福島県小学校教育研究会
 (イ) 共催 福島県教育委員会・開催地区関係市町村教育委員会
- (ウ) 期日・会場
 a 地区研究協議会 各地区
 各地区の計画による
 b 県研究協議会 10月4日(水)～10月31日(火)
 県内12会場
- (エ) 指導助言者 指導主事等

(3) 福島県中学校教育研究会

- ア 研究主題
 (ア) 基本主題
 「主体的・対話的で深い学びを通して社会を生き抜く資質・能力を身に付け、ふくしまの未来を創造する生徒の育成」

イ 各部研究主題

研究部	研究主題・研究副主題
国語	言葉を用いて社会を見つめ、自ら関わろうとする姿勢を育み、思いや考えを伝え合う力を育成する指導はどうすればよいか。 ～思考力、判断力、表現力等を育成する指導の工夫～
社会	持続可能な社会を実現するために必要な資質・能力を育む社会科の指導はどうすればよいか。 ～多面的・多角的に事象を捉え、考察する力を高める授業の工夫～
数学	数学的に考える資質・能力を育成する指導はどうすればよいか。 ～思考力、判断力、表現力等を育成する指導の工夫～
理科	科学的に探究する学習活動を通して、未来を創造するための資質・能力を育成する指導はどうすればよいか。 ～科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する単元構想の工夫～
音楽	音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成する指導はどうすればよいか。 ～音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを図る学習指導の工夫～
美術	多様な見方や感じ方を深め、心豊かに創造する力を育む造形活動はどうすればよいか。 ～多様な価値観を育む指導の工夫～
保健体育	体育や保健の見方・考え方を働かせ、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育む指導はどうすればよいか。 ～運動課題の解決を目指す協働的な学習活動の工夫と学習評価の改善（体育分野）～
技術・家庭	生活の営みや技術に係る見方・考え方を働かせ、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を育成するための指導はどうすればよいか。 ～主体的・対話的で深い学びを展開するための指導過程の工夫～
英語	社会や世界と向き合い、他者のと関わりを大切にしながらか目的や場面、状況等に応じて、情報や考えなどを伝え合うコミュニケーション能力を育む指導はどうすればよいか。 ～情報や自分の考えなどを形成・再構築し、伝え合うための指導過程の工夫～

研究部	研究主題・研究副主題
道徳	自己を見つめ、他者と共によりよい生き方を探求する道徳の学びはどうすればよいか。 ～自己を振り返り、よりよい生き方についての考えを深めることができる指導方法の工夫～
特別活動	様々な集団活動に自主的・協働的に取り組み、集団や個人の課題を解決し、よりよい社会を創ろうとする生徒を育む指導はどうすればよいか。 ～集団生活への参画を通して、課題を解決する力の育成～

ウ 組織及び財政の状況

(ア) 会長 高澤 正男（福島市立野田中学校）

(イ) 会員数 2,600名

(ウ) 令和5年度決算額 5,989,942円

エ 主な事業

○ 研究協議会

(ア) 主催 福島県中学校教育研究会

(イ) 共催 福島県教育委員会

(ウ) 期日・会場

a 支部研究協議会 各支部
各支部の計画による

b 県研究協議会 10月5日（木）
いわき地区12会場

(エ) 指導助言者 指導主事等

(4) 福島県小学校長会

ア 組織及び財政の状況

(ア) 会長 佐藤 浩昭（福島市立清明小学校）

(イ) 会員数 384名

(ウ) 令和5年度決算額 13,254,075円

イ 主な事業

○ 第52回福島県小学校長会研究協議会（会津大会）

(ア) 開催期日 令和5年8月1日（火）～8月2日（水）

(イ) 会場 東山グランドホテル

(5) 福島県中学校長会

ア 組織及び財政の状況

(ア) 会長 福地 裕之（福島市立福島第四中学校）

(イ) 会員数 211名

(ウ) 令和5年度決算額 8,318,950円

イ 主な事業

○ 第51回福島県中学校長会研究協議会

（第73回東北地区中学校長会研究協議会を兼ねる）

(ア) 開催期日 令和5年6月30日（金）

(イ) 会場 会津若松ワシントンホテル

(6) 福島県公立小・中学校教頭会

ア 組織及び財政の状況

(ア) 会長 村上 淳（福島市立北信中学校）

(イ) 会員数 594名

(ウ) 令和5年度決算額 12,256,789円

イ 主な事業

○ 令和5年度福島県公立小・中学校教頭会総会及び研修会

(ア) 開催期日 5月10日(水)

(イ) 会場

※ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため書面開催

(7) 福島県学校図書館協議会

ア 組織及び財政の状況

(ア) 会長 橋本ゆかり(郡山市立桃見台小学校)

(イ) 加盟校 591校

(ウ) 令和5年度決算額 889,897円

イ 主な事業

(ア) 第41回東北地区学校図書館研究大会福島大会

(イ) 研究主題「未来を拓く 学びをひろげ、豊かな心を育む 学校図書館」

(ウ) 開催期日 令和5年11月16日(木)、17日(金)

(エ) 会場 1日目 郡山市立明健中学校
郡山市立朝日が丘小学校
郡山市立中央公民館

2日目 郡山市立中央公民館

(オ) 参加人数 290人

(8) 福島県公立小中学校事務研究会

ア 組織及び財政の状況

(ア) 会長 尾又 芳行

(イ) 会員数 490名

(ウ) 令和5年度決算額 2,579,428円

イ 主な事業

○ 学校事務研修会

令和5年5月24日(水) 郡山ユラックス熱海

第4節 国際化・科学技術の進展等への対応

1 中学生・高校生の科学・技術研究論文

野口英世賞募集

(1) 募集の趣旨

郷土が生んだ世界的な医学者、「医聖 野口」とうたわれた野口英世博士の名を冠した賞を制定し、県内の中学校・高等学校生徒を対象に論文の募集、表彰を行い、科学及び技術の発展に対応した人材の育成に努める。

(2) 応募期間

令和5年9月1日（金）～9月8日（金）

(3) 応募数

中学校 21点（4校）

高等学校 35点（7校）

(4) 審査会

令和5年10月12日（木） 自治会館 502会議室
（審査員長）

福島大学教授 柴崎直明
（審査員）

福島大学准教授 高安 徹

福島大学准教授 兼子伸吾

郡山女子大学准教授 影山志保

県中学校教育研究会理科部長 阿部洋己

福島成蹊中学校・高等学校校長 本田哲朗

県高等学校教育研究会理科部会長 猪俣 豊

(5) 受賞者

【中学校】

・個人研究の部

賞	氏名	学校名	論文の題名
最優秀賞	守谷 史佳	福島大学附属中学校	ミドリジミ類のオスの翅の色味・輝きの役目
優 秀 賞	横川 眞子	福島大学附属中学校	「あさがおのつるの研究⑦」つるの巻きつき・ゆるみに植物ホルモンが与える影響
	長南 晴矢	福島大学附属中学校	月面基地同士の最短経路をシャボン液で考える～Ver. 2～
入 選	八島 結瑞	桑折町醸芳中学校	地震で起こる液状化現象って何？軟弱地盤から家を守る最強耐震の研究
	井上 怜亮	いわき市立藤間中学校	勿来海岸の砂は日本国内でも珍しい砂なのか

・共同研究の部

賞	団体名	論文の題名
優 秀 賞	葛尾村立葛尾中学校	「タンポポに体内時計があるか探ろう」Ⅱ

【高等学校】

・個人研究の部

賞	氏名	学校名	論文の題名
最優秀賞 優秀賞 入選	該当なし		

・共同研究の部

賞	団体名	論文の題名
最優秀賞	福島県立会津学鳳高等学校 SSH探求部古生物班	上部白亜系双葉層群足沢層に産出する浮遊性有孔虫化石について
優秀賞	該当なし	
入選	福島県立ふたば未来学園高等学校 自然科学・地球環境探究ゼミ	ホタル保護のためのカワニナの生態調査Ⅰ
	福島県立安積高等学校 カンゾウ班 福島県立安積高等学校 SSH情報班	水耕栽培によるカンゾウの発根実験 blenderによるボウリングゲームのシミュレーション

2 中学生・高校生の国際理解・国際交流論文

朝河貫一賞募集

(1) 募集の趣旨

国際化の進展に対応し、世界のさまざまな文化や価値観を尊重するとともに、国際社会の平和と発展を担っていくことのできる青少年の育成を図る観点から、郷土が生んだ国際的な歴史学者「朝河貫一 博士」の名を冠した賞を制定し、県内の中学校（義務教育学校後期課程を含む）・高等学校の生徒を対象に論文の募集、表彰を行い、国際化に対応した人材の育成に努める。

(2) 応募期間

令和5年9月1日（火）～9月9日（水）

(3) 応募数

中学校 32点（12校）

高等学校 34点（9校）

(4) 審査会

令和5年10月12日（木） 自治会館 特別会議室

（審査員長）

福島大学准教授

真歩仁 しょうん

（審査員）

社会福祉法人福島いのちの電話理事

玄永 牧子

郡山ザベリオ学園小学校英語助教諭

ランジア・アンドリュース

福島民報社論説委員長

五十嵐 稔

福島民友新聞社編集局次長・出版部長

中田 和宏

福島県中学校教育研究会国語部長

吉川 信夫

福島県高等学校長協会普通部会長

菊池 直之

(5) 受賞者

【中学校の部】

賞	氏名	学校名	学年	論文の題名
最優秀賞	千葉あきの	会津美里町立高田中学校	3	同じベクトルで歩める世界へ
優秀賞	星野 咲希	福島市立松陵中学校	2	広がる支援の輪
	二階堂璃子	福島大学附属中学校	2	私たちの責任と役目を果たすために
	佐久間千陽	二本松市立安達中学校	3	朝河が貫いた信念と平和への道
	芳賀 夏愛	矢吹町立矢吹中学校	3	矢吹町から地球の未来を考える
入選	金谷ひまわり	喜多方市立第二中学校	3	ソロモン諸島の体験から考える、 日本が果たすべき国際社会への貢献
	佐々木智里	二本松市立安達中学校	3	今の私に出来ることを
	阿部ふたば	いわき私立上遠野中学校	3	被爆国日本より広げる平和

【高等学校の部】

賞	氏名	学校名	学年	論文の題名
最優秀賞	鈴木 桜子	原町高等学校	1	「真の国際交流」の在り方 - 原爆投下を通して考える -
優秀賞	笠巻 心晴	郡山東高等学校	1	3.11を通して私たちは被害者になったのか、 加害者になったのか
	門馬 莉菜	相馬高等学校	2	半径2mを飛び越えて - 相馬から世界を、未来を考える -
	品川 絢香	原町高等学校	3	世界の幸福度ランキング上位を目指すには
	井戸川孝規	原町高等学校	3	外国人労働者と多文化共生
	清野 笑日	磐城高等学校	1	被災地探究と国際社会との関わり - 東日本大震災の経験から -
入選	根本すみれ	あさか開成高等学校	1	オーストラリア研修で改めて感じたこと
	星 一瑠羽	南会津高等学校	2	東日本大震災から考える国際協力の必要性

第6章 高等学校教育

第1節 概要

今年度は、高等学校において、主体的・対話的で深い学びの視点も取り入れて生徒の学力向上を図り、将来への展望を抱かせるとともに、地域に貢献できる人材や社会においてリーダーシップを発揮できる人材を育成し、教員研修及び生徒指導等に取り組んだ。

(1) 「ふくしまを創る若者のプラットフォーム構築事業」

ア 地域ネットワーク推進委員の配置

県北地区の伊達高等学校、県南地区の白河旭高等学校、会津地区の喜多方高等学校、いわき地区の磐城桜が丘高校を拠点校に指定し、地域コーディネーターを1人ずつ配置した上で、県中地区の郡山東高校、南会津地区の南会津高校、相双地区の相馬総合高校を訪問校に指定して、学校と地域の協働を推進するとともに、「人材ネットワークバンク」を作成した。

イ 「若手人材」・「地域人材」を活用した地域課題探究活動を支援する取組

「若手人材」・「地域人材」を活用した地域課題探究活動を推進するために、県立高校に予算配分等の支援を実施した。
対象校 全県立高校

ウ 社会貢献活動コンテストの開催

復興に貢献する人材育成を目的に開催。県内の高校生が地域課題の解決に向けた取組について発表した。

エ 教員研修会の開催

地域課題探究活動を充実させ、生徒自らが正解のない問いに対して主体的に取り組む姿勢を確立するために、探究活動のプログラム作成について各校代表の教員に対して研修及び情報交換の機会を設けた。

(2) 「ふくしま高校生学びの変革支援事業」

ア 未来を担う高校生の資質・能力育成事業

○ 対象 県立高等学校1・2年生

○ 実施内容

(ア) 1年生対象：予備校講師等による難関大合格に向けた学習セミナー（国語・数学・英語）と県内出身の大学生と高校生のパネルディスカッションを実施した。

(イ) 2年生対象：予備校講師等による難関大合格に向けた学習セミナー（数学・英語）および知事を講師とした県総合計画に関する特別授業を実施した。

イ 進路実現のための資質・能力育成事業

○ 対象校 21校

○ 各校の取組内容

- ・思考力・判断力・表現力等の養成講座
- ・教員による、難関大学等の入学試験問題の研究と発展的内容に係る指導
- ・生徒の実態に応じた各校独自作成による校内模擬試験等の実施
- ・社会人としての在り方についての理解を深める講話
- ・大学教授等による最先端研究や理論に関する講義や演習
- ・大学等と連携した最先端研究実習体験や課題研究指導（選択）
- ・卒業生（大学生等）による講話
- ・保護者を交えた進学勉強会
- ・進路便りや年間進路指導計画表の作成・配布

○ 研究会等の開催

・学力向上のための教科指導力向上研究会

主体的・対話的で深い学びの視点から生徒の主体性を生かす授業改善を進めるための研究

・学力向上連絡協議会

主体的・対話的で深い学びの視点から生徒の主体性を生かす授業改善を進めるための協議

ウ 科学の甲子園福島県大会

生徒の理数に関する興味・関心を高めるとともに、意欲ある生徒の再生可能エネルギーの研究開発や放射線医学などを担う能力の育成を図ることを目的に開催。科学技術・理科・数学等における複数分野の知識・技能を競い合った。

(3) 教職員現職教育計画に基づいて、各種研修会や講習会を開催し、教職員の職責にふさわしい資質・能力の向上に努めるとと

もに、社会の変化や時代の進展に対応した実践的指導力を習得させるため、各種の研修等を実施した。

(4) 多様化した生徒の心の問題の解決のために、ピュアハートサポートプロジェクトとしてカウンセリング等の各種研修会を開催し、教員の資質向上に努めた。さらに、教育相談専門研修及び関係機関との連携強化のために各種連絡協議会を開催し、教員の実践的指導力の向上を図った。

(5) 「震災と復興を未来へつむぐ高校生語り部事業」

ア 震災関連学習・語り部活動の人材育成

指定された各県立高校が、生徒に対して、伝承館等での研修や、各校で行う外部講師による震災関連授業等を実施し、語り部の人材育成につなげた。学習の成果は、各学校の創意工夫により、多様な方法で発信した。

なお、実践的な取組を行う「実践校」には、17校を指定した。

イ 県内の学校間での交流

語り部人材育成を強化する取組として、実践校の代表生徒による交流の場を設け、学習成果の情報共有を行った。

ウ 県外・海外の学校等との交流

実践校の生徒が県外・海外の高校生等と交流を行い、語り部活動を行った。

エ 震災学習のためのリーフレット（小冊子）の作成・配布

震災学習の成果をまとめたリーフレットを学校が作成し、交流活動の中で配布し、活用した。

オ 伝承館を利用した教員研修

県立高校の教員及び公立小中学校の教員が、震災当時の状況やその後の復興の歩み等を理解し、今後の本県の在り方や本県の教育について考えを深めた。

第2節 学校管理

1 生徒数と教職員数

(1) 県立高等学校の推移

区分		年度										
		26	27	28	29	30	元	2	3	4	5	
全日制	本校	83	84	84	79	79	79	79	77	73	68	
	分校	5	5	5	3	2	2	0	0	0	0	
定時制	独立	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	
	併置	2	2	2	2	2	2	2	2	1	1	
	計	7	7	7	7	7	7	7	7	6	6	
	分校	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

(注)募集基準として学校数を算定(課程の変更、募集停止を実施した場合、2年以上の生徒が在籍しても学校数に含めない)。

(2) 中学校卒業者の進学状況

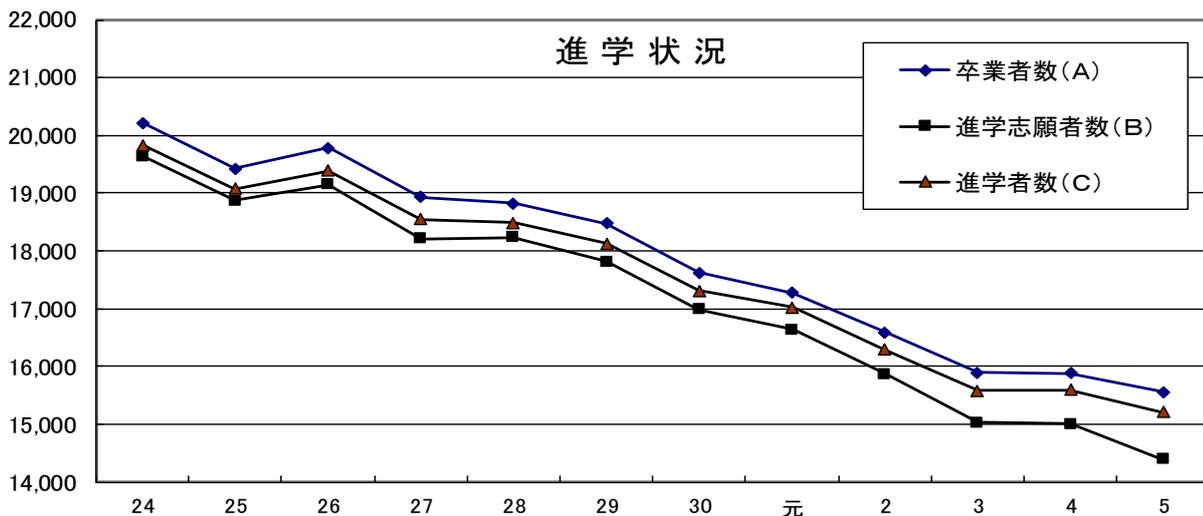
区分	年度											
	24	25	26	27	28	29	30	元	2	3	4	5
卒業生(A)	20,220	19,427	19,782	18,929	18,824	18,482	17,622	17,276	16,594	15,899	15,884	15,556
進学希望者数(B)	19,659	18,873	19,150	18,215	18,232	17,817	16,990	16,638	15,872	15,029	15,004	14,393
進学者数(C)	19,835	19,072	19,388	18,548	18,487	18,130	17,314	17,019	16,295	15,583	15,597	15,212
進学志願率(B/A)	97.2%	97.1%	96.8%	96.2%	96.9%	96.4%	96.4%	96.3%	95.6%	94.5%	94.5%	92.5%
進学率(C/A)	98.1%	98.2%	98.0%	98.0%	98.2%	98.1%	98.3%	98.5%	98.2%	98.0%	98.2%	97.8%
入学率(C/B)	100.9%	101.1%	101.2%	101.8%	101.4%	101.8%	101.9%	102.3%	102.7%	103.7%	104.0%	105.7%

(注)進学とは中学校卒業者のうち県内外を問わず、高校の全日制、定時制、通信制、別科、高専及び特別支援学校高等部へ進学したことをいう(就職者を含む)。進学志願者数には高校の通信制課程志願者は含まれない。

中学校卒業生数は前年度より 328 名減少し、進学率は前年度より 0.4 ポイント下降、入学率は 1.7 ポイント上昇した。
令和 5 年度の進学者の内訳は次のとおりである。

高等学校全日制	13,794 名 (90.7%)
高等学校定時制	231 名 (1.5%)
高等学校通信制	783 名 (5.1%)
高等学校別科	0 名 (0.0%)
高等専門学校	222 名 (1.5%)
特別支援学校高等部	182 名 (1.2%)

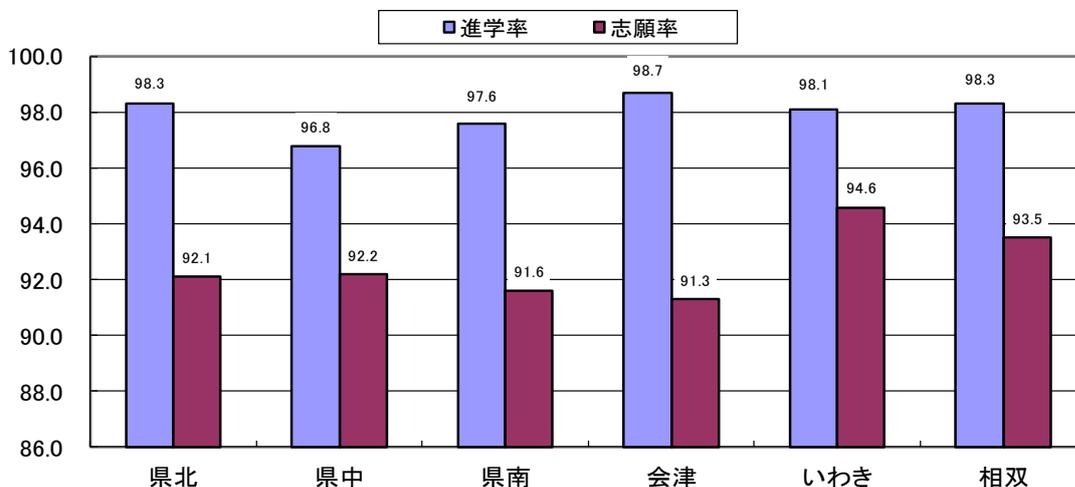
ア 中学校卒業生の進学状況の推移、進学率の推移



○ 高校進学率 (%)

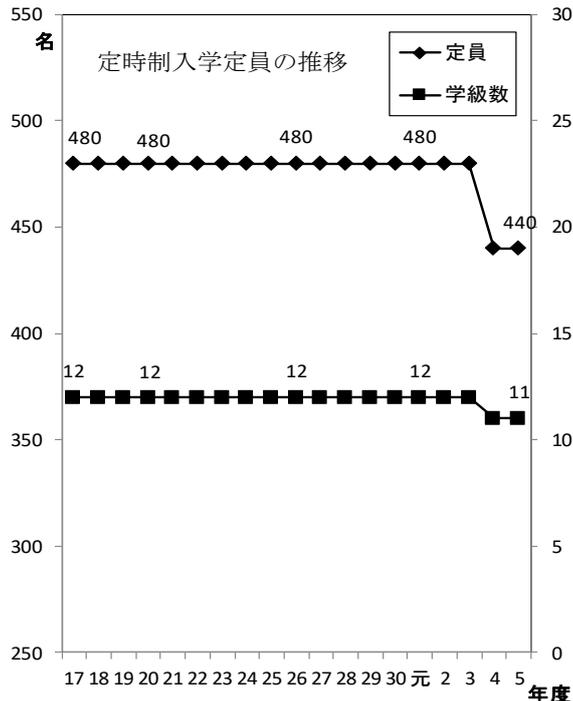
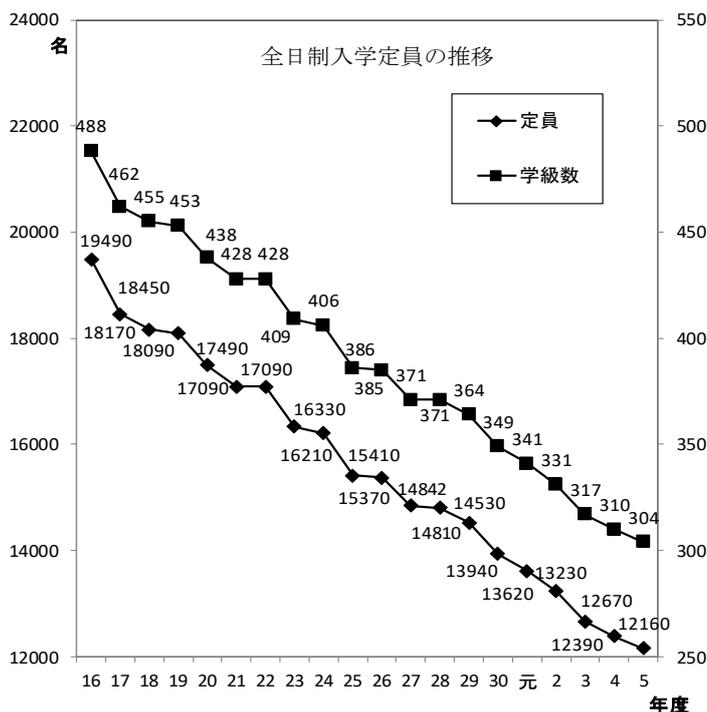
年度	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	元	2	3	4	5	
全国	97.5	97.6	97.7	97.7	97.8	97.9	98.0	98.2	98.3	98.4	98.4	98.5	98.7	98.8	98.8	98.8	98.8	98.8	98.8	98.8	98.7
本県	97.5	97.4	97.8	97.7	97.9	98.0	98.2	98.0	98.1	98.2	98.0	98.0	98.2	98.1	98.3	98.5	98.2	98.0	98.2	98.2	97.8

イ 地域別高校志願率・進学率



(3) 県立高等学校入学定員の推移

ア 全日制入学定員並びに定時制入学定員の推移



イ 学級編成基準

学科の区分	全日制	定時制	学科の区分	全日制	定時制
普通科	35, 40	40	国際文化に関する学科	40	-
農業に関する学科	40	-	英語に関する学科	40	-
工業に関する学科	40	40	体育に関する学科	40	-
商業に関する学科	40	-	美術に関する学科	40	-
家庭に関する学科	40	-	国際科学に関する学科	40	-
水産に関する学科	40	-	総合学科	40	-
理数に関する学科	40	-	国際・スポーツに関する学科	40	-
文理に関する学科	40	-			

(4) 県立高等学校全日制課程入学状況の推移

年度	中学校卒業生数	入学定員		志願者数		志願倍率	入学者数	
	A	B定員	B/A (%)	C志願者数	C/A (%)	C/B (%)	D入学者数	D/C (%)
26	19,782	15,370	77.7	16,589	83.9	108	14,421	86.9
27	18,929	14,842	78.4	15,716	83.0	106	13,961	88.8
28	18,824	14,810	78.7	15,598	82.9	105	13,945	89.4
29	18,482	14,530	78.6	15,213	82.3	105	13,478	88.6
30	17,622	13,940	79.1	14,439	81.9	104	12,839	88.9
元	17,276	13,620	78.8	13,855	80.2	102	12,426	89.7
2	16,594	13,230	79.7	12,986	78.3	98.2	11,771	90.6
3	15,899	12,670	79.7	12,248	77.0	96.7	11,008	89.9
4	15,884	12,390	78.0	12,138	76.4	98.0	10,762	88.7
5	15,556	12,160	78.2	11,842	76.1	97.4	10,671	90.1

(5) 県立高等学校生徒数（令和5.5.1現在）

学科の区分		課程	全日制	定時制			専攻科	合計	通信制
				学年制	単位制	計			
普通科	男		7,549	64	237	301		7,850	453
	女		8,228	42	259	301		8,529	500
	計		15,777	106	496	602		16,379	953
農業に関する学科	男		1,149					1,149	
	女		1,206					1,206	
	計		2,355					2,355	
工業に関する学科	男		4,149	21		21		4,170	
	女		386	3		3		389	
	計		4,535	24		24		4,559	
商業に関する学科	男		1,312					1,312	
	女		2,069					2,069	
	計		3,381					3,381	
家庭に関する学科	男		16					16	
	女		57					57	
	計		73					73	
水産に関する学科	男		267				44	311	
	女		57				2	59	
	計		324				46	370	
理数に関する学科	男		161					161	
	女		157					157	
	計		318					318	
文理に関する学科	男		335					335	
	女		529					529	
	計		864					864	
国際文化に関する学科	男		25					25	
	女		93					93	
	計		118					118	
国際・スポーツに関する学科	男		0					0	
	女		0					0	
	計		0					0	
国際科学に関する学科	男		86					86	
	女		392					392	
	計		478					478	
英語に関する学科	男		37					37	
	女		77					77	
	計		114					114	
体育に関する学科	男		96					96	
	女		13					13	
	計		109					109	
美術に関する学科	男		14					14	
	女		90					90	
	計		104					104	
総合学科	男		1,295					1,295	
	女		1,925					1,925	
	計		3,220					3,220	
合計	男		16,491	85	237	322	44	16,857	453
	女		15,279	45	259	304	2	15,585	500
	計		31,770	130	496	626	46	32,442	953

(6) 県立高等学校通信制課程入学者、卒業者の推移

区分	学校	年度											
		24	25	26	27	28	29	30	元	2	3	4	5
入学者	郡山萌世高校	197	152	133	124	99	87	71	86	84	71	106	107
	計	197	152	133	124	99	87	71	86	84	71	106	107

区分	学校	年度											
		23	24	25	26	27	28	29	30	元	2	3	4
卒業者	郡山萌世高校	223	231	192	155	158	122	121	120	110	112	109	133
	計	223	231	192	155	158	122	121	120	110	112	109	133

(7) 県立高等学校教職員定数の推移

区分	種別	高 等 学 校																				
		課程	全日制・定時制										通信制									
	職種		年度	26	27	28	29	30	元	2	3	4	5	26	27	28	29	30	元	2	3	4
教員	校長		85	86	86	81	81	81	81	79	75	70										
	教諭等		3312	3223	3218	3167	3116	3047	2987	2928	2893	2861	36	36	36	34	33	28	25	25	25	25
	養護教員		106	106	105	102	100	98	96	91	86	81										
	補充教員		153	153	145	137	131	127	124	120	124	123										
	充指導主事		23	23	23	23	23	22	22	22	23	23										
	寄宿舎指導員		3	5	6	7	8	10	10	10	10	10										
	実習助手		326	323	322	320	314	314	308	301	292	283										
	計		4008	3919	3905	3837	3773	3699	3628	3551	3503	3451	36	36	36	34	33	28	25	25	25	25
事務職員		249	245	247	240	232	228	223	217	213	207	6	6	6	6	6	6	4	4	4	4	
その他の職員	技能員																					
	学校司書		53	53	53	53	52	52	52	51	52	53										
	用務員		48	45	41	40	39	42	32	29	23	20										
	ボイラー技師		10	7	6	6	5	6	3	1	2	2										
	栄養士		4	4	4	4	4	4	4	4	4	4										
	調理給食員		3	3	3	3	3	3	1	1	1	1										
計		118	112	107	106	103	107	92	86	82	80											
練習船	技能職員		9	9	9	9	9	9	9	9	9											
	その他の職員		13	13	13	13	13	13	13	13	13											
	計		22	22	22	22	22	22	22	22	22											
合計		4397	4298	4281	4205	4130	4056	3965	3876	3820	3760	42	42	42	40	39	34	29	29	29	29	

2 教職員人事・任用

(1) 人事異動の概要

令和5年度の高等学校教職員定数（補充教員は含まない）は、前年度比59人減の3,666人となった。このうち、教諭等は、前年度比32人減の2,886人である。

また、特別支援学校については、前年度比33人増の1,724人となった。このうち教諭等は前年度比32人増の1,473人となった。

ア 新採用（教諭）について

令和5年度は48名（国語3名・地歴公民7名・数学2名・理科3名・保健体育2名・音楽1名・美術1名・英語3名・家庭2名・情報2名・農業5名・工業7名・商業4名・水産1名・福祉1名・特別選考Ⅲスポーツ1名・特別選考Ⅳ情報3名）の新採用教員を県立高等学校に配置した。

令和5年度に実施した令和6年度福島県公立学校教員採用候補者選考試験は、採用予定者数45名程度に対して、高等学校志願者は前年比42人減の432名であった。

一次及び二次選考試験の結果、名簿掲載者数は49名（前年度比1名増）となり、新採用教員として配置されることになる。

イ 校長への昇任

県立学校の校長への昇任は、その職責の重要性にかんがみ、資格・人物・指導力等を十分考慮のうえ、教頭から3名、教育庁関係から現場復帰による11名の登用をみた。これらの管理職は、できる限り自分の専門性をいかせるよう適材を適所に配置し、適正な学校管理運営をするよう努めた。

ウ 異動について

本年度も昨年度同様の方針にのっとり、同一校永年勤務者、採用後引き続き同一校に3年以上勤務する者等を含めて546名の教諭等の異動が実現した。

経験豊かな教員の転出が促進されたこととともに、定時制・通信制・及び特別支援学校と全日制高校との交流が進んだことは、教育組織の強化充実に資するところであり、全県的に教育水準及び教育効果の向上に役立つものと期待される。

(2) 令和5年度県立学校教員異動基準

I 一般基準

- (ア) 過員解消のための異動は、全県的視野から優先的に取り扱う。
- (イ) 教育課程の適正な運営を期するため、教員組織の均衡化を図り主免許教科を担当させるように努める。
- (ウ) 優秀な人材の定時制（夜間）・通信制・分校及びへき地校への転入を図るとともに、その者が相当年数（3年以上）勤務した場合の転出については、特に考慮する。
- (エ) 同一校には、原則として、最低3年は勤務するものとする。
- (オ) 2親等以内の者（姻族を含む。）は、原則として、同一校勤務を避ける。

(カ) 教員人事公募選考制度については、別に定める。

II 異動基準

ア 勤続年数による基準

次に該当する者は、異動の対象とする。

- (ア) 採用後引き続き同一校に3年以上勤務した者（以下「初任者」という。）
- (イ) 異動2校目において3年以上勤務した者（以下「若年者」という。）

ただし、(ア)、(イ)いずれの場合も、原則として3年以上5年以内で異動させるものとする。

（「若年者」については平成21年度以降の採用者から適用する。）

ウ 同一校に8年以上勤務した者

（以下「永年者」という。）

ただし、中通り地域の4校（湖南・埴工業・修明・修明鮫川）、会津地域の4校（川口・田島・南会津・只見）及び浜通り地域の2校（浪江津島・相馬農業飯館）に3年以上勤務した場合は、永年とみなすことができる。

イ 地域、地区及び学校群による基準

教員の適材適所への配置及び教員組織の均衡化を図るため、県内を中通り、会津、浜通りの3地域に分け、各地域に所在する学校を学校規模及び交通の利便性等を考慮して、別表①に定めるⅠ・Ⅱ群に分類し、以下により異動を促進する。

(ア) 原則として、採用後20年以内に3地域の学校に勤務するものとする。

(イ) 農業、工業、商業、看護、福祉等を除く教科の教員については、Ⅱ群の学校に勤務している者が同一地区内で異動するときは、原則としてⅠ群の学校に勤務するものとする。

ただし、Ⅱ群普通系からⅡ群専門系への異動、Ⅱ群専門系勤務者のうち直近の勤務がⅠ群校の者のⅡ群普通系への異動は可とする。

なお、相双地区においてはⅡ群普通系内の異動も可とする。

(ウ) 農業、工業、商業、看護、福祉等の教科の教員については、全県的視野から地域間で相互に異動させるものとする。

ウ 平成20年度以前の採用者について

平成30年度までは次の基準（以下「旧基準」という。）を準用し、下記の(イ) a を満たす者は、上記イ(ア)の規定を満たすものとする。

(ア) 勤続年数による基準

次に該当する者は、異動の対象とする。

- a 初任者
- b 永年者

(イ) 地区及び学校群による基準

教員組織の均衡化を図るため、県内を県北・県南・会津・いわき・相双の5地区に分け、地区ごとに所在する学校の地理的特殊性等を考慮して、別表②に定める

A・B・C 3群に分類し、以下により異動を促進する。

- a 原則として次の条件を満たすよう勤務するものとする。
 - (a) 採用後 15 年以内に 2 地区以上の学校に勤務する。
 - (b) A・B 2 群の学校に勤務する。ただし、A 群については、採用後 15 年以内とする。
- b 県南地区の 4 校（湖南・埴工業・修明・修明鮫川）、会津地区の 4 校（川口・田島・南会津・只見）及び相双地区の 3 校（浪江津島・富岡川内・相馬農業飯館）は、それぞれ 1 地区とみなす。
- c 本宮は平成 16 年度より県北地区とし、平成 16 年度以降の転入・在籍者から適用する。
- d 群の取扱いの変更は、別表③の適用年度以降に当該校へ転入・在籍した者について適用する。
- e 同一学校群内の異動については、次の諸点に留意する。
 - (a) A 群については、原則として、へき地校間、分校間の異動は行わない。
 - (b) B 群については、原則として、同一市内間の異動は行わない。ただし、いわき市及び南相馬市は除く。
 - (c) C 群については同一市内間の異動は行わない。
- f 職業に関する学科の教員で、永年者については、全県的視野から地区間で相互に異動することができるものとする。

また、異動後同一校に 3 年以上勤務した場合は、直近の勤務地区内へ異動することができる。

エ 寄宿舎指導員

原則として 2 に準ずるが、採用後 20 年以内に 2 地域の学校に勤務するものとする。

オ 交流

(ア) 学校種別間の交流

高等学校、特別支援学校及び中学校における教育を充実させるため、県立特別支援学校、市町村公立中学校との交流を促進する。

- a 県立特別支援学校との交流は教諭、養護教諭、実習助手、寄宿舎指導員を対象とする。

その期間は、教諭及び実習助手については原則として 3 年とし、養護教諭及び寄宿舎指導員については原則として 3 年から 8 年とする。
- b 市町村公立中学校との交流は教諭を対象とし、その期間は原則として 2 年とする。

(イ) 他県との交流

他県との交流については、別に定める。

別表① 地域・地区・群学校分類表

群		I	II	
地域・地区				
中通り	県北	福島明成 福島工業（定） 福島北 福島南 川俣 伊達 安達 二本松実業 本宮 ふくしま新世	普通系	福島 橘 福島西 福島東
			専門系	福島商業 福島工業
	県中	湖南 須賀川創英館 須賀川桐陽 清陵情報 岩瀬農業 石川 田村 船引 小野 郡山萌世	普通系	安積 安積黎明 郡山東 郡山 あさか開成
専門系			郡山商業 郡山北工業	
県南		光南 修明 白河二	普通系	白河 白河旭
			専門系	白河実業
会津		喜多方 喜多方桐桜 猪苗代 西会津 会津西陵 川口 会津農林 南会津 只見 会津二	普通系	会津 葵 会津学鳳
			専門系	若松商業 会津工業
浜通り	いわき	いわき総合 いわき光洋 いわき湯本 小名浜海星 磐城農業 勿来 勿来工業 好間 四倉 いわき翠の杜	普通系	磐城 磐城桜が丘
			専門系	平工業 平商業
相双		<u>浪江 浪江（津島）</u> <u>富岡 双葉翔陽</u> ふたば未来学園 相馬農業 <u>相馬農業（飯館）</u> 小高産業技術	普通系	<u>双葉</u> 相馬 原町
			専門系	相馬総合 中学校

~~~~~は、平成 29 年 4 月 1 日から休校になった学校。  
 \_\_\_\_\_は、令和 2 年 4 月 1 日から休校になった学校。

別表② 地区・群別学校分類表

| 群<br>地区 | A                               | B                                             | C                                                  | 特別支援学校<br>(A群校扱い)                                     |
|---------|---------------------------------|-----------------------------------------------|----------------------------------------------------|-------------------------------------------------------|
| 県北      | 福島工業(定) 川俣<br>ふくしま新世            | 福島商業 福島明成<br>福島北 伊達 安達<br>二本松実業 本宮            | 福島 橘 福島工業<br>福島西 福島東<br>福島南                        | 視覚支援<br>聴覚支援(福島)<br>大笹生支援<br>だて支援<br>須賀川支援(医大)        |
| 県南      | 石川 船引 小野<br>郡山萌世 白河第二           | 須賀川創英館<br>須賀川桐陽<br>清陵情報 岩瀬農業<br>光南 白河実業<br>田村 | 安積 安積黎明<br>郡山東 郡山商業<br>郡山北工業 郡山<br>あさか開成<br>白河 白河旭 | 聴覚支援<br>郡山支援<br>あぶくま支援<br>須賀川支援<br>須賀川支援(郡山)<br>たむら支援 |
|         | 湖南 修明                           |                                               |                                                    | 西郷支援<br>石川支援<br>石川支援(たまかわ)                            |
| 会津      | 猪苗代 西会津<br>会津第二                 | 喜多方 喜多方桐桜<br>会津西陵 会津農林                        | 会津 葵<br>会津学鳳<br>若松商業<br>会津工業                       | 聴覚支援(会津)<br>会津支援<br>会津支援(竹田)<br>猪苗代支援                 |
|         | 川口 南会津<br>只見                    |                                               |                                                    |                                                       |
|         | 会津学鳳中学校                         |                                               |                                                    |                                                       |
| いわき     | 小名浜海星 磐城農業<br>勿来 勿来工業<br>いわき翠の杜 | いわき総合<br>いわき光洋<br>いわき湯本<br>好間 四倉              | 磐城 磐城桜が丘<br>平工業 平商業                                | 聴覚支援(平)<br>平支援<br>いわき支援<br>いわき支援(くぼた)                 |
| 相双      | 双葉翔陽                            | 双葉 浪江 富岡<br>相馬農業<br>小高産業技術                    | 相馬 相馬総合<br>原町                                      | 富岡支援<br>相馬支援                                          |
|         | 浪江(津島)<br>相馬農業(飯館)              |                                               |                                                    |                                                       |

~~~~~は、平成29年4月1日から休校になった学校。

~~~~~は、令和2年4月1日から休校になった学校。

別表③

| 高校名   | 群 | 適用年度 | 高校名   | 群 | 適用年度 | 高校名   | 群 | 適用年度 |
|-------|---|------|-------|---|------|-------|---|------|
| 小野    | A | 昭和52 | 白河実業  | B | 昭和61 | 棚倉    | A | 平成10 |
| 福島明成  | B | 昭和56 | 川俣    | A | 平成2  | 東白川農商 | A | 〃    |
| 福島北   | B | 〃    | 福島商業  | B | 〃    | あさか開成 | C | 平成11 |
| いわき海星 | A | 〃    | 梁川    | A | 平成8  | 光南    | B | 〃    |
| 磐城農業  | A | 〃    | 船引    | A | 〃    | 石川    | A | 〃    |
| 勿来工業  | A | 〃    | いわき光洋 | C | 〃    | いわき光洋 | B | 平成16 |
| 双葉翔陽  | A | 〃    | 勿来    | A | 〃    |       |   |      |
| 猪苗代   | A | 昭和58 | 相馬農業  | B | 〃    |       |   |      |

**(3) 教頭複数制実施校(令和5年度実績)**

|         |       |        |       |
|---------|-------|--------|-------|
| 福島      | 橘     | 福島商業   | 福島明成  |
| 福島工業    | 福島西   | 福島東    | 伊達    |
| 二本松実業   | 安積    | 安積黎明   | 郡山東   |
| 郡山北工    | 郡山    | 須賀川創英館 | 清陵情報  |
| 岩瀬農業    | 光南    | 白河     | 白河実業  |
| 修明      | 田村    | 会津     | 会津学鳳  |
| 喜多方     | 会津西陵  | 磐城     | 磐城桜が丘 |
| 平工業     | いわき総合 | いわき湯本  | 小名浜海星 |
| ふたば未来学園 | 相馬総合  | 小高産業技術 | 郡山萌世  |
| ふくしま新世  | 視覚支援  | 聴覚支援   | 大笹生支援 |
| だて支援    | 郡山支援  | あぶくま支援 | 須賀川支援 |
| 西郷支援    | 石川支援  | たむら支援  | 会津支援  |
| 平支援     | いわき支援 | 富岡支援   |       |

**(7) 校名変更**

なし

**(8) 連携型中高一貫教育校**

| 課程  | 学校名     | 連携中学校                  |
|-----|---------|------------------------|
| 全日制 | 白河実業    | 埴                      |
|     | 修明      | 棚倉、埴、矢祭、鮫川             |
|     | 南会津     | 田島、荒海、舘岩、南会津、下郷        |
|     | ふたば未来学園 | なみえ創成、葛尾、双葉            |
|     |         | 学び舎ゆめの森、富岡             |
|     |         | 川内小中学園、檜葉、広野           |
|     | 相馬総合    | 中村第一、中村第二、<br>向陽、磯部、尚英 |

**(9) 併設型中高一貫教育校**

会津学鳳高等学校(会津学鳳中学校)

ふたば未来学園高等学校(ふたば未来学園中学校)

**(10) 通信制**

変更なし

**(11) 専攻科**

変更なし

**3 学校の設置及び統廃合**

**- 公立高等学校の設置・廃止等(令和6年度) -**

**(1) 学校の 신설・廃止等**

ア 統合に伴う学校廃止

なし

イ 統合に伴う学校新設

なし

ウ ふたば未来学園高等学校開校に伴い、避難区域にある

高等学校の生徒募集休止による休校 全日制5校

双葉高等学校、浪江高等学校、浪江高等学校津島校、

富岡高等学校、双葉翔陽高等学校

**(2) 学級増**

なし

**(3) 学級減**

全日制6校6学級

| 課程  | 学校名 | 内 容    |
|-----|-----|--------|
| 全日制 | 伊達  | 普通科1学級 |
|     | 本宮  | 普通科1学級 |
|     | 石川  | 普通科1学級 |
|     | 船引  | 普通科1学級 |
|     | 喜多方 | 普通科1学級 |
|     | 勿来  | 普通科1学級 |

**(4) 募集停止**

なし

**(5) 学科転換・学科改編・学科新設**

(学科改編)

小高産業技術 流通ビジネス科 1学級

産業革新科(ICTコース、経済・金融コース) 1学級

計2学級

→ 産業革新科(ビジネス・ITコース) 1学級 計1学級

**(6) 学科名変更**

修明 文理科 1学級 → 文理探究科 1学級

## 第3節 学校教育

### 1 概要

#### (1) 指導行政の基本方針

生徒の能力・適性、進路・関心等を十分考慮し、地域や学校の実態に応じた教育指導の充実を図りながら、人間性豊かな生徒の育成を目指して、学校教育活動が活発に展開されるよう次の重点目標を設定し、その達成に努めた。

ア 生徒の実態等を踏まえ、各学校が主体性をもって、多様な教育課程を編成し、特色ある学校づくりができるよう指導・援助する。

イ 指導内容の精選と構造化に努め、言語活動の充実と生徒のよい点を積極的に評価するなどの評価の改善を進めることにより、生徒一人一人の個性を生かす指導方法の工夫・改善が図られるよう指導・援助する。

ウ 生徒指導の組織・体制を点検するとともに、教職員の共通理解を基盤として、中学校や家庭との連携を深めながら、生徒理解に基づいた指導が展開されるよう、指導・援助する。

エ 生徒の学校生活への適応を促し、中途退学者の減少及び問題行動・生徒事故の未然防止が図られるよう指導・援助する。

オ 教職員の資質と指導力の向上に努める。

カ 勤労観・職業観の育成にかかわる体験的な学習及び産業教育、情報教育の推進を図る。

#### (2) 指導組織

高校教育課長を中心に、主幹、主任指導主事及び指導主事が一体となって、それぞれの分掌に従い、企画・運営・指導助言に当たった。

また、学校教育指導委員の指名については、県立高校教諭及び養護教諭 21 名を指名し、各教科等の指導活動の充実・強化を図った。

#### (3) 学校教育指導の重点

前記の基本方針に基づき、指導の重点を次のように設定し、指導の充実を図った。

ア 教育課程の適切な運営と指導法の改善を図る。

(ア) 教育課程の適正な実施について、校長会、教頭会において周知徹底を図った。

(イ) 福島県高等学校教育課程講習会において、高等学校学習指導要領の趣旨の徹底を図るため、参加者に対して講義及び協議を実施し、教育課程実施に伴う諸問題について理解を深めた。

イ 学力向上を図る。

「ふくしま高校生学びの変革支援事業」として、生徒の進路希望実現を目指した各学校の学力向上やキャリア教育に関する取組の支援、授業改善や進学指導力向上のための研究会などを実施した。また、将来社会においてリーダーシップを発揮できる人材の育成を目指し、難関大学進学への意識、意欲の高い生徒を対象とした学習セミナーを実施した。さらに、対象校の進路指導担当者を出席者とする

情報交換会を実施した。

ウ 生徒指導の充実を図る。

(ア) 各種研修会、学校訪問等の指導を通して、校内における指導体制の確立を図るとともに、教職員の共通理解を図り、同一歩調による生徒指導の充実に努めた。

(イ) 生徒指導担当者研修会を開催し、生徒の多様化に即した生徒指導の在り方、開かれた生徒指導の在り方について研究協議を行った。

(ウ) 学校における教育相談体制の確立と教育相談活動の改善・充実を図った。

(エ) スクールカウンセラー活用事業として、生徒の臨床心理に関して高度に専門的な知識・経験を有するスクールカウンセラーを配置し、いじめや不登校等生徒の問題行動の解決に当たった。

エ 進路指導の充実を図る。

各種の研修会や講座を通して、下記事項の徹底に努めた。

(ア) キャリア教育の観点より低学年からの計画的・組織的な進路指導を通し進路意識の高揚に努めること。

(イ) ホームルーム活動における進路指導の充実に努めること。

(ウ) 面談や諸調査・諸検査を通して、生徒の能力・適性・進路の希望等を的確に把握すること。

(エ) 生徒の自己理解の促進に努めること。

(オ) 進路指導室の整備及び進路に関する情報や資料の収集に努めるとともに、その効果的な活用を図ること。

(カ) 組織的・計画的な進路相談の充実に努めること。

(キ) きめ細かな就職指導の充実・徹底に努めること。

オ 産業教育の充実を図る。

産業教育の改善・充実を図るため、施設・設備の充実及び情報教育の推進に努めた。

(ア) 体験入学の内容の質的改善・充実に努めた。

(イ) 情報教育の充実のため、教員の研修に努めた。

(ウ) 産業教育関係機関との連携により、産業教育の振興に努めた。

#### (4) 教職員の資質の向上と学校管理運営の充実

ア 現職教育の充実

(ア) 校内における研修体制の改善・充実に努めた。

(イ) 研修会、講習会等への積極的な参加を促進し、指導力の向上を図った。

(ウ) 自己研修の充実により、教職員の能力が効果的に発揮されるように努めた。

イ 学校管理運営の適正化

(ア) 学校経営・運営ビジョンを定め、その達成度を客観的に評価し、その結果を公表するように努めた。

(イ) 管理者が学校管理運営について積極的に指導助言を行うよう努めた。

(ウ) 諸表簿の整理と保管、設備・備品の管理と活用については、適正に行われるように努めた。

(エ) 学校事務の責任分担を明確にし、正確、敏速、円滑に

処理するよう努めた。

- (ウ) 各種調査報告について、厳正、的確に作成し、期限の厳守に努めた。

#### ウ 勤務体制の確立

教職員の勤務内容を明確にし、その実績について客観的に評価できるようにした。

#### エ 使命感の高揚

- (ア) 教育公務員としての使命感に徹し、規律と責任ある体制を整え、教育能率の向上に努めた。
- (イ) 教育公務員としての立場を自覚するとともに、服務倫理委員会を活用して事故防止に努め、社会的信用を失墜させることのないようにした。
- (ウ) 絶えず自己研修に努め、豊かな知性を養い、指導力を高め、職責を十分果たせるようにした。

### (5) 教育環境の整備充実

#### ア 学習環境の整備充実

- (ア) 環境整備については、計画的に充実を図った。
- (イ) 学習環境を整備し、学習意欲の高揚を図った。
- (ウ) 施設・設備の管理と運営の適正化を図った。

#### イ 学校事故防止の徹底

- (ア) 安全教育の計画的実施と、事故防止を配慮した環境の整備改善に努めた。
- (イ) 学校事故、教職員事故の防止については、適切な対策を講じ、事故の絶無を期した。
- (ウ) 指導・管理の充実を図るため、関係機関、団体等との連携を密にして協力体制の確立に努めた。

### (6) 県立高等学校入学者選抜

#### ア 基本方針

令和6年度福島県立高等学校入学者選抜における基本方針

##### (ア) 特色選抜

特色選抜は、各高等学校が自校の特色に応じてどのような受験生に志願してほしいかを選抜方法と併せて明示し、受験生は、それに従って自分の志願したい高等学校を主体的に選択し出願できる選抜とする。選抜に当たっては、受験生の個性や学ぶ意欲を重視するとともに、自校の特色に応じた選抜となるよう選抜資料を活用し、各高等学校の教育を受けるに足る能力・適性等を総合的に判定して選抜するものとする。

なお、特色選抜の性格をより明確にするため、各高等学校の「志願してほしい生徒像」については、より具体的な記載を可能とする。

- a 選抜に当たっては、志願理由書の記載内容、調査書の審査結果、学力検査の成績及び特色選抜に係る面接（以下「特色面接」という。）の結果を資料とする。なお、各高等学校の判断により、学校の特色や学科の特性に応じて、小論文（又は作文）、実技等（以下「特色検査」という。）の結果を選抜資料に加えることができるものとする。
- b 特色選抜においては、各高等学校が自校の教育目標にふさわしい入学者を選抜するため、受験生を多面的・

多面的に評価するための資料の一つとして特色面接の結果及び特色検査を実施した場合にはその結果を積極的に活用するものとする。

- c 特色選抜の定員枠については、県教育委員会が定める範囲の中で、各高等学校が、その特色や学科の特性に応じて設定するものとする。
- d 可否の判定に当たっては、調査書の審査結果、学力検査の成績、特色面接の結果及び特色検査を実施した場合にはその結果の比重を、県教育委員会が定めた範囲内で各高等学校がその特色や学科の特性に応じて定めるものとする。

##### (イ) 一般選抜

一般選抜は、中学校における学習活動の成果を総合的にみる選抜とする。選抜に当たっては、学力検査の成績、調査書の審査結果を資料とし、さらに一般選抜に係る面接（以下「一般面接」という。）を実施する高等学校においては一般面接の結果を併せて資料とし、各学校の特色、学科の特性等に配慮しつつ、その教育を受けるに足る能力・適性等を総合的に判定して選抜するものとする。

- a 特定の教科の学力検査の配点の比重を変える傾斜配点については、各学校の特色・学科の特性を考慮し、各高等学校の判断により実施することができるものとする。

また、志願者の自己申告による傾斜配点についても、各高等学校の判断により実施できるものとする。

- b 一般選抜の可否判定に当たっては、学力検査と調査書の成績の比重を原則として同等とする。

ただし、各高等学校が自校の特色化を図るために必要と判断する場合には、学力検査と調査書の成績の比重を変えることができるものとする。

- c 一般面接については、各高等学校の判断により実施できるものとする。

##### (ウ) 後期選抜

後期選抜は、前期選抜及び連携型中高一貫教育に係る入学者選抜（以下「連携型選抜」という。）により定員（併設型中高一貫教育校における高等学校においては、当該高等学校に係る併設型中高一貫教育校における中学校から当該高等学校への入学を志願する者の数を除いた数とする。）を充足しない高等学校において実施するものとし、前期選抜及び連携型選抜の受験の有無にかかわらず出願できる選抜とする。

選抜に当たっては、調査書の審査結果、面接の結果及び小論文（又は作文）の結果を資料として、各高等学校の教育を受けるに足る能力・適性等を総合的に判定して選抜するものとする。

なお、前期選抜又は連携型選抜に合格した者は出願できないものとする。

- a 選抜に当たっては、調査書の成績とともに、面接の結果及び小論文（又は作文）の結果を十分に精査する。

b 前期選抜に係る学力検査の成績は、後期選抜の資料とはしないものとする。

c 後期選抜における面接は、受験生の学ぶ意欲をみる内容とともに、中学校における学習活動の成果を問う内容を含むことができるものとする。

なお、併設型中高一貫教育校における中学校から当該中学校に係る併設型中高一貫教育校における高等学校への入学を志願する者については、各選抜に出願することはできないものとする。

#### 新型コロナウイルス感染症に係る特例措置について

1 令和6年度県立高等学校入学者選抜においては、新型コロナウイルス感染症に係る特例措置について、次のように見直す。

- (1) 新型コロナウイルス感染症対応選抜を設定しない。
- (2) 健康状態チェックリストの提出は不要とする。
- (3) 新型コロナウイルス感染症に罹患した状態で選抜を欠席した者については、インフルエンザ等学校感染症に罹患した状態になり欠席した者と同様に扱う。また、学力検査等の際の別室受験についてもインフルエンザ等罹患者と同様とする。
- (4) 「新型コロナウイルス感染症への対応により、検査が未完了の状態となった受験生への対応」は実施しない。

2 令和6年度県立高等学校入学者選抜においては、特色選抜の「志願してほしい生徒像」の記載において、大会実績や資格取得等を出願要件にすることを可能とする。

#### 中学校における部活動の地域移行に伴う対応について

1 令和6年度県立高等学校入学者選抜においては、中学校における部活動の地域移行に伴い、次のとおり取り扱う。

- (1) 特色選抜の「志願してほしい生徒像」の記載において、中学校における部活動の加入のみで出願要件を限定しない。
- (2) 校外でのスポーツクラブ等の記録は「長所・特技等の記録」の欄に記載することとしているため、すべての選抜において、調査書の「各教科の学習の記録」以外の記載項目について、点数化の方法を学科ごとに定めることができるものとする。
- (3) 調査書の点数化について、部活動や地域クラブ活動等の実績等の評価の有無、評価の方法（点数化、段階評価など）、評価の観点（実績、取組内容など）を明記することとする。

#### (e) 連携型選抜

連携型中高一貫教育を実施する高等学校（以下「連携型高等学校」という。）において、連携型中高一貫教育を実施する中学校（以下「連携型中学校」という。）から目的意識や意欲のある生徒の入学を促進し、6年間を通して生徒一人一人の個性をより重視した教育の実現を図るため、連携型選抜を実施する。

a 募集定員枠については、別に公告する募集定員の30%を下限とし、各連携型高等学校が学校・学科の特色や地域の特性に応じて設定する。

ただし、定員枠については、当該高等学校長はあらかじめ県教育委員会と協議するものとする。

また、特色選抜の募集定員枠は、これとは別に設定するものとし、併設型中高一貫教育校における高等学校においては、これらの割合について、別に公告する募集定員から当該高等学校に係る併設型中高一貫教育校における中学校の第3学年に在学する者（11月1日現在）の数を除いた数に対する割合とする。

なお、合否の判定に当たっては、志願者の動向や各学校・学科の実態に応じて、弾力的に対応することができる。

b 連携型高等学校の連携型選抜に出願することができる者は、当該高等学校と連携している中学校を卒業する見込みの者とする。

なお、連携型中学校を卒業する見込みの者は、当該中学校と連携している高等学校の特色選抜へ出願することはできない。

c 受験生の個性や学ぶ意欲をみるとともに、連携している内容に応じた選抜となるよう配慮し、各連携型高等学校の教育を受けるに足る能力・適性等を総合的に判定して選抜するものとする。

d 志願者全員に学力検査を課す。学力検査を実施する教科は、国語、社会、数学、理科、外国語（英語）の5教科とし、学力検査の問題作成や配点については、前期選抜と同様とする。

e 選抜に当たっては、中学校長から提出された調査書の審査結果、学力検査の成績及び連携型選抜に係る面接（以下「連携型面接」という。）の結果を資料とする。

なお、各連携型高等学校長の判断により、各連携型高等学校が連携している教育課程に基づいた内容に応じた選抜方法に加え、学校の特色や学科の特性等に関する内容に応じた選抜方法（以下これらを「連携型検査」という。）を選択して実施した場合には、それらの結果を併せて資料として選抜を行うことができるものとする。

f 合否の判定に当たっては、調査書の審査結果、学力検査の成績、連携型面接の結果及び連携型検査を実施した場合にはその結果の比重を、県教育委員会が定めた範囲内で各高等学校がその特色や学科の特性に応じて定めるものとする。

g 連携型選抜の志願者は、出願した高等学校において一般選抜にも出願できるものとするが、その場合、各連携型高等学校は、連携型選抜、一般選抜の順に合否判定を行う。

h 連携型選抜に出願する者は、特色選抜との併願はできない。

#### 新型コロナウイルス感染症に係る特例措置について

1 令和6年度県立高等学校入学者選抜においては、新型コロナウイルス感染症に係る特例措置について、次のように見直す。

- (1) 新型コロナウイルス感染症対応選抜を設定しない。 3月19日 出願先変更
- (2) 健康状態チェックリストの提出は不要とする。 3月22日 面接等
- (3) 新型コロナウイルス感染症に罹患した状態で選抜を欠席した者については、インフルエンザ等学校感染症に罹患した状態になり欠席した者と同様に扱う。また、学力検査等の際の別室受験についてもインフルエンザ等罹患者と同様とする。 3月25日 合格者発表

(ウ) 連携型選抜関係日程

- 2月5日～2月8日 出願書類受付
- 2月9日～2月14日 出願先変更
- 2月15日～2月16日 調査書提出
- 3月5日 学力検査
- 3月5日～3月7日 面接等
- 3月11日～3月12日 追検査等
- 3月14日 合格者発表

(エ) 通信制の課程選抜日程

- 2月5日～3月29日 出願書類受付
- 4月5日 合格者発表(個人宛通知)

- (4) 「新型コロナの影響により、検査が未完了の状態となった受験生への対応」は実施しない。

**中学校における部活動の地域移行に伴う対応について**

1 令和6年度県立高等学校入学者選抜においては、中学校における部活動の地域移行に伴い、次のとおり取り扱う。

- (1) 校外でのスポーツクラブ等の記録は「長所・特技等の記録」の欄に記載することとしているため、調査書の「各教科の学習の記録」以外の記載項目について、点数化の方法を学科ごとに定めることができることとする。
- (2) 調査書の点数化について、部活動や地域クラブ活動等の実績等の評価の有無、評価の方法(点数化、段階評価など)、評価の観点(実績、取組内容など)を明記することとする。

イ 入学者選抜関係日程

- 6月8日 第1回県立中学校・高等学校入学者選抜事務調整会議
- 7月19日 第2回県立中学校・高等学校入学者選抜事務調整会議
- 8月23日 第3回県立中学校・高等学校入学者選抜事務調整会議
- 8月23日 県立中学校・高等学校入学者選抜方法の改善等に関する調査研究報告書提出
- 10月10日～10月11日  
オンライン方式で入学者選抜実施要綱説明会実施
- 10月21日 令和6年度入学者募集定員決定

(ア) 前期選抜関係日程

- 2月5日～2月8日 出願書類受付
- 2月9日～2月14日 出願先変更
- 2月15日～2月16日 調査書提出
- 3月5日 学力検査
- 3月5日～3月7日 面接等
- 3月11日～3月12日 追検査等
- 3月14日 合格者発表

(イ) 後期選抜関係日程

- 3月15日～3月18日 出願書類受付

ウ ふたば未来学園高等学校の入学者選抜

平成27年度入学者選抜において、双葉高等学校(普通科)、浪江高等学校(普通科)、浪江高等学校津島校(普通科)、富岡高等学校(国際・スポーツ科)、双葉翔陽高等学校(総合学科)を募集停止とし、平成27年4月にふたば未来学園高等学校を開校した。令和6年度連携型選抜においては、次の(ア)～(ウ)に該当する者を出願資格を有する者とした。

(ア) 出願時にJFAアカデミー福島又は双葉地区未来創造型リーダー育成構想(新双葉地区教育構想)ピクトリープログラムに参加している者

(イ) 次の双葉郡の中学校に在籍している者

- 双葉郡浪江町立なみえ創成中学校
- 双葉郡葛尾村立葛尾中学校
- 双葉郡双葉町立双葉中学校
- 双葉郡大熊町立学び舎ゆめの森
- 双葉郡富岡町立富岡中学校
- 双葉郡川内村立川内小中学園
- 双葉郡檜葉町立檜葉中学校
- 双葉郡広野町立広野中学校

(ウ) ふたば未来学園高等学校との連携型中高一貫教育を実施している中学校に在籍している者以外で、東日本大震災が発生した時に、双葉郡内に居住していた者又は双葉郡内に保護者が居住していた者で、中学校若しくはこれに準ずる学校若しくは義務教育学校若しくは中等教育学校の前期課程を令和6年3月に卒業見込又は修了見込の者

エ 志願者数・合格者数

◇各選抜ごとの集計

※「普通科等」には、普通科、理数科、数理科学科、文理科、文理探究科、国際文化科、英語科、スポーツ科、デザイン科学科、国際科学科が含まれる。

(ア) 特色選抜

《全日制》

| 学科   | 募集定員   | 特色選抜定員 | 志願者数  | 志願倍率 | 合格者数  |
|------|--------|--------|-------|------|-------|
| 普通科等 | 6,440  | 1,087  | 932   | 0.86 | 775   |
| 農業   | 1,000  | 194    | 90    | 0.46 | 58    |
| 工業   | 1,800  | 458    | 335   | 0.73 | 303   |
| 商業   | 1,200  | 456    | 407   | 0.89 | 356   |
| 水産   | 120    | 48     | 30    | 0.63 | 26    |
| 家庭   | 40     | 4      | 2     | 0.50 | 2     |
| 総合   | 1,280  | 383    | 275   | 0.72 | 244   |
| 計    | 11,880 | 2,630  | 2,071 | 0.79 | 1,764 |

《定時制》

| 学科 | 募集定員 | 特色選抜定員 | 志願者数 | 志願倍率 | 合格者数 |
|----|------|--------|------|------|------|
| 普通 | 400  | 48     | 20   | 0.42 | 11   |
| 工業 | 40   | 8      | 0    | 0.00 | 0    |
| 計  | 440  | 56     | 20   | 0.36 | 11   |

(イ) 連携型中高一貫教育に係る入学者選抜（連携型選抜）

| 学科 | 連携型選抜定員 | 志願者数 | 志願倍率 | 合格者数 |
|----|---------|------|------|------|
| 工業 | 36      | 1    | 0.03 | 1    |
| 総合 | 138     | 89   | 0.64 | 84   |
| 計  | 174     | 90   | 0.52 | 85   |

(ウ) 前期選抜、連携型選抜

《全日制》

| 学科   | 募集定員   | 志願者数   | 志願倍率 | 合格者数   |
|------|--------|--------|------|--------|
| 普通科等 | 6,440  | 6,443  | 1.00 | 5,749  |
| 農業   | 1,000  | 880    | 0.88 | 817    |
| 工業   | 1,800  | 1,650  | 0.92 | 1,554  |
| 商業   | 1,200  | 1,183  | 0.99 | 1,060  |
| 水産   | 120    | 119    | 0.99 | 106    |
| 家庭   | 40     | 33     | 0.83 | 32     |
| 総合   | 1,280  | 971    | 0.85 | 943    |
| 計    | 11,880 | 11,279 | 0.96 | 10,261 |

※ 「総合」及び「計」の志願倍率は、会津学鳳中学校から会津学鳳高等学校への入学予定者 81 名と、ふたば未来学園中学校からふたば未来学園高等学校への入学予定者 54 名を、入学定員から減じて算出した値である。

《定時制》

| 学科 | 募集定員 | 志願者数 | 志願倍率 | 合格者数 |
|----|------|------|------|------|
| 普通 | 400  | 243  | 0.61 | 220  |
| 工業 | 40   | 7    | 0.18 | 6    |
| 計  | 440  | 250  | 0.57 | 226  |

## (エ) 外国人生徒等に係る特別枠選抜

| 募集定員 | 志願者数 | 合格者数 |
|------|------|------|
| 若干名  | 10   | 5    |

## (カ) 後期選抜

## 《全日制》

| 学科   | 募集定員  | 志願者数 | 合格者数 |
|------|-------|------|------|
| 普通科等 | 691   | 101  | 88   |
| 農 業  | 183   | 39   | 32   |
| 工 業  | 246   | 29   | 24   |
| 商 業  | 140   | 22   | 19   |
| 水 産  | 14    | 8    | 8    |
| 家 庭  | 8     | 3    | 1    |
| 総 合  | 202   | 28   | 23   |
| 計    | 1,484 | 230  | 195  |

## 《定時制》

| 学科  | 募集定員 | 志願者数 | 合格者数 |
|-----|------|------|------|
| 普 通 | 180  | 34   | 29   |
| 工 業 | 34   | 5    | 3    |
| 計   | 214  | 39   | 32   |

## ◇後期選抜実施後の最終集計

※「普通科等」には、普通科、理数科、数理科学科、文理科、文理探究科、国際文化科、英語科、スポーツ科、デザイン科学科、国際科学科が含まれる。

## 《全日制》

| 学科   | 募集定員   | 特色選抜<br>合格者数 | 連携型選抜<br>合格者数 | 前期選抜<br>連携型選抜<br>合格者数 | 後 期 選 抜<br>合 格 者 数 | 合格者数   |
|------|--------|--------------|---------------|-----------------------|--------------------|--------|
| 普通科等 | 6,440  | 775          |               | 5,749                 | 88                 | 5,837  |
| 農 業  | 1,000  | 58           |               | 817                   | 32                 | 849    |
| 工 業  | 1,800  | 303          |               | 1,554                 | 24                 | 1,578  |
| 商 業  | 1,200  | 356          | 1             | 1,060                 | 19                 | 1,079  |
| 水 産  | 120    | 26           |               | 106                   | 8                  | 114    |
| 家 庭  | 40     | 2            |               | 32                    | 1                  | 33     |
| 総 合  | 1,280  | 244          | 84            | 943                   | 23                 | 966    |
| 計    | 11,880 | 1,764        | 85            | 10,261                | 195                | 10,456 |

## 《定時制》

| 学科  | 募集定員 | 特色選抜<br>合格者数 | 連携型選抜<br>合格者数 | 前期選抜<br>合格者数 | 後 期 選 抜<br>合 格 者 数 | 合格者数 |
|-----|------|--------------|---------------|--------------|--------------------|------|
| 普 通 | 400  | 11           |               | 220          | 29                 | 249  |
| 工 業 | 40   | 0            |               | 6            | 3                  | 9    |
| 計   | 440  | 11           |               | 226          | 32                 | 258  |

## 2 現職教育

### (1) 各種研修並びに講習会

| 名 称                         | 期日                                             | 期間       | 会 場       | 参加者                      |
|-----------------------------|------------------------------------------------|----------|-----------|--------------------------|
| 県立学校新任校長・副校長研修会             | 5.9～10                                         | 2日       | 教育センター    |                          |
| 県立学校新任教頭研修会                 | 5.11～12                                        | 2日       | 教育センター    |                          |
| 中核教諭研修                      | 10.25～27                                       | 3日       | 教育センター    | 県立学校中核教諭 56名             |
| 初任者研修（基本研修）                 | 4.4～5                                          | 2日       | 教育センター    | 高等学校初任者研修                |
| 〃（一次研修）                     | 4.18～19, 4.26                                  | 3日       | 教育センター    | 対象教員 38名                 |
| 〃（二次研修）                     | 1.31, 2.7～8                                    | 3日       | 教育センター    |                          |
| 〃 地区別（教科別）                  | 1班 8.30～9.1<br>2班 9.11～13                      | 3日<br>3日 |           |                          |
| 〃 地区別（一般Ⅰ）                  | 4.12～14                                        | 3日       | 各所属校      |                          |
| 〃 地区別（一般Ⅱ）                  | 10.4                                           | 1日       | 各地区施設、学校等 |                          |
| 〃 地区別（カウンセリング）              | 7.24～8.24                                      |          |           |                          |
| 〃 地区別（特別活動等）                | 9.6                                            | 1日       |           |                          |
| 〃 地区別（社会奉仕等体験）              | 5.3～11.8                                       |          |           |                          |
| 〃 地区別（安全教育）                 | 5.17                                           | 1日       |           |                          |
| 2年次教員フォローアップ研修<br>（教科等指導研修） | 7.3                                            | 1日       | 教育センター    | 高等学校初任者研修<br>修了教員 39名    |
| 〃（企業体験研修）                   | 7.25～7.27                                      | 3日       | 各企業等      |                          |
| 〃（所属校における研修）                | 4月～3月                                          | 30時間     | 各所属校      |                          |
| 5年経験者研修（校外研修）               | 1班<br>9.8, 10.4, 10.18<br>2班<br>9.15, 10.17～18 | 3日       | 教育センター    | 県立学校教職経験<br>5年を経過した者 47名 |
| 〃（所属校における研修）                | 5月～12月                                         | 5日       | 各所属校      |                          |
| 中堅教諭等資質向上研修                 | 4.12                                           | 1日       | 教育センター    | 県立学校教職経験                 |
| 〃（生徒指導研修）                   | 7.4                                            | 1日       | 教育センター    | 10年を経過した者 68名            |
| 〃（教科指導研修Ⅰ）                  | 7.10                                           | 1日       | 教育センター    |                          |
| 〃（教科指導研修Ⅱ）                  | 2.2                                            | 1日       | 教育センター    |                          |
| 〃（マネジメント）                   | 6.16                                           | 1日       | 教育センター    |                          |
| 〃（特別活動 選択）                  | 9.7                                            | 1日       | 各所、施設等    |                          |

### (2) 教員体験研修（2か月）

実施せず

### (3) 教職員等中央研修

ア 趣旨

学校経営力向上のための高度で専門的な知識等を習得させ、各地域の中核となる校長、教頭、中堅教員を育成する。

イ 主催 独立行政法人教員研修センター

ウ 共催 文部科学省

エ 会場 つくば中央研修センター

オ 期間及び参加者

◇校長研修（11月27日～12月1日）

県立白河実業高等学校長 永山 広克

◇副校長・教頭等研修（8月21日～8月25日）

県立小高産業技術高等学校副校長 池田 光治

◇中堅教員研修（9月11日～9月15日）

県立南会津高等学校教諭 山本 寛

◇中堅教員研修（9月11日～9月15日）

県立二本松実業高等学校教諭 吉田 由香里

◇リーダー教員育成研修（7月31日～8月4日）

県立小野高等学校教諭 白石 裕太

◇リーダー教員育成研修（7月31日～8月4日）

県立郡山北工業高等学校教諭 志田 博隆

### (4) 学校組織マネジメント指導者養成研修

ア 趣旨

学校組織マネジメントの理論を身に付け、的確な校長のリーダーシップと経営理念のもとに戦略を構築し、学校内外の資源を活用することができるようにする。

イ 主催 独立行政法人教員研修センター

ウ 共催 文部科学省

エ 会場 学習管理システムを用いたオンライン研修

オ 期間及び参加者（8月1日～8月31日の期間中、任意の3日間）

県立安積黎明高等学校教頭 榎田 みゆき

### 3 教育課程

#### (1) 高等学校各教科等担当指導主事連絡協議会

ア 目的

高等学校学習指導要領の趣旨の実現を目指し、教育課程の編成及び実施上の諸問題に関する説明、協議、情報交換等を行い、もって高等学校における教育課程の適切な実施を図ることを目的とする。

イ 主催 文部科学省

ウ 共催 国立教育政策研究所

エ 期日 6月23日（金）、26日（月）、28日（水）～30日（金）、7月4日（火）、7日（金）、10日（月）

オ 会場 国立オリンピック記念青少年総合センター  
（ハイブリッド形式による開催）

カ 参加者

| 部会        | 氏名    | 所属       |
|-----------|-------|----------|
| 総 則       | 梅野 克也 | 高校教育課    |
| 国 語       | 鈴木美紀子 | 高校教育課    |
| 地 理 歴 史   | 近内 正幸 | 高校教育課    |
| 公 民       | 野内 鑑  | 高校教育課    |
| 数 学       | 宗形 聡  | 高校教育課    |
| 理 科       | 高橋 信幸 | 高校教育課    |
| 保 健 体 育   | 酒井 祐一 | 健康教育課    |
| 音 楽       | 深田 裕子 | 高校教育課    |
| 美 術 ・ 工 芸 | 梅野 史代 | 教育センター   |
| 書 道       | 上田 彩  | 郡山商業高等学校 |
| 外 国 語     | 小澤 恵子 | 高校教育課    |
| 家庭（共通）    | 岩淵 優子 | 高校教育課    |
| 情報（共通）    | 大内 祐司 | 教育センター   |
| 理 教       | 高橋 信幸 | 高校教育課    |
| 農 業       | 遠藤 智子 | 高校教育課    |
| 工 業       | 先崎 隆幸 | 高校教育課    |
| 商 業       | 猪狩 晃一 | 高校教育課    |
| 水 産       | 遠藤 智子 | 高校教育課    |
| 家庭（専門）    | 岩淵 優子 | 高校教育課    |
| 看 護       | 岩淵 優子 | 高校教育課    |
| 情報（専門）    | 大内 祐司 | 教育センター   |
| 福 祉       | 瀬谷佳代子 | 教育センター   |
| 総合的な探究の時間 | 門馬 邦行 | 県中教育事務所  |
| 特 別 活 動   | 菊地 祐介 | 県南教育事務所  |

#### (2) 高等学校各教科等教育課程研究協議会

ア 目的

高等学校学習指導要領の趣旨の実現を目指し、教育課程の編成及び実施上の諸問題に関する研究協議、情報交換等を行い、もって高等学校における教育課程の適切な実施を図ることを目的とする。

イ 主催 文部科学省

ウ 共催 国立教育政策研究所

エ 期日 11月15日（水）、21日（火）、22日（水）、11月24日（金）、27日（月）～30日（木）

オ 会場 国立オリンピック記念青少年総合センター  
（ハイブリッド形式による開催）

カ 参加者

| 部会        | 氏名    | 所属       |
|-----------|-------|----------|
| 総 則       | 梅野 克也 | 高校教育課    |
| 国 語       | 鈴木美紀子 | 高校教育課    |
| 地 理 歴 史   | 近内 正幸 | 高校教育課    |
| 公 民       | 野内 鑑  | 高校教育課    |
| 数 学       | 宗形 聡  | 高校教育課    |
| 理 科       | 高橋 信幸 | 高校教育課    |
| 保 健 体 育   | 酒井 祐一 | 健康教育課    |
| 音 楽       | 深田 裕子 | 高校教育課    |
| 美 術 ・ 工 芸 | 梅野 史代 | 教育センター   |
| 書 道       | 上田 彩  | 郡山商業高等学校 |
| 外 国 語     | 小澤 恵子 | 高校教育課    |
| 家庭（共通）    | 岩淵 優子 | 高校教育課    |
| 情報（共通）    | 大内 祐司 | 教育センター   |
| 理 数       | 高橋 信幸 | 高校教育課    |
| 農 業       | 遠藤 智子 | 高校教育課    |
| 工 業       | 先崎 隆幸 | 高校教育課    |
| 商 業       | 猪狩 晃一 | 高校教育課    |
| 水 産       | 遠藤 智子 | 高校教育課    |
| 家庭（専門）    | 岩淵 優子 | 高校教育課    |
| 看 護       | 岩淵 優子 | 高校教育課    |
| 情報（専門）    | 大内 祐司 | 教育センター   |
| 福 祉       | 岩淵 優子 | 高校教育課    |
| 総合的な探究の時間 | 門馬 邦行 | 県中教育事務所  |
| 特 別 活 動   | 菊地 祐介 | 県南教育事務所  |

#### (3) 福島県高等学校教育課程講習会

ア 目的

新高等学校学習指導要領について、その趣旨や内容を説明することにより、各学校において円滑に実施できるようにし、特に観点別学習状況評価について丁寧に説明するとともに、教育課程実施に伴う諸問題について研究協議等を実施することにより、高等学校教育の改善及び充実に図る。

イ 主催 文部科学省及び福島県教育委員会

ウ 期日・会場・各地区参加者数

| 地区              | 期日    | 会場        | 参加者数 |
|-----------------|-------|-----------|------|
| 全地区<br>(情報部会のみ) | 7月28日 | コミュニティ福島  | 80   |
| 相 双             | 8月1日  | 相馬高等学校    | 68   |
| 会津・南会津          | 8月2日  | 会津学鳳高等学校  | 116  |
| 県中・県南           | 8月3日  | 清陵情報高等学校  | 300  |
| いわき             | 8月4日  | いわき光洋高等学校 | 143  |
| 県 北             | 8月7日  | 福島南高等学校   | 166  |
| 合 計             |       |           | 873  |

エ 部会の参加者

設置部会及び参加者数は次の通りである。

| 部 会   | 参加者数 | 部 会   | 参加者数 |
|-------|------|-------|------|
| 総 則   | 45   | 書 道   | 実施せず |
| 国 語   | 101  | 外 国 語 | 99   |
| 地理歴史  | 68   | 家 庭   | 27   |
| 公 民   | 実施せず | 情 報   | 80   |
| 数 学   | 100  | 農 業   | 35   |
| 理 科   | 70   | 工 業   | 84   |
| 保健体育  | 91   | 商 業   | 63   |
| 音 楽   | 実施せず | 水 産   | 10   |
| 美術・工芸 | 実施せず | 看護・福祉 | 実施せず |
| 合 計   |      |       | 873  |

#### (4) 情報教育の充実

ア 情報教育研修

(ア) 専門研修 高等学校教育の産業教育及び教育センターの情報処理教育講座の欄参照

(イ) 一般研修 各種研修において情報処理に関する演習等を実施

イ 情報処理関係学科の設置状況

|    |        |                      |
|----|--------|----------------------|
| 農業 | 生産情報   | 福島明成                 |
|    | 情報技術   | 郡山北工業                |
|    | 電気情報   | 会津工業                 |
| 工業 | 情報電子   | 福島工業、清陵情報            |
|    | 情報システム | 二本松実業                |
|    | 情報工学   | 平工業                  |
| 商業 | 情報処理   | 郡山商業、清陵情報            |
|    | 情報会計   | 福島南、本宮、清陵情報          |
|    | 情報ビジネス | 福島商業、白河実業、修明<br>若松商業 |
|    | オフィス情報 | 須賀川創英館               |
|    | 情報システム | 平商業                  |
|    | 産業革新   | 小高産業技術               |
| 水産 | 情報通信   | 小名浜海星                |

ウ ICTを活用した新しい時代の教育研究開発事業に係

る指導力向上開発校の指定

(ア) 目的

ICTを全ての教育活動で活用する新しい時代を迎えるにあたり、指導力向上開発校(モデル校)を指定し、優先的にICT機器を整備し、それらを活用した主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を図ることにより、当該校の学習活動の一層の充実を図る。

また、指導事例の蓄積とそれを支える校内指導体制の充実について研究を進め、その研究成果を公開授業等の実施により県立高校全校に普及させるとともに、ICT環境整備と教員のICT活用指導力の向上を一体的に実現するモデルを構築する。

(イ) 第1期指定校(令和2年～令和4年)

福島高等学校、保原高等学校、安積高等学校  
光南高等学校、若松商業高等学校

(ウ) 第2期指定校(令和3年～令和5年)

福島西高等学校、あさか開成高等学校、白河高等学校  
会津高等学校、会津工業高等学校

#### (5) 国際理解教育の充実

語学指導等を行う外国青年招致事業

国際化に対応できる人材の育成及び外国語教育の充実

ア 招致人数 34名

イ 配 置 ○県内23の高校に各1名を配置、配置校における指導及び訪問指導

○県内9つの高校に各1名、県立中学校に各2名配置、専任校における指導

## 4 学力向上対策等

### (1) 令和5年度文部科学省指定各種研究校

| 研究種別                 | 学校名  | 指定年度          | 研究主題                                                                                                                                       |
|----------------------|------|---------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| スーパーサイエンスハイスクール(SSH) | 会津学鳳 | R3<br>～<br>R7 | 新たな社会である Society 5.0 の実現と新たな情報化の時代の創造、及びSDGsの達成に代表される持続可能な社会の形成に貢献する科学者を会津から育成するため、会津大学や会津の企業等の会津の地域資源を活用し、人材育成のための効果的な教育プログラムの研究開発を行う。    |
|                      |      | R4<br>～<br>R8 | 地域発のサイエンスリーダーとして高い探究心を持ち、社会課題を解決できる科学技術人材に必要な5つの資質・能力(探究力・研究力、傾聴力・発信力、完遂力、情報分析力、往還力)を育成するため、4つの研究テーマを設定し、学校設定科目「SS探究」を中心とした研究実践による研究開発を行う。 |

| 研究種別 | 学校名 | 指定年度          | 研究主題                                                                                                                        |
|------|-----|---------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|      | 安積  | R1<br>～<br>R5 | 自ら進んで課題に向き合い、新しい社会を創出し、地域から世界を牽引できる科学技術系リーダーを育成するために、主体的・協働的な探究型学習を推進する教育プログラムを開発し、それを支え、発展させる新しい地域教育・共創モデルを確立するための研究開発を行う。 |

## (2) 「ふくしま高校生学びの变革支援事業」

### ア 未来を担う高校生の資質・能力育成事業

予備校講師によるレベルの高い授業を参集で実施し、学力の向上を図るとともに、進路意識の高揚を図り、将来リーダーシップを発揮し社会に貢献できる人材としての礎を築いた。

- 対象：難関大学進学への意識・意欲の高い県立高等学校1年生及び2年生。
- 期日：【1年生】  
令和5年8月9日に開催。  
【2年生】  
令和6年3月21日に開催。

### イ 進路実現のための資質・能力育成事業

アクティブ・ラーニングの視点も取り入れて、生徒の大学進学へ向けた早期の意識改革と学力向上を図った。さらには、教員の教科指導力や進路指導力の向上を図るとともに、各学校における指導内容や指導法等について情報共有や連携を進めて、3年間を見通した計画的な指導体制の充実を図った。

- 対象校：県立高等学校21校  
福島、橘、福島西、福島東、安積、安積黎明、郡山東、郡山、須賀川桐陽、白河、白河旭、会津、葵、会津学鳳、喜多方、磐城、磐城桜が丘、いわき光洋、ふたば未来学園、相馬、原町

### ウ 科学の甲子園福島県大会

生徒の理数に関する興味・関心を高めるとともに、意欲ある生徒の再生可能エネルギーの研究開発や放射線医学などを担う能力の育成を図ることを目的に開催した。科学技術・理科・数学等における複数分野の知識・技能を競い合った。

- 実施日：令和5年11月12日

## (3) 震災と復興を未来へつむぐ高校生語り部事業

### ア 震災関連学習・語り部活動の人材育成

- 実践校：県立高等学校17校  
福島、福島明成、安積、あさか開成、岩瀬農業、白河、船引、小野、会津学鳳、南会津、只見、磐城、いわき総合、ふたば未来学園、相馬、相馬総合（新地校舎含む）、原町

### イ 県内の学校間での交流

- 対象：実践校17校
- 期日：令和6年1月29日
- 内容：浅野撚糸株式会社双葉事業所フタバスーパーゼロミル見学、語り部の発表

### ウ 県外・海外の学校等との交流

実践校8校が、県外・海外の高校等と交流を行った。

### エ 震災学習のためのリーフレットの作成・配布

語り部活動の成果をまとめ、交流先へ配布した。

### オ 伝承館を利用した教員研修

#### (ア) 県立高等学校の教員を対象とした研修会

- 対象：県立高等学校初任者研修対象教員
- 期日：令和5年11月1日
- 内容：館内見学、フィールドワーク、語り部講話の受講

#### (イ) 公立小・中学校の教員を対象とした研修会

- 対象：若手教員または校内研修担当教員等
- 実施日：令和5年8月10日、11月29日
- 内容：館内見学、フィールドワークなど

## (4) WWLコンソーシアム構築支援事業

原子力災害からの復興を果たし、持続可能な社会を創造していくグローバル・リーダーの資質・能力の育成に取り組むふたば未来学園中学校・高等学校を拠点校に指定し、探究と海外研修を軸とし、また、大学と連携したグローバル人材育成のカリキュラムの開発・実践、その体制整備を支援した。

- 事業拠点校：1校  
ふたば未来学園中学校・高等学校
- 事業連携校（県内）：5校  
福島、安積、会津、会津学鳳、磐城
- 事業連携校（県外）：2校  
宮城県仙台二華中学校・高等学校  
山形県立東桜学館中学校・高等学校

## 5 生徒指導・進路指導

### (1) 教育事務所指導主事の活動

県内7地区の教育事務所の指導主事の活動によって生徒指導の充実を図った。

主な活動は次のとおりである。

- ア 地区内の高等学校の訪問指導（計画・随時）
- イ 地区内の高等学校生活指導協議会の指導・援助
- ウ 関係諸機関、諸団体との連携
- エ 生徒指導関係の情報と資料の収集
- オ 生徒指導関係の諸研修会における指導

### (2) スクールカウンセラーの配置

生徒の問題行動の多様化や深刻化、東日本大震災に伴う心のケアに対応するため、全ての県立高等学校（73校）にスクールカウンセラーを配置した。

## 6 学校行事

### (1) 卒業式

ア 県立高等学校卒業生数

| 課程  | 性別    |       | 計      |
|-----|-------|-------|--------|
|     | 男     | 女     |        |
| 全日制 | 5,485 | 4,959 | 10,444 |
| 定時制 | 87    | 68    | 155    |
| 通信制 | 41    | 65    | 106    |
| 計   | 5,613 | 5,092 | 10,705 |

イ 卒業式実施期日

| 日付   | 種別  |     |     | 計  |
|------|-----|-----|-----|----|
|      | 全日制 | 定時制 | 通信制 |    |
| 3月1日 | 68  | 5   | 0   | 73 |
| 3月3日 | 0   | 0   | 1   | 1  |
| 計    | 68  | 5   | 1   | 74 |

ウ 県知事、県議会議長、県教育長臨席校

県知事臨席校 3月1日 原町高等学校  
川俣高等学校

県議会議長臨席校 福島東高等学校

県議会副議長臨席校 安積高等学校

県教育長臨席校 磐城高等学校

いわき湯本高等学校(遠野校舎)

### (2) 修学旅行(県立高等学校) ( )は前年度

ア 参加生徒総数 10,325人(10,272人)

イ 参加率 94.4%(96.0%)

ウ 行先

| 行先            | 校数      |
|---------------|---------|
| 県内            | 0 (0)   |
| 北海道           | 2 (1)   |
| 北海道・東北        | 0 (2)   |
| 東北            | 0 (0)   |
| 東北・関東         | 0 (0)   |
| 東北・北陸         | 0 (0)   |
| 北陸            | 0 (3)   |
| 北陸・近畿         | 1 (0)   |
| 関東            | 1 (4)   |
| 関東・中部         | 0 (0)   |
| 東海            | 0 (0)   |
| 近畿(奈良・京都・大坂等) | 53 (56) |
| 中国・近畿         | 11 (6)  |
| 近畿・四国         | 4 (0)   |
| 近畿・四国・中国      | 0 (2)   |
| 九州            | 4 (2)   |
| 沖縄            | 2 (2)   |
| 四国            | 0 (0)   |
| 中部・東海         | 0 (0)   |
| 海外            | 0 (0)   |

|            |     |       |
|------------|-----|-------|
| エ 航空機利用    | 23校 | (23校) |
| (内訳) 北海道方面 | 2校  | (0校)  |
| 大阪方面       | 10校 | (19校) |
| 九州方面       | 4校  | (2校)  |
| 沖縄方面       | 2校  | (2校)  |
| 広島         | 1校  | (0校)  |
| 兵庫         | 4校  | (0校)  |
| 海外         | 0校  | (0校)  |

オ 泊日数

|      |     |       |
|------|-----|-------|
| 1泊2日 | 0校  | (0校)  |
| 2泊3日 | 1校  | (5校)  |
| 3泊4日 | 75校 | (69校) |
| 4泊5日 | 2校  | (4校)  |

カ 必要経費

|             |          |            |
|-------------|----------|------------|
| 生徒一人当たりの最高額 | 145,000円 | (134,928円) |
| 最低額         | 43,060円  | (69,501円)  |
| 平均額         | 105,311円 | (104,359円) |

キ 引率責任者

|     |     |       |
|-----|-----|-------|
| 校長  | 27校 | (44校) |
| 副校長 | 1校  | (2校)  |
| 教頭  | 50校 | (31校) |
| 教諭  | 0校  | (1校)  |

## 7 産業教育

### (1) 県産業教育フェア

令和5年度は実施せず。

### (2) 文部科学省主催の研修講座と内容

- ア 令和5年度産業・情報技術等指導者養成研修  
 商業 7月31日(月)～8月4日(金)  
 千葉商科大学  
 水産 7月24日(月)～26日(金)  
 茨城県立海洋高等学校  
 家庭 8月21日(月)～23日(水)  
 全国高等学校長協会家庭部会事務局  
 情報 8月2日(水)～4日(金)  
 大阪公立大学  
 工業 8月22日(火)～24日(木)  
 金沢工業大学  
 農業 7月24日(月)～28日(金)  
 アクトシティ浜松研修交流センター
- イ 令和5年度産業教育実習助手研修  
 実施せず
- ウ 令和5年度学校農業・家庭クラブ連盟指導者養成講座  
 第64回全国高等学校家庭クラブ指導者養成講座  
 8月3日(木)～4日(金)  
 国立オリンピック記念青少年総合センター  
 令和5年度学校農業クラブ指導者養成講座  
 8月8日(火)～10日(木)  
 国立オリンピック記念青少年総合センター

## 8 学校訪問

### (1) 目的

指導主事等が県立学校を訪問し、関係者とともに授業研究や教科の指導に関する研究協議を行うことにより、学習指導等の充実を図る。

### (2) 訪問校

5年経験者研修、又は中堅教諭等資質向上研修の該当者の勤務する学校から数校を選定する。

### (3) 訪問学校一覧

|            |       |
|------------|-------|
| 福島高等学校     | 理科    |
| 福島明成高等学校   | 農業    |
| 福島工業高等学校   | 工業    |
| 福島西高等学校    | 芸術    |
| 郡山北工業高等学校  | 工業    |
| 郡山高等学校     | 数学    |
| 須賀川創英館高等学校 | 地理歴史  |
| 須賀川桐陽高等学校  | 保健体育  |
| 光南高等学校     | 家庭    |
| 喜多方高等学校    | 商業    |
| 南会津高等学校    | 保健体育  |
| 磐城高等学校     | 公民    |
| いわき光洋高等学校  | 国語    |
| ふたば未来高等学校  | 農業    |
| 相馬総合高等学校   | 理科、芸術 |
| 相馬農業高等学校   | 外国語   |
| いわき翠の杜高等学校 | 学校保健  |

## 9 県立学校学校教育指導委員

| 教科名   | 氏名      | 職名   | 学校名         |
|-------|---------|------|-------------|
| 国語    | 宮内 忠    | 教諭   | 磐城桜が丘高等学校   |
| 地理歴史  | 渡邊 優輔   | 教諭   | 福島高等学校      |
| 公民    | シェルパ 愛子 | 教諭   | 白河実業高等学校    |
| 数学    | 景山 健太   | 教諭   | 福島西高等学校     |
| 理科    | 高橋 里美   | 教諭   | 橘高等学校       |
|       | 和田 真衣   | 教諭   | 福島東高等学校     |
| 保健体育  | 星 謙一    | 教諭   | 郡山商業高等学校    |
|       | 武藤小夜子   | 教諭   | 川口高等学校      |
| 芸術    | 北原 志帆   | 教諭   | ふたば未来学園高等学校 |
|       | 茂木 拓    | 教諭   | 相馬総合高等学校    |
|       | 上田 彩    | 教諭   | 郡山商業高等学校    |
| 外国語   | 塩田 陸    | 教諭   | ふたば未来学園高等学校 |
| 家庭    | 青木 教子   | 教諭   | 郡山北工業高等学校   |
| 情報    | 鈴木 文武   | 教諭   | いわき総合高等学校   |
| 農業・水産 | 伊藤 正樹   | 教諭   | 修明高等学校      |
|       | 藤原 忍    | 教諭   | 相馬農業高等学校    |
| 工業    | 半澤 幸祐   | 教諭   | 二本松実業高等学校   |
|       | 鈴木 康雅   | 教諭   | 白河実業高等学校    |
| 商業    | 中里 充    | 教諭   | 南会津高等学校     |
| 定通    | 宮田 真弥   | 教諭   | 白河第二高等学校    |
| 学校保健  | 増子 栄子   | 養護教諭 | 相馬高等学校      |

(21名)

## 10 教科用図書

### (1) 教科書採択事務説明会

令和5年度は実施せず。

## 11 教育研究団体

### (1) 福島県高等学校長協会

組織

令和5年度福島県高等学校長協会役員名簿

| 役職名  | 氏名           |
|------|--------------|
| 会長   | 鈴木 芳人 (安積)   |
| 副会長  | 丹野 純一 (福島)   |
| 副会長  | 鈴木 義祐 (会津)   |
| 副会長  | 柳 沼 英 樹 (磐城) |
| 副会長  | 吉 田 浩 美 (原町) |
| 監 査  | 味 原 正 美 (福南) |
| 監 査  | 森 下 陽一郎 (福西) |
| 事務局長 | 中 野 茂 (福東)   |

支部

| 支部  | 支部長        | 副支部長       |
|-----|------------|------------|
| 県 北 | 丹野 純一 (福島) | 菊池 直之 (橘)  |
|     |            | 郷家 俊哉 (視支) |
| 県 南 | 鈴木 芳人 (安積) | 黒川 佳子 (黎明) |
|     |            | 矢森 健一 (白河) |
| 会 津 | 鈴木 義祐 (会津) | 尾形 幸男 (葵)  |
|     |            | 近東 昇 (喜桐)  |
| いわき | 柳沼 英樹 (磐城) | 渡邊 学 (桜丘)  |
|     |            | 菅野美恵子 (い支) |
| 相 双 | 吉田 浩美 (原町) | 郡司 完 (ふ未)  |
|     |            | 佐藤 秀美 (相馬) |

理事会

|     | 氏名         |            |
|-----|------------|------------|
| 理事会 | 鈴木 芳人 (安積) | 菊池 直之 (橘)  |
|     | 丹野 純一 (福島) | 酒井 祐治 (福商) |
|     | 鈴木 義祐 (会津) | 安田 修久 (明成) |
|     | 柳沼 英樹 (磐城) | 山内 義美 (福工) |
|     | 吉田 浩美 (原町) | 田母神賢一 (萌世) |
|     | 中野 茂 (福東)  | 郷家 俊哉 (視支) |
|     | 渡邊 亮 (田村)  |            |

専門委員会 (◎印 委員長 ○印 副委員長)

| 専門委員会               | 氏名          |             |
|---------------------|-------------|-------------|
| 管 理<br>運 営<br>委 員 会 | ◎高橋 喜智 (南会) | ○中村 充幸 (福北) |
|                     | 丹野 純一 (福島)  | 中野 茂 (福東)   |
|                     | 高野 敦史 (郡山)  | 佐々木理夫 (小野)  |
|                     | 近東 昇 (喜桐)   | 小林 寿宣 (い総)  |
|                     | 原田 大輔 (四倉)  | 中村 康伸 (相総)  |
|                     | 齋藤 成子 (郡支)  |             |
| 教 育<br>課 題<br>委 員 会 | ◎軽部 英敏 (光南) | ○伊藤 勝宏 (安達) |
|                     | 渋川 卓也 (須創)  | 増子 文隆 (川口)  |
|                     | 柳沼 英樹 (磐城)  | 酒井 正隆 (磐農)  |
|                     | 荒川 俊一 (勿工)  | 伊藤 靖隆 (只見)  |
|                     | 西村 則昌 (聴支)  | 本田 知史 (だ支)  |
|                     | 杉本 雅昭 (た支)  | 赤坂 剛 (富支)   |

| 専門委員会     | 氏 名         |             |
|-----------|-------------|-------------|
| 生徒指導委員会   | ◎佐藤 文男 (会農) | ○鈴木 憲治 (修明) |
|           | 佐藤 正道 (松実)  | 鈴木 義祐 (会津)  |
|           | 野口 智行 (湖南)  | 長南 国彦 (平工)  |
|           | 志賀 勲 (相農)   | 渡邊 武彦 (い翠)  |
|           | 西牧 辰典 (大支)  | 鈴木 龍也 (あ支)  |
|           | 小川 令子 (西支)  | 猪俣 康彦 (猪支)  |
| 教育課程委員会   | ◎伊東 光司 (会西) | ○金成 智子 (あ開) |
|           | 味原 正美 (福南)  | 半谷 佳之 (川俣)  |
|           | 猪股 一教 (白旭)  | 滝田 勝彦 (猪代)  |
|           | 佐藤 秀雄 (好間)  | 吉田 浩美 (原町)  |
|           | 田母神賢一 (萌世)  | 渡部 孝男 (平支)  |
| 高校入試検討委員会 | ◎郡司 完 (ふ未)  | ○亀田 光弘 (船引) |
|           | 安田 修久 (明成)  | 高橋 文彦 (伊達)  |
|           | 永山 広克 (白実)  | 津田 直子 (石川)  |
|           | 渡邊 亮 (田村)   | 猪俣 豊 (喜方)   |
|           | 渡邊 雅彦 (西会)  | 阿部 学 (い湯)   |
| 大学入試対策委員会 | ◎齋藤 靖 (郡東)  | ○森下陽一郎 (福西) |
|           | 菊池 直之 (橘)   | 鈴木 芳人 (安積)  |
|           | 黒川 佳子 (黎明)  | 櫻井 克彦 (須桐)  |
|           | 矢森 健一 (白河)  | 尾形 幸男 (葵)   |
|           | 遠藤 利晴 (学鳳)  | 渡邊 学 (桜丘)   |
|           | 齋藤 文子 (い光)  | 佐藤 秀美 (相馬)  |
| 就職指導対策委員会 | ◎吉井 秀樹 (郡商) | ○鈴木 稔 (郡北)  |
|           | 酒井 祐治 (福商)  | 山内 義美 (福工)  |
|           | 小針 幸雄 (清陵)  | 高橋 豊治 (岩農)  |
|           | 松本 善法 (会工)  | 吉成 広昭 (若商)  |
|           | 渡邊 浩志 (平商)  | 齋藤 裕昭 (小海)  |
|           | 佐竹 建城 (小産)  | 佐藤 清悦 (須支)  |
| 人権教育委員会   | ◎和田 直也 (本宮) | ○田中久美子 (石支) |
|           | 郷家 峻哉 (視支)  | 加藤 香洋 (会支)  |
|           | 菅野美恵子 (い支)  | 植田 貴子 (相支)  |

| 部会長    |               |
|--------|---------------|
| 部 会    | 氏 名           |
| 普通部会   | 菊池 直之 (橘)     |
| 商業部会   | 酒井 祐治 (福島商業)  |
| 農業部会   | 安田 修久 (福島明成)  |
| 工業部会   | 山内 義美 (福島工業)  |
| 水産部会   | 齋藤 裕昭 (小名浜海星) |
| 家庭部会   | 齋藤 文子 (いわき光洋) |
| 定通部会   | 田母神賢一 (郡山萌世)  |
| 特別支援部会 | 郷家 峻哉 (視覚支援)  |
| 理数部会   | 矢森 健一 (白河)    |
| 英語国際部会 | 味原 正美 (福島南)   |
| 体育部会   | 渡邊 亮 (田村)     |
| 総合学科部会 | 中村 充幸 (福島北)   |

| 全国校長会 |               |
|-------|---------------|
| 部 会   | 氏 名           |
| 理 事   | 鈴木 芳人 (安積)    |
| 理 事   | 鈴木 義祐 (会津)    |
| 理 事   | 柳沼 英樹 (磐城)    |
| 管理運営  | 高橋 喜智 (南会津)   |
| 教育課題  | 軽部 英敏 (光南)    |
| 生徒指導  | 佐藤 文男 (会津農林)  |
| 教育課程  | 伊東 光司 (会津西陵)  |
| 大学入試  | 齋藤 靖 (郡山東)    |
| 就職対策  | 吉井 秀樹 (郡山北工業) |
| 人権教育  | 和田 直也 (本宮)    |

## (2) 福島県高等学校教育研究会

ア 財政及び組織の状況

(7) 本部

令和5年度福島県高等学校教育研究会

| 役職名 | 氏 名   | 所属校・職名     |
|-----|-------|------------|
| 会 長 | 味原 正美 | 福島南高等学校長   |
| 副会長 | 吉田 浩美 | 原町高等学校長    |
| 副会長 | 猪俣 豊  | 喜多方高等学校長   |
| 監 査 | 安田 修久 | 福島明成高等学校長  |
| 監 査 | 酒井 祐治 | 福島商業高等学校長  |
| 委 員 | 渡邊 学  | 磐城桜が丘高等学校長 |
| 委 員 | 軽部 英敏 | 光南高等学校長    |
| 委 員 | 鈴木 芳人 | 安積高等学校長    |
| 委 員 | 山内 義美 | 福島工業高等学校長  |
| 委 員 | 酒井 祐治 | 福島商業高等学校長  |
| 委 員 | 櫻井 克彦 | 須賀川桐陽高等学校長 |
| 委 員 | 中村 康伸 | 相馬総合高等学校長  |
| 委 員 | 和田 直也 | 本宮高等学校長    |
| 幹 事 | 齋藤 慶  | 福島南高等学校教頭  |

(1) 部会

| 部会名  | 部会長氏名 | 所属校・職名     | 会員数 |
|------|-------|------------|-----|
| 養護教諭 | 渡邊 学  | 磐城桜が丘高等学校長 | 144 |
| 保健体育 | 軽部 英敏 | 光南高等学校長    | 442 |
| 理 科  | 猪俣 豊  | 喜多方高等学校長   | 393 |
| 音 楽  | 鈴木 芳人 | 安積高等学校長    | 68  |
| 農 業  | 安田 修久 | 福島明成高等学校長  | 224 |
| 工 業  | 山内 義美 | 福島工業高等学校長  | 365 |
| 商 業  | 酒井 祐治 | 福島商業高等学校長  | 282 |
| 定 通  | 山内 義美 | 福島工業高等学校長  | 148 |
| 英 語  | 櫻井 克彦 | 須賀川桐陽高等学校長 | 400 |
| 数 学  | 吉田 浩美 | 原町高等学校長    | 406 |
| 家 庭  | 中村 康伸 | 相馬総合高等学校長  | 117 |
| 美術工芸 | 和田 直也 | 本宮高等学校長    | 44  |

○令和5年度予算 132,976 円

## 第4節 文化活動の振興

高校生の芸術文化活動の充実向上を図るため、福島県高等学校文化連盟に対する助成を行った。  
けんしん郡山文化センターにて、福島県高等学校総合文化祭活動優秀校公演を開催した。

### (1) 芸術文化活動発表機会の充実

ア 福島県高等学校文化連盟への助成

福島県高等学校総合文化祭の開催に対する補助を行った。(補助対象事業費計：8,482千円、補助金額計：1,000千円)

(ア) 令和5年度福島県高等学校文化連盟

役員

| 役職名      | 氏名    | 職  | 所属校        |
|----------|-------|----|------------|
| 会長       | 黒川 佳子 | 校長 | 安積黎明高等学校   |
| 副会長(私立)  | 森 涼   | 校長 | 学法石川高等学校   |
| 副会長(県北)  | 高橋 文彦 | 校長 | 伊達高等学校     |
| 副会長(県南)  | 吉井 秀樹 | 校長 | 郡山商業高等学校   |
| 副会長(会津)  | 遠藤 利晴 | 校長 | 会津学鳳高等学校   |
| 副会長(いわき) | 渡邊 浩志 | 校長 | 平商業高等学校    |
| 副会長(相双)  | 佐竹 建城 | 校長 | 小高産業技術高等学校 |
| 理事長      | 三條 敦  | 教諭 | 安積黎明高等学校   |
| 事務局長     | 藤井 克憲 | 教諭 | 安積黎明高等学校   |

| 役職名 | 氏名    | 職    | 所属校      |
|-----|-------|------|----------|
| 監事  | 和田 直也 | 校長   | 本宮高等学校   |
| 監事  | 飯豊 利子 | 教諭   | 郡山高等学校   |
| 幹事  | 鈴木 敦  | 教諭   | 福島商業高等学校 |
| 幹事  | 原 義治  | 教諭   | 会津学鳳高等学校 |
| 幹事  | 櫛田みゆき | 教頭   | 安積黎明高等学校 |
| 幹事  | 難波 幸生 | 教諭   | 安積黎明高等学校 |
| 幹事  | 清野 志保 | 教諭   | 安積黎明高等学校 |
| 幹事  | 池田 知美 | 教諭   | 安積黎明高等学校 |
| 幹事  | 馬場 浩身 | 実習教諭 | 安積黎明高等学校 |
| 顧問  | 箱崎 兼一 | 課長   | 高校教育課    |

専門部会長・専門部委員長

| 専門部         | 部会長    | 職  | 所属校     | 部委員長  | 職  | 所属校          |
|-------------|--------|----|---------|-------|----|--------------|
| 演劇          | 柳沼 英樹  | 校長 | 磐城      | 小林 俊一 | 教諭 | 磐城           |
| 高音連         | 星 弓彦   | 教頭 | ふたば未来学園 | 小山田 浩 | 教諭 | いわき湯本        |
| 合唱          | 黒川 佳子  | 校長 | 安積黎明    | 星 英一  | 教諭 | 安積黎明         |
| 吹奏楽         | 中村 康伸  | 校長 | 相馬総合    | 今野 貴文 | 教諭 | 相馬総合         |
| 器楽管弦楽       | 吉井 秀樹  | 校長 | 郡山商業    | 鈴木 敦  | 教諭 | 郡山商業         |
| 日本音楽        | 吉田 浩美  | 校長 | 原 町     | 萩原 睦子 | 教諭 | 原 町          |
| 吟詠剣詩舞       | 千葉 義夫  | 校長 | 昌 平     | 大橋 未緒 | 教頭 | 昌 平          |
| 郷土芸能        | 志賀 勲   | 校長 | 相馬農業    | 佐藤 規慶 | 教諭 | 磐城農業         |
| マーチングB・パトント | 軽部 英敏  | 校長 | 光 南     | 横田 日夏 | 教諭 | 光 南          |
| 美術・工芸       | 和田 直也  | 校長 | 本 宮     | 眞柴 毅  | 教諭 | 福島東          |
| 書道          | 田母神 賢一 | 校長 | 郡山萌世    | 小野 俊彦 | 教諭 | 郡山萌世         |
| 写真          | 中村 充幸  | 校長 | 福島北     | 根津 邦子 | 教諭 | 福島北          |
| 放送          | 吉田 浩美  | 校長 | 原 町     | 佐藤 悠介 | 教諭 | 原 町          |
| 囲碁          | 菊池 直之  | 校長 | 橘       | 佐原 輝明 | 教諭 | ふくしま新世(保原校舎) |
| 将棋          | 丹野 純一  | 校長 | 福 島     | 渡辺 洋生 | 教諭 | 福 島          |
| 弁論          | 鈴木 義祐  | 校長 | 会 津     | 猪俣小百合 | 教諭 | 会 津          |
| 小倉百人一首かるた   | 黒川 佳子  | 校長 | 安積黎明    | 益永 涼子 | 教諭 | 安積黎明         |
| 新聞          | 鈴木 芳人  | 校長 | 安 積     | 石山 智恵 | 教諭 | 安 積          |
| 文芸          | 高野 敦史  | 校長 | 郡山      | 近内富美子 | 教諭 | 郡山東          |
| 自然科学        | 猪俣 豊   | 校長 | 喜多方     | 今野 直樹 | 教諭 | 相 馬          |
| 農業          | 佐藤 文男  | 校長 | 会津農林    | 吉田 勇人 | 教諭 | 会津農業         |
| 工業          | 鈴木 稔   | 校長 | 郡山北工業   | 永山小太郎 | 教諭 | 郡山北工業        |
| 商業          | 酒井 祐治  | 校長 | 福島商業    | 渡邊 貴  | 教諭 | 福島商業         |

| 専 門 部  | 部会長   | 職   | 所属校    | 部委員長  | 職   | 所属校    |
|--------|-------|-----|--------|-------|-----|--------|
| 家 庭    | 中山 充幸 | 校 長 | 福島北    | 安孫子朋子 | 教 諭 | 福島北    |
| 定 通    | 渡邊 武彦 | 校 長 | いわき翠の杜 | 川邊奈津子 | 教 諭 | いわき翠の杜 |
| 特別支援学校 | 加藤 香洋 | 校 長 | 会津支援   | 菅野 友代 | 教 諭 | 会津支援   |
| J R C  | 遠藤 利晴 | 校 長 | 会津学鳳   | 鈴木 俊子 | 教 諭 | 会津学鳳   |

イ 第 42 回福島県高等学校総合文化祭

県内高校生の文化活動の成果発表と相互の交流を目的として、全県内において、令和 5 年 5 月から令和 5 年 12 月まで、専門部の行事を開催した。

ウ 第 47 回全国高等学校総合文化祭東京大会への参加

本県からは、17 部門に 173 名の生徒が参加した。

[参加部門]

演劇、合唱、吹奏楽、器楽・管弦楽、日本音楽、吟詠剣詩舞、美術・工芸、書道、写真、放送、囲碁、将棋、小倉百人一首かるた、新聞、文芸、自然科学

エ 令和 5 年度福島県高文連専門部全国大会入賞状況

(ア) 団体

| 専 門 部                 | 大 会 名                                      | 成 績                                                                | 学 校 名 |
|-----------------------|--------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------|-------|
| 郷土芸能                  | 太鼓祭 2023 日本一決定戦                            | 文部科学大臣賞                                                            | 帝京安積  |
| マーチングバンド・<br>バトントワリング | 全国高等学校ダンスドリル選手大会 2023                      | PROP 部門 1 位、DRILL POM 部門 Small 編成 2 位、<br>GRANDACHIVEMENTAWARD 2 位 | 郡山商業  |
|                       | 全国高等学校ダンスドリル選手大会 2023                      | KICK 部門 1 位、MILITARY 部門 1 位                                        | 郡 山   |
| 吹奏楽                   | 第 46 回全日本アンサンブルコンテスト                       | 金賞 (金管八重奏)                                                         | いわき湯本 |
|                       | 第 71 回全日本吹奏楽コンクール                          | 銅賞                                                                 |       |
| 合唱                    | 第 76 回全日本合唱コンクール全国大会                       | 金賞 (B グループ)                                                        | 郡 山   |
|                       | 第 90 回 NHK 全国学校音楽コンクール                     | 銀賞                                                                 | 会 津   |
|                       | 第 76 回全日本合唱コンクール全国大会                       | 金賞・香川県知事賞 (B グループ)                                                 |       |
| 新聞                    | 第 90 回 NHK 全国学校音楽コンクール                     | 銅賞                                                                 | 安積黎明  |
|                       | 第 76 回全日本合唱コンクール全国大会                       | 銅賞 (A グループ)                                                        |       |
|                       | 第 47 回全国高等学校総合文化祭<br>(第 27 回全国高校新聞年間紙面審査賞) | 優秀賞                                                                |       |
| 工業                    | 第 31 回全国高等学校ロボット競技大会                       | 技術奨励賞                                                              | 清陵情報  |
| 文芸                    | 第 38 回全国高等学校文芸コンクール                        | 文芸部誌部門 優秀賞                                                         | 磐 城   |

(イ) 個人

| 専 門 部         | 大 会 名                                 | 成 績                | 学 校 名        | 氏 名   |
|---------------|---------------------------------------|--------------------|--------------|-------|
| 将棋            | 第 47 回全国高等学校総合文化祭                     | 男子個人戦 優勝           | 福島成蹊         | 小島 佑斗 |
|               | 第 59 回全国高等学校将棋選手大会                    |                    |              |       |
| 家庭            | 第 71 回全国高等学校家庭クラブ連盟研究発表大会             | 宮城県教育委員会賞          | 会津農林<br>耶麻校舎 | 飯塚 美羽 |
| 小倉百人一首<br>かるた | 第 47 回全国高等学校総合文化祭鹿児島大会                | 読手コンクールの部<br>優秀賞   | 安積黎明         | 伊東 彩音 |
| 商業            | 第 35 回全国高等学校情報処理競技大会                  | 個人の部 3 位           | 福島商業         | 中村 粹吏 |
| 文芸            | 第 39 回全国高等学校文芸コンクール                   | 小説部門 優秀賞           | 橘            | 田村 美結 |
|               | 第 39 回全国高等学校文芸コンクール                   | 短歌部門 優秀賞           | 磐城           | 関根 杏華 |
| 農業            | 第 74 回日本学校農業クラブ連盟 全国大会令和 5 年<br>度熊本大会 | 意見発表分野 II 類<br>優秀賞 | 相馬農業         | 佐々木海渡 |

|                       |                                             |                     |       |       |
|-----------------------|---------------------------------------------|---------------------|-------|-------|
| マーチングバンド・<br>バトントワリング | Dance Drill Winter Cup 第15回全国高等学校ダンスドリル冬季大会 | Ms. SOLO 1年生 2位     | 郡山商業  | 村上 花梨 |
| 特別支援学校                | 令和5年度第30回全国特別支援学校文化祭                        | 文部科学大臣賞             | 平支援   | 中川 愛理 |
|                       | 令和5年度第30回全国特別支援学校文化祭                        | 全国特別支援学校知的障害教育校長会長賞 | 大笹生支援 | 吾妻 蛭  |
| 定通                    | 第71回全国高等学校定時制通信制生徒生活体験大会                    | NHK会長賞              | 会津第二  | 塚原 大翔 |

オ 令和5年度福島県高等学校文化連盟表彰

(ア) 優秀団体

| No. | 団体名                | 所属校名  | 専門部                   | 全国大会での成績                                                                             |
|-----|--------------------|-------|-----------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|
| 1   | チアリーディング部          | 郡山商業  | マーチングバンド・<br>バトントワリング | 全国高等学校ダンスドリル選手権大会 2023<br>PROP 部門 1位、DRILL POM 部門 Small 編成 2位、GRANDACHIVEMENTAWARD2位 |
| 2   | チアダンス部             | 郡山    | マーチングバンド・<br>バトントワリング | 全国高等学校ダンスドリル選手権大会 2023<br>KICK 部門 1位、MILITARY 部門 1位                                  |
| 3   | 報道委員会              | 郡山北工業 | 新聞                    | 第47回全国高等学校総合文化祭<br>(第27回全国高校新聞年間紙面審査賞) 優秀賞                                           |
| 4   | 合唱部                | 郡山    | 合唱                    | 第76回全日本合唱コンクール全国大会 金賞 (Bグループ)<br>第90回NHK全国学校音楽コンクール 銀賞                               |
| 5   | 合唱部                | 会津    | 合唱                    | 第76回全日本合唱コンクール全国大会 金賞 (Bグループ) 香川県知事賞<br>第90回NHK全国学校音楽コンクール 銅賞                        |
| 6   | 吹奏楽部               | いわき湯本 | 吹奏楽                   | 第46回全日本アンサンブルコンテスト 金賞 (金管八重奏)                                                        |
| 7   | 情報処理部              | 福島商業  | 商業                    | 第35回全国高等学校情報処理競技大会 準優勝                                                               |
| 8   | 和太鼓部               | 帝京安積  | 郷土芸能                  | 太鼓祭2023 日本一決定戦 文部科学大臣賞                                                               |
| 9   | 文学部                | 磐城    | 文芸                    | 第38回全国高等学校文芸コンクール 文芸部誌部門 優秀賞                                                         |
| 10  | フラ・タヒチアン<br>ダンス同好会 | あさか開成 |                       | 令和5年度フラダンス甲子園 最優秀賞 文部科学大臣賞                                                           |

(イ) 優秀個人

| No. | 氏名    | 所属校名         | 専門部                   | 全国大会での成績                                                       |
|-----|-------|--------------|-----------------------|----------------------------------------------------------------|
| 1   | 小島 佑斗 | 福島成蹊         | 将棋                    | 第47回全国高等学校総合文化祭 第59回全国高等学校将棋選手大会<br>男子個人戦優勝                    |
| 2   | 伊東 彩音 | 安積黎明         | 小倉百人一首<br>かるた         | 第47回全国高等学校総合文化祭<br>読手コンクールの部 最優秀賞                              |
| 3   | 飯塚 美羽 | 会津農林<br>耶麻校舎 | 家庭                    | 第71回全国高等学校家庭クラブ連盟研究発表大会<br>宮城県教育委員会賞                           |
| 4   | 中村 粹吏 | 福島商業         | 商業                    | 第35回全国高等学校情報処理競技大会 個人の部 3位                                     |
| 5   | 田村 美結 | 橘            | 文芸                    | 第39回全国高等学校文芸コンクール 小説部門 優秀賞                                     |
| 6   | 関根 杏華 | 磐城           | 文芸                    | 第39回全国高等学校文芸コンクール 小説部門 優秀賞                                     |
| 7   | 佐々木海渡 | 相馬農業         | 農業                    | 第74回日本学校農業クラブ連盟 全国大会令和5年度熊本大会<br>意見発表分野Ⅱ類 優秀賞                  |
| 8   | 村上 花梨 | 郡山商業         | マーチングバンド・<br>バトントワリング | Dance Drill Winter Cup 第15回全国高等学校ダンスドリル冬季大会<br>Ms. SOLO 1年生 2位 |
| 9   | 中川 愛理 | 平支援          | 特別支援学校                | 令和5年度第30回全国特別支援学校文化祭 文部科学大臣賞                                   |
| 10  | 吾妻 蛭  | 大笹生支援        | 特別支援学校                | 令和5年度第30回全国特別支援学校文化祭 全国特別支援学校知的障害教育校長会長賞                       |
| 11  | 塚原 大翔 | 会津第二         | 定通                    | 第71回全国高等学校定時制通信制生徒生活体験大会 NHK 会長賞                               |

## (ウ) 優秀指導者

| No. | 氏名     | 所属校名         | 専門部       | 全国大会での成績                                                                                                                                                                                                                                               |
|-----|--------|--------------|-----------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1   | 坂本 雄一  | 帝京安積         | 郷土芸能      | 第 11 回全国高校生太鼓甲子園において最優秀賞（第 1 位相当）太鼓祭 in 埼玉、第 16 回東日本・北日本大会において一般の部 第 1 位、太鼓祭 2022 第 14 回日本一決定戦 特審賞、太鼓祭第 3 回全国 7 人制和太鼓選手権大会 女子の部において第 1 位                                                                                                               |
| 2   | 小山田 浩  | いわき湯本        | 福島県高文連事務局 | 【いわき湯本高校】<br>令和 4 年度 第 46 回全日本アンサンブルコンテスト（金管八重奏）金賞<br>【湯本高校】<br>第 65 回全日本吹奏楽コンクール銅賞、第 66 回全日本吹奏楽コンクール銅賞<br>【原町高校】<br>第 53 回全日本吹奏楽コンクール東北大会金賞<br>第 38 回全日本アンサンブルコンテスト東北大会クラリネット八重奏金賞<br>【磐城桜が丘高校】<br>第 57 回全日本吹奏楽コンクール東北大会金賞<br>第 59 回全日本吹奏楽コンクール東北大会金賞 |
| 3   | 木野 美智子 | 会津農林<br>耶麻校舎 | 家庭        | 令和 3 年度東北ブロック家庭クラブ連盟研究発表大会ホームプロジェクトの部において最優秀賞を受賞した生徒が、令和 4 年度に行われた全国大会において第 1 位に該当する文部科学大臣賞を受賞した。きめ細やかな指導とその実績は優秀指導者として相応しいことから、この度家庭専門部として推薦いたします。                                                                                                    |

# 第7章 特別支援教育

## 第1節 概要

県教育委員会では、福島県学校教育審議会に本県における今後の特別支援教育の在り方について諮問し、平成21年9月に「地域で共に学び、共に生きる教育」の推進を基本理念とする答申を受けた。本答申を具体的な施策に反映させるため、第7次福島県総合教育計画の施策3、学びのセーフティネットと個性を伸ばす教育によって多様性を力に変える土壌をつくる、においては、「インクルーシブ教育システムの理念を踏まえ、多様な学びの場や交流及び共同学習の充実と整備」、「個別の教育支援計画及び個別の指導計画の活用や引継ぎ」、「質の高い授業と合理的配慮の提供」、「医療的ケアを必要とする児童生徒の学びの場の環境整備」、「高等学校における通級による指導の充実と交流及び共同学習の推進」、「特別支援教育に関する教員の専門性の向上」等を本県の目指すべき特別支援教育の方向性として示した。

また、「夢に向かってテクノチャレンジ事業」として、県内の高等部設置特別支援学校全校による「特別支援学校作業技能大会」を開催した。日々の学習の成果を発表し合うとともに、作業技能検定等において外部専門家から客観的な評価を受けることを通して、生徒の自立や社会参加につながる学力や技能、意欲の向上を図った。また、「特別支援学校における就労推進支援事業」を実施し、特別支援学校高等部生徒の就職率と職場定着率の向上に向けて、労働や福祉の関係機関と連携体制の構築と、企業への理解啓発並びに企業で働き続けることのできる人材の育成を図った。

「ふくしまの誰一人取り残さない教育体制整備事業」では、市町村教育委員会と連携協力の下、医療、福祉、保健、労働との関係機関と連携を図りながら、県内全ての特別な支援を必要とする幼児児童生徒が地域において一貫した支援を受けることができる相談支援体制の整備、病気療養中の児童生徒に対する学習支援体制の構築を進めた。また、特別支援教育に関する教員に対する研修の充実と専門性の向上を図るとともに、特別支援学校の地域支援センターを中心に、センター的機能による、幼稚園、小・中・高等学校への相談支援や研修支援を充実させ、地域における支援の充実を図った。さらに、教育事務所を中心として特別支援教育センター、特別支援学校がそれぞれの役割や機能を果たすとともに、地域支援チームとして連携・協力して市町村や学校等のニーズに応じ、支援体制整備に向けた取組を行った。

「特別支援学校における医療的ケア実施事業」を実施し、教育・医療・福祉等関係者からなる「医療的ケア実施運営協議会」を開催し、本県における医療的ケアの在り方について協議を行った。また、常時、医療的ケアを必要とする児童生徒（訪問教育や病院入院生徒は除く）が在籍している学校（15校）に常勤講師及び特別非常勤講師として看護師を配置した。さらに、医療的ケアの実施を指導する「指導医の委嘱」、地域の保健・医療・福祉機関のバックアップ体制の確立のための「医療的ケアサポート会議の設置」、医療的ケアの実施に必要な「医療機器等の整備」を行った。

## 第2節 学校管理

### 1 児童生徒数と教職員定数

#### (1) 児童生徒数の推移

| 種別              | 部/年度 | 26    | 27    | 28    | 29    | 30    | 元     | 2     | 3     | 4     | 5     |
|-----------------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 視覚障がい<br>特別支援学校 | 幼稚部  |       |       |       |       |       |       |       |       |       | 2     |
|                 | 小学部  | 4     | 3     | 5     | 5     | 3     | 1     | 3     | 5     | 4     | 4     |
|                 | 中学部  | 6     | 5     | 3     | 4     | 5     | 8     | 7     | 6     | 3     | 4     |
|                 | 高等部  | 25    | 24    | 22    | 19    | 17    | 12    | 14    | 17    | 20    | 14    |
|                 | 計    | 35    | 32    | 30    | 28    | 25    | 21    | 24    | 28    | 27    | 24    |
| 聴覚障がい<br>特別支援学校 | 幼稚部  | 17    | 12    | 10    | 14    | 17    | 17    | 18    | 19    | 23    | 20    |
|                 | 小学部  | 45    | 44    | 44    | 38    | 32    | 23    | 34    | 32    | 29    | 29    |
|                 | 中学部  | 22    | 25    | 26    | 28    | 26    | 29    | 20    | 18    | 16    | 19    |
|                 | 高等部  | 24    | 22    | 23    | 28    | 28    | 28    | 29    | 30    | 33    | 20    |
|                 | 計    | 108   | 103   | 103   | 108   | 103   | 97    | 101   | 99    | 101   | 88    |
| 知的障がい<br>特別支援学校 | 小学部  | 517   | 529   | 543   | 551   | 600   | 623   | 632   | 664   | 681   | 712   |
|                 | 中学部  | 373   | 371   | 370   | 376   | 384   | 389   | 389   | 398   | 394   | 400   |
|                 | 高等部  | 749   | 751   | 803   | 819   | 812   | 820   | 821   | 811   | 849   | 865   |
|                 | 計    | 1,639 | 1,651 | 1,716 | 1,746 | 1,796 | 1,832 | 1,842 | 1,873 | 1,924 | 1,977 |

| 種別              | 部/年度 | 26    | 27    | 28    | 29    | 30    | 元     | 2     | 3     | 4     | 5     |
|-----------------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 肢体不自由<br>特別支援学校 | 小学部  | 142   | 139   | 136   | 130   | 126   | 127   | 113   | 103   | 98    | 89    |
|                 | 中学部  | 69    | 70    | 66    | 71    | 70    | 71    | 78    | 84    | 81    | 68    |
|                 | 高等部  | 72    | 79    | 82    | 82    | 73    | 62    | 67    | 69    | 77    | 92    |
|                 | 計    | 283   | 288   | 284   | 283   | 269   | 260   | 258   | 256   | 256   | 249   |
| 病弱<br>特別支援学校    | 小学部  | 35    | 27    | 33    | 30    | 29    | 26    | 26    | 32    | 24    | 25    |
|                 | 中学部  | 25    | 32    | 23    | 40    | 35    | 42    | 31    | 31    | 42    | 36    |
|                 | 高等部  | 32    | 37    | 35    | 36    | 46    | 52    | 57    | 47    | 50    | 48    |
|                 | 計    | 92    | 96    | 91    | 106   | 110   | 120   | 114   | 110   | 116   | 109   |
| 合 計             |      | 2,157 | 2,170 | 2,224 | 2,271 | 2,303 | 2,330 | 2,339 | 2,366 | 2,424 | 2,447 |

※1 知的障がい特別支援学校は市立特別支援学校、福島大学附属特別支援学校を含む。

※2 視覚障がい特別支援学校高等部は専攻科を含む。

**(2) 令和5年度児童生徒数**

(R5.5.1 学校基本調査、訪問学級を含む)

| 種別              | 性別 | 幼稚園 | 小学部 |     |     |     |     |     |     | 中学部 |     |     |     | 高等部 |     |     |     |     |    | 総計   |
|-----------------|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|----|------|
|                 |    |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     | 本科  |     |     |     | 専攻科 | 合計 |      |
|                 |    |     | 1   | 2   | 3   | 4   | 5   | 6   | 計   | 1   | 2   | 3   | 計   | 1   | 2   | 3   | 計   |     |    |      |
| 視覚障がい<br>特別支援学校 | 男  | 0   | 0   | 0   | 2   | 2   | 0   | 0   | 4   | 1   | 1   | 1   | 3   | 1   | 3   | 2   | 6   | 3   | 9  | 16   |
|                 | 女  | 2   | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   | 1   | 1   | 0   | 2   | 2   | 4   | 1   | 5  | 8    |
|                 | 計  | 2   | 0   | 0   | 2   | 2   | 0   | 0   | 4   | 1   | 1   | 2   | 4   | 1   | 5   | 4   | 10  | 4   | 14 | 24   |
| 聴覚障がい<br>特別支援学校 | 男  | 7   | 3   | 2   | 4   | 4   | 5   | 1   | 19  | 1   | 3   | 4   | 8   | 2   | 3   | 4   | 9   |     |    | 43   |
|                 | 女  | 13  | 3   | 3   | 0   | 4   | 0   | 0   | 10  | 5   | 4   | 2   | 11  | 0   | 4   | 7   | 11  |     |    | 45   |
|                 | 計  | 20  | 6   | 5   | 4   | 8   | 5   | 1   | 29  | 6   | 7   | 6   | 19  | 2   | 7   | 11  | 20  |     |    | 88   |
| 知的障がい<br>特別支援学校 | 男  |     | 96  | 73  | 83  | 92  | 78  | 89  | 511 | 95  | 95  | 94  | 284 | 190 | 188 | 174 | 552 |     |    | 1347 |
|                 | 女  |     | 37  | 28  | 44  | 18  | 41  | 33  | 201 | 40  | 38  | 38  | 116 | 106 | 120 | 87  | 313 |     |    | 630  |
|                 | 計  |     | 133 | 101 | 127 | 110 | 119 | 122 | 712 | 135 | 133 | 132 | 400 | 296 | 308 | 261 | 865 |     |    | 1977 |
| 肢体不自由<br>特別支援学校 | 男  |     | 7   | 7   | 7   | 9   | 8   | 6   | 44  | 11  | 15  | 15  | 41  | 23  | 15  | 11  | 49  |     |    | 134  |
|                 | 女  |     | 5   | 8   | 7   | 5   | 12  | 8   | 45  | 9   | 8   | 10  | 27  | 17  | 14  | 12  | 43  |     |    | 115  |
|                 | 計  |     | 12  | 15  | 14  | 14  | 20  | 14  | 89  | 20  | 23  | 25  | 68  | 40  | 29  | 23  | 92  |     |    | 249  |
| 病弱<br>特別支援学校    | 男  |     | 4   | 1   | 3   | 2   | 3   | 3   | 16  | 5   | 9   | 10  | 24  | 11  | 10  | 11  | 32  |     |    | 72   |
|                 | 女  |     | 2   | 1   | 1   | 0   | 1   | 4   | 9   | 4   | 4   | 4   | 12  | 7   | 5   | 4   | 16  |     |    | 37   |
|                 | 計  |     | 6   | 2   | 4   | 2   | 4   | 7   | 25  | 9   | 13  | 14  | 36  | 18  | 15  | 15  | 48  |     |    | 109  |

※ 市立特別支援学校、福島大学附属特別支援学校を含む。

**(3) 県立特別支援学校教職員定数の推移**

| 種別 | 年度    | 視覚支援学校・聴覚支援学校 |     |     |     |     |     |     |     |     |     | 特別支援学校 |       |       |       |       |       |       |       |       |       |
|----|-------|---------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
|    |       | 26            | 27  | 28  | 29  | 30  | 元   | 2   | 3   | 4   | 5   | 26     | 27    | 28    | 29    | 30    | 元     | 2     | 3     | 4     | 5     |
| 教員 | 校長    | 2             | 2   | 2   | 2   | 2   | 2   | 2   | 2   | 2   | 2   | 12     | 12    | 12    | 13    | 13    | 13    | 13    | 13    | 14    | 14    |
|    | 教頭・教諭 | 115           | 131 | 129 | 133 | 131 | 124 | 126 | 127 | 126 | 128 | 967    | 1,145 | 1,157 | 1,209 | 1,242 | 1,250 | 1,250 | 1,252 | 1,266 | 1,271 |
|    | 養護教諭  | 4             | 4   | 4   | 4   | 4   | 4   | 4   | 4   | 4   | 4   | 23     | 24    | 24    | 26    | 26    | 26    | 27    | 27    | 29    | 29    |
|    | 兼任主事  |               |     |     |     |     |     |     |     |     |     |        |       |       |       |       |       |       |       |       |       |
|    | 補充教員  | 16            | 14  | 8   | 13  | 12  | 10  | 15  | 6   | 7   | 10  | 160    | 160   | 150   | 170   | 189   | 173   | 154   | 133   | 155   | 149   |

| 種別<br>年度 | 視覚支援学校・聴覚支援学校 |     |     |     |     |     |     |     |     |     | 特別支援学校 |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |  |
|----------|---------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--|
|          | 26            | 27  | 28  | 29  | 30  | 元   | 2   | 3   | 4   | 5   | 26     | 27    | 28    | 29    | 30    | 元     | 2     | 3     | 4     | 5     |       |  |
| 教員       | 講師            |     |     |     |     |     |     |     |     |     |        |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |  |
|          | 寄宿舎指導員        | 25  | 25  | 27  | 28  | 28  | 28  | 28  | 29  | 30  | 29     | 32    | 34    | 32    | 31    | 30    | 28    | 27    | 27    | 27    | 29    |  |
|          | 実習助手          | 8   | 8   | 8   | 8   | 8   | 8   | 8   | 8   | 8   | 8      | 24    | 24    | 25    | 27    | 27    | 27    | 27    | 27    | 29    | 29    |  |
|          | 計             | 170 | 184 | 178 | 188 | 185 | 176 | 183 | 176 | 177 | 181    | 1,218 | 1,399 | 1,400 | 1,476 | 1,527 | 1,517 | 1,498 | 1,479 | 1,520 | 1,521 |  |
| 事務職員     | 12            | 11  | 11  | 11  | 11  | 11  | 11  | 11  | 11  | 11  | 51     | 50    | 51    | 53    | 53    | 54    | 53    | 53    | 57    | 57    |       |  |
| その他の職員   | 技能労務員         |     |     |     |     |     |     |     |     |     |        |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |  |
|          | 学校司書          |     |     |     |     |     |     |     |     |     |        |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |  |
|          | 用務員           | 2   | 2   | 2   | 2   | 2   | 2   | 2   | 2   | 2   | 2      | 6     | 6     | 7     | 6     | 6     | 5     | 5     | 4     | 4     | 3     |  |
|          | ボイラー技師        | 2   | 2   | 1   | 1   | 1   | 1   | 1   | 1   | 1   | 0      | 1     | 1     | 1     | 1     | 1     | 1     | 1     | 1     | 1     | 1     |  |
|          | 栄養職員          | 2   | 2   | 2   | 2   | 2   | 2   | 2   | 2   | 2   | 2      | 9     | 9     | 9     | 10    | 10    | 10    | 10    | 10    | 10    | 10    |  |
|          | 調理給食員         |     |     |     |     |     |     |     |     |     |        |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |  |
|          | 技能訓練士         |     |     |     |     |     |     |     |     |     |        |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |  |
|          | マッサージ師        |     |     |     |     |     |     |     |     |     |        |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |  |
|          | 運転手           |     |     |     |     |     |     |     |     |     |        |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |  |
|          | 計             | 6   | 6   | 5   | 5   | 5   | 5   | 5   | 5   | 5   | 4      | 16    | 16    | 17    | 17    | 17    | 16    | 16    | 15    | 15    | 14    |  |
| 合計       | 188           | 201 | 194 | 204 | 201 | 192 | 199 | 192 | 193 | 196 | 1,285  | 1,465 | 1,468 | 1,546 | 1,597 | 1,587 | 1,567 | 1,547 | 1,592 | 1,592 |       |  |

| 種別<br>年度 | 計      |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |
|----------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
|          | 26     | 27    | 28    | 29    | 30    | 元     | 2     | 3     | 4     | 5     |       |
| 教員       | 校長     | 14    | 14    | 14    | 15    | 15    | 15    | 15    | 16    | 16    |       |
|          | 教頭・教諭  | 1,082 | 1,276 | 1,286 | 1,342 | 1,373 | 1,374 | 1,376 | 1,379 | 1,392 | 1,399 |
|          | 養護教諭   | 27    | 28    | 28    | 30    | 30    | 30    | 31    | 31    | 33    | 33    |
|          | 兼任主事   |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |
|          | 補充教員   | 176   | 174   | 158   | 183   | 201   | 183   | 169   | 139   | 162   | 159   |
|          | 講師     |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |
|          | 寄宿舎指導員 | 57    | 59    | 59    | 59    | 58    | 56    | 55    | 56    | 57    | 58    |
|          | 実習助手   | 32    | 32    | 33    | 35    | 35    | 35    | 35    | 35    | 37    | 37    |
| 計        | 1,388  | 1,583 | 1,578 | 1,664 | 1,712 | 1,693 | 1,681 | 1,655 | 1,697 | 1,702 |       |
| 事務職員     | 63     | 61    | 62    | 64    | 64    | 65    | 64    | 64    | 68    | 68    |       |
| その他の職員   | 技能労務員  |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |
|          | 学校司書   |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |
|          | 用務員    | 8     | 8     | 9     | 8     | 8     | 7     | 7     | 6     | 6     | 5     |
|          | ボイラー技師 | 3     | 3     | 2     | 2     | 2     | 2     | 2     | 2     | 2     | 1     |
|          | 栄養職員   | 11    | 11    | 11    | 12    | 12    | 12    | 12    | 12    | 12    | 12    |
|          | 調理給食員  |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |
|          | 技能訓練士  |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |
|          | マッサージ師 |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |
|          | 運転手    | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     |
| 計        | 22     | 22    | 22    | 22    | 22    | 21    | 21    | 20    | 20    | 18    |       |
| 合計       | 1,473  | 1,666 | 1,662 | 1,750 | 1,798 | 1,779 | 1,766 | 1,739 | 1,785 | 1,788 |       |

## 2 特別支援学校及び特別支援学級の実態

### (1) 特別支援学校（学部別学級・児童生徒数）

| 障がい種別 | 種別<br>校名      | 幼稚部 |     | 小学部 |     | 中学部 |     | 高等部 |      |     |     | 計    |       |
|-------|---------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|-----|-----|------|-------|
|       |               | 学級数 | 幼児数 | 学級数 | 児童数 | 学級数 | 生徒数 | 本科  |      | 専攻科 |     | 学級数  | 児童生徒数 |
|       |               |     |     |     |     |     |     | 学級数 | 生徒数  | 学級数 | 生徒数 |      |       |
| 視覚    | 県立視覚支援学校      | 1   | 2   | 3   | 4   | 3   | 4   | 7   | 10   | 2   | 4   | 16   | 24    |
|       | 小計            | 1   | 2   | 3   | 4   | 3   | 4   | 7   | 10   | 2   | 4   | 16   | 24    |
| 聴覚    | 県立聴覚支援学校      | 2   | 5   | 6   | 10  | 5   | 19  | 10  | 20   |     |     | 23   | 54    |
|       | 県立聴覚支援学校福島校   | 4   | 8   | 4   | 9   |     |     |     |      |     |     | 8    | 17    |
|       | 県立聴覚支援学校会津校   | 1   | 2   | 3   | 4   |     |     |     |      |     |     | 4    | 6     |
|       | 県立聴覚支援学校平校    | 3   | 5   | 4   | 6   |     |     |     |      |     |     | 7    | 11    |
|       | 小計            | 10  | 20  | 17  | 29  | 5   | 19  | 10  | 20   |     |     | 42   | 88    |
| 知的障がい | 県立大笹生支援学校     |     |     | 24  | 73  | 16  | 50  | 21  | 96   |     |     | 61   | 219   |
|       | 県立だて支援学校      |     |     | 15  | 41  | 8   | 28  | 8   | 36   |     |     | 31   | 105   |
|       | 県立あぶくま支援学校    |     |     | 31  | 95  | 16  | 53  | 33  | 199  |     |     | 80   | 347   |
|       | 県立西郷支援学校      |     |     | 20  | 55  | 8   | 26  | 14  | 51   |     |     | 42   | 132   |
|       | 県立石川支援学校      |     |     | 9   | 30  | 8   | 28  | 13  | 69   |     |     | 30   | 127   |
|       | 県立石川支援学校たまかわ校 |     |     | 14  | 40  | 5   | 19  |     |      |     |     | 19   | 59    |
|       | 県立たむら支援学校     |     |     | 14  | 48  | 6   | 23  | 8   | 39   |     |     | 28   | 110   |
|       | 県立会津支援学校      |     |     | 28  | 84  | 12  | 40  | 19  | 95   |     |     | 59   | 219   |
|       | 県立猪苗代支援学校     |     |     | 6   | 9   | 4   | 12  | 5   | 22   |     |     | 15   | 43    |
|       | 県立いわき支援学校     |     |     | 32  | 102 | 14  | 51  | 19  | 98   |     |     | 65   | 251   |
|       | 県立いわき支援学校くぼた校 |     |     |     |     |     |     | 7   | 37   |     |     | 7    | 37    |
|       | 県立ふたば支援学校     |     |     | 8   | 21  | 2   | 9   | 5   | 12   |     |     | 15   | 42    |
|       | 県立相馬支援学校      |     |     | 10  | 37  | 5   | 24  | 7   | 43   |     |     | 22   | 104   |
|       | 福島市立ふくしま支援学校  |     |     | 14  | 60  | 6   | 21  | 8   | 44   |     |     | 28   | 125   |
|       | 福島大学附属特別支援学校  |     |     | 3   | 17  | 3   | 16  | 3   | 24   |     |     | 9    | 57    |
| 小計    |               |     | 228 | 712 | 113 | 400 | 170 | 865 |      |     | 511 | 1977 |       |
| 肢体不自由 | 県立郡山支援学校      |     |     | 23  | 62  | 15  | 40  | 19  | 63   |     |     | 57   | 165   |
|       | 県立平支援学校       |     |     | 12  | 27  | 11  | 28  | 11  | 29   |     |     | 34   | 84    |
|       | 小計            |     |     | 35  | 89  | 26  | 68  | 30  | 92   |     |     | 91   | 249   |
| 病弱    | 県立須賀川支援学校     |     |     | 7   | 16  | 7   | 23  | 12  | 48   |     |     | 26   | 87    |
|       | 県立須賀川支援学校医大校  |     |     | 3   | 6   | 2   | 1   |     |      |     |     | 5    | 7     |
|       | 県立須賀川支援学校郡山校  |     |     | 3   | 3   | 4   | 10  |     |      |     |     | 7    | 13    |
|       | 県立会津支援学校竹田校   |     |     | 1   | 0   | 2   | 2   |     |      |     |     | 3    | 2     |
|       | 小計            |     |     | 14  | 25  | 15  | 36  | 12  | 48   |     |     | 41   | 109   |
| 合計    |               | 11  | 22  | 297 | 859 | 162 | 527 | 229 | 1035 | 2   | 4   | 701  | 2447  |

(2) 特別支援学級（障がい別・児童生徒数）

| 管内  | 学校別      |    | 小学校 |      |             |           |    |            |      | 中学校 |    |     |             |           |    |            | 計    |      |
|-----|----------|----|-----|------|-------------|-----------|----|------------|------|-----|----|-----|-------------|-----------|----|------------|------|------|
|     | 種別<br>内容 | 弱視 | 難聴  | 知的   | 病弱・<br>身体虚弱 | 肢体<br>不自由 | 言語 | 自閉症・<br>情緒 | 小計   | 弱視  | 難聴 | 知的  | 病弱・<br>身体虚弱 | 肢体<br>不自由 | 言語 | 自閉症・<br>情緒 |      | 小計   |
| 県北  | 学校数      | 0  | 1   | 64   | 1           | 1         | 0  | 56         | 123  | 0   | 0  | 33  | 1           | 1         | 0  | 30         | 65   | 188  |
|     | 学級数      | 0  | 1   | 95   | 1           | 1         | 0  | 83         | 181  | 0   | 0  | 46  | 1           | 1         | 0  | 38         | 86   | 267  |
|     | 児童生徒数    | 0  | 1   | 494  | 2           | 3         | 0  | 441        | 941  | 0   | 0  | 226 | 3           | 2         | 0  | 187        | 418  | 1359 |
| 県中  | 学校数      | 0  | 1   | 78   | 0           | 1         | 0  | 61         | 141  | 0   | 2  | 38  | 0           | 0         | 0  | 37         | 77   | 218  |
|     | 学級数      | 0  | 1   | 124  | 0           | 1         | 0  | 96         | 222  | 0   | 2  | 51  | 0           | 0         | 0  | 55         | 108  | 330  |
|     | 児童生徒数    | 0  | 1   | 646  | 0           | 1         | 0  | 497        | 1145 | 0   | 2  | 245 | 0           | 0         | 0  | 282        | 529  | 1674 |
| 県南  | 学校数      | 1  | 2   | 27   | 0           | 2         | 0  | 20         | 52   | 1   | 2  | 14  | 0           | 1         | 0  | 11         | 29   | 81   |
|     | 学級数      | 1  | 2   | 32   | 0           | 2         | 0  | 26         | 63   | 1   | 2  | 17  | 0           | 1         | 0  | 13         | 34   | 97   |
|     | 児童生徒数    | 1  | 2   | 180  | 0           | 2         | 0  | 124        | 309  | 1   | 2  | 75  | 0           | 1         | 0  | 59         | 138  | 447  |
| 会津  | 学校数      | 0  | 0   | 40   | 0           | 1         | 0  | 32         | 73   | 0   | 0  | 19  | 1           | 1         | 0  | 16         | 37   | 110  |
|     | 学級数      | 0  | 0   | 51   | 0           | 1         | 0  | 40         | 92   | 0   | 0  | 25  | 1           | 1         | 0  | 17         | 44   | 136  |
|     | 児童生徒数    | 0  | 0   | 252  | 0           | 1         | 0  | 173        | 426  | 0   | 0  | 115 | 1           | 1         | 0  | 62         | 179  | 605  |
| 南会津 | 学校数      | 0  | 0   | 5    | 0           | 0         | 0  | 7          | 12   | 0   | 0  | 5   | 1           | 0         | 0  | 4          | 10   | 22   |
|     | 学級数      | 0  | 0   | 5    | 0           | 0         | 0  | 8          | 13   | 0   | 0  | 5   | 1           | 0         | 0  | 4          | 10   | 23   |
|     | 児童生徒数    | 0  | 0   | 12   | 0           | 0         | 0  | 36         | 48   | 0   | 0  | 9   | 1           | 0         | 0  | 9          | 19   | 67   |
| 相双  | 学校数      | 0  | 1   | 27   | 0           | 1         | 0  | 21         | 50   | 0   | 0  | 13  | 0           | 0         | 0  | 10         | 23   | 73   |
|     | 学級数      | 0  | 1   | 35   | 0           | 1         | 0  | 24         | 61   | 0   | 0  | 14  | 0           | 0         | 0  | 10         | 24   | 85   |
|     | 児童生徒数    | 0  | 1   | 142  | 0           | 1         | 0  | 92         | 236  | 0   | 0  | 56  | 0           | 0         | 0  | 33         | 89   | 325  |
| いわき | 学校数      | 1  | 1   | 46   | 1           | 2         | 0  | 37         | 88   | 0   | 1  | 21  | 0           | 0         | 0  | 18         | 40   | 128  |
|     | 学級数      | 1  | 1   | 69   | 1           | 2         | 0  | 61         | 135  | 0   | 1  | 28  | 0           | 0         | 0  | 21         | 50   | 185  |
|     | 児童生徒数    | 1  | 1   | 395  | 1           | 6         | 0  | 387        | 791  | 0   | 1  | 147 | 0           | 0         | 0  | 106        | 254  | 1045 |
| 計   | 学校数      | 2  | 6   | 287  | 2           | 8         | 0  | 234        | 539  | 1   | 5  | 143 | 3           | 3         | 0  | 126        | 281  | 820  |
|     | 学級数      | 2  | 6   | 411  | 2           | 8         | 0  | 338        | 767  | 1   | 5  | 186 | 3           | 3         | 0  | 158        | 356  | 1123 |
|     | 児童生徒数    | 2  | 6   | 2121 | 3           | 14        | 0  | 1750       | 3896 | 1   | 5  | 873 | 5           | 4         | 0  | 738        | 1626 | 5522 |

(3) 通級による指導（障がい別・児童生徒数）※巡回型については、本務校1（学校数1、学級数1）で計上

| 管内  | 学校別      |    | 小学校 |           |     |           |     |      |      | 中学校 |    |           |     |           |    |      | 計   |      |
|-----|----------|----|-----|-----------|-----|-----------|-----|------|------|-----|----|-----------|-----|-----------|----|------|-----|------|
|     | 種別<br>内容 | 弱視 | 難聴  | 言語<br>障がい | 自閉症 | 情緒<br>障がい | LD  | ADHD | 小計   | 弱視  | 難聴 | 言語<br>障がい | 自閉症 | 情緒<br>障がい | LD | ADHD |     | 小計   |
| 県北  | 学校数      | 0  | 0   | 4         | 6   | 0         | 4   | 6    | 20   | 0   | 0  | 0         | 1   | 0         | 1  | 2    | 4   | 24   |
|     | 学級数      | 0  | 0   | 10        | 9   | 0         | 8   | 8    | 35   | 0   | 0  | 0         | 2   | 0         | 1  | 3    | 6   | 41   |
|     | 児童生徒数    | 0  | 0   | 159       | 144 | 0         | 114 | 123  | 540  | 0   | 0  | 0         | 27  | 0         | 18 | 57   | 102 | 642  |
| 県中  | 学校数      | 0  | 1   | 2         | 5   | 2         | 0   | 12   | 22   | 0   | 0  | 1         | 2   | 0         | 0  | 1    | 4   | 26   |
|     | 学級数      | 0  | 1   | 4         | 5   | 2         | 0   | 13   | 25   | 0   | 0  | 1         | 2   | 0         | 0  | 1    | 4   | 29   |
|     | 児童生徒数    | 0  | 10  | 61        | 116 | 47        | 0   | 323  | 557  | 0   | 0  | 12        | 29  | 0         | 0  | 22   | 63  | 620  |
| 県南  | 学校数      | 0  | 0   | 0         | 0   | 0         | 0   | 5    | 5    | 0   | 0  | 0         | 0   | 0         | 0  | 0    | 0   | 5    |
|     | 学級数      | 0  | 0   | 0         | 0   | 0         | 0   | 5    | 5    | 0   | 0  | 0         | 0   | 0         | 0  | 0    | 0   | 5    |
|     | 児童生徒数    | 0  | 0   | 0         | 0   | 0         | 0   | 56   | 56   | 0   | 0  | 0         | 0   | 0         | 0  | 0    | 0   | 56   |
| 会津  | 学校数      | 0  | 0   | 1         | 1   | 0         | 2   | 2    | 6    | 0   | 0  | 0         | 0   | 0         | 1  | 2    | 3   | 9    |
|     | 学級数      | 0  | 0   | 1         | 1   | 0         | 2   | 2    | 6    | 0   | 0  | 0         | 0   | 0         | 1  | 2    | 3   | 9    |
|     | 児童生徒数    | 0  | 0   | 7         | 13  | 0         | 30  | 39   | 89   | 0   | 0  | 0         | 0   | 0         | 19 | 21   | 40  | 129  |
| 南会津 | 学校数      | 0  | 0   | 0         | 0   | 0         | 0   | 4    | 4    | 0   | 0  | 0         | 0   | 0         | 0  | 0    | 0   | 4    |
|     | 学級数      | 0  | 0   | 0         | 0   | 0         | 0   | 4    | 4    | 0   | 0  | 0         | 0   | 0         | 0  | 0    | 0   | 4    |
|     | 児童生徒数    | 0  | 0   | 0         | 0   | 0         | 0   | 66   | 66   | 0   | 0  | 0         | 0   | 0         | 0  | 0    | 0   | 66   |
| 相双  | 学校数      | 0  | 0   | 2         | 0   | 1         | 0   | 3    | 6    | 0   | 0  | 0         | 0   | 1         | 0  | 1    | 2   | 8    |
|     | 学級数      | 0  | 0   | 5         | 0   | 1         | 0   | 5    | 11   | 0   | 0  | 0         | 0   | 1         | 0  | 1    | 2   | 13   |
|     | 児童生徒数    | 0  | 0   | 111       | 0   | 32        | 0   | 86   | 229  | 0   | 0  | 0         | 0   | 12        | 0  | 6    | 18  | 247  |
| いわき | 学校数      | 0  | 0   | 2         | 1   | 1         | 1   | 2    | 7    | 0   | 0  | 0         | 1   | 0         | 2  | 0    | 3   | 10   |
|     | 学級数      | 0  | 0   | 5         | 1   | 1         | 1   | 2    | 10   | 0   | 0  | 0         | 1   | 0         | 3  | 0    | 4   | 14   |
|     | 児童生徒数    | 0  | 0   | 74        | 17  | 13        | 20  | 28   | 152  | 0   | 0  | 0         | 13  | 0         | 35 | 0    | 48  | 200  |
| 計   | 学校数      | 0  | 1   | 11        | 13  | 4         | 7   | 34   | 70   | 0   | 0  | 1         | 4   | 1         | 4  | 6    | 16  | 86   |
|     | 学級数      | 0  | 1   | 25        | 16  | 4         | 11  | 39   | 96   | 0   | 0  | 1         | 5   | 1         | 5  | 7    | 19  | 115  |
|     | 児童生徒数    | 0  | 10  | 412       | 290 | 92        | 164 | 721  | 1689 | 0   | 0  | 12        | 69  | 12        | 72 | 106  | 271 | 1960 |

**(4) 訪問教育対象児童生徒数及び担当教員数**

| 年 度       | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 元  | 2  | 3  | 4  | 5  |
|-----------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 対象児童生徒数   | 90 | 80 | 69 | 58 | 55 | 54 | 49 | 50 | 43 | 42 | 39 | 43 | 38 | 33 | 34 | 36 | 36 | 32 | 30 | 29 | 29 | 31 | 24 | 24 |
| 担 当 教 員 数 | 45 | 36 | 41 | 33 | 33 | 35 | 27 | 27 | 27 | 27 | 30 | 29 | 24 | 19 | 27 | 32 | 18 | 18 | 18 | 18 | 18 | 20 | 16 | 18 |

**(5) 障がいによる就学義務の猶予・免除者の推移**

| 年 度     | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 元 | 2 | 3 | 4 | 5 |
|---------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|---|---|---|---|---|
| 猶 予 者 数 | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 1  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 免 除 者 数 | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

**3 教職員人事・任用**

**(1) 人事異動の概要**

令和5年度の県立特別支援学校教職員の定数（補充教員は含まない）は、前年比6人増の1,629人となった。このうち、教諭等は、前年比7人増の1,399人である。

**ア 新採用について**

令和6年度福島県公立学校教員採用試験での特別支援学校の志願者数は、令和5年度に比べ、前年比30人減の149人（中学校教員採用試験との併願者を含む）であった。一次及び二次選考試験の結果、名簿登載者数は43人であり、43人が教諭として採用された。

**イ 交流について**

令和5年度人事異動は、例年通り4月1日付け実施となった。同一校永年勤務者、採用後引き続き同一校に3年以上勤務する者等を含め173人の教諭の交流が実現した。

また、小・中学校・市立特別支援学校及び福島大学附属特別支援学校との交流（転入）は11人で、高等学校との交流（転入）は10人であった。特別支援教育の更なる充実が期待される。

**(2) 令和5年度県立特別支援学校教員異動・交流基準**

**ア 一般基準**

- (ア) 教育課程の適正な運営を期するため、教員組織の均衡を図るように努める。
- (イ) 同一校には、原則として、最低3年は勤務するものとする。
- (ウ) 2親等以内の者（姻族を含む）は、原則として、同一校勤務を避ける。
- (エ) 教員人事公募選考制度については、別に定める。

**イ 異動基準**

**(ア) 勤続年数による基準**

次に該当する者は、異動の対象とする。

- 採用後引き続き同一校に3年以上勤務した者（以下「初任者」という。）
- 平成21年度以降採用の者で異動2校目において3年以上勤務した者（以下「若年者」という。）
- 同一校に8年以上勤務した者（以下「永年者」という。）

**(イ) 地域による基準**

教員の適材適所への配置及び教員組織の均衡化を図るため、県内各学校を別表1のとおり中通り、会津、浜通りの3地域に分け、異動を促進する。

原則として、採用後20年以内に3地域の学校に勤務するものとする。

ただし、平成20年度以前の採用者については、平成30年度までは旧基準（別表2）を準用し、15年以内に2地区及び2障がい以上の学校に勤務した者は、この規定を満たす者とみなす。

**ウ 交流**

特別支援学校、小学校、中学校及び高等学校における教育を充実させるため、県立特別支援学校と市立特別支援学校、市町村公立小・中学校及び県立高等学校との交流を促進する。その期間は、教諭及び実習助手については、原則として3年とし、養護教諭及び寄宿舎指導員については、原則として3年から8年とする。

**別表1 県立特別支援学校地域別学校分類表**

| 地域                  | 地 区        | 学 校            |            |
|---------------------|------------|----------------|------------|
| 中<br>通<br>り         | 県 北        | 視覚支援           | 聴覚支援（福島）   |
|                     |            | 大笹生支援<br>だて支援  | 須賀川支援（医大）  |
|                     | 県 中        | 聴覚支援           | 郡山支援       |
| あぶくま支援<br>須賀川支援（郡山） |            | 須賀川支援<br>たむら支援 |            |
| 県 南                 | 西郷支援       | 石川支援           |            |
|                     | 石川支援（たまかわ） |                |            |
| 会<br>津              | 会 津        | 聴覚支援（会津）       | 会津支援       |
|                     |            | 会津支援（竹田）       | 猪苗代支援      |
| 浜<br>通<br>り         | いわき        | 聴覚支援（平）        | 平支援        |
|                     |            | いわき支援          | いわき支援（くぼた） |
|                     | 相 双        | 富岡支援           | 相馬支援       |

別表2 県立特別支援学校地区別・障がい別・群別学校分類表

| 群分類       | I 群                                                   | II 群                   |                        |                        |                                |
|-----------|-------------------------------------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|--------------------------------|
| 障がい<br>地区 | 知的障がい<br>教育を主と<br>する学校                                | 視覚障がい<br>教育を主と<br>する学校 | 聴覚障がい<br>教育を主と<br>する学校 | 肢体不自<br>由教育を主と<br>する学校 | 病弱教育<br>を主とする<br>学校            |
| 県北        | 大笹生支援<br>だて支援                                         | 視覚支援                   | 聴覚支援<br>(福島)           |                        | 須賀川<br>支援<br>(医大)              |
| 県南        | あぶくま<br>支援<br>石川支援<br>石川支援<br>(たまかわ)<br>たむら支援<br>西郷支援 |                        | 聴覚支援                   | 郡山支援                   | 須賀川<br>支援<br>須賀川<br>支援<br>(郡山) |
| 会津        | 会津支援<br>猪苗代支援                                         |                        | 聴覚支援<br>(会津)           |                        | 会津支援<br>(竹田)                   |
| いわき       | いわき支援<br>いわき支援<br>(くぼた)                               |                        | 聴覚支援<br>(平)            | 平支援                    |                                |
| 相双        | 富岡支援<br>相馬支援                                          |                        |                        |                        |                                |

注：平成20年度までの採用教員について

- (1) II群内の学校のみ経験者は、I群の学校に勤務することを必須とする。
- (2) I群の学校に勤務している者又は勤務した者で、2障がいの経験を有していない者は、II群内の学校での勤務をするものとする。
- (3) ただし、平成7年度までに2地区及び2障がいの勤務経験を終了している者はこの限りではない。

## 第3節 学校教育

### 1 概要

#### (1) 指導行政の基本方針

第7次総合教育計画で、特別支援教育の推進に向けた取組を行った。

本県では、「共に学ぶ」理念のもと、障がいのある子どもと障がいのない子どもが共に学ぶ環境づくりを推進し、障がいのある子どもが地域の小・中学校等で、障がいのない子どもと共に学ぶことができる教育環境の整備を進めた。第7次総合教育計画では、次の基本的な方針のもとに、具体的な取組を示し、その充実に努めた。

#### ○ 基本的方向性

- ・ 障がいのある子どもが、就学前、在学中、さらには卒業後において、一貫した支援を受けることができるよう、医療、福祉、保健、教育、労働等の関係機関の連携を深めることにより、地域で「共に生きる」ことができる体制の整備を進める。
- ・ 障がいのある子どもが、一人一人のニーズに応じて、地域の幼稚園、小・中学校、高等学校、特別支援学校において学ぶことができるよう、教員の専門性の向上、校内支援体制の整備・充実、すべての保護者に対する特別支援教育への理解の促進などにより、各学校における「共に学ぶ」環境づくりを進める。

#### ○ 具体的な取組

- ・ インクルーシブ教育システムの理念を踏まえ、多様な学びの場や交流及び共同学習の充実と整備
- ・ 個別の教育支援計画及び個別の指導計画の活用や引継ぎ
- ・ 質の高い授業と合理的配慮の提供
- ・ 医療的ケアを必要とする児童生徒の学びの場の環境整備
- ・ 高等学校における通級による指導の充実と交流及び共同学習の推進
- ・ 特別支援教育に関する教員の専門性の向上

#### (2) 指導組織

課長、主幹兼副課長1名、主幹1名、主任管理主事1名、管理主事4名、主任指導主事1名、指導主事5名、各教育事務所特別支援教育担当指導主事7名、教育委員会委嘱特別支援教育担当学校教育指導委員8名をもって指導に当たった。

#### (3) 学校教育指導の重点

特別支援学校においては、特に以下の点に重点をおいて指導に努めた。

- ① 一人一人の教育的ニーズに応じた指導の充実  
児童生徒一人一人の実態と教育的ニーズの的確な把握に努め、家庭や医療、福祉、労働等の関係機関と連携した「個別の教育支援計画」の作成と活用について、教育支援協議会（書面開催）や体制促進協議会等の各種会議で周知に努めた。
- ② 主体的・対話的で深い学びの実現にむけた授業改善  
学習指導要領を踏まえた各教科等の指導を通して、資

質・能力の3つの柱の育成がバランスよく実現できるように、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の視点を取り入れた授業の実施や改善を行った。

③ 言語環境の整備と言語活動の充実

移動図書館車での巡回貸し出しや幼児児童生徒に本に親しむ機会を設け、読書の楽しみを感じてもらう活動を実施した。また高等部生徒を中心に各種弁論大会等への参加など、教科学習と関連づけながら言語活動の充実に取り組んだ。

④ 自立活動の充実

児童生徒の障がいによる学習上又は生活上の困難を改善・克服し、自立し社会参加する資質・能力を養うために、個々の児童生徒の的確な実態把握に基づき、自立活動の内容項目を踏まえた指導目標と指導内容を設定して「個別の指導計画」を作成している。個々の課題や指導目標を担当者間で共有し、計画的・組織的な自立活動の指導を行った。

⑤ 職業教育の充実

「夢に向かってテクノチャレンジ事業」を実施し、全ての高等部設置県立特別支援学校による「特別支援学校作業技能大会」を開催した。また、「特別支援学校における就労推進事業」において、生徒の就職率とその定着率の向上を目指し、高等部を設置する特別支援学校の進路指導担当者による進路支援チーム会議を開催し、教員の進路指導に関する専門性の向上と、労働、福祉の各関係機関と連携した支援体制の構築を図った。

⑥ 生徒指導の充実

幼児児童生徒の障がいの状態や特性について、教職員の共通理解を図り、幼・小・中・高等部の一貫した指導に努めるとともに、家庭や関係機関との連携に努めた。また、県立特別支援学校の生徒指導担当者による連絡協議会を5月と11月に開催し、本県の生徒事故の現状や課題の共有を図り、事故の未然防止に向けた取組の充実に努めた。

⑦ 交流及び共同学習の推進

近隣の幼稚園や小・中学校、高等学校との交流及び共同学習や、児童生徒の居住地における学校との交流及び共同学習を通し、幼児児童生徒の経験を広め、社会性を養うとともに、障がいのあるなしにかかわらず、お互いを理解し尊重する心を育むことに努めた。

⑧ 特別支援学校のセンター的機能の発揮

各地区の特別支援学校地域支援センターのセンター的機能を活かし、県内16箇所で開催を実施し、適切な支援を行うことができるよう専門性の向上を図るとともに、地域の学校等との連携体制の構築に努めた。

**(4) 教員の資質と指導力の向上**

ア 「ふくしまの誰一人取り残さない教育体制整備事業」事業担当者会議の開催

事業を推進する指導主事が参集し、各事業実施状況等の報告及び課題についての協議を行った。また、各教育

事務所域内の支援体制の整備や特別支援教育に関する指導の重点等についても研究協議を行い、各教育事務所域内の特別支援教育の充実に向けた指導業務の円滑な推進を図った。

イ 学校教育指導委員連絡協議会の開催

特別支援教育に関する指導の重点や事業概要及び学校教育指導委員の任務についての研修を行い、学校教育指導委員の資質の向上を図った。

ウ 特別支援学校初任者研修、二年次教員フォローアップ研修、経験者研修の実施

特別支援学校の初任者に対し、校内・校外における研修を通して、実践的指導力と使命感を養った。

また、教職経験に応じた経験者研修を実施し、校内におけるリーダーとしての力量の向上に努めた。経験者研修において、教科等指導研修や社会体験研修等を行った。

エ 特別支援教育担当教員専門研修

特別支援教育に関し、指導的立場に立つ教員の育成に対し、専門的知識及び技術を習得させ、資質の向上と指導力の向上を図るため、教員6名を国立特別支援教育総合研究所の専門研修へ派遣した。

**(5) 就学相談の推進**

学校教育法施行令の一部改正による就学先決定の仕組み等の周知を図るため、市町村教育委員会就学事務担当者と公立中学校管理職を対象に教育支援協議会を県内7か所で開催した。また、市町村の就学先決定における相談の充実については、各教育事務所で支援し、障がい児の早期からの一貫した支援の充実に努めた。

**(6) 特別支援教育の推進**

ア 特別支援学校における医療的ケア実施事業

「令和5年度特別支援学校における医療的ケア実施事業」を実施し、教育・医療・福祉等関係者からなる「医療的ケア実施運営協議会」を設置し、本県における医療的ケアの在り方について研究・協議を行った。また、常時、医療的ケアを必要とする児童生徒（訪問教育や病院入院生徒は除く）が在籍している学校（15校）に、看護師を配置した。さらに、医療的ケアの実施を指導する「指導医の委嘱」、地域の保健・医療・福祉機関のバックアップ体制の確立のための「医療的ケアサポート会議の設置」、医療的ケアの実施に必要な「医療機器等の整備」を行った。

※看護師配置校

視覚支援学校、聴覚支援学校、聴覚支援学校福島校、聴覚支援学校会津校、大笹生支援学校、だて支援学校、郡山支援学校、あぶくま支援学校、西郷支援学校、石川支援学校、会津支援学校、会津支援学校竹田校、平支援学校、いわき支援学校、相馬支援学校

【令和5年度医療的ケア実施運営協議会委員】

| 氏名     | 委嘱時の職名                                           |
|--------|--------------------------------------------------|
| ◎森田 浩之 | 県総合療育センター・所長                                     |
| ○生井 良幸 | 太田西ノ内病院・小児科部長                                    |
| 古橋 知子  | 福島医科大学看護学部・准教授                                   |
| 八島 裕貴  | 保健福祉部障がい福祉課・主事                                   |
| 後藤 撰   | こども未来局児童家庭課・主任主査                                 |
| 五十嵐 登美 | 県特別支援教育センター・所長                                   |
| 荒川 和裕  | 社会福祉法人南東北事業団<br>障がい者支援施設南東北さくら館<br>所属長兼サービス管理責任者 |
| 橋本 さおり | 郡山支援学校・保護者                                       |
| 松永 日止志 | 視覚支援学校・教頭                                        |
| 田中 聡一郎 | 聴覚支援学校・教頭                                        |
| 小河 仁   | 聴覚支援学校福島校・教頭                                     |
| 初山 貴央  | 聴覚支援学校会津校・教頭                                     |
| 小野 純子  | 県立だて支援学校・教頭                                      |
| 圓谷 隆雄  | 郡山支援学校・教頭                                        |
| 持館 康成  | あぶくま支援学校・教頭                                      |
| 小山田 幸江 | 西郷支援学校・教頭                                        |
| 喜多見 久美 | 石川支援学校・教頭                                        |
| 村岡 有加里 | 会津支援学校・教頭                                        |
| 江見 浩二  | 会津支援学校竹田校・分校長                                    |
| 齋藤 隆康  | 平支援学校・教頭                                         |
| 菅野 亨   | いわき支援学校・教頭                                       |
| 石垣 真樹子 | 相馬支援学校・教頭                                        |
| 井出 しのぶ | 平支援学校・看護師                                        |
| 遠藤 しのぶ | 郡山支援学校・看護師                                       |

(◎委員長 ○副委員長)

【医療的ケア実施運営協議会の開催】

- 第1回 令和5年 6月23日
- 第2回 令和5年 11月22日

【会議における検討事項】

- 特定行為以外の医療的ケアについて
- 医師からの意見書とその配付等について

【看護師研修会の開催】

- 年1回の医療的ケア実施校看護師研修会を郡山支援学校においてオンラインで実施した。12～1月にオンライン情報交換会を実施した。

イ 「ふくしまの誰一人取り残さない教育体制整備事業」による市町村における支援体制整備の促進

県内7地区において「特別支援教育体制促進協議会」を年2回開催し、市町村における支援体制の整備・機能充実に向けた支援や各園・学校等における特別支援教育の充実のための具体的方策について協議するとともに、相談体制の整備や相談支援ファイルの活用への促進に取り

組んだ。

ウ 地域支援体制の充実

県立特別支援学校が、地域における特別支援教育のセンター的機能の役割を發揮し、小・中学校等や市町村教育委員会のニーズに応じた相談や研修等の支援を実施した。

相談・研修件数は2,899件であった。

また、県内の各教育事務所が地域支援のコーディネーターとなり、相談支援チームを編制し、市町村や小・中学校等への支援の在り方や具体的な方策について協議するとともに、地域の小・中学校等における特別支援教育の充実に向けた支援を実施した。

エ 「高等学校学習支援推進事業」による後期中等教育における発達障がい等のある生徒の支援の充実

平成17年度から平成23年度まで、文部科学省「研究開発学校」制度や、県重点事業「LD等の中高連携型生徒支援事業」、「特別支援教育総合推進事業」において進めてきた学習支援員を活用した生徒支援のノウハウを活かし、令和5年度は県立高等学校14校に学習支援員を配置し、高等学校における支援を必要とする生徒への支援の充実を図った。

オ 障がいのある幼児児童生徒の就学相談の充実

市町村教育委員会、公立中学校管理職を対象に、「教育支援協議会」において、就学先決定の流れや特別な支援を必要とする生徒の支援等について説明をし、障がいの一貫した支援に努めた。また、本協議会を通して各市町村における早期からの相談支援体制の整備と各学校における教育相談の充実を図った。

2 現職教育

(1) 教員の研修

研修会については、下表のとおり実施し、教員の資質向上に努めた。

| 名称                     | 期日                            | 期間 | 会場         | 人数  | 対象                       |
|------------------------|-------------------------------|----|------------|-----|--------------------------|
| 特別支援学校教育課程運営改善講座       | 8月18日                         | 1日 | 特別支援教育センター | 30  | 特別支援学校教員                 |
| 特別支援学級等新任担当教員研修会【共通研修】 | 4月19日<br>4月25日                | 1日 | 環境創造センター   | 144 | 特別支援学級担当教員<br>通級指導教室担当教員 |
| 【地区別研修】                | 10月19日<br>～<br>10月26日         |    | 各地区        | 105 | 特別支援学級担当教員               |
| 通級指導教室担当教員研修会          | 7月11日                         | 1日 | 環境創造センター   | 37  | 通級指導教室担当教員               |
| 特別支援学校5年経験者研修          | 6月9日<br>～13日<br>6月14日<br>～16日 | 3日 | 特別支援教育センター | 46  | 特別支援学校教員                 |

| 名称                                                   | 期日                             | 期間 | 会場                 | 人数 | 対象           |
|------------------------------------------------------|--------------------------------|----|--------------------|----|--------------|
| 特別支援学校<br>中堅教諭等<br>資質向上研修<br>【共通研修】<br>【教科等指導<br>研修】 | 6月20日<br>～22日                  | 3日 | 各所属校<br>特別支援教育センター | 43 | 特別支援<br>学校教員 |
|                                                      | 6月27日<br>～29日                  |    |                    |    |              |
|                                                      | 1月10日<br>～11日<br>1月18日<br>～19日 | 2日 | 特別支援教育センター         | 43 | 特別支援<br>学校教員 |

※中堅教諭等資質向上研修は、4日間のうち2日間ずつに分かれて実施

#### 特別支援学校初任者研修

| 名称            | 期日              | 期間             | 会場                       |
|---------------|-----------------|----------------|--------------------------|
| 宿泊研修          | 一次研修            | 7月25日～27日      | 3日<br>各所属校<br>特別支援教育センター |
|               | 二次研修            | 1月31日<br>～2月2日 | 3日<br>各所属校<br>特別支援教育センター |
| 一般研修          | 4月12日、13日       | 2日             | 各所属校                     |
| カウンセリング<br>研修 | 6月7日、8日         | 2日             | 環境創造センター                 |
| 地区別<br>研修     | 講習会研修会<br>等参加研修 | 各校で実施          | 1日<br>各地区内の該当<br>学校等     |
|               | 他校参観研修          | 各校で実施          | 5日<br>各地区内の該当<br>学校等     |
|               | 企業等体験<br>研修     | 各校で実施          | 4日<br>各地区内の該当<br>学校等     |
| 教育課程別研修       | 9月6日            | 1日             | 初任者配置校                   |
| 学部別研修         | 11月8日           | 1日             | 初任者配置校                   |
|               | 年間150時間以上       |                | 各所属校                     |

## (2) 特別支援教育教員専門研修

国立特別支援教育総合研究所（専門研修2か月）

令和5年度は、新型コロナウイルス感染症感染防止のため、3週間の集合研修を実施し、残りの日程はオンライン研修で実施した。教員としての資質向上を図った。

| 氏名     | 職名 | 学校名         | コース等          | 期間            |
|--------|----|-------------|---------------|---------------|
| 矢吹 淳   | 教諭 | 視覚支援<br>学校  | 視覚障害<br>教育専修  | 5月8日<br>～7月7日 |
| 奥村 佳奈  | 教諭 | 郡山<br>支援学校  | 肢体不自由<br>教育専修 | 5月8日<br>～7月7日 |
| 菊地 智佳子 | 教諭 | 須賀川<br>支援学校 | 病弱<br>教育専修    | 5月8日<br>～7月7日 |
| 芳賀 彩那  | 教諭 | 会津支援<br>竹田校 | 病弱<br>教育専修    | 5月8日<br>～7月7日 |

| 氏名    | 職名 | 学校名         | コース等                 | 期間              |
|-------|----|-------------|----------------------|-----------------|
| 芦口 玲子 | 教諭 | 原町第三<br>小学校 | 発達障害<br>情緒障害<br>教育専修 | 9月6日<br>～11月10日 |
| 根本 麻美 | 教諭 | 相馬支援<br>学校  | 知的障害<br>教育専修         | 1月10日<br>～3月14日 |

## (3) 小・中学校特別支援教育コーディネーター研修会

小・中学校（義務教育学校を含む。）の特別支援教育コーディネーターに対し、合理的配慮や校内支援体制についての研修を通して、インクルーシブ教育システムの理解を深め、特別支援教育に関わるコーディネーターとしての実践力の向上を図った。

## (4) 高等学校特別支援教育コーディネーター研修会

高等学校の特別支援教育コーディネーターに対し、合理的配慮や校内支援体制についての研修を通して、インクルーシブ教育システムの理解を深め、特別支援教育に関わるコーディネーターとしての実践力の向上を図った。

## (5) 特別支援学校特別支援教育コーディネーター研修会

特別支援学校の特別支援教育コーディネーターの役割や地域のニーズ、有効なコーディネーターの在り方等について学び合う研修を通して、特別支援教育コーディネーターとしての実践力の向上を図った。

## 3 教育課程

### （特別支援学校教育課程運営改善講座）

特別支援学校における教育課程実施上の諸問題に関する専門的な研修を実施することにより、指導的立場にある教員の指導力の向上を図るとともに、学校の実態や児童生徒の障がいの種類と程度に応じた教育課程の編成と適切な実施及び管理に努め、特別支援教育の改善・充実に資する。

| 地区 | 期日    | 会場             | 人数 | 参加対象             |
|----|-------|----------------|----|------------------|
| 県内 | 8月18日 | 特別支援<br>教育センター | 30 | 特別支援学校<br>の教務主任等 |

## 4 訪問教育

通学して教育を受けることが困難な児童生徒に対して行う訪問教育を週3回程実施し、登校可能な児童生徒に対して、定期的に他の子どもたちと交流したり、集団学習を行ったりすることができるように、1回はスクーリング(登校学習)を実施した。

さらに、大笹生支援学校では、高等部の訪問教育を実施している。

実施状況は次のとおりである。

| 校名         | 学級数<br>児童生徒数 |      | 学級数 |      |     |      |     |       | 児童生徒数 |      |     |      |     |      |     | スクーリング児童生徒数 |     |     |     |    |
|------------|--------------|------|-----|------|-----|------|-----|-------|-------|------|-----|------|-----|------|-----|-------------|-----|-----|-----|----|
|            | 小学部          | 病院訪問 | 中学部 | 病院訪問 | 高等部 | 病院訪問 | 学部計 | 病院訪問計 | 小学部   | 病院訪問 | 中学部 | 病院訪問 | 高等部 | 病院訪問 | 学部計 | 病院訪問計       | 小学部 | 中学部 | 高等部 | 計  |
| 大笹生支援学校    |              |      | 1   |      | 1   | 1    | 2   | 1     |       |      | 1   |      |     | 1    | 1   | 1           |     | 1   |     | 1  |
| だて支援学校     | 2            |      | 2   |      |     |      | 4   |       | 2     |      | 2   |      |     |      | 4   |             | 2   | 2   |     | 4  |
| 郡山支援学校     | 2            |      | 1   |      | 1   |      | 4   |       | 3     |      | 1   |      | 1   |      | 5   |             | 3   | 1   | 1   | 5  |
| 須賀川支援学校郡山校 | 1            |      | 1   |      |     |      | 2   |       |       |      |     |      |     |      |     |             |     |     |     |    |
| 会津支援学校     | 1            |      |     |      |     |      | 1   |       | 1     |      |     |      |     |      | 1   |             | 1   |     |     | 1  |
| 平支援学校      | 2            |      | 1   | 1    | 1   |      | 4   | 1     | 5     |      | 1   | 2    | 1   |      | 7   | 2           | 5   | 1   | 1   | 7  |
| 相馬支援学校     | 2            |      |     |      |     |      | 2   |       | 3     |      |     |      |     |      | 3   |             | 3   |     |     | 3  |
| 合計         | 10           |      | 6   | 1    | 3   | 1    | 19  | 2     | 14    |      | 5   | 2    | 2   | 1    | 21  | 3           | 14  | 5   | 2   | 21 |

## 5 生徒指導・進路指導

### (1) 生徒指導

障がいのある児童生徒一人一人の意思や個性を生かしながら、障がいの状態や発達の段階・特性等に応じた指導が十分に行えるように、校内の生徒指導體制の確立に努めた。

特に、児童生徒一人一人の課題を的確に把握し、児童生徒の立場に立った行動理解を行い、児童生徒の自己実現を図るべく、生徒指導の機能を生かした指導支援に努めた。

### (2) 進路指導

ア 夢に向かってテクノチャレンジ事業

#### (ア) 事業の趣旨

特別支援学校高等部生徒の自立と社会参加を促すため、特別支援学校作業技能大会を開催し、日頃の進路に関する学習の成果を発表するとともに、外部専門家から客観的な評価を受ける機会とする。

#### (イ) 実施校

高等部設置県立特別支援学校 17校  
福島大学附属特別支援学校  
福島市立ふくしま支援学校 計 19校

#### (ウ) 実施状況

- a 特別支援学校作業技能大会の開催
- ・ 期日 8月4日(金)
  - ・ 場所 ビッグパレットふくしま
- b 実施部門
- ・ 作業技能検定部門  
ビルクリーニング、喫茶接遇サービス、パソコンデータ入力、店舗販売(品出し)
  - ・ 作業製品品評部門
  - ・ あん摩施術評価部門

#### c 外部評価の活用

- ・ 各作業技能検定部門に関する助言
- ・ 作業技能検定部門の審査

#### イ 特別支援学校における就労推進事業

#### (ア) 事業の趣旨

高等部を設置する特別支援学校を対象として、労働、福祉等の各関係機関と連携した支援体制整備を基盤とし、企業への理解啓発と、企業で働き続けることのできる人材育成を充実させることにより、卒業生に占める就職率と定着率の向上を図る。

#### (イ) 実施校

高等部設置県立特別支援学校 17校  
福島大学附属特別支援学校  
福島市立ふくしま支援学校 計 19校

#### (ウ) 実施状況

- a 進路支援チーム会議の実施
- ・ 特別支援学校進路指導担当による就労促進及び支援の充実に関する協議
  - ・ 障がい者就業・生活支援センターとの連携強化
- b 移行支援機能の充実
- ・ 関係機関と連携した、早期からの移行支援会議の実施
  - ・ 在学中から卒業後までの長いスパンでの支援
- c 企業の求める人材育成
- ・ 作業学習の内容や手法の見直し
  - ・ ジョブコーチや企業等からの指導助言
  - ・ 「障がい者就職面接会」への参加
  - ・ 「特別支援学校早期訓練コース」の活用

- d 外部評価の活用
  - ・ 「特別支援学校作業技能大会」における作業技能検定の活用
  - ・ 「障がい者技能競技大会」への参加

## 6 特別活動

### (1) 卒業式

ア 県立特別支援学校卒業生数

| 学部<br>障がい | 幼稚部 | 小学部 | 中学部 | 高等部 | 合計  |
|-----------|-----|-----|-----|-----|-----|
| 視覚障がい     | 2   |     | 2   | 4   | 8   |
| 聴覚障がい     | 6   | 1   | 6   | 11  | 24  |
| 知的障がい     |     | 108 | 124 | 234 | 466 |
| 肢体不自由     |     | 15  | 25  | 22  | 62  |
| 病弱        |     | 7   | 15  | 16  | 38  |
| 計         | 8   | 131 | 172 | 287 | 598 |

イ 県立特別支援学校卒業式学部別開催日(校数)

| 学部  | 3月1日 | 3月7日 | 3月8日 | 3月11日 | 3月12日 | 3月13日 | 3月15日 | 3月18日 | 3月19日 |
|-----|------|------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 幼稚部 |      |      |      | 1     | 1     | 1     |       |       | 2     |
| 小学部 |      |      | 1    | 1     | 1     | 3     | 3     | 8     | 2     |
| 中学部 |      |      | 1    | 1     | 2     | 3     | 2     | 8     | 3     |
| 高等部 | 5    | 1    | 6    | 1     | 1     |       |       | 1     | 2     |

### (2) 修学旅行

| 学部  | 行き先<br>日数 | 行き先 |    |    |    |    | 日数  |      |      |      | 人数  |
|-----|-----------|-----|----|----|----|----|-----|------|------|------|-----|
|     |           | 県内  | 東北 | 関東 | 関西 | 中部 | 日帰り | 一泊二日 | 二泊三日 | 三泊四日 |     |
| 小学部 |           | 7   | 10 | 4  | 0  | 0  | 15  | 3    | 0    | 0    | 112 |
| 中学部 |           | 2   | 0  | 17 | 0  | 1  | 1   | 9    | 10   | 0    | 155 |
| 高等部 |           | 1   | 2  | 6  | 6  | 1  | 0   | 1    | 13   | 2    | 311 |

## 7 学校訪問

### 県立特別支援学校

5年経験者研修、中堅教諭等資質向上研修の研究授業日に学校訪問を実施した。

| No. | 訪問日    | 学校名         |
|-----|--------|-------------|
| 1   | 9月20日  | 聴覚支援学校会津校   |
| 2   | 9月26日  | 石川支援学校      |
| 3   | 9月27日  | 相馬支援学校      |
| 4   | 10月2日  |             |
| 5   | 9月28日  | 郡山支援学校      |
| 6   | 10月6日  | 西郷支援学校      |
| 7   | 11月22日 |             |
| 8   | 10月13日 | いわき支援学校くぼた校 |
| 9   | 11月2日  | 須賀川支援学校     |
| 10  | 11月27日 | 聴覚支援学校平校    |

## 8 県立学校学校教育指導委員

| 氏名     | 職名 | 所属校       |
|--------|----|-----------|
| 高橋 英之  | 教諭 | 視覚支援学校    |
| 浅田 初恵  | 教諭 | 聴覚支援学校    |
| 武田 良   | 教諭 | 大笹生支援学校   |
| 坂本 文則  | 教諭 | 郡山支援学校    |
| 長岡 麻衣  | 教諭 | 平支援学校     |
| 吉津 聖美  | 教諭 | 会津支援学校竹田校 |
| 猪股 忠幸  | 教諭 | 猪苗代支援学校   |
| 阿久津 由紀 | 教諭 | 石川支援学校    |

## 9 就学相談・支援

### (1) 福島県特別支援教育推進会議

福島県特別支援教育推進会議委員

| 委員    | 職名                 |
|-------|--------------------|
| 学識見識者 | 大学教授               |
| 関係機関  | 福祉関係代表             |
| 関係機関  | 県総合療育センター所長        |
| 関係機関  | 県保健福祉部障がい福祉課長      |
| 関係機関  | 県保健福祉部こども未来局児童家庭課長 |
| 関係機関  | 県商工労働部雇用労政課長       |
| 教育関係  | 小学校長会代表            |
| 教育関係  | 中学校長会代表            |
| 教育関係  | 高等学校長会代表           |
| 教育関係  | 特別支援学校長会代表         |
| 教育関係  | 県特別支援教育センター所長      |
| 教育関係  | 県教育庁特別支援教育課長       |

## (2) 教育支援協議会

ア 期日及び会場

| 地区  | 期日 | 会場         | 参加者数 |
|-----|----|------------|------|
| 県北  | 6月 | パルセイイざか    | 95   |
| 県中  | 5月 | 郡山合同庁舎     | 57   |
| 県南  | 6月 | 白河合同庁舎     | 46   |
| 会津  | 6月 | 北会津公民館     | 76   |
| 南会津 | 5月 | 御蔵入交流館     | 18   |
| 相双  | 6月 | 万葉ふれあいセンター | 45   |
| いわき | 6月 | いわき合同庁舎    | 64   |

イ 参加者

公立小学校管理職 各市町村教育委員会

ウ 説明及び協議

(ア) 説明

「特別な支援が必要な児童への支援のあり方について」

(イ) 説明及び協議

「自校における特別な支援が必要な児童への支援の取組について」

## 10 教科用図書

### (1) 教科用図書事務説明会

ア 開催日時・場所

令和5年6月9日・オンライン

イ 参加者

各教育事務所 各市町村教育委員会

特別支援学校教科書担当者

### (2) 学校教育法附則第9条に規定する一般図書の展示期日及び会場

|             |                      |
|-------------|----------------------|
| 6月6日～6月7日   | 相馬支援学校               |
| 6月9日～6月13日  | ふくしま支援学校             |
| 6月14日～6月16日 | 大笹生支援学校              |
| 6月20日～6月22日 | あぶくま支援学校             |
| 6月26日～6月27日 | 西郷支援学校               |
| 6月29日～6月30日 | 石川支援学校               |
| 7月4日～7月6日   | いわき支援学校              |
| 7月10日～7月12日 | 会津支援学校               |
| 7月14日～7月18日 | 南会津町役場               |
| 7月20日～7月24日 | 特別支援教育センター<br>郡山支援学校 |

## 11 教育研究団体

### (1) 令和5年度福島県特別支援学校長会役員

| 役職名 | 氏名    | 所属校          |
|-----|-------|--------------|
| 会長  | 郷家 俊哉 | 視覚支援学校       |
| 副会長 | 西村 則昌 | 聴覚支援学校       |
| 副会長 | 井上 明浩 | 福島市立ふくしま支援学校 |

### (2) 令和5年度福島県特別支援学校教頭会役員

| 役職名 | 氏名     | 所属校         |
|-----|--------|-------------|
| 会長  | 齋藤 顕   | 須賀川支援学校     |
| 副会長 | 金澤 広司  | あぶくま支援学校    |
| 副会長 | 佐々木 孝幸 | 石川支援学校たまかわ校 |

### (3) 福島県特別支援教育研究会

ア 組織

| 役職名 | 氏名    | 所属校          |
|-----|-------|--------------|
| 会長  | 井上 明浩 | 福島市立ふくしま支援学校 |
| 副会長 | 郷家 俊哉 | 視覚支援学校       |
| 副会長 | 角井 勇三 | 郡山市立富田西小学校   |

イ 事業の概要

| 事業名 | 期日    | 会場          | 概要            |
|-----|-------|-------------|---------------|
| 役員会 | 5月19日 | 郡山支援学校      | 事業報告、事業計画について |
|     | 2月8日  | 県特別支援教育センター | 行事等の確認        |

### (4) 福島県特別支援教育振興会

ア 役員

| 役職名 | 氏名     | 所属             |
|-----|--------|----------------|
| 会長  | 小檜山 宗浩 | 福島大学特任教授       |
| 副会長 | 齋藤 義人  | 元福島商業高等学校長     |
| 副会長 | 杉山 裕恵  | 元福島県立聴覚支援学校長   |
| 理事  | 小野 寛   | 県北支部長          |
| 理事  | 道下 和幸  | 県中支部長          |
| 理事  | 小河原 健一 | 県南支部長          |
| 理事  | 齋藤 秀美  | 会津支部長          |
| 理事  | 只野 裕一  | 相双支部長          |
| 理事  | 大谷 明   | いわき支部長         |
| 理事  | 西村 則昌  | 本部事務局長         |
| 監事  | 高屋 隆男  | 元福島県立聾学校長      |
| 監事  | 五十嵐 登美 | 県特別支援教育センター所長  |
| 顧問  | 柳沼 穹壹  | 元福島県立あぶくま養護学校長 |

イ 事務局

(7) 本部事務担当

|            |        |
|------------|--------|
| 聴覚支援学校 校長  | 西村 則昌  |
| 聴覚支援学校 教頭  | 佐藤 和之  |
| 聴覚支援学校 教頭  | 田中 総一郎 |
| 聴覚支援学校 事務長 | 本田 康博  |

(イ) 支部

| 支部 | 事務局校    | 支部  | 事務局校   |
|----|---------|-----|--------|
| 県北 | 大笹生支援学校 | 会津  | 会津支援学校 |
| 県中 | 郡山支援学校  | 相双  | 相馬支援学校 |
| 県南 | 石川支援学校  | いわき | 平支援学校  |

## 第 8 章 体育・健康

### 第 1 節 概要

東日本大震災、東京電力福島第一原子力発電所の事故により、甚大な被害を受けたが、「健康」や「体力」の必要性・重要性について、再認識されたところであり、震災後の深刻な健康課題の解決に向けて平成 27 年度に「ふくしまっ子体力向上総合プロジェクト」を策定した。令和 3 年度からはこのプロジェクトのレガシーを引き継ぎ「ふくしまっ子健康マネジメントプラン」事業を立ち上げた。これは、望ましい運動習慣や食習慣を形成するために作成した「自分手帳」の効果的・継続的な活用を通して、健康課題を解決する自己マネジメント能力の育成、学校等における個別・集団指導への外部専門家の派遣、ウェブサイトを活用した「みんなで跳ぼうなわとびコンテスト」の実施と体力向上表彰の実施、P D C A サイクルによる事業の検証などを展開し、体力の向上及び肥満の解消を図るものである。

学校体育の充実については、生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現することを重視し、運動を楽しみながら体力の向上を目指す授業の普及に努めた。

また、体育の授業のさらなる充実を図るため、「ふくしまっ子健康マネジメントプラン」により、「運動身体づくりプログラム」の普及・実践、「ふくしまっ子児童期運動指針」の普及・実践に努めた。

さらに、部活動の適正化や教職員の働き方改革につながる取組を進めるため、中学校・高等学校に部活動指導員を配置した。

健康教育の充実・普及については、平成 16 年度から実施している「うつくしまっ子すこやか事業」の中で、平成 19 年度より「学校すこやかプラン」を展開し、県教育委員会、学校、専門家、関係機関との連携により多様化、複雑化する健康課題に対応し、解決に努めた。その中で、保健教育の充実を図り、児童生徒が自ら健康的な生活を営む実践力を育むための指導の在り方について研究を深めた。また、健康相談、個別指導の充実を図り、個別の健康課題解決を支援し、豊かな心を持ち、健やかにたくましく生きる児童生徒の育成に取り組んだ。食生活を取り巻く社会環境等の変化に伴い、偏った栄養摂取、肥満等の生活習慣病の増加及び若年化など、食に起因する新たな健康問題が増加している。こうした状況の下、生涯を通じた健康づくりの観点から、食に関する指導を一層充実するとともに、各種研修会・講習会の開催を通して、衛生管理指導の徹底を図り、豊かで安全な学校給食の実現に努めた。

#### 1 学校体育の充実

学校における体育・スポーツ活動のより一層の充実を図るため「ふくしまっ子児童期運動指針」の活用を奨励し、児童の運動習慣づくりに努めた。

また、県内 6 地区で小・中・高等学校体育担当者連絡協議会及び体育・保健体育指導力向上研修会を開催し、新学習指導要領の趣旨について研修を行うとともに、「自分手帳」の活用に関する講義も行った。さらに、部活動指導員配置促進事業を通して部活動を通じた運動・文化に親しむ生徒の育成に努めた。

#### 2 学校保健・学校安全の充実

学校における健康教育の充実を図るため、ヘルスプロモーションの理念に基づく各種事業を推進している。「学校すこやかプラン」においては、多様化・複雑化する児童生徒の健康課題に対応するため、現代的な健康課題に関する理解と学校における対応の在り方について健康教育推進者研修会を実施した。令和 5 年度は、福島県の健康課題とその対応について、ゲーム依存と心の健康についての研修を実施し、健康教育推進の要となる養護教諭の資質向上を目指し、健康教育の充実を図った。

顕彰事業関係では、県教育委員会が行う「福島県学校歯科保健優良校表彰」のほかに、県学校保健会の「学校保健優良校表彰」を行った。ここでは、自校の健康教育に関わる課題を的確に捉え、地域と連携し、組織的・計画的に課題解決に向けた取組を行うとともに、児童生徒の主体的な活動が行われた学校を表彰した。

学校安全に関しては、危機管理マニュアル等の評価・見直しを促すとともに、その確実な実践を図るため福島県学校安全指導者養成研修会を実施した。生活安全・交通安全・災害安全について担当者間での情報交換や各校の危機管理マニュアルの見直しをするなど、安全管理の推進・充実を図った。

#### 3 食育の推進

学校における食育の方向を示す「ふくしまっ子食育指針」に基づき、食べる力、感謝の心、郷土愛を育み、望ましい食習慣を形成することを目指し、給食の時間や特別活動、各教科等教育活動全体で食に関する指導の充実を図った。また、平成 26 年度より東日本大震災後の新たな課題に対応するため、「ふくしまからはじめよう。元気なふくしまっ子食環境整備事業」を三部（保健福祉部、農林水産部、教育庁）連携事業として実施し、学校における食に関する指導体制の整備に努めた（令和 4 年度から「元気なふくしまっ子食環境整備事業」へ事業名変更）。その一環で行っている「ふくしまっ子ごはんコンテスト」では、応募総数が、18,911 点となり、家庭における食育への意識の向上につながった。

#### 4 学校給食の充実

学校給食の充実を図るため、給食関係者を対象とした各種研修会をはじめ、学校栄養職員の専門的指導力を高めるため、新規採用学校栄養職員研修（県立学校を含む）、学校栄養職

員5年経験者研修及び栄養教諭5年経験者研修、中核学校栄養職員研修を実施した。なお、学校栄養職員中堅教諭等資質向上研修及び栄養教諭中堅教諭等資質向上研修については隔年実施のため、令和5年度は実施しなかった。

さらに、食中毒防止等衛生管理の徹底を図るためには、平成21年4月1日に施行された「学校給食衛生管理基準」(文部科学省告示第64号)の遵守が必要であることから、その実施状況の確認及び指導・助言のため、学校給食施設訪問実施状況点検を健康教育課担当者が県立学校27校及び単独調理場等3校、各教育事務所の指導主事が単独調理場等25校で実施した。

また、令和2年度より、文部科学省支出委任事業「学校給食の衛生管理等に関する調査研究」における訪問指導を市町村立学校給食施設10施設で実施した。

## 第2節 表彰

### 1 体育関係

#### (1) 公益財団法人日本学校体育研究連合会表彰

- ア 最優秀校 該当なし
- イ 優良校 該当なし
- ウ 功労者

| 職名 | 氏名    | 勤務校         |
|----|-------|-------------|
| 校長 | 鈴木 喜克 | 郡山市立安積第一小学校 |

#### (2) 福島県学校体育研究連合会表彰

- ア 優良校

| 学校名        | 校長名  |
|------------|------|
| 喜多方市立第二中学校 | 佐藤 毅 |

- イ 功労者

| 職名  | 氏名    | 勤務校          |
|-----|-------|--------------|
| 校長  | 伊藤 晃史 | 郡山市立大島小学校    |
| 前校長 | 中野 直人 | いわき市立赤井小学校   |
| 校長  | 水沼 栄寿 | 鏡石町立第二小学校    |
| 前校長 | 佐藤 和暁 | 福島市立笹谷小学校    |
| 校長  | 我妻雄比古 | 下郷町立下郷中学校    |
| 教諭  | 小野 隆儀 | 福島県立会津学鳳高等学校 |

### 2 学校保健・学校安全関係

#### (1) 福島県教育委員会表彰

- ア 学校保健功労者

| 区分    | 氏名    | 勤務校          |
|-------|-------|--------------|
| 学校歯科医 | 赤沼 龍一 | 泉崎村立泉崎第一小学校  |
| 学校医   | 賀澤 秀雄 | いわき市立小名浜東小学校 |
| 学校医   | 今井 徹  | いわき市立泉中学校    |
| 学校歯科医 | 五十嵐迪子 | 福島県立白河高等学校学校 |

- イ 功績顕著な団体 該当なし

#### (2) 文部科学大臣表彰

- ア 学校保健・学校安全表彰

| 区分   | 氏名    | 勤務校          |
|------|-------|--------------|
| 元学校医 | 根本 勝也 | いわき市立湯本第一中学校 |
| 元学校医 | 武田 佑子 | 喜多方市立塩川小学校   |
| 学校医  | 福田 正弘 | 喜多方市立第一小学校   |

- イ 学校保健・学校安全表彰(学校・団体) 該当なし
- ウ 学校安全ボランティア活動奨励賞

| 団体名           | 代表者名  |
|---------------|-------|
| 中一小地域ぐるみで見守り隊 | 古山 珠美 |

#### (3) 令和5年度歯科衛生図画・ポスター・書写・標語コンクール表彰

- ア 図画の部

| 学年     | 学校名             | 氏名    |
|--------|-----------------|-------|
| 幼稚園    | 認定こども園たまかわクックの森 | 小林 陽彩 |
| 小学校1年  | 白河市立白河第三小学校     | 磯貝 柊介 |
| 小学校2年  | いわき市立中央台東小学校    | 島津 壮太 |
| 小学校3年  | 北塩原村立裏磐梯小学校     | 遠藤 証  |
| 特別支援学校 | 応募なし            |       |

- イ ポスターの部

##### ◎小学校

| 学年    | 学校名          | 氏名    |
|-------|--------------|-------|
| 小学校4年 | 石川町立石川小学校    | 金澤 澄伶 |
| 小学校5年 | いわき市立中央台東小学校 | 高橋 杏和 |
| 小学校6年 | 須賀川市立白江小学校   | 田村 昊  |

##### ◎中学校

| 学年    | 学校名         | 氏名    |
|-------|-------------|-------|
| 中学校1年 | 白河市立白河第二中学校 | 鈴木 李彩 |
| 中学校2年 | 浅川町立浅川中学校   | 小針 夏希 |
| 中学校3年 | 白河市立東中学校    | 菊地 結生 |

##### ◎特別支援学校

| 学年    | 学校名        | 氏名    |
|-------|------------|-------|
| 中学部1年 | 福島県立会津支援学校 | 高橋 咲良 |

- ウ 書写の部

| 学年     | 学校名          | 氏名    |
|--------|--------------|-------|
| 小学校1年  | 二本松市立二本松北小学校 | 平館 和佳 |
| 小学校2年  | 白河市立白河第二小学校  | 室井 柊伍 |
| 小学校3年  | 川俣町立川俣小学校    | 齋藤まえむ |
| 小学校4年  | 会津若松市立鶴城小学校  | 土橋 世佳 |
| 小学校5年  | 会津若松市立城西小学校  | 亀山 莉央 |
| 小学校6年  | いわき市立泉北小学校   | 平子みのり |
| 中学校全学年 | 南会津町立南会津中学校  | 星 楓   |
| 特別支援学校 | 応募なし         |       |

- エ 標語の部

| 学年     | 学校名        | 氏名    |
|--------|------------|-------|
| 小・中学校  | 白河市立みさか小学校 | 杉田 結陽 |
| 特別支援学校 | 福島県立視覚支援学校 | 吉田 羽玖 |

**(4) 令和5年度福島県学校歯科保健優良校表彰**

- ア 特別表彰 該当なし  
 イ 栄誉賞 該当なし  
 ウ 最優秀賞 1校

| No. | 域内 | 学校名        |
|-----|----|------------|
| 1   | 会津 | 喜多方市立第一小学校 |

エ 優秀賞 19校

◎小学校(11学級以下) 11校

| No. | 域内  | 学校名         |
|-----|-----|-------------|
| 1   | 県中  | 三春町立中妻小学校   |
| 2   | 県中  | 三春町立中郷小学校   |
| 3   | 県南  | 白河市立釜子小学校   |
| 4   | 県南  | 西郷村立羽太小学校   |
| 5   | 会津  | 磐梯町立磐梯第一小学校 |
| 6   | 会津  | 磐梯町立磐梯第二小学校 |
| 7   | 会津  | 喜多方市立上三宮小学校 |
| 8   | 会津  | 湯川村立笈川小学校   |
| 9   | 会津  | 湯川村立勝常小学校   |
| 10  | 南会津 | 下郷町立江川小学校   |
| 11  | 南会津 | 只見町立只見小学校   |

◎小学校(12学級以上) 3校

| No. | 域内 | 学校名         |
|-----|----|-------------|
| 12  | 県南 | 白河市立白河第一小学校 |
| 13  | 県南 | 西郷村立小田倉小学校  |
| 14  | 県南 | 西郷村立米小学校    |

◎中学校(11学級以下) 2校

| No. | 域内  | 学校名       |
|-----|-----|-----------|
| 15  | 会津  | 磐梯町立磐梯中学校 |
| 16  | 南会津 | 下郷町立下郷中学校 |

◎特別支援学校 3校

| No. | 域内 | 学校名               |
|-----|----|-------------------|
| 17  | 特支 | 福島県立視覚支援学校(小学部)   |
| 18  | 特支 | 福島県立視覚支援学校(中学部)   |
| 19  | 特支 | 福島県立あぶくま支援学校(小学部) |

オ 努力賞 26校

◎小学校(11学級以下) 17校

| No. | 域内 | 学校名         |
|-----|----|-------------|
| 1   | 県北 | 福島市立水保小学校   |
| 2   | 県北 | 伊達市立栗野小学校   |
| 3   | 県北 | 桑折町立伊達崎小学校  |
| 4   | 県中 | 郡山市立白岩小学校   |
| 5   | 県中 | 須賀川市立長沼東小学校 |
| 6   | 県中 | 須賀川市立白方小学校  |
| 7   | 県南 | 中島村立滑津小学校   |
| 8   | 県南 | 中島村立吉子川小学校  |
| 9   | 会津 | 喜多方市立松山小学校  |
| 10  | 会津 | 喜多方市立駒形小学校  |

|    |     |             |
|----|-----|-------------|
| 11 | 会津  | 北塩原村立裏磐梯小学校 |
| 12 | 南会津 | 南会津町立館岩小学校  |
| 13 | 南会津 | 下郷町立旭田小学校   |
| 14 | 南会津 | 下郷町立檜原小学校   |
| 15 | 相双  | 南相馬市立大甕小学校  |
| 16 | 相双  | 南相馬市立小高小学校  |
| 17 | いわき | いわき市立渡辺小学校  |

◎小学校(12学級以上) 1校

| No. | 域内 | 学校名         |
|-----|----|-------------|
| 18  | 相双 | 相馬市立中村第一小学校 |

◎中学校(11学級以下) 7校

| No. | 域内  | 学校名         |
|-----|-----|-------------|
| 19  | 県中  | 田村市立常葉中学校   |
| 20  | 県南  | 白河市立東中学校    |
| 21  | 県南  | 中島村立中島中学校   |
| 22  | 会津  | 喜多方市立高郷中学校  |
| 23  | 会津  | 湯川村立湯川中学校   |
| 24  | 南会津 | 檜枝岐村立檜枝岐中学校 |
| 25  | 南会津 | 只見町立只見中学校   |

◎中学校(12学級以上) 該当なし

◎特別支援 1校

| No. | 域内 | 学校名           |
|-----|----|---------------|
| 26  | 特支 | あぶくま支援学校(中学部) |

カ 優秀活動奨励賞 1校

| No. | 域内 | 学校名       |
|-----|----|-----------|
| 1   | 県南 | 西郷村立熊倉小学校 |

**(5) 福島県学校保健会表彰**

ア 健康づくり推進学校 該当なし

イ 学校保健功労者(35名)

| No. | 職名    | 氏名    | 勤務校          |
|-----|-------|-------|--------------|
| 1   | 学校医   | 阿部 俊文 | いわき市立久之浜中学校  |
| 2   | 学校医   | 飯森 裕一 | 郡山市立西田学園     |
| 3   | 学校医   | 宇佐見啓治 | 郡山市立三和小学校    |
| 4   | 学校医   | 小野 勝彦 | 伊達市立梁川小学校    |
| 5   | 学校医   | 折笠 和栄 | 須賀川市立第三中学校   |
| 6   | 学校医   | 川島千鶴子 | 郡山市立富田小学校    |
| 7   | 学校医   | 工藤 信一 | 郡山市立小原田小学校   |
| 8   | 学校医   | 國井 正剛 | 白河市立大信小学校    |
| 9   | 学校医   | 近内 育夫 | いわき市立永崎小学校   |
| 10  | 学校医   | 齋藤 淳  | 郡山市立大成小学校    |
| 11  | 学校医   | 鈴木 知子 | 福島市立ふくしま支援学校 |
| 12  | 学校医   | 田畑 裕  | 石川町立野木沢小学校   |
| 13  | 学校医   | 鶴岡 美果 | 郡山市立行健小学校    |
| 14  | 学校医   | 早川 知彦 | 相馬市立中村第二小学校  |
| 15  | 学校医   | 船橋 裕司 | 相馬市立中村第二中学校  |
| 16  | 学校医   | 山口 英夫 | 相馬市立桜丘小学校    |
| 17  | 学校歯科医 | 板倉 良暢 | 南相馬市立原町第一小学校 |

| No. | 職名    | 氏名    | 勤務校          |
|-----|-------|-------|--------------|
| 18  | 学校歯科医 | 磐田 茂  | 郡山市立熱海中学校    |
| 19  | 学校歯科医 | 遠藤 正道 | 福島県立郡山萌世高等学校 |
| 20  | 学校歯科医 | 片平 堅  | 福島市立蓬萊東小学校   |
| 21  | 学校歯科医 | 工藤 祐光 | 福島県立福島北高等学校  |
| 22  | 学校歯科医 | 西須 栄治 | 田村市立船引中学校    |
| 23  | 学校歯科医 | 齋藤 博安 | 伊達市立桃陵中学校    |
| 24  | 学校歯科医 | 佐藤賢次郎 | 田村市立船引小学校    |
| 25  | 学校歯科医 | 宍戸 富美 | 福島市立荒井小学校    |
| 26  | 学校歯科医 | 高橋 達也 | 福島市立福島第一中学校  |
| 27  | 学校歯科医 | 土屋 敬三 | 田村市立大越中学校    |
| 28  | 学校歯科医 | 箱崎 仁  | 田村市立船引南小学校   |
| 29  | 学校歯科医 | 早坂 弘  | 白河市立関辺小学校    |
| 30  | 学校歯科医 | 宮口 達司 | 伊達市立桃陵中学校    |
| 31  | 学校歯科医 | 渡辺 善之 | 田村市立美山小学校    |
| 32  | 学校薬剤師 | 佐藤 善嗣 | 田村市立大越中学校    |
| 33  | 学校薬剤師 | 谷澤 雅司 | 白河市立みさか小学校   |
| 34  | 養護教諭  | 石本由美子 | 福島県立福島南高等学校  |
| 35  | 養護教諭  | 宮川 玲子 | 福島県立清陵情報高等学校 |

ウ 学校安全ボランティア活動奨励賞 該当なし  
エ 学校保健会感謝状 (6名)

| No. | 職名       | 氏名    | 勤務校             |
|-----|----------|-------|-----------------|
| 1   | (前)学校医   | 小林 勝博 | (前)会津美里町立高田小学校  |
| 2   | (前)学校医   | 清水 尚子 | (前)福島県立聴覚支援学校平校 |
| 3   | (前)学校歯科医 | 阿部 真行 | (前)いわき市立石住小学校   |
| 4   | (前)学校薬剤師 | 井上 律子 | (前)鮫川村立鮫川小学校    |
| 5   | (前)学校薬剤師 | 瀬倉 清彦 | (前)福島県立会津高等学校   |
| 6   | (前)養護教諭  | 小林ひろみ | (前)南相馬市立小高中学校   |

### 3 学校給食関係

#### (1) 文部科学大臣表彰

ア 学校給食優良学校等

| 団体名              | 校長・施設長 |
|------------------|--------|
| いわき市立勿来学校給食共同調理場 | 鈴木 静人  |

#### (2) 公益財団法人福島県学校給食会会長・福島県学校給食研究会会長表彰

ア 学校給食優良団体

| 団体名               | 校長・施設長 |
|-------------------|--------|
| 会津若松市永和地区学校給食センター | 笠原 聡   |
| 喜多方市立塩川小学校        | 樋口 喜敬  |
| 新地町食育指導部会         | 荒 博史   |
| 福島県立会津第二高等学校      | 松本 義法  |

イ 学校給食功労者

| 職名   | 氏名     | 所名         |
|------|--------|------------|
| 栄養教諭 | 上原子 昌代 | 福島市立瀬上小学校  |
| 栄養教諭 | 武藤 真紀  | 二本松市立安達中学校 |

| 職名     | 氏名     | 所名             |
|--------|--------|----------------|
| 主任栄養技師 | 酒井 良枝  | 郡山市立芳賀小学校      |
| 主任栄養技師 | 庄司 祐理  | 石川町立石川小学校      |
| 栄養教諭   | 田家 すみえ | 矢吹町立善郷小学校      |
| 栄養教諭   | 加藤 真理  | 喜多方市立山都小学校     |
| 調理責任者  | 目黒 千里  | 株式会社ニッコトラスト    |
| 栄養教諭   | 猪狩 奈々  | いわき市立平第一小学校    |
| 事務局次長  | 齋藤 保   | 公益財団法人福島県学校給食会 |

ウ 福島県教育委員会教育長賞 (県産食材活用部門)

| 団体名          | 校長・施設長 |
|--------------|--------|
| 広野町学校給食共同調理場 | 加賀 博行  |

## 第3節 学校体育

### 1 学校体育関係各種研修

#### (1) 小・中・高等学校体育担当者連絡協議会

※ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、下記の日程に変更して実施した。

県北 令和5年4月28日(金)  
とうほう・みんなの文化センター

県中 令和5年5月11日(木)  
田村市文化センター

県南 令和5年5月9日(火)  
西郷村文化センター

会津・南会津 令和5年4月21日(金)  
下郷町ふれあいセンター

相双 令和5年4月26日(水)  
浮舟文化会館

いわき 令和5年5月10日(水)  
いわき合同庁舎 4階大会議室

#### (2) 体育・保健体育指導力向上研修

県中央研修 令和5年6月29日(木)  
あづま総合運動公園 36名参加

地区別研修  
県北地区 令和5年8月8日(火)  
桑折町民体育館他 89名参加

県中地区 令和5年8月18日(金)  
宝来屋郡山総合体育館他 67名参加

県南地区 令和5年8月2日(水)  
矢吹町立矢吹中学校 61名参加

会津・南会津地区 令和5年8月2日(水)  
あいづ総合体育館他 136名参加

相双地区 令和5年8月2日(水)  
南相馬市立石神中学校他 58名参加

いわき地区 令和5年7月28日(金)  
いわき市立小名浜東小学校他 53名参加

## 2 福島県高等学校体育連盟

### (1) 令和5年度福島県高等学校体育連盟役員

|               |                     |                                     |                   |             |
|---------------|---------------------|-------------------------------------|-------------------|-------------|
| 顧問<br>(歴代会長)  | 折笠常弘(15代) 早川俊一(16代) |                                     |                   |             |
|               | 杉原陸夫(20代)           | 高城俊春(21代)                           | 斎藤和也(22代)         | 古市孝雄(23代)   |
|               | 富田孝志(24代)           | 星本文(25代)                            | 新井田大(26代)         | 富田昭夫(27代)   |
|               | 本間稔(28代)            | 長岐博(29代)                            | 廣瀬敬彦(30代)         | 遠藤均(31代)    |
|               | 鈴木哲(県教育庁健康教育課長)     |                                     | 穂本哲哉(県スポーツ協会専務理事) |             |
| 参与<br>(歴代理事長) | 高橋充雄(9代)            | 浅尾晃左(11代)                           | 菅野一治(12代)         | 渡辺正昭(13代)   |
|               | 赤沼健一(14代)           | 渡邊正仁(15代)                           | 穂本哲哉(16代)         | 飯塚悟(18代)    |
| 会長            | 渡邊亮(田村高校長)          |                                     |                   |             |
| 副会長<br>(地区会長) | 山内義美(福島工業高校長)       |                                     | 小針幸雄(清陵情報高校長)     | 鈴木義祐(会津高校長) |
|               | 長南国彦(平工業高校長)        |                                     | 佐藤秀美(相馬高校長)       |             |
| 理事長           | 中村俊之(田村高教頭)         |                                     |                   |             |
| 事務局長          | 齊藤祐介(田村)            |                                     |                   |             |
| 常任理事          | 齋藤靖(健康教育課)          |                                     | 高田誠(県スポーツ協会)      | 小林幸大(安積)    |
|               | 高橋健也(安積黎明)          |                                     | 木村あさ子(郡山萌世(通信制))  |             |
| 常任理事・理事       | 県北                  | ☆◎山寺清司(福島工業) ○花田巖(福島西) 鈴木敦(伊達)      |                   |             |
|               |                     | 佐藤直明(福島東稜) △佐藤彩愛(福島西)               |                   |             |
|               | 県南                  | ☆◎安藤英貴(あさか開成) ☆◎影山高見(安積) ☆柳沼誠(船引)   |                   |             |
|               |                     | ☆渡部健次(清陵情報) ☆佐川英太(白河実業) △高野桃花(白河実業) |                   |             |
|               | 会津                  | ☆◎馬場正丈(会津工業) ○星貴司(若松商業) 高波広幸(葵)     |                   |             |
|               |                     | △石倉凜(会津若松ザベリオ学園)                    |                   |             |
|               | いわき                 | ☆◎澤田匡史(平工業) ○阿部秀幸(磐城桜が丘) 河村美穂(平商業)  |                   |             |
|               |                     | △和田陽向(相馬)                           |                   |             |
|               | 相馬                  | ☆◎安達大晃(相馬) ○安斎和之(ふたば未来学園) 立野陽平(相馬)  |                   |             |
|               |                     | △小谷津陽色(相馬)                          |                   |             |
| 監事            | 佐藤裕隆(福島北)           |                                     | 佐藤琢麻(会津)          |             |
| 会長指名理事        | 齋藤靖(健康教育課)          |                                     | 高田誠(県スポーツ協会)      |             |
| 幹事            | 渡邊当(本宮)             | 渡邊哲也(郡山)                            | 吉田さくら(田村)         |             |
| (公財)福体協理事     | 渡邊亮(田村高校長)          |                                     |                   |             |
| 同評議員          | 齊藤祐介(田村)            |                                     |                   |             |
| 東北高体連副会長      | 渡邊亮(田村高校長)          |                                     |                   |             |
| 同常任理事         | 中村俊之(田村高教頭)         |                                     |                   |             |
| 同理事           | 齊藤祐介(田村)            |                                     |                   |             |

☆常任理事、◎地区理事長、○地区副理事長、△地区生徒理事

### (2) 第69回福島県高等学校体育大会日程・会場

| 開催地区 | No.        | 種目名    | 日程              | 会場              | 参加人数          |     |
|------|------------|--------|-----------------|-----------------|---------------|-----|
| 県北   | 1          | 陸上競技   | 5月24日(水)~27日(土) | とうほう・みんなのスタジアム  | 956           |     |
|      | 2          | バレーボール | 5月27日(土)~30日(火) | 福島トヨタクラウンアリーナ他  | 1,126         |     |
|      | 3          | サッカー   | 男子              | 5月27日(土)~29日(月) | 十六沼公園サッカー場    | 588 |
|      | 4          | テニス    |                 | 6月2日(金)~4日(日)   | インテックテニスガーデン他 | 249 |
|      | 5          | ハンドボール |                 | 6月3日(土)~6日(月)   | あづま総合体育館他     | 510 |
|      | 6          | 水泳     | 競泳              | 6月23日(金)~25日(日) | いわき市民プール      | 321 |
|      | 7          | 体操     | 体操競技            | 5月27日(土)~28日(日) | あづま総合体育館      | 42  |
|      |            |        | 新体操             | 5月27日(土)~28日(日) | あづま総合体育館      | 19  |
|      | 8          | 自転車    | ロード             | 5月23日(火)        | エビスサーキット西コース  | 34  |
| 9    | ウエイトリフティング |        | 6月3日(土)~4日(日)   | 福島明成高等学校第一体育館   | 31            |     |

| 開催地区 | No. | 種目名      | 日程               | 会場                                   | 参加人数                |     |
|------|-----|----------|------------------|--------------------------------------|---------------------|-----|
|      | 10  | フェンシング   | 6月3日(土)～4日(日)    | 福島商業高等学校第二体育館                        | 11                  |     |
|      | 11  | カヌー      | 6月4日(日)          | 二本松市阿武隈漕艇場                           | 10                  |     |
|      | 12  | ライフル射撃   | 6月4日(日)          | 二本松市総合射撃場                            | 18                  |     |
| 県南   | 13  | ソフトボール   | 6月3日(土)～5日(月)    | 東風の台運動公園 クリスタルパーク石川                  | 299                 |     |
|      | 14  | バドミントン   | 6月3日(土)～5日(月)    | 宝来屋郡山総合体育館                           | 504                 |     |
|      | 15  | 水泳       | 飛込               | 7月5日(水)                              | 郡山カルチャーパーク飛込プール     | 4   |
|      | 16  | 剣道       | 5月27日(土)～29日(月)  | 宝来屋郡山総合体育館                           | 434                 |     |
|      | 17  | 弓道       | 6月3日(土)～5日(月)    | 郡山市開成山弓道場                            | 641                 |     |
|      | 18  | 空手道      | 6月2日(金)～4日(日)    | 郡山市東部体育館                             | 76                  |     |
|      | 19  | 自転車      | トラック             | 5月20日(土)～21日(日)                      | 泉崎国際サイクルスタジアム       | 36  |
|      | 20  | ホッケー     | 6月3日(土)          | ルネサンス棚倉多目的広場                         | 実施なし                |     |
|      | 21  | スケート     | スピード             | 12月8日(金)                             | 磐梯熱海スポーツパーク郡山スケート場  | 1   |
|      | 22  |          | フィギュア            | 12月3日(日)                             | 磐梯熱海アイスアリーナ         | 1   |
|      | 23  | アーチェリー   | 6月3日(土)          | 貝山多目的運動広場(三春町)                       | 22                  |     |
| 会津   | 24  | バスケットボール | 5月27日(土)～29日(月)  | あいづ総合体育館 会津若松市内高校                    | 1,024               |     |
|      | 25  | サッカー     | 男子               | 5月27日(土)～29日(月)                      | 会津総合運動公園サッカー場       | 588 |
|      | 26  | ソフトテニス   | 6月3日(土)～5日(月)    | 会津総合運動公園テニスコート                       | 627                 |     |
|      | 27  | 卓球       | 6月3日(土)～5日(月)    | あいづ総合体育館                             | 463                 |     |
|      | 28  | 相撲       | 6月3日(土)～4日(日)    | あいづ相撲場                               | 19                  |     |
|      | 29  | ボート      | 5月27日(土)～28日(日)  | 福島県営茨野漕艇場                            | 75                  |     |
|      | 30  | 登山       | 5月31日(水)～6月3日(土) | 会津駒ヶ岳                                | 190                 |     |
|      | 31  | 軟式野球     | 7月1日(土)～2日(日)    | あいづ球場                                | 実施なし                |     |
|      | 32  | レスリング    | 5月27日(土)～28日(日)  | 南会津高等学校体育館                           | 23                  |     |
|      | 33  | スキー      | アルペン             | 令和6年1月11日(木)                         | アルペン：あいづ高原だいらスキー場   | 18  |
|      |     |          | クロカン             | ～13日(土)                              | クロカン：檜枝岐村七入クロスカントリー | 1   |
|      | 34  | なぎなた     | 6月4日(日)          | 河東総合体育館                              | 26                  |     |
|      | 35  | 駅伝競走     | 10月26日(木)        | 猪苗代町駅伝コース                            | 301                 |     |
|      | いわき | 36       | ラグビーフットボール       | 10月22日(日)・28日(土)・<br>11月5日(日)・11日(土) | いわきグリーンフィールド・同多目的広場 | 174 |
| 37   |     | 柔道       | 6月3日(土)～5日(月)    | いわき市南部アリーナ                           | 202                 |     |
| 38   |     | ボクシング    | 5月26日(金)～28日(日)  | 磐城緑蔭中学校・高等学校                         | 17                  |     |
| 39   |     | ヨット      | 6月3日(土)          | 小名浜港釜の前                              | 2                   |     |
| 相双   | 40  | サッカー     | 男子               | 6月3日(土)～4日(日)                        | Jヴィレッジスタジアム         | 588 |
|      |     | 女子       | 6月2日(金)～4日(日)    | ふたば未来学園高等学校                          | 71                  |     |
|      | 41  | 馬術       | 5月6日(土)～7日(日)    | 南相馬市馬事公苑                             | 42                  |     |

### 3 福島県中学校体育連盟

#### (1) 令和5年度福島県中学校体育連盟役員

| 役職名 | 氏名    | 所属名           | 地区名 |
|-----|-------|---------------|-----|
| 会長  | 馬場 廣明 | 西袋中           | 県中  |
| 副会長 | 青柳 茂宏 | 信陵中           | 県北  |
|     | 大竹 学  | 郡山七中          | 県中  |
|     | 小野 聡  | 白河二中          | 県南  |
|     | 高橋 祐一 | 若松四中          | 会津  |
|     | 丹野 英雄 | 勿来一中          | いわき |
|     | 柳沼 敏文 | 広野中           | 相双  |
| 理事長 | 田中 信次 | 福島三中          | 県北  |
| 理事  | 山田 知  | 県教育庁健康教育課指導主事 |     |
|     | 青木 祐輔 | 梁川中           | 県北  |

| 役職名  | 氏名    | 所属名  | 地区名 |
|------|-------|------|-----|
| 理事   | 安住 哲夫 | 郡山五中 | 県中  |
|      | 吉田 絢也 | 白河二中 | 県南  |
|      | 穴澤 正人 | 一箕中  | 会津  |
|      | 大竹 隆幸 | 久之浜中 | いわき |
|      | 関 康徳  | 小高中  | 相双  |
| 監事   | 高橋 英二 | 岩瀬中  | 県中  |
|      | 佐川 一夫 | 上遠野中 | いわき |
|      | 反町 増生 | 向陽中  | 相双  |
| 顧問   | 佐藤 信行 | 前会長  | 県北  |
| 事務局長 | 八巻 裕介 | 福島三中 | 県北  |

**(2) 第66回福島県中学校体育大会日程・会場**

◎ 陸上競技

| 競技種目 | 競技会場                                 | 期 日           | 開催地 |
|------|--------------------------------------|---------------|-----|
| 陸上競技 | しらかわカタールスポートパーク<br>(白河市総合運動公園) 陸上競技場 | 7月4日(火)～6日(木) | 白河市 |

◎ 総合競技 7月22日(土)～24日(月) △:開始式 ○:競技

| 競技種目     | 競技会場            | 期日:○印は競技日     |            |        | 開催地 |       |
|----------|-----------------|---------------|------------|--------|-----|-------|
|          |                 | 22日(土)        | 23日(日)     | 24日(月) |     |       |
| 水泳<br>競技 | 競 泳             | 郡山しんきん開成山プール  | △○         | ○      | ○   | 郡山市   |
|          | 飛込み             | 郡山カルチャーパークプール | 7月5日(水) △○ |        |     | 郡山市   |
| 軟式野球     | SOSO. Rならばスタジアム |               | △○         | ○      | ○   | 檜葉町   |
|          | 富岡町総合運動公園野球場    |               | ○          | ○      |     | 富岡町   |
|          | 楽天イーグルスみちのく鹿島球場 |               | ○          |        |     | 南相馬市  |
|          | 新地球場            |               | ○          |        |     | 新地町   |
| ソフトボール   | あいづ総合運動公園多目的広場  |               | △          | ○      | ○   | 会津若松市 |
|          | 押切川公園スポーツ広場     |               |            | ○      |     | 喜多方市  |
| バスケットボール | いわき市総合体育館       |               | △○         | ○      | ○   | いわき市  |
|          | 南部アリーナ          |               | ○          | ○      |     |       |
| バレーボール   | あいづ総合体育館        |               | △○         | ○      | ○   | 会津若松市 |
| ソフトテニス   | 平テニスコート         |               | △          | ○      | ○   | いわき市  |
| バドミントン   | 白河市中心体育館        |               | △○         | ○      | ○   | 白河市   |
| サッカー     | 西部サッカー場(メイン・サブ) |               | △○         | ○      | ○   | 郡山町   |
|          | 福島空港公園多目的運動広場   |               | ○          | ○      |     | 須賀川市  |
| ハンドボール   | 福島トヨタクラウンアリーナ   |               | △○         | ○      | ○   | 福島市   |
| 柔 道      | 二本松市城山体育館       |               |            | △○     | ○   | 二本松市  |
| 卓 球      | 押切川公園体育館        |               | △          | ○      | ○   | 喜多方市  |
| 剣 道      | あづま総合体育館        |               |            | △○     | ○   | 福島市   |
| 新 体 操    | 宝来屋郡山総合体育館      |               | △○         | ○      |     | 郡山市   |
| 体操競技     | 宝来屋郡山総合体育館      |               | △          | ○      |     | 郡山市   |

◎ 別日程で開催

| 競技種目 | 競技会場   | 13日(木) | 14日(金) | 開催地  |
|------|--------|--------|--------|------|
| 相 撲  | 南相馬相撲場 | △○     | ○      | 南相馬市 |

◎ 駅伝競走・スケート・スキー競技

| 競技種目 | 競技会場               | 期 日               | 開催地  |
|------|--------------------|-------------------|------|
| 駅伝競走 | とうほう・みんなのスタジアム     | 10月3日(火)～4日(水)    | 福島市  |
| スケート | 磐梯熱海スポーツパーク郡山スケート場 | 12月9日(金)(高校と同日開催) | 郡山市  |
| スキー  | 猪苗代スキー場            | 令和6年1月10日(水)      | 猪苗代町 |
|      | 猪苗代XCコース           | ～12日(金)           |      |

**第4節 学校保健・学校安全**

**1 学校保健・学校安全研修会等**

(1) 学校保健

**健康教育推進者研修会**

- ア 県南地区 令和5年8月3日(木)  
会 場 矢吹町文化センター  
参 加 者 71名
- イ 県中地区 令和5年8月8日(火)  
会 場 たまかわ文化体育館  
参 加 者 175名

- ウ 会津・南会津地区 令和5年8月21日(月)  
会 場 下郷ふれあいセンター  
参 加 者 131名

(2) 学校安全

**学校安全指導者養成研修会**

- ア 会津地区 令和5年10月4日(水)  
会 場 湯川村公民館  
参 加 者 111名
- イ 県中地区 令和5年10月5日(木)  
会 場 田村市文化センター  
参 加 者 175名

ウ 南会津地区 令和5年10月24日(火)  
 会 場 御蔵入交流館  
 参 加 者 25名

## 2 児童・生徒の健康管理費補助

### (1) 要保護児童生徒援助費補助金(医療費)

学校安全保健法第25条の規定に基づく補助金の交付状況は次のとおりである。

ア 県立学校

| 対象児童生徒数(人) |        | 設置者が援助した額(円) | 補助金<br>確定額(円) |
|------------|--------|--------------|---------------|
| 区分         | 特別支援学校 |              |               |
| 要保護        | 0      | 0            | 0             |

イ 市町村立学校

| 対象児童生徒数(人) |     |     |        | 設置者が援助した額(円) | 補助金<br>確定額(円) |
|------------|-----|-----|--------|--------------|---------------|
| 区分         | 小学校 | 中学校 | 特別支援学校 |              |               |
| 要保護        | 31  | 7   | 0      | 1,189,384    | 496,630       |

## 4 独立行政法人日本スポーツ振興センター

### (1) 災害共済給付契約加入状況

県立学校の令和5年度の加入幼児児童生徒数は35,617人で、前年度に比べ1,014人減少した。

### (2) 災害共済給付状況

県立学校において、令和5年度「学校管理下」で発生した児童生徒等の災害は、給付件数では3,344件(令和4年度3,209件)、給付金額では29,867,398円(令和4年度58,537,059円)である。

給付件数では135件増加、給付金額で28,669,661円減少した。

### (3) 令和5年度県立学校災害共済給付状況

| 区分   | 医療費                     |            | 障害見舞金    |           | 死亡見舞金    |        | 供花料      |        | 合計               |            |
|------|-------------------------|------------|----------|-----------|----------|--------|----------|--------|------------------|------------|
|      | (発生件数)<br>給付件数          | 給付額        | 給付<br>件数 | 給付額       | 給付<br>件数 | 給付額    | 給付<br>件数 | 給付額    | (発生件数)<br>給付件数   | 給付額        |
| 幼稚園  | 件<br>(0)<br>0           | 円<br>0     | 件<br>0   | 円<br>0    | 件<br>0   | 円<br>0 | 件<br>0   | 円<br>0 | (0)<br>0         | 円<br>0     |
| 小学校  | (8)<br>16               | 268,132    | 0        | 0         | 0        | 0      | 0        | 0      | (8)<br>16        | 268,132    |
| 中学校  | (33)<br>67              | 154,876    | 0        | 0         | 0        | 0      | 0        | 0      | (33)<br>67       | 154,876    |
| 高等学校 | 全日制<br>(1,197)<br>3,254 | 25,077,050 | 3        | 4,366,000 | 0        | 0      | 0        | 0      | (1,197)<br>3,257 | 29,443,050 |
|      | 定時制<br>(1)<br>4         | 1,340      | 0        | 0         | 0        | 0      | 0        | 0      | (1)<br>4         | 1,340      |
|      | 通信制<br>(0)<br>0         | 0          | 0        | 0         | 0        | 0      | 0        | 0      | (0)<br>0         | 0          |
| 合計   | (1,239)<br>3,341        | 25,501,398 | 3        | 4,366,000 | 0        | 0      | 0        | 0      | (1,239)<br>3,344 | 29,867,398 |

### (4) 学校安全支援業務

各種研修会等への講師派遣

## 3 福島県学校保健会

### (1) 会員

ア 県内小・中学校及び高等学校の児童生徒

イ 学校医、学校歯科医、学校薬剤師及び学校保健関係者

### (2) 財政

令和5年度予算額 7,187,352円

### (3) 事業概要

ア 学校保健講習会の開催(県内20支部単位)

イ 健康づくり推進学校表彰・学校保健功労者表彰・学校安全ボランティア奨励賞・感謝状贈呈

ウ 各種研究大会、講習会等への派遣

エ 刊行物の発行

学校保健会報 第54号

## 第5節 学校給食

### 1 学校給食用パン品質調査

学校給食用パン品質を良好して、学校給食の食事内容の充実向上に役立たせるため実施した。

| 教育事務所 | 調査件数 |
|-------|------|
| 県北    | 3件   |
| 県中    | 15件  |
| 県南    | 5件   |
| 会津    | 3件   |
| 南会津   | 0件   |
| 相双    | 2件   |
| いわき   | 6件   |
| 県立学校  | 3件   |
| 合計    | 37件  |

### 2 食育等に関する研修会等

#### (1) 食習慣・肥満等の健康課題に対応する食育指導者研修会及び福島県学校給食担当者会議

- 日時 令和5年5月23日(火)
- 場所 田村市文化センター
- 参加者 131名

#### (2) ふくしまっ子の健康課題に対応する食環境を考える会

- 県北 令和5年8月1日(火)  
二本松市東和文化センター 192名参加
- いわき 令和5年8月2日(水)  
いわき市文化センター 138名参加
- 相双 令和5年8月7日(月)  
万葉ふれあいセンター 83名参加

#### (3) ふくしまっ子栄養教室食育研修会

- 日時 令和5年6月7日(水)
- 会場 田村市文化センター
- 参加者 66名

#### (4) 栄養教諭食育推進研修会

- 県北 令和5年11月8日(水)  
福島市立森合小学校 16名参加
- 県中(郡山・岩瀬・田村) 令和5年10月20日(金)  
郡山市立富田西小学校 8名参加
- 県中(郡山・石川)・県南 令和5年11月9日(木)  
郡山市立柴宮小学校 14名参加
- 会津・南会津 令和5年11月24日(金)  
柳津町立柳津小学校 12名参加
- 相双・いわき 令和5年12月5日(火)  
南相馬市立石神第二小学校 18名参加

### 3 学校給食関係の国庫助成実績

平成23年4月1日付け23文科施第3号文部科学大臣裁定「学校施設環境改善交付金要綱」に基づく交付金の状況は、次のとおりである。

令和5年度「学校施設環境改善交付金」(学校給食施設)

| 設置者名 | 交付額<br>(千円) | 学校または共同調理場名              | 事業名        | 児童生徒数<br>(人) | 構造<br>(区分)        | 対象<br>面積<br>(㎡) |
|------|-------------|--------------------------|------------|--------------|-------------------|-----------------|
| 福島県  | 13,789      | 安達地区特別支援学校(小中)<br>(I期工事) | 単独調理場(新增築) | 75(定員)       | 鉄筋コンクリート<br>造(RC) | 76              |
| 西郷村  | 32,956      | 西郷村学校給食センター              | 共同調理場(新增築) | 1,703        | 鉄骨造(S)            | 137             |
|      | 51,330      |                          | 共同調理場(改築)  |              |                   | 312             |

## 第9章 社会教育

### 第1節 概要

#### 1 社会教育一般

県社会教育委員の会議では、本県における社会教育推進や地域の教育力向上を目指した施策の成果及び課題を整理するとともに、様々な課題が多様化、複雑化、専門化した現代において「人づくり」「地域づくり」に取り組む社会教育の役割の重要性を鑑み、震災後12年を迎える今、数々の現代的課題を乗り越える社会教育の在り方について考え、議論した。このことを社会教育委員の立場から、進捗状況を検証してきた。(第2章 第7節に記載)

#### 2 地域コミュニティの再生

震災からの復興のために、地域コミュニティを再生していくことが重要である。そのために、地域の実情に即して、学校・家庭・地域住民の連携・協力を進めるとともに、それぞれが主体的かつ確実にその役割を果たしながら、互いの役割分担を明確に認識し、対等な協働関係を築くことにより、社会総がかりでの教育の実現を目指す「地域学校協働本部事業」を実施した。地域住民による学校支援を「学校を核とした地域づくり」に深化させていくために、地域には地域コーディネーターを、学校には地域との連携の窓口となる地域連携担当教職員を置き、地域と学校が双方向で連携・協働する活動の充実を図った。特に、震災後の子どもたちを取り巻く環境の変化に対応するための支援を行い、教育環境の復興に努めた。

また、災害記録の保存と県民への情報提供に活用する資料の収集を行い、移動図書館や協力車の巡回を実施して読書普及を通じた支援を行った。

#### 3 家庭教育

家庭教育は、子どもが基本的な生活習慣、生活能力、豊かな情操、他人に対する思いやりや善悪の判断などの基本的倫理観、自立心や自制心、社会的なマナーを身につける上で重要な役割を担っている。しかしながら、少子高齢化、高度情報化等、社会環境が激しく変化する現在、子育てに関する課題等も多様化している。そこで、PTAや企業との連携や支援の届かない家庭へのアウトリーチ型支援等、地域ぐるみで子どもたちを育む仕組みの構築に努め、「地域でつながる家庭教育応援事業」等を実施した。

#### 4 青少年教育

青少年の豊かな人間性や社会性を育むためには、異年齢の子ども同士や地域の大人等の関わりのもと、自然体験、ボランティア活動、職業体験、交流体験、スポーツ・文化活動等の様々な体験の機会の充実や社会環境づくりが促進されることが必要である。そのため、「福島県地域学校協働本部」を設置し、学校・家庭・地域の連携・協力の充実を図りながら、

地域ぐるみで青少年を育成する環境づくりを推進した。また、子どもと大人が、共通の体験をとおして感動したことや共感したこと、震災からさらなる復興を願った「ふくしま」への想いや震災の記憶の継承などを日本古来の五・七・五の十七音で表現した作品を募集、表彰、広報する「ふくしまを十七音で奏でよう絆ふれあい支援事業」を実施した。

#### 5 成人教育

地域における大人の持つ知識や技能、公民館等において学習した成果などを、地域社会に還元する活動の重要性が高まっていることから、地域の教育力の向上への取組と関連させながら、成人の学習活動の充実や社会参加活動の促進に努めた。

#### 6 子どもの読書活動推進

第四次「福島県子ども読書活動推進計画」に基づき、関係機関と連携して、地域で子どもの読書活動を推進するボランティアの資質向上を図り、学校図書館への支援等もできる人材の養成に努めるとともに、福島県子ども読書活動推進会議を開催し、読書活動推進に向けた協議を行った。また、読書の楽しさや自ら進んで読書に親しむきっかけとする中高校生によるビブリオバトル福島県大会の開催や、子どもの発達段階や新しい生活様式を踏まえた読書活動の推進を図った。

#### 7 ユネスコ活動

ユネスコ憲章の精神に基づく教育・科学・文化活動についての理解を県民一般に広めるよう努めた。

#### 8 チャレンジ！子どもがふみだす体験活動応援事業

##### (1) 事業1 ふくしまキッズパワーアップ事業

自然体験活動に加え福島ならではの多様な体験活動等とおして、心身の健康の維持向上を図るとともに、社会に貢献する意識を高め、主体的にふくしまの未来を切り拓く、たくましい子どもたちを育成するために「ふくしまキッズパワーアップ事業」を実施した。充実した自然体験活動や震災を学ぶ体験活動等への取組を支援し、心身ともに健康な子どもの育成を図る団体に対し、補助金を交付した。

##### (2) 事業2 「ふくしまの未来」へつなぐ体験応援事業

子どもたちが主体的に復興の発信や震災の教訓の継承等に寄与する社会体験活動を県内外で広く体験することで、子どもたちの「志」を育み、復興・地域創生の担い手を育成するため、「ふくしまの未来」へつなぐ体験応援事業を実施し、市町村や青少年育成団体等が実施する事業に対し、補助金を交付した。

##### (3) 事業3 心のケアが必要な子ども（不登校等）を対象とした自然体験事業

不登校等で不安を抱えている子どもたちを支援するため

に、自然の家を活用した自然体験活動や交流活動等を継続的に提供した。

## 第2節 社会教育一般

### 1 社会教育推進体制の充実

#### (1) 社会教育行政の推進

社会教育担当者会議

第1回 日 時 令和5年4月7日(金)

場 所 中町ビル

第2回 日 時 令和6年2月9日(金)

場 所 あづま荘

#### (2) 社会教育主事の設置

社会教育活動の充実を図るため、自然の家へ社会教育主事の配置を求めるなど設置促進に努めた。

#### (3) 社会教育関係職員の研修

ア 市町村の社会教育主事や公民館職員、図書館職員、社会教育指導員などの社会教育関係職員を対象とした研修機会の充実を図り、その資質向上に努めた。

イ 国立教育政策研究所等で実施する専門的な研修講座への計画的な派遣に努めた。

#### (4) 各種社会教育関係団体等との連携

地域の教育力向上を図る観点から、各種社会教育関係団体等の果たす役割や学校・家庭・地域住民の連携を促進するための活動が重要であるため、各種社会教育関係団体等との連携に努めた。

### 2 社会教育施設の整備充実

#### (1) 県立社会教育施設の整備充実

ア 県立図書館の整備充実

県民への図書館サービスの向上を図るため、図書館資料や設備・備品等の整備充実を図るとともに、「県立図書館情報ネットワークシステム」を活用して公立図書館や公民館図書室、学校図書館等との連携の強化に努めた。

イ 福島県自然の家の整備充実

自然の中での集団宿泊体験を通して青少年の健全育成を図る場や機会を拡充するため、自然の家の整備充実に努めた。

#### (2) 市町村立社会教育施設の整備促進

ア 公民館の整備促進

地域住民のための学習の拠点となる社会教育施設として、多様化した学習ニーズに的確に対応し、充実した公民館活動が行われるよう、市町村に対し、長期的な展望に立った施設・設備の在り方について助言した。

### 3 社会教育関係職員の研修

#### (1) 公民館職員研修会

ア 期日 令和5年5月26日(金)、31日(水)

イ 会場 オンライン研修、参集研修(男女共生センター)

ウ 参加対象 市町村公民館職員でおおむね3年未満の者及び社会教育関係者

エ 参加者数 26日74名、31日71名

オ 講師 岡山県岡山市立京山公民館長 内藤 元久

福島大学人間発達文化学類特任教授 天野 和彦

福島県男女共生センター館長 千葉 悦子

白石市市民経済部まちづくり支援係長 佐々木さつき

#### (2) 福島県市町村社会教育担当者研修会

ア 期日 令和5年7月31日(月)～8月1日(火)

イ 会場 オンライン研修、参集研修(コミュタン福島)

ウ 参加対象 市町村教育委員会生涯学習・社会教育担当者、社会教育主事、公民館主事、社会教育委員、社会教育指導員、公民館運営審議会委員、ボランティア実践者、地域コーディネーター等の社会教育に関心のある県民、過去に社会教育主事講習を受講した方等

エ 参加者数 7月31日40名、8月1日24名

オ 講師

NPO法人きらりよしじまネットワーク事務局長 高橋 由和

一般社団法人とちぎ市民協働研究会代表理事 廣瀬 隆人

福島大学人間発達文化学類特任教授 天野 和彦

### 4 社会教育研究集会

#### (1) 主催 福島県市町村社会教育委員連絡協議会

一般社団法人全国社会教育委員連合

#### (2) 期日 令和5年9月28日(木)～29日(金)

#### (3) 開催地 南会津町 御蔵入交流館

#### (4) 内容 令和5年度福島県社会教育研究集会

ア 1日目 9月28日(木)

アトラクション、表彰式、基調講演、県の行政説明を実施した。

イ 2日目 9月29日(金)

分科会(4分科会)を実施した。

### 5 社会教育指導員の設置

#### (1) 設置数

(単位：人)

|          | 県北 | 県中 | 県南 | 会津 | 南会津 | 相双 | いわき | 計   |
|----------|----|----|----|----|-----|----|-----|-----|
| 社会教育指導員数 | 36 | 10 | 11 | 48 | 8   | 11 | 6   | 130 |

#### (2) 福島県市町村社会教育指導員研修会(年2回)

ア 第1回

(ア) 期日 令和5年5月11日(木)

(イ) 会場 郡山市立中央公民館

(ウ) 参加者数 118名

イ 第2回

(ア) 期日 令和5年10月12日(木)

(イ) 会場 喜多方プラザ文化センター

(ウ) 参加者数 110名

### 6 社会教育主事の市町村派遣

※ 平成22年度より派遣していない。

## 7 社会教育研修会

### (1) 内容

社会教育推進上の諸問題についての協議等を通してその方策を明らかにし、市町村における社会教育の振興・充実に資する。

市町村職員及び社会教育委員等を対象として希望市町村の計画に基づき実施する。

### (2) 対象

公民館職員、公民館運営審議会委員、社会教育委員、社会教育関係者

### (3) 期日・会場

| 域内  | 期日     | 実施市町村等 | 参加者 |
|-----|--------|--------|-----|
| 県北  | 7月5日   | 二本松市   | 13名 |
|     | 10月4日  | 本宮市    | 3名  |
| 県中  | 9月21日  | 平田村    | 5名  |
|     | 1月17日  | 石川町    | 5名  |
| 県南  | 9月4日   | 棚倉町    | 15名 |
|     | 10月5日  | 埴町     | 11名 |
|     | 12月15日 | 鮫川村    | 15名 |
| 会津  | 10月13日 | 北塩原村   | 6名  |
|     | 11月7日  | 三島町    | 4名  |
|     | 11月29日 | 会津若松市  | 28名 |
|     | 1月25日  | 喜多方市   | 40名 |
| 南会津 | 10月24日 | 下郷町    | 18名 |
|     | 12月6日  | 南会津町   | 21名 |
| 相双  | 6月6日   | 相馬市    | 12名 |
|     | 10月11日 | 新地町    | 10名 |
|     | 10月25日 | 葛尾村    | 6名  |
| いわき | 5月16日  | いわき市   | 46名 |
|     | 5月17日  | いわき市   | 38名 |
|     | 5月18日  | いわき市   | 37名 |

合計 19か所 参加者 333名

## 8 福島県公民館研究集会

(1) 期日 令和5年10月3日(火)

(2) 参加対象 公民館職員等

(3) 会場 埴町中央公民館

## 9 社会教育職員研修派遣

### (1) 東北大学社会教育主事講習

ア 主催 東北大学教育学部

イ 期日 令和5年6月13日(火)～8月8日(火)

ウ 受講者数 13名

### (2) 国立教育政策研究所主催講習

ア 社会教育主事講習

(ア) 会場 国立教育政策研究所社会教育実践研究センター

(イ) 期日

a A講習 令和5年7月11日(火)～8月18日(金)

b B講習 令和6年1月12日(金)～2月16日(金)

(ウ) 受講者数

a A講習 1名

b B講習 4名

イ 専門講座等

| 講座名       | 期間               | 受講者数 |
|-----------|------------------|------|
| 公民館職員専門講座 | 11月16日(木)～21日(火) | 2    |

## 10 出版資料

| 資料名         | 部門   | 規格 | 頁数 | 広報手段  |
|-------------|------|----|----|-------|
| 社会教育 No.344 | 社会教育 | A4 | 11 | Web掲載 |

## 第3節 地域コミュニティの再生

### 1 地域学校協働本部事業

#### (1) 目的

未来を担う子どもたちを健やかに育むために、学校と地域が相互に連携・協力を進めるとともに、互いの役割を明確に認識し対等な協働関係を築くことにより、社会総がかりでの教育の実現を目指す。

#### (2) 県事業

ア 評価・検証委員会の設置

第1回 令和5年7月27日(木)

第2回 令和5年11月28日(火)

第3回 令和6年3月5日(火)

イ 推進委員会の開催

令和6年1月26日(金)

ウ 地域学校協働研修会の実施 参加者計 198名

【県北】 令和5年11月1日(水) 27名

【県中】 令和5年7月27日(木) 30名

【県南】 令和5年12月20日(水) 31名

【会津】 令和5年8月3日(木) 45名

【南会津】 令和5年5月2日(火) 36名

【相双】 令和5年12月19日(火) 29名

エ 地域学校協働活動事業推進フォーラムの実施

(ア) 期日：令和6年2月15日(木)

(イ) 会場：ビッグパレットふくしま

(ウ) 参加者数：125名

(エ) 内容

・実践発表：地域学校協働活動の取組

榎葉町地域学校協働センター長 猿渡 智衛

・実践発表：家庭教育支援活動の取組

国見町教育委員会生涯学習課主査 鈴木 智衣

・実践発表：特別支援学校における地域連携の取組

福島県立会津支援学校校長 加藤 香洋

・パネルディスカッション

モデレータ

郡山ふれあい科学館 特定事業専門員 吉川 和夫

パネリスト

榎葉町地域学校協働センター長 猿渡 智衛

国見町教育委員会生涯学習課主査 鈴木 智衣

福島県立会津支援学校長 加藤 香洋  
 アドバイザー  
 文部科学省総合教育政策局CSマイスター  
 ふくしま学校と地域の未来研究所代表 安齋 宏之

**(3) 市町村等事業**

41の市町村（川俣町、国見町、二本松市、本宮市、大玉村、須賀川市、鏡石町、天栄村、石川町、田村市、三春町、小野町、白河市、西郷村、矢吹町、棚倉町、塙町、矢祭町、鮫川村、会津若松市、猪苗代町、喜多方市、西会津町、会津坂下町、湯川村、柳津町、会津美里町、三島町、金山町、南会津町、下郷町、只見町、相馬市、南相馬市、浪江町、葛尾村、双葉町、富岡町、川内村、楡葉町、広野町）と1NPOに59の地域学校協働本部が設置され実施した。

**2 東日本大震災福島県復興ライブラリー整備事業**

**(1) 目的**

災害記録の保存と県民への情報提供のため、関連資料の収集を行う。資料は館内での提供と貸出に加え、出張展示にも活用する。また、避難自治体の教育委員会と連携し学校等への移動図書館（あづま号）の巡回を実施し、資料の貸出による支援を行う。

**(2) 内容**

- ア 震災及び原発事故関連資料収集  
資料収集件数 15,552 件（累計）
- イ 被災地図書館支援事業  
移動図書館（あづま号）による資料貸出  
稼働 20 回 貸出 3,983 冊  
（実施場所 楡葉町、富岡町ほか 計 32 か所）

**第4節 家庭教育**

**地域でつながる家庭教育応援事業**

**1 目的**

本県の家庭教育推進上の大きな課題である「親の学び」を支援するために、PTA、企業と連携し、親自身が学ぶ機会の充実を図る。また、各地域で活躍する家庭教育支援者の養成・育成をする研修会を実施するとともに、子育てに不安や悩みを抱える家庭に対し個別かつ継続的に支援を行う「家庭教育支援チーム」の登録・研修を行い、地域や関係機関と連携した家庭教育の支援体制の構築を図る。

**2 家庭教育応援プロジェクト**

- ア 福島県地域家庭教育推進協議会  
第1回 令和5年5月30日(火)  
第2回 令和6年2月19日(月)
- イ 地域家庭教育推進各地区ブロック会議  
各教育事務所域内（7地区）
- ウ 家庭教育応援企業推進活動  
連携企業数  
※（ ）内は令和6年3月31日現在の連携企業数の計

|       |    |          |
|-------|----|----------|
| 県北地区  | 4社 | (192社)   |
| 県中地区  | 2社 | (249社)   |
| 県南地区  | 0社 | (73社)    |
| 会津地区  | 1社 | (156社)   |
| 南会津地区 | 0社 | (66社)    |
| 相双地区  | 0社 | (10社)    |
| いわき地区 | 0社 | (317社)   |
| 計     | 7社 | (1,063社) |

エ 親子の学び応援講座

**【県北地区】**

- ・川俣町PTA連絡協議会 97名  
令和5年11月21日(火)
- ・福島市小中学校PTA連合会 81名  
令和5年12月9日(土)

**【県中地区】**

- ・須賀川市立白方小学校PTA 75名  
令和5年6月30日(金)
- ・玉川村立玉川第一小学校・須釜小学校PTA 367名  
令和5年10月28日(土)

**【県南地区】**

- ・中島村立吉子川小学校PTA 209名  
令和5年9月2日(土)
- ・矢吹町立三神小学校PTA 46名  
令和5年9月8日(金)

**【会津地区】**

- ・会津美里町連合PTA 40名  
令和5年12月19日(火)

**【南会津地区】**

- ・楡枝岐村立楡枝岐小・中学校PTA 38名  
令和5年6月26日(月)
- ・下郷町立下郷中学校PTA 160名  
令和5年7月12日(水)

**【相双地区】**

- ・楡葉町立楡葉小学校PTA 28名  
令和6年1月26日(金)

**【いわき地区】**

- ・いわき市立江名中学校PTA 156名  
令和5年7月4日(火)
- ・いわき市立勿来第二小学校PTA 80名  
令和5年11月2日(木)

**3 家庭教育応援リーダー育成事業**

- ア 家庭教育支援チームスキルアップ研修会  
第1回 令和5年12月18日(月) 33名  
第2回 令和6年3月6日(水) 35名
  - イ 家庭教育支援者地区別研修 7地区 242名
- 【県北地区】**  
令和5年8月1日(火)自由民主福島会館中町ビル 17名
- 【県中地区】**  
令和5年12月2日(土)郡山市労働福祉会館 42名

#### 【県南地区】

令和5年11月14日(火)白河市表郷公民館 24名

#### 【会津地区】

令和5年7月27日(木)会津若松市北会津公民館 43名

#### 【南会津地区】

令和5年8月5日(土)南会津町御蔵入交流館 38名

#### 【相双地区】

令和6年1月25日(木)小高生涯学習センター 26名

#### 【いわき地区】

令和5年10月20日(金)いわき市文化センター 52名

## 第5節 青少年教育

### 1 福島県地域学校協働本部

#### (1) 目的

青少年及びその保護者の教育活動等を支援するボランティア制度を整備し、学校・家庭・地域における体験活動やボランティア活動の充実を図るとともに、学校と地域が連携したすべての教育活動を一層効果的・効率的に展開することにより、青少年の社会性や思いやりの心など豊かな人間性を育むことを目的とする。

#### (2) 内容

##### ア 県本部の設置

###### (ア) 構成

- ・本部長（政策監）
- ・副本部長（教育総務課長）
- ・事務局長（社会教育課長）
- ・コーディネーター（社会教育主事兼指導主事）

###### (イ) 内容

- ・「学習支援等ボランティア人材バンク」の管理と学習支援等ボランティア等(以下「ボランティア」という。)の登録促進に関する事
- ・ボランティアの活動を推進する研修に関する事
- ・実践事例などの情報収集や情報提供、実施状況調査に関する事
- ・地域本部との連絡調整、相談やコーディネートに関する事

##### イ 地域本部の設置

###### (ア) 構成

- ・本部長（教育事務所長）
- ・副本部長（次長兼総務社会教育課長）
- ・コーディネーター（社会教育主事、指導主事）

###### (イ) 内容

- ・公民館及び学校の訪問指導に関する事
- ・ボランティア人材の発掘と「学習支援等ボランティア人材バンク」の活用に関する事
- ・ボランティアの活動を推進する研修に関する事
- ・市町村本部との連絡調整、相談やコーディネートに関する事
- ・各学校（地域学校協働推進委員会等）との連絡調整

に関する事

- ・地方振興局（復興支援・地域連携室を含む）との連絡調整に関する事

##### ウ 市町村本部の設置

###### (ア) 構成

- ・各市町村内においては、自主的に地域学校協働本部・市町村本部を設置する。
- ・各市町村本部の人数は各本部の計画による。

###### (イ) 内容

- ・ボランティア活動を推進するための、情報提供・相談及びコーディネートに関する事
- ・各種ボランティアの登録や活用の推進及び活用状況の把握に関する事
- ・域内各学校との連携に関する事

##### エ 「地域学校協働推進委員会」の設置

###### (ア) 構成

- ・各学校内に地域学校協働推進委員会を設置する。
- ・地域学校協働推進委員会の組織は各学校の計画による。

###### (イ) 内容

- ・学校と地域が連携した取組の調整に関する事
- ・学校と地域が連携した取組の連絡や情報収集に関する事
- ・学校と地域が連携した取組の充実に関する事
- ・福島県地域学校協働本部事業における地域学校協働推進委員会に関する事

##### オ 「学習支援ボランティア人材バンク」の管理

学校や地域における青少年の学習活動や体験活動、児童生徒が行うボランティア活動を支援する団体及び人材の登録を行う。

## 2 ふくしまを十七字で奏でよう絆ふれあい支援事業

#### (1) 目的

日常生活や自然・社会体験活動などの共通体験を通して感じた思いや願い、震災を乗り越えてきた体験や、ふくしまへの想いなどについて、子どもと大人あるいは子ども同士のペアで、十七音で綴った作品を県内外から募集し、広く発信することで、子どもの豊かな心を育成するとともに、人と人との絆を深め、家庭や地域の教育力の向上を目指す。

#### (2) 内容

ア 応募期間 令和5年6月13日(火)～9月7日(水)

イ 応募総数 41,678組

ウ 第一次審査 令和5年9月19日(火)～29日(金)

エ 第二次審査 令和5年10月23日(月)あづま荘

オ 最終審査 令和5年11月8日(水)福島県庁舟場分室

カ 表彰式 令和5年12月9日(土)

キ 入賞数 キョウワグループ・テルサホール(福島テルサ)

絆部門・ふるさと部門  
最優秀賞各5組、優秀賞各5組、  
佳作各10組

ク 語り部から聞く震災「ふるさとの今と未来」 希望する学校に講師（語り部）を派遣し実施 9校 936名

(ア) 令和5年6月30日(金)

伊達市立大田小学校 参加人数 30名

講師 子どもに音楽を贈る会 佐藤 日向

(イ) 令和5年7月3日(月)

三春町立岩江小学校 参加人数 52名

講師 NPO法人富岡町3.11を語る会 渡辺 好

(ウ) 令和5年7月6日(木)

南相馬市立鹿島小学校 参加人数 64名

講師 いわき語り部の会 石塚 洋悦

(エ) 令和5年7月7日(金)

郡山市立明健中学校 参加人数 275名

講師 NPO法人富岡町3.11を語る会 渡辺 好

(オ) 令和5年7月11日(火)

塙町立塙小学校 参加人数 55名

講師 NPO法人富岡町3.11を語る会 渡辺 好

(カ) 令和5年7月11日(火)

白河市立白河第二中学校 参加人数 171名

講師 NPO法人富岡町3.11を語る会 渡辺 好

(キ) 令和5年7月11日(火)

会津美里町立高田小学校 参加人数 162名

講師 會空 庄子ヤウ子

(ク) 令和5年7月13日(木)

南会津町立館岩中学校 参加人数 25名

講師 NPO法人富岡町3.11を語る会 渡辺 好

(ケ) 令和5年7月14日(金)

浅川町立浅川小学校 参加人数 102名

講師 NPO法人富岡町3.11を語る会 渡辺 好

### (3) 広報・普及活動

ア 募集・応募

県内各保育所、認定こども園、幼稚園、小・中学校、高等学校、義務教育学校、特別支援学校、社会教育施設、教育事務所等にチラシ・応募用紙を配布した。また、社会教育課のホームページ、社会教育課 Twitter に掲載した。

イ 事後の広報

優秀作品を社会教育課のホームページに掲載したほか、作品集の作成、全応募者、後援団体等への作品集配布や社会教育課 note、YouTube、Twitter、Instagram、県庁パネル展示等により紹介した。各教育事務所においては、域内の作品集を作成し、事業の普及に努めた。

## 第6節 成人教育

主に各関係団体の諸活動や研修会における指導助言や人的補助を行う。

## 第7節 子どもの読書活動推進

### ふくしまの未来をひらく読書の力 プロジェクト

#### 1 福島県子ども読書活動推進会議

【第1回】令和5年6月23日(金)

ふくしま中町会館 6階 特別会議室

【第2回】令和6年2月7日(水)

ふくしま中町会館 6階 特別会議室

ア 目的

第四次「福島県子ども読書活動推進計画」に沿って、読書活動推進に向けた取組等について協議・評価を行う。

イ 子ども読書推進会議委員

| 氏名    | 職業等                | 区分                 |
|-------|--------------------|--------------------|
| 高野 保夫 | 国立大学法人福島大学名誉教授     | 学識経験者              |
| 鈴木 進一 | 福島県高等学校PTA連合会副会長   | 社会教育関係者            |
| 橋本ゆかり | 福島県学校図書館協議会長       | 学校図書館関係者           |
| 佐藤 真紀 | 南相馬市立中央図書館資料サービス係長 | 公立図書館等関係者          |
| 遠藤貴美子 | 家庭教育インストラクター       | 家庭教育関係者            |
| 齋藤 睦  | つきだておはなし会          | 読書活動に係るボランティア団体関係者 |
| 桑原 真希 | 平田村立ひらたこども園保育教諭    | 保育所・幼稚園等の関係者       |

#### 2 読書活動支援者育成事業

【県北地区】 令和5年7月1日(土)

福島県自治会館 受講者30名

【県中地区】 令和5年6月20日(火)

郡山市労働福祉会館 受講者53名

【県南地区】 令和5年10月17日(火)

新自信ビル(白河市) 受講者43名

【会津地区】 令和5年7月4日(火)

会津若松市文化センター 受講者61名

【南会津地区】 令和5年8月22日(火)

御蔵入交流館(南会津町) 受講者33名

【相双地区】 令和5年7月28日(金)

環境放射線センター(南相馬市) 受講者45名

【いわき地区】 令和5年6月13日(火)

いわき市文化センター 受講者42名

#### 3 読書活動推進委託事業

○「発達段階に応じた読書活動研修会」

期日 令和5年10月14日(土)

場所 ユーパル矢祭 受講者167名

内容 発達段階に応じた読書研修会

ポスターセッション

平田村立ひらたこども園主任保育教諭 桑原 真希

郡山市立富田東小学校学校司書 遠藤広美

福島県立会津西陵高等学校主任学校司書 阿部 多喜子

矢祭町もったいない図書館館長 緑川 宏子  
統括 福島大学名誉教授 高野 保夫  
体験・演習

- ・ユールパル矢祭 もったいない文庫、本の交換スタンド、ワークショップ開催の展示
- ・もったいない図書館 図書館・キャラバンカー見学、手作り絵本コンクール展示
- ・矢祭小学校 図書館（メディアセンター）見学、子ども司書、としよ部の紹介

講演 「乳幼児期から高校期までの切れ目の無い読書活動のために」

学習院大学文学部教育学科教授 秋田 喜代美

#### ○「学校司書・図書館司書等を対象としたオンライン研修会」

期日 令和6年1月23日(火) 参加人数 131名

※ オンデマンド総視聴回数 404回

講義 「子どもの視点について」

埼玉県立飯能高等学校主任司書 湯川 康宏

「デジタル社会への対応について」

長野県高森町子ども読書支援センター司書 宮澤 優子

「多様な子どもたちについて」

星槎大学特任教授 藤堂 栄子

「学校と公立図書館との連携について」

新潟市学校図書館支援センター主任 渡邊 実和

## 4 情報発信プロジェクト「ビブリオバトル福島県大会」

ア 地区予選会(高校生のみ) 発表者 42名 観戦者 272名

【会津地区】 令和5年9月2日(土)

御蔵入交流館(南会津町) 発表者 8名 観戦者 83名

【中通り地区】 令和5年9月3日(日)

パルセいいざか(福島市) 発表者 17名 観戦者 80名

【浜通り地区】 令和5年9月30日(土)

いわき市文化センター(いわき市) 発表者 17名 観戦者 109名

イ 県大会

期日 令和5年11月25日(土)

場所 とうほう・みんなの文化センター

参加者 発表者 20名(中学生 15名、高校生 5名)

観戦者 202名

#### 【中学生の部】

チャンプ本 「アリス殺し」

南会津町立田島中学校 細井 みず保

準チャンプ本 「成瀬は天下を取りに行く」

二本松市立二本松第二中学校 佐藤 梨乃

優秀賞 「夢をかなえるゾウ0」

白河市立表郷中学校 辻村 幸太郎

優秀賞 「成瀬は天下を取りに行く」

下郷町立下郷中学校 佐々木 優空

#### 【高校生の部】

チャンプ本 「パールの正しい使い方」

福島県立四倉高等学校 松本 望愛

準チャンプ本 「熱帯」

福島県立磐城高等学校 渡邊 奏太

優秀賞 「岸辺露伴は倒れない」

福島県立若松商業高等学校 馬場 侑大

優秀賞 「人魚の眠る家」

福島県立あさか開成高等学校 横田 塔吾

優秀賞 「三日間の幸福」

福島県立白河旭高等学校 鈴木 珂琳

#### 【講演】

「ビブリオバトルを通して『育つ』とは」

立命館大学情報理工学部教授 谷口 忠大

## 第8節 ユネスコ活動

### 1 ユネスコ協会事務局一覧

| 協会名          | 会長名    | 事務局                             | 事務局長  | 設立年月日       |
|--------------|--------|---------------------------------|-------|-------------|
| 須賀川地方ユネスコ協会  | 八木沼智恵子 | 須賀川市教委生涯学習スポーツ課内<br>須賀川市八幡町135  | 須藤 友子 | S46. 9. 13  |
| いわきユネスコ協会    | 横山 貞夫  | いわき市教委生涯学習課内<br>いわき市堂根町4-8      | 沢 宏一  | S51. 10. 23 |
| 郡山ユネスコ協会     | 倉又 晴男  | 学校法人尚志学園本部内<br>郡山市大槻町字坦ノ腰2      | 橋本 裕  | S53. 1. 24  |
| 白河ユネスコ協会     | 小野 利廣  | 白河市教委生涯学習スポーツ課内<br>白河市八幡小路7-1   | 大熊 頌太 | S53. 11. 19 |
| 福島ユネスコ協会     | 佐藤 一好  | 福島市中央学習センター内<br>福島市松木町1-7       | 宗川 孝  | S55. 7. 19  |
| 会津ユネスコ協会     | 星 憲隆   | 会津若松市教委生涯学習センター内<br>会津若松市栄町3-50 | 石田 明夫 | S55. 11. 16 |
| 郡山次世代ユネスコ協会  | 鈴木 淳弥  | 学校法人こおりやま東都学園本部気付<br>郡山市函景2-9-3 | 田中 良季 | H28. 1. 16  |
| 福島県ユネスコ連絡協議会 | 小野 利廣  | 福島市方木田字辻51-12<br>矢吹 稔宅          | 矢吹 稔  | S56. 12. 5  |

### 2 福島県ユネスコ活動研修会

令和5年11月21日(火) 福島市 福島市北信学習センター 参加者 34名

## 第9節 チャレンジ！子どもがふみだす体験活動応援事業

### 1 ふくしまキッズパワーアップ事業

#### (1) 内容

対象者 福島県内の小中学校及び特別支援学校小学部・中学部、福島県内の小中学生が所属する社会教育団体

対象期間 令和5年4月1日(土)～令和6年2月29日(木)

実施内容 ア 小中学生を対象とした宿泊を伴う自然体験活動及び震災を学ぶ活動等多様な体験活動への補助

イ 社会教育団体が行う小中学生を対象とした長期宿泊型(3泊4日以上)の自然体験活動及び震災を学ぶ活動等多様な体験活動への補助

補助について ①活動費、②交通費、③宿泊費について、補助対象経費の80%以内か100万円の低い方

#### (2) 実績

ア 小・中学校自然体験活動支援事業

件数：167件 参加者：8,729名 (うち 子ども7,887名)

イ 社会教育団体自然体験活動支援事業

件数：0件 参加者：0名 (うち 子ども0名)

### 2 「ふくしまの未来」へつなぐ体験応援事業

#### (1) 内容

事業1 元気を届ける交流・体験事業

事業2 今を知り思いを伝える事業

#### (2) 実績

採択団体 29団体 (事業1 2団体、事業2 27団体)

#### (3) 成果発表会

日時 令和6年1月20日(土) 参加者 162名

場所 郡山市立中央公民館

### 3 心のケアが必要な子どもを対象とした事業

#### (1) 内容

対象者 県内の不登校等で不安を抱えている子ども及び引率者等

対象期間 令和5年5月19日(金)～令和6年2月21日(水)

実施内容 県内3自然の家(郡山・会津・いわき)を会場に、不登校等で不安を抱えている子どもたちを対象に、自然体験活動や交流体験活動等を実施する。

#### (2) 実績 計 18回実施 合計 参加者 264名

##### ○郡山自然の家

| 実施日       | 主な内容            | 参加者数         |
|-----------|-----------------|--------------|
| 5月19日(金)  | 農業体験、自然散策       | 児童生徒、保護者 8名  |
| 10月13日(金) | 農業体験、自然散策       | 児童生徒、保護者 27名 |
| 10月28日(土) | 自然散策、職業体験等      | 児童生徒、保護者 7名  |
| 12月10日(日) | クリスマスリースづくり     | 児童生徒、保護者 7名  |
| 1月28日(日)  | バレンタインチョコレートづくり | 児童生徒、保護者 10名 |

##### ○会津自然の家

| 実施日               | 主な内容              | 参加者数         |
|-------------------|-------------------|--------------|
| 7月8日(土)           | ペットボトルロケット、カヌー    | 児童生徒、保護者 12名 |
| 9月19日(火)          | 野外クッキング体験、カヌー     | 児童生徒、保護者 15名 |
| 9月30日(土)～10月1日(日) | ツリーイング体験          | 児童生徒、保護者 12名 |
| 11月5日(日)          | そば打ち体験、自然散策       | 児童生徒、保護者 10名 |
| 11月18日(土)         | ミニパフェづくり体験、工作体験   | 児童生徒、保護者 16名 |
| 12月10日(日)         | ケーキづくり体験、焼き芋体験    | 児童生徒、保護者 17名 |
| 1月28日(日)          | 見学学習、自然観察         | 児童生徒、保護者 14名 |
| 2月21日(水)          | 自然散策、フォトフレームづくり体験 | 児童生徒、保護者 21名 |

##### ○いわき海浜自然の家

| 実施日              | 主な内容                    | 参加者数         |
|------------------|-------------------------|--------------|
| 5月26日(金)         | 磯遊び、海釣り、草木染め            | 児童生徒、保護者 20名 |
| 9月17日(日)         | 磯遊び、海釣り、ペンダントづくり体験      | 児童生徒、保護者 6名  |
| 10月25日(水)        | 野外炊飯、クラフト活動             | 児童生徒、保護者 17名 |
| 11月18日(土)・19日(日) | オリエンテーリング、ニュースポーツ、宿泊体験等 | 児童生徒、保護者 31名 |
| 2月2日(金)          | 餅つき体験、ニュースポーツ、豆まき体験     | 児童生徒、保護者 14名 |

## 第10節 公民館等社会教育施設

### 1 公民館を除く主な社会教育施設

※震災により休館中の施設を含む

#### (1) 図書館の設置状況

##### ア 県立

| 名称      | 所在地        | 電話番号         | 設置者 |
|---------|------------|--------------|-----|
| 福島県立図書館 | 福島市森合字西養山1 | 024-535-3218 | 福島県 |

##### イ 市町村立

| 名称           | 所在地              | 電話番号         | 設置者  |
|--------------|------------------|--------------|------|
| 福島市立図書館      | 福島市松木町1-1        | 024-531-6551 | 福島市  |
| 福島市西口ライブラリー  | 福島市三河南町1-20      | 024-525-4023 | 福島市  |
| 福島市子どもライブラリー | 福島市早稲町1-1(こむこむ内) | 024-526-4200 | 福島市  |
| 伊達市立図書館      | 伊達市箱崎字川端7        | 024-551-2132 | 伊達市  |
| 国見町図書館       | 国見町藤田字観月台15      | 024-585-2676 | 国見町  |
| 二本松市立二本松図書館  | 二本松市本町1丁目102番地   | 0243-23-5082 | 二本松市 |
| 二本松市立岩代図書館   | 二本松市小浜字藤町242番地   | 0243-55-3255 | 二本松市 |
| 本宮市立しらさわ夢図書館 | 本宮市白岩字堤崎500      | 0243-44-2112 | 本宮市  |

| 名 称            | 所 在 地                     | 電話番号         | 設置者   |
|----------------|---------------------------|--------------|-------|
| 郡山市中央図書館       | 郡山市麓山一丁目 5-25             | 024-923-6601 | 郡山市   |
| 郡山市希望ヶ丘図書館     | 郡山市希望ヶ丘 1-5               | 024-961-1600 | 郡山市   |
| 郡山市安積図書館       | 郡山市安積一丁目 38               | 024-946-8850 | 郡山市   |
| 郡山市富久山図書館      | 郡山市富久山町福原字泉崎 181-1        | 024-921-0030 | 郡山市   |
| 郡山市中央図書館 田村分館  | 郡山市田村町岩作字穂多礼 40-3         | 024-955-3842 | 郡山市   |
| 郡山市中央図書館 喜久田分館 | 郡山市喜久田堀之内字下河原 1           | 024-959-2205 | 郡山市   |
| 郡山市中央図書館 緑ヶ丘分館 | 郡山市緑ヶ丘東三丁目 1-21           | 024-944-0001 | 郡山市   |
| 郡山市中央図書館 日和田分館 | 郡山市日和田町字小堰 23-4           | 024-958-2352 | 郡山市   |
| 郡山市中央図書館 三穂田分館 | 郡山市三穂田町八幡字東屋敷 6           | 024-953-2820 | 郡山市   |
| 郡山市中央図書館 中田分館  | 郡山市中田町下枝字大平 358           | 024-973-2951 | 郡山市   |
| 郡山市中央図書館 西田分館  | 郡山市西田町三丁目桜内 259           | 024-972-2807 | 郡山市   |
| 郡山市中央図書館 大槻分館  | 郡山市大槻町字中前田 56-1           | 024-951-1512 | 郡山市   |
| 郡山市中央図書館 熱海分館  | 郡山市熱海町熱海二丁目 15-1          | 024-984-2679 | 郡山市   |
| 郡山市中央図書館 湖南分館  | 郡山市湖南町福良字家老 9390-4        | 024-983-2543 | 郡山市   |
| 郡山市中央図書館 富田分館  | 郡山市東三丁目 84 番地             | 024-951-0260 | 郡山市   |
| 郡山市中央図書館 逢瀬分館  | 郡山市逢瀬町多田野字南原 3 番地         | 024-957-2417 | 郡山市   |
| 郡山市中央図書館 片平分館  | 郡山市片平町字南 7-2              | 024-957-5730 | 郡山市   |
| 須賀川市中央図書館      | 須賀川市中町 4-1                | 0248-75-3309 | 須賀川市  |
| 須賀川市長沼図書館      | 須賀川市長沼字金町 85              | 0248-67-2138 | 須賀川市  |
| 須賀川市岩瀬図書館      | 須賀川市柱田字中地前 22             | 0248-65-3549 | 須賀川市  |
| 鏡石町図書館         | 鏡石町旭町 440-6               | 0248-62-1288 | 鏡石町   |
| 石川町立図書館        | 石川町字関根 165                | 0247-26-9136 | 石川町   |
| 浅川町立あさかわ図書館    | 浅川町大字箕輪字山敷田 75            | 0247-36-2900 | 浅川町   |
| 古殿町図書館         | 古殿町大字松川字横川 235            | 0247-53-2305 | 古殿町   |
| 三春町民図書館        | 三春町字大町 12-1               | 0247-62-3375 | 三春町   |
| 小野町ふるさと文化の館    | 小野町大字小野新町字中通 2            | 0247-72-2120 | 小野町   |
| 田村市図書館         | 田村市船引町船引字扇田 19            | 0247-82-1001 | 田村市   |
| 田村市図書館滝根分館     | 田村市滝根町神俣字町 48-1           | 0247-78-2001 | 田村市   |
| 田村市図書館大越分館     | 田村市大越町上大越字水神宮 62-1 大越行政局内 | 0247-79-2161 | 田村市   |
| 田村市図書館常葉分館     | 田村市常葉町常葉字町裏 1             | 0247-77-2013 | 田村市   |
| 田村市図書館都路分館     | 田村市都路町古道字本町 33-4          | 0247-75-2063 | 田村市   |
| 白河市立図書館        | 白河市道場小路 96-5              | 0248-23-3250 | 白河市   |
| 白河市立表郷図書館      | 白河市表郷金山字長者久保 2            | 0248-32-4784 | 白河市   |
| 白河市立東図書館       | 白河市東釜子字狐内 47              | 0248-34-1130 | 白河市   |
| 白河市立大信図書館      | 白河市大信町屋字沢田 25             | 0248-46-3614 | 白河市   |
| 矢吹町図書館         | 矢吹町本町 165                 | 0248-44-3595 | 矢吹町   |
| 泉崎図書館          | 泉崎村大字泉崎字館 24-9            | 0248-53-4779 | 泉崎村   |
| 棚倉町立図書館        | 棚倉町大字棚倉字新町 21-1           | 0247-33-4342 | 棚倉町   |
| 塙町立図書館         | 塙町大字塙字栄町 68-6             | 0247-43-0808 | 塙町    |
| 矢祭もったいない図書館    | 矢祭町大字東館字石田 25             | 0247-46-4646 | 矢祭町   |
| 鮫川村図書館         | 鮫川村大字赤坂中野字新宿 64-1         | 0247-29-1150 | 鮫川村   |
| 会津若松市立会津図書館    | 会津若松市栄町 3-50              | 0242-22-4711 | 会津若松市 |
| 猪苗代町図書館歴史情報館   | 猪苗代町字古城町 132-7            | 0242-23-7855 | 猪苗代町  |
| 喜多方市立図書館       | 喜多方市字柳原 7503-1            | 0241-22-1855 | 喜多方市  |
| 会津美里町図書館       | 会津美里町字新布才地 1              | 0242-54-2911 | 会津美里町 |
| 南会津町図書館        | 南会津町田島字宮本東 22             | 0241-62-5522 | 南会津町  |
| 相馬市図書館         | 相馬市中村字塚ノ町 65-16           | 0244-37-2630 | 相馬市   |
| 新地町図書館         | 新地町谷地小屋字樋掛田 40-1          | 0244-62-5031 | 新地町   |
| 南相馬市立中央図書館     | 南相馬市原町区朝日町二丁目 7-1         | 0244-23-7789 | 南相馬市  |

| 名 称           | 所 在 地             | 電話番号         | 設置者  |
|---------------|-------------------|--------------|------|
| 南相馬市立鹿島図書館    | 南相馬市鹿島区寺内字迎田 22-1 | 0244-46-5116 | 南相馬市 |
| 南相馬市立小高図書館    | 南相馬市小高区本町二丁目 89-1 | 0244-44-3049 | 南相馬市 |
| 浪江町図書館        | 浪江町権現堂字矢沢町 40-1   | 0240-23-5613 | 浪江町  |
| 大熊町図書館 (休館中)  | 大熊町大川原南平 1717     | 0240-23-7532 | 大熊町  |
| 富岡町図書館        | 富岡町大字本岡字王塚 622-1  | 0240-21-3665 | 富岡町  |
| いわき市立いわき総合図書館 | いわき市平字田町 120      | 0246-22-5552 | いわき市 |
| いわき市立内郷図書館    | いわき市内郷綴町榎下 40-1   | 0246-45-1030 | いわき市 |
| いわき市立小名浜図書館   | いわき市小名浜愛宕上 7-2    | 0246-54-9257 | いわき市 |
| いわき市立常磐図書館    | いわき市常磐関船町作田 1-1   | 0246-44-6218 | いわき市 |
| いわき市立勿来図書館    | いわき市植田町南町一丁目 2-2  | 0246-62-7431 | いわき市 |
| いわき市立四倉図書館    | いわき市四倉町字東一丁目 50   | 0246-32-5980 | いわき市 |

ウ 法人

| 名 称        | 所 在 地            | 電話番号         | 設置者         |
|------------|------------------|--------------|-------------|
| クローバー子供図書館 | 郡山市開成 6 丁目 346-1 | 024-932-2118 | 公益財団法人金森和心会 |

(2) 博物館の設置状況

ア 登録博物館

| 名 称           | 所 在 地                | 電話番号         | 設置者         | 種別    | 登録年月日       |
|---------------|----------------------|--------------|-------------|-------|-------------|
| 福島県立美術館       | 福島市森合字西養山 1          | 024-531-5511 | 福島県         | 美術博物館 | S59. 7. 16  |
| 福島県立博物館       | 会津若松市城東町 1-25        | 0242-28-6000 | 福島県         | 総合博物館 | S61. 11. 28 |
| 須賀川市立博物館      | 須賀川市池上町 6            | 0248-75-3239 | 須賀川市        | 歴史博物館 | S46. 7. 10  |
| いわき市立美術館      | いわき市平字堂根町 4-4        | 0246-25-1111 | いわき市        | 美術博物館 | S59. 9. 3   |
| 郡山市立美術館       | 郡山市安原町字大谷地 130-2     | 024-956-2200 | 郡山市         | 美術博物館 | H5. 1. 20   |
| 南相馬市博物館       | 南相馬市原町区牛来字出口 194     | 0244-23-6421 | 南相馬市        | 総合博物館 | H8. 5. 9    |
| 野口英世記念館       | 猪苗代町大字三ツ和字前田 81      | 0242-85-7867 | (公財)野口英世記念会 | 歴史博物館 | S29. 10. 21 |
| 会津民俗館         | 猪苗代町大字三ツ和字前田 33-1    | 0242-65-2600 | 会津民俗館       | 歴史博物館 | S55. 10. 3  |
| 白虎隊記念館        | 会津若松市一箕町大字八幡字弁天下 33  | 0242-24-9170 | (一財)白虎隊記念館  | 歴史博物館 | S63. 6. 30  |
| 奥会津博物館        | 南会津町糸沢字西沢山 3692-20   | 0241-66-3077 | 南会津町        | 歴史博物館 | H16. 6. 1   |
| 諸橋近代美術館       | 北塩原村大字桧原字剣ヶ峰 1093-23 | 0241-37-1088 | (公財)諸橋近代美術館 | 美術博物館 | H11. 8. 17  |
| 藤田記念博物館       | 白河市二番町 46-1          | 0248-24-1780 | (公財)藤田教育振興会 | 美術博物館 | S54. 9. 1   |
| 郡山開成学園生活文化博物館 | 郡山市開成 3 丁目 25 番 2 号  | 024-932-4848 | 学校法人郡山開成学園  | 歴史博物館 | R5. 10. 4   |

イ 博物館相当施設

| 名 称           | 所 在 地                 | 電話番号         | 設置者          | 種別    | 指定年月日       |
|---------------|-----------------------|--------------|--------------|-------|-------------|
| 安積歴史博物館       | 郡山市開成 5-25-63         | 024-938-0778 | (公財)安積歴史博物館  | 歴史博物館 | S61. 3. 17  |
| 須賀川市立博物館      | 須賀川市長沼字門口 186         | 0248-57-2030 | 須賀川市         | 歴史博物館 | H7. 11. 2   |
| 会津武家屋敷会津歴史資料館 | 会津若松市東山町大字石山字院内 1     | 0242-28-2525 | (株)会津武家屋敷    | 歴史博物館 | S56. 11. 25 |
| 龍が城美術館 (休館中)  | いわき市平字旧城跡 27-1        | 0246-22-1601 | (一財)白龍会      | 美術博物館 | S30. 2. 10  |
| やないづ町立齋藤清美術館  | 柳津町柳津字下平乙 187         | 0241-42-3630 | 柳津町          | 美術博物館 | H11. 9. 28  |
| 磐梯山噴火記念館      | 北塩原村桧原字剣ヶ峰 1093-36    | 0241-32-2888 | (株)ゴールドハウス目黒 | 科学博物館 | H5. 7. 1    |
| 會津藩校日新館       | 会津若松市河東町南高野字高塚山 10 番地 | 0242-75-2525 | (株)会津武家屋敷    | 歴史博物館 | H12. 11. 28 |
| はじまりの美術館      | 猪苗代町新町 4873           | 0242-62-3454 | (福)安積愛育園     | 美術博物館 | H28. 12. 6  |

ウ 類似施設

| 名 称           | 所 在 地          | 電話番号         | 設置者 |
|---------------|----------------|--------------|-----|
| ふくしま海洋科学館     | いわき市小名浜字辰巳町 50 | 0246-73-2525 | 福島県 |
| 福島県文化財センター白河館 | 白河市白坂一里段 86    | 0248-21-0700 | 福島県 |
| 福島県歴史資料館      | 福島市春日町 5-54    | 024-534-9195 | 福島県 |
| 福島市郷土資料室      | 福島市松山町 39-1    | 024-563-7858 | 福島市 |

| 名 称                  | 所 在 地                    | 電話番号         | 設置者   |
|----------------------|--------------------------|--------------|-------|
| 福島市民家園               | 福島市上名倉字大石前地内             | 024-593-5249 | 福島市   |
| 福島市古閑裕而記念館           | 福島市入江町1-1                | 024-531-3012 | 福島市   |
| 福島市写真美術館             | 福島市森合町11-36              | 024-523-1201 | 福島市   |
| 宮畑遺跡史跡公園体験学習施設       | 福島市岡島字宮田78               | 024-573-0015 | 福島市   |
| 羽山の森美術館              | 川俣町大字西福沢字山柁内20           | 024-566-3367 | 川俣町   |
| 伊達市梁川美術館             | 伊達市梁川町字中町10              | 024-527-2656 | 伊達市   |
| 伊達市保原歴史文化資料館         | 伊達市保原町大泉字宮脇265           | 024-575-1615 | 伊達市   |
| 霊山こどもの村 遊びと学びのミュージアム | 伊達市霊山町石田字宝司沢9-1          | 024-589-2211 | 伊達市   |
| 二本松市歴史資料館            | 二本松市本町1-102              | 0243-23-3910 | 二本松市  |
| 二本松市智恵子記念館           | 二本松市油井字漆原町36             | 0243-22-6151 | 二本松市  |
| 二本松市大山忠作美術館          | 二本松市本町2-3-1              | 0243-24-1217 | 二本松市  |
| あだたらふるさとホール          | 大玉村玉井字西庵183              | 0243-48-2569 | 大玉村   |
| 本宮市立歴史民俗資料館          | 本宮市字南町裡130               | 0243-33-2546 | 本宮市   |
| 本宮市白沢ふれあい文化ホール       | 本宮市白岩字堤崎494-44           | 0243-44-3185 | 本宮市   |
| 郡山市開成館               | 郡山市開成3-3-7               | 024-923-2157 | 郡山市   |
| 郡山市歴史資料館             | 郡山市麓山1-8-3               | 024-932-5306 | 郡山市   |
| 郡山市こおりやま文学の森資料館      | 郡山市豊田町3-5                | 024-991-7610 | 郡山市   |
| 郡山市ふれあい科学館           | 郡山市駅前2-11-1 ビッグアイ20F~24F | 024-936-0201 | 郡山市   |
| 大安場史跡公園              | 郡山市田村町大善寺大安場160          | 024-965-1088 | 郡山市   |
| ふくしまの森の科学体験センター      | 須賀川市虹の台100               | 0248-89-1120 | 須賀川市  |
| 鏡石町歴史民俗資料館           | 鏡石町成田343                 | 0248-62-4323 | 鏡石町   |
| 天栄村ふるさと文化伝承館         | 天栄村大字大里字八石1-2            | 0248-81-1030 | 天栄村   |
| 石川町立歴史民俗資料館          | 石川町字高田200-2              | 0247-26-3768 | 石川町   |
| 吉田富三記念館              | 浅川町大字袖山字森下287            | 0247-36-4129 | 財団法人  |
| 浅川町歴史民俗資料館           | 浅川町大字浅川字背戸谷地144-6        | 0247-36-2134 | 浅川町   |
| 三春町歴史民俗資料館           | 三春町字桜谷5                  | 0247-62-5263 | 三春町   |
| 三春郷土人形館              | 三春町字大町30                 | 0247-62-7053 | 三春町   |
| 小野町ふるさと文化の館・郷土資料館    | 小野町大字小野新町字中通2            | 0247-72-2120 | 小野町   |
| 田村市歴史民俗資料館           | 田村市船引町船引字四城内前196番地       | 0247-81-1215 | 田村市   |
| 白河市歴史民俗資料館           | 白河市中田7-1                 | 0248-27-2310 | 白河市   |
| 小峰城歴史館(旧 白河集古苑)      | 白河市郭内1-73                | 0248-24-5050 | 白河市   |
| 中山義秀記念文学館(義秀展示館)     | 白河市大信町屋字沢田25             | 0248-46-3614 | 白河市   |
| 白河市大信ふるさと文化伝承館       | 白河市大信町屋字沢田25             | 0248-46-3614 | 白河市   |
| 西郷村歴史民俗資料館           | 西郷村大字小田倉字上野原463          | 0248-25-0959 | 西郷村   |
| 矢吹町ふるさとの森芸術村         | 矢吹町大池243-2               | 0248-42-4506 | 矢吹町   |
| 泉崎資料館                | 泉崎村大字泉崎字館24-9            | 0248-53-4777 | 泉崎村   |
| 塙町立あぶくま高原美術館         | 塙町大字那倉字吉元86-2            | 0247-42-2510 | 塙町    |
| 矢祭町歴史民俗資料館           | 矢祭町大字東館字石田25             | 0247-46-4646 | 矢祭町   |
| 鮫川村歴史民俗資料館           | 鮫川村大字赤坂中野字巡ヶ作128-4       | 0247-49-3106 | 鮫川村   |
| 国指定名勝会津松平氏庭園         | 会津若松市花春町8-1              | 0242-27-2472 | 会津若松市 |
| 若松城天守閣郷土博物館          | 会津若松市追手町1-1              | 0242-27-4005 | 会津若松市 |
| 会津町方伝承館              | 会津若松市大町2-8-8             | 0242-22-8686 | 会津若松市 |
| 茶室麟閣                 | 会津若松市追手町1-1              | 0242-27-4005 | 会津若松市 |
| 会津若松市歴史資料センター        | 会津若松市城東町2-3              | 0242-27-2705 | 会津若松市 |
| アクアマリンいなわしろカワセミ水族館   | 猪苗代町大字長田字東中丸3447-4       | 0242-72-1135 | 猪苗代町  |
| 喜多方市美術館              | 喜多方市字押切2-2               | 0241-23-0404 | 喜多方市  |
| 喜多方市カイギュウランドたかさと     | 喜多方市高郷町西羽賀字和尚堂3163       | 0241-44-2024 | 喜多方市  |
| 会津坂下町五浪美術記念館         | 会津坂下町字台ノ下842             | 0242-84-1233 | 会津坂下町 |
| ほっと in やないづ縄文館       | 柳津町大字柳津字下平乙151-1         | 0241-41-1077 | 柳津町   |

| 名 称               | 所 在 地               | 電話番号         | 設置者    |
|-------------------|---------------------|--------------|--------|
| からむし工芸博物館         | 昭和村大字佐倉字上ノ原 1       | 0241-58-1677 | 昭和村    |
| 旧南会津郡役所           | 南会津町田島字丸山甲 4681     | 0241-62-3848 | 南会津町   |
| 奥会津博物館南郷館         | 南会津町界字川久保 552       | 0241-73-2829 | 南会津町   |
| 奥会津博物館伊南館         | 南会津町青柳字久川 24        | 0241-76-2071 | 南会津町   |
| 奥会津博物館館岩館         | 南会津町松戸原 55          | 0241-78-2110 | 南会津町   |
| 檜枝岐村歴史民俗資料館       | 檜枝岐村字下ノ原 887-1      | 0241-75-2342 | 檜枝岐村   |
| ただみ・モノとくらしのミュージアム | 只見町大倉字窪田 30         | 0241-86-2175 | 只見町    |
| 相馬市歴史資料収蔵館        | 相馬市中村字北町 51-1       | 0244-37-2191 | 相馬市    |
| 埴谷・島尾記念文学資料館      | 南相馬市小高区本町 2丁目 89-1  | 0244-66-1011 | 南相馬市   |
| 葛尾村郷土文化保存伝習館      | 葛尾村落合字落合 16         | 0240-29-2008 | 葛尾村    |
| 双葉町歴史民俗資料館（休館中）   | 双葉町大字新山字本町 27-1     | 0240-33-4763 | 双葉町    |
| 大熊町民俗伝承館（休館中）     | 大熊町大字下野上字大野 669-3   | 0240-32-3011 | 大熊町    |
| とみおかアーカイブ・ミュージアム  | 富岡町大字本岡字王塚 760-1    | 0240-25-8644 | 富岡町    |
| 檜葉町歴史資料館          | 檜葉町大字北田字鐘突堂 5-4     | 0240-25-2492 | 檜葉町    |
| いわき市石炭・化石館        | いわき市常磐湯本町向田 3-1     | 0246-42-3155 | いわき市   |
| いわき市勿来関文学歴史館      | いわき市勿来関町長沢 6-1      | 0246-65-6166 | いわき市   |
| いわき市アンモナイトセンター    | いわき市大久町大久字鶴房 147-2  | 0246-82-4561 | いわき市   |
| いわき市考古資料館         | いわき市常磐藤原町手這 50-1    | 0246-43-0391 | いわき市   |
| いわき市立草野心平記念文学館    | いわき市小川町高萩字下夕道 1-39  | 0246-83-0005 | いわき市   |
| いわき市草野心平生家        | いわき市小川町上小川字植ノ内 6-1  | 0246-83-2901 | いわき市   |
| いわき市暮らしの伝承郷       | いわき市鹿島町下矢田字散野 14-16 | 0246-29-2230 | いわき市   |
| 桑折町種徳美術館（休館中）     | 桑折町字陣屋 12           | 024-582-5507 | 桑折町    |
| 喜多方蔵品美術館          | 喜多方市梅竹 7294-4       | 0241-24-3576 | 私人     |
| 大和川酒造北方風土館        | 喜多方市字寺町 4761        | 0241-22-2233 | 私人     |
| 原郷のこけし群西田記念館      | 福島市荒井字横塚 3-183      | 024-593-0639 | 公益財団法人 |
| デコ屋敷資料館           | 郡山市西田町高柴字福内 41      | 024-971-3900 | 私人     |

### (3) 青少年教育関係施設の設置状況

#### ア 県設置

| 名 称          | 所 在 地                 | 電話番号         | 設置者 |
|--------------|-----------------------|--------------|-----|
| 福島県郡山自然の家    | 郡山市逢瀬町多田野字中丸山 46      | 024-957-2111 | 福島県 |
| 福島県会津自然の家    | 会津坂下町大字八日沢字西東山 4495-1 | 0242-83-2480 | 福島県 |
| 福島県いわき海浜自然の家 | いわき市久之浜町田之網字向山 53     | 0246-32-7700 | 福島県 |

#### イ 教育施設

| 名 称           | 所 在 地           | 電話番号         | 設置者    |
|---------------|-----------------|--------------|--------|
| 国立那須甲子青少年自然の家 | 西郷村大字真船字村火 6-1  | 0248-36-2331 | 独立行政法人 |
| 国立磐梯青少年交流の家   | 猪苗代町字五輪原 7136-1 | 0242-62-2530 | 独立行政法人 |
| 市町村（条例）設置     | ※14 施設（別掲）      |              |        |
| 他県設置等         | ※3 施設（別掲）       |              |        |

#### 《市町村（条例）設置 14 施設》

| 名 称                | 所 在 地            | 電話番号         | 設置者    |
|--------------------|------------------|--------------|--------|
| 福島県青少年会館           | 福島市黒岩字田部屋 53-5   | 024-546-8311 | 公益財団法人 |
| 福島市社会教育会館「立子山自然の家」 | 福島市立子山字金井作 1     | 024-597-2951 | 福島市    |
| 福島市子どもの夢を育む施設こむこむ館 | 福島市早稲町 1-1       | 024-524-3131 | 福島市    |
| 霊山子どもの村キャンプ場       | 伊達市霊山町石田字宝司沢 9-1 | 024-589-2211 | 伊達市    |
| 郡山市青少年会館           | 郡山市大槻町字漆棒 82     | 024-961-8282 | 郡山市    |
| 郡山市少年湖畔の村          | 郡山市湖南町横沢字村西 112  | 024-982-2115 | 郡山市    |
| 須賀川市市民の森           | 須賀川市塩田音森 20      | 0248-79-2187 | 須賀川市   |

| 名 称             | 所 在 地                 | 電話番号         | 設置者    |
|-----------------|-----------------------|--------------|--------|
| 石川町勤労青少年ホーム     | 石川町字当町 418-1          | 0247-26-2566 | 石川町    |
| 矢祭山友情の森         | 矢祭町大字山下字下河原 1-1       | 0247-46-2162 | 矢祭町    |
| 会津若松市少年の家       | 会津若松市城東町 15-62        | 0242-39-1304 | 会津若松市  |
| 会津若松市勤労青少年ホーム   | 会津若松市城東町 14-52        | 0242-26-6662 | 会津若松市  |
| 喜多方市勤労青少年ホーム    | 喜多方市舞台田 3119-1        | 0241-22-1403 | 喜多方市   |
| 喜多方市勤労青少年体育センター | 喜多方市舞台田 3119-1        | 0241-22-1403 | 喜多方市   |
| びわ沢原森林公園（休館中）   | 猪苗代町字琵琶沢原 7095        | 0242-62-3291 | 猪苗代町   |
| 《他県設置等3施設》      |                       |              |        |
| 名 称             | 所 在 地                 | 電話番号         | 設置者    |
| さいたま市立館岩少年自然の家  | 南会津町宮里字向山 2847-1      | 0241-78-2311 | さいたま市  |
| 一般財団法人小野田自然塾    | 東白川郡高町大字片貝字長久木先 384   | 022-281-8228 | 一般財団法人 |
| ばんだいふれあいぴあ      | 北塩原村松原字南黄連沢山 1157-336 | 0241-33-2567 | 公益財団法人 |

## 2 文化施設の整備充実

### (1) 県立美術館の整備充実

常設展・企画展等の充実を図り、美術作品の収集と作品・作家等に関する調査研究を計画的に推進したほか、教育普及活動に努め、本県美術振興の中心的施設として機能の充実に努めた。

### (2) 県立博物館の整備充実

展示資料の収集・整備に努め、調査研究を計画的に推進し、常設展・企画展等の充実を図るとともに教育普及のための各種事業を行い、県内博物館の中心的施設として機能の充実に努めた。

### (3) 県文化財センター白河館（まほろん）

文化財の収蔵と被災した地域の文化財等の公開・活用及び埋蔵文化財担当職員等の研修を図り、文化財に親しみ、文化財への理解を深める施設として機能の充実に努めた。

## 第11節 福島県立図書館

### 1 概要

福島県立図書館は、県民の生涯にわたる多様な学習活動に応えるため、資料及び情報の計画的な収集を図るとともに市町村立図書館等との連携のもとに効果的な図書館活動の展開に努め、県民文化の向上に寄与することを目的とした事業を行っている。

また、令和4年3月に『福島県立図書館アクションプラン（第4次）』（令和4年度～令和6年度）を策定し、基本理念と4つの目標に基づき、読書環境、学習環境の整備やサービスの充実に努めた。

併せて、令和2年2月に策定された「第四次福島県子ども読書活動推進計画」（令和2年度から概ね5年間）に基づき、計画実現のための事業推進にも取り組んだ。

#### (1) 図書館協議会

開催日 令和5年8月31日（木） 於：福島県立図書館 議題等

- ・福島県立図書館の概要について
- ・「福島県立図書館アクションプラン（第4次）」に係る

令和4年度実績について

- ・令和4年度図書館利用実績について

図書館協議会委員名（令和6年3月31日現在）

[任期：令和5年10月21日～令和7年10月20日]

| 区分                         | 氏 名    | 所属団体等（主な役職名等）                               |
|----------------------------|--------|---------------------------------------------|
| 学<br>識<br>経<br>験<br>者      | ◎井實 充史 | 福島大学（人間発達文化学類教授）                            |
|                            | 三瓶 千香子 | 桜の聖母短期大学（キャリア教養学科教授<br>生涯学習センター長・地域連携センター長） |
|                            | 渡部 育夫  | 株式会社福島民報社<br>（編集局長次兼文化部長）                   |
|                            | 菅野 隆一  | 福島民友新聞株式会社<br>（論説委員会委員長）                    |
|                            | 林 文子   | 公募                                          |
|                            | 高橋 正人  | 公募                                          |
| 家庭<br>教育                   | 佐藤 房枝  | 福島県家庭教育インストラクター連絡<br>協議会（会津さざなみの会）          |
| 社会<br>教育                   | 佐藤 美千代 | 福島県公共図書館協会<br>（新地町図書館副主幹兼管理係長兼司書）           |
| 学<br>校<br>教<br>育<br>関<br>係 | ○中村 充幸 | 福島県高等学校長協会<br>（福島県立福島北高等学校長）                |
|                            | 星野 亜紀  | 福島県中学校長会<br>（郡山市立逢瀬中学校長）                    |

◎会長 ○副会長

#### (2) 「福島県立図書館アクションプラン（第4次）」

令和4年度～令和6年度

##### ア 基本理念

「ふくしまの未来をひらくため、『知の拠点』として県内図書館ネットワークを支え、県民一人ひとりの夢と学びを応援します。」

福島県立図書館は、県民に対する資料の提供（貸出・閲覧）やレファレンス等のサービスの向上に努めます。

また、市町村図書館（未設置自治体にあつては公民館図書室等）の円滑な活動を支援するため、資料を体系的に収集・保存・提供するとともに、市町村間のネットワーク体制の強化に努めます。

さらに、子どもの読書活動を推進し、未来を担う子どもたちが、人生をより深く生きる力を身に付けられるよ

う支援します。

こうした取組により、「知の拠点」として、県民の課題解決を図るとともに、ふくしまの復興を文化・情報面から支え、ふくしまの未来をひらいていくための一翼を担います。

#### イ 福島県立図書館が目指す4つの目標

基本理念の実現に向けて、「福島県立図書館が目指す4つの目標」を定め、これに向けた取組を進めるとともに、新型コロナウイルス感染症の感染予防、新しい生活様式への対応をふまえ、図書館サービスを①非来館サービス（図書館に行かなくても利用できるサービス）の推進、②デジタル情報の発信、③図書館間ネットワークの強化、の3つの視点から充実させていきます。

##### (7) 県民のための図書館

福島県立図書館は、資料・情報を収集し、保存し、提供することで、県民の役に立つ図書館を目指すとともに、年齢、障がいの有無などにかかわらず、あらゆる県民が等しく利用できる図書館を目指します。

##### (4) 子どもたちの今と未来のための図書館

ふくしまの未来を担う子どもたちのために、資料を収集し、保存し、伝え、子どもたちの読書活動や主体的・対話的で深い学びを支えることができる図書館を目指します。

##### (7) 市町村（図書館・公民館等）を支える図書館

県民がどこにいても図書館に親しみ、また、生活、学習、事業などに必要な資料を利用できるように、県内の図書館・公民館・学校を支え、ネットワーク体制を強化し、全県的な図書館活動の振興を目指します。

##### (1) ふくしまを知ることができる図書館

「ふくしま」の資料・情報を収集し、保存し、発信することで、将来にわたり、いつでも、どこにいても「ふくしま」を知ることができる図書館を目指します。

## 2 資料の収集・整理

「福島県立図書館資料収集基本要綱」及び「福島県立図書館アクションプラン（第4次）」を踏まえ、県民からの資料要求に対応するために、各分野の基本資料を収集し迅速な整理に努めた。また、平成24年度に開設した「東日本大震災福島県復興ライブラリー」の整備充実を継続して行った。

### (1) 図書館資料の収集

#### ア 一般資料の収集

新刊・既刊を問わず、資料的価値や利用的価値の高い資料の収集を行った。官公庁刊行物は主要なものや年鑑白書や叢書等の継続資料については厳選し計画的な収集に努めた。文学作品は、受賞作品・候補作品や書評等で評価の高い作品を収集した。重点収集として、東日本大震災に関する資料をはじめ、調査相談に対応するために必要な各種参考図書、大活字本等のユニバーサルデザインに対応した資料の収集・整理に努めた。

#### イ 地域資料の収集

福島県に関する資料については新刊書及び古書を購入した。県人著作については新刊書及び旧刊図書の遡及購入により、充実を図った。非売品の資料については出版した個人・団体・機関等への寄贈依頼や、寄贈を呼びかけるチラシを常時館内掲示し県立図書館ホームページにも「図書寄贈のお願い」をトップに表示するなど広報に努めた。

行政資料は各部局へ寄贈依頼を通知したほか、庁内Webで周知を行った。県内公共図書館、公民館にも行政資料の寄贈について協力を呼びかけた。また、「福島県立図書館『福島県行政資料コーナー』のご紹介」のチラシを改訂し、館内配布した。

震災関連資料及び東京電力福島第一原子力発電所事故に関する資料についても、新聞等での出版情報収集に努めた。

#### ウ 地域視聴覚資料の収集

県内で撮影されたものや震災関連の映像資料を収集した。また、保存価値の高い地元新聞のCD-ROM等の資料を継続して収集した。

#### エ 児童資料・研究資料の収集

##### (7) 児童資料

市町村のモデルとして運営している「こどものへや」用児童資料として、子どもの読書活動推進に資する資料を、新刊書を中心に厳選して収集した。

重点収集として、探究型学習に対応するもの、ユニバーサルデザインや多文化に対応する資料の収集に努めた。また、中学生・高校生向け資料についても収集した。

##### (4) 研究資料

「児童図書研究室」用研究資料として、児童図書に関する調査研究及び子どもの読書活動支援に資する資料を、新刊書を中心に厳選して収集した。

また、読み聞かせ活動支援のための大型絵本や研究用児童資料としての主要な児童図書賞受賞作品も収集した。ほかに子どもの読書や読書環境に関する資料の収集にも努めた。

#### オ 逐次刊行物の収集と整備

雑誌は、資料価値を重視し、専門的な調査相談や県内図書館の求めに対応できる資料を幅広く継続収集した。

また、当館ホームページを改善し、購読している雑誌を探しやすくした。

新聞、雑誌の震災・原発事故関連記事についても収集に努めた。

福島県内の明治～平成の地方紙の保存と利用の両立を図るため、平成23年度に構築した「新聞記事閲覧システム」を更改し、複数の利用者・職員が同時に使用できるシステムとした。

#### カ 市町村支援用資料の収集

図書館未設置の自治体や、県立図書館の利用環境が十分ではない過疎・中山間地域、また、東日本大震災に伴う被災地域の読書活動に役立たせるため、新刊書を中心

に、子どもたちの多様な好奇心に応えることができる児童書や話題性の高い文芸書、生活に密着した情報が掲載された実用書・時事関係資料等を収集した。

逐次刊行物受入状況 (単位：種)

| 区 分   | 購 入 | 寄贈・他 | 計   |
|-------|-----|------|-----|
| 新 聞   | 25  | 45   | 70  |
| 雑 誌   | 218 | 689  | 907 |
| 官 報 等 | 3   | 0    | 3   |
| 合 計   | 246 | 734  | 980 |

資料受入状況 (単位：冊)

| 区 分         | 購 入   | 寄贈・他  | 計      |
|-------------|-------|-------|--------|
| 一 般 資 料     | 4,234 | 1,759 | 5,993  |
| 地 域・行 政 資 料 | 875   | 3,074 | 3,949  |
| 児 童 資 料     | 1,899 | 560   | 2,459  |
| 児童図書研究資料    | 351   | 97    | 448    |
| 市町村支援資料     | 1,146 | 1,141 | 2,287  |
| 合 計         | 8,505 | 6,631 | 15,136 |

蔵書統計 (資料別・分類別)

(単位：冊)

| 分 類         | 区 分       | 4年度累計   | 5年度増加 | 5年度除籍 | 利用替え      | 5年度累計   |
|-------------|-----------|---------|-------|-------|-----------|---------|
| 一般資料        | 0 総 記     | 32,413  | 323   | 2     | 4         | 32,738  |
|             | 1 哲 学     | 27,557  | 321   | 7     | 8         | 27,879  |
|             | 2 歴 史     | 68,535  | 741   | 6     | 12        | 69,282  |
|             | 3 社 会 科 学 | 114,760 | 1,647 | 42    | 41        | 116,406 |
|             | 4 自 然 科 学 | 40,397  | 579   | 2     | 16        | 40,990  |
|             | 5 工 学・工 業 | 39,036  | 455   | 11    | 14        | 39,494  |
|             | 6 産 業     | 31,051  | 351   | 12    | 15        | 31,405  |
|             | 7 芸 術     | 44,896  | 647   | 10    | 23        | 45,556  |
|             | 8 語 学     | 10,155  | 96    | 1     | 5         | 10,255  |
|             | 9 文 学     | 97,641  | 833   | 15    | 140       | 98,599  |
|             | 計         | 506,441 | 5,993 | 108   | 278       | 512,604 |
| 地域資料        | 0 総 記     | 20,016  | 293   | 0     | 1         | 20,310  |
|             | 1 哲 学     | 3,013   | 34    | 0     | 0         | 3,047   |
|             | 2 歴 史     | 41,946  | 692   | 0     | 13        | 42,651  |
|             | 3 社 会 科 学 | 72,986  | 1,296 | 1     | 1         | 74,282  |
|             | 4 自 然 科 学 | 11,214  | 230   | 0     | 2         | 11,446  |
|             | 5 工 学・工 業 | 16,828  | 281   | 0     | 0         | 17,109  |
|             | 6 産 業     | 24,436  | 375   | 0     | 0         | 24,811  |
|             | 7 芸 術     | 19,131  | 310   | 1     | 5         | 191,445 |
|             | 8 語 学     | 968     | 43    | 0     | 0         | 1,011   |
|             | 9 文 学     | 30,688  | 395   | 2     | 1         | 31,082  |
|             | 計         | 241,226 | 3,949 | 4     | 23        | 245,194 |
| 児童資料        | 研 究 資 料   | 39,636  | 448   | 3     | 1         | 40,082  |
|             | 児 童 図 書   | 128,410 | 2,459 | 244   | 21        | 130,646 |
|             | 計         | 168,046 | 2,907 | 247   | 22        | 170,728 |
| 逐次刊行物       | 雑 誌       | 189,074 | 4,703 | 157   | -10       | 193,610 |
|             | 新 聞 合 本   | 16,158  | 192   | 0     | 0         | 16,350  |
|             | 新聞記事ファイル  | 3,839   | 0     | 0     | 0         | 3,839   |
|             | 計         | 209,071 | 4,895 | 157   | -10       | 213,799 |
| 特 殊 文 庫     | 70,280    | 0       | 0     | 0     | 70,280    |         |
| 館 内 用 計     | 1,195,064 | 17,744  | 516   | 313   | 1,212,605 |         |
| 市 町 村 支 援 計 | 58,089    | 2,287   | 7,890 | -313  | 52,173    |         |
| 合 計         | 1,253,153 | 20,031  | 8,406 | 0     | 1,264,778 |         |

資料受入状況・推移

(単位：冊)

| 令和3年度  | 令和4年度  | 令和5年度  |
|--------|--------|--------|
| 18,921 | 15,480 | 15,136 |

キ 県民のくらし応援文庫

県民が抱える課題の解決に役立つ図書を整備することを目的に、平成28年度に創設した寄贈制度。令和5年度は、5団体(企業)から合計715冊の寄贈を受けた。

### 3 館内奉仕

開館日は278日、入館者は152,307人、1日平均548人の利用があった。新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、館内利用の制限を緩和し、座席数を増やした。また、前年度に地震被害の復旧工事のため休館期間があったが、令和5年度は、開館日は前年度比で41日増え、入館者数も前年度比に対し3万7千人の増となった。新型コロナウイルス感染症行動制限緩和により、来館者は回復傾向になっている。

#### 入館者数

|        |          |
|--------|----------|
| 開館日数   | 278日     |
| 入館者数   | 152,307人 |
| (1日平均) | 548人     |

#### 入館者数・推移 (単位：人)

| 令和3年度   | 令和4年度   | 令和5年度   |
|---------|---------|---------|
| 134,601 | 115,329 | 152,307 |

#### (1) 調査相談 (レファレンス)

県内外から、日常生活の中での質問、仕事上の調査研究等、多種多様な調査相談を受け、所蔵資料及び関係機関の協力を得て回答した。問い合わせは、口頭、電話、文書、FAX、電子メールにて受け付けた。総件数は前年度より約600件増加した。また、当館のホームページについては、「蔵書検索」へのアクセスが大きく伸びた。

#### 調査相談件数 (単位：件)

|       | 一般・地域・逐刊資料 | 児童資料 | 小計    |
|-------|------------|------|-------|
| 口頭    | 6,457      | 841  | 7,298 |
| 電話    | 1,148      | 27   | 1,175 |
| 文書    | 41         | 0    | 41    |
| FAX   | 13         | 0    | 13    |
| 電子メール | 285        | 1    | 286   |
| 合計    | 7,944      | 869  | 8,813 |

#### 調査相談件数・推移 (単位：件)

| 令和3年度  | 令和4年度 | 令和5年度 |
|--------|-------|-------|
| 11,932 | 8,197 | 8,813 |

#### ホームページアクセス件数 (単位：件)

| 区分         | 令和3年度   | 令和4年度   | 令和5年度   |
|------------|---------|---------|---------|
| トップページ     | 190,775 | 144,742 | 146,625 |
| 蔵書検索       | 650,242 | 848,379 | 875,627 |
| 横断検索       | 28,237  | 25,768  | 32,350  |
| デジタルライブラリー | 2,931   | 2,372   | 2,320   |
| こどものへや     | 2,783   | 2,012   | 1,506   |
| 利用案内       | 11,267  | 9,391   | 9,046   |

注) 令和3年1月より情報ネットワークシステムが新システムへ移行したことにより、ホームページへのアクセスの集計方法が変更となっている。

### (2) 館内サービス

「福島県立図書館アクションプラン(第4次)」の活動指針に則り、図書館資料の提供や各種事業の実施を通じ、地域の復興及び暮らしに役立つ情報の提供に努めた。

さらに、広域な県土を有する本県の実情を踏まえ、予約資料の受取館指定サービス等、Web環境を活用した利用の充実を図った。

加えて新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、前年度に続き閲覧席の削減や定期的な換気などの対策と咳エチケット等の呼びかけに努めたほか、返却された資料や、利用者が使用する端末、カウンター周り等のアルコール消毒を実施した。

### (3) 館外個人貸出

貸出冊数は172,763冊、貸出者数は延べ43,158人で前年度から増加した。登録者数は13,535人であった。

直接自宅へ資料搬送する資料宅配サービス(有料)の利用は、3件、17冊と前年度比で件数、冊数とも減少した。

#### 館外個人貸出状況

| 分類    | 冊数(冊)   | 構成比(%) |
|-------|---------|--------|
| 総記    | 2,038   | 1.2    |
| 哲学・宗教 | 4,671   | 2.7    |
| 歴史・地理 | 7,506   | 4.3    |
| 社会科学  | 11,765  | 6.8    |
| 自然科学  | 7,858   | 4.5    |
| 工学・工業 | 7,420   | 4.3    |
| 産業    | 4,107   | 2.4    |
| 芸術    | 7,793   | 4.5    |
| 語学    | 1,510   | 0.9    |
| 文学    | 23,212  | 13.4   |
| 地域資料  | 7,013   | 4.1    |
| 新聞雑誌  | 7,395   | 4.3    |
| 小計    | 92,288  | 53.4   |
| 児童    | 80,475  | 46.6   |
| 合計    | 172,763 | 100.0  |

#### 館外個人貸出・状況・推移

| 区分      | 令和3年度   | 令和4年度   | 令和5年度   |
|---------|---------|---------|---------|
| 冊数(冊)   | 173,191 | 147,545 | 172,763 |
| のべ人数(人) | 42,551  | 35,814  | 43,158  |

#### 館外個人貸出登録者数(登録有効期間3年)(単位：人)

| 区分  | 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 | 合計     |
|-----|-------|-------|-------|--------|
| 新規  | 3,188 | 3,047 | 3,051 | 9,286  |
| 更新者 | 1,417 | 1,374 | 1,458 | 4,249  |
| 合計  | 4,605 | 4,421 | 4,509 | 13,535 |

#### 館外個人貸出登録者数・推移 (単位：人)

| 令和3年度  | 令和4年度  | 令和5年度  |
|--------|--------|--------|
| 12,889 | 12,732 | 13,535 |

#### (4) 特別貸出

特別貸出とは、類縁機関での展示等のための貸出を行う制度で、資料・冊数・期間などの面で配慮している。

##### 特別貸出状況

| 貸出先    | 件数(件) | 冊数(冊) |
|--------|-------|-------|
| 官公庁関係  | 2     | 48    |
| 図書館その他 | 12    | 22    |
| 会社・事業所 | 21    | 214   |
| 報道関係   | 0     | 0     |
| 学校     | 31    | 57    |
| 計      | 66    | 341   |

##### 特別貸出状況・推移

(単位:冊)

| 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 |
|-------|-------|-------|
| 389   | 292   | 341   |

#### (5) 一般資料

県民が必要とする多種多様な情報を迅速に提供するように資料整理等に努めた。

また、時事や季節、話題性のあるテーマで展示を行い資料の紹介に努めた。時事展示のコーナーでは「本の中で植物園を体験」、「子どもたちの教科書を見てみよう!」、「時代小説を楽しむ」、「本で巡る世界の食文化」、「読書バリアフリーの世界」、「防災について考える～東日本大震災から13年～」を実施した。ほかに、ビジネス関連資料、認知症、感染症に関する展示を行っている。

さらに、パスファインダー「本の森への道しるべ」では、「みんなが読書できる社会をつくる」を新規で作成。「裁判員制度を考える」、「暮らしと税金」、「健康と食事を考える」、「人物情報について調べる」、「遠野物語の世界」、「健康で働くために」を改訂し、効率かつ有効的な情報の提供に努めた。

令和5年4月29日(土)には「福島県立図書館見学探検ツアー」を実施し、県立図書館の役割や機能について紹介した(参加者11名)。また令和5年11月3日(金)には「福島県立図書館秋の見学探検ツアー」(参加者7名)と「長田弘文庫見学会」を実施した(参加者1名)。

#### (6) 地域資料

企画展示は「福島の市町村広報誌」展を開催した。期間中は「県北・県中・県南地域」「相双・いわき地域」「会津・南会津地域」の順に3期に分けて資料を入れ替え、全市町村の広報誌を実施した。

パスファインダー「本の森への道しるべ」では、「地域の出版文化を支える 福島民報出版文化賞」を改訂し、受賞作発表にあわせて直近10年の受賞作を展示した。

また、『地境争論内済一札』ほか劣化により原資料での利用が難しいものを中心に貴重資料をデジタル化し、閲覧・貸出の利用を容易に行えるようにした。

地域資料については、県内外の個人・団体の様々な調査相談に応えるため、レファレンスサービスを実施したほか、ホームページから目的の資料を検索しやすいう、図書や雑誌の目次入力を継続的に実施した。

#### (7) 逐次刊行物

『福島県公立図書館 現行購入雑誌保存年限および保存指定館、現行受入新聞一覧』(令和5年度版)については、大熊町、双葉町の2町以外から回答を得て発行した。

令和5年12月9日(土)に、「図書館バックヤードツアー ふくしまの昔の新聞をみてみよう」を開催し、1名が参加した。当館職員が案内役となり、図書館で保管している明治・大正・昭和の新聞を見学した。

軽読書コーナー及び雑誌展示コーナーにて「元気づくり」、「俳句・短歌・詩」、「ノーベル賞を知る」及び「もっと知りたい徳川家康」など、社会情勢や利用者の興味関心に配慮したテーマの展示を行った。

パスファインダー「本の森への道しるべ」では、「新聞の調べ方」、「便利な新聞・雑誌記事のデータベース」の改定を行った。

#### (8) 児童サービス

子どもの読書活動推進のために各種の事業を行った。

##### ア こどものへや・児童図書研究室の運営

資料の貸出や調査相談をはじめ、「絵本コーナー」や「新着図書コーナー」などで推奨する資料の展示を行ったほか、ロビー展示コーナーを活用して10代の子どもたちに向けた展示を行った。また、児童図書の調査・研究用の資料や学校図書館支援用の図書を収集し、子どもの読書活動に関わる方に対して資料提供を行った。

##### イ おはなしかいの開催

乳幼児と保護者を対象とした「ちいさなおはなしかい」(毎月第2木曜日)や児童を対象に以下の「おはなしかい」、「子ども向け見学会」を開催した。

・「ちいさなおはなしかい」(5月、6月、9月、10月、11月、12月、1月、3月)

計8回 参加者合計 74名

・「放課後おはなしかい」(4月、5月、6月、10月、11月、12月)

計8回 参加者合計 33名

・県立美術館との連携おはなしかい

「アートなおはなしかい」(令和5年6月17日(土))を実施した。

参加者 17名

・「春のミステリーツアー」(令和5年4月29日(土))を実施した。

参加者 15名

・「冬のミステリーツアー」(令和5年12月26日(火))を実施した。

参加者 13名

##### ウ 図書館見学の受け入れ

学校等の要望に応え、施設見学や利用案内、読み聞かせ等を行い、図書館や本に親しむ機会の提供に努めた。

参加者合計 511名

##### エ 情報誌の発行

思春期の子どものための読書案内誌「LITTLE BIG」や

児童サービス関連情報誌「児童図書研究ニュース」を発行し読書普及のための情報提供に努めた。また、教科書改訂にあわせて「福島県立図書館・小学校国語教科書紹介図書・所蔵一覧」を発行した。

オ 「子育て支援コーナー」の運営

図書館の子育て世代のための育児関連図書のコーナーでは書架の配置替えリニューアルを図るとともに、引き続き、子育てに役立つ図書や雑誌の展示と親子で楽しむ絵本の展示を行った。

カ 講師の派遣

児童サービスに関する講座に講師を派遣した。

- ・「絵本の読み聞かせ講座」  
令和5年6月3日(土) 桑折町
- ・「はじめてみよう！読み聞かせボランティア」  
令和5年9月21日(木) 会津美里町

(9) 東日本大震災福島県復興ライブラリー

平成24年度から「東日本大震災福島県復興ライブラリー」を開設。常設コーナーとして、東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故の関連資料を中心に、地震、津波、体験記、放射線、除染、復興、防災、エネルギー問題等の資料を配架し利用に供している。所蔵数は令和6年3月31日現在で15,385タイトルとなっており、「震災復興ライブラリー増加資料一覧」(令和6年3月31日現在)を作成し、ホームページで公開した。

さらに、福島民報及び福島民友に掲載された「震災」「原発」「復興」関連の記事の見出しを地区ごとにまとめ一覧にした『地元新聞にみる原発関連見出し一覧』を令和5年3月31日現在で更新し、同年5月17日(水)にホームページへ掲載した。

そのほか「巡回する福島県復興ライブラリー」として、資料やパネル等を出張展示用セットとして編成し、活用を図っている。

(10) 複写サービス

コイン式コピー機は1台、レーザープリンター1台、カラープリンター1台、マイクロプリンター2台での対応となっている。保存のために資料の媒体を変えていることから、形態にあわせてそれぞれのプリンターで対応している。

複写利用状況

| 区分               | 件数(件)  | 枚数(枚)  |
|------------------|--------|--------|
| 自・他館処理           | 3,055  | 40,860 |
| 複写利用状況・推移 (単位:枚) |        |        |
| 令和3年度            | 令和4年度  | 令和5年度  |
| 43,519           | 38,783 | 40,860 |

(11) 障がい者サービス

障がい者サービスの案内を作成し、関連施設等に配布した。また、「福島県立図書館所蔵 大活字コーナー資料リスト」を改訂した。令和6年1月より特定録音物等郵便受施設指定となった。

(12) 来館者用インターネットコーナー

来館者が利用できるインターネット端末を、一般用に6台設置し、情報提供の便宜を図った。6台のうち2台は、短時間の利用ができるように申し込みをせずに利用可能としている。

インターネット利用状況 (単位:人)

| 区分 | 一般    | 児童 | 合計    |
|----|-------|----|-------|
| 人数 | 2,603 | 0  | 2,603 |

インターネット利用状況・推移 (単位:人)

| 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 |
|-------|-------|-------|
| 1,348 | 1,160 | 2,603 |

※令和5年10月より、申込不要としていた短時間利用の端末2台を他の4台と同様に申込制とした。

(13) 展示

ア 展示コーナー企画展示

当館入り口の展示コーナーにおいて、テーマに沿った資料の展示を行った。

- (ア) 『松居直と「こどものとも」から生まれた作家たち』  
(令和5年4月7日(金)～5月31日(水))  
令和4年11月に亡くなった児童文学作家で月刊物語絵本「こどものとも」初代編集長の松居直の著書と「こどものとも」から生まれた名作絵本を展示した。
- (イ) 『まほろん移動展示「U (アンダー) 15の考古学」』  
(令和5年6月2日(金)～7月5日(水))  
県内で出土した縄文・弥生時代の資料を展示し、小学6年生が学ぶ歴史の教科書とリンクさせながら、当時の人たちの生活を紹介し、併せて考古学とはどういうものかをイラストやジオラマで紹介した。
- (ウ) 『「福島イノベーション・コースト構想」展』  
(令和5年7月7日(金)～8月2日(水))  
福島イノベーション・コースト構想に関連した展示を行った。
- (エ) 『佐藤文庫展』  
(令和5年8月4日(金)～10月4日(水))  
佐藤文庫の紹介を兼ねて、佐藤伝吉氏を収集した貴重な先行関係資料を展示した。
- (オ) 『福島県歴史資料館移動展「ふくしまの歴と元号一会津歴と私年号を中心に」』  
(令和5年10月6日(金)～11月1日(木))  
江戸時代、ふくしまなど広域で用いられた「会津歴」や、「公年号」(元号)と別にふくしまで使われた「私年号」などを紹介した。
- (カ) 『福島の市町村広報誌』  
(令和5年11月3日(金)～令和6年2月4日(日))  
福島県内59市町村の各広報誌を展示した。創刊号や記念号のほか、市町村合併や市町村制周年行事などが掲載されている号を取り上げた。
- (キ) 『週刊朝日:100年を振り返る』  
(令和6年2月28日(水)～4月3日(水))  
日本で最初に創刊された総合週刊誌『週刊朝日』が

創刊から 101 年の令和 5 年に休刊したことから所蔵する同誌を展示した。

#### イ ロビー展示

情報発信の一環としてロビー通路壁面を利用し、県立図書館の資料展示と団体等のパネル展示を行った。

- (ア) 「YA (ヤングアダルト) の本」 (県立図書館)  
令和 5 年 4 月 7 日(金)～5 月 31 日(水)
- (イ) 「本はともだち」、「絵本はともだち」 (県立図書館)  
令和 5 年 6 月 2 日(金)～7 月 5 日(水)
- (ウ) 「YA (ヤングアダルト) の本」 (県立図書館)  
令和 5 年 7 月 7 日(金)～9 月 6 日(水)
- (エ) 「私の理学療法体験 川柳コンクール」 (福島県理学療法士会)  
令和 5 年 9 月 8 日(金)～10 月 4 日(水)
- (オ) 「働くあなたの力になりたい！まずは聞かせてあなたの悩み」 (福島県労働委員会)  
令和 5 年 10 月 6 日(金)～11 月 1 日(水)
- (カ) 「災害復旧や防災・減災対策の取組、公共土木施設の整備効果について」 (福島県土木部土木企画課)  
令和 5 年 11 月 3 日(金)～令和 5 年 12 月 6 日(水)
- (キ) 「YA (ヤングアダルト) の本」 (県立図書館)  
令和 5 年 12 月 8 日(金)～令和 6 年 4 月 3 日(水)

#### (14) 普及事業

県内公共図書館及び公民館図書室等、図書館関係施設職員の資質の向上を図るため、講演会や講座を実施することで、幅広い知識の習得を目指し、また、一般県民に対しても開放し、図書館としての情報発信を行い、地域文化の進展に寄与した。

#### ア 福島を生きる講座

世界的歴史学者・朝河貫一博士をはじめとしたふくしまの偉人や、魅力ある福島の今と未来の発信等、福島に関わる研究者等による、図書館資料を活用した講座やワークショップを実施している。

第 1 回 「吾妻山噴火から 130 年ー火山の怖さ・火山の魅力ー」

開催日 令和 5 年 6 月 24 日(土) 福島県立図書館

講師 磐梯山噴火記念館 館長 佐藤 公

参加者 71 名

第 2 回 「朝河貫一と平和の追求ー『日本の禍機』から『大統領親書草案』へー」

開催日 令和 5 年 8 月 5 日(土) 福島県立図書館

講師 早稲田大学文学学芸院 教授 甚野 尚志

参加者 80 名

第 3 回 「公年号と私年号ーふくしまの庶民間で生まれた『私年号』とはー」

開催日 令和 5 年 10 月 22 日(日) 福島県立図書館

講師 公益財団法人福島県文化振興財団  
主任学芸員 小野 孝太郎

参加者 20 名

第 4 回 「甲子園への道」

開催日 令和 5 年 11 月 19 日(土) 福島県立図書館

講師 聖光学院高等学校

硬式野球部監督 斎藤 智也

参加者 123 名

#### イ 県民講座

福島県立医科大学、法テラス福島など各関係機関との連携による講演会を実施している。

(ア) 「成年後見制度のいろは～安心した暮らしのための意思決定援助～」

開催日 令和 5 年 7 月 22 日(土)

講師 日本司法支援センター 法テラス福島  
弁護士 中條 貴則

参加者 12 名

(イ) 「令和の高校教科『公共』に学ぶオトナの法教育」

開催日 令和 5 年 11 月 4 日(土)

講師 桜が丘法律事務所  
弁護士 岩崎 優二

参加者 8 名

#### ウ 衛生学予防医学講演会

福島県立医科大学衛生学・予防医学講座講演会

開催日 令和 5 年 9 月 23 日(土)

講演 1 「何を食べても入ってくる科学物質～それって危ないの？」

講師 福島県立医科大学 医学部

衛生学・予防医学講座 教授 福島 哲仁

講演 2 「適正体重を維持するための食生活のコツ」

講師 郡山女子大学家政学部 食物栄養学科  
准教授 伊藤 央奈

参加者 56 名

#### エ イベント

(ア) 「福島県立図書館見学探検ツアー」

開催日 令和 5 年 4 月 29 日(土)

参加者 11 名

(イ) 「福島県立図書館秋の見学探検ツアー」

開催日 令和 5 年 11 月 3 日(祝・金)

参加者 7 名

(ウ) 「長田弘文庫見学会」

開催日 令和 5 年 11 月 3 日(祝・金)

参加者 1 名

## 4 館外奉仕

### (1) 移動図書館「あづま号」

移動図書館「あづま号」では、以下の目的により巡回事業を実施し、連携協力を図るとともに、合計 23 自治体及び 5 校に対して合計 22,768 冊の資料を貸出した。

#### ア 図書館未設置町村支援

図書館未設置町村における図書館活動の促進を図ることを目的に、資料の貸出しと公民館図書室等の運営相談を行った。また 23 自治体に巡回し、延べ 21,487 冊の資料を貸出した。

イ 避難自治体支援事業

東日本大震災等の影響により避難を余儀なくされ、図書館等の運営が困難な8自治体に対し、読書環境を改善することを目的に巡回し資料の貸出しと希望自治体へのおはなし会を行った。

公民館、認定こども園、小学校、中学校、デイサービスセンターに対して3,983冊を貸出した。

ウ 特別支援学校読書活動支援事業

日常的に図書館や読書施設、書店等の利用が困難な子どもたちの読書環境の向上を目的に、聴覚支援学校平校・西郷支援学校・石川支援学校・猪苗代支援学校・富岡支援学校の5校を巡回し、延べ1,281冊の資料を貸出した。また、希望校へのおはなし会を開催した。

**移動図書館「あづま号」貸出状況・推移** (単位：冊)

| 令和3年度  | 令和4年度  | 令和5年度  |
|--------|--------|--------|
| 23,101 | 22,234 | 22,768 |

**(2) 市町村援助のための支援貸出**

大規模な図書館事業を行う市町村に対して、長期にわたり一括大量に資料の貸出しを行い、図書館・公民館図書室の読書・学習環境を支援した。

令和5年度の利用状況は次のとおりである。

|            |        |
|------------|--------|
| 川俣町教育委員会   | 330冊   |
| 浅川町教育委員会   | 400冊   |
| 会津美里町教育委員会 | 690冊   |
| 合計         | 1,420冊 |

**(3) 福島県立図書館資料の譲与**

再活用が十分見込まれる資料を、県内市町村教育委員会及び高等学校等に対し譲与し、図書館施設の蔵書の充実を支援した。令和5年度の利用状況は次のとおりである。

|            |        |
|------------|--------|
| 玉川村教育委員会   | 334冊   |
| 伊達市教育委員会   | 581冊   |
| 川俣町教育委員会   | 131冊   |
| 昭和村教育委員会   | 22冊    |
| 会津美里町教育委員会 | 257冊   |
| 白河市教育委員会   | 49冊    |
| 柳津町教育委員会   | 3冊     |
| 福島市教育委員会   | 244冊   |
| 平田村教育委員会   | 405冊   |
| 浅川町教育委員会   | 5冊     |
| 北塩原村教育委員会  | 362冊   |
| あさか開成高等学校  | 21冊    |
| 合計         | 2,414冊 |

**(4) 只見線駅文庫**

除籍資料を活用して、待ち時間や車内で自由に利用できる「只見線駅文庫」を令和元年10月からJR只見線の一部に設置している。

**(5) 学校図書館活動支援貸出**

県内高等学校及び県立特別支援学校の図書館活動の充実を図るために、長期にわたり一括大量に図書の貸出しを行

い、学校図書館読書・学習環境の支援を行う。令和5年度は2団体59冊の貸出があった。

**(6) 広報資料の発行**

ア 館報「あづま」

第72巻(通巻276)を令和5年11月30日に発行した。主たる掲載事項としては、「県内の図書館／浪江町図書館について」、「学校サポートセットについて」、「福島県立図書館アクションプラン(第4次について)」、「福島県立図書館の地震復旧工事が完了しました」等

イ 令和5年度版福島県公共図書館・公民館図書室実態調査報告書(データ版)

図書館活動の振興に資するため、県内公共図書館等の年間観覧日数や専任職員数、蔵書数、来館者数、登録者数、個人貸出数、電子書籍導入の有無などについて実態調査を実施し、報告書としてまとめ、県立図書館ホームページに掲載している。

ウ 福島県郷土資料情報

第64号を発行。特集として平成11年度から連載している「福島県関係書誌の紹介」のうち主題編の総索引(た～わ)を作成し、人物調査の利便性を高めた。ほかに「福島を生きる講座」の実施報告、連載の「貴重郷土資料探照24」「福島県関係書誌の紹介2023」を掲載した。80部発行し、当館ホームページへも掲載する等、郷土の情報を発信した。

**5 図書館協力**

**(1) 相互協力と遠隔地返却、受取館指定サービス**

協力貸出(市町村図書館への資料の貸出)、相互貸借(県内外の他館との資料の貸出・借受)、遠隔地返却(当館から借受け資料を他館に返却する。)サービスを行っている。

また、予約した資料を県内の図書館で受け取ることができる受取館指定サービスの利用は新型コロナウイルス感染症対策に伴う外出自粛傾向が落ち着き、増加傾向にあった受取館指定サービス利用の伸びが横ばい傾向になっている。

**相互貸借状況** (単位：件/冊)

| 区分 | 県内    |       | 県外  |     | 合計    |       |
|----|-------|-------|-----|-----|-------|-------|
|    | 件数    | 冊数    | 件数  | 冊数  | 件数    | 冊数    |
| 貸出 | 1,060 | 4,032 | 377 | 522 | 1,437 | 4,554 |
| 借用 | 150   | 246   | 78  | 94  | 228   | 340   |
| 小計 | 1,210 | 4,278 | 455 | 616 | 1,665 | 4,894 |

**相互貸借状況・推移** (単位：冊)

| 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 |
|-------|-------|-------|
| 5,387 | 4,315 | 4,894 |

**遠隔地返却冊数・推移** (利用者が来館し借受けた資料を県内の公立図書館に返却した冊数) (単位：冊)

| 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 |
|-------|-------|-------|
| 7,750 | 6,242 | 6,681 |

## (2) 学校図書館サポートセット貸出

県内の小・中学校における学校図書館活動を支援するため、授業の過程において利用することを目的に、希望するテーマに合わせて資料を選びセットにして貸出を行った。令和5年度の利用状況は、6校22セット(461冊)。

## (3) 図書館協力事業

県内市町村図書館などの運営を支援するため、各館を定期的に巡回し、情報の収集と提供、運営に関する相談を行った。

また、協力貸出(資料の貸借)などの資料の搬送支援を行った。令和5年度は、18コースを編成し、35自治体と2高等教育機関、福島県議会図書室に対し巡回した。

## (4) 県内図書館職員研修会

県内図書館職員の資質向上と専門的知識の涵養を図るため、毎年行っている。

ア 福島県図書館・公民館図書室職員等初任者研修会

(ア) テーマ

講話 「図書館の基礎」

講義 ①「学校図書館の目指すもの～その役割を考える～」

②「子どもと絵本を結ぶ～その意義と役割～」

③「図書館業務の実際」

(イ) 期 日 令和5年6月7日(水)

(ウ) 会 場 福島県立図書館

(エ) 参加者 県内図書館・学校図書館・公民館図書室職員等 44名

(オ) 講 師 ①: 義務教育課指導主事 松山 秀和  
講話、②、③: 福島県立図書館職員

イ 福島県図書館・公民館図書室職員等専門研修会

(ア) テーマ 電子資料の基礎と貴重資料のデジタル化の実現

(イ) 内 容 講義・実習 「電子化しよう！」

(ウ) 期 日 令和5年11月1日(水)

(エ) 会 場 福島県立図書館

(オ) 参加者 県内図書館・公民館図書室職員等 30名

(カ) 講 師 鶴見大学文学部 教授 大矢 一志

ウ 福島県図書館初任者職員実務研修会

(ア) 期 日 令和5年6月8日(木)～9日(金)

(イ) 会 場 福島県立図書館

(ウ) 参加者 8名

(エ) 講 師 福島県立図書館職員

エ 福島県内児童書担当職員研修会(集合)

(ア) テーマ 「はじめてのブックトーク」

(イ) 期 日 令和5年9月28日(金)

(ウ) 会 場 福島県立図書館

(エ) 参加者 県内図書館・学校図書館・公民館図書室職員等 65名

(オ) 講 師 福島県立相馬高等学校  
主任学校司書 小林 沙織

## (5) 第21回福島県図書館研究集会(オンライン)

図書館業務及び読書活動推進に関わる実務的な研究会を

行うとともに、情報交換や協議を行い図書館活動の振興を図ることを目的に、福島県公共図書館協会事務局として実施・運営している。

ア テーマ 「電子図書館サービスについて考える」

イ 期 日 令和6年1月31日(水)

ウ 会 場 福島県立図書館

エ 参加者 県内図書館職員等 66名

オ 内 容

講演

「公共図書館におけるこれからの電子図書館サービスの可能性」

講 師 追手門学院大学 国際教養学部  
教授、図書館長 湯浅 俊彦

報告

「福島市電子図書館の導入と取組」

講 師 福島市立図書館 図書サービス係  
主任司書 本多 恵子

「昭和村電子図書館の導入と取組」

講 師 昭和村教育委員会  
主査 五十嵐 正富

## (6) 令和5年度図書館地区別(北日本)研修会(ハイブリット)

情報化の進展など図書館に関する最新のテーマや地域における課題について研修を行い、図書館における中堅の司書としての力量を高めることを目的として実施している。

ア 期 日 令和5年10月18日(水)～20日(金)

イ 会 場 福島県立図書館

ウ 参加者 北海小津東北地区図書館・学校図書館・公民館図書室職員等 108名

エ 内 容

①<基調講演> 「図書館におけるSDGsにつながる支援の実情とは」

講 師 明治大学文学部 専任教授 青柳 英治

②<講 義> 「令和3年改正著作権法と図書館」

講 師 日本図書館協会著作権委員会 小池 信彦

③<講 義> 「福島における震災アーカイブズの構築と図書館との連携」

講 師 東日本大震災・原子力災害伝承館 瀬戸 真之

④<講 義> 「子どもの探求が確実に変わるGIGAスクール時代の学校図書館活用の極意」

講 師 長野県高森北小学校・高森町子ども読書支援センター司書 宮澤 優子

⑤<講 義> 「デジタルアーカイブと図書館の未来」

講 師 慶応義塾大学文学部准教授・東京大学大学院情報学客員准教授 福島 幸宏

⑥<講 義> (事例発表) 「障がい者サービスの実際」

講 師 南相馬市立中央図書館 司書 菊地 伸江  
福島県点字図書館 事業兼事務長 大槻 隆一

⑦<講 義> 「地域資料のデジタル化の実現」

講 師 函館市教育委員会生涯学習部文化財課主査・学芸員 奥野 進

⑧<講義>「『100万回死んだねこ』発刊とその後－レファレンスサービスの実現と課題－」

講師 福島県立図書館 主任 宮川 陽子

⑨<講義>「これからの図書館～危機管理を中心に～」

講師 白河市立図書館 館長 中沢 孝之

## (7) 県内大学図書館間との連携

県内の大学図書館及び公共図書館間における、「図書館資料の相互貸借」「複写」「参考業務」及び「一般社会人への共通利用証発行」等の協力体制を推進するため、“福島県内大学図書館連絡協議会”の公共図書館唯一の加盟館として、「福島県内大学図書館間相互利用制度」の維持に努めた。

同協議会には、県立図書館のほか、県内20の自治体の図書館が参加館として参加している

さらに、福島大学附属図書館及び福島県立医科大学附属学術情報センター図書館とは、相互協力のための「ふくふくネット」を締結しており、それに基づき活動を行った。

## 第12節 福島県立美術館

### 1 概要

昭和59年に開館した福島県立美術館は、さまざまなテーマに基づく展覧会、創作や芸術鑑賞のための各種講座等の事業を実施している。また、文化財としての美術作品の収集保存、美術や地域の芸術運動に関する調査研究を継続的に実施している。これらの活動を基盤に、美術の情報センターとしての機能を担っている。

令和4年度の実験活動の概要は次のとおりである。

#### (1) 美術館運営協議会

##### ア 委員

大槻 佐恵 福島県中学校教育研究会美術専門部所属  
(令和5年1月1日～)

番匠あつみ 福島県高等学校教育研究会美術工芸部会所属  
(平成27年1月1日～)

鈴木 淳一 公益財団法人福島県文化振興財団理事長兼  
福島県文化センター館長  
(令和4年4月23日～) ※会長

佐藤 育子 福島県家庭教育インストラクター  
(令和5年1月1日～)

齋藤 勝正 福島県美術家連盟顧問  
(平成29年1月1日～)

細田 修二 日本放送協会福島放送局長  
(令和4年7月16日～)

岡部 兼芳 はじまりの美術館館長  
(令和3年1月1日～)

笠原美智子 アーティゾン美術館副館長  
(令和3年1月1日～)

齋藤美保子 郡山女子大学短期大学部副学長  
(平成27年1月1日～) ※副会長

舟木 藤弘 福島県立美術館友の会副会長  
(平成29年1月1日～)

##### イ 協議会の開催

(ア) 期日 令和6年2月20日(火)

(イ) 内容 ・令和5年度事業の概要  
・令和6年度事業計画案の概要

#### (2) 他館等との連携

県内外の博物館施設及び全国組織等との連携を図り、運営・事業等に関する情報交換や研修等を実施した。

加盟団体 ・全国美術館会議 (会員)  
・日本博物館協会 (会員)  
・日本博物館協会東北支部 (会員)  
・東北地区博物館協会 (会員)  
・福島県博物館連絡協議会 (理事)

## 2 美術品の収集・保存

優れた美術作品鑑賞の機会を提供し、文化財を保存継承するために、コレクション(収蔵作品)の収集活動を継続的にを行っている(ただし平成22年度以降、作品購入実績はない)。

#### (1) 収蔵作品点数(令和6年3月31日現在)

|       |        |
|-------|--------|
| 海外作品  | 450点   |
| 日本画   | 382点   |
| 洋画    | 928点   |
| 版画    | 1,691点 |
| 立体    | 150点   |
| 工芸    | 158点   |
| 書     | 39点    |
| 素描・下絵 | 218点   |
| 写真    | 411点   |
| 作品合計  | 4,427点 |
| 美術資料  | 73件    |

#### (2) 収集評価委員会

##### ア 委員

中山 恵理 郡山市立美術館主査  
(令和元年12月1日～)

松下 由里 群馬県立近代美術館 主幹兼専門員  
(令和元年12月1日～)

水沢 勉 神奈川県立近代美術館館長  
(令和元年12月1日～)

濱崎 礼二 宮城県美術館副館長  
(令和3年12月1日～)

西山 純子 千葉市美術館上席学芸員  
(令和3年12月1日～)

##### イ 委員会の開催

(ア) 期日 令和5年12月16日(土)

(イ) 内容 ・令和3・4年度収集作品の報告  
・令和5年度収集候補作品

#### (3) 図書資料の収集

収蔵図書数 66,053冊

#### (4) 保存管理

美術品の状態を維持回復し、美術品の保管・展示の環境を良好に保つために、計画的に美術品の修復や館内の保存環境調査を実施している。

ア 保存環境調査の実施(虫菌害モニタリングと環境測定)  
時期 令和5年6月5日(月)～19日(月)、  
8月9日(水)～25日(金)  
内容 展示室、収蔵庫、搬入口及びその他の館内外の  
虫菌害調査、酸アルカリ濃度測定等

イ 美術品の修復

酒井三良《村芝居》、荻生天泉《待宵》、内田あぐり《ロマ  
ノフの海》、木村荘八《於東京帝大構内》、瑛九《建物》、織  
田彩子《サイネリア》、土橋醇《仏蘭西の避暑地》の修復を行  
った。北川民次《二十年目の悲しみの夜》、野田英夫《母子像》  
の額を交換した。そのほか、アンドリュウ・ワイエス《松ぼ  
っくり男爵》、クロード・モネ《ジヴェルニーの草原》、カミ  
ーユ・ピサロ《エラニーの菜園》、カミーユ・コロー《ヴィル  
ダヴレー 林をぬけてコロ家へ向かう池沿いの道》、ピエ  
ール＝オーギュスト・ルノワール《帽子を被る女》、ジョルジュ  
ルオー《超人》、関根正二《姉弟》、関根正二《自画像》、関  
根正二《神の祈り》、安井曾太郎《ターヴルの上》、岸田劉生  
《自画像》、岸田劉生《静物(白き花瓶と台皿と林檎四個)》の  
ガラスのクリーニングを行った。

また、退色が指摘されていた庭園の彫刻、フェルナン・レジ  
ェ《歩く花》の再塗装を行った。

ウ 敷地内の放射線測定

(ア) 時期 年4回測定

(イ) 場所 美術館内及び敷地内 計8か所

### 3 展示事業

#### (1) 常設展

収蔵及び寄託の美術作品を展示している。美術の多様な  
領域や数多くの作家を紹介するとともに、作品の状態の保  
全に配慮して、年4回(版画は年8回)展示替えを行って  
いる。

##### 第Ⅰ期コレクション展

令和5年3月18日(土)～6月18日(日)

- ・春から初夏の日本画  
安田 鞞彦《茶室》、小茂田 青樹《薫房》ほか
- ・福島の洋画  
吉井 忠、鎌田 正蔵、若松 光一郎、橋本 章ほか
- ・西洋の近代版画  
エルンスト《博物誌》、ルオー《ミセレーレ》ほか
- ・追悼 大宮 政郎

##### 第Ⅱ期コレクション展

令和5年7月1日(土)～8月27日(日)

- ・勝田蕉琴と福陽美術会 酒井 三良ほか
- ・印象派とフランス美術 モネ、ピサロほか
- ・日本の水彩画 後藤 工志《[失題]》ほか
- ・小関 庄太郎と芸術写真

##### 第Ⅲ期コレクション展

令和5年9月16日(土)～12月27日(水)

- ・現代の工芸 山田 光ほか
- ・安齋勇雄コレクションと石原コレクション
- ・ワイエスとアメリカの具象絵画  
ワイエス《松ぼっくり男爵》 ほか
- ・斎藤 清の木版画：《会津の冬》シリーズほか

##### 第Ⅳ期コレクション展

令和6年1月10日(水)～3月3日(日)

- ・戦後の日本画：横山操《闇迫る》ほか
- ・関根正二と大正期の洋画：関根正二《姉弟》ほか
- ・50年前の美術——1970年代の姿かたち
- ・ベン・シャーン《ラッキードラゴン》

##### 常設トーク

- ・5月14日(日) 14時～14時30分  
担当 濱田 洋亮(学芸員)、橋本 恵里(学芸員)  
参加者数 3名
- ・8月20日(日) 11時～11時30分  
担当 濱田 洋亮(学芸員)  
参加者数 20名
- ・10月22日(日) 14時～14時30分  
担当 月本 寿彦(副主任学芸員)  
参加者数 11名
- ・2月18日(日) 11時～11時30分  
担当 濱田 洋亮(学芸員)  
参加者数 15名

#### (2) 特集展示

「眼にうつる詩—美術と文学の交差点」

(ア) 会期 令和5年5月30日(火)～6月18日(日)

開催日数 18日

- (イ) 分野 海外、洋画、日本画、版画
- (ウ) 展示数 146点
- (エ) 観覧料 常設展料金
- (オ) 観覧者数 1,198名
- (カ) 概要

古くから美術と文学は親和する関係にあるとされてきた。当館にも、明治期から現代に至るまでの文学と関わりをもった美術作品が多数収蔵されている。それらから見えてくるのは、美術と文学には、社会や時代背景と接続する多彩な関わり合いがあることだ。美術家と文学者の交流や、画家をモデルにした小説、あるいは自ら詩作をした美術家など、美術と文学は芸術ジャンルの領域を越えて交錯していた。この展覧会では、当館の収蔵作品から美術と文学の様々なつながりを紹介し、美術を通して文学史の一側面を辿った。

##### (キ) 関連事業

ギャラリートーク

講師 濱田 洋亮(学芸員)

日時 令和5年6月3日(土) 14時～15時

場所 企画展示室

参加者数 25名

### (3) 企画展

令和5年度は6回の企画展を開催し、国内外の様々な芸術文化を紹介した。

#### ア 美(み)をつくしー大阪市立美術館コレクション

(ア) 会期 令和5年3月21日(火・祝)～5月21日(日)  
開催日数 54日(令和4年度10日)

(イ) 分野 絵画、書籍、彫刻、工芸等

(ウ) 展示数 約180点

(エ) 主催 大阪市立美術館ふくしま展実行委員会

[構成 福島県立美術館、テレビユー福島、福島民報社]

企画協力 大阪市立美術館、毎日新聞社

(オ) 観覧料 一般1,300(1,100)円  
高校・大学生1,000(800)円  
小・中学生400(300)円

※( )内は前売り、20名以上の団体料金

(カ) 観覧者数 18,703名(令和4年度 2,698名)  
(令和5年度 16,005名)

#### (キ) 概要

昭和11年(1936)5月、庭園(慶沢園)とともに大阪市に寄贈された住友家の本邸があった天王寺茶臼山の地に、大阪市立美術館は開館した。8500件以上にのぼる所蔵作品は、日本・中国の絵画・書蹟・彫刻・工芸など多岐にわたる。関西を中心に活躍した財界人らが収集したコレクションをまとめて所蔵する点に特徴があり、古美術から近代の作品まで実に多彩な顔ぶれである。

本展は、開館90周年を迎えるのを前に大規模な改修工事を行う休館の時期に、大阪市立美術館が所蔵するこれらの名品から厳選された172件の作品を一堂で紹介する企画であった。

(巡回先 サントリー美術館、熊本県立美術館)

#### (ク) 関連事業

・講演会「大阪市立美術館のコレクションについて」

講師 内藤 栄(大阪市立美術館館長)

日時 令和5年4月22日(土)14時～15時30分

場所 美術館講堂

参加者数 85名

#### イ ブルターニュの光と風 モネ、ゴッガン、ボナール—遙かなる理想郷—ブルターニュの光と風 モネ、ゴッガン、ボナール—遙かなる理想郷

(ア) 会期 令和5年7月1日(土)～8月27日(日)  
開催日数 51日

(イ) 分野 絵画、版画

(ウ) 展示数 69点

(エ) 主催 「ブルターニュの光と風」福島展実行委員会

[構成 福島県立美術館・福島テレビ・福島民報社]

後援 在日フランス大使館/アンスティチュ・フランセ日本、福島県、福島県教育委員会、福島市、福島市教育委員会、福島リビング新聞社

協力 福島交通

企画協力 (株) ホワイトインターナショナル

(オ) 観覧料 一般1,500(1,300)円、大学生1,000(800)円  
小・中・高校生600(500)円

※( )内は前売り券及び20名以上の団体料金

(カ) 観覧者数 24,050名

#### (キ) 概要

本展は、ブルターニュに所在するカンペール美術館の屈指の収蔵品を中心に、45作家による69点の油彩画・版画・素描を御紹介する展覧会である。フランス北西部のブルターニュ地方は印象派をはじめ、ポン＝タヴァン派、ナビ派などの新しい美術運動が生まれる契機となった地である。モネやボナール、ゴッガンといった著名な画家の作品とともに、これまであまり日本で紹介されてこなかった、それ以前のサロンの画家の海を描いた大作などもあり、美術と地域を結びつける内容が新鮮であった。(巡回先 SOMPO美術館、静岡市美術館、豊橋市美術館博物館、広島県立美術館)

#### (ク) 関連事業

・記念講演会

講師 千足 伸行(本展監修者・広島県立美術館長)

日時 7月2日(日)14時～15時

場所 美術館講堂

参加者数 120名

・ギャラリートーク

日時 7月22日(土)14時～15時

担当 橋本 恵里(学芸員) 72名

日時 7月29日(土)14時～15時

担当 濱田 洋亮(学芸員) 75名

日時 8月13日(日)14時～15時

担当 濱田 洋亮(学芸員) 20名

日時 8月20日(日)14時～15時

担当 橋本 恵里(学芸員) 35名

・アオウゼ出張レクチャー「ブルターニュの光と風展 見どころはここ！」

日時 7月14日(金)14時～15時

担当 橋本 恵里(学芸員) 参加60名

#### ウ 発掘された珠玉の名品 少女たち 夢と希望—そのはざままで—星野画廊コレクションより

(ア) 会期 令和5年9月23日(土・祝)～11月12日(日)  
開催日数 44日

(イ) 分野 日本画、洋画

(ウ) 展示数 121点

(エ) 主催 福島県立美術館

企画協力 青幻舎プロモーション

(オ) 観覧料 一般・大学生1,000(800)円  
高校生600(500)円  
小・中学生400(300)円

※( )内は20名以上の団体料金

(カ) 観覧者数 4,017名

(キ) 概要

星野画廊は星野桂三氏（1943～）により、1973年京都に開設された。ユニークな人柄と眼力で集められた作品は、有名無名を問わず、きらめく個性を放っている。京都日本画の個性派画家・岡本神草、秦テルヲや、浅井忠門下の画家たちなどを、次々と発掘、紹介した。中核をなす、時代の空気や情念をとらえた女性像の数々は、リアルな生気を宿している。話題作約121点の日本画・洋画作品による、初の星野コレクション本格的紹介展である。

（巡回先 京都文化博物館、新潟市美術館、高知県立美術館、呉市立美術館、三鷹市美術ギャラリー）

(ク) 関連事業

・特別ゲストトーク

講師 星野 桂三（星野画廊代表）

日時 10月8日（日）14時～16時

場所 企画展示室

参加者数 42名

・ギャラリートーク

日時 9月24日（日）14時～15時

担当 堀 宜雄（専門員）21名

日時 10月14日（土）14時～15時

担当 月本 寿彦（副主任学芸員）35名

日時 11月3日（金、祝）14時～15時

担当 堀 宜雄（専門員）17名

**エ 現代版画の小宇宙 金子コレクションから**

(ア) 会期 令和5年11月21日（火）～12月27日（水）

開催日数 31日

(イ) 分野 版画

(ウ) 展示数 258点

(エ) 主催 福島県立美術館

(オ) 観覧料 一般・大学生1,000(800)円

高校生600(500)円

小・中学生400(300)円

※（ ）内は20名以上の団体料金

(カ) 観覧者数 2,484名

(キ) 概要

福島県伊達市出身の精神科医・金子元久氏は、現代日本版画や蔵書票の収集家としても知られている。当館では2022年度に同氏から130作品の寄贈に加え、400点以上の作品の寄託を受けた。なかでも木版画家・黒崎彰の作品は90点にも上り、初期から晩年まで彼の作風をたどることができる貴重なコレクションと言える。

本展は黒崎彰に加え、木口木版画家・柄澤齊や銅版画家・北川健次、日本の現代美術のひとつの動向である「もの派」を主導した李禹煥など、戦後の日本版画界を代表する作家から、シャガールのポスターまで、258点の作品を通して、同氏のコレクションの全貌に迫った。

(ク) 関連事業

・講演会 「現代版画入門—金子コレクションから—」

講師 三木 哲夫（兵庫陶芸美術館長）

日時 12月17日（日）14時～15時30分

参加者数 50名

・ギャラリートーク

講師 坂本 篤史（主任学芸員）

日時 12月9日（土）14時～15時

参加者数 20名

**オ 福島アートアニュアル2024 二次の彼方に**

(ア) 会期 令和6年2月3日（土）～3月3日（日）

開催日数 26日

(イ) 分野 絵画

(ウ) 展示数 約50点

(エ) 主催 福島県立美術館

(オ) 観覧料 一般・大学生400(300)円

高校生200(100)円

小・中学生100(50)円

※（ ）内は20名以上の団体料金

(カ) 観覧者数 2,881名

(キ) 概要

福島県出身・ゆかりの若手作家を紹介するシリーズ企画の第3回展。近年、特にオンライン・コミュニティにおいてマンガ、アニメやゲームなどの影響を受けた二次元キャラクターを題材とする絵画作品が大きな注目を集めている。本展では安齋菜由（1999年二本松市出身）、ク渦群（1993年南相馬市生まれ）、高木ちやー（1997年福島市生まれ）の3名を取り上げ、現代絵画における二次元コンテンツの影響と創作への可能性について考察を試みた。

(ク) 関連事業

・出品作家によるギャラリートーク

日時 令和6年2月10日（土）14時～15時

参加者数 87名

**カ 美人画の雪月花 培広庵コレクション展**

(ア) 会期 令和6年3月23日（土）～5月12日（日）

開催日数 44日（令和5年度は8日）

(イ) 分野 日本画

(ウ) 展示数 約160点

(エ) 主催 福島県立美術館

特別協力 培広庵

企画協力 ヤマト運輸株式会社

(オ) 観覧料 一般・大学生1,000(800)円

高校・大学生600(500)円

小・中学生400(300)円

※（ ）内は20名以上の団体料金

(カ) 観覧者数 5,524人

(キ) 概要

本展は、長い年月と情熱をかけて「美人画」を蒐集してきた培広庵氏のコレクションから、上村松園や北野恒富、島成園、土田麦僊、菊池契月ら京都大阪の画家や、浮世絵の流れをくむ鏑木清方や門下の伊東深水、山川秀峰ら、東西美人画の名品160点を特別公開する。大正から

昭和初期の、「夢二美人」に代表されるどこか憂いを含んだ女性像や、モダンなライフスタイルを反映した「新しい女」たちの様子が垣間見られ、展覧会をとおして時代と世相、女性美の変化を楽しめる内容となっている。

(ク) 関連事業

・ギャラリートーク

講師 月本 寿彦 (副主任学芸員)

日時 令和6年3月24日(日) 13時30分～14時30分

参加者数 37人

(4) 動画配信等による情報発信

展覧会や教育普及事業など、美術館の事業を幅広い世代へ即時効果的に発信するため、広報印刷物の発行のほか、ホームページ、ブログ、ツイッター、YouTube、教育委員会公式noteなど、SNSを活用した情報発信を行っている。

広報印刷物 ミュージアムカレンダー、「美術館NEWS」年6回、美術館年報、企画展ポスター・チラシ等

SNS発信 ブログ投稿 15回(常設展示、教育普及事業の紹介)、YouTube動画7本(企画展の紹介)等、X(旧Twitter)フォロワー1,864人、Instagram(令和5年9月開設)フォロワー598人

4 調査研究事業

調査研究は美術館活動の基礎をなし、また広く県民に対して美術の情報センター機能を果たすためにデータ集積が欠かせない。県内外の美術家や作品の調査、教育普及、保存、展示等の調査を継続的に実施している。

今年度は県内の美術品調査と、県内出身作家やゆかりの作家、収蔵作家の調査を重点的に行った。

5 教育普及事業

美術をより深く知る喜びを得る機会を提供する事業として、さまざまな講座を開催している。また、つくる楽しみを経験する契機として、各種の実技講座や、学校と連携しての出張講座等を行っている。

(1) 館内解説

学校や公民館その他の団体での鑑賞者のために、鑑賞前に学芸員が美術館の概要、鑑賞マナー、代表的な収蔵作品の解説、常設展示や企画展示の概要等のガイダンスを行っている。

令和5年度の受入団体総数80団体2,410人で、そのうち解説を行ったのは34団体1,309人である(令和6年1月31日現在)。

(2) 鑑賞講座

芸術鑑賞講座 「名画との対話」

講師 早川 博明(当館元館長)

場所 講堂

第1回「ウィリアム・ターナー」

日時 令和5年8月19日(土) 10時30分～12時

参加者数 61名

第2回「カスパー・フリードリヒ」

日時 令和5年10月14日(土) 10時30分～12時

参加者数 50名

第3回「フランシスコ・デ・ゴヤ」

日時 令和5年12月9日(土) 10時30分～12時

参加者数 36名

第4回「ウジェーヌ・ドラクロワ」

日時 令和6年3月30日(土) 10時30分～12時

参加者数 60名

(3) 創作プログラム

実技教室は、広く県民各層の美術に関する関心をふまえ、美術の創作と鑑賞の一助とする目的で、子どもから大人まで幅広い対象に応じたプログラムを実施している。

ア 「名画でつくろうマグネット」(「美をつくし展」関連)

講師 齋藤 恵(主任学芸員)、白木 ゆう美(副主任学芸員)

日時 令和5年 ①4月29日(土・祝)

②5月14日(日)

場所 エントランスホール

参加者数 ①34名、②39名

イ 「音の風景—心象表現を楽しもう—」

講師 福田 美里(作家)

日時 令和5年5月13日(土) 9時40分～12時10分

場所 実習室、庭園

参加者数 7名

ウ 「オリジナルマグネットをつくろう！」(「ブルターニュの光と風展」関連)

講師 齋藤 恵(主任学芸員)、白木 ゆう美(副主任学芸員)

日時 令和5年

①7月9日(日) 10時30分～12時

②8月5日(土) 14時30分～16時30分

③8月16日(水) 10時30分～12時

④8月27日(日) 10時～11時30分

場所 エントランスホール

① 42名 ②39名 ③55名 ④50名

エ 「光を描く～メゾチント体験～」

講師 安部 直人(版画家、当館収蔵作家)

日時 令和5年7月16日(日)、22日(土)、23日(日)

※3日間で1講座

場所 実習室

参加者数 8名

オ 「彫刻ってなんだ！？—石膏型で彫刻をつくろう—」

講師 對木 裕里(現代作家)

日時 令和5年7月29日(土) 10時～15時

場所 実習室、庭園

参加者数 17名

カ 「“までい”な花—飯館村の美しい自然を表現しよう」

<NPO法人ふくしま再生の会との共催>

講師 酒百 宏一（美術作家・東京工科大学教授）

日時 令和5年9月24日(日) ①10時～12時  
②14時～16時

場所 エントランスホール

参加者数 ①10名 ②7名

キ 「《歩く花》のともだちをつくろう！」

講師 齋藤 恵（主任学芸員）、白木 ゆう美（副主任学芸員）

日時 令和5年10月15日(日) 10時～15時

場所 実習室

参加者数 3名

ク 「消しゴムはんこで年賀状をつくろう」（「現代版画の小宇宙展」関連）

講師 齋藤 恵（主任学芸員）、白木 ゆう美（副主任学芸員）

日時 令和5年11月25日(土) 9時45分～12時15分

場所 実習室

参加者数 8名

ケ 「架空の自分の本『最期にこれを食べたい』のカバーの絵を描こう」

講師 コーチはじめ（イラストレーター）

日時 令和5年12月2日(土) 10時30分～15時30分

場所 実習室

参加者数 9名

コ 「年賀状づくりコーナー（特設ワークショップ）」

日時 令和5年11月28日(火)～12月27日(水)

場所 エントランスホール

参加者数 267名

サ 「彫刻家になってみよう！叩き鑿を五感で味わおう」

講師 佐藤 忠博（彫刻家）

日時 令和6年2月17日(土)10時～15時

場所 エントランスホール

参加者数 16名

#### (4) 美術館への年賀状展

県内の小・中・高校生から寄せられた手作り年賀状をすべてエントランスホールに展示した。

- ・会期 令和6年1月12日(金)～1月31日(水)
- ・応募総数 188通
- ・観覧者数 718名

#### (5) 美術館・学校教育連携事業

ア 学校連携共同ワークショップ

学校からの要望をもとに平成15年度より実施している連携事業。子どもたちが作家と触れ合う生の機会として、作家・学校・美術館の共同による創作活動を中心にした「出張ワークショップ」を開催している。この事業により相互の協力関係を密にし、新鮮な体験を通して子どもたちの美術や美術館への関心を高めるとともに、通常は美術館を利用しにくい地域へも文化事業の還元を図る。

令和5年度は、小学校・中学校・高等学校・特別支援学校・適応指導教室・生涯学習センター合わせて10校（参加者延べ248名）で開催した。ワークショップで制作した作品は、令和6年2月10日(土)～2月25日(日)の期

間、当館企画展示室Bにおいて、活動中のスナップ写真とあわせて展示した。

(ア) 講師 FRIDAY SCREEN（アートユニット）

プログラム凸凹テキスト（でこぼこてきすと）

内容 身の周りに溢れている「文字」をテーマにしたワークショップ。グラフィックデザインの発想から造形までを経験する内容。

開催校・人数

須賀川市立岩瀬中学校（1年生）

令和5年10月4日(水) 36名

郡山ザベリオ学園小学校（1年生）

令和5年10月5日(木) 26名

福島市教育委員会教育研修課（ふれあい教室）

令和5年10月20日(金) 5名

福島市教育委員会教育研修課（ふれあい教室）

令和5年11月9日(木) 6名

福島市教育委員会教育研修課（ふれあい教室）

令和5年11月10日(金) 6名

郡山市立日和田中学校（美術部）

令和5年11月11日(土) 7名

郡山市立御館中学校（1・2年生）

令和5年11月13日(月) 26名

会津美里町本郷生涯学習センター（年中～6年生）

令和5年12月16日(土) 25名

(イ) 講師 よしもと みか（移動絵本図書館 みず文庫）

プログラム 私の「いま」を色と形で表現してみよう。

内容 子どもたちと日々触れ合っている先生から実態を聞き、それぞれにあった素材と画材を選んで色と形を表現するワークショップ。

開催校・人数

福島県立いわき支援学校くぼた校（高等部1年生）

令和5年10月19日(木) 12名

小野町立小野小学校（6年生）

令和5年11月2日(木) 65名

福島県立富岡支援学校（小学部1～6年生）

令和5年11月16日(木) 20名

福島県立伊達高等学校（美術部）

令和5年11月30日(木) 14名

イ 先生と考える美術館ミーティング

小学校図画工作、中学校・高等学校美術の鑑賞指導について、講座を開催する福島県教育センターと連携しながら、学校における美術館の活用方法を考える。

令和5年度は、下記のとおり講座を開催した。

日時 令和5年11月1日(水) 9時50分～16時

場所 福島県立美術館

講義・演習「学校と美術館の連携活動について」

演習・協議「感性を働かせるプログラム」

講義・演習「鑑賞教育のこれから」

講師 梅野 史代（教育センター指導主事）、

齋藤 恵（主任学芸員）、

上野 行一（美術による学び研究会 代表）  
参加者 小学校教諭 3名、中学校教諭 4名、特別支援  
学校教諭 4名、特別支援学校教諭 1名 計 12名

## (6) 博物館実習

学芸員資格取得のため当館での実習を希望する大学生を  
受け入れ、カリキュラムを組んで指導を行った。

日時 令和5年8月22日(火)～8月27日(日)

受講者数 5名

## (7) 「中学生ドリームアップ事業」職場体験活動

日時 令和5年7月4日(火)～7月6日(木)

平野中学校 2年生 6名

## (8) 「福島県高等学校文芸研修会」生徒作品展

県内の文芸部に所属する高校生を対象に、創作活動の技  
術力向上や、生徒同士で交流し、創作技法などについて意  
見を交換し合うことを目的として研修会が開催された。当  
館の「第Ⅲ期コレクション」の展示作品をみて、詩、短歌、  
俳句を創作するワークショップが行われた。常設展示室で、  
生徒が創作に選んだ展示作品の近くに、手書きの生徒作品  
カードを掲示した。

参加校 東日本国際大学附属昌平高等学校、福島県立会津  
学鳳高等学校、福島県立安積高等学校、福島県立  
安積黎明高等学校、福島県立郡山東高等学校、福  
島県立須賀川創英館高等学校、福島県立橘高等学  
校、福島県立福島西高等学校 8校

参加人数 高校1～3年生 38名

## (9) 県立図書館との連携事業

「アートなおはなしかい」（「眼にうつる詩展」関連）

幼稚園児・小学生とその保護者を対象にした、図書館の  
「よみかかせ」と美術館の「鑑賞と工作のワークショップ」  
を連携させた「アートなおはなしかい」を、平成18年度か  
ら継続実施している。

日時 令和5年6月17日(土)14時～15時30分

場所 福島県立図書館、福島県立美術館

参加者数 17名

## 6 館外連携

県内外の関係機関等と連携・協力して、芸術文化活動の質の  
向上、県民の美術に対する知識及び教養の向上、地域の活性  
化に取り組んでいる。

令和5年度においても、関係団体との連携事業を実施する  
とともに、他機関からの要請に応じて委員会委員や講師等と  
して学芸員を派遣し、専門的事項に関する助言・協力を行った。

### (1) 友の会、協力会との連携事業

令和5年度に友の会や協力会と実施した連携事業は次の  
とおりである。

ア 触って、話して、見て楽しむ美術鑑賞ワークショップ

<NPO法人福島県立美術館協力会との共催>

日時 令和5年10月28日(土)

①10時30分～12時、②14時～15時30分

場所 常設展示室

講師 白木 ゆう美(副主任学芸員)、橋本 恵里(学  
芸員)、齋藤 恵(主任学芸員)、濱田 洋亮(学  
芸員)、高橋 肅子(福島県点字図書館)

参加者数 ①11名 ②7名 計18名

イ アートチャリティーバザー

<福島県立美術館友の会の主催>

友の会会員や美術館関係者が美術工芸品、美術図書、  
図録、ミュージアムグッズなどを持ち寄り、バザーを実  
施した。

日時：令和5年12月10日(日) 9時30分～12時

場所 エントランスホール

参加者 250名

ウ ミュージアム・コンサート

<NPO法人福島県立美術館協力会、福島県立美術館友の会との共催>

日時 令和6年2月25日(日) 14時～15時

場所 エントランスホール

出演 松尾 沙樹(ヴァイオリン)、後藤 泉(ピアノ)

参加者 300名

エ アートカード『ぼけっとアート』貸出

平成29年4月から、当館所蔵作品80点をカード形式  
にした鑑賞補助教材『ぼけっとアート』の貸出を継続し  
て行っている。今年度の貸出総数は、小学校、中学校、高  
校、その他教育関係機関を含め、170カ所、855セットで  
ある(令和6年1月31日現在)。

オ アートカード関連事業

県立葵高等学校の浦埜好美教諭による美術Ⅱの授業で  
は、「勝手に美術館応援プロジェクト」と題し、アートカ  
ードを活用して美術館を応援する図柄をデザインし、シ  
ルクスクリーンにてエコバッグを制作している。この授  
業で制作した生徒37名の作品を展示した。

会期 令和5年12月5日(火)～12月27日(水)

場所 美術館エントランスホール

### (2) 文化財保護(レスキュー)活動

災害時においては、県内の美術作品を中心として文化財  
の被災情報を収集し、関係機関と連携しながら、作品保全  
のための活動を行うこととしている。

能登地震の被害状況についても全国美術館会議を通じて情報  
収集しており、可能な範囲で協力する予定である。

### (3) 他機関への協力

他機関からの要請に応じて委員会委員や講師等として学芸員  
を派遣し、専門的事項に関する助言・協力を行っている。

ア 委員等

・福島ユニセフ協会評議員 根本 和代 館長

・福島市文化振興審議会委員 根本 和代 館長

・斎藤清画伯顕彰協議会特別幹事

根本 和代 館長、増渕 鏡子 副館長心得兼学芸課長

・福島県総合美術展覧会運営委員

増渕 鏡子 副館長心得兼学芸課長

- ・第77回福島県総合美術展覧会大賞選考委員  
増淵 鏡子 副館長心得兼学芸課長
- ・県外在住功労者知事表彰選考委員  
増淵 鏡子 副館長心得兼学芸課長
- ・宇都宮美術館美術作品等収集評価委員会委員  
増淵 鏡子 副館長心得兼学芸課長
- ・新潟市美術館・新津美術館美術資料選定委員委員  
増淵 鏡子 副館長心得兼学芸課長
- ・喜多方市美術品収集委員会委員  
増淵 鏡子 副館長心得兼学芸課長
- ・倫雅美術奨励賞選考委員 増淵 鏡子 副館長心得兼学芸課長
- ・第21回猪苗代湖・裏磐梯湖沼フォトコンテスト審査委員  
坂本 篤史 主任学芸員
- ・茅ヶ崎市美術館「生誕100年没後60年小津安二郎展」協力  
月本 寿彦 副主任学芸員
- ・福島市写真美術館運営委員会委員  
白木 ゆう美 副主任学芸員
- ・第18回西会津国際芸術村公募展審査員  
坂本 篤史 主任学芸員
- ・FUKUSHIMA Next Creators Challenge 2023 予備審査会  
齋藤 恵 主任学芸員
- イ 講師派遣、寄稿、発表、受賞等
- ・福島県立医科大学保健科学部「福島県を知る」  
開催日 令和5年5月10日(水)  
講師 増淵 鏡子 副館長心得兼学芸課長  
宮武 弘 主任学芸員
- ・福島市アクティブシニアセンター・アオウゼ主催イベント  
「《大人の遠足》芸術の初夏！美術館と図書館を探検しよう！」  
開催日 令和5年5月10日(水)  
講師 橋本 恵里 学芸員
- ・令和5年度 福島県高等学校教育研究会美術・工芸部  
会「第68回研究大会」  
前期 令和5年6月9日(金)、  
後期 令和5年10月6日(金)  
講師 齋藤 恵 主任学芸員
- ・江東区立東川小学校開校150周年特別授業「おしえて！  
関根くん！」  
開催日 令和5年6月16日(金)  
講師 堀 宜雄 専門員
- ・フォーラム福島トークイベント「美術館の裏側」  
（「わたしたちの国立西洋美術館」上映記念）  
開催日 令和5年9月23日(土・祝)  
講師 坂本 篤史 主任学芸員
- ・県教育センター主催「創造性を育む図画工作・美術の  
鑑賞指導法講座」  
開催日 令和5年11月1日(水)  
講師 齋藤 恵 主任学芸員  
白木 ゆう美 副主任学芸員
- ・福島市文化団体連絡協議会主催「市長を囲む文化懇談

会」講演会講師

開催日 令和6年2月14日(水)

講師 根本 和代 館長

- ・第34回倫雅美術奨励賞受賞 坂本 篤史 主任学芸員  
「没後200年 亜欧堂 田善 江戸の洋風画家・創造  
の軌跡」の企画および図録中の論文

## 第13節 福島県立博物館

### 1 概要

福島県立博物館は、資料収集・展示・調査研究・教育普及  
事業を中心に、内容の充実を図っている。

令和5年度の博物館活動の概要は次のとおりである。

#### (1) 運営協議会

博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長  
に対して意見を述べる機関である。

##### ア 運営協議会委員

学校教育及び社会教育の関係者並びに学識経験のある  
者10名に委嘱している。平成13年1月からは、委員の  
選考に一部公募方式を導入した。

学校教育 高橋 由江 会津若松市立神指小学校長

本田 知史 福島県立だて支援学校校長

社会教育 長野 隆人（会長） いわき芸術文化交流館副館長

佐藤 公（副会長） 磐梯山噴火記念館館長

家庭教育 長沼 千恵 福島県家庭教育インストラクタ  
一連絡協議会理事

学識経験者 川口 立喜 公立大学法人会津大学グロー  
バル推進本部国際戦略室長・上級准教授

四家 久央 合名会社四家酒造店代表社員

大越 章子 日々の新聞社記者

岩崎 和美 書道家

公 募 町田 久次 公募委員

##### イ 会議

第1回 令和5年6月20日(火)

##### 議題

- ①令和4年度博物館入館者数について
- ②県立博物館・鶴ヶ城天守閣・茶室麟閣共通観覧券の導入について
- ③博物館法の改正について
- ④令和5年度当初予算について
- ⑤令和5年度事業計画について
- ⑥第3期中期目標の進捗状況について
- ⑦「三の丸からプロジェクト」について
- ⑧博物館が抱える課題について

第2回 令和6年2月28日(水)

##### 議題

- ①令和6年度事業計画（案）について
- ②令和6年度文化観光拠点施設機能強化事業「三の丸  
からプロジェクト」事業計画（案）について
- ③博物館が抱える課題（収蔵庫の逼迫）について
- ④第4期中期目標の進捗状況について

## 2 資料収集事業

### (1) 収集展示委員会

- ア 収集展示委員会委員  
館の収集資料、企画展の計画等についての審議のため、12人を委嘱している。

#### 福島県立博物館収集展示委員会 委員名簿

| 氏名     | 役職名                           | 備考   |
|--------|-------------------------------|------|
| 村川 友彦  | 福島県史学会会長、元福島県歴史資料館課長          | 委員長  |
| 岡田 清一  | 東北福祉大学名誉教授                    | 副委員長 |
| 青野 友哉  | 東北芸術工科大学芸術学部歴史遺産学科准教授         |      |
| 大石 雅之  | 岩手県立博物館研究協力員、東北大学総合学術博物館協力研究員 |      |
| 奥村 弘   | 神戸大学理事・副学長                    |      |
| 加藤 幸治  | 武蔵野美術大学教養文化・学芸員課程教授           |      |
| 北野 博司  | 東北芸術工科大学芸術学部歴史遺産学科教授          |      |
| 角屋 由美子 | 米沢市上杉博物館上杉文化研究室室長             |      |
| 玉川 一郎  | 前 福島県考古学会会長                   |      |
| 原田 一敏  | ふくやま美術館長                      |      |
| 三上 喜孝  | 国立歴史民俗博物館教授                   |      |
| 柳沢 秀行  | 公益財団法人大原美術館学芸統括               |      |

#### イ 会議

新型コロナウイルス感染症の5類感染症への移行に伴い拡大状況に応じた対策を行うため、対面開催・オンライン開催を組み合わせた開催方法とした。

開催日 令和5年7月26日(水)

#### 議題

- ①今後3年間の展示計画について
- ②令和6年度・令和7年度開催予定企画展について
- ③購入予定資料について
- ④「博物館資料展示活用アウトリーチ事業」について
- ⑤「三の丸からプロジェクト」について
- ⑥震災遺産の常設展示化について

### (2) 受贈・受託

#### ア 歴史資料

- (ア) 受贈 軍事郵便ほか 計25件  
(イ) 受託 会津藩家訓写真原版ほか 計15件

#### イ 美術資料

- (ア) 受贈 秋草蒔絵盆ほか 計155件  
(イ) 受託 木造吉祥天立像ほか 計10件

#### ウ 民俗資料

- (ア) 受贈 行李ほか 計69件  
(イ) 受託 映写機・フィルムほか 計41件

#### エ 考古資料

- (ア) 受贈 須恵器ほか 計2件  
(イ) 受託 個人収集考古資料・古文書 計41件

#### オ 自然資料

- (ア) 受贈 いわき市産白亜紀化石 1件  
(イ) 受託 宮古層群産アンモナイト 1件

#### カ 災害分野

- (ア) 受贈 富岡は負けん! (横断幕) 1件

### (3) 購入

- ア 美術資料  
佐竹永海作「大黒天図」 1件  
イ 自然資料  
恐竜類レプリカ 7件  
ウ 図書資料  
(ア) 一般図書 29冊  
(イ) 定期刊行物 30種

### (4) 制作

- ア 民俗資料  
「田島祇園祭の本膳」食品サンプルほか 計5件

## 3 保存管理事業

### (1) 資料の收藏

#### ア 博物館資料

資料受入れ時点における收藏資料件数の、現在までの累計を示す。件数は概数であり、「一括」で受け入れた資料は1件と数える。

收藏資料数 (令和6年3月31日現在)

| 分野   | 件数      | 備考                 |
|------|---------|--------------------|
| 考古   | 21,073  | 土器・石器・金属器ほか        |
| 民俗   | 14,275  | 生活・生業・交通・信仰・芸能用具ほか |
| 歴史   | 22,718  | 書籍・文書資料ほか          |
| 美術   | 7,579   | 絵画・彫刻・工芸資料ほか       |
| 自然   | 44,565  | 化石・岩石・鉱物ほか         |
| 震災遺産 | 637     | 被災遺物、文書資料、写真ほか     |
| 合計   | 110,847 |                    |

令和5年度收藏指定文化財 国指定：9件  
福島県指定：46件

#### イ 図書及び映像

(ア) 收藏図書数 (令和6年3月31日現在)

考古分野 30,069冊 民俗分野 5,171冊  
歴史分野 11,197冊 美術分野 4,985冊  
自然分野 17,987冊 保存分野 1,967冊  
震災遺産 207冊 その他 65,668冊  
合計 137,251冊

(イ) 收藏映像資料数 (令和6年3月31日現在)

收藏映像資料総数 1,920点

### (2) 登録・整理

#### ア 資料管理システムの運用

平成25年度から、それまでのサーバクライアント方式による資料管理システムに換えて、新たにASP方式の博物館資料管理専用システムである早稲田システム開発株式会社製 I.B. Museum SaaS を導入している。

イ 資料の登録・資料情報の外部公開

登録資料数・資料情報の外部公開数

(令和6年3月31日現在)

| 資料類別   | 登録資料<br>(令和5年度) | 登録資料<br>(累計) | 資料情報の外部公開<br>(令和5年度) | 資料情報の外部公開<br>(累計) |
|--------|-----------------|--------------|----------------------|-------------------|
| 考古資料類  | 238             | 12,829       | 82                   | 4,500             |
| 民俗資料類  | 8,077           | 24,730       | 7,249                | 14,274            |
| 歴史資料類  | 0               | 47,036       | 2,529                | 20,800            |
| 美術工芸品類 | 397             | 7,568        | 0                    | 194               |
| 自然標本類  | 3,051           | 29,877       | 2,533                | 19,074            |
| 合計     | 11,763          | 122,040      | 12,393               | 58,842            |

ウ ボランティア

博物館資料の整理のため、次のとおり資料整理ボランティアを受け入れ、資料の整理を行った。前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大防止により、ボランティア活動日が減った。

(ア) 自然資料整理

相馬中村層群資料の整理作業

登録人数 1名 活動日数 42日

(イ) 古文書整理

歴史資料の整理作業(表題・年代・法量などのデータ採取) 登録人数 13名 活動日数 11日

(ウ) 民俗資料整理

写真資料の整理

登録人数 2名 活動日数 9日

(エ) 考古資料整理

寄贈資料の整理・撮影

登録人数 1名 活動日数 18日

(オ) 美術資料整理

会津工業高校旧蔵資料整理作業

登録人数 1名 活動日数 62日

(3) 貸出

ア 博物館資料

貸出資料一覧

| 資料名                                                | 貸出先                | 貸出期間                     | 展覧会名                               |
|----------------------------------------------------|--------------------|--------------------------|------------------------------------|
| 郡山市熱海町出土ナウマンゾウ臼歯(レプリカ) 1点                          | 大安場史跡公園            | 令和5年4月1日～<br>令和6年3月31日   | 常設展                                |
| 跡見塚古墳出土土玉類 318点                                    | 須賀川市立博物館           | 令和5年4月1日～<br>令和6年3月31日   | 常設展                                |
| 桜井遺跡出土土器ならびに石器 21点                                 | 南相馬市博物館            | 令和5年4月1日～<br>令和6年3月31日   | 常設展                                |
| 十二天図(慧日寺旧蔵)旧軸木 正徳6年銘 1点<br>十二天図(慧日寺旧蔵)旧軸木 文政9年銘 1点 | 磐梯町磐梯山<br>慧日寺資料館   | 令和5年4月5日～<br>12月1日       | 常設展                                |
| 源氏物語図屏風 六曲一隻                                       | 新潟県立歴史博物館          | 令和5年6月～9月                | 企画展「NST開局55周年 上杉景勝没後400年 上杉景勝その生涯」 |
| 張り子 32点<br>だるま木型 2点                                | とみおかアーカイブ・ミュージアム   | 令和5年6月28日～<br>9月30日      | 企画展「ふくしまの張り子」                      |
| 正直9号墳出土石製模造品 2点                                    | 大安場史跡公園            | 令和5年7月3日～<br>9月15日       | 企画展「福島県における古墳出土石製祭祀遺物」             |
| 原山1号墳出土踊る埴輪1点、琴を弾く埴輪1点                             | 東北歴史博物館            | 令和5年7月9日～<br>10月8日       | 特別展「古墳をつくる人びとーはにわ工人、ハジベ君!ー」        |
| 谷文晁筆「八仙人図」三幅                                       | 栃木県立美術館            | 令和5年10月4日～<br>12月26日     | 企画展「文晁と北斎」                         |
| 黒釉鉢 1点、黒釉湯たんぼ(当館寄託) 1点<br>黒釉壺(当館寄託) 1点             | いわき市立美術館           | 令和5年10月17日～<br>12月22日    | 企画展「民藝 MINGEIー美は暮らしのなかにある」         |
| 菊漆絵堤重 1点、藤蒔絵堤重 1基<br>坂内青嵐筆「花見遊楽図」 1面               | 郡山市立美術館            | 令和5年10月27日～<br>令和6年1月30日 | 企画展「酒と醸す美術展」                       |
| 阿弥陀二十五菩薩来迎図(当館寄託) 1幅                               | 府中市美術館             | 令和6年2月23日～<br>5月28日      | 企画展「ほとけの国の美術」                      |
| 刺繍阿弥陀名号 1幅                                         | 東京国立博物館<br>京都国立博物館 | 令和6年3月22日～<br>12月末日      | 特別展「法然と極楽浄土」                       |

#### イ 写真資料

総数：82件 208点

考古：16件 48点 民俗：7件 16件

歴史：34件 62点 美術：25件 34件

#### (4) 保存

収蔵資料を適切に保存するため、収蔵庫及び展示室など主要箇所での保存環境の定期調査、新規収蔵資料の生物被害防除を実施している。

##### ア 保存環境調査

常設展示室・収蔵資料展示室・企画展示室、収蔵庫（一時、第1～第6収蔵庫）など主要なスペースの保存環境を6月と10月の年2回調査した。

##### イ 生物被害防除

7月に1回、新収蔵資料などを対象にエキヒュームSを用いた文化財燻蒸を実施した。

## 4 展示事業

### (1) 常設展示

総合展示と部門展示からなる。総合展示は、原始から現代までの福島県の歴史を通観し、人々の暮らしを時系列に沿って展示している。原始・古代・中世・近世・近現代・自然と人間の6つのテーマで構成される。分野別の展示は、テーマ性の高い専門的な展示であり、民俗・自然・考古・歴史美術の展示に分かれる。

令和6年2月22日以降、排煙設備不具合のため総合展示室は閉室としている。

##### ア 常設展示室の改善

「三の丸からプロジェクト」におけるインバウンド対応として、分野別展示室の小テーマ解説・展示資料解説（キャプション）の多言語化を進めている。また、展示ロビーを「三の丸アベニュー」として整備した。三の丸アベニューにはあいづスタジアム、分野別展示室（民俗）入口にグラフィックマップ「いま・むかし奥会津めぐり」「鶴ヶ城・城下町年表」を設置した。

##### イ テーマ展

常設展示室内において、特定のテーマを設定した小・中規模展示を「テーマ展」として全10回開催した。

- (ア) 「よみがえる会津大塚山古墳」
- (イ) 「花をたずねて—会津ゆかりの漆芸家たち—」
- (ウ) 「会津唐人風の世界」
- (エ) 「けんぱくの宝—会津の絵画 寄贈作品を中心に—」
- (オ) 「祈りのふくしま7—会津の神様 小平瀨天神と土津神君—」
- (カ) 「三島町荒屋敷遺跡を考える」
- (キ) 「地域に生きた民間宗教者」
- (ク) 「四季のうつろい」
- (ケ) 「手仕事が生む花—ふくしまの彼岸花—」
- (コ) 「美しき刃たち」

##### ウ ポイント展

常設展示室内及びエントランスホールにおいて、特

定資料の公開を目的とした小規模展示を「ポイント展」として全16回開催した。

- (ア) 「これは何の化石？」
- (イ) 「伝える—新型コロナウイルス感染症関連資料—」
- (ウ) 「猪苗代城絵図」
- (エ) 「ニワトリのなかの恐竜」
- (オ) 「慧日寺の宝物」
- (カ) 「軍事郵便が繋いだ絆」
- (キ) 「都々古別神社の宝物」
- (ク) 「みんなの震災遺産」
- (ケ) 「山川艶—会津藩家老・山川家を支えた女性—」
- (コ) 「写真でみる関東大震災」
- (サ) 「古代官道をゆく」
- (シ) 「若松が大変！城下町と災害」
- (ス) 「民具が伝える災害の記憶」
- (セ) 「山頂の前期古墳—会津若松市堂ヶ作山古墳—」
- (ソ) 「発見！日本初の種類のオウムガイ類化石」
- (タ) 「いいたてミュージアム」
- (チ) 「震災遺産を考える」

### (2) 企画展示

歴史・美術・民俗・考古・自然・災害の各分野が単独もしくは協力し企画した館のオリジナルなテーマに基づいた展示を中心に、会期を設定して開催している。令和5年度は、3本の企画展示を開催した。

##### ア 春の企画展

「Go!Go! 5世紀—東北地方中・南部の古墳文化—」

(ア) 会期 令和5年4月29日(土)～7月2日(日)

開館日数 57日間

- (イ) 会場 企画展示室
- (ウ) 入館者数 6,035人
- (エ) 担当学芸員 考古分野：平澤 慎
- (オ) 趣旨

5世紀とは日本最大の古墳、大仙古墳を含む「百舌鳥・古市古墳群」が造られ、中国大陸や朝鮮半島をはじめとする東アジアと密接に関わり、当時の日本に生活様式の変化など大きな影響を与えた激動の時期であった。ふくしまでもこの時期の古墳や集落遺跡が発見されているが、未だ謎が多い。しかし、喜多方市の灰塚山古墳では出土人骨から科学分析で当時の姿が復元されるなど、近年新たな成果も続いている。

本展では、4世紀後半から5世紀後半までの「古墳時代中期」に焦点をあて、ふくしまを中心に近年の発掘調査成果や新たな出土資料、これまでに知られている資料をとおして、改めてふくしま、東北のこの時代を生きた人々に迫った。

##### (カ) 展示構成

- a 古墳時代中期のはじまり
- b 王者のすがた—古墳文化の拡大—
- c 開拓する—ムラをつくる、ひろげる—
- d 暮らしを支えた道具たち—つくる・つかう・いのる—

(キ) 関連事業

a 展示解説会

4月29日(土・祝)・5月13日(土)・5月20日(土)  
6月18日(日)・7月2日(日)

b 古墳時代のヨロイを着てみよう

5月5日(金・祝)

c 記念講演会「埴輪からわかる東北の5世紀」

5月14日(日)

講師 藤澤 敦(東北大学総合学術博物館教授)

d まじないの道具 石製模造品をつくろう

6月3日(土)

イ 夏の企画展

「仕事が仕事をしている仕事 ―福島のものづくり  
と民藝―」

(ア) 会期 令和5年7月15日(土)～9月24日(日)

開館日数 62日間

(イ) 会場 企画展示室

(ウ) 主催 福島県立博物館

(エ) 入館者数 4,565人

(オ) 担当学芸員 美術分野:塚本 麻衣子、原 恵理子  
民俗分野:山口 拓

(カ) 趣旨

本県には手仕事によるものづくりの文化が根付いており、生活の中で受け継がれてきた。こうした暮らしの中の手仕事の魅力を紹介することを通じて、地域の文化を再発見すること、持続可能な社会のあり方を発信することを目指した。

本展では、民藝運動によって「発見」された手仕事の数々を取り上げ、どのような評価がされたのかを概観した。一方、市井の人々が暮らしの必要性の中で作り出した手仕事を展示することで、作り手にとっての「うつくしき」や「よるこび」の価値を考えた。

これによって、手仕事の価値を考え、現代の生活のあり方について考えるきっかけとなる展覧会を目指した。

(キ) 展示構成

a 仕事が仕事をしている仕事

b 民藝と民具

c 民藝とは何か

d 手仕事のうつくしき

(ク) 関連事業

a 講演会「作るのではなく、生まれる」

8月19日(土)

講師 鞍田 崇(哲学者/明治大学准教授)

b ワークショップ「ほうきをつくろう」

9月9日(土)

講師 宮原 克人(筑波大学准教授)

c からむし織体験生30周年記念事業「からむしと仕事道具、作品展」

8月26日(土)～9月10日(日)

主催:昭和村、共催:福島県立博物館

d 展示解説会

7月15日(土)、8月12日(土)、8月27日(日)、  
9月23日(土・祝)

ウ 秋の企画展「伝える―災害の記憶―」

(ア) 会期 令和5年10月7日(土)～12月17日(日)

開館日数 61日間

(イ) 会場 企画展示室

(ウ) 主催 福島県立博物館

(エ) 入館者数 2,878人

(オ) 担当学芸員 災害分野:筑波 匡介、鈴木 弥生

(カ) 趣旨

関東大震災から100年の節目の年に、大正後期から戦前期にかけ同和火災海上保険(現あいおいニッセイ同和損保株式会社)の廣瀬鍼太郎氏が収集した「あいおいニッセイ同和損保所蔵災害資料」を紹介する展示会。18世紀から20世紀初頭に全国で発生した火災・台風・地震・疫病などによる各災害をほぼ網羅したもので、これらの記録は、現代の災害と地域的に一致するものもあり、災害の生々しい状況を伝えるとともに、災害を擬人化して笑い飛ばそうとする態度が見られることも特徴のひとつである。過去の人々がどのように災害と向き合い、災害を伝えようとしていたのか、災害が頻発する現代においても、防災・減災に繋がるヒントを見つける機会としたい。ふくしまの経験として「震災遺産」の紹介も行った。

(キ) 展示構成

a 京都・大坂の災害史

b 江戸の災厄と絵画

c 諸国の災害と復興

d 近代の災害とメディア

e 疫病との向き合い方

f 震災遺産を考える

(ク) 関連事業

a 防災イベント「消防車と煙体験」

10月7日(土)

講師 会津若松地方広域市町村圏整備組合会津若松消防署

b 防災イベント「その時君はどうする？」

10月7日(土)

講師 日本赤十字社福島県支部

c 防災イベント「降雨体験」

10月21日(土)

講師 国土交通省北陸地方整備局阿賀川河川事務所

d 防災イベント「マイ避難推進講座」

10月21日(土)

講師 福島県危機管理課

e 展示解説会

11月3日(金・祝)

f 企画展関連講座「川と人の物語」

11月5日(日)

講師 鈴木 克彦(元当館学芸員)

g 震災遺産講座「災害とミュージアム」

11月11日(土)

講師 内山 大介(淑徳大学教授)、  
筑波 匡介(当館学芸員)

h 防災イベント「そなえる・ふくしま出前講座」

11月18日(土)

講師 福島県危機管理課

エ 冬の企画展「古い道具と昔の暮らし～今の生活と比べてみよう～」

(ア) 会期 令和6年1月13日(土)～3月31日(日)

開館日数 67日間

(イ) 会場 収蔵資料展示室

(ウ) 主催 福島県立博物館

(エ) 入館者数 4,702人

(オ) 担当学芸員 民俗分野：山口 拓

(カ) 趣旨

小学校3、4年生の社会科単元に昔のくらしや道具に関する学習が含まれていたことから、長年全国の博物館や郷土資料館において関連する展示や学習プログラムが開催されてきた。しかし、学習指導要領の改訂等に伴い、こうした学習に関する需要にも変化がみられるようになってきている。本特集展は、これまで当館が開催してきた「古い道具と昔のくらし」に関する小展示の成果をまとめるとともに、これらの資料をどのような学習に活用することができるかという可能性を提示するものとして開催した。

(キ) 展示構成

氷冷蔵庫、羽釜、洗濯板、タライ等展示資料 53件

### (3) 指定文化財の公開

令和5年度の展示で以下の指定文化財の公開を行った(館蔵・寄託品などは除く)。

ア 国指定

〈重要文化財〉

(ア) 磐城檜葉天神原遺跡出土品のうち2点 檜葉町教育委員会(福島県)

(総合展示室：原始にて展示公開)

イ 県指定(福島県指定)

〈重要文化財〉

(ア) 関和久官衙遺跡出土品のうち 墨書土器 4点 福島県

(イ) 根岸官衙遺跡出土品のうち 軒丸瓦 1点 いわき市

(ウ) 夏井廃寺跡出土品のうち 軒丸瓦 2点 いわき市

(エ) 森北1号墳出土品のうち 石製品及び鉄製品 4点  
会津坂下町

(以上4件は、総合展示室：古代にて展示公開)

### (4) 展示解説

ア 展示解説員

令和5年度の展示解説員の人数は13名で前年度と変わらなかった。

新型コロナウイルス感染症の5類感染症への移行に伴い拡大状況に応じた対策を行いながら、展示解説員としての対応を検討してきた。総合受付・売店およびモギリのアクリルパーテーションなども段階的に撤収を行っている。

イ 学芸員

企画展及び特集展の開催中は、職員を配置する場が増えることになり、展示解説員だけでは解説員の昼休みや休憩時間の減員に対応できない状況であるため、学芸員が代わって展示室に立つことになっている。令和5年度は年間165回を数えた。

2月以降は総合展示室が閉室となっており、展示資料の保全等について対応を行っている。

## 5 調査研究事業

### (1) 展示資料調査研究

将来の博物館リニューアルに向け、令和5年度は以下の7テーマの調査を実施した。

ア 考古資料による原始・古代の画期の再検討

(ア) 分野 考古分野

(イ) 調査概要

新地町教育委員会所蔵三貫地貝塚出土製塩土器の内容確認調査と当館所蔵土偶の内部構造調査を実施した。

イ 災害史の学際的研究と災害史展示の構築

(ア) 分野 民俗・考古・歴史・自然・災害分野

(イ) 調査概要

震災遺産の常設展での展示に向けて、学芸員との意見交換を通じて、来館者に求められる内容の検討や、今後展示に必要な資料等の確認を行った。他施設の学芸員とも現代史の捉え方や関連資料に関して意見交換を行った。第二次世界大戦後から県土の開発や産業の変遷などを軸とした現代史の展示として東日本大震災までを検討範囲としている。また震災遺産を用いた教育普及活動を通じて、問いを活用した講座やワークショップを実施し、災害伝承の持続可能性の獲得についても検討を行った。特に高校における授業を教員と共に実施することができた。またその成果の一部を研究紀要に掲載した。

ウ 福島県の恐竜化石産地の研究

(ア) 分野 自然分野

(イ) 調査概要

恐竜化石産地の現地調査を行い、新たに中生代大型化石を採取した。いわき市、広野町、南相馬市での調査研究を中心に調査をすすめた。

エ 近世・近代絵地図の研究

(ア) 分野 歴史分野

(イ) 調査概要

主に福島県立図書館、福島県歴史資料館、会津若松市立会津図書館、防衛研究所戦史研究センター史料室所蔵の絵図・地図等の資料を調査した。成果の一部は、

ポイント展「猪苗代城絵図」として公表した。

オ 福島県内の食文化の伝承に関する研究

(ア) 分野 民俗分野

(イ) 調査概要

田島祇園会館の協力を得て、伝統的な保存食の一つである「つと豆腐」や田島祇園祭おとうや行事において作られる「どぶろく」や「本膳料理」について祭礼の様子や製作の流れを撮影・調査するとともに、食品サンプルを製作し、展示資料の充実に資した。

カ 国宝・白水阿弥陀堂の維持修理に関する基礎研究

(ア) 分野 保存科学分野

(イ) 調査概要

いわき市所有行政資料、国立歴史民俗博物館所蔵資料を中心に熟覧を行った。

キ 会津地方の仏像・仏画の調査研究

(ア) 分野 美術分野

(イ) 調査概要

会津地方の中央エリア・北エリアを中心に調査を行った。喜多方市万勝寺・弁財天像は、調査結果に基づいて喜多方市の文化財指定を受け、将来的な保存に向けた動きにつながった。柳津町では正徳寺薬師堂薬師如来像など2件の仏像調査を行い、現状の保存状態を確認するとともに、地域の方に保存体制の確認を行った。

(2) その他の調査研究事業

ア 古文書整理事業

坂内(利)家・年野家・齋藤(俊)家・笠間家の資料整理を行った。整理が済んだ笠間家・石井(健)家・年野家の資料については、写真撮影も行った。マイクロ撮影は、前年度に引き続き「松崎達夫家寄贈資料」の撮影を行った。

(3) 職員の研究活動

ア 研究成果の公表(職員の氏名あいうえお順)

(ア) 唐沢 與希、鈴木 颯一郎、西 夏輝、二上 文彦、猪瀬 弘瑛

「相馬中村層群(中部ジュラ系～下部白亜系)産出の絶滅オウムガイ類2属」『日本古生物学会第173回例会講演要旨集』

猪瀬 弘瑛

「アウセリナ」「アンモライト」「カルピオネラ」「コンボウガキ」「単板類」「浮動軌道周期年代」「メガロドン」「メガロドン石灰岩」「竜骨群集」『最新 地学事典』

猪瀬 弘瑛、塚本 麻衣子、小林 めぐみ、川延 安直、西尾 祥子、小林 美夏

「実践報告「孔雀石での岩絵の具づくり講座」」『福島県立博物館紀要』第38号

猪瀬 弘瑛、自見 直人

「福島県南会津郡只見町に分布する中新統布沢層から産した多毛類化石について」『福島県立博物

館紀要』第38号

猪瀬 弘瑛、橋本 海瑠

2024.3「福島県伊達市に分布する中新統梁川層から産した *Aturia cubaensis*」『福島県立博物館紀要』第38号

猪瀬 弘瑛、歌川 史哲、相場 大佑、村宮 悠介

「福島県いわき市に分布する上部白亜系双葉層群足沢層から得られた *Tongoboryceras kawashitai* (アンモノイド) について」『福島県立博物館紀要』第38号

栗原 祐斗

「陸軍歩兵第二十九連隊資料『内務参考書綴』附『若松衛戍勤務規則』」『福島県立博物館紀要』第38号

高橋 充

「中世の社会と信仰・宗教」『相馬市史』第一巻通史編1 原始・古代・中世 福島県相馬市 642-685頁

高橋 充

「資料紹介 会津三十三所順礼記」『福島県立博物館紀要』第38号

高橋 満

「東北地方南部における縄文中期末の人体文・狩猟文土器」『土偶研究の新展開～資源利用史と土偶祭祀～』明治大学資源利用史研究クラスター研究成果公開シンポジウム予稿集 pp11-16

高橋 満

「製塩土器を観察する一階上町内出土の縄文時代晩期の事例一」『はしかみ』八十号、階上町教育委員会

塚本 麻衣子

「馬頭観音堂 木造馬頭観音立像解説」『会津坂下町仏像等悉皆調査報告書』上巻 会津坂下町教育委員会

筑波 匡介

「東日本大震災の震災遺産からの「気づき」とこれから」『非常時の記録保存と記憶化 戦争・災害・感染症と地域社会』地方史研究協議会編 岩田書院

筑波 匡介

「地域資源に関わる博物館—デジタル、仕事、協働」『文化資源の保全と図書館・博物館』LRG2023 秋号 45号

関谷 央子、筑波 匡介

「震災遺産と問い」『福島県立博物館紀要』第38号

筑波 匡介

「博物館における防災教育」『福島県立博物館紀要』第38号

平澤 慎、高橋 満、山本 俊、田中 敏

『Go! Go! 5世紀 東北地方中・南部の古墳文

化』福島県立博物館

山口 拓、塚本 麻衣子、原 恵理子

『仕事が仕事をしている仕事ー福島のものづくりと民藝ー』福島県立博物館

Chinzorig, T., Takasaki, R., Yoshida, J., Buyantegsh, B., Mainbayar, B., Tucker, R., Tsogtbaatar, K., Zanno, L.E.

(2023). The oldest pachycephalosaur (ornithischia:marginocephalia) from the Lower Cretaceous Huhteg Formation at Khuren Dukh locality in southeastern Mongolia. Abstract book for 83rd Annual meeting of Society of Vertebrate Paleontology, Cincinnati, USA

#### (イ) 学会発表

唐沢 與希、鈴木 颯一郎、西 夏輝、二上 文彦、猪瀬 弘瑛

「相馬中村層群（中部ジュラ系～下部白亜系）産出の絶滅オウムガイ類 2 属」日本古生物学会第 173 回例会

高橋 満

「震災遺構『富岡町災害対策本部跡』を考える」とみおかアーカイブミュージアム『震災遺産を語る 2023』

高橋 満

「東北地方南部における縄文中期末の人体文・狩猟文土器」明治大学資源利用史研究クラスター研究成果公開シンポジウム『土偶研究の新展開～資源利用史と土偶祭祀～』

関谷 央子、筑波 匡介

「震災遺産と問い」東日本大震災・原子力災害第 2 回学術研究集会

筑波 匡介

「博物館の防災講座ー震災遺産を活用した防災教育についてー」東日本大震災・原子力災害第 2 回学術研究集会

平澤 慎

「東北における方墳の展開」関東・東北前方後円墳研究会第 26 回研究大会シンポジウム『東北・関東における方墳の展開』

吉田 純輝

「福島県立博物館から 最新の恐竜研究」丹波竜フェスタシンポジウム『ここがすごい！最新恐竜化石調査～次世代古生物学者が語る～』

Chinzorig, T., Takasaki, R., Yoshida, J., Buyantegsh, B., Mainbayar, B., Tucker, R.,

Tsogtbaatar, K., Zanno, L.E.

(2023). The oldest pachycephalosaur (ornithischia: marginocephalia) from the Lower Cretaceous Huhteg Formation at Khuren Dukh locality in southeastern Mongolia. 83rd Annual meeting of Society of Vertebrate Paleontology, Cincinnati, USA

Yoshida, J.

(2023). Hear the Past: The first discovery of dinosaur larynx. Dinosaurs: New Discoveries. A Conference honoring Dr. Mark A. Norell in American Museum of Natural History, New York, USA.

Kondo, M., Tanaka, K., Utagawa, F.,

Yoshida, J.

(2023). A possible ornithopod sternal from the Upper Cretaceous Ashizawa Formation of the Futaba Group in Iwaki City, Fukushima Prefecture, Japan. 2nd Asian Palaeontological Congress, Tokyo, Japan.

## 6 教育普及事業

### (1) 他団体による委嘱等

猪瀬 弘瑛 ふくしまサイエンスぷらっとフォーム連携コーディネーターほか 3 件

大里 正樹 須賀川市文化財保護審議会委員ほか 7 件

川延 安直 喜多方市美術館収集委員会委員ほか 8 件

栗原 祐斗 郡山市文化財保護審議会委員ほか 2 件

小林めぐみ 福島芸術計画運営委員会委員ほか 10 件

高橋 充 二本松城跡整備検討委員会委員ほか 16 件

高橋 満 明治大学資源利用史研究クラスター研究推進員

田中 敏 会津坂下町史編さん委員ほか 3 件

塚本麻衣子 喜多方市文化財保護審議会委員ほか 1 件

筑波 匡介 磐梯山ジオパーク協議会運営委員ほか 3 件

原 恵理子 大堀相馬焼伝統工芸産地委員会委員ほか 2 件

山口 拓 会津若松市文化のまちづくり事業委員会委員

吉田 純輝 北海道大学総合博物館資料部研究員ほか 1 件

### (2) 研究助成金等

高橋 満

科研費・基盤研究 (C)

「霞ヶ浦沿岸における縄文時代土器製塩史復元のための基礎的研究」研究代表者

吉田 純輝

科研費・若手研究

「鳥類固有の発声器の発生的研究～「鳴管」の形態形成構と起源の解明～」研究代表

### (1) 講座・講演会

館長と学芸員による各種講座のほか、外部講師によるさまざまな講座・講演会等を実施している。令和 5 年度の各講座開催数は 105、総参加者数は 8,464 人であった。

ア 令和 5 年度講座・講演会等行事一覧

## (7) 特別講座

| テーマ                           | 講師・所属等                            | 期日            | 参加人数 |
|-------------------------------|-----------------------------------|---------------|------|
| 特別講座①「詩人のいる博物館 まず撮る、まず書く」     | 和合 亮一（詩人）<br>初沢 亜利（写真家）           | 令和5年9月2日（土）   | 32   |
| 特別講座②「詩人のいる博物館 書を捨てよ、博物館へ行こう」 | 和合 亮一（詩人）<br>佐々木 英明（三沢市寺山修司記念館館長） | 令和5年12月23日（土） | 65   |
| 特別講座③「詩人のいる博物館 時を経て、書く、今」     | 和合 亮一（詩人）<br>佐藤 厚志（小説家）           | 令和6年2月17日（土）  | 94   |

## (イ) 考古学講座

| テーマ          | 講師・所属等         | 期日                           | 参加人数 |
|--------------|----------------|------------------------------|------|
| 縄文土器をつくろう    | 高橋 満・山本 俊（学芸員） | 令和5年7月29日（土）<br>令和5年7月30日（日） | 21   |
| 縄文土器の野焼き     | 当館考古分野学芸員      | 令和5年10月8日（日）                 | 10   |
| 会津大塚山古墳をつくろう | 平澤 慎（学芸員）      | 令和5年11月12日（日）                | 12   |
| 歩いて学ぶ会津大塚山古墳 | 平澤 慎（学芸員）      | 令和5年11月23日（木・祝）              | 19   |
| 勾玉・ガラス玉をつくろう | 田中 敏、平澤 慎（学芸員） | 令和6年3月17日（日）                 | 15   |

## (ウ) 民俗講座

| テーマ                        | 講師・所属等          | 期日            | 参加人数 |
|----------------------------|-----------------|---------------|------|
| リニューアル記念 部門展示室（民俗） 展示解説会   | 大里 正樹、山口 拓（学芸員） | 令和5年4月23日（日）  | 46   |
| テーマ展「会津唐人凧の世界」解説会          | 大里 正樹（学芸員）      | 令和5年5月13日（土）  | 11   |
| 記録映像で見るふくしまの暮らし1           |                 | 令和5年8月27日（日）  | 8    |
| 記録映像で見るふくしまの暮らし2           |                 | 令和5年9月24日（日）  | 20   |
| 記録映像で見るふくしまの暮らし3           |                 | 令和5年10月22日（日） | 14   |
| テーマ展「地域に生きた民間宗教者」解説会       | 山口 拓（学芸員）       | 令和5年11月5日（日）  | 9    |
| 集まれ彼岸獅子！シンのお面をつくろう！        | 山口 拓（学芸員）       | 令和6年2月24日（土）  | 16   |
| テーマ展「手仕事が生む花-ふくしまの彼岸花-」解説会 | 大里 正樹（学芸員）      | 令和6年3月16日（土）  | 29   |

## (エ) 歴史講座

| テーマ                                   | 講師・所属等     | 期日             | 参加人数 |
|---------------------------------------|------------|----------------|------|
| はじめてさんの古文書講座①                         | 栗原 祐斗（学芸員） | 令和6年2月3日（土）    | 26   |
| はじめてさんの古文書講座②                         | 栗原 祐斗（学芸員） | 令和6年2月12日（月・祝） | 26   |
| かじったさんの古文書講座①<br>「会津藩の家世実紀を読んでみよう」    | 高橋 充（副館長）  | 令和6年3月9日（土）    | 46   |
| かじったさんの古文書講座②<br>「会津の三十三観音順礼記を読んでみよう」 | 高橋 充（副館長）  | 令和6年3月16日（土）   | 41   |

## (オ) 自然史講座

| テーマ     | 講師・所属等           | 期日             | 参加人数 |
|---------|------------------|----------------|------|
| 新種の見つけ方 | 猪瀬 弘瑛、吉田 純輝（学芸員） | 令和5年5月4日（木・祝）  | 13   |
| 恐竜の科学   | 吉田 純輝（学芸員）       | 令和5年7月17日（月・祝） | 37   |

## (カ) 保存科学講座

| テーマ          | 講師・所属等      | 期日          | 参加人数 |
|--------------|-------------|-------------|------|
| 古代の紙について学ぼう！ | 杉崎 佐保恵（学芸員） | 令和5年7月9日（日） | 6    |

## (キ) 美術講座

| テーマ                | 講師・所属等                   | 期日            | 参加人数 |
|--------------------|--------------------------|---------------|------|
| 美術放談1「工芸的絵画と絵画的工芸」 | 小林 めぐみ、塚本 麻衣子、川延 安直（学芸員） | 令和5年5月27日（土）  | 27   |
| 美術放談2「会津の絵画」       | 小林 めぐみ、塚本 麻衣子、川延 安直（学芸員） | 令和5年8月5日（土）   | 38   |
| 神になった人々 菅原道真と保科正之  | 佐藤 弘夫（東北大学名誉教授）          | 令和5年10月1日（日）  | 28   |
| 美術放談3「神様と殿様」       | 小林 めぐみ、塚本 麻衣子、川延 安直（学芸員） | 令和5年10月28日（土） | 27   |
| 美術放談4「自然の表象（イメージ）」 | 小林 めぐみ、塚本 麻衣子、川延 安直（学芸員） | 令和6年1月13日（土）  | 27   |
| 美術放談5「託した思い」       | 小林 めぐみ、塚本 麻衣子、川延 安直（学芸員） | 令和6年2月24日（土）  | 23   |
| 未来の記憶のために          | 港 千尋（写真家/著述家/多摩美術大学教授）   | 令和6年3月10日（日）  | 23   |

## (ク) 防災講座

| テーマ        | 講師・所属等            | 期日          | 参加人数 |
|------------|-------------------|-------------|------|
| 伝える～楽しいそなえ | 鈴木 弥生、筑波 匡介 (学芸員) | 令和5年9月1日(金) | 10   |

## (ケ) 企画展・特集展関連行事

| テーマ                             | 講師・所属等                        | 期日             | 参加人数 |
|---------------------------------|-------------------------------|----------------|------|
| 企画展「Go!Go! 5世紀」内覧会 (友の会・報道向け)   |                               | 令和5年4月28日(金)   | 12   |
| 企画展「Go!Go! 5世紀」展示解説会            | 平澤 慎 (学芸員)                    | 令和5年4月29日(土・祝) | 13   |
|                                 |                               | 令和5年5月13日(土)   | 11   |
|                                 |                               | 令和5年5月20日(土)   | 8    |
|                                 |                               | 令和5年6月18日(日)   | 20   |
|                                 |                               | 令和5年7月2日(日)    | 40   |
| 古墳時代のヨロイを着てみよう                  | 山本 俊、平澤 慎 (学芸員)               | 令和5年5月5日(金・祝)  | 25   |
| 講演会「埴輪からわかる東北の5世紀」              | 藤澤 敦 (東北大学総合学術博物館教授)          | 令和5年5月14日(日)   | 47   |
| まじないの道具 石製模造品をつくろう              | 平澤 慎 (学芸員)                    | 令和5年6月3日(土)    | 20   |
| 企画展「仕事が仕事をしている仕事」内覧会 (友の会・報道向け) |                               | 令和5年7月14日(金)   | 17   |
| 企画展「仕事が仕事をしている仕事」展示解説会          | 山口 拓、塚本麻衣子 (学芸員)              | 令和5年7月15日(土)   | 9    |
|                                 |                               | 令和5年7月22日(土)   | 9    |
|                                 |                               | 令和5年8月12日(土)   | 7    |
|                                 |                               | 令和5年8月27日(日)   | 21   |
|                                 |                               | 令和5年9月23日(土・祝) | 12   |
| 講演会「作るのではなく、生まれる」               | 鞍田 崇 (哲学者/明治大学准教授)            | 令和5年8月19日(土)   | 67   |
| ワークショップ 「ほうきをつくろう」              | 宮原 克人 (筑波大学准教授)               | 令和5年9月9日(土)    | 15   |
|                                 |                               | 令和5年9月10日(日)   | 15   |
| 企画展「伝える 災害の記憶」内覧会               |                               | 令和5年10月6日(金)   | 16   |
| 防災イベント「消防車と煙体験」                 | 会津若松地方広域市町村圏整備組合会津若松消防署のみなさん  | 令和5年10月7日(土)   | 123  |
| 防災イベント「その時、君はどうする」              | 日本赤十字社福島県支部のみなさん              | 令和5年10月7日(土)   | 43   |
| 防災イベント「降雨体験」                    | 国土交通省北陸地方整備局阿賀川河川事務所のみなさん     | 令和5年10月21日(土)  | 60   |
| 防災イベント「マイ避難推進講座」                | 福島県危機管理課のみなさん                 | 令和5年10月21日(土)  | 36   |
| 企画展「伝える 災害の記憶」展示解説会             | 鈴木 弥生 (学芸員)                   | 令和5年11月3日(金・祝) | 12   |
| 講座「川と人の物語」                      | 鈴木 克彦 (当館元学芸員)                | 令和5年11月5日(日)   | 8    |
|                                 | 筑波 匡介 (学芸員)                   |                |      |
| 震災遺産講座「災害とミュージアム」               | 内山 大介 (淑徳大学教授)<br>筑波 匡介 (学芸員) | 令和5年11月11日(土)  | 19   |
| 防災イベント「そなえる・ふくしま出前講座」           | 福島県危機管理課のみなさん                 | 令和5年11月18日(土)  | 15   |

## (コ) 博物館講座

| テーマ                               | 講師・所属等                           | 期日            | 参加人数 |
|-----------------------------------|----------------------------------|---------------|------|
| ナイトミュージアム                         |                                  | 令和5年8月19日(土)  | 75   |
| 親子で探検！博物館のウラ側                     |                                  | 令和5年8月20日(日)  | 17   |
|                                   |                                  | 令和6年2月4日(日)   | 14   |
| 三の丸から講座①「三の丸誕生」                   | 高橋 充 (副館長)                       | 令和5年10月22日(日) | 39   |
| 三の丸から講座②「文化の華開く若松城」               | 高橋 充 (副館長)                       | 令和5年11月25日(土) | 34   |
|                                   | 小林 めぐみ、川延 安直 (学芸員)               |               |      |
| 三の丸から講座③「知られざる三の丸の昔と今」            | 吉田 純輝 (学芸員)                      | 令和5年12月9日(土)  | 37   |
| 三の丸から講座 特別講演会「会津鶴ヶ城に刻まれた時代の移り変わり」 | 齋藤 慎一 (公益財団法人東京都歴史文化財団江戸東京たてもの園) | 令和6年1月21日(日)  | 115  |

## (サ) みんなでつくるイベント

| テーマ            | 講師・所属等                                              | 期日                        | 参加人数 |
|----------------|-----------------------------------------------------|---------------------------|------|
| 津軽三味線と各地の民謡    | 玄如節顕彰会                                              | 令和5年6月17日(土)              | 83   |
| 会津磐梯山市民盆踊り     | 会津磐梯山盆踊り保存会                                         | 令和5年8月15日(火)              | 151  |
| けんぱくクリスマスコンサート | 酒蔵オペラ合唱団 with friends                               | 令和5年12月24日(日)             | 103  |
| 会津の彼岸獅子        | 本滝沢獅子舞保存会                                           | 令和6年3月3日(日)               | 88   |
| こどもミニミニはくぶつかん  | 会津大学短期大学部幼児教育学科・福祉学科葉山ゼミ、<br>会津大学短期大学部あそびサークル、当館学芸員 | 令和5年5月3日(水・祝)<br>～5日(金・祝) | 439  |
|                |                                                     | 令和5年8月12日(土)              | 135  |
|                | 会津大学短期大学部幼児教育学科・福祉学科<br>葉山ゼミ、会津大学コンピューター理工学部        | 令和6年1月27日(土)              | 60   |
| 博物館でもよみきかせ     | 心に虹のおはなし会                                           | 令和5年5月13日(土)              | 11   |
|                | ハーモニー                                               | 令和5年6月10日(土)              | 8    |
|                | 会津大学短期大学部幼児教育学科・福祉学科葉山ゼミ                            | 令和5年7月8日(土)               | 9    |
|                | 会津大学短期大学部幼児教育学科・福祉学科葉山ゼミ                            | 令和5年8月12日(土)              | 50   |
|                | マザーグース                                              | 令和5年9月9日(土)               | 8    |
|                | 坂下読み聞かせの会                                           | 令和5年10月14日(土)             | 5    |
|                | ハーモニー                                               | 令和5年11月11日(土)             | 30   |
|                | 会津大学短期大学部幼児教育学科・福祉学科<br>葉山ゼミのみなさん                   | 令和5年12月9日(土)              | 2    |
| 会津短大生とあそぼう     | 会津大学短期大学部幼児教育・福祉学科あそ<br>びサークルのみなさん                  | 令和5年7月29日(土)              | 21   |
|                |                                                     | 令和5年10月1日(日)              | 22   |
|                |                                                     | 令和5年12月9日(土)              | 8    |

## (シ) 実技講座

| テーマ                         | 講師・所属等                 | 期日            | 参加人数 |
|-----------------------------|------------------------|---------------|------|
| ワークショップ 会津唐人和風作り            | 大里 正樹 (学芸員)            | 令和5年5月3日(水・祝) | 71   |
| 藁に親しむワークショップ～楽しく学ぼう<br>わら細工 | 大里 正樹、山口 拡、西尾 祥子 (学芸員) | 令和5年12月2日(土)  | 22   |

## (ス) 三の丸からプロジェクト

| テーマ                           | 講師・所属等            | 期日                        | 参加人数  |
|-------------------------------|-------------------|---------------------------|-------|
| 雪国ものづくりマルシェ・春                 |                   | 令和5年5月20日(土)<br>～5月21日(日) | 2,091 |
| 雪国ものづくりマルシェ・秋                 |                   | 令和5年9月16日(土)<br>～9月17日(日) | 2,069 |
| 武士が愛したかそけき音色・七弦琴に触れる          | 飛田 立史 (琴士)        | 令和5年10月9日(月・祝)            | 15    |
| 刀剣取扱い講座                       | 藤安 将平 (将平鍛刀場 刀匠)  | 令和5年11月4日(土)              | 17    |
| 松平家の茶道を見る、飲む、楽しむ              | 茶道石州流宗家会津支部のみなさん  | 令和5年11月19日(日)             | 36    |
| 見て触れて、能を体験してみよう               | 会津能楽会のみなさん        | 令和5年11月26日(日)             | 10    |
| カラムシの繊維でコースターを織ろう！            | 奥会津昭和村振興公社のみなさん   | 令和5年12月10日(日)             | 13    |
| 会津木綿でブックカバーとしおりをつくろう          | 田崎 薫 (株式会社はらっぱ)   | 令和5年12月16日(土)             | 11    |
| 会津本郷焼の器をつくろう                  | 宗像 利像 (宗像窯9代目)    | 令和6年1月14日(日)              | 15    |
| 錫粉蒔絵に挑戦！～ミニトレイまたは盃の<br>絵付け体験～ | 八木 由紀子、佐藤 淳 (蒔絵師) | 令和6年1月28日(日)              | 16    |
| ヒゴからつくるコースターづくり               | 菅家 豊 (編み組細工職人)    | 令和6年2月11日(日)              | 17    |
| 六ッ目ザルをつくろう～またたび細工             | 菅家 豊 (編み組細工職人)    | 令和6年2月25日(日)              | 5     |

## (セ) 共催事業

| テーマ                                       | 主催                 | 期日            | 参加人数 |
|-------------------------------------------|--------------------|---------------|------|
| ふくしまの城・城址巡り会津三城ものがたり<br>歴史講演会&パネルディスカッション | 千田 嘉博 (城郭考古学者) ほか  | 令和5年6月24日(土)  | 200  |
| 実技講座「鉱物標本をつくろう」                           | 博物館友の会化石鉱物探検隊のみなさん | 令和5年8月6日(日)   | 21   |
| 会津史学会歴史文化講演会「幕末会津藩の国事周旋」                  | 白石 烈 (宮内庁書陵部主任研究官) | 令和5年11月12日(日) | 132  |

(ウ) 後援事業

| テーマ                                                | 主催                                    | 期日             | 参加人数 |
|----------------------------------------------------|---------------------------------------|----------------|------|
| 歴史春秋出版・講演会「法相宗徳一の教化－会津と常陸を語る－」                     | 内山 純子                                 | 令和5年4月22日(土)   | 106  |
| 福島県民俗学会大会                                          |                                       | 令和5年6月4日(日)    | 20   |
| 雪と氷のワークショップ in 福島                                  | 中谷宇吉郎雪の科学館友の会                         | 令和5年8月11日(金・祝) | 68   |
| 蒲生氏郷講演・シンポジウム                                      |                                       | 令和5年9月3日(日)    | 150  |
| 学校法人同志社大学創立150周年記念講演会「新島八重さんの贈り物－心の和きものその人は地を嗣がむ－」 | 山下 智子 (同志社大学教授)                       | 令和5年9月23日(土)   | 84   |
| 会津若松観光ルネッサンス主催 講演会「蒲生氏郷の部屋で学ぶ」                     | 庄司 裕 (会津史学会)、宮崎 宗伊 (会津茶道会)、高橋 充 (副館長) | 令和6年3月17日(日)   | 19   |
| 会津民俗研究会講演会                                         |                                       | 令和6年3月31日(日)   | 62   |

(エ) 友の会事業

| テーマ                              | 講師・所属等           | 期日            | 参加人数 |
|----------------------------------|------------------|---------------|------|
| 講演会「平安時代の会津の仏像」                  | 若林 繁 (元東京家政大学教授) | 令和5年4月9日(日)   | 73   |
| 講演会「恐竜の声がきこえる?～福島県博から恐竜研究の最前線へ～」 | 吉田 純輝 (学芸員)      | 令和5年12月17日(日) | 51   |

(2) 雪国ものづくり広場 なんだべや

エントランスホール隣に位置し、さまざまな体験を提供する場として設置されたスペース。令和4年度に「三の丸からプロジェクト」により、ものづくり文化を体験・学ぶことのできるスペースへとリニューアルし、本年度は同プロジェクト体験型プログラム（武家文化体験、ものづくり体験）や、雪国ものづくりマルシェのワークショップを開催した。また、ものづくりの制作者の滞在制作も実施し、ものづくり文化に触れられる空間として充実をはかった。その他、トークイベントやワークショップ等を開催し、なんだべやの多様な活用につなげた。また、「博物館でも読み聞かせ」など未就学児向けの事業を定期的に開催した。

(3) 学校・文化施設との連携

県内外の学校団体や文化施設主催団体との連携をはかり、次の事業を実施している。

ア 展示室での自主学習（しおり・ワークシート）

新型コロナウイルス感染防止対応のため、展示室での密集を避け常設展示室を各自のペースで見学できるワークシート（「キミだけの「たからもの」をさがそう！」）を当館ホームページで公開、ダウンロードしていただけるようにしている。また、親子で来館された利用者向けには、文化庁の「令和3年度地域と共働いた博物館創造活動支援事業」を活用し、ポリフォニックミュージアムアートワークショップ「博物館部」で作成したワークシート（「博物館でどうぶつさがし」）を常設展示入口や体験学習室に設置している。

イ 学習プログラム

課外授業・修学旅行の学校団体に対し、常設展示の見どころや概要を伝える学習講座を多数開催した。

公民館や地域のコミュニティセンターなどの団体には、企画展見どころ解説のプログラムをご利用いただいた。また、特別支援学校や未就学児の教育・保育施設（幼稚園・こども園等）の団体に対しては、事前に先生方との打合せの時間を十分にとり、園児・児童・生徒の理解や興味関心などの実態を把握した上で、さわれる資料の提示や関連するワークショップを行うなど、楽しみながら学びにつながる独自のプログラムを作成、提案した。

ウ 未就学児団体連携事業

前年度の試行の検証を踏まえて、「会津慈光こども園」「会津慈光第二こども園」とは通年で学習プログラムを実施した。また、「認定こども園こどもの森」とは、「ハニワ」をテーマに春の企画展観覧以降、通年でゲストティーチャーと学習プログラムを組み合わせた連携事業を行った。これらの連携事業を紹介することで、博物館の事業やめざす姿を知っていただく場にするため、1月13日(土)～1月26日(金)の期間に「子ども園と福島県博の連携事業の事業報告展」として、連携事業により制作した作品の展示を行った。

エ 障がい者支援団体連携事業

福島県立会津支援学校（竹田校を含む）と連携し、ゲストティーチャー、来館時の学習プログラム提供などを通年で実施した。先生方と事前の打合せを行い、授業のねらい、児童・生徒の障がいや興味関心などの実態把握をした上で、延べ22回実施した。令和6年2月20日(火)～3月10日(日)の期間に「アートによる新生ふくしま交流事業『アートで広げる子どもの未来プロジェクト』福島芸術計画2023』の成果展とあわせ、「福島県博の連携事業の事業報告展」として、連携事業により制作した作品等の展示を行った。

オ 指導者向け研修

今年度は「博物館を活用した学びプログラム研修会」と題し、当館が学校や公民館等の団体向けに提供してきたプログラムや協働の事例を紹介した。博物館のもつ多様な学習プログラムを伝えると同時に、利用者とともに振り返る報告を交え、当館の学校や公民館における活用の推進を図った。

- ・令和6年2月6日(火) 6名の参加

カ 学習用具・教材等の貸出

学校での授業づくりや生涯教育関連施設における活動等を支援するため、考古・歴史・民俗・自然の各分野で貸出用の学習用具・教材等を準備している。新型コロナウイルス感染症の予防のため貸出事業の停止となった期間に各分野にて貸出用具・教材の準備を整えたが、今年度の貸出は考古分野の舞いざり式発火具セットの貸出1件に止まった。

キ ゲストティーチャー

学芸員がもつ専門知識や経験を館外で有効に活用してもらうため、学校等教育機関の要請に応じて現地に赴き、体験学習や講話を中心とした授業を担当している。令和5年度の実施回数は62回で、参加者は3,956人であった。

ク 職場体験

児童・生徒の進路意識の向上や職業観・勤労観の育成に寄与すべく、職場体験を受け入れている。令和4年度は7校からの要請があり、受け入れを実施した。

○職場体験受け入れ実績(生徒のみ)

- ・福島県立会津西陵高等学校 (2年生1名) 2日間

- ・会津若松市立大戸中学校 (2年生1名) 3日間
- ・福島県立若松商業高等学校 (2年生3名) 1日間
- ・会津若松市立北会津中学校 (2年生1名) 2日間
- ・金山町立金山中学校 (3年生1名) 1日間
- ・会津若松市立若松第三中学校 (2年生3名) 2日間
- ・福島県立会津支援学校 (高等部10名) 2日間

ケ 博物館実習

学芸員資格取得のための博物館実習を実施している。令和5年度は県内出身学生8名を受け入れた。

実習期間 令和5年8月29日(火)～9月3日(日)

(4) 生涯学習・研究支援

ア 相談コーナー

エントランスホール内に配置された無料空間。展示図録・報告書・紀要など博物館の刊行物及び博物館資料に関連した図書を配架。図書は図鑑・事典類、調べ学習への対応、見て楽しむ本の3項目を重視して選定し、入館者が自由に閲覧できる。現在の配架図書数は2,994冊である。

イ 資料の特別観覧

個人や研究機関による研究活動を支援するため、博物館資料の閲覧や撮影を許可し、実施している。

分野別特別観覧件数

考古：11件22点 歴史：17件198点 民俗：5件66点  
美術：3件10点 自然：1件1点 計37件297点

ウ 講師派遣

大学や公民館、研究団体などからの依頼に応じて、学芸員を講演会や講座に講師として派遣している。令和5年度の派遣回数は17回で、参加者は655人であった。

講師派遣一覧

| 月 日           | 講 師   | 分野 | 演 題 ・ 内 容 等                           | 主 催                        |
|---------------|-------|----|---------------------------------------|----------------------------|
| 令和5年5月14日(日)  | 高橋 満  | 災害 | 震災遺構「富岡町災害対策本部跡」を考える                  | とみおかアーカイブ・ミュージアム           |
| 令和5年5月28日(日)  | 猪瀬 弘瑛 | 自然 | ワークショップ「アンモナイトの名前をあてよう！入門編」           | 南相馬市博物館                    |
| 令和5年6月10日(土)  | 筑波 匡介 | 災害 | コア・アクティブ科目講義                          | 福島大学                       |
| 令和5年7月8日(土)   | 筑波 匡介 | 災害 | コア・アクティブ科目講義                          | 福島大学                       |
| 令和5年8月26日(土)  | 筑波 匡介 | 災害 | 第3期防災教育コーディネーター養成塾                    | 公益社団法人中越防災安全推進機構 地域防災力センター |
| 令和5年8月31日(木)  | 高橋 充  | 歴史 | 教養部研修会「鶴ヶ城について」                       | 会津若松市区長会                   |
| 令和5年9月1日(金)   | 高橋 充  | 歴史 | 三十三観音霊場へのあこがれ                         | 極上の会津プロジェクト協議会             |
| 令和5年9月1日(金)   | 高橋 充  | 歴史 | 江戸時代の猪苗代                              | 猪苗代町教育委員会                  |
| 令和5年9月8日(金)   | 高橋 充  | 歴史 | 蒲生氏郷の人物像とまちづくりについて・神田万世橋教室            | 会津若松市ルネッサンス協議会・大人の休日倶楽部    |
| 令和5年10月14日(土) | 高橋 満  | 考古 | 三貫地貝塚里帰り展展示解説                         | 新地町                        |
| 令和5年10月19日(木) | 高橋 充  | 歴史 | 中近世の二本松城について                          | 福島県教育委員会・公益財団法人福島県文化振興財    |
| 令和5年10月24日(火) | 筑波 匡介 | 災害 | 防災ワークショップ                             | 猪苗代町ボランティア連絡協議会            |
| 令和5年11月4日(土)  | 高橋 充  | 歴史 | 中世の会津ーそこにはいつも戦いがあったー                  | 会津坂下町教育委員会                 |
| 令和5年12月3日(日)  | 吉田 純輝 | 自然 | 丹波龍フェスタ2023「次世代古生物学者が語る！地域の恐竜化石調査・研究」 | 丹波市                        |

| 月 日           | 講 師   | 分野 | 演 題 ・ 内 容 等                    | 主 催             |
|---------------|-------|----|--------------------------------|-----------------|
| 令和5年12月6日(水)  | 吉田 純輝 | 自然 | 恐竜博士になろう                       | 会津若松市生涯学習総合センター |
| 令和5年12月18日(月) | 吉田 純輝 | 自然 | 恐竜は鳴く?～なぞの骨の正体を探る～             | いわき市アンモナイトセンター  |
| 令和6年1月27日(土)  | 山本 俊  | 考古 | 縄文時代からの遺物採集家の生涯－<br>好古の人・丹野狄仙－ | 相馬郷土研究会         |

#### エ 子育て世代対応事業

「博物館でもよみきかせ」「こどもミニミニ博物館」を実施した。令和5年度は本事業を他団体との協働による事業として実施した。協働の団体として、地域の読み聞かせの団体の会員、連携している会津大学短期大学部幼児教育・福祉学科の先生と学生、会津大学コンピューター理工学部の先生・学生と事前の打合せと事後の振り返りの時間を確保し、丁寧に意見交換をしながら実施にあたった。

#### オ 動画の制作と配信

前年度から引き続き、自宅でも楽しみながら学べる機会を提供しようというねらいのもと動画の制作と配信を行った。令和5年度は5本の動画を公開した。

### (5) 博物館友の会活動への支援

当館は、福島県立博物館友の会の活動を支援するため、共催事業などの実施、行事に対する講師の派遣、サークル活動への協力、各会員に対して当館開催事業の周知、展示観覧への便宜、資料や文献の閲覧等、研究活動の支援などを行っている。

#### ア 友の会の概要

(ア) 発足 平成元年3月10日

##### (イ) 設立の目的

博物館活動に協力するとともに、会員が「福島県の歴史と文化・自然」についての研修を深め、会員相互の親睦をはかり、あわせて博物館活動の普及発展に寄与することを目的とする。

##### (ウ) 総会の開催

会計年度の期間が変更されたことにより、令和5年度の事業・会計決算報告と令和6年度の事業・予算案を審議する総会は、令和6年4月14日(日)に開催されることとなった。

##### (エ) 令和5年度会員数

個人会員 137名 家族会員 34名 高校生会員 0名  
賛助会員 3名 合計 175名

#### イ 令和5年度事業概要

##### (ア) 講演会の開催

2回の講演会を開催した。内容と日時は「6-(1)-(ウ) 友の会事業」を参照。

##### (イ) 研修旅行

令和5年度の研修旅行の実施は見送られた。

##### (ウ) 会報の発行

友の会会報第130号・第131号を発行し会員に配布した。

##### (エ) 博物館事業への協力

○博物館展示観覧

##### ○友の会会員向け企画展内覧会への参加

新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、参加申し込み・定員制とし、展示室での解説は行わず、講堂での解説、展示室での自由観覧という開催形態をとった。

##### ○博物館講座への協力

博物館の各種講座へ多くの会員が参加した。

#### ウ サークル活動

化石・鉱物探検隊、古文書愛好会、考古学倶楽部、仏像を研究し旅する会の4サークルが、それぞれの目的に向かって積極的に活動している。サークルごとに主体的に計画し、自立した活動となっている。

##### (ア) 化石・鉱物探検隊

化石や鉱物に興味をもつ研究サークルで、自然史に関する研鑽と会員相互の親睦を深めることを目的とし、平成11年に設立。会員数40名。令和5年度は全6回の野外活動(化石・鉱物の観察活動)のほか、実技講座「化石標本をつくろう」といったイベントを博物館で開催した。

##### (イ) 古文書愛好会

平成14年度に発足した古文書愛好会は随時17名が参加し、活動を続けてきた。メンバーは4つの班に分かれ、チームを組んで古文書の解説・考察にあっている。通常月1回の活動計画で、令和5年度は前年度から引き続き「大町に関する書上」の解説を行った。

##### (ウ) 考古学倶楽部

考古学に興味をもつ友の会会員が集うサークルで、令和3年4月に発足した。研修会や考古学関連の展覧会の見学を行った。

##### (エ) 仏像を研究し旅する会

県内の仏教文化、特に仏像に関心をもつ会員によって、令和3年度から活動を開始。会員は11名。本年度は会津地域を中心に寺院を訪れての仏像見学を全6回行った。併せて、博物館での展示見学や関連する美術講座への参加、会員各自の興味関心や学習成果を発表する勉強会を組み合わせる形で活動を行った。

## 7 文化財・自然資料レスキュー

### (1) 東日本大震災に伴う被災文化財・自然資料レスキュー

東日本大震災の発生以来、福島県立博物館では、被災文化財・自然資料レスキューを実施してきた。令和5年度には次の活動を行った。

#### ア レスキュー作業の体制

前年度から継続して「福島県被災文化財等救援本部」

(当館は副代表・幹事・事務局)に参画して活動した。今年度は7月12日、令和6年2月20日に打ち合わせを行った。

#### イ 被災地域の資料への対応

当館が新規で関わった被災地域の資料の調査や受け入れはなかった。また平成23年度から様々な事情によって当館で受け入れた資料のうち、所蔵先の避難状況の変化によって返還できるようになった場合は、順次対応するようにしているが、今年度の該当はなかった。

### (2) その他の災害発生時対応に伴う活動

令和元年度に福島県文化財保存活用大綱が策定され、災害発生時に文化財・自然資料レスキューを実施するしくみが整えられた。災害時には市町村からの救援応援要請が出され、相互応援協定による支援・応援が実施されることになった。6月1日、令和6年3月15日に連絡会議が行われ、7月14日に「文化財に係る災害時の相互応援に関する協定」連絡会議が県文化財センター白河館で開催され、県内各地の事例報告や情報交換等が行われた。

## 8 ふくしま震災遺産保全プロジェクト

平成26年度から28年度まで文化庁芸術振興費補助金の採択を受けて、県内の資料館や研究会とともに実行委員会を組織し「ふくしま震災遺産保全プロジェクト」を推進してきた。大震災を契機に起こった様々な出来事を歴史として共有し未来へ継承するため、震災を物語る資料を「震災遺産」と位置付けて、その保全や県内外での展覧会・シンポジウム等のアウトリーチ活動を行った。平成29年度からは当館の事業として、引き続き「震災遺産」の保全や発信を行っている。

### (1) 震災遺産保全チームの組織

活動母体である実行委員会が解散後は、博物館内の「震災遺産保全チーム」が分野横断のプロジェクトチームとして活動を続けている。今年度は民俗1名、歴史1名、自然1名、美術1名、災害2名の計6名の学芸員が業務を担当した。震災遺産に主体的に関わる災害分野担当学芸員を中心に、所蔵する資料の研究・調査を取りまとめ、教育普及活動、ポイント展の実施を行った。

### (2) 震災遺産の調査・保全

震災遺産に関わる今までの活動の経緯や、資料の来歴などを取りまとめるとともに未整理資料の整理を進めた。写真撮影を行い、中性紙封筒へ納めるなどした。

前年度末より引き続き、新型コロナウイルス関連資料の収集を継続している。コロナ関連資料は、企画展「伝える災害の記憶」の「5章 疫病との向き合い方」に関連させ展示を行った。

### (3) 他団体・他機関との連携・協力

公害資料館ネットワークふくしま大会に実行委員会として運営に参加した。磐梯山ジオパーク運営協議会とも防災教育の普及活動を展開し学校行事へ防災学習の提案を行った。博物館資料展示活用アウトリーチ事業は、とみおかアーカイブ・ミュージアムと実施した。会津自然の家や磐梯

山青少年交流の家との連携も定例化し、猪苗代町社会福祉協議会とも連携して地域づくりへの参画を始めた。

### (4) 普及事業

ゲストティーチャー、講師派遣、特別プログラムなどの対応回数が50回を超えた。南会津高校や小高産業技術高校などまだわずかではあるが、震災遺産をテーマとした高校生向けの授業づくりを教員と相談して進めている。

## 9 三の丸からプロジェクト

### (1) 事業趣旨

令和2年5月1日に施行された文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光の推進に関する法律に基づき、当館では、共同申請者と共に「福島県立博物館を活用した会津文化観光拠点計画」を策定、申請し、令和2年11月18日に認定を受けた。同計画の実現のため、令和2年度から5ケ年にわたって「福島県立博物館文化観光拠点施設機能強化事業『三の丸からプロジェクト』」を実施することとなった。

### (2) 組織

ア 申請者 福島県（福島県立博物館）

イ 共同申請者

会津若松市、一般財団法人会津若松観光ビューロー、公益財団法人福島県観光物産交流協会（地域連携DMO）、会津若松商工会議所、只見川電源流域振興協議会

### (3) 助成

令和5年度文化芸術振興費補助金（文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業）

### (4) 事業内容

ア 文化資源磨き上げ事業

周遊のための文化資源の調査・撮影等調査については、絵図や古文書などから若松城下の町や商業の成り立ちを探り、地形図等の精査から城や城下町の立地の地形的な特色等について検討した。撮影については、当館が収蔵する文化資源の撮影（デジタル化）を「若松城下絵図・追鳥狩図屏風」「大川・只見川図巻」（国重文）を対象に実施した。また、当館がかつての若松城三の丸に建っていることを来訪者が実感し、本事業の目的である若松城址の周遊へ誘う動機付けとするために、地中に眠る若松城堀跡の堀幅の広さが際立つような外構展示の設置を計画し、外構展示のための基礎データ収集のため、地中レーダー探査を実施した。

イ 体験型プログラム提供事業

武家文化を観賞・体験する4つのプログラム（七絃琴、茶道、刀剣取り扱い、能楽）を実施した。今年度は新たに会津藩にゆかりのある浦上玉堂や会津藩士がこよなく愛した七絃琴の実演・演奏体験を取り入れることで、より会津に特色ある武家文化体験とすることができた。体験の内容に合わせて博物館収蔵品を活用した展示や空間演出を行い、博物館ならではの体験を提供した。

#### ウ 若松城下まちなか連携事業

分野別展示室（民俗）と、夏の企画展「仕事の仕事をしている仕事」と連動し、会津若松市街地に点在する商工文化を伝える歴史的建造物で連携展示（テーマ「雪国のくらしとものづくり」）及び連携イベント（テーマ「会津ものづくりめぐり」）を各会場で開催した。連携展示は末廣酒造嘉永蔵、会津塗伝承館鈴善漆器店、竹藤を、福西本店、会津塗伝承館鈴善漆器店（いずれも国登録有形文化財）を会場とした。連携展示ではスタンプラリーを実施し、周遊を促進するとともに周遊効果の検証を行った。連携イベントは末廣酒造嘉永蔵、竹藤を会場とし、開催後も会津を訪れる動機付けとなるよう動画を作成し当館 YouTube チャンネルで公開した。また、会津のものづくり（会津木綿、会津本郷焼、会津塗、野鍛冶）を博物館ならではの視点で紹介する冊子を作成した。

#### エ 多言語化事業

分野別展示室の展示解説及び、インバウンドや国内に居住する外国語ユーザー向けパンフレットの英語、中国語（簡体字・繁体字）原稿作成を行った。

#### オ ツアー造成事業

「雪国のくらしとものづくり」「会津の SAMURAI 文化」をテーマにツアーコンテンツを開発し、共同申請者である一般財団法人会津若松観光ビューローから旅行商品として販売を行った。ツアーコンテンツ開発、運用、拠点整備のために、共同申請者及び周遊拠点の担い手とともに文化観光に取り組む他地域のツアー先進事例である富山県南砺市、長野県木曾・奈良井の取り組みを視察・勉強会を実施した。3エリア周遊の促進のためのツアープロモーション映像を作成した。

#### カ 利便性向上事業

Webブラウザで閲覧できる情報ビューワー「VRナビゲーションけんぱくん」を整備した。また、前年度に作成した視覚支援カード『さわって観るてんじカード』の内容を補強するハンズオン資料の製作を行った。そのほか、視聴覚障がい者の観覧をサポートするために、学芸員・解説員など障がい者に接する機会がある者を対象に視聴覚障がいへの理解を深める研修を実施した。

#### キ 周遊促進事業

福島県立博物館のレストランを「雪国ものづくり食堂つきない」としてリニューアルオープンし、食を通して「若松城下ものづくり」「雪国ものづくり」を体感できる場として提供を開始した。また、会津の「ものづくり」と「食文化」を紹介・体験することができるマルシェを春と秋に開催した。

#### ク 国内外プロモーション事業

J R 郡山駅・会津若松駅で本事業をイメージづけるポスターの駅貼や公共交通機関において本事業の魅力を伝えるパンフレットの配布などを行った。日本政府観光局（JNTO）より令和6年度以降の国内外へのプロモーションへの助言として「Webによる国内海外プロモーション」

ン」についてのレクチャーを受けた。

#### ケ 3エリア周遊につながるゲートウェイ機能のための展示室・無料空間整備

常設展「展示ロビー」を、ゲートウェイ展示のコアゾーン「三の丸アベニュー」として整備した。「三の丸アベニュー」には、江戸時代末期頃の若松城下の範囲をほぼ収めた約6m×4m大の縮尺ジオラマを造形し、ジオラマ上に併せて制作したプロジェクションマッピングを自動投影する仕組みを整えた。

また、壁面には奥会津地域のグラフィックマップ「いま・むかし奥会津めぐり」を造作して、設置したモニターで「大川・只見川図巻」や館蔵の昭和年間の古写真を動画的に配信するように整備した。

## 第14節 福島県自然の家

### 1 概要

#### (1) 沿革

昭和47年県内初の県立少年自然の家として、また、東北でも3番目の宿泊研修用の先導的施設として「福島県少年自然の家」（以下「自然の家」という。）を開設。

昭和50年海浜型の青少年社会教育施設として「福島県海浜青年の家」（以下「青年の家」という。）を開設。同年発足した「財団法人福島県海浜青年の家」が管理運営を行うこととなる。

昭和56年県立少年自然の家2施設目となる「福島県会津少年自然の家」を開設。これに伴い、「自然の家」の名称を「福島県郡山少年自然の家」に改める。

平成8年「福島県いわき海浜自然の家」を開設。これに伴い、「青年の家」の名称を「福島県相馬海浜自然の家」に改める。運営財団の名称を「財団法人福島県海浜自然の家」に変更し、海浜型2施設の管理運営を行うこととなる。

平成10年福島県教育庁の直営であった「福島県郡山少年自然の家」及び「福島県会津少年自然の家」の名称を「福島県郡山自然の家」及び「福島県会津自然の家」と改める。これにより財団の名称を「財団法人福島県自然の家」に変更し、県内4施設の管理運営を行うこととなる。

平成18年度から指定管理者制度を導入し、平成20年度までの3年間「財団法人福島県自然の家」が指定管理者となり4施設の管理運営を行うこととなる。

指定管理者であった財団が平成20年度末をもって解散したため、平成21年度から4施設とも県の直営による管理運営となる。

平成22年度に開催した指定管理者選定検討会において「福島県いわき海浜自然の家」が「財団法人いわき市教育文化事業団」に指定管理することとなる。なお、他3施設については検討会の条件を満たす団体がいないため直営による運営が継続されることとなる。

平成23年3月11日に発生した東日本大震災により、「福島県会津自然の家」は同年7月2日まで「福島県郡山自然の

家」は同年8月28日まで避難所として運営を行う。また「福島県いわき海浜自然の家」の指定管理は震災の影響により平成23年11月1日からの開始となる。なお「福島県相馬海浜自然の家」は地震・津波の甚大な被害を受け平成24年3月31日をもって公所廃止となる。

平成25年度に開催した指定管理者選定検討会において「福島県いわき海浜自然の家」について平成26年度から平成30年度まで「財団法人いわき市教育文化事業団（平成26年度より公益財団法人に移行）」に指定管理することとなる。

平成30年度に開催した指定管理者選定検討会において令和元年度から令和5年度まで「福島県郡山自然の家」について、「学校法人国際総合学園」に、「福島県いわき海浜自然の家」について、「公益財団法人いわき市教育文化事業団」に指定管理することとなる。

令和2年度に開催した指定管理者選定検討会において令和3年度から令和5年度まで「福島県会津自然の家」について、「アメニティグループ」に指定管理することとなる。

令和5年度に開催した指定管理者選定検討会において令和6年度から令和10年度まで、「福島県郡山自然の家」については「学校法人国際総合学園」に、「福島県会津自然の家」は「アメニティグループ」に、「福島県いわき海浜自然の家」は「公益財団法人いわき市教育文化事業団」に指定管理することとなる。

## (2) 所在地

### ア 福島県郡山自然の家

福島県郡山市逢瀬町多田野字中丸山 46  
〒963-0213 TEL 024-957-2111  
FAX 024-957-2112

URL <https://koriyama-nc.fcs.ed.jp/>

### イ 福島県会津自然の家

福島県河沼郡会津坂下町大字八日沢字西東山 4495-1  
〒969-6504 TEL 0242-83-2480  
FAX 0242-83-2481

URL <https://www.aizu-shizen.jp/>

### ウ 福島県いわき海浜自然の家

福島県いわき市久之浜町田之網字向山 53  
〒979-0335 TEL 0246-32-7700  
FAX 0246-32-7730

URL <https://iwaki-nc.fcs.ed.jp/>

## 2 教育目標及び基本的視点

### (1) 教育目標

恵まれた自然環境の中で、野外学習や集団宿泊活動など様々な活動を通して主体的に対応できる人々の育成を目指す生涯学習の推進のため、次の目標を設定する。

ア 自然の恩恵にふれ、自然に親しむ心や敬虔の念を育てる。

イ 集団宿泊活動を通して規律・協同・友愛及び奉仕の精神を養う。

ウ 自然体験活動を通して自ら実践し、創造する態度を育

てる。

### (2) 基本的視点

豊かな自然体験を楽しめる施設として、その機能を十分に発揮するために、施設・設備の整備や運営方法の確立・改善に努め、利用者が充実した活動を展開できるよう、次の基本的視点に基づきそれぞれの施設の運営にあたる。

ア 所員の英知と創意を結集し、施設の充実・整備を図り活気と魅力ある施設の運営に努める。

イ 利用者の多様なニーズや利用目的に応じた柔軟な運営を行うよう努める。

ウ 立地条件を生かした特色ある企画事業を展開するとともに、学校や地域に生きる活動種目やその指導方法の研究開発に努める。

エ 民間の指導者の協力や高校生・大学生等にボランティアとして参加していただけるように努める。

オ 現代的課題の解決に対応する事業を推進し、その情報の発信に努める。

## 3 新型コロナウイルスの影響

自然の家の令和5年度の受け入れは、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが、令和5年5月8日から5類感染症に移行されたことから、拡大防止のため行われていた利用定数、利用団体数、利用日数（宿泊日数）の制限などをそれぞれの自然の家の状況に合わせ、解除しながら運営を行った。

しかしながら、令和5年度の予約は、基本的に前年度中に行われることもあり、利用状況は回復傾向ではあったものの、全体的には、コロナ禍前の平成30年度と比較すると、利用者数で6割、利用団体数で8割に留まった。

## 第15節 福島県郡山自然の家

### 1 概要

#### (1) 沿革

郡山自然の家は、昭和47年に「福島県少年自然の家」という名称で設立され、令和5年度には延べ利用者数が180万人に達した。

本施設は、郡山駅より西へ約11km、郡山中央スマートインターから車で約6分、郡山南インターより約8分という交通の便に恵まれ、豊かな自然環境に囲まれた都市近郊型の自然の家として、「みどり・であい・感動」をキャッチフレーズに、野外活動や集団宿泊活動を通して、「自然に親しむ心や畏敬の念」「規律・協同・友愛・奉仕の精神」「自ら実践し、創造する態度」の育成を目指し、活動を展開している。また、生涯学習の拠点として県民に親しまれる施設を目指し、随時、施設の改築・改修を進め、園児から高齢者まで幅広い年齢層の方々やジェンダーを問わず利用しやすい施設とすべく、多種多様な企画事業を展開し特色あるプログラムの開発に努めている。

平成31年4月1日より学校法人国際総合学園が指定管理

者となり管理運営を行っている。

東日本大震災以降は、放射線量が比較的高い場所の除染を実施し放射線量の低減に取り組むとともに、毎月エリア内の放射線量を測定してホームページに掲載するなど情報提供に努めてきた。

年間の利用状況については、5月に新型コロナウイルス感染対応が2類から5類への移行に伴い、利用制限を見直した結果、利用団体数394団体（前年比118団体増）、延べ利用者数17,398人（前年比5,904人増）となった。

## (2) 職員組織

| 職名    | 人員 |
|-------|----|
| 所長    | 1  |
| 指導部長  | 1  |
| 事務局長  | 1  |
| 指導部主任 | 1  |
| 指導員   | 1  |
| 体験指導員 | 2  |
| 事務員   | 1  |
| 運転手   | 1  |
| 計     | 9  |

## (3) 令和5年度重点目標と成果

「SDGsを念頭に社会教育施設として質の高い活動を提供するとともに、LGBTQなど性の多様性を尊重し互いの価値観の尊重により人に優しい自然の家。」を実現すべく取り組んだ。

### ア 利用団体への効果的な支援の充実

(ア) 団体が主体的に活動できるよう、学校利用団体・社会教育団体の担当者との緊密な連携に努めた。特に学校利用団体については、4月と7月に学校利用指導者研修会を実施した。その際、所においては新型コロナウイルス対応が5類に移行した後も、感染症予防に最大限努めるとともに、安全安心に利用して頂けるよう対応について情報共有を図った。

(イ) 社会教育団体の利用については、各団体代表者との連絡を密にしなが、事前の施設見学を実施するとともに活動計画作成を支援した。

(ウ) 利用団体の指導者及び利用者の声をアンケート等を用いて集約・分析し、より良いプログラムの提供が図れるよう努めた。

### イ 魅力ある企画事業の運営

(ア) 自然の家らしい季節感を生かした魅力ある事業を企画立案するとともに、今までの事業を見直し利用者のニーズに合った事業展開を図るとともに、地域や関係機関との連携に努めた。

(イ) 前年度の反省や評価を踏まえ、内容や方法等に工夫・改善を加え、利用者の満足度向上に努めた。

### ウ 広報の充実と利用促進

(ア) ホームページやInstagramなど様々な広報機会

を利用し、本所における事業実施に関する情報提供に努めた。特に、園や学校を通して園児や児童・生徒に直接チラシを配布することにより、各家庭に各種企画事業について情報提供を行った。

また、サザッピー会員に対しては、事業に関する案内を電子メールにより直接情報提供を行った。

(イ) 企画事業案内及び事業の実施状況等をホームページに逐次掲載するなど、タイムリーな情報提供に努めた。また、毎月エリア内5か所の放射線量をホームページに掲載し、利用者が安心して利用できるよう情報提供を行った。

(ウ) 県内の自然の家が広報機会を共有するという目的の下、各所で作成するチラシ等に他所の情報を掲載するコーナーを設けたが、効果的な運用には至らなかった。

(エ) 利用促進を図るため、平成25年度から家族を対象とした会員登録制度を立ち上げ、名称を本所のマスコットキャラクターにちなみ「サザッピークラブ」とした。新規会員登録に努めた結果、年度末には会員数が399名となった。

### エ 安全管理と保健安全指導の徹底

(ア) 「事故はどこでもいつでも起こり得る」という前提に立ち、所員の安全意識の徹底を図り、施設設備の日常点検及び定期点検の実施はもちろんのこと、利用者に対しても施設の安全な利用について働きかけを行った。また、新型コロナウイルスに関する対応マニュアルについて、随時見直しを行うとともに対策の徹底を図った。

- ・各団体の利用前のコースや遊具点検を徹底した。
- ・手洗い等の感染症対策と職員のマスク着用での対応を行った。
- ・食物アレルギー対応のため、利用団体との情報共有及び給食業務委託業者との連携を進めた。
- ・スズメバチ等害虫対策として、捕虫装置の設置と点検を実施した。
- ・松食い虫被害による倒木防止のため、郡山市森林組合及び郡山市公園緑地課との連携による計画的な伐採と日常の安全点検を実施した。

(イ) 防災に関しては、国際医療看護福祉大学校及び郡山消防署の協力のもと、給食・警備・清掃等の委託業務担当者の参加協力を得て、消火訓練や避難訓練・救急救命訓練を実施した。毎年定期的の実施することにより、関係者のスキルアップが図られ、実効性のある訓練を実施することができた。実際に消火設備を用いて各種訓練を実施することにより、運用上の課題が明確となり対策を講じることができた。さらに、安全・安心な施設は、そこに勤務する職員の意識に負う所が大きいことから、相互の信頼関係を日々醸成するべく情報の共有・伝達に努めた。

### オ 施設・設備の整備及び消毒

(ア) 常に利用者目線での施設の整備に努めた。具体的にはフィールドワーク活動の際など、小学生の目線でコース

整備を行い目の高さにある木の枝を除伐したり、杭やコースロープを設置し、安全・安心に利用できるよう対応に努めた。また、総合活動館やアスレチックなどの遊具全般の点検に際しては、「目視、触診、打音、振動、負荷、作動」により器具の状態を確認するとともに、随時、必要な補修及び整備に努めた。

(イ) 館内については、1階のトイレを洋式化し利用者の利便性を図った。また、多目的トイレをみんなのトイレとし、LGBTQ等ジェンダーに配慮した施設利用に努めた。

## 2 施設・設備の概要

### (1) 所在地

郡山市逢瀬町多田野字中丸山 46 番地

### (2) 宿泊定員

ア 本館 172名 (15部屋)

イ ロッジ 126名 (9棟)

ウ テント 120名 (20張)

### (3) 敷地面積

237,587.59㎡

### (4) 建物面積

延床面積 3,792.12㎡

- ・本館 (管理棟・宿泊室・研修室・浴室)
- ・体育館、総合活動館、野外活動センター、東西炊飯場、ロッジ等

### (5) 設備備品等

ア 野外活動設備

みどりの広場アスレチック、フィールドアドベンチャーコース、アーチェリー場 24 的、ナイトハイクコース、スコアオリエンテーリングポスト、フィールドワークコース、スタンプラリー、営火場 4 か所

イ その他

野外炊飯用具、インラインスケート、フリスビーゴルフ、フロッカー、キンボール、ペタンク、マウンテンバイク、グランドゴルフ、スナップゴルフ、スラックライン、ボッチャ、モルック、そり、各種クラフト用具、伝承遊びセット、ピアノ、双眼鏡、液晶プロジェクター、テレビほか

## 3 利用状況

### 令和 5 年度利用者数

延べ利用者数 17,398 人

内訳 学校教育団体 186 団体 7,201 人

社会教育団体 140 団体 3,659 人

企画事業 68 事業 6,538 人

## 4 企画事業

### (1) 研修会事業

ア 学校利用指導者研修会

(ア) 目的

本所での主体的な利用促進のため、活動計画の立案や活

動の実際について研修し、指導者としての資質を高める。

(イ) 期日、対象及び参加者数

期日 ①令和 5 年 4 月 27 日 (木) 参加者数 23 校 25 名

②令和 5 年 7 月 25 日 (火) 参加者数 29 校 34 名

(ウ) 研修内容

施設紹介と活動プログラム立案、本所利用ルールの説明や活動プログラム実技研修を実施した。

イ ボランティア実践研修

(ア) 目的

本所のプログラム活動体験や宿泊体験を通してボランティア活動についての理解を深め人材の育成を図る。

(イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和 5 年 7 月 15 日 (土)～16 日 (日)

対象 県内の高校生以上の学生

参加者数 8 名

(ウ) 研修内容

ボランティア活動の意義や安全・救急救命講習、活動プログラム実技研修などを実施した。

ウ ボランティア育成講座

(ア) 目的

本所のプログラム活動体験を通してボランティア活動についての理解を深め人材の育成を図る。

(イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和 6 年 3 月 24 日 (日)

対象 県内の高校生以上の学生

参加者数 10 名

(ウ) 研修内容

ボランティア活動の意義や安全・救急救命講習、防災炊飯実技研修などを実施した。

エ セカンドスクール

(ア) 目的

小学校における教科等に関連付けた活動プログラムを実施することにより、「主体的・対話的で深い学び」につなげ、集団宿泊活動の教育的効果向上を図る。

(イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和 5 年 11 月 14 日 (火)～17 日 (金)

参加校 郡山市立穂積小学校・三和小学校

参加児童数 20 名

(ウ) 研修内容

4 泊 5 日を通して郡山自然の家の活動プログラムや震災を学ぶ活動、職業体験学習、大安場史跡公園見学学習、国語算数合同授業などを実施した。

### (2) 利用拡大事業

ア サクラ・カタクリ月間

(ア) 目的

カタクリの群生、桜を觀賞し、春の自然を満喫する。

(イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和 5 年 4 月 1 日 (土)～30 日 (日)

対象 一般

参加者数 618名

(ウ) 活動内容

本所の一部を開放し、春の植物を観賞した。

イ さくらウォーク

(ア) 目的

春の三穂田路の野山や田園地帯を歩きながら自然に親しみ、健康増進を図る。

(イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和5年4月8日(土)

対象 一般

参加者数 45名(ほかボランティア3名)

(ウ) 活動内容

本所を出発し笹原川千本桜まで約5km・10kmに分かれて散策をした。

ウ オープニングセレモニー

(ア) 目的

令和5年度のオープンに合わせ、アスレチックと総合活動館を地元小学生に開放し、使い始めを行う。

(イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和5年4月19日(水)

対象 郡山市立多田野小学校(堀口分校含)

4、5年生と教員

参加者数 35名

(ウ) 活動内容

児童代表あいさつや鳶を用いたテープカットなどのセレモニーを行った後、アスレチックを楽しんだ。

エ 春のオープンデー

(ア) 目的

本所の様々な活動プログラムを体験する機会を提供し、本所について理解を深め利用拡大を図る。

(イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和5年5月28日(日)

対象 県内の小学生とその家族

参加者数 420名(ほかボランティア1名)

(ウ) 活動内容

郡山自然の家の活動プログラム、学校法人国際総合学園各大学校のお仕事体験ブースなどを提供した。

オ 親子でチャレンジ!

(未来キッズ生き活き事業と併催)

(ア) 目的

家族や親子で野外活動に挑戦し、体力の増進を図るとともに、家族間の絆を深める。

(イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和5年6月18日(日)

対象 県内の小学生とその家族

参加者数 102名

(ウ) 活動内容

午前午後の定員制とし、3種目をローテーションで体験した。

カ 夢冒険キャンプ

(ア) 目的

キャンプ生活を通して、自然との共存を図りながら様々な困難にチャレンジして打ち勝つことのできる子どもを育成する。

(イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和5年8月1日(火)~2日(水)

対象 県内の小学4年生~6年生

参加者数 30名(ほかボランティア2名)

(ウ) 活動内容

野外炊飯やアーチェリーやインラインスケートなどの体験とロッジでの宿泊体験をした。

キ 親子で満喫テント泊

(未来キッズ生き活き事業と併催)

(ア) 目的

自然の家で、火おこし、野外炊飯、テント泊を通して家族の絆と家族の交流を深める。

(イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和5年8月26日(土)~27日(日)

対象 県内の小学生を含む家族

参加者数 32名

(ウ) 活動内容

テントの設営やアーチェリーや野外炊飯などを通して他の家族とも親睦を深めた。

ク 第21回郡山自然の家オープンデー

(未来キッズ生き活き事業と併催)

(ア) 目的

本所の様々な活動プログラムを体験する機会を提供し、本所について理解を深め利用拡大を図る。

(イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和5年9月10日(日)

対象 県内の小学生とその家族

参加者数 423名(ほかボランティア3名)

(ウ) 活動内容

郡山自然の家の活動プログラム、学校法人国際総合学園各大学校の仕事体験ブースなどを提供した。利用者180万人達成式典を行い、達成時利用保育園のピアノ演奏や郡山消防署大槻基幹分署による出展と消防ショーを実施した。

ケ 家族でアーチェリー&秋カレーを作ろう!

(ア) 目的

自然の中で体を動かし、野外炊飯を体験して家族の交流を深める。

(イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和5年9月24日(日)

対象 県内の小学生とその家族

参加者数 60名(ほかボランティア1名)

(ウ) 活動内容

複数の家族で班を編成し野外炊飯を実施した。カレー作りを通して親睦を深めた。

コ 家族でダンス&マルチスポーツ体験

(ア) 目的

ダンスとマルチスポーツの体験を通して運動能力の向上を図る。

(イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和5年10月1日(日)

対象 県内の小学生とその家族

参加者数 23名(ほか講師2名)

(ウ) 活動内容

家族でダンスの基礎や運動能力を引き出す体の使い方を学べるマルチスポーツの体験を行い楽しんだ。

サ 自然散策といも煮

(ア) 目的

秋の自然散策と野外炊飯・いも煮を通して食についての意識を高め、家族やグループとの交流を深める。

(イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和5年10月15日(日)

対象 県内の小学生とその家族

参加者数 57名(ほかボランティア1名)

(ウ) 活動内容

複数の家族で班を編成し野外炊飯を実施した。いも煮作りを通して親睦を深めた。

シ 家族で登山を楽しもう

(ア) 目的

登山についての知識を学び、トレッキングしながら紅葉を楽しむ。

(イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和5年10月21日(土)

対象 一般

参加者数 23名

(ウ) 活動内容

荒天のため、那須茶臼岳から宇津峰山へ変更し登山を楽しんだ。

ス 五色沼ハイキング

※荒天のため中止

セ ハッピークリスマス&ハッピーニューイヤー

(ア) 目的

ミニ門松やクリスマスリース作りをとおして、文化を見直し家族や友達との交流を深める。

(イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和5年12月10日(日)

対象 幼児から小学生とその家族

参加者数 48名(ほか講師3名)

(ウ) 活動内容

ミニ門松とクリスマスリースを作り親睦を深めた。

ソ 名人から学ぶけん玉教室

(ア) 目的

家族でけん玉検定にチャレンジし、交流を深める。

(イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和5年12月24日(日)

対象 幼児から小学生とその家族

参加者数 61名(ほか講師5名)

(ウ) 活動内容

公益社団法人日本けん玉協会東東北ブロック講師の協力のもと、けん玉の基礎から上級技までコツを学びながら、家族で楽しんだ。

タ 家族スケート教室

※磐梯熱海アイスアリーナの今期営業終了に伴い中止

チ 家族でハッピーバレンタイン

(ア) 目的

お菓子作りをとおして、作る楽しさを学ぶとともに家族や友達との交流を深める。

(イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和6年1月28日(日)

対象 幼児から小学生を含む家族

参加者数 66名(ほか講師2名)

(ウ) 活動内容

チョコレート菓子の制作は幼児でも大変分かりやすく、家族で手作りする楽しい時間となった。

ツ わくわく! ファミリー冬のつどい

(ア) 目的

スキーや雪遊びを体験し冬のスポーツを楽しむとともに、家族間の交流を深める。

(イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和6年2月3日(土)~4日(日)

対象 県内の小学生を含む家族

参加者数 30名(ほか講師2名)

(ウ) 活動内容

裏磐梯スキー場にてスキー教室を実施した。

テ 冬のクラフトまつり

(ア) 目的

家族でクラフト制作をすることにより、ものづくりの楽しさを体験し、家族間の交流と親睦を図る。

(イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和6年2月25日(日)

対象 県内の小学生を含む家族

参加者数 56名

(ウ) 活動内容

体育館で8種類のクラフト制作を自由に選択し、各制作コーナーを巡り制作活動を実施した。

ト スコアオリエンテーリング記録にチャレンジ

(ア) 目的

スコアオリエンテーリングの記録会を実施し、自然への親しみと健康増進を図る。

(イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和6年3月3日(日)

対象 県内の小学生を含む家族

参加者数 64名

(ウ) 活動内容

家族で自然を体験し、健康増進と親睦を図る良い機会

となった。

#### ナ サザッピークラブDAY

##### (ア) 目的

本所サザッピークラブ限定の企画を開催することでクラブ会員同士の親睦を深める。

##### (イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和6年3月10日(日)

対象 サザッピークラブ会員

参加者数 36名

##### (ウ) 活動内容

家族対抗フロッカー大会を実施し親睦が図られた。

### (3) 協力事業

#### ア 逢瀬公園さくら祭り

##### (ア) 目的

本所のクラフト活動体験を実施し、利用拡大を図る。

##### (イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和5年4月16日(日)

対象 逢瀬公園さくら祭り参加者

参加者数 109名

##### (ウ) 活動内容

缶バッジ制作を実施し、参加者及び他団体との親睦を深め本所の魅力を伝えた。

#### イ イトヨーカドー郡山店出張出前講座

##### (ア) 目的

本所のクラフト活動体験を提供し、利用拡大を図る。

##### (イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和5年5月3日(水)

対象 イトヨーカドー郡山店来店者

参加者数 89名

##### (ウ) 活動内容

缶バッジ制作を実施し、参加者との親睦を深め本所の魅力を伝えた。

#### ウ FSGカレッジリーグ学園祭

##### (ア) 目的

本所のクラフト活動体験を実施し、利用拡大を図る。

##### (イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和5年8月27日(日)

対象 FSGカレッジリーグ学園祭参加者

参加者数 259名

##### (ウ) 活動内容

缶バッジ制作を実施し、参加者との親睦を深め本所の魅力を伝えた。

#### オ あったかふれあいまつり

##### (ア) 目的

本所のクラフト活動体験を実施し、利用拡大を図る。

##### (イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和5年10月9日(月)

対象 会津自然の家あったかふれあいまつり参加者

参加者数 138名

##### (ウ) 活動内容

缶バッジの制作を実施し、参加者との親睦を深め本所の魅力を伝えた。

#### カ 第33回浄土松公園まつり

##### (ア) 目的

本所のクラフト活動体験を実施し、利用拡大を図る。

##### (イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和5年10月14日(土)

対象 浄土松公園まつり参加者

参加者数 174名

##### (ウ) 活動内容

缶バッジの制作を実施し、参加者との親睦を深め本所の魅力を伝えた。

#### キ いわき海浜自然の家秋のオープンデー

##### (ア) 目的

本所のクラフト活動体験を実施し、利用拡大を図る。

##### (イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和5年10月29日(日)

対象 いわき海浜自然の家秋のオープンデー参加者

参加者数 395名

##### (ウ) 活動内容

缶バッジの制作を実施し、参加者及との親睦を深め本所の魅力を伝えた。

#### ク ハロウィンパレード2023

##### (ア) 目的

本所のクラフト活動体験を提供し、利用拡大を図る。

##### (イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和5年10月29日(日)

対象 小学生以下の子どもとその保護者

参加者数 200名

##### (ウ) 活動内容

缶バッジの制作を実施し、参加者との親睦を深め本所の魅力を伝えた。

#### ケ お正月を遊ぼう

##### (ア) 目的

本所の活動プログラム体験を提供し、利用拡大を図る。

##### (イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和6年1月7日(日)

対象 郡山市青少年会館お正月を遊ぼう参加者

参加者数 7名

##### (ウ) 活動内容

伝承遊びを提供し、参加者との親睦を深め本所の魅力を伝えた。

#### コ 福島ファイヤーボンズホームゲーム出店

##### (ア) 目的

本所のクラフト活動体験を実施し、利用拡大を図る。

##### (イ) 期日、参加者数及び対象

期日 令和5年10月14日(土) 参加者数275名

令和5年10月15日(日) 参加者数258名

令和5年11月25日(土) 参加者数143名

令和5年11月26日(日) 参加者数224名

令和5年12月16日(土) 参加者数114名

令和5年12月17日(日) 参加者数200名

対象 ゲーム観戦者

(ウ) 活動内容

缶バッジの制作を実施し、観戦者との親睦を深め本所の魅力を伝えた。

#### (4) 年間継続事業

ア 無料開放DAY

(ア) 目的

屋内施設とみどりの広場アスレチックを開放し、思い切り体を動かす機会を提供するとともに、体力の増進を図る。

(イ) 期日、参加者数及び対象

a 期日 令和5年4月22日(土) 参加者数36名  
令和5年5月13日(土) 参加者数12名  
令和5年5月20日(土) 参加者数10名  
令和5年11月4日(土) 参加者数21名  
令和5年11月25日(土) 参加者数6名  
令和5年12月2日(土) 参加者数3名  
令和5年12月16日(土) 参加者数16名  
令和6年1月20日(土) 参加者数20名  
令和6年2月17日(土) 参加者数9名  
令和6年3月17日(日) 参加者数10名

対象 県中地区の特別支援学校・学級の幼児及び小学生とその家族

b 期日 令和5年4月23日(日) 参加者数193名  
令和5年5月14日(日) 参加者数116名  
令和5年5月21日(日) 参加者数91名  
令和5年11月5日(日) 参加者数76名  
令和5年11月26日(日) 参加者数67名  
令和5年12月3日(日) 参加者数16名  
令和5年12月17日(日) 参加者数53名  
令和6年1月21日(日) 参加者数48名  
令和6年2月18日(日) 参加者数55名  
令和6年3月16日(土) 参加者数20名

対象 県中地区の幼児及び小学生とその家族

(ウ) 活動内容

施設を開放し家族で体を動かす機会を提供した。

イ 未来キッズ生き生き事業

(ア) 目的

家族や親子に体を動かす機会を提供するとともに、自然の家のプログラム体験をとおして、心身の健康や体力向上を図る。

(イ) 期日、参加者数及び対象

a 期日 令和5年5月28日(日) 参加者数 108名  
6月25日(日) 参加者数 104名  
対象 県北地区の小学生を含む家族  
b 期日 令和5年5月28日(日) 参加者数 287名  
7月2日(日) 参加者数 91名  
対象 県中地区の小学生を含む家族

c 期日 令和5年5月28日(日) 参加者数 7名

7月2日(日) 参加者数 14名

対象 県南地区の小学生を含む家族

d 期日 令和5年7月9日(日) 参加者数 99名

対象 相双地区の小学生を含む家族

(ウ) 活動内容

本所の様々なプログラムを家族で楽しんだ。

ウ 特別企画 自然の家でからだを動かそう

(ア) 目的

本所を利用し、子どもたちの健康の維持増進と体力の向上を図る。

(イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和5年12月1日(金)～令和6年3月8日(金)

対象 県中地区内の幼稚園・保育園

参加者数 38団体953名

(ウ) 活動内容

みどりの広場や活動館のアスレチックと体育館などを使って体を動かす機会を提供した。

エ こころのケアが必要なこどもを対象とした事業

(ア) 目的

様々な不安を抱え登校等が困難な児童生徒を対象に豊かな自然の中での活動を通して自己肯定感を高める。

(イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和5年5月19日(金) 参加者8名

令和5年10月13日(金) 参加者27名

令和5年10月28日(土) 参加者7名

令和5年12月10日(日) 参加者7名

令和6年1月28日(日) 参加者10名

対象 集団活動や登校が困難な児童生徒

(ウ) 活動内容

保護者や教員と連携し、児童生徒の状況や負担に配慮しながら自然体験活動や交流活動を実施した。

## 第16節 福島県会津自然の家

### 1 概要

福島県会津自然の家は、恵まれた自然環境の中で、自然に親しむ活動や集団宿泊生活、野外活動を体験することにより心豊かで心身ともに健全な県民を育成することを目的とした生涯学習施設である。

昭和56年4月に開所し、令和5年度末で43年になり、開所以来多くの方々にご利用いただいているところである。

令和5年度の利用者数は、22,638人で、前年度を3,209人上回った。新型コロナウイルス感染拡大防止に配慮しながら、企画事業の工夫や出前講座を積極的に実施することで、利用促進に努めることができた。

また、4つの重点目標を掲げ、その達成のため、誰もが利用しやすい魅力的な施設を目指して運営の改善を図り、時代や利用者のニーズに対応した生涯学習施設の役割に積極的に取り組んできた。

## (1) 職員組織

| 職名       | 人員  |
|----------|-----|
| 所長       | 1   |
| 副所長      | 2   |
| 総務長      | (1) |
| 総務事務員    | 2   |
| 指導員(常勤)  | 4   |
| 指導員(非常勤) | 3   |
| 嘱託運転手    | 2   |
| 計        | 14  |

## (2) 令和5年度重点目標と成果

利用者の満足度90%以上の成果目標を達成するために、次の点に力を入れて取り組んできた。

ア 利用者が満足感を持つことのできる活動を提供する。

(ア) 利用者のニーズに応じた「研修プログラム」の提供  
活動プログラム集を作成し、学校団体から社会教育団体まで幅広い団体のニーズに応じたプログラムを提供することができた。

(イ) 施設開放等、地域参加型の「企画事業」の開催  
里山開放デーなどの自然体験活動や家族がふれあえる企画事業の立案に努めた。

(ウ) 幅広い年齢層に対応した出前講座の推進  
学校、公民館など教育施設への出前講座を行い、子どもから高齢者まで楽しめる講座を提供することができた。

(エ) 魅力的な「企画事業」や「研修プログラム」の開発  
前年踏襲にとらわれず、企画事業において子どもだけでなく大人も対象とした様々なプログラムを提供するとともに、利用者のニーズに応えらえるよう創造的な事業の企画立案に努めた。

イ 生涯学習施設の拠点としてプログラムの提供や情報発信を行う。

(ア) 各関係機関との連携強化(事業のタイアップ)  
市町村教育委員会や学校、公民館等、様々な関係機関と連携しながら、新聞やラジオ、フリーペーパー等を利用し、事業の広報活動に努めた。

(イ) ホームページやフェイスブックを活用しての効果的な情報の発信

タイムリーな話題を、時期を逃さずホームページにアップできるよう、担当が中心となり更新に努めた。新たな利用者層にアプローチするために、フェイスブックを活用し、活動の様子や企画事業の案内に努めた。

(ウ) 地域や各団体への新規プログラムの提供  
研修委員会を中心に新たなプログラム開発を行い、各団体のニーズに合った活動ができるようにした。

(エ) ボランティアを育成する研修の開催と活動機会の提供  
ボランティアのつどいを実施し、ボランティアの確保

とともに、参加者のスキルアップに努めた。

ウ 安全・安心で好感度の高い活動や環境を提供する。

(ア) 笑顔と元気なあいさつ、親切・丁寧な接遇  
団体対応はもとより、来客や電話対応など、相手の立場に立った対応に努め、好感度の高い施設を目指すことができた。

(イ) 感染症(新型コロナウイルス、ノロウイルスなど)への対策や予防徹底

利用者の事前の健康チェック、来所時、活動時の検温と消毒、食堂の椅子の配置、消毒液の設置などあらゆる対策に努めた。

(ウ) 日常(事前、事中、事後)及び定期的な安全・確認の徹底  
労務員も含めた全所員による定期安全点検と日常点検を徹底し、事故防止に努めることができた。

(エ) 施設内の「ごみゼロ」と迅速な施設の整備・修繕  
所員だけでなく、委託業者とも連携し、清潔な所内の環境づくりに努めることができた。

エ 施設・財産を守る。

(ア) 適切な会計処理とチェック体制の充実  
会計事務にかかる研修や、服務倫理委員会を定期的に開催し、会計事務の適正化を図った。

(イ) 事業等の整備と保管  
a 研修プログラムや企画事業の電子データ化と指導手順のマニュアル化

研修プログラム、企画事業の電子データ化を行い、写真や動画ですぐに確認できるように整備した。

b 活動や施設設備等のデータの累積とその有効活用  
活動プログラムの説明や注意事項、放送設備等の使用方法などをデータに保存し、活用できた。

## 2 施設・設備の概要

### (1) 所在地

河沼郡会津坂下町大字八日沢字西東山 4495 番 1

### (2) 宿泊定員

ア 本館 25室 292名(うち1室障がい者用)

イ ロッジ 10棟 120名

ウ テント 16張 50名

### (3) 敷地面積

249,848.98㎡

### (4) 建物面積

ア 延床面積 5,864.83㎡

(ア) 管理研修棟(鉄筋造2階建)

(イ) 宿泊棟(鉄筋造2階建)

(ウ) プレイホール(鉄筋造)

(エ) アセンブリホール(鉄筋造)

(オ) 機械棟(鉄筋造3階建)

(カ) ロッジ(木造平屋建)

(キ) 野外活動管理センター(鉄筋造)

(ク) 薪置場(コンクリートブロック造)

(ケ) 車庫(鉄筋造)

(ロ) 野外便所(鉄筋造)

#### (5) 運動広場面積

8,500 m<sup>2</sup>

#### (6) 設備備品等

- ア フィールドアスレチック
- イ 野外活動用具、野外炊飯用具、運動用具
- ウ 双眼鏡、天体望遠鏡、テレビ、VTR
- エ 液晶プロジェクター、CDカセットプレーヤー
- オ ピアノ、オルガン
- カ 伝承遊びセット
- キ クラフト用具
- ク 各種オリエンテーリング用具
- ケ アルペンスキー
- コ 歩くスキー(クロスカントリースキー)
- サ そり、スノーチューブ
- シ スノーシュー
- ス 営火場(4か所)
- セ 諸活動コース
- ソ その他

### 3 利用状況

#### 令和5年度の利用団体数

延べ利用者数 22,638人

|    |        |       |         |
|----|--------|-------|---------|
| 内訳 | 学校教育団体 | 232団体 | 13,380人 |
|    | 社会教育団体 | 122団体 | 6,432人  |
|    | ファミリー  | 28団体  | 139人    |
|    | 企画事業   | 33企画  | 2,687人  |

### 4 企画事業

#### (1) 研修会事業

ア 学校団体指導者事前研修会

(ア) 目的

- a 自然の家設立の趣旨・教育目標・方針・利用のねらい及び運営方法の理解を図る。
- b 児童・生徒が安全に生活し充実した活動が行えるよう、屋内外の施設環境を確認するとともに、各種プログラムのねらいや配慮事項を理解し、効果的な活動計画が作成できるようにする。
- c 集団宿泊活動等が円滑かつ効果的に進められるよう、同じ時期に宿泊する他の学校団体との活動及び役割分担等について調整を図る。

(イ) 期日、参加者数及び対象

- a 第1回：令和5年4月19日(水) 27名参加  
第2回：令和5年4月25日(火) 23名参加  
第3回：令和5年4月26日(水) 31名参加
- b 幼稚園、保育所及び小中学校の教員

(ウ) 研修内容

- a プログラム体験
- b プログラム調整会

イ ボランティアのつどい

(ア) 目的

- a ボランティアに関する講話や実践例などを聞く機会とし、ボランティアの意識高揚を図る。
- b ボランティアメンバーの交流の場を設け、情報交換などを通してボランティアとしての意欲を高める。
- c プログラム体験の機会を設け、各種主催事業等に協力する際に必要な体験活動に関わるスキルを身につけることができるようにする。

(イ) 期日、参加者数、対象

- a 第1回：令和5年5月7日(日) 23名参加  
第2回：令和5年11月19日(日) 7名参加
- b 高校生、一般

(ウ) 研修内容

- a ボランティア講座
- b 本所プログラム研修

#### (2) 教育研究事業

ア 通学キャンプ

(ア) 目的

- a 自然の家での集団生活や様々な体験活動を通して、子どもたちの自律的な生活態度やよりよい人間関係を形成するための社会性を育成する。
- b 中学校進学前に、同じ中学校へ進学予定の他校の児童との交流を図ることにより、中学進学不安を少しでも解消できるようにする。

(イ) 期日、対象、参加者数

- a 令和5年11月30日(木)～12月2日(土)
- b 会津坂下町立坂下南小学校・坂下東小学校の5～6年児童
- c 23名

(ウ) 活動内容

- a 室内ゲーム、ニュースポーツ
- b 学習会
- c クラフト体験

イ お正月飾りを作ろう

(ア) 目的

正月飾りをつくることで、日本の伝統文化を知る。

(イ) 期日、対象、参加者数

- a 令和5年12月17日(日)
- b お正月飾り作りに興味のある方とその家族
- c 115名

(ウ) 活動内容

お正月飾り作り

#### (3) 利用促進事業

ア 第19回高寺山山開き(会津坂下町との共催)

(ア) 目的

参加者同士が共に汗を流し登山することにより、健康づくりと温かい心の交流の機会を提供する。

(イ) 期日、対象、参加者数

- a 令和5年4月16日(日) 100名参加
- b 希望者

- (ウ) 活動内容  
高寺山・見明山登山
- イ 里山開放デー（未来キッズ生き生き事業との併催）
- (ア) 目的  
自然の家の野外プログラムを活用して、心身の健康増進や自然の中で家族のコミュニケーションを図る。
- (イ) 期日、対象、参加者数  
a 令和5年7月16日(日) 797名参加  
b 希望者
- (ウ) 活動内容  
a 協力外部団体(ツリーイング、里山アドベンチャー、水辺の生き物観察、森のスライダー)  
b 本所プログラム(カヌー、アスレチック、段ボール迷路、どこどこOL、ムシムシランド、ニュースポーツ)
- ウ 夏の川遊びを楽しもう！
- (ア) 目的  
a 暑い夏に川遊びを行い、自然に親しむとともに、地域の自然についての理解を深める。  
b 夏の暑さのもとでの様々な水辺の活動を通して、大自然の恵みや季節感を楽しむ豊かな心を育むと共に、水への安全な関わり方について身に付けさせる。
- (イ) 期日、対象、参加者数  
a 令和5年7月29日(土) 127名参加  
b 県内の幼児、小・中学生とその家族
- (ウ) 活動内容  
a カヌー体験・川流れ体験  
b 水辺の生き物探し  
c 河原で水遊び
- エ あったかふれあいまつり  
(未来キッズ生き生き事業との併催)
- (ア) 目的  
a 野外活動プログラムや各種体験などの自然や人とのふれあいを通して、心身のリフレッシュや体力増進を図る。  
b 県民に施設及び周辺の環境を開放し、活動プログラムを体験することができる場を提供することにより、自然体験機能及び生涯学習機能を兼ね備えた本所への理解を深め、今後の集客につなげる。  
c 各団体と連携を図ることにより、体験活動の充実を図る。
- (イ) 期日、対象、参加者数  
a 令和5年10月9日(月) 441名参加  
b 県内の幼児、小・中学生とその家族
- (ウ) 活動内容  
a 協力外部団体(ツリーイング、秘密基地づくり、水辺の生き物観察)  
b 本所プログラム(野外クッキング、森遊び、カヌー、アスレチック、段ボール迷路、どこどこOL、昆虫OL、スタンプラリー)
- オ 東松ウォーキング大会2023
- (ア) 目的  
東松峠ウォーキング大会に地区外からの参加を集うことにより、交流・地域の活性化を図る。
- (イ) 期日、対象、参加者数  
a 令和5年10月21日(土) 80名参加  
b 一般
- カ 三たてを味わう 新そばにチャレンジ
- (ア) 目的  
会津の代表的な郷土料理であるそばを打ち、新そばの豊かな味わいを堪能するとともに、郷土の食文化のすばらしさを知る。
- (イ) 期日、対象、参加者数  
a 第1回：令和5年11月25日(土) 37名参加  
第2回：令和5年11月26日(日) 39名参加  
b 県内の小・中学生とその家族
- (ウ) 活動内容  
そば打ち体験と試食
- キ 手作り森のクリスマス
- (ア) 目的  
a クリスマス用のクラフト作りや食事を味わうことを通して、家族間の交流を図る。  
b 手作りの良さや自然素材の温かみを味わってもらうとともに、本所プログラムや施設についての理解を図り、今後の利用促進につなげる。
- (イ) 期日、対象、参加者数  
a 第1回：令和5年12月23日(土) 61名参加  
第2回：令和5年12月24日(日) 56名参加  
b 県内の小・中学生とその家族
- (ウ) 活動内容  
a クリスマスケーキデコレーション  
b クリスマスクラフト作成
- ク ウィンターフェスティバル
- (ア) 目的  
雪国ならではのスノーボード体験やそり・チューブ遊び、雪と親しむ活動等に触れることを通して、会津の冬の楽しさを感じさせる。
- (イ) 期日、対象、参加者数  
a 令和6年1月20日(土)～21日(日) 36名参加  
b 県内の幼児、小・中学生とその家族
- (ウ) 活動内容  
a スノーシュー体験、スノーチューブ体験  
b 雪灯ろう作り、キャンプファイヤー  
c スノーボード教室、そり遊び
- ケ クラフトキッズフェア
- (ア) 目的  
a 親子で工夫し、楽しみながらクラフト製作を行うことにより、子どもの発想力や創造力を高めたり、親子の絆を深めたりする。  
b クラフト製作の場を提供することにより、本所のプログラムについての理解を深める機会と利用機会の

拡大を図るきっかけを作る。

- (イ) 期日、対象、参加者数
  - a 令和6年3月3日(日) 205名参加
  - b 県内の幼児、小・中学生とその家族
- (ウ) 活動内容
  - a 木目コースター
  - b ジョイントクラフト
  - c 缶バッジ
  - d Ori kiri ori クラフト
  - e 卵のひな人形づくり

#### (4) その他の企画事業

##### ア 未来キッズ生き生き事業

- (ア) 目的、対象  
県内の子どもたちとその家族を自然の家へ招待し、プレイリーダーの協力も得ながら、一日を通して、自然の家でのプログラムに基づき、心身の健康や運動不足解消や体力増進となる取組を実施する。

会津地方の12歳以下の子どもたちとその家族を対象とする。

- (イ) 名称、期日、参加者数
  - a はじめてキャンプ  
令和5年5月20日(土)～21日(日) 33名参加
  - b 会津自然の山里山開放デー・・・前  
令和5年7月16日(日) 797名参加
  - c あったかふれあいまつり・・・前  
令和5年10月9日(月) 441名参加
  - d 秋だ！ちびっこ大集合！  
令和5年10月22日(日) 120名参加
  - e ウィンターフェスティバル・・・前  
令和6年1月20日(土)～21日(日) 36名参加
  - f そりすべり団体開放  
令和5年1月10日(水)～2月17日(土)  
1,261名参加
  - g 雪遊びファミリーデー  
令和6年2月4日(日) 107名参加

- (ウ) 活動内容
  - a アスレチック、カヌー、UFO ゴルフ、迷路
  - b クラフト、オリエンテーリング、ボッチャ
  - c そり遊び、スノーチューブ

##### イ 心のケア事業「もっくんリフレッシュデー」

- (ア) 目的  
心のケアが必要な児童生徒に対して、会津自然の家の豊かな環境を活かしたプログラムを提供し、自然体験活動や交流活動を通して、心身ともに健やかな人間性を育むとともに、自ら主体的に考え行動できるようなたくましい子どもたちの育成のための支援を図ることを目的とする。

- (イ) 期日、参加者数  
令和5年7月8日(土) 12名参加  
令和5年9月19日(火) 15名参加

- 令和5年9月30日(土)～10月1日(日) 12名参加
- 令和5年11月5日(日) 10名参加
- 令和5年11月18日(土) 16名参加
- 令和5年12月10日(日) 17名参加
- 令和6年1月28日(日) 14名参加
- 令和6年2月21日(水) 21名参加

- (ウ) 活動内容  
保護者、児童、施設と連携し、児童生徒の状況に配慮しながら自然体験活動や手作りの活動を実施した。
  - a ペットボトルロケット、カヌー
  - b 野外炊飯、ツリーイング
  - c そば打ち体験、自然散策
  - d 冬の遠足
  - e 自然散策、クラフト

## 第17節 福島県いわき海浜自然の家

### 1 概要

福島県いわき海浜自然の家は、海と山の豊かな自然環境の中で様々な活動や集団宿泊体験を通して、心身ともに健全な青少年を育成することを目的とした社会教育施設として平成8年7月に開所した。

開所以来、学校教育団体の利用はもとより、スポーツ少年団、子ども会などの社会教育団体や家族などのあらゆる年齢層に利用されてきた。しかし、平成23年3月11日の東日本大震災により休所を余儀なくされ、同年11月1日から財団法人いわき市教育文化事業団(平成26年4月1日に「公益財団法人いわき市教育文化事業団」と改称)を指定管理者として一部再開した。

以降、利用者が安心して利用できる環境を創出するため、平成23年度から同26年度にかけて、本館周辺及び野外施設の放射線量低減措置を実施し、順次供用を再開した。山林部については、一部で放射線量がいわき市の基準値まで低下していないこと、また、遊歩道や各種遊具などの再整備が必要であることから、フィールドアスレチックや冒険の森を利用した活動プログラムの再開はできていないが、令和5年度には老朽化して使用不可となっていた一部フィールドアスレチック施設の解体、階段の再整備を実施し、試験的に使用した。

海浜活動については、沿岸部の復旧状況に合わせて平成25年度から順次再開し、平成30年度に四倉漁港でいかだ乗り、カヤック乗り、ボディボードを再開したことで、全てのプログラムを再開することができた。海浜に隣接した施設としての特性を生かした海浜活動のプログラムは、会津及び中通り地方の学校教育団体だけでなく、相双地区やいわき地区の利用団体からも好評を得ている。

5年度の利用受け入れについては、新型コロナウイルス感染症の法的位置付けが5類に変更された直後より段階的に利用制限を緩和し、11月1日(水)からは宿泊利用定数・日数とも制限を撤廃した。しかしながら、学校教育団体・社会教育団体とも利用予約が前年度に行われ、利用団体がほぼ確定

していたため、全体的な利用状況の回復傾向は認められたが、大幅な増とはならなかった。

年間の利用状況については513団体（前年比75団体増）、延べ利用者数36,402人（前年比8,998人増）となった。

施設管理に関しては、日常的に保守点検や環境美化に努めるとともに、利用者が少ない時期には、設備の細部点検や修繕等を集中して実施し、利用環境の整備・向上を図った。また、引き続き本所の「庁舎管理規程」「危機管理マニュアル」等に基づき、利用者が安全・安心に利用できるよう努めた。

### (1) 令和5年度重点目標と成果

震災の影響で未だに一部の自然体験活動が制限されている中、少しでも多くの利用者が、新たな発見や感動、満足感・充実感を味わうことにより、本来の活動目的が達成されるよう、引き続き次の目標に取り組んだ。

ア 本施設の設置目的の明確化とその周知及び利用促進を図る。

(ア) 青少年教育施設としての位置づけを明確にし、利用者への理解徹底を図るため、健全な青少年の育成を目的とした利用のあり方を検討しながら受け入れを実施した。学校教育団体へは、所報「しおね」や企画事業チラシ・ポスター等を配付するなど、本所の取り組みや事業について情報提供し、周知と利用促進に努めた。また、生涯学習施設としての役割に鑑み、いわき市内の教育文化施設及び社会教育施設と連携し、公民館への出前講座等で体験活動を提供するなど、社会教育団体への利用促進を図った。

(イ) 利用団体の指導者への啓発的支援を通して、青少年の自主的自律的な心身の育成を図るため、学校教育団体及び社会教育団体の指導者向けに活動計画立案や活動プログラム体験などを取り入れた研修会を実施した。令和5年度は、学校教育団体を対象とした学校団体指導者事前研修会について、新型コロナの法的位置付けが5類に変更されたことを受け、対面方式での開催を再開した。研修会では、研修目的に沿った活動の提案や、宿泊活動が円滑に行えるよう調整を行った。

(ウ) 利用団体へのオリエンテーション等を通して宿泊活動における生活指導を行い、共同生活の場における社会的集団的なルール理解と定着を図った。

(エ) 企画事業の充実を図るため、提供プログラムの教育的効果や自然体験を多く取り入れたプログラムの開発について、所員が意見を出し合いながら事業を進めた。令和5年度は、春・秋のオープンデーなどの企画では、自由参加制を再開し、多くの参加者があった。広報活動についても、指定管理者が管理受託する施設と連携し、効果的な広報に努めた。

イ 利用者のニーズに対応した施設運営に努める。

(ア) 利用者の研修目的達成のため、団体の特性に合わせた活動プログラムの開発に取り組んだ。特に学校教育団体については、プログラムの教育的効果について再検討し、野外活動・海浜活動の内容の見直しについて検討を

行った。

(イ) あらゆる年齢層に対応するため、幼児から高齢者まで、多様なニーズに対応した幅の広いプログラムの開発と内容の充実に努めた。令和4年度より、幅広い年齢層で活動できるニュースポーツとして、モルックを導入した。

(ウ) アンケート調査を実施し、利用者のニーズについての調査・研究を行った。プログラムについては自然の家に求められている体験活動について、既存の内容の見直しを随時行った。また、団体の自主性・主体性を尊重しながら、研修目的を達成できるよう、適切な支援方法について、所員研修を行いながら改善を進めた。

(エ) 誰もが安心して楽しく利用できる施設を目指し、活動前の施設の安全点検だけでなく、活動プログラムについても定期的に安全面での検証を行い、支援に取り入れた。特に海浜活動については、毎年シーズン前に所員研修で安全な支援方法の確認を行っている。さらに、新型コロナウイルス感染症についても基本的な感染拡大防止対策を継続しながら活動を支援した。

(オ) 平日の昼間に自然体験活動を希望する大人向けに、閑散期の利用促進対策も兼ねてミニ企画等を実施し、利用者から好評を博した。

(カ) 閑散期の土日に施設の一部を開放する「自然の家であそんじゃお！（ミニ開放デー）」を開催した。SNSのみの広報であったが、想定を上回る参加者があった。

ウ 事故の未然防止、危機管理体制の充実に努める。

(ア) 施設内外の安全点検を定期的実施し、事故の未然防止を徹底した。特にトリムランドは利用前に所員が点検を行うとともに、年1回の公園施設製品安全管理士による点検を実施し、安全管理に努めた。用具についても、利用前に消毒と不具合の有無についての確認を徹底した。

(イ) 学校教育団体及び社会教育団体への事前研修会を実施し、安全で有効かつ適切な施設の活用について周知徹底を図った。令和5年度は、学校団体指導者研修会・活動プログラム研修会ともに対面方式で開催し、きめ細かい調整を行うとともに、受付やオリエンテーション、活動支援においても、安全のための適切な助言や指導を行った。

(ウ) 自然災害及び事故発生時の緊急事態等に対応するため、危機管理マニュアルを作成しており、緊急時の対応及び連絡体制を明確にすることで、情報共有の徹底と危機管理体制の充実に努めた。マニュアルは毎年見直しを行っており、令和5年度は新型コロナウイルス感染症に関する項目を見直した。

(エ) 本所の危機管理体制と安全対策を周知するため、海浜活動時等の自然災害等での避難方法、新型コロナウイルス感染症に関する対策等についてマニュアル化し、利用者に配布するとともに、受付時にも説明を行った。また、放射線量について、施設全体と活動エリアである海岸、

さらに現在使用休止中の山林部についても、定期的に測定を実施し、データをホームページで公表した。

- (ホ) 利用者がより良い環境の中で安全に安心して活動できるよう、地域の消防署、交番とも連携して安全対策を徹底した。また、所外での活動に備えて2台のAEDを準備し、年一回の救急救命訓練を実施するなど、安全対策の充実を図った。
- (コ) 火災予防については、消防法に定められた防火設備の点検を実施するとともに、消防計画の作成、消防訓練の実施など、常に防火管理に努めた。
- エ 定期的な業務内容の点検と改善に努める。
- (ア) 利用者へのアンケート結果を参考に、プログラム内容や支援への意見・要望などを分析しながら業務遂行の在り方を検討し、利用者の目線に立った支援及び管理運営に努めた。
- (イ) 指定管理者である公益財団法人いわき市教育文化事業団の理事会及び評議員会や、法人が管理受託している施設全体の施設長会議などにおいて、計画的かつ定期的な評価を受け、改善点の明確化を図り、満足度の高い施設運営に努めた。
- (ウ) 自然体験活動にふさわしい環境整備を心がけ、利用団体の活動に支障がないよう施設の維持保全に努めた。食事提供業務、施設等維持保全関連業務の再委託については、指名競争入札により経費の削減を図りながら、受託業者と連携して利用者へのサービス向上に努めた。
- オ 地域との連携を深め、生涯学習実践の場として機能する施設運営に努める。
- (ア) ボランティア養成講座を年4回開催し、ボランティアの意義について理解を深めるための講座及びグループワーク、自然体験活動支援に必要な知識と技術を習得する実技研修を実施した。ボランティア養成講座には、社会人だけでなく、高校生及び大学生が参加しており、社会教育や生涯学習につながる体験の場を提供することができた。規定の講座修了後には事業支援ボランティアとして企画事業の一端を自主運営するなど、ボランティア活動の場の充実に努めた。
- また、環境ボランティアによる所内美化活動を通年で実施したほか、海浜活動を実施する舟戸海岸・四倉漁港の清掃活動を年1回行い、地域に根ざした施設づくりに努めた。
- (イ) 地域の公民館及び教育文化施設等と社会教育に関する情報を共有し、スポーツ団体や漁業関係者との連携、協力を得て、企画事業等で様々なプログラムを提供した。また、地域のまちづくり活動へ協力することで、各種団体との連携強化に努めた。

## (2) 職員組織

| 職名 | 人員 |
|----|----|
| 所長 | 1  |

| 職名      | 人員 |
|---------|----|
| 次長      | 1  |
| 専門指導員   | 1  |
| 主査      | 1  |
| 副主任指導員  | 1  |
| 指導員     | 2  |
| 主事      | 1  |
| 教育指導専門員 | 1  |
| 体験活動指導員 | 4  |
| 運転手     | 2  |
| 環境整備員   | 1  |
| 事務補助員   | 2  |
| 計       | 18 |

## 2 施設・設備の概要

### (1) 所在地

いわき市久之浜町田之網字向山 53

### (2) 宿泊定員

- ア 本館定員 300名 (和室 28室)  
 イ ロッジ定員 160名 (10棟)  
 ウ テント定員 100名 (25張)

### (3) 敷地面積

350,171 m<sup>2</sup>

### (4) 建物面積

ア 延床面積 6,696.97 m<sup>2</sup>

#### (ア) 中心施設

本館 (宿泊室、オリエンテーションホール、研修室、野外学習室、事務室、食堂、浴室等)  
 体育館

#### (イ) 野外施設

管理棟、ロッジ、便所等

### (5) 野外活動施設面積

- ア つどいの広場 7,000 m<sup>2</sup>  
 イ 多目的広場 8,890 m<sup>2</sup>  
 ウ 自然観察園 4,050 m<sup>2</sup>  
 エ みんなの広場 4,700 m<sup>2</sup>

### (6) 設備備品等

- ア 体育館  
 バレーボールコート2面、バスケットボールコート1面 (バスケットボールリング、ミニバスケットボールリング)、バドミントンコート2面、卓球台3台、ピアノ1台、キンボール ほか
- イ 野営場  
 野外炊飯場、キャンプ用品一式、冷蔵庫 ほか
- ウ 野外活動設備  
 フィールドアスレチックコース、冒険の森遊歩道、トリムランド、営火場5か所 (うち1カ所は利用休止中)、各種オリエンテーリングコース、ナイトハイキングコース、ウォークラリーコース、ロープコース、マウンテンバイクコース ほか。なお、次の施設は平成23年

度から利用制限中（フィールドアスレチックコース、冒険の森遊歩道、ロープコース）

エ 多目的広場

ソフトボール、マウンテンバイクコース、サッカーゴール ほか

オ その他

視聴覚機器、無線機、天体望遠鏡、双眼鏡、七宝焼窯、マウンテンバイク、足けりバイク、釣り用具一式、海浜用具一式、マイクロバス ほか

### 3 利用状況

#### 令和5年度利用者数

延べ利用者数 36,402人

|    |        |       |         |
|----|--------|-------|---------|
| 内訳 | 学校教育団体 | 252団体 | 20,754人 |
|    | 社会教育団体 | 214団体 | 9,627人  |
|    | ファミリー  | 8団体   | 120人    |
|    | 企画事業   | 39団体  | 5,901人  |

### 4 企画事業

#### (1) 研修会事業

ア 学校教育団体指導者事前研修会

(ア) 目的

令和5年度利用の学校教育団体の指導者が、活動計画の立て方や本所の利用方法について理解を深めるとともに、同日に利用する学校間での活動プログラムの調整を図る。

(イ) 期日及び参加校数

|    |              |    |     |
|----|--------------|----|-----|
| 期日 | 令和5年4月13日(木) | 参加 | 45校 |
|    | 令和5年4月20日(木) | 参加 | 55校 |
|    | 令和5年4月27日(木) | 参加 | 51校 |
|    | 令和5年7月25日(火) | 参加 | 33校 |

(ウ) 内容

新型コロナウイルス感染症の法的位置付けが5類に変更されたことを受け、4年ぶりに集合・対面形式で実施した。同時期利用校同士でコミュニケーションを取りながら円滑に活動調整を行うことができた。

イ 社会教育団体指導者事前研修会（活動プログラム研修会）

(ア) 目的

令和5年度利用の社会教育団体の指導者が、見学会や実技研修等を通して、活動の進め方や活動計画作成に理解を深めることができるよう提案する。

(イ) 期日及び参加者数

|    |              |      |     |
|----|--------------|------|-----|
| 期日 | 令和5年5月12日(金) | 参加者数 | 21名 |
|----|--------------|------|-----|

(ウ) 内容

活動プログラムを体験することによりプログラムの理解を深め、計画の立案材料として役立たせることができた。また、相談会では、参加者の目標とする計画に沿うよう立案の助言や他

団体との調整を行い、利用当日の計画が円滑に実施で

きるように調整した。

ウ ボランティア養成講座

(ア) 目的

自然体験活動を支援する上で、必要な知識と技術を習得するとともに、本所のボランティアとしての活動方法を学ぶ。

(イ) 期日、参加者数及び対象

|     |               |      |     |
|-----|---------------|------|-----|
| ・期日 | 令和5年5月7日(日)   | 参加者数 | 23名 |
|     | 令和5年7月9日(日)   | 参加者数 | 10名 |
|     | 令和5年9月24日(日)  | 参加者数 | 13名 |
|     | 令和5年12月17日(日) | 参加者数 | 10名 |
| ・対象 | 高校生以上         |      |     |

(ウ) 内容

実施予定の自然体験活動・企画事業支援についての研修を行った。

#### (2) 利用促進事業

ア 遊ぼう！初夏の海で

(ア) 目的

初夏の舟戸海岸で、魚釣りや磯遊びを楽しみながら、親子のふれ合いを深める。

(イ) 期日、対象及び参加者数

|       |               |
|-------|---------------|
| ・期日   | 令和5年7月16日(日)  |
| ・対象   | 小学校に通う児童とその家族 |
| ・参加者数 | 34名           |

(ウ) 内容

定員30人の事前予約制で実施。当初は5月20日(土)の実施を計画していたが、5月19日(金)に発生した地震の影響により日程を変更した。参加者は夏の海で魚釣りをしながら家族の会話を楽しみ、子どもたちは磯の生き物に興味津々だった。また、磯の生き物の生態を理解し、実際に手でふれることで命の大切さを学んだ。

イ 春のオープンデー（未来キッズ生き活き事業）

(ア) 目的

施設を県民へ広く開放し、様々な体験活動を通して、本所への理解を深めるとともに、子どもたちの豊かな人間性や生きる力の育成を図る。

(イ) 期日、対象及び参加者数

|       |              |
|-------|--------------|
| ・期日   | 令和5年5月28日(日) |
| ・対象   | 一般           |
| ・参加者数 | 1,515名       |

(ウ) 内容

自由参加制で実施。様々な活動を通して当所への理解を深めるとともに、未来キッズ生き活き事業として、子どもたちが身体を動かす機会を提供することができた。

ウ ふれあいサマーキャンプ

(ア) 目的

自然体験活動を通して自然や人とふれあう喜びを体得するとともに、協調性・社会性や自立心を養う。

(イ) 期日、対象及び参加者数

|     |                       |
|-----|-----------------------|
| ・期日 | 令和5年7月29日(土)～7月30日(日) |
|-----|-----------------------|

- ・対象 小学生（4～6年生）
- ・参加者数 32名

(ウ) 内容

定員30名の事前予約制で実施。自然体験を通して、参加者同士の交流を深めるよう活動に流れをつけ、協調性を高めた。また、グループ内で個人の役割を与えることにより、自己肯定感の向上や責任感をもたせ、自ら考え行動する姿を見ることができた。

エ スポーツフェスティバル（未来キッズ生き生き事業）

(ア) 目的

子どもから大人まで一緒に様々なニュースポーツを楽しみながら、健康への意識向上を図る。

(イ) 期日、対象及び参加者数

- ・期日 令和5年10月8日(日)
- ・対象 一般
- ・参加者数 875名

(ウ) 内容

自由参加制で実施。協力団体と連携して様々なプログラムを提供したことで、運動への意識を高めることができた。特にいわきラグビースクールを講師に招いたラグビー体験教室は好評であった。

オ 秋のオープンデー（未来キッズ生き生き事業）

(ア) 目的

施設を県民へ広く開放し、様々な体験活動を通して、本所への理解を深めるとともに、子どもたちの豊かな人間性や生きる力の育成を図る。

(イ) 期日、対象及び参加者数

- ・期日 令和5年10月29日(日)
- ・対象 一般
- ・参加者数 1,348名

(ウ) 内容

自由参加制で実施。様々な活動を通して当所への理解を深めるとともに、未来キッズ生き生き事業として、子どもたちが身体を動かす機会を提供することができた。また、郡山自然の家や当財団指定管理施設と連携し、様々なプログラムを提供した。

カ ふれあいオータムキャンプ

(ア) 目的

自然体験活動を通して自然や人とふれ合う喜びを体得するとともに、協調性・社会性や自立心を養う。

(イ) 期日、対象及び参加者数

- ・期日 令和5年11月11日(土)～12日(日)
- ・対象 小学生（4～6年生）
- ・参加者数 24名

(ウ) 内容

定員30名の事前予約制で実施。交流ゲーム、野外炊飯、キャンプファイア、背戸峨廊ハイキング等の自然体験活動を通して、いわきの自然の豊かさを感じながら、協調性・社会性を身につけ、個々の自立心を養った。

キ 親子のつどい

(ア) 目的

自然の素材を用いて季節にふさわしい創作活動、共同作業を通して、家族の親睦を深める。

(イ) 期日、対象及び参加者数

- ・期日 令和5年12月10日(日)
- ・対象 未就学児・小学生とその家族
- ・参加者数 88名

(ウ) 内容

定員25組程度の事前予約制で実施。参加者は、自然の素材を利用したクリスマスガーランド・しめ縄作りの創作活動や、火起こし・焼きマッシュマロ作り体験を協力して行い、家族の絆を深めた。

ク 冬を楽しもう！～スキー教室～

(ア) 目的

雪で遊ぶことが少ない浜通りの親子を対象として会津地区でスキー教室を実施し、福島県の風土の豊かさを感じるとともに、自然体験活動の楽しさを知る。

(イ) 期日、対象及び参加者数

- ・期日 令和6年1月21日(日)
- ・対象 小学生とその家族
- ・参加者数 33名

(ウ) 内容

コロナ禍により令和2年度から実施を見合わせていたが、4年ぶりに定員35名程度の事前予約制で実施。裏磐梯スキー場を会場とし、参加者はスキーを楽しみながら家族の親睦を深めることができた。

ケ クラフトのつどい

(ア) 目的

子どもから大人まで楽しめる様々なクラフトを提供し、多くの地域の方々に自然の家についての理解を深めてもらう。

(イ) 期日、対象及び参加者数

- ・期日 令和6年2月4日(日)
- ・対象 一般
- ・参加者数 204名

(ウ) 内容

一部の企画を除き、自由参加制で実施。参加者はコースター、表札、草花の万華鏡、草木染めのエコバッグ作りなどの様々なクラフト体験を楽しみ、多くの方々に自然の家への理解を深めてもらうことができた。

コ 自然の家であそんじゃお！（ミニ開放デー）

(ア) 目的

閑散期を利用し、体育館とトリムランドを開放し、他者との交流の場を提供するとともに、当所の魅力を発信し、施設の周知を図る。

(イ) 期日、対象及び参加者数

- ・期日 令和6年2月25日(日)
- ・対象 一般
- ・参加者数 129名

(ウ) 内容

自由参加制で実施。アスレチック遊具やニュースポーツ、オリエンテーリングを通して身体を動かす機会を設け、あわせて自然の家の理解と利用促進を図った。

#### サ 森の音楽会

##### (ア) 目的

地元演奏家によるコンサートを聴き、音楽に親しむことや、本所の魅力の発信と周知を図る。

##### (イ) 期日、対象及び参加者数

- ・期日 令和6年3月10日(日)
- ・対象 一般
- ・参加者数 167名

##### (ウ) 内容

定員150人の事前予約制で実施。豊かな自然環境にある当所で、いわき出身の音楽家である菊池章夫氏の演奏を楽しんでいただき、多くの地域の方々に自然の家への理解を深めてもらうことができた。

#### シ 早春の里山散歩

##### (ア) 目的

利用の少ない年齢層を対象として、早春の自然(冒険の森3コース)を楽しんでもらい、自然の家の魅力の発信と周知を図る。

##### (イ) 期日、対象及び参加者数

- ・期日 令和6年3月22日(金)
- ・対象 一般(大人)
- ・参加者数 20名

##### (ウ) 内容

定員20名の事前予約制で実施。普段利用の少ない曜日・年齢層(平日の中高年)を想定していたが、募集開始2.5時間で定員に達し、潜在的なニーズがあることが確認された。

### (3) その他の企画事業

#### ア 未来キッズ生き生き事業

##### (ア) 目的

子どもたちに海活動やレクリエーション・スポーツなどを通して、身体を動かす機会を提供し、体力・運動能力の向上、心身のリフレッシュおよび健康増進を促す。

##### (イ) 期日、対象及び参加者数

- 第2回 令和5年8月5日(土) 参加者数79名
- 第3回 令和5年8月19日(土) 参加者数99名
- 第6回 令和5年12月3日(日) 参加者数689名
- ・対象 未就学児・小学生とその家族

##### (ウ) 内容

第2・3回は定員100人程度の事前予約制、第6回は自由参加制で実施。第1・4・5回は主催事業と共催。第2・3回は、ボディボードや砂遊びを所員による指導・支援のもとに行い、いわきの海を満喫した。第6回はアスレチック施設以外にニュースポーツや昔遊びなどのプログラムを提供し、家族一緒に楽しく活動できたとの高い評価を得た。特に、いわきFCの協力による運動

体験、親子でノルディックウォーキング体験、いわき出身の現役プロ野球選手らの指導による野球教室およびトークショーなどを行い、好評を博した。

#### イ 心のケアが必要な子ども(不登校等)を対象とした自然体験事業

##### (ア) 目的

浜通り地域の不登校傾向にある児童生徒を対象に、自然体験活動や交流体験の機会を提供する事業。

##### (イ) 期日、対象及び参加者数

- 第1回 令和5年5月26日(金) 参加者数20名
- 第2回 令和5年9月17日(日) 参加者数6名
- 第3回 令和5年10月25日(水) 参加者数17名
- 第4回 令和5年11月18日(土)  
～11月19日(日) 参加者数31名
- 第5回 令和6年2月2日(金) 参加者数14名
- ・対象 小学生とその家族

##### (ウ) 内容

関係機関やスクールカウンセラーと連携を図りながら、自然体験活動を通して、自尊感情や自己肯定感を高めることができた。いわき市については、いわき市総合教育センターと連携しながら事業を進めるとともに、第4回は一泊二日の宿泊で実施した。第5回では、節分行事、餅つきを楽しみ、参加した子どもたちや保護者からも大変好評であった。

### (4) 連携事業

#### ア キッズミュージアムin伝承郷

主催：いわき市アンモナイトセンター

##### (ア) 目的

自然の家の利用促進のため、施設及び事業紹介を兼ねて、体験活動のプログラムを提供する。

##### (イ) 期日、対象及び参加者数

- ・期日 令和5年5月3日(水・祝)
- ・対象 小学生とその保護者
- ・参加者数 141名

##### (ウ) 内容

自然の家職員が講師を務め、ゴム鉄砲射的・輪投げなどの昔あそび体験プログラムを提供した。

#### イ 親子ものづくり講座④ 主催：いわき市生涯学習プラザ

##### (ア) 目的

自然の家の利用促進のため、施設及び事業紹介を兼ねて、体験活動のプログラムを提供する。

##### (イ) 期日、対象及び参加者数

- ・期日 令和5年12月16日(土)
- ・対象 小学生とその保護者
- ・参加者数 20名

##### (ウ) 内容

自然の家職員が講師を務め、親子で協力して本格的なクリスマスリースを作成した。

#### ウ 第19回生涯学習フェスティバル

主催：いわき市生涯学習プラザ

(ア) 目的

本所の利用促進のため、施設及び事業紹介を兼ねて、体験活動のプログラムを提供する。

(イ) 期日、対象及び参加者数

- ・期日 令和6年2月17日(土)・18日(日)
- ・対象 一般
- ・参加者数 346名

(ウ) 内容

本所の施設及び事業紹介、ストラックアウト、輪投げ体験を行った。本所の周知について、良い広報の機会となった。

エ いわきの文化総合講座⑨ 主催：いわき市生涯学習プラザ

(ア) 目的

自然の家の利用促進のため、施設及び事業紹介を兼ねて、職員の専門領域における研究成果を提供する。

(イ) 期日、対象及び参加者数

- ・期日 令和6年2月28日(水)
- ・対象 一般
- ・参加者数 8名

(ウ) 内容

自然の家職員が講師を務め、いわきの獅子舞について最新の情報を提供した。

オ 出前講座(全8件)

(ア) 目的

いわき市内の公民館や児童クラブ等が主催する児童向けの事業において、自然体験活動やクラフト等のプログラムを提供し、自然の家の活動について理解を深めてもらう。

(イ) 対象、期日及び参加者数

- a いわき市立長倉小学校ときわ児童クラブ  
令和5年7月28日(金) 参加者数32名
- b いわき市立長倉小学校ときわ児童クラブ  
令和5年8月18日(金) 参加者数37名
- c いわき市立江名小学校かもめ児童クラブ  
令和5年8月22日(火) 参加者数26名
- d いわき市立夏井公民館藤間っ子土曜クラブ  
令和5年8月26日(土) 参加者数48名
- e いわき市立好間公民館  
令和6年3月12日(火) 参加者数24名

(ウ) 内容

貝飾り、万華鏡など、クラフト体験の出前講座を実施した。

# 第 10 章 文化財

## 第 1 節 文化財保護体制の充実

### 1 指定文化財保護体制の充実 (文化財パトロール)

例年、文化財保護体制の充実を図るため、民間の有識者を文化財保護指導委員に委嘱し、パトロール計画に基づいて、定期的に国・県指定重要文化財や重要遺跡の巡視を行い、その現況把握に努めてきた。令和 5 年度は県内 15 地区 124 件の文化財を巡視した。

### 2 文化財保護指導者研修会

#### (1) 趣旨

文化財に関する知識の普及と愛護精神の高揚を図るため、公益財団法人福島県文化振興財団と県教育委員会の共催により実施した。文化財の保護について指導的立場にある関係者に対し、文化財に関する専門的事項について講習を行い、市町村における文化財保護行政の進展に役立てることを目的とする。

#### (2) 期日及び場所

令和 5 年 10 月 19 日(木)～20 日(金)

二本松市市民交流センター

にほんまつ城報館・国史跡二本松城跡

#### (3) 内容

ア 講義内容及び講師

(ア) 「福島県の文化財〈建築物〉行政」  
紺野 修(福島県教育庁文化財課)

(イ) 「二本松城跡の史跡整備と情報発信について」  
吉田陽一(二本松市教育委員会)

(ウ) 「中近世の二本松城について」  
高橋 充(福島県立博物館)

イ 現地研修

にほんまつ城報館・国史跡二本松城跡(二本松市) 見学

### 3 市町村文化財保護担当者会議

#### (1) 趣旨

県内市町村の文化財行政担当者が職務を遂行するうえでの必要な知識の習得を図り、また、実務上の疑問点や問題点等について質疑・意見交換することによって、より円滑に文化財行政を推進させることを目的とする。

#### (2) 期日及び場所

4 月 28 日(金) 県庁正庁(福島市)

5 月 19 日(金) Zoom によるオンライン

6 月 16 日(金) Zoom によるオンライン

11 月 9 日(木) Zoom によるオンライン

12 月 26 日(火) Zoom によるオンライン

#### (3) 内容

ア 文化財行政の動向

イ 令和 5 年度事業について

ウ 指定文化財の対応について 等

## 第 2 節 埋蔵文化財保護の充実

### 1 埋蔵文化財保護体制

開発事業によりやむを得ず消滅する埋蔵文化財については、発掘調査による着実な記録保存を行ってきた。埋蔵文化財保護に係る調整、予備調査等については開発事業の推移に応じた埋蔵文化財保護体制を整えてきた。

また、県の委託により発掘調査を行っている公益財団法人福島県文化振興財団遺跡調査部においては、財団職員 21 名で調査にあたった。

#### 公益財団法人福島県文化振興財団遺跡調査部職員数

|    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |
|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 年度 | 57 | 58 | 59 | 60 | 61 | 62 | 63 | 元  | 2  | 3  | 4  | 5  | 6  | 7  |
| 人員 | 26 | 26 | 30 | 40 | 44 | 47 | 47 | 55 | 60 | 60 | 62 | 62 | 62 | 62 |
| 年度 | 8  | 9  | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 |
| 人員 | 62 | 62 | 68 | 68 | 76 | 61 | 39 | 40 | 40 | 40 | 41 | 41 | 38 | 32 |
| 年度 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | R1 | R2 | R3 | R4 | R5 |
| 人員 | 26 | 26 | 35 | 40 | 39 | 37 | 32 | 30 | 32 | 26 | 22 | 25 | 22 | 21 |

(平成 14 年度までは遺跡調査課定数)

### 2 開発事業地内の保護対策

開発事業地内の遺跡の保護は、遺跡の所在・範囲・内容等を明らかにする「分布調査」「試掘・確認調査」の結果により、事業者と遺跡を保護するための「保存協議」を行い、現状保存ができない場合は、発掘調査により「記録保存」し、その成果を調査報告書としてまとめることで対応している。

#### (1) 分布調査、試掘・確認調査

分布調査、試掘・確認調査は、遺跡を保護するための情報を収集することを目的としている。

令和 5 年度は、会津縦貫北道路整備事業 49,100 m<sup>2</sup>、阿武隈川上流大規模災害関連事業(遊水地事業)50,400 m<sup>2</sup>、国道 4 号事故対策事業 4,200 m<sup>2</sup>、会津縦貫南道路整備事業 9,370 m<sup>2</sup>、一級河川桜川広域河川改修事業 2,600 m<sup>2</sup>、計 5 事業 115,670 m<sup>2</sup>の試掘・確認調査を実施した。

なお、復興事業に係る埋蔵文化財調査については別記した。

#### (2) 保存協議

昨年度からの継続協議を含め、関係機関と保存協議を実施した。

関係機関：国土交通省、県土木部、民間企業等。

#### (3) 発掘調査

県教育委員会では、開発に伴う発掘調査(記録保存目的の本発掘調査)を公益財団法人福島県文化振興財団に委託し、以下の遺跡について実施した。

- ・主要地方道原町川俣線(下高平工区)整備事業(天神谷地遺跡) 1,600 m<sup>2</sup>
- ・県道浪江鹿島線整備事業(谷地遺跡) 500 m<sup>2</sup>
- ・阿武隈川上流大規模災害関連事業(滑石遺跡) 7,000 m<sup>2</sup>  
計 9,100 m<sup>2</sup>

なお、県内市町村においても開発に伴う発掘調査を各市町村文化財保護担当部局が実施しているが、遺跡の重要性や調査体制の実情に応じ、適時助言及び支援を行っている。

### 3 令和5年度の復興事業に係る埋蔵文化財調査状況

東日本大震災及び原子力災害に係る復旧・復興事業計画区域内において、埋蔵文化財の分布調査、試掘・確認調査を迅速に実施し、復興事業計画に遅れが出ないように対応した。

さらに、被災市町村に対して埋蔵文化財調査に係る技術協力を実施し、復興事業の迅速化に寄与してきた。

〈令和5年度〉復興調査体制

(南相馬市駐在)

課長 — 副課長 — 県専門職員  
(6名)

調査対応した開発事業は以下のとおりである。

#### (1) 分布調査

農山村地域復興基盤整備、県道整備

1,762,597 m<sup>2</sup>

#### (2) 試掘・確認調査

農山村地域復興基盤整備、県道整備

884,878 m<sup>2</sup>

#### (3) 復興・再生事業等に係る市町村技術協力

- ・南相馬市、浪江町、双葉町、広野町への技術協力
- ・第22回 東日本大震災の復旧・復興に伴う埋蔵文化財の取扱いに関する連絡会 12月13日開催(浪江町)
- ・各市町村訪問

### 4 埋蔵文化財保護体制充実のための研修

#### (1) 福島県文化財センター白河館文化財研修

公益財団法人福島県文化振興財団が指定管理を行っている福島県文化財センター白河館において、埋蔵文化財の調査を担当する自治体・団体職員などを対象とした研修会を実施し、258名が受講した。

#### (2) 独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所埋蔵文化財担当者専門研修

令和5年度に受講した者は以下のとおり。

| 研修名称              | 期 日             | 受 講 者             |
|-------------------|-----------------|-------------------|
| 木質文化財の科学的調査基礎課程   | 7月11日<br>～7月14日 | (公財) 福島県文化振興財団 2名 |
| 遺跡地図・GIS課程(オンライン) | 7月24日<br>～7月28日 | 文化財課 1名           |
| 報告書編集基礎課程         | 12月4日<br>～12月8日 | 郡山市文化振興課 1名       |
| 史跡保存活用計画策定課程      | 1月16日<br>～1月22日 | 郡山市文化振興課 1名       |
| 地震災害痕跡調査課程        | 2月19日<br>～2月22日 | 文化財課 1名           |

### 5 埋蔵文化財保護普及活動

令和5年度に刊行した埋蔵文化財調査報告書は以下のとおり。

- ・福島県内遺跡分布調査報告 30
- ・東日本大震災復興関連遺跡調査報告 10
- ・農山村地域復興基盤総合整備事業関連遺跡調査報告 3

### 6 市町村埋蔵文化財調査技術協力事業

この事業は、県内の市町村教育委員会が実施する埋蔵文化財発掘調査等について、市町村教育委員会からの要請により県教育委員会が埋蔵文化財の調査等に必要な技術を協力・支援する事業である。

調査等に必要な技術の協力・支援を行う職員は、県教育委員会の依頼により公益財団法人福島県文化振興財団が選任した財団職員で、分布調査、試掘・確認調査、小規模な発掘調査及び出土遺物の整理や報告書作成に関する技術の協力・支援を行う。

令和5年度の技術協力の実績は、下記のとおり。

| 市町村   | 遺 跡 名            | 協力内容            |
|-------|------------------|-----------------|
| 泉崎村   | 踏瀬長嶺地区<br>金塚遺跡ほか | 分布調査<br>試掘・確認調査 |
| 猪苗代町  | 西谷地遺跡            | 試掘・確認調査         |
| 浅川町   | 新町遺跡             | 試掘・確認調査         |
| 下郷町   | 二階俎遺跡、原遺跡ほか      | 試掘・確認調査         |
| 鏡石町   | 久来石地区            | 分布調査            |
| 双葉町   | 深谷B遺跡            | 試掘・確認調査         |
| 大玉村   | 上高野遺跡ほか          | 分布調査            |
| 小野町   | 馬番B遺跡            | 試掘・確認調査         |
| 会津若松市 | 平沢遺跡ほか           | 試掘・確認調査         |
| 飯館村   | 深谷地区             | 分布調査            |

## 7 開発事業に伴う試掘・確認・発掘調査件数

### (1) 令和5年度 試掘・確認調査件数

(令和5年4月～令和6年3月)

| No  | 調査原因             | 県北 | 県中  | 県南 | 会津 | 南会津 | 相双 | いわき | 計   |
|-----|------------------|----|-----|----|----|-----|----|-----|-----|
| 1   | 道路               | 2  | 1   | 1  | 1  | 1   | 6  | 3   | 15  |
| 2   | 河川               |    | 1   | 1  |    |     |    |     | 2   |
| 3   | 住宅               |    | 12  |    |    |     | 1  | 2   | 15  |
| 4   | 個人住宅             | 16 | 147 |    | 2  |     | 2  |     | 167 |
| 5   | 工場               |    | 1   |    |    |     |    |     | 1   |
| 6   | 店舗               | 1  |     |    |    |     |    |     | 1   |
| 7   | その他建物            | 1  | 6   |    | 1  |     |    | 2   | 10  |
| 8   | 宅地造成             | 4  | 14  | 2  | 2  |     |    |     | 22  |
| 9   | 土地区画整理           |    | 4   |    |    |     |    |     | 4   |
| 10  | 公園造成             |    |     | 1  |    |     |    |     | 1   |
| 11  | 電気・ガス・水道等        |    |     |    | 1  | 1   | 1  | 1   | 4   |
| 12  | 農業基盤整備事業（農道等を含む） |    | 4   | 1  | 1  | 1   | 16 | 1   | 24  |
| 13  | その他の農業関係事業       | 2  |     |    |    |     |    |     | 2   |
| 14  | その他開発            | 6  | 16  | 1  | 1  |     | 14 | 2   | 40  |
| 合 計 |                  | 32 | 206 | 7  | 9  | 3   | 40 | 11  | 308 |

### (2) 令和5年度 発掘調査件数

(令和5年4月～令和6年3月)

| No  | 調査原因             | 県北 | 県中 | 県南 | 会津 | 南会津 | 相双 | いわき | 計  |
|-----|------------------|----|----|----|----|-----|----|-----|----|
| 1   | 道路               | 4  |    |    | 3  |     | 3  | 3   | 13 |
| 2   | 河川               |    | 1  |    | 1  |     |    |     | 2  |
| 3   | 個人住宅             |    | 1  |    | 1  |     |    | 1   | 3  |
| 4   | その他建物            |    |    |    | 1  |     |    | 2   | 3  |
| 5   | 宅地造成             |    | 1  | 1  |    |     |    | 1   | 3  |
| 6   | 土地区画整理           |    | 1  |    |    |     |    | 1   | 2  |
| 7   | 公園造成             |    |    |    |    |     |    | 1   | 1  |
| 8   | ガス・電気・水道等        |    |    |    |    |     | 1  |     | 1  |
| 9   | 農業基盤整備事業（農道等を含む） |    |    |    | 1  |     | 1  |     | 2  |
| 10  | その他開発            | 1  |    |    | 1  | 1   | 2  |     | 5  |
| 合 計 |                  | 5  | 4  | 1  | 8  | 1   | 7  | 9   | 35 |

## 8 範囲内容確認調査・史跡整備に係る調査・学術調査

| No  | 調査原因      | 県北 | 県中 | 県南 | 会津 | 南会津 | 相双 | いわき | 計  |
|-----|-----------|----|----|----|----|-----|----|-----|----|
| 1   | 範囲内容確認調査  | 4  | 3  |    | 4  |     | 1  | 1   | 13 |
| 2   | 史跡整備に係る調査 |    | 1  |    |    |     | 1  |     | 2  |
| 3   | 学術研究      |    |    |    | 3  |     |    |     | 3  |
| 合 計 |           | 4  | 4  |    | 7  |     | 2  | 1   | 18 |

## 9 令和5年度 試掘・確認調査

| No | 遺跡名          | 所在地                       | 調査主体者 | 調査実施期間                           | 調査面積<br>(m <sup>2</sup> ) | 時代           | 種別   | 調査原因 |
|----|--------------|---------------------------|-------|----------------------------------|---------------------------|--------------|------|------|
| 1  | 北新田塩田跡       | 南相馬市小高区井田川                | 県教委   | 4月26日～4月27日                      | 60                        | 近世           | 生産遺跡 | 農地整備 |
| 2  | 鶴谷台畑遺跡ほか1箇所  | 南相馬市原町区鶴谷字台畑              | 県教委   | 5月9日～5月12日                       | 153                       | 奈良・平安<br>・中世 | 製鉄跡  | 農地整備 |
| 3  | 南相馬市遺跡推定地1箇所 | 南相馬市原町区鶴谷字輪ノ内             | 県教委   | 5月15日                            | 60                        | -            | -    | 農地整備 |
| 4  | 南相馬市遺跡推定地1箇所 | 南相馬市小高区羽倉字篠原              | 県教委   | 6月27日～6月29日                      | 140                       | -            | -    | 農地整備 |
| 5  | 南相馬市遺跡推定地1箇所 | 南相馬市小高区羽倉字日向              | 県教委   | 7月26日～8月2日                       | 360                       | -            | -    | 農地整備 |
| 6  | 南相馬市遺跡推定地1箇所 | 南相馬市小高区羽倉字川久保             | 県教委   | 8月2日～8月3日                        | 72                        | -            | -    | 農地整備 |
| 7  | 一杯清水遺跡       | 南相馬市鹿島区榑原字東畑、前田、谷、一盃清水    | 県教委   | 7月10日～7月18日<br>3月5日              | 285                       | 縄文           | 散布地  | 農地整備 |
| 8  | 下太田高田遺跡      | 南相馬市原町区下太田字高田             | 県教委   | 7月10日～7月11日                      | 28                        | 古墳・平安        | 集落跡  | 農地整備 |
| 9  | 町川原遺跡        | 南相馬市原町区上太田字町川原            | 県教委   | 11月14日～11月15日                    | 39.6                      | 縄文・奈良<br>・平安 | 散布地等 | 農地整備 |
| 10 | 中田遺跡ほか1箇所    | 南相馬市小高区小屋木字中田、桜関          | 県教委   | 8月8日～8月9日<br>8月21日～8月24日         | 167.5                     | 平安           | 散布地  | 農地整備 |
| 11 | 根田遺跡         | 南相馬市小高区小屋木字根田             | 県教委   | 9月25日～9月29日<br>11月20日            | 290.3                     | 弥生・奈良<br>・平安 | 散布地  | 農地整備 |
| 12 | 南相馬市遺跡推定地1箇所 | 南相馬市鹿島区山下字北山下、割田、田尻、狸内    | 県教委   | 12月1日～3月15日                      | 2,425.4                   | -            | -    | 農地整備 |
| 13 | 南相馬市遺跡推定地1箇所 | 南相馬市鹿島区山下字南山下、馬見塚         | 県教委   | 12月1日～12月14日                     | 317                       | -            | -    | 農地整備 |
| 14 | 南相馬市遺跡推定地1箇所 | 南相馬市鹿島区山下字北山下、中ノ坪、米々沢、南山下 | 県教委   | 12月14日～12月22日<br>1月30日～2月8日      | 441                       | -            | -    | 農地整備 |
| 15 | 南相馬市遺跡推定地1箇所 | 南相馬市鹿島区山下字北山下、清水前         | 県教委   | 1月9日～1月19日                       | 452.7                     | -            | -    | 農地整備 |
| 16 | 南相馬市遺跡推定地1箇所 | 南相馬市原町区下北高平字杉内            | 県教委   | 12月26日                           | 40                        | -            | -    | 道路   |
| 17 | 後谷地A遺跡ほか1箇所  | 双葉郡川内村上川内字続々滝             | 県教委   | 11月9日～11月10日                     | 100                       | 縄文           | 散布地  | 農地整備 |
| 18 | 大平山遺跡ほか1箇所   | 双葉郡浪江町請戸字石井前              | 県教委   | 8月7日<br>8月21日～9月1日<br>9月5日～10月5日 | 964                       | 縄文・奈良<br>・平安 | 散布地  | 農地整備 |
| 19 | 鍛冶屋川原遺跡ほか1箇所 | 双葉郡浪江町請戸字鍛冶屋川原、土樋、石井前     | 県教委   | 9月14日～10月18日                     | 2,297.2                   | 奈良・平安        | 散布地  | 農地整備 |
| 20 | 浪江町遺跡推定地1箇所  | 双葉郡浪江町樋渡字舞台               | 県教委   | 11月13日                           | 2.2                       | -            | -    | 農地整備 |
| 21 | 浪江町遺跡推定地1箇所  | 双葉郡浪江町幾世橋字十日林             | 県教委   | 2月19日～3月6日                       | 590                       | 古墳           | 散布地  | 農地整備 |
| 22 | 双葉町遺跡推定地1箇所  | 双葉郡双葉町下羽鳥字豊田、益田、南札立場、南菅町  | 県教委   | 5月24日～6月15日<br>10月23日～11月29日     | 3,507.5                   | 弥生           | 散布地  | 農地整備 |
| 23 | 双葉町遺跡推定地2箇所  | 双葉郡双葉町下羽鳥字豊田              | 県教委   | 8月29日～9月1日                       | 181                       | -            | -    | 農地整備 |
| 24 | 双葉町遺跡推定地1箇所  | 双葉郡双葉町下羽鳥字南迫              | 県教委   | 11月21日～11月22日                    | 71.2                      | -            | -    | 農地整備 |
| 25 | 榎内遺跡ほか1箇所    | 双葉郡双葉町上羽鳥字榎内              | 県教委   | 2月20日～2月26日                      | 77.5                      | -            | -    | 農地整備 |
| 26 | 寺沢遺跡ほか1箇所    | 双葉郡双葉町寺沢字唐沢               | 県教委   | 2月22日～3月1日                       | 118                       | -            | -    | 農地整備 |

| No | 遺跡名         | 所在地              | 調査主体者 | 調査実施期間                                    | 調査面積<br>(㎡) | 時代           | 種別  | 調査原因 |
|----|-------------|------------------|-------|-------------------------------------------|-------------|--------------|-----|------|
| 27 | 敷井畑B遺跡ほか1箇所 | 双葉郡葛尾村葛尾字敷井畑     | 県教委   | 8月25日・8月28日                               | 117         | 近世           | 製鉄跡 | 農地整備 |
| 28 | 北原貝塚        | 南相馬市小高区浦尻字北原     | 県教委   | 5月16日～5月19日                               | 11.7        | 縄文           | 貝塚  | 道路   |
| 29 | 中林崎B遺跡      | 南相馬市小高区浦尻字中林崎    | 県教委   | 2月14日                                     | 20          | 古墳・奈良<br>・平安 | 集落跡 | 道路   |
| 30 | 富岡町遺跡推定地8箇所 | 双葉郡富岡町小良ヶ浜字赤坂、深谷 | 県教委   | 6月19日～7月25日<br>9月19日～9月21日<br>1月11日～1月18日 | 548.3       | -            | -   | 道路   |
| 31 | 富岡町遺跡推定地2箇所 | 双葉郡富岡町小浜         | 県教委   | 1月19日～1月24日<br>2月15日                      | 101         | -            | -   | 道路   |
| 32 | 富岡町遺跡推定地3箇所 | 双葉郡富岡町小良ヶ浜字赤坂    | 県教委   | 1月22日～1月31日                               | 74.5        | -            | -   | 道路   |
| 33 | 上吉田C遺跡ほか3箇所 | 会津若松市高野町上高野字村西ほか | 県教委   | 4月10日～12月8日                               | 1,618.8     | 奈良・平安        | 散布地 | 道路   |
| 34 | 踏瀬熊ノ森遺跡     | 西白河郡泉崎村踏瀬        | 県教委   | 6月5日～6月7日                                 | 138         | 古墳           | 散布地 | 道路   |
| 35 | 下郷町遺跡推定地    | 南会津郡下郷町落合        | 県教委   | 7月3日～7月7日                                 | 302.3       | -            | 散布地 | 道路   |
| 36 | 沖田遺跡        | 郡山市富久山町北小泉       | 県教委   | 12月13日～12月20日                             | 83.7        | 縄文           | 散布地 | 河川   |
| 37 | 小松館跡ほか6箇所   | 西白河郡矢吹町陣ヶ岡ほか     | 県教委   | 10月23日～3月15日                              | 1,156.5     | 古墳・中世        | 散布地 | 河川   |

## 10 令和5年度発掘調査

| No | 遺跡名    | 所在地                 | 調査主体者 | 調査実施期間       | 調査面積<br>(㎡) | 時代           | 種別  | 調査原因 |
|----|--------|---------------------|-------|--------------|-------------|--------------|-----|------|
| 1  | 天神谷地遺跡 | 南相馬市原町区上北高平字天神谷地・貝餅 | 県教委   | 4月6日～9月28日   | 1,600       | 縄文           | 散布地 | 道路   |
| 2  | 滑石遺跡   | 須賀川市狸森字滑石           | 県教委   | 5月8日～12月8日   | 7,000       | 縄文・奈良<br>・平安 | 散布地 | 河川   |
| 3  | 谷地遺跡   | 双葉郡浪江町大字西台字谷地       | 県教委   | 10月16日～12月8日 | 500         | 弥生・奈良<br>・江戸 | 集落跡 | 道路   |

## 第3節 文化財保存助成の充実

### 1 令和5年度文化財保存助成事業

国指定文化財の防災設備保守点検等の管理に必要な経費について、助成を行った。

| 事業区分     | 補助事業者 | 名称         | 種別  | 事業内容    | 金額(単位:円) |         |         |         |
|----------|-------|------------|-----|---------|----------|---------|---------|---------|
|          |       |            |     |         | 事業費      | 国庫補助    | 県費補助    | その他     |
| 国指定文化財管理 | 延命寺   | 延命寺地蔵堂     | 建造物 | 防災保守点検等 | 62,000   | 16,000  | 15,000  | 31,000  |
| 国指定文化財管理 | 八葉寺   | 八葉寺阿弥陀堂    | 建造物 | 防災保守点検等 | 54,300   | 14,000  | 13,000  | 27,300  |
| 国指定文化財管理 | 横山操   | 旧滝沢本陣横山家住宅 | 建造物 | 防災保守点検等 | 100,300  | 25,000  | 25,000  | 50,300  |
| 国指定文化財管理 | 飯盛正徳  | 旧正宗寺三匠堂    | 建造物 | 防災保守点検等 | 139,000  | 35,000  | 34,000  | 70,000  |
| 国指定文化財管理 | 勝福寺   | 勝福寺観音堂     | 建造物 | 防災保守点検等 | 68,750   | 17,000  | 17,000  | 34,750  |
| 国指定文化財管理 | 熊野神社  | 熊野神社長床     | 建造物 | 防災保守点検等 | 657,200  | 164,000 | 164,000 | 329,200 |
| 国指定文化財管理 | 円満寺   | 円満寺観音堂     | 建造物 | 防災保守点検等 | 359,020  | 89,000  | 90,000  | 180,020 |

| 事業区分     | 補助事業者 | 名称                   | 種別  | 事業内容    | 金額（単位：円）  |         |         |           |
|----------|-------|----------------------|-----|---------|-----------|---------|---------|-----------|
|          |       |                      |     |         | 事業費       | 国庫補助    | 県費補助    | その他       |
| 国指定文化財管理 | 恵隆寺   | 恵隆寺観音堂               | 建造物 | 雪降り、除雪等 | 136,400   | 34,000  | 34,000  | 68,400    |
| 国指定文化財管理 | 法用寺   | 法用寺本堂内<br>厨子及び仏壇     | 建造物 | 防災保守点検  | 42,150    | 7,000   | 7,000   | 28,150    |
| 国指定文化財管理 | 常福院   | 常福院薬師堂               | 建造物 | 防災保守点検  | 47,250    | 8,000   | 9,000   | 30,250    |
| 国指定文化財管理 | 福生寺   | 福生寺観音堂               | 建造物 | 防災保守点検  | 52,700    | 9,000   | 9,000   | 34,700    |
| 国指定文化財管理 | 八幡神社  | 八幡神社本殿、幣<br>殿、拝殿ほか3棟 | 建造物 | 防災保守点検等 | 134,450   | 24,000  | 24,000  | 86,450    |
| 国指定文化財管理 | 飯野八幡宮 | 飯野八幡宮<br>本殿ほか6棟      | 建造物 | 防災保守点検等 | 556,019   | 139,000 | 139,000 | 278,019   |
| 国指定文化財管理 | 専称寺   | 専称寺                  | 建造物 | 防災保守点検  | 210,024   | 52,000  | 53,000  | 105,024   |
| 計        | 14件   |                      |     |         | 2,619,563 | 633,000 | 633,000 | 1,353,563 |

## 2 令和5年度 指定文化財保存活用事業（災害復旧事業を除く）

文化財の修理・防災・整備・調査・管理、埋蔵文化財保存調査等の事業（保存事業）とそれらの文化財を活用した事業（活用事業）を一体的に行った事業（保存活用事業）に必要な経費について、助成を行った。

### (1) 国指定文化財等

| 事業区分    | 補助事業者 | 名称                   | 種別  | 事業内容  | 金額（単位：円）   |            |           |            |
|---------|-------|----------------------|-----|-------|------------|------------|-----------|------------|
|         |       |                      |     |       | 事業費        | 国庫補助       | 県費補助      | その他        |
| 建造物保存修理 | 勝常寺   | 勝常寺薬師堂               | 建造物 | 建造物修理 | 3,538,000  | 2,357,000  | 210,000   | 971,000    |
| 建造物保存修理 | 八幡神社  | 八幡神社本殿、幣<br>殿、拝殿ほか3棟 | 建造物 | 建造物修理 | 18,266,200 | 14,400,000 | 630,000   | 3,236,200  |
| 建造物保存修理 | 喜多方市  | 旧甲斐家住宅店蔵<br>ほか9棟     | 建造物 | 建造物修理 | 38,819,000 | 24,910,000 | 400,000   | 13,509,000 |
| 計       | 3件    |                      |     |       | 60,623,200 | 41,667,000 | 1,240,000 | 17,716,200 |

### (2) 県指定文化財

| 事業区分      | 補助事業者 | 名称            | 種別        | 事業内容   | 金額（単位：円）   |      |            |            |
|-----------|-------|---------------|-----------|--------|------------|------|------------|------------|
|           |       |               |           |        | 事業費        | 国庫補助 | 県費補助       | その他        |
| 建造物保存修理   | 只見町   | 旧長谷部家住宅       | 建造物       | 建造物修理  | 4,063,400  | 0    | 1,310,000  | 2,753,400  |
| 建造物保存修理   | 福島市   | 旧菅野家住宅        | 建造物       | 建造物修理  | 10,275,976 | 0    | 3,290,000  | 6,985,976  |
| 建造物保存修理   | 高蔵寺   | 高蔵寺三重塔        | 建造物       | 建造物修理  | 29,951,889 | 0    | 9,980,000  | 19,971,889 |
| 美術工芸品保存修理 | 熊野神社  | 木造文殊菩薩<br>騎獅像 | 美術<br>工芸品 | 彫刻修復   | 6,699,000  | 0    | 1,210,000  | 5,489,000  |
| 美術工芸品保存修理 | 南須釜区  | 東福寺十二神将       | 美術<br>工芸品 | 彫刻修復   | 2,538,512  | 0    | 840,000    | 1,698,512  |
| 美術工芸品保存修理 | 恵隆寺   | 木造二十八部衆       | 美術<br>工芸品 | 彫刻修復   | 3,239,000  | 0    | 860,000    | 2,379,000  |
| 記念物保存修理   | 波立寺   | 波立海岸の樹叢       | 天然<br>記念物 | 指定地内整備 | 1,348,796  | 0    | 440,000    | 908,796    |
| 記念物保存修理   | 埴町    | 向ヶ岡公園の桜       | 天然<br>記念物 | 指定地内整備 | 6,877,200  | 0    | 1,070,000  | 5,807,200  |
| 記念物保存修理   | 矢祭町   | 戸津辺のサクラ       | 天然<br>記念物 | 指定地内整備 | 6,730,300  | 0    | 1,690,000  | 5,040,300  |
| 計         | 9件    |               |           |        | 71,724,073 | 0    | 20,690,000 | 51,034,073 |

### 3 令和5年度 指定文化財保存活用事業（災害復旧事業）

令和4年3月福島県沖地震等により被災した国指定文化財等の修復等保存事業に必要な経費について、助成を行った。

#### (1) 国指定文化財

| 事業区分 | 補助事業者   | 名称             | 種別  | 事業内容   | 金額（単位：円）    |             |            |             |
|------|---------|----------------|-----|--------|-------------|-------------|------------|-------------|
|      |         |                |     |        | 事業費         | 国庫補助        | 県費補助       | その他         |
| 災害復旧 | 相馬中村神社  | 相馬中村神社本殿・幣殿・拝殿 | 建造物 | 災害復旧工事 | 16,615,000  | 14,122,000  | 450,000    | 2,043,000   |
| 災害復旧 | 安積歴史博物館 | 旧福島県尋常中学校本館    | 建造物 | 災害復旧工事 | 20,020,000  | 16,783,000  | 500,000    | 2,737,000   |
| 災害復旧 | 郡山市     | 大安場古墳          | 建造物 | 災害復旧工事 | 3,707,000   | 2,594,000   | 150,000    | 963,000     |
| 災害復旧 | 願成寺     | 阿弥陀堂（白水阿弥陀堂）   | 建造物 | 災害復旧工事 | 137,790,000 | 117,121,000 | 8,260,000  | 12,409,000  |
| 災害復旧 | 願成寺     | 阿弥陀堂（白水阿弥陀堂）   | 建造物 | 災害復旧工事 | 18,000,000  | 15,300,000  | 1,080,000  | 1,620,000   |
| 災害復旧 | 如宝寺     | 石造笠塔婆          | 史跡  | 災害復旧工事 | 7,759,983   | 5,818,000   | 150,000    | 1,791,983   |
| 災害復旧 | 棚倉町     | 棚倉城跡           | 史跡  | 災害復旧工事 | 23,004,680  | 16,100,000  | 190,000    | 6,714,680   |
| 災害復旧 | いわき市    | 白水阿弥陀堂境域       | 史跡  | 災害復旧工事 | 358,411,040 | 250,887,000 | 2,500,000  | 105,024,040 |
| 計    | 8件      |                |     |        | 585,307,703 | 438,725,000 | 13,280,000 | 133,302,703 |

#### (2) 県指定文化財

| 事業区分 | 補助事業者 | 名称     | 種別 | 事業内容   | 金額（単位：円）   |      |            |            |
|------|-------|--------|----|--------|------------|------|------------|------------|
|      |       |        |    |        | 事業費        | 国庫補助 | 県費補助       | その他        |
| 災害復旧 | 如宝寺   | 鈴木信教墓  | 史跡 | 災害復旧工事 | 21,807,589 | 0    | 6,920,000  | 14,887,589 |
| 災害復旧 | 相馬市   | 相馬中村城跡 | 史跡 | 災害復旧工事 | 15,250,400 | 0    | 3,290,000  | 11,960,400 |
| 計    | 2件    |        |    |        | 37,057,989 | 0    | 10,210,000 | 26,847,989 |

## 第4節 文化財の保護と公開の推進

### 1 第65回北海道・東北ブロック民俗芸能大会

北海道・東北地区に伝承されている民俗芸能を広く一般に公開し、その価値を周知するとともに、無形民俗文化財の保存・伝承、文化財公開による地域振興等に寄与する。

期 日 令和5年 10月28日 リハーサル・実行委員会

10月29日 開会式・民俗芸能公開

場 所 恵庭市民会館（北海道恵庭市）

### 2 文化財保護強調週間の実施

文化財保護の一層の推進を図るために、11月1日から11月7日までの文化財保護強調週間を中心に、チラシを配布し、県民に対し啓発を行った。

### 3 文化財防火デーの実施

文化財の防火について、所有者・管理者はもとより、県民の理解と協力を高めるため、1月26日の文化財防火デーを中心に、チラシを配布するなど啓発を行った。

また、各市町村においては、消防署等の協力を得て、防火訓練、防火診断、防火査察等を実施した。

## 第5節 銃砲刀剣類の登録状況

美術品若しくは骨とう品としての価値のある火縄式銃砲等の古式銃砲又は美術品としての価値のある刀剣類の登録審査会を次のとおり実施した。

### 1 登録審査委員

溝井辰美、佐藤安弘、塚本剛之、塚本裕之

### 2 登録審査会の実施状況

| 期 日   | 会 場       | 審査数 | 失格数 | 登録数 | 登録数の内訳 |     |
|-------|-----------|-----|-----|-----|--------|-----|
|       |           |     |     |     | 刀 剣    | 銃 砲 |
| 5月18日 | いわき合同庁舎   | 18  | 0   | 18  | 18     | 0   |
| 7月19日 | 郡山市労働福祉会館 | 41  | 2   | 39  | 34     | 5   |
| 9月12日 | 会津若松合同庁舎  | 28  | 1   | 27  | 27     | 0   |
| 12月7日 | あづま荘      | 20  | 0   | 20  | 20     | 0   |
| 2月14日 | 郡山市労働福祉会館 | 55  | 5   | 50  | 49     | 1   |
| 計     |           | 162 | 8   | 154 | 148    | 6   |

※ 再交付に係る審査を除く。

### 3 銃砲刀剣類の譲受け・相続等の届出状況

| 区 分   | 銃 砲 等 | 刀 剣 類 |
|-------|-------|-------|
| 譲 受 け | 20    | 558   |
| 相 続   | 2     | 112   |
| 貸 付   | 1     | 0     |
| 保管の委託 | 0     | 1     |
| 計     | 23    | 671   |

## 第6節 福島県文化財センター白河館の運営状況

### 1 入館者数

令和5年度の入館者は14,383人であり、前年度の入館者(11,976人)に比べ2,407人増加した。団体利用は、前年度に比べ189名増加した。平成13年7月の開館からの延べ入館者数は、613,195人となった。

(令和6年3月31日現在)

| 月   | 入館者数(人) | 1日平均入館者数(人) |
|-----|---------|-------------|
| 4月  | 980     | 38          |
| 5月  | 1,292   | 50          |
| 6月  | 1,377   | 53          |
| 7月  | 1,559   | 60          |
| 8月  | 1,667   | 62          |
| 9月  | 1,242   | 48          |
| 10月 | 1,202   | 46          |
| 11月 | 1,761   | 70          |
| 12月 | 692     | 30          |
| 1月  | 552     | 24          |
| 2月  | 1,042   | 42          |
| 3月  | 1,017   | 39          |
| 計   | 14,383  | 47          |

### 2 入館者の内訳と傾向

地域別利用状況 県内者 80.7% (うち総入館者数に占める白河市の割合 38.8%)  
 県外者 19.3%  
 年齢層別利用状況 入館者全体のうち、児童生徒(高校生以下)が31.9%、団体入館者が16.1%を占める。

### 3 団体利用者の内訳と傾向

(単位 人) (令和6年3月31日現在)

|                         |      | 4月   | 5月   | 6月    | 7月    | 8月   | 9月    | 10月   | 11月   | 12月   | 1月   | 2月    | 3月   | 計     |
|-------------------------|------|------|------|-------|-------|------|-------|-------|-------|-------|------|-------|------|-------|
| 幼稚園・保育園                 | 団体数  | 2    | 3    | 3     | 1     | 1    | 2     | 6     |       | 1     | 2    | 1     | 1    | 23    |
|                         | 入館者数 | 18   | 41   | 37    | 11    | 9    | 17    | 67    |       | 11    | 15   | 10    | 17   | 253   |
| 小学校                     | 団体数  | 1    |      | 17    | 9     |      | 1     |       | 1     |       |      | 2     |      | 31    |
|                         | 入館者数 | 14   |      | 488   | 333   |      | 68    |       | 85    |       |      | 86    |      | 1,074 |
| 中学校                     | 団体数  |      |      |       |       |      | 1     |       |       |       |      |       |      | 1     |
|                         | 入館者数 |      |      |       |       |      | 43    |       |       |       |      |       |      | 43    |
| 高等学校                    | 団体数  |      | 1    |       |       |      |       | 1     |       |       |      |       |      | 2     |
|                         | 入館者数 |      | 24   |       |       |      |       | 27    |       |       |      |       |      | 51    |
| 支援学校                    | 団体数  |      |      |       |       |      | 1     |       |       |       |      |       |      | 1     |
|                         | 入館者数 |      |      |       |       |      | 14    |       |       |       |      |       |      | 14    |
| 大学                      | 団体数  |      |      |       |       |      |       |       |       |       |      |       |      | 0     |
|                         | 入館者数 |      |      |       |       |      |       |       |       |       |      |       |      | 0     |
| 幼小中高PTA<br>(保護者のみ)      | 団体数  |      |      |       |       |      |       |       |       |       |      |       |      | 0     |
|                         | 入館者数 |      |      |       |       |      |       |       |       |       |      |       |      | 0     |
| 幼小中高PTA<br>(保護者と児童生徒)   | 団体数  |      |      | 1     | 1     |      |       |       |       |       |      |       |      | 2     |
|                         | 入館者数 |      |      | 33    | 25    |      |       |       |       |       |      |       |      | 58    |
| 研究会                     | 団体数  |      |      |       | 1     |      |       | 1     | 1     |       |      |       |      | 3     |
|                         | 入館者数 |      |      |       | 8     |      |       | 10    | 9     |       |      |       |      | 27    |
| 子ども会                    | 団体数  |      |      | 1     |       |      |       | 1     |       |       |      |       |      | 2     |
|                         | 入館者数 |      |      | 18    |       |      |       | 14    |       |       |      |       |      | 32    |
| 公民館等                    | 団体数  | 1    |      | 1     | 1     |      | 1     | 3     | 4     |       |      |       |      | 11    |
|                         | 入館者数 | 15   |      | 25    | 22    |      | 27    | 39    | 68    |       |      |       |      | 196   |
| 福祉施設・<br>デイケアサービス       | 団体数  |      |      | 2     | 2     | 2    | 1     | 7     | 1     | 4     |      | 1     |      | 20    |
|                         | 入館者数 |      |      | 29    | 35    | 18   | 18    | 75    | 21    | 49    |      | 10    |      | 255   |
| 資料館等                    | 団体数  |      |      |       |       |      |       |       |       |       |      |       |      | 0     |
|                         | 入館者数 |      |      |       |       |      |       |       |       |       |      |       |      | 0     |
| 歴史研究団体                  | 団体数  |      |      |       |       |      |       | 1     |       |       |      |       |      | 1     |
|                         | 入館者数 |      |      |       |       |      |       | 20    |       |       |      |       |      | 20    |
| 県・市町村・<br>教委・審議会等       | 団体数  |      |      |       |       |      | 1     | 1     | 1     |       |      |       |      | 3     |
|                         | 入館者数 |      |      |       |       |      | 3     | 28    | 25    |       |      |       |      | 56    |
| その他                     | 団体数  | 1    | 2    | 2     |       |      | 3     | 1     |       | 2     |      | 3     |      | 14    |
|                         | 入館者数 | 21   | 30   | 31    |       |      | 82    | 24    |       | 31    |      | 12    |      | 231   |
| 計                       | 団体数  | 5    | 6    | 27    | 15    | 3    | 11    | 22    | 8     | 7     | 2    | 7     | 1    | 114   |
|                         | 入館者数 | 68   | 95   | 661   | 434   | 27   | 272   | 304   | 208   | 91    | 15   | 118   | 17   | 2,310 |
| 総入館者に占める<br>団体入館者の割合(%) |      | 6.94 | 7.35 | 48.00 | 27.84 | 1.62 | 21.90 | 25.29 | 11.81 | 13.15 | 2.72 | 11.32 | 1.67 | 16.06 |

### 4 情報発信事業の利用者

ホームページアクセス件数 34,925 件

(令和6年3月31日現在)

(文化財データベースのほか、福島県文化財センター白河館の行事予定等をホームページで紹介している。)

### 5 資料管理業務

県教育委員会による調査の出土品等 58,857 箱を、教育・普及・研究への活用が可能な環境に整備して収蔵管理している。

写真掲載・転載の申し込み 30 件、出土品借受の申し込み 11 件、収蔵庫保管品の館内閲覧 32 件であった。

## 6 研修事業の状況

埋蔵文化財や無形の文化財の調査・保護を担当する自治体・団体職員、文化財保護指導者、学校教育・生涯学習に携わる教職員などを対象とした研修を実施する。

| 区分           | 研修対象                           | 研修内容                                                       |
|--------------|--------------------------------|------------------------------------------------------------|
| 基礎研修<br>(2回) | 市町村職員<br>等                     | 市町村が直面する課題や先行実践例の検証などを通して、文化財に対する災害対応、埋蔵文化財調査の監理・監督について学ぶ。 |
| 専門研修<br>(2回) | 市町村職員、<br>市町村文化<br>財保護指導<br>者等 | 市町村文化財保護行政の実践例を現地で検証し、まちづくりと展示施設の整備及び展示施設における展示環境について学ぶ。   |
| 特別研修<br>(3回) | 市町村職員<br>等                     | 市町村の要望に応じて館内外において随時実施。                                     |

### 令和5年度研修実施状況

(令和6年3月31日現在)

#### ・基礎研修(2回)

「文化財保護行政実務者研修」 7月14日 参加者 53名  
(オンライン併用開催)

「埋蔵文化財発掘調査研修」 2月2日 参加者 11名

#### ・専門研修(2回)

「文化財保護指導者研修会」 10月19日～20日 参加者延べ 138名  
「専門技術研修」 12月8日 参加者 20名

#### ・特別研修(3回)

「矢吹町町民講座やぶき寺子屋」 8月19日 参加者 15名

「県立白河旭高校総合的探求の時間」 9月15日 参加者 15名

「湯川村れきし探訪 桜町遺跡の調査成果について」 10月3日 参加者 6名

## 7 体験学習事業の状況

過去の生活の一部を体験しながら学べるよう、復元品等を用いた体験学習の普及活動を、館内・館外で行う。

活動を行うための施設として、屋内に体験活動室を設けている。また野外展示施設では、体験広場を囲むように、縄文時代の家、前方後円墳、奈良時代の家、奈良時代の倉庫、製鉄炉、室町時代の館を復元展示している。

### (1) いつでもできる体験学習

事前に予約を必要としない個人来館者を対象に実施するメニューと、事前予約制で、団体の体験学習を希望する場合を対象とするものを用意している。内容は、「勾玉づくり」「火おこしに挑戦」のほか、月替わりの期間限定メニューを用意している。

### いつでもできる体験学習活動状況(令和6年3月31日現在)

| 月   | 来館者数(人) | 体験者数(人) | 割合(%) |
|-----|---------|---------|-------|
| 4月  | 980     | 512     | 52.2  |
| 5月  | 1,292   | 1,009   | 78.1  |
| 6月  | 1,377   | 672     | 48.8  |
| 7月  | 1,559   | 1,145   | 73.4  |
| 8月  | 1,667   | 1,404   | 84.2  |
| 9月  | 1,242   | 785     | 63.2  |
| 10月 | 1,202   | 235     | 19.5  |
| 11月 | 1,761   | 1,010   | 57.4  |
| 12月 | 692     | 196     | 28.3  |
| 1月  | 552     | 242     | 43.8  |
| 2月  | 1,042   | 579     | 55.6  |
| 3月  | 1,017   | 435     | 42.8  |
| 計   | 14,383  | 8,224   | 57.2  |

※ 体験者数は1人で複数メニューを体験した場合も合算した延べ人数である。

### (2) 募集型体験学習

事前に参加者を募集して土器づくり、大堀相馬焼などの単発プログラムを行う「実技講座」、事前に参加者を募集し、関連性・継続性のあるメニューを年間で実施する「まほろん森の塾」などのプログラム。

#### ・まほろん森の塾

第1回 「入塾式ほか」 6月4日 参加者12名

第2回 「白川城跡見学ほか」 7月9日 参加者11名

第3回 「白河だるまづくり」 9月4日 参加者10名

第4回 「寺巡り・白河だるまづくり」 10月23日 参加者12名

第5回 「活動のまとめ・修了式ほか」 11月27日 参加者12名

#### ・実技講座

大堀相馬焼に挑戦①「ロクロ体験」 5月28日 参加者8名

大堀相馬焼に挑戦②「墨入れ」 6月25日 参加者8名

U-15実技講座「土器づくり」 7月22日・23日 参加者32名

U-15実技講座「土偶づくり」 8月19日・20日 参加者32名

編みかごづくり 10月9日 参加者7名

土師器づくり①「成形・調整」 1月27日～2月1日 参加者延べ13名

土師器づくり②「野焼き」 3月10日 中止

#### ・実技講座(web配信)

「おうちでできる土器づくり」 通年 参加者28名

### (3) 館外体験学習

#### ア おでかけまほろん

福島県文化財センター白河館から、小中学校等教育機関等へ職員が出向き、収蔵資料等を活用した学習や体験学習を教職員と協働で行うプログラム。令和5年度は19カ所で開催し、参加者数は合計402名であった。

第1回 伊達市立栗野小学校 5月18日 参加者10名

第2回 南会津町立南郷小学校 5月25日 参加者30名

第3回 湯川村立勝常小学校 6月8日 参加者23名

第4回 県立会津支援学校竹田校中学部 6月8日 参加者2名

第5回 猪苗代町立翁島小学校 6月15日 参加者22名

|      |                  |        |        |
|------|------------------|--------|--------|
| 第6回  | 福島市立下川崎小学校       | 6月22日  | 参加者22名 |
| 第7回  | 相馬市LVMH子どもアートメゾン | 7月30日  | 参加者16名 |
| 第8回  | 二本松市立旭小学校        | 9月14日  | 参加者18名 |
| 第9回  | 二本松市立新殿小学校       | 9月14日  | 参加者10名 |
| 第10回 | いわき市立御厩小学校       | 9月18日  | 参加者41名 |
| 第11回 | 郡山市立御代田小学校       | 10月5日  | 参加者10名 |
| 第12回 | 鏡石町立第二小学校        | 10月12日 | 参加者26名 |
| 第13回 | 小野町立小野小学校        | 10月26日 | 参加者75名 |
| 第14回 | 県立平支援学校高等部       | 11月9日  | 参加者10名 |
| 第15回 | 県立郡山支援学校小学部      | 11月16日 | 参加者10名 |
| 第16回 | 二本松市安達公民館        | 11月19日 | 参加者40名 |
| 第17回 | 会津美里町立新鶴小学校      | 11月30日 | 参加者27名 |
| 第18回 | 県立聴覚支援学校会津校小学部   | 11月30日 | 参加者4名  |
| 第19回 | 県立石川支援学校たまかわ校中学部 | 12月7日  | 参加者6名  |

#### イ 生涯学習行事への出展

生涯学習施設等が主催する行事に出展し、収蔵資料を活用したミニ展示や体験学習を行う。令和5年度は4回実施し、参加者数は合計663名であった。

|     |                             |           |         |
|-----|-----------------------------|-----------|---------|
| 第1回 | ただみ・モノとくらしのミュージアム           | 8月18日     | 参加者18名  |
| 第2回 | 福島県ハイテクプラザ                  | 8月19日     | 参加者451名 |
| 第3回 | 那須高原ビジターセンター                | 11月11・12日 | 参加者157名 |
| 第4回 | Out of KidZania in しらかわ2024 | 11月25・26日 | 参加者37名  |

## 8 講演会・講習会

文化財に親しみ、文化財への理解を深めるために、講演会や講座を開催した。

|                            |               |
|----------------------------|---------------|
| <b>(1) 館長講演会</b>           | 5回開催          |
| 第1回「遺跡から何を掘り出すのか」          | 6月3日 聴講者26名   |
| 第2回「建築学に導かれた考古学」           | 8月19日 聴講者22名  |
| 第3回「土の器、木の器」               | 9月23日 聴講者25名  |
| 第4回「石川町鳥内遺跡を語る」            | 12月3日 聴講者45名  |
| 第5回「石庖丁の考古学」               | 2月4日 聴講者19名   |
| <b>(2) 文化財講演会等</b>         | 6回開催          |
| 講座 館長の子ども考古学教室「土器をつくり、つかう」 | 7月9日 聴講者49名   |
| 講座 子ども考古学教室「木器から見る作り手のワザ」  | 8月6日 聴講者28名   |
| 講演会 「川俣町前田遺跡の調査について」       | 9月18日 聴講者60名  |
| 講演会 会津の中世関連講演会「会津の城」       | 11月25日 聴講者60名 |
| 講演会 「ふくしまの旧石器研究のはじまり」      | 2月17日 聴講者38名  |

講演会 「戦後ふくしまの考古学と複式炉」  
3月2日 聴講者35名

## 9 常設展事業

常設展示室では、以下のコーナーを設けて、収蔵遺物や復元品を理解しやすい形で展示している。

「暮らしのうつりかわり」「暮らしをささえた道具」「A：旧みんなの研究ひろば」「B：旧話題の遺跡」「C：旧しらかわ歴史名場面」各コーナーにおいては展示替えを積極的に行い、歴史や文化財等に関する新鮮な情報を提供した。

- 暮らしのうつりかわり（昭和～旧石器時代の出土品等）
- A：旧みんなの研究ひろば（まほろん和鏡コレクション、桜町遺跡の弥生土器等）
- B：旧話題の遺跡（小和瀬遺跡展、学法石川高校考古学部の研究等）
- C：旧しらかわ歴史名場面（博物館実習生による展示新収蔵資料浪江町鹿屋敷・赤坂D遺跡等）
- 重要文化財公開（国指定法正尻遺跡出土品）
- プロムナードギャラリー等でのミニ展示及び展示替え・「まほろんの逸品」（天栄村桑名郎遺跡縄文土器等）

## 10 企画展事業

特別展示室では、指定文化財展・収蔵資料展などの企画展を開催している。

- (1) ふくしま歴史探訪展**  
「古代ふくしまの開発一矢吹が原を中心に」  
令和5年1月21日～令和5年5月7日 観覧者3,930名
- (2) 収蔵資料展**  
「ものづくりに学ぶーU（アンダー）15の考古学ー」  
6月3日～8月20日 観覧者4,174名
- (3) 特別展**  
「前田遺跡調査成果展」  
9月16日～10月15日 観覧者1,527名
- (4) 指定文化財展**  
「会津の中世」  
10月28日～12月10日 観覧者2,247名
- (5) 収蔵資料展**  
「戦後ふくしまの考古学2ー高度経済成長期の発掘調査ー」  
1月20日～3月10日 観覧者1,670名
- (6) 移動展**  
教育普及機関・研究機関等と連携して、移動展を実施した。  
○「Uー15の考古学」  
6月2日～7月5日（場所：福島県立図書館）  
観覧者16,184名  
○「古代ふくしまの開発一矢吹が原を中心に」  
7月1日～31日（矢吹町複合施設KOKOTTO）  
観覧者10,301名

## 1 1 ボランティア運営事業

### (1) 「まほろんボランティア」の活動状況

縄文時代の家、奈良時代の家の燻蒸  
体験学習用器材の整備など  
ボランティア連絡会・研修会(4回開催)

### (2) 登録数

個人ボランティア 37名

## 1 2 市町村への技術支援の状況

文化財保護に対する個別の技術支援が必要な市町村に対して、専門職員の派遣を実施する。令和5年度は、3市に対し計4回、職員を派遣した。

- ・文化財に係る災害時の応援活動支援に関する協定に基づく支援要請 伊達市(1回)
- ・出土品の保管管理に関する指導・助言 福島市(1回)
- ・出土品の分析 郡山市(1回)
- ・未指定文化財の保存に関する助言 福島市(1回)

## 1 3 その他

### イベントの開催

- ・「まほろん感謝デー」・「移動水族館アクアラバン」  
11月4日・5日 参加者 835名

# 第11章 福利厚生

## [教職員の健康管理・福利厚生事業]

### 第1節 概要

(1) 教職員の健康管理については、教職員の安全確保と健康の保持増進のため、労働安全衛生法や学校保健安全法等に基づき各種事業を実施した。また、新型コロナウイルス感染症対策として県立学校等に教職員用マスク等保健衛生用品の配付を行った。

(2) 保健・厚生事業については、特定健康診査等を実施するとともに、教職員人間ドック等をはじめとする健診事業を県、市町村、公立学校共済組合、一般財団法人福島県教職員互助会等が連携を図りながら実施した。教職員の健康管理を重点目標とし、生活習慣病の早期発見・早期治療等健康づくりを支援するための人間ドックや大腸がん検診等の健診事業のほか、保養所等利用助成事業等を実施した。

また、教職員の生涯生活設計の推進のためのライフプラン講座、教職員の健康管理意識を高めるため、体質改善、メンタルヘルス等に関する各種セミナー事業を実施し、教職員の心身の健康づくりを支援した。さらに、ふくしま教職員こころのケア事業等をはじめとする各種相談事業やストレスチェック事業を実施し、メンタルヘルス対策の充実を図った。

主な事業と実績は、以下のとおりである。

### 第2節 事業実績

#### 1 教職員の健康管理

教職員の健康管理を適正に行うため、各種健康診断、ストレスチェック事業等を実施した。

##### (1) 雇入時健康診断結果

教育庁及び県立学校等の新規採用教職員

###### ア 健康診断実施状況

| 受診者  | 異常なし |       | 要注意者 |       | 要精密検査者 |       | 治療中 |       |
|------|------|-------|------|-------|--------|-------|-----|-------|
|      | 人数   | 割合    | 人数   | 割合    | 人数     | 割合    | 人数  | 割合    |
| 128人 | 29人  | 22.7% | 51人  | 39.8% | 35人    | 27.3% | 13人 | 10.2% |

###### イ 検査項目ごとの状況

(人)

| 検査項目   | 聴力   | 血圧   | 血液   | 脂質    | 肝機能  | 血糖   | 尿     | 心電図  | 胸部   |
|--------|------|------|------|-------|------|------|-------|------|------|
| 受診者    | 127  | 128  | 128  | 128   | 128  | 121  | 126   | 128  | 128  |
| 異常なし   | 125  | 94   | 108  | 76    | 97   | 100  | 113   | 112  | 124  |
| 要注意者   | 0    | 19   | 16   | 24    | 22   | 18   | 0     | 14   | 2    |
| 要精密検査者 | 2    | 10   | 2    | 18    | 8    | 3    | 13    | 2    | 2    |
| 治療中    | 0    | 5    | 2    | 10    | 1    | 0    | 0     | 0    | 0    |
| 要精密検査率 | 1.6% | 7.8% | 1.6% | 14.1% | 6.3% | 2.5% | 10.3% | 1.6% | 1.6% |

(注) 要精密検査者については、要精密検査項目が1人で2つ以上ある場合には、該当項目にそれぞれ計上した。

##### (2) 教職員定期健康診断結果

教育庁及び県立学校等教職員（新規採用教職員を除く）

###### ア 健康診断実施状況

(人)

| 区分    |    | 受診者   | 異常なし | 要注意者  | 要精密検査者 | 治療中   |
|-------|----|-------|------|-------|--------|-------|
| 35歳以上 | 男性 | 3,029 | 61   | 630   | 1,081  | 1,257 |
|       | 女性 | 2,295 | 162  | 716   | 822    | 595   |
|       | 計  | 5,324 | 223  | 1,346 | 1,903  | 1,852 |
| 35歳未満 | 男性 | 606   | 103  | 255   | 205    | 43    |
|       | 女性 | 611   | 214  | 205   | 149    | 43    |
|       | 計  | 1,217 | 317  | 460   | 354    | 86    |
| 合計    | 男性 | 3,635 | 164  | 885   | 1,286  | 1,300 |
|       | 女性 | 2,906 | 376  | 921   | 971    | 638   |
|       | 計  | 6,541 | 540  | 1,806 | 2,257  | 1,938 |

イ 検査項目ごとの状況

(人)

| 検査項目   | 聴力    |       | 血圧    |       | 血液一般  |       | 血中脂質  |       | 肝機能   |       | 腎機能   |       |
|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
|        | 35歳未満 | 35歳以上 |
| 受診者    | 1,210 | 5,299 | 1,217 | 5,313 | 1,216 | 5,309 | 1,216 | 5,309 | 1,216 | 5,025 | 1,216 | 5,302 |
| 異常なし   | 1,194 | 4,523 | 981   | 3,122 | 1,014 | 3,929 | 757   | 2,696 | 957   | 3,276 | 1,046 | 4,357 |
| 要注意者   | 0     | 191   | 143   | 781   | 158   | 1,029 | 236   | 1,037 | 133   | 1,214 | 113   | 704   |
| 要精密検査者 | 16    | 302   | 72    | 604   | 31    | 200   | 160   | 776   | 118   | 427   | 57    | 225   |
| 治療中    | 0     | 283   | 21    | 806   | 13    | 151   | 63    | 800   | 8     | 108   | 0     | 16    |
| 要精密検査率 | 1.3%  | 5.7%  | 5.9%  | 11.4% | 2.5%  | 3.8%  | 13.2% | 14.6% | 9.7%  | 8.5%  | 4.7%  | 4.2%  |

| 検査項目   | 血糖    |       | 尿     |       | 心電図   |       | 胃エックス線 |       | 大腸がん  |       | 眼底    |       |
|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|
|        | 35歳未満 | 35歳以上 | 35歳未満 | 35歳以上 | 35歳未満 | 35歳以上 | 35歳未満  | 35歳以上 | 35歳未満 | 35歳以上 | 35歳未満 | 35歳以上 |
| 受診者    | 1,176 | 5,308 | 1,199 | 5,244 | 1,217 | 5,299 | /      | 3,813 | /     | 4,773 | /     | 5,207 |
| 異常なし   | 1,035 | 2,459 | 1,121 | 4,875 | 1,060 | 4,034 |        | 2,917 |       | 4,120 |       | 4,506 |
| 要注意者   | 135   | 2,129 | 0     | 5     | 136   | 935   |        | 801   |       | 411   |       | 51    |
| 要精密検査者 | 6     | 195   | 78    | 363   | 21    | 318   |        | 92    |       | 232   |       | 582   |
| 治療中    | 0     | 525   | 0     | 1     | 0     | 12    |        | 3     |       | 10    |       | 68    |
| 要精密検査率 | 0.5%  | 3.7%  | 6.5%  | 6.9%  | 1.7%  | 6.0%  |        | 2.4%  |       | 4.9%  |       | 11.2% |

(注) 要精密検査者については、要精密検査項目が1人で2つ以上ある場合には、該当項目にそれぞれ計上した。

(3) 教職員結核健康診断結果

教育庁及び県立学校等教職員（新規採用教職員を除く）

| 受診者    | 異常なし   | 要注意者 | 要精密検査者 | 治療中 | 要精密検査率 |
|--------|--------|------|--------|-----|--------|
| 6,331人 | 5,920人 | 301人 | 100人   | 10人 | 1.6%   |

(4) 教職員ストレスチェック事業（県）

教育庁及び県立学校等教職員

（令和5年7～11月実施）

検査を受けた職員数、率 6,662人、98.3%

(5) 情報機器作業従事教職員健康診断（県）

教育庁及び県立学校等教職員のうち作業に従事したもの

受診者数 5,660人

(6) 警戒区域等で業務に従事した職員の健康診断（県）

教育庁及び県立学校等教職員のうち作業に従事したもの

受診者延べ人数 848人

(7) 学校保健特別対策事業（県）

県立学校等教職員に対し新型コロナウイルス感染症対策用のマスク等保健衛生用品の配付を行った。

配付学校数 99校

配付衛生用品

|                   |          |
|-------------------|----------|
| サージカルマスク          | 165,400枚 |
| 手指消毒液（20ℓ）        | 3,760ℓ   |
| 清拭用消毒液（1.5ℓ）      | 243本     |
| 消毒用手袋（使捨て）100枚/1箱 | 594箱     |
| ペーパータオル200枚/1箱    | 1,485箱   |

## 2 保健事業

### (1) 特定健康診査等（共済組合）

令和5年度中に、40～74歳となった公立学校共済組合員（任意継続組合員も含む）とその被扶養者を対象に、特定健康診査を実施した。特定健康診査の結果、生活習慣病のリスクが高い場合、その程度に応じて特定保健指導を実施した。

| 対象者数<br>A | 受診者数<br>B | 受診率   | 保健指導<br>対象者 |
|-----------|-----------|-------|-------------|
|           |           | B/A   |             |
| 17,320人   | 14,742人   | 85.1% | 2,292人      |

### (2) 人間ドック（県・市町村・公立大学法人・共済組合・互助会）

ア 教職員人間ドック（県・市町村・公立大学法人・共済組合・互助会）

令和5年4月1日現在、満35・38・40・43・45・48・50・53・55・58歳、61歳以上の教職員を対象に、人間ドック（脳ドックを含む。）を実施した。

| 対象者数<br>A | 申込者数<br>B | 受診者数<br>C | 申込率   | 受診率   |       | 検診結果 |       |       |       |
|-----------|-----------|-----------|-------|-------|-------|------|-------|-------|-------|
|           |           |           | B/A   | C/A   | C/B   | 異常なし | 要注意   | 要精検   | 治療中   |
| 7,309人    | 5,229人    | 5,154人    | 71.5% | 70.5% | 98.6% | 5.0% | 31.0% | 33.3% | 30.8% |

イ 配偶者人間ドック（共済組合・互助会）

令和5年4月1日現在、満35歳以上の被扶養配偶者を対象に、人間ドックを実施した。

| 申込者数<br>A | 受診者数<br>B | 受診率   | 検診結果 |       |       |       |
|-----------|-----------|-------|------|-------|-------|-------|
|           |           | B/A   | 異常なし | 要注意   | 要精検   | 治療中   |
| 223人      | 199人      | 89.2% | 3.0% | 36.7% | 36.2% | 24.1% |

ウ 節目年齢人間ドック（互助会）

令和5年4月1日現在、満59歳の教職員を対象に、人間ドックを実施した。

| 対象者数<br>A | 申込者数<br>B | 受診者数<br>C | 申込率   | 受診率   |       | 検診結果 |       |       |       |
|-----------|-----------|-----------|-------|-------|-------|------|-------|-------|-------|
|           |           |           | B/A   | C/A   | C/B   | 異常なし | 要注意   | 要精検   | 治療中   |
| 728人      | 373人      | 366人      | 51.2% | 50.3% | 98.1% | 1.6% | 24.9% | 28.1% | 45.4% |

### (3) 大腸がん検診（共済組合・互助会）

令和5年4月1日現在、満35歳以上の教職員（人間ドック及び脳ドック受診者を除く。）を対象に、検診を実施した。

| 対象者数<br>A | 申込者数<br>B | 受診者数<br>C | 申込率  | 受診率  |       | 検診結果  |       |       |      |
|-----------|-----------|-----------|------|------|-------|-------|-------|-------|------|
|           |           |           | B/A  | C/A  | C/B   | 異常なし  | 要注意   | 要精検   | 治療中  |
| 9,338人    | 755人      | 678人      | 8.1% | 7.3% | 89.8% | 57.8% | 30.6% | 11.5% | 0.1% |

### (4) 乳がん・子宮がん検診（県・公立大学法人・共済組合・互助会）

令和5年4月1日現在、満20歳以上の女性教職員（人間ドック及び脳ドック受診者を除く。）を対象に、乳がん・子宮がん検診を実施した。

| 対象者数<br>A | 申込者数<br>B | 受診者数<br>C | 申込率   | 受診率   |       | 検診結果  |       |      |      |
|-----------|-----------|-----------|-------|-------|-------|-------|-------|------|------|
|           |           |           | B/A   | C/A   | C/B   | 異常なし  | 要注意   | 要精検  | 治療中  |
| 9,126人    | 3,955人    | 3,762人    | 43.3% | 41.2% | 95.1% | 79.8% | 13.5% | 5.9% | 0.8% |

### (5) 脳ドック（県・市町村・公立大学法人・共済組合・互助会）

令和5年4月1日現在、満40・43・45・48・50・53・55・58歳、61歳以上の教職員を対象に、脳ドックを実施した。

※申込者数及び受診者数は教職員人間ドックの内数で、検診結果は人間ドック項目を除いた項目の構成比率である。

| 対象者数<br>A | 申込者数<br>B | 受診者数<br>C | 申込率   | 受診率   |       | 検診結果  |       |       |      |
|-----------|-----------|-----------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------|
|           |           |           | B/A   | C/A   | C/B   | 異常なし  | 要注意   | 要精検   | 治療中  |
| 6,609人    | 874人      | 858人      | 13.2% | 13.0% | 98.2% | 45.7% | 39.4% | 14.8% | 0.1% |

### (6) 脳検診（共済組合・互助会）

令和5年4月1日現在、満40・43・45・48・50・53・55・58歳、61歳以上の教職員を対象に、脳検診を実施した。

| 対象者数<br>A | 申込者数<br>B | 受診者数<br>C | 申込率   | 受診率   |       | 検診結果  |       |      |      |
|-----------|-----------|-----------|-------|-------|-------|-------|-------|------|------|
|           |           |           | B/A   | C/A   | C/B   | 異常なし  | 要注意   | 要精検  | 治療中  |
| 6,609人    | 1,716人    | 1,647人    | 26.0% | 24.9% | 96.0% | 75.2% | 20.5% | 4.2% | 0.1% |

**(7) 肺がん検診（共済組合・互助会）**

令和5年4月1日現在、満40歳以上の教職員を対象に、肺がん検診を実施した。

| 対象者数    | 申込者数   | 受診者数   | 受診率  |      |       | 検診結果  |       |      |      |
|---------|--------|--------|------|------|-------|-------|-------|------|------|
|         |        |        | 申込率  | 受診率  |       | 異常なし  | 要注意   | 要精検  | 治療中  |
| A       | B      | C      | B/A  | C/A  | C/B   |       |       |      |      |
| 14,531人 | 1,364人 | 1,315人 | 9.4% | 9.0% | 96.4% | 57.8% | 33.7% | 8.1% | 0.4% |

**(8) 胃がん検診（共済組合・互助会）**

令和5年4月1日現在、満30・33歳の教職員を対象に胃がん検診を実施した。

| 対象者数 | 申込者数 | 受診者数 | 受診率   |       |       | 検診結果  |      |      |     |
|------|------|------|-------|-------|-------|-------|------|------|-----|
|      |      |      | 申込率   | 受診率   |       | 異常なし  | 要注意  | 要精検  | 治療中 |
| A    | B    | C    | B/A   | C/A   | C/B   |       |      |      |     |
| 800人 | 127人 | 108人 | 15.9% | 13.5% | 85.0% | 89.8% | 5.6% | 4.6% | 0%  |

**3 厚生事業**

**(1) 厚生事業**

ア 管理監督者メンタルヘルス研修会（県、共済組合）

管理監督者に対し、メンタルヘルスケアに関する基礎知識や職場環境等の改善方法を習得させるため、研修会を実施した。

| 日程   | R5.7.1～R5.8.31       | R5.11.1～R5.12.31 |
|------|----------------------|------------------|
| 会場   | オンデマンド               |                  |
| 講師   | 東北中央病院 主任臨床心理士 古澤 あや |                  |
| 視聴回数 | 858回                 | 792回             |

イ メンタルヘルスセミナー（若年層対象）（県、共済組合）

若年層の組合員に対して、心の健康を保持増進するため、メンタルヘルスに関する基礎知識を習得するための講座をオンデマンド形式で実施した。

| 日程   | R5.6.1～R5.8.31       |  |
|------|----------------------|--|
| 会場   | オンデマンド               |  |
| 講師   | 東北中央病院 主任臨床心理士 古澤 あや |  |
| 視聴回数 | 462回                 |  |

ウ メンタルヘルスセミナー（共済組合）

組合員の心の健康を保持増進するため、メンタルヘルスに関する基礎知識を習得するための講座を実施した。

| 日程       | R5.8.2        | R5.7.15～R5.8.31 |
|----------|---------------|-----------------|
| 会場       | 飯坂保養所あづま荘     | オンデマンド          |
| 講師       | あさかストレスケアセンター | (株)カイテック        |
| 受講者・視聴回数 | 計23名          | 視聴回数173回        |

エ 在宅介護講座（共済組合）

組合員を対象に、在宅介護に必要な知識や技術を身につけるための実技中心の介護講座を実施した。

| 日程   | R5.7.25、R5.8.1、R5.8.8（計3回） |  |
|------|----------------------------|--|
| 会場   | 福島県男女共生センター                |  |
| 講師   | (一社)福島県介護福祉士会              |  |
| 受講者数 | 計52人                       |  |

オ リラックスセミナー（共済組合）

組合員の心身の健康づくりを支援するため、アロマセラピーに関する講演やアロマ実習を行うセミナーを実施

した。

| 日程   | R5.7.25   | R5.7.27     | R5.8.1 | R5.8.3    |
|------|-----------|-------------|--------|-----------|
| 会場   | 飯坂保養所あづま荘 | ビックパレットふくしま |        | 飯坂保養所あづま荘 |
| 講師   | エフハート     | (株)一十八日     |        | エフハート     |
| 受講者数 | 計47名      | 計42名        | 計43名   | 計47名      |

カ 体質改善セミナー（共済組合）

組合員を対象に、生活習慣病の知識と予防法等に関するセミナーを実施した。

| 日程   | R5.7.25～R5.8.31                |  |
|------|--------------------------------|--|
| 会場   | オンデマンド                         |  |
| 委託先  | コナミスポーツ（株）                     |  |
| 視聴回数 | 肩こり改善108回、腰痛予防123回、生活習慣病予防120回 |  |

キ ライフプラン講座（共済組合、互助会）

組合員が、生涯にわたり健やかで充実した生活を送れるよう、退職後を視野に入れた生涯生活設計づくりとその実現を支援する講座をオンデマンド形式で実施した。

| 日程   | R5.7.24～R5.8.31                |  |
|------|--------------------------------|--|
| 会場   | オンデマンド                         |  |
| 講師   | (一財)教職員生涯福祉財団                  |  |
| 視聴回数 | 経済生活設計型72回、生活設計型174回、退職準備型430回 |  |

ク 保育補助（共済組合）

令和5年度内に出産し又は出産を予定する女性組合員及び被扶養配偶者を有する組合員に対し、保育の支援及び福祉の向上に資するため、乳幼児の保育に必要な用品を出生児1人につき1セット交付した。

| 区分   | 内容                                      | 交付件数 |
|------|-----------------------------------------|------|
| Aセット | 電子レンジで除菌セット<br>ベビー用つめきりはさみ<br>ベビー用耳式体温計 | 30件  |
| Bセット | ベビー食器セット（14点セット）<br>ベビーマグセット            | 70件  |
| Cセット | 出産お祝いカタログギフト                            | 290件 |
| 計    |                                         | 390件 |

ケ 教職員健康相談事業（共済組合）  
（こころとからだの健康相談）  
健康上の不具合や心身の悩みについて相談を受けられるよう、17 医療機関に相談業務を委託し実施した。

延べ利用件数 11 件

コ 教職員相談事業（県）  
専任の相談員を配置し、教職員の各種相談に応じた。

延べ相談件数 386 件

サ メンタルヘルスサポート事業（共済組合）  
日常のストレスや生活習慣をインターネットでセルフチェックできる機会を提供した。

アクセス数 16,618 件

シ ふくしま教職員こころのケア事業（共済組合）  
東日本大震災を受けて、日常のストレスやこころの悩みを専門のカウンセラーに相談できる機会を提供するため、8 カウンセリング機関に業務を委託し実施した。

カウンセリング延べ利用件数 543 件

講師派遣利用件数 1 件

グループカウンセリングコース・

ピアカウンセリングコース利用件数 1 件

ス 保養所等利用助成（共済組合）  
組合員が福島支部指定の共済組合宿泊施設を利用した場合、利用料金の一部を助成した。

○ あづま荘利用助成

| 区分         | 助成対象                                             | 助成内容                                                 | 助成件数       |
|------------|--------------------------------------------------|------------------------------------------------------|------------|
| 宿泊<br>利用助成 | 組合員・被扶養者<br>・配偶者・子・父<br>母・祖父母が宿泊<br>したとき         | 1 人 1 泊 1 食まで<br>2,000 円<br>1 人 1 泊 2 食<br>3,000 円 等 | 6,048<br>件 |
|            | 組合員が開催する諸<br>会議                                  | 会議室料金の<br>2 分の 1 の額                                  |            |
| 会食<br>利用助成 | 組合員が 5 名以上<br>で、かつ 1 人 5,000<br>円以上の会食を行っ<br>たとき | 1 人<br>1,000 円                                       | 68 件       |
| 法要<br>利用助成 | 組合員及び直系親族<br>が法要を行うとき                            | 利用額の 30%<br>(上限 70,000 円)                            | 3 件        |

○ 他支部保養所等利用助成

県内 1、県外 7 の指定宿泊施設利用に対し、1 人 1 泊  
1,500 円、計 616 件の助成を行った。

セ 指定旅館等利用助成（互助会）

会員の保養及び健康の保持増進を図るため、県内（24  
施設）、県外（7 施設）の宿泊施設等を指定し、会員が利  
用したとき、利用料金の一部を助成した。

| 区 分        | 助成件数    | 金 額       |
|------------|---------|-----------|
| 宿泊利用助成     | 6,805 件 | 18,408 千円 |
| 会食利用助成     | 67 件    | 67 千円     |
| アクアマリン利用助成 | 525 件   | 451 千円    |
| 計          | 7,397 件 | 18,926 千円 |

ソ 弔慰供花（共済組合）  
在職中に亡くなった組合員の霊前に供花を行い、哀悼  
の意を表した。

供花件数 7 件

タ 法律相談（共済組合）  
組合員が抱える民事問題を早期解決に導くため法律相  
談を実施した。

相談件数 2 件

チ 災害対策事業（共済組合）  
災害救助法が適用された地域内で被災（地域外で同一  
の事由での被災を含む。）し、短期給付の災害見舞金の  
給付該当会員に見舞金を支給した。

給付件数 22 件

ツ リフレッシュ給付（互助会）  
勤続 10 年及び 20 年の節目に心身のリフレッシュを図  
るための給付を行った。

実施件数 585 件

テ 永年勤続リフレッシュ給付（互助会）  
永年勤続表彰会員及び 20 年以上 30 年未満勤続し退職  
した会員等に対し、給付を行った。

永年勤続表彰会員 544 名

20 年以上 30 年未満勤続し退職した会員 12 名

勤続 30 年以上で表彰を受けずに退職した会員 3 名

ト 国内外旅行助成（互助会）  
福島空港を利用して旅行した会員に対し、旅行代金の  
一部を助成した。

| 区 分  | 助成件数  | 金 額    |
|------|-------|--------|
| 国内旅行 | 177 件 | 885 千円 |
| 海外旅行 | 3 件   | 30 千円  |
| 計    | 180 件 | 915 千円 |

ナ 会員交流促進事業（互助会）  
いわき市において実施。参加者 14 名。

(2) 公益事業

ア へき地等教育事業助成（互助会）  
県人事委員会指定の特地以上のへき地学校及び特別支  
援学校に在学する児童生徒の健全育成を図るため、これ  
らの学校に図書を贈呈した。

対 象 校 75 校

児童生徒数 4,695 人

イ 互助会文庫（互助会）  
県民の教育文化の向上に寄与するため、県立図書館に  
図書を寄贈し、広く県民の利用に供した。

一般・児童生徒用 1,141 冊（累計 69,005 冊）

### 第3節 貸付事業

#### 1 共済組合

令和5年度における共済組合貸付事業は、住宅貸付けをはじめ、一般、教育、医療、結婚、特例住宅災害の6種類の新規貸付けを行った。

#### 2 貸付けの状況

種類別貸付けの状況は次のとおりである。

(単位：件、千円)

| 種 類 別 | 件 数 | 金 額     | 金額割合% |
|-------|-----|---------|-------|
| 一般貸付け | 137 | 157,242 | 44.0  |
| 特別貸付け | 2   | 900     | 0.2   |
| 住宅貸付け | 17  | 95,311  | 26.7  |
| 教育貸付け | 69  | 87,066  | 24.4  |
| 災害貸付け | 1   | 2,000   | 0.6   |
| 医療貸付け | 1   | 300     | 0.1   |
| 結婚貸付け | 6   | 11,000  | 3.1   |
| 葬祭貸付け | 3   | 3,300   | 0.9   |
| 計     | 236 | 357,119 | 100.0 |

### 第4節 宿泊・保養施設

公立学校共済組合では、組合員の福利厚生施設として、飯坂保養所「あづま荘」を運営しているが、令和5年度の利用状況は、次のとおりである。

| 種別  | 施設                                                                                | あづま荘                                                                                                                                                         |
|-----|-----------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|     | 利用人員                                                                              | <ul style="list-style-type: none"> <li>宿 泊 11,503 人</li> <li>会 議 1,062 人</li> <li>宴 会 325 人</li> <li>婚 礼 0 人</li> <li>休 憩 0 人</li> <li>計 12,890 人</li> </ul> |
| 利用率 | <ul style="list-style-type: none"> <li>宿 泊 34.0 %</li> <li>宿 泊 外 1.0 %</li> </ul> |                                                                                                                                                              |

※利用率

$$\cdot \text{宿泊} \frac{\text{利用人数 (宿泊)}}{\text{宿泊延定員 (宿泊定員} \times \text{営業日数)}} \times 100 =$$

$$\cdot \text{宿泊外} \frac{\text{利用人数 (会議・宴会・婚礼)}}{\text{宿泊外延定員 (宿泊外定員} \times \text{営業日数)}} \times 100 =$$

### 第5節 児童手当（特例給付を含む）

次代の社会を担う児童の健やかな成長に資することを目的とする「児童手当法」に基づき、年3回、定期支給を行った。

(単位：人、千円)

|          | 支給対象者数<br>(R6.2月期) | 支給対象児童数<br>(R6.2月期) | 支給額<br>(年間) |
|----------|--------------------|---------------------|-------------|
| 本庁・教育機関等 | 134                | 188                 | 27,130      |
| 小学校      | 924                | 1,309               | 202,170     |
| 中学校      | 717                | 970                 | 153,135     |
| 高等学校     | 804                | 1,145               | 175,650     |
| 特別支援学校   | 333                | 507                 | 74,890      |
| 計        | 2,912              | 4,119               | 632,975     |

### 第6節 財産形成貯蓄制度

教職員の計画的な財産形成を促進するために財産形成貯蓄を導入し、昭和62年3月から控除預入を開始したが、令和5年度における契約状況は次のとおりである。

財産形成貯蓄契約状況（契約者数 7,202人）

◎貯蓄種類別契約件数（令和6年3月31日現在）

|      | 期日指定<br>定期預金 | 金銭<br>信託 | 公 社 債<br>投資信託 | 積立<br>保険 | 計     |
|------|--------------|----------|---------------|----------|-------|
| 一般貯蓄 | 5,844        | 39       | 74            | 374      | 6,331 |
| 年金貯蓄 | 1,711        | 42       | 52            | 343      | 2,148 |
| 住宅貯蓄 | 267          | 8        | 7             | 36       | 318   |
| 計    | 7,822        | 89       | 133           | 753      | 8,797 |

### [福利給付事業]

### 第7節 概要

教職員の福利給付事業については、県教育委員会、公立学校共済組合、一般財団法人福島県教職員互助会において、組合員（会員）に対する各種の給付事業を実施した。

一方、長期給付事業については、教職員等への退職手当、厚生（共済）年金及び恩給の支給を行った。

なお、令和3年度の年金額は令和2年度から0.1%マイナスで改定された。

## 第8節 短期給付

### 1 共済組合

令和5年度末現在における組合員数は、現職組合員 21,581 人（前年同期比 123 人減）、任意継続組合員 499 人（同 40 人増）、継続長期組合員 5 人（同 4 人増）の計 22,085 人（同 79 人減）である。

また、被扶養者数は、14,723 人（同 437 人減）、組合員 1 人当たりの被扶養者数は、0.67 人となっている。

令和5年度の共済組合短期給付の給付総額は、6,360,929 千円で、前年度対比 726,967 千円の増加となった。

総額に占める割合は、法定給付 97.56%、附加給付 2.44%となっており、給付の内訳は次のとおりである。

#### 共済組合短期給付内訳表

| 法定給付   |          |         |               | 附加給付     |           |             |         |       |
|--------|----------|---------|---------------|----------|-----------|-------------|---------|-------|
| 種別     |          | 件数(件)   | 給付額(千円)       | 種別       |           | 件数(件)       | 給付額(千円) |       |
| 医療給付   | 本人医療費    | 217,339 | 2,438,232     | 医療給付     | 家族療養費     | 918         | 26,099  |       |
|        | 家族医療費    | 137,779 | 1,442,082     |          | 家族訪問看護療養費 | 14          | 91      |       |
|        | 高額療養費    | 3,478   | 403,382       |          | 出産費       | 355         | 17,750  |       |
|        | 薬剤       | 172,162 | 1,096,418     |          | 家族出産費     | 78          | 3,900   |       |
|        | 移送費      | 0       | 0             |          | 埋葬料       | 15          | 375     |       |
|        | 小計       | 530,758 | 5,380,114     |          | 家族埋葬料     | 8           | 200     |       |
| その他の給付 | 出産費      | 362     | 176,644       |          | その他の給付    | 直営保健給付家族療養費 | 0       | 0     |
|        | 家族出産費    | 81      | 40,792        |          |           | 傷病手当金       | 35      | 6,203 |
|        | 埋葬料      | 15      | 750           |          |           | 災害見舞金       | 0       | 0     |
|        | 家族埋葬料    | 8       | 400           |          |           | 結婚手当金       | 0       | 0     |
|        | 傷病手当金    | 497     | 97,288        |          |           | 入院附加金       | 0       | 0     |
|        | 出産手当金    | 2       | 420           |          |           |             |         |       |
|        | 休業手当金    | 0       | 0             |          |           |             |         |       |
|        | 育児休業手当金  | 2,885   | 488,624       |          |           |             |         |       |
|        | 介護休業手当金  | 38      | 6,820         |          |           |             |         |       |
|        | 弔慰金      | 0       | 0             |          |           |             |         |       |
|        | 家族弔慰金    | 0       | 0             |          |           |             |         |       |
|        | 災害見舞金    | 24      | 13,697        |          |           |             |         |       |
|        | 小計       | 3,912   | 825,435       |          |           |             |         |       |
|        | ① 法定給付 計 | 534,670 | 6,205,549     | ② 附加給付 計 |           | 1,423       | 54,618  |       |
|        |          |         | ③ 一部負担金払戻金    | 3,451    | 100,762   |             |         |       |
|        |          |         | 短期給付合計(①+②+③) | 539,544  | 6,360,929 |             |         |       |

### 2 互助会

令和5年度末現在の互助会の会員数は、18,156 人（前年同期比 165 人減）となっている。

互助会給付規程に基づいた短期給付金及び厚生給付金事業の内訳については、次のとおりである。

#### (1) 短期給付金

| 種別    | 件数(件)         | 給付額(千円) |
|-------|---------------|---------|
| 医療補助金 | (被扶養者) 12,224 | 46,056  |
| 死亡弔慰金 | (会員) 11       | 550     |
|       | (被扶養者) 8      | 340     |
| 災害見舞金 | 22            | 1,500   |
| 出産見舞金 | (会員) 258      | 12,900  |
|       | (被扶養者) 58     | 1,740   |
| 計     | 12,581        | 63,086  |

#### (2) 厚生給付金

| 種別      | 件数(件)  | 給付額(千円) |
|---------|--------|---------|
| 医療給付金   | 53,969 | 195,161 |
| 死亡給付金   | 515    | 16,940  |
| 出産給付金   | 151    | 4,590   |
| 結婚祝金    | 300    | 15,000  |
| 入学祝金    | 461    | 13,830  |
| 入院療養見舞金 | 1,392  | 15,154  |
| 障害見舞金   | 88     | 4,400   |
| 育児休業給付金 | 2,595  | 32,091  |
| 介護休暇給付金 | 15     | 2,909   |
| 計       | 59,486 | 300,075 |

## 第9節 長期給付

令和5年度の教職員等に対する退職給付の執行状況は、次のとおりである。

### 1 恩給

#### (1) 恩給の受給者数及び支給の状況

ア 支給人員及び支給額

普通恩給等の支給人員及び支給額は、次のとおりである。

令和5年度末現在の受給者数は22人(前年度比6人減)、令和5年度における支給総額は31,731千円(同5,108千円減)となっており、受給者の高齢化に伴い、いずれも減少傾向にある。

| 学校種別    | 普通恩給      |             | 扶助料       |             | 退隠料       |             | 遺族扶助料     |             | 計         |             |
|---------|-----------|-------------|-----------|-------------|-----------|-------------|-----------|-------------|-----------|-------------|
|         | 人員<br>(人) | 支給額<br>(千円) |
| 小学校     | 0         | 0           | 14        | 20,385      | 0         | 0           | 0         | 0           | 14        | 20,385      |
| 中学校     | 0         | 0           | 6         | 9,838       | 1         | 1,395       | 0         | 0           | 7         | 11,233      |
| 特別支援学校  | 0         | 0           | 0         | 0           | 0         | 0           | 1         | 113         | 1         | 113         |
| 高等学校    | 0         | 0           | 0         | 0           | 0         | 0           | 0         | 0           | 0         | 0           |
| 教育庁・その他 | 0         | 0           | 0         | 0           | 0         | 0           | 0         | 0           | 0         | 0           |
| 計       | 0         | 0           | 20        | 30,223      | 1         | 1,395       | 1         | 113         | 22        | 31,731      |

イ 裁定及び失権

裁定を受けた者及び死亡等により受給権を失った者は、次のとおりである。(単位：人)

| 恩給種別  | 裁定 | 失権 | 左のうち<br>完全失権 |
|-------|----|----|--------------|
| 普通恩給  | 0  | 0  | 0            |
| 扶助料   | 0  | 6  | 6            |
| 退隠料   | 0  | 0  | 0            |
| 遺族扶助料 | 0  | 0  | 0            |
| 計     | 0  | 6  | 6            |

#### (2) 恩給の改定について

恩給は、国民年金改定率(国民年金法第27条で規定する改定率)を基準に毎年度改定し、当該年度の4月以降に適用される。

直近の改定としては、平成21年度に0.9%の引き上げがされているが、平成22年度以降は実施していない。

なお、被用者年金一元化法により、平成28年4月分以後の支払額について端数処理の方法が変更された。

### 2 退職手当

#### (1) 退職手当の支給人員及び支給額

退職手当の支給人員及び支給額は、次のとおりである。

| 学校種別    | 人員(人) | 支給額(千円)   |
|---------|-------|-----------|
| 教育庁・その他 | 11    | 32,424    |
| 小学校     | 342   | 3,258,835 |
| 中学校     | 198   | 1,688,808 |
| 高等学校    | 140   | 1,470,837 |
| 特別支援学校  | 56    | 346,544   |
| 計       | 747   | 6,797,448 |

#### (2) 失業者の退職手当

退職手当のうち「失業者の退職手当」の支給人員及び支給額は、次のとおりである。

| 学校種別    | 人員(人) | 支給額(千円) |
|---------|-------|---------|
| 教育庁・その他 | 0     | 0       |
| 小学校     | 10    | 2,024   |
| 中学校     | 4     | 633     |
| 高等学校    | 2     | 481     |
| 特別支援学校  | 3     | 1,082   |
| 計       | 19    | 4,220   |

### 3 年金

#### (1) 進達件数

老齢厚生（退職共済）年金等の本部への進達件数は、次のとおりである。

（単位：件）

| 進達<br>区分 | 旧共済法による年金 |      | 新共済法・一元化法による年金       |                          |                          |                    |                    | 計   |
|----------|-----------|------|----------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------|--------------------|-----|
|          | 退職年金      | 障害年金 | 老齢厚生<br>(退職共済)<br>年金 | 老齢厚生<br>(退職共済)<br>年金(特別) | 老齢厚生<br>(退職共済)<br>年金(繰上) | 障害厚生<br>(共済)<br>年金 | 遺族厚生<br>(共済)<br>年金 |     |
| 決定請求     | 0         | 0    | 120                  | 173                      | 6                        | 13                 | 8                  | 320 |
| 改定請求     | 0         | 0    | 80                   | 39                       | 0                        | 0                  | 0                  | 119 |

#### (2) 支給人員及び支給額

老齢厚生（退職共済）年金等の令和5年度末現在における支給人員は32,863人で、令和5年度における支給額は、34,773,628千円である。前年度に比較して、人員で1,969人、支給額で103,109千円の増加となっている。

平成27年10月の被用者年金一元化以降は、新たに厚生年金、職域加算額の年金及び年金払い退職給付の年金が決定されることになったが、一人の者に厚生年金と職域加算額の年金など複数の年金受給権が発生することになるため、年金種別ごとの受給者数が増加している。

| 年金種別                       |                  | 受給者数<br>(人) | 平均年金額<br>(円)   | 支給額<br>(円)     |
|----------------------------|------------------|-------------|----------------|----------------|
| 厚生<br>年金                   | 老齢厚生年金           | 5,288       | 1,276,843      | 6,751,945,784  |
|                            | 老齢厚生年金(特別)       | 768         | 1,184,633      | 909,798,144    |
|                            | 障害厚生年金           | 95          | 1,045,175      | 99,291,625     |
|                            | 遺族厚生年金           | 777         | 1,226,742      | 953,178,534    |
|                            | 小計               | 6,928       | —              | 8,714,214,087  |
| 年金<br>払給付                  | 終身退職年金           | 2,216       | 6,365          | 14,104,840     |
|                            | 有期退職年金           | 1,990       | 10,885         | 21,661,150     |
|                            | 公務障害年金           | 0           | 0              | 0              |
|                            | 公務遺族年金           | 0           | 0              | 0              |
|                            | 小計               | 4,206       | —              | 35,765,990     |
| 新共<br>済年<br>金・<br>職域<br>加算 | 退職共済年金(既裁定)      | 8,065       | 1,752,762      | 14,136,025,530 |
|                            | 退職共済年金(職域加算額)    | 5,195       | 232,024        | 1,205,364,680  |
|                            | 退職共済年金(特別・職域加算額) | 749         | 206,999        | 155,042,251    |
|                            | 退職共済年金(追加費用)     | 0           | 0              | 0              |
|                            | 障害共済年金(既裁定)      | 259         | 1,130,616      | 292,829,544    |
|                            | 障害共済年金(職域加算額)    | 57          | 177,877        | 10,138,989     |
|                            | 遺族共済年金(既裁定)      | 2,888       | 1,677,009      | 4,843,201,992  |
|                            | 遺族共済年金(職域加算額)    | 1,990       | 151,399        | 301,284,010    |
|                            | 遺族共済年金(追加費用)     | 1,222       | 1,696,482      | 2,073,101,004  |
| 小計                         | 20,425           | —           | 23,016,988,000 |                |
| 旧共<br>済年<br>金              | 退職年金             | 923         | 2,634,600      | 2,431,735,800  |
|                            | 減額退職年金           | 98          | 2,080,275      | 203,866,950    |
|                            | 通算退職年金           | 4           | 642,329        | 2,569,316      |
|                            | 障害年金             | 28          | 2,052,121      | 57,459,388     |
|                            | 遺族年金             | 251         | 1,239,157      | 311,028,407    |
|                            | 通算遺族年金           | 0           | 0              | 0              |
|                            | 小計               | 1,304       | —              | 3,006,659,861  |
| 合計                         | 32,863           | —           | 34,773,627,938 |                |

- ※ 支給額は平均年金額に受給者数を乗じた額である。
- ※ 受給者数について、1人の者に厚生年金及び職域加算額が裁定された場合はそれぞれ1件の年金受給権が発生するものとして合計している。
- ※ 既裁定とは一元化前に裁定された共済年金であり、職域加算とは一元化後に裁定された厚生年金等の旧職域部分の年金である。
- ※ 追加費用とは一元化後に受給権が発生した共済年金であり、厚生年金保険法が適用される。

### (3) 年金額の改定

年金額の改定は、名目手取り賃金変動率がマイナスで、名目手取り賃金変動率が物価変動率を下回る場合、年金を受給し始める際の年金額(新規裁定年金)、受給中の年金額(既裁定年金)ともに名目手取り賃金変動率を用いることが法律により定められている。

令和5年度年金額については、新規裁定年金は名目手取り賃金変動率(2.8%)を、既裁定年金は物価変動率(2.5%)を用いて改定された。

また、令和5年度のマクロ経済スライドによる調整(▲0.3%)と、令和3年度・令和4年度のマクロ経済スライドの未調整分による調整(▲0.3%)が行われた。

よって、令和5年度の年金額の改定率は、新規裁定者は2.2%、既裁定者は1.9%となった。

## 第12章 福島県教育センター

### 第1節 概要

教育センターは、本県の教育に関する研究と研修を担う機関である。具体的には教育に関する専門的・技術的事項の調査研究、基本研修、職能研修、専門研修からなる教育関係職員の研修、情報教育、教育相談、教育に関する図書及び資料の作成・収集及び活用等、本県教育の向上・発展に寄与するための事業を実施してきた。

また、カリキュラムセンター業務として、学校や教職員及び市町村教育委員会をはじめとする教育機関等を対象に、学校経営を含む教育活動全般について、研究成果・資料・情報を提供するとともに、要請に応じて指導主事の派遣等の支援を行ってきた。

なお、事業概要は、次のとおりである。

#### 1 調査・研究事業

教育センターの使命と役割を自覚し、県教育委員会のシンクタンクとして期待に応えるとともに、本県の教育を推進する上での課題や学校教育の在り方に対応するために、本県学校教育の課題解決に役立つ先導的、実証的な調査・研究を進めてきた。

##### (1) 調査

本県の教育に関する実態や課題を的確に把握するため、客観的で広範囲な基礎データを継続的に収集し分析した。さらに、その調査結果を教育センターでの研究に生かし、各学校や教育機関等へ提供した。

##### (2) 研究

「学校での様々な実践に生かす」視点から、本県の教育課題を具体的に把握し、それらの課題に対処する基礎的・実証的な研究を行った。

研究の推進に当たっては、調査・研究のためのチームを組織し、教育センターの役割と学校現場のニーズに基づく研究とするために、研究協力校、研究協力者を全県的に募り、開かれた研究の実践に努めた。また、調査研究チーム、情報教育チーム、教育相談チームがそれぞれ共同研究を行った。

これらの研究成果は、「教育センターWebサイト」、「研究紀要」、「所報ふくしま『窓』」等に掲載するとともに、令和5年11月22日(水)に実施した「福島県教育研究発表会」(オンライン開催)においても発表し、その成果を各学校や教育機関へ提供した。

#### 2 研修事業

教職員の資質と指導力の向上を図るために、「令和5年度福島県公立学校教職員現職教育計画」に基づいて各種の研修講座を計画した。

基本研修、職能研修(職能研修Ⅰ、職能研修Ⅱ)、専門研修について、令和5年度の実績は次のとおりである。基本研修対象者の増加、専門研修の講座数・充足率の増加により、講座数、受講者数とも増加した。

|        |                   |
|--------|-------------------|
| 講座数    | 84講座              |
| 講座実施数  | 152回              |
| 講座受講者数 | 5,329人(延べ人数)      |
| 講座開設期間 | 令和5年4月4日～令和6年2月8日 |

前年度比

|        |      |
|--------|------|
| 講座数    | 7増   |
| 講座実施数  | 11増  |
| 講座受講者数 | 525増 |

### 3 情報教育事業

情報教育事業では、学習指導要領に対応した研修の充実を図り、「教科指導におけるICT活用」、「児童生徒の情報活用能力の育成」、「校務の情報化」を3つの柱とした「教育の情報化」の推進に向けて取り組んだ。

専門研修では、「校務処理に生かす表計算活用講座」や「授業力向上のためのICT活用実践講座」、「グループウェアで活用するクラウドサービス実践講座」、「適切で責任ある行動力の育成を目指した情報モラル教育講座」を行った。また、基本研修での講義等を通して、「情報モラル教育」及び「教科指導におけるICT活用」の研修の充実を図った。さらに、職能研修では「『学びの変革』に向けたICTの活用」の講義を行い、教育の情報化が円滑かつ確実に実施されるよう努めた。

### 4 教育相談事業

教育相談事業では、児童生徒の教育上の諸課題について来所及び電話で相談を受け、課題の改善・解決を目指した。

主訴別では、来所相談は、不登校、いじめ、友人関係であった。電話相談は学校への不満、不登校に関するものが多かった。

これらの相談については、相談者の話をよく聞き、思いを受け止めるとともに、今後の対応と一緒に考えたり、身近な相談機関を紹介したりした。

また、来所相談では、精神保健指定医や心理判定員などを活用し、効果的で具体的な支援を行った。

### 5 教育図書・資料事業

県内教職員の教育活動に役立つ教育図書及び教育資料の収集・分類・整理に努めた。小・中・義務教育学校の学校要覧・教育課程については、データベース化して教育センターWebサイトに掲載し、検索を可能にした。また、文献資料利用相談への対応並びに貸出し等のサービスを行い、教職員の研修・研究活動を援助した。

教育センター広報誌「所報ふくしま『窓』」第185号、186号及び「研究紀要」第53集を発行した。

## 第2節 調査・研究事業

### 1 調査・研究

令和5年度は、教育センターにおける実施要項に基づき、教育庁より承認を得た調査研究課題について調査研究チーム、情報教育チーム、教育相談チームで取り組んだ。

#### (1) 調査研究チームによる研究

「学び続ける力」を高める学習指導の在り方(第一年次)一指導法の工夫・改善を通して―

すべての児童生徒に必要な資質・能力を育成するために、「一方通行の画一的な授業」からの「学びの変革」を推進し、教育的課題を解決するための学習指導や授業改善のポイントを明らかにしたいと考えた。そこで、「学習負荷のかかる状態・状況においても、自分の知識等を活用したり、協働的に取り組んだり、新たな切り口を考えたりして、あきらめることなく問題の解決や学習のゴールに向かって取り組み、学ぶ価値や意義を見いだすことができる力」を「学び続ける力」と定義し、その高まりにつながる学習指導の在り方を明らかにする研究に取り組んだ。

なお、本研究では、児童生徒の実態等を踏まえた効果的な指導方法を明らかにするため、学習指導の工夫・改善の視点として対話活動に着目した。

#### (成果)

- 児童生徒の「学び続ける力」の実態や課題について、協働的な学びにおける「実践力」と「調整力」、探究的な学びにおける「適応力」と「推進力」の四つの観点で把握できる尺度が作成できた。
- 対話活動の良さを実感できた児童生徒ほど、協働的な学びや探究的な学びに積極的に取り組み、学習を充実させることができた。
- 協働的な学びと探究的な学びを促す対話活動によって、苦手意識や解決の方向性の見えなさ、レディネス不足等の学習負荷を前向きに捉え、主体的な学びとなった。

#### (課題)

- 統計的な数値から、探究的な学びの観点である「適応力」と「推進力」の調査項目について、児童生徒が回答しやすく、教師が調査結果を活用しやすくするための改善が必要である。
- 協働的な学びに対して、探究的な学びの方が調査結果の得点が低い傾向にある。各教科における探究的な学びを充実させることができるような学習の在り方を明らかにする必要がある。

### (2) 情報教育チームによる研究

教育の情報化の推進に向けた1人1台端末活用の在り方ーICT活用スキルの分析を生かした校内研修を通してーICT活用スキルの分析を生かした校内研修の展開と授業構想および検証を通して、教育の情報化の推進に向けた1人1台端末活用の在り方を探った。研究協力校において、ICT推進チームが、教員や児童生徒のICT活用スキルや校内の利活用状況の実態を基に、校内研修を実施した。その結果、研修で身に付けたICT活用スキルを生かした授業実践と端末利活用の視点の広がりにつながった。校内研修を中心に、授業・日常使い・校務での利活用を好循環させていくことで、確実に1人1台端末の活用を進めることができた。

#### (成果)

- 校内研修の在り方と1人1台端末の利活用についての成果は以下のとおりである。
  - ア 校内研修の在り方について
    - ・ 学校管理職のリーダーシップの下、校内体制を構築したことで、推進チームは1人1台端末の利活用状況やICT活用スキルの実態を把握し、それに基づいた有意義な校内研修の展開につながった。また、現職教育部などとの連携を深めることで、校内研修を活性化し、授業・日常使い・校務での利活用のサイクルが好循環した。その結果、教員のICT活用指導力が向上し、授業改善や児童生徒の情報活用能力の育成が図られた。

#### イ 1人1台端末の利活用について

##### (7) 授業での利活用

- ・ ICT活用スキルの調査結果を基に、1人1台端末の活用推進に向けた校内の課題を明確にしたことで、教員一人一人が課題意識を持って校内研修に参加し、研修で学んだ内容を活用して、課題解決に向けた授業実践に取り組むことができた。

##### (4) 日常使いでの利活用

- ・ ICTに関する校内研修や授業での1人1台端末の利活用の積み重ねが、学校行事への端末持参、資料のペーパーレス化、配付物や掲示物への二次元コードの活用など、様々な教育活動の場面で端末が活用されるようになった。これにより、教員や児童生徒の日常使いが促進された。

#### (課題)

- 「令和5年度全国学力・学習状況調査」の結果から、児童生徒の1人1台端末などのICT機器を授業で毎日活用している学校の割合が全国平均を下回っており、十分なICT活用が進んでいない。また、「福島県の情報教育の実態調査」の結果から、「思考を深める学習」や「協働での意見整理」、「協働制作」などの学習場面でICT活用が進んでいない。

### (3) 教育相談チームによる研究

一人一人の成長を促すためのチーム学校での教育相談(第二年度)ー教育相談コーディネーターを軸とした教育相談の実践を通してー

教育相談コーディネーター(以下教育相談Co.という)をチームの要とした、児童生徒一人一人の成長を促すことができるチーム学校での教育相談(以下、協働的な先手型の教育相談)の実現を目指すこととした。第二年度研究では、「チーム学校での教育相談」を「『チーム支援のプロセス』を展開した全教職員による、すべての児童生徒を対象にした先手型の教育相談」と定義した。その上で、年間プログラムの実施を基に、教育相談Co.が教職員の中心的立場となり、「ニーズの把握」、「相談活動の計画・立案」、「校内研修の実施」の三つの職務内容を実践することを通して、チーム支援のプロセスを繰り返し回し、チーム学校での教育相談の充実を図ることとした。

#### (成果)

##### ○ 教育相談Co.の機能

協力校両校の教育相談Co.は、取組についての全教職員での共通理解、活動についてのねらいの共有、成果や課題等の振り返りを行い、それらを次の活動につなげたり、教職員同士をつないだりしてきた。これにより、教職員が同じ理解の下、同じ方向を向いてチーム学校での教育相談を進めることができた。

##### ○ チーム学校での教育相談の充実

三つの職務内容を実践することによって、教育相談Co.が機能し、チーム支援のプロセスを展開させることができた。そして、教育相談Co.が機能し続けることによりチーム支援のプロセスが繰り返し展開し、チーム学校での教育相談の充実が図られた。また、教職員のアンケートからは、児童生徒の成長を実感している姿がうかがえ、児童生徒一人一人の成長を促すことにつながったと考えられる。昨年度からの2年間の研究を通して、協力校の実態に応じた教育相談Co.の実践モデルを示すことができた。

#### (今後の方向性)

教育相談Co.の負担を軽減したり、教育相談Co.以外の教職員にも、この職の役割を理解してもらったりする上で、三つの職務内容を教育相談部など複数のチームで行う実践も提案していきたい。

## 2 長期研究員制度による研究

長期研究員は、年間を通じて各自が研究テーマを設定して計画、実践、評価、まとめを行うこととしている。令和5年度は、13名が研究に取り組み、福島県教育研究発表会では2名が成果を発表した。また、研究結果を『研究紀要』にまとめるとともにWebサイトに掲載した。

## 第3節 研修事業

### 1 研修講座の概要

#### (1) 基本研修

##### ア 初任者研修、新規採用者研修

新任の教員に対し実践の指導力と使命感を養うとともに、幅広い知見を習得する研修である。

- (7) 幼稚園等教諭
- a 園内における研修 (10 日)
  - b 園外における研修 (10 日)
    - 集合研修 (3 日)、地区別研修 (3 日) (各地区)、参観研修 (3 日)、選択研修 (1 日)
- (イ) 小・中学校教諭
- a 校内における研修 (120 時間以上)
  - b 校外における研修 (22 日)
    - (a) 教育センター等における研修 (6 日)
      - 一次研修 (3 日)、二次研修 (3 日)
    - (b) 地区別研修 (16 日)
      - ・地区別研修 A (7 日) (各地区)
        - 一般研修、授業研修、へき地校研修、カウンセリング研修、特別支援学校研修
      - ・地区別研修 B (9 日)
        - (市町村教育委員会、各学校による計画)
          - 研究発表集会等研修、一般研修、社会奉仕体験活動研修、他校種園参観研修
- (ウ) 高等学校教諭
- a 校内における研修 (150 時間以上)
  - b 校外における研修 (22 日)
    - (a) 教育センター研修 (8 日)
      - 基本研修 (2 日)、一次研修 (3 日)、二次研修 (3 日)
    - (b) 教科別研修 (3 日)
      - (教科ごとに初任者配置校を会場として実施)
    - (c) 地区別研修 (11 日)
      - ・地区別研修 A (7 日) (各地区)
        - 一般研修、社会奉仕等体験研修、カウンセリング研修、特別活動等研修、安全教育研修
      - ・地区別研修 B (4 日) (各学校による計画)
        - 特別支援学校研修、他校種及び他校での授業参観等研修
- (エ) 公立学校実習助手  
(高校教育課所管 高等学校初任者研修と合同開催)
- a 校内における研修 (2 日程度)
  - b 校外における研修 (9 日)
    - (a) 基本研修 (2 日)
    - (b) 地区別研修 (7 日) (各地区)
      - 一般研修、社会奉仕等体験研修、カウンセリング研修、特別活動等研修、安全教育研修
- (オ) 養護教諭 (小・中・高・特別支援)
- a 校内における研修 (15 日)
  - b 校外における研修 (14 日)
    - (a) 教育センター等における研修 (6 日)
      - 一次研修 (3 日)、専門領域研修 (2 日)、二次研修 (1 日)
- <小・中学校>
- (b) 地区別研修 (8 日)
    - ・地区別研修 A (6 日) (各地区)
      - 一般研修、カウンセリング研修、特別支援学校研修、学校訪問研修
    - ・地区別研修 B (2 日)
      - (市町村教育委員会、各学校による計画)
        - 一般研修、企業等体験研修
- <高等学校>
- (b) 地区別研修 (8 日)
    - ・地区別研修 A (6 日) (各地区)
      - 一般研修、カウンセリング研修、社会奉仕等体験研修、企業等体験研修
    - ・地区別研修 B (2 日) (各学校による計画)
- 特別支援学校研修、学校訪問研修  
<特別支援学校>
- (b) 特別支援教育センター等における研修 (8 日)
    - ・特別支援教育センター研修 (5 日)
      - (特別支援教育センターによる計画)
        - 基本研修、カウンセリング研修、特別支援学校教育課程研修
    - ・地区別研修 (3 日)
      - (特別支援教育センター、各学校による計画)
        - 企業等体験研修、学校訪問研修
- (カ) 学校栄養職員
- a 学校等内における研修 (15 日)
  - b 学校等外における研修 (13 日)
    - (a) 教育センター等における研修 (6 日)
      - ・一次研修 (共通研修) (3 日)
      - ・専門領域研修 (専門研修) (3 日)
    - (b) 地区別研修 (7 日)
      - ・地区別研修 A (4 日) (各地区)
        - 一般研修、特別支援学校研修、単独校実地研修、共同調理場実地研修
      - ・地区別研修 B (3 日)
        - (市町村教育委員会による計画)
          - 一般研修、他校園参観研修、企業等体験研修
- イ 2 年次教員フォローアップ研修  
初任者研修を修了した教諭に対して、初年度に培った基礎的な力を、日々の教育実践に生きる確かな資質や能力へと高める研修である。
- (7) 小学校・中学校教諭
- a 校内研修 (30 時間以上)
  - b 校外研修 (3 日)
- (イ) 高等学校教諭
- a 校内研修 (30 時間以上)
  - b 校外研修 (3 日)
- (ウ) 公立学校実習助手  
(高校教育課所管 高等学校 2 年次教員フォローアップ研修と合同開催)
- a 校外研修 (2 日)
- ウ 5 年経験者研修  
在職期間が 5 年に達した教職員を対象とし、教科指導や生徒指導等の力量の向上の向上を図るとともに、社会の変化に応じた教育課題等について実践的に学ぶ研修である。
- (7) 小・中学校教諭
- a 校内研修 (5 日)
  - b 校外研修 (3 日)
    - 教育センター等において実施する研修 (3 日)
- (イ) 高等学校教諭
- a 校内研修 (5 日)
  - b 校外研修 (3 日)
    - 教育センター等において実施する研修 (3 日)
- (ウ) 養護教諭 (小・中・高・特別支援)
- a 校内研修 (3 日)
  - b 校外研修 (3 日)
    - 教育センター等において実施する研修 (3 日)
- (エ) 学校栄養職員 (隔年実施、令和 5 年度実施)
- a 校内研修 (2 日)
  - b 校外研修 (2 日)
    - 教育センター等において実施する研修 (2 日)
- エ 中堅教諭等資質向上研修  
在職期間が 10 年に達した教職員を対象とし、10 年の経験を基盤に、教科指導や生徒指導等、職責遂行上必要

な専門的知識・技能等の資質・能力の向上を図るとともに、教科経営、学級・学年経営、校務分掌のリーダーとしての力量の向上を図る研修である。

- (ア) 幼稚園等教諭
  - a 園内研修（7日）
  - b 園外研修（5日）
    - マネジメント研修（2日）、共通研修（1日）（各地区）、社会体験研修（1日）、選択研修（1日）
- (イ) 小・中学校教諭
  - a 校内における研修（15日）
  - b 校外における研修（10日）
    - 共通研修（各地区）（1日）、マネジメント研修（3日）、生徒指導研修（各地区）（1日）、社会体験研修Ⅰ（2日）、選択研修（3日）
- (ウ) 高等学校教諭
  - a 校内における研修（15日）
  - b 校外における研修（10日）
    - 共通研修（1日）、生徒指導研修（1日）、教科指導研修Ⅰ（1日）、教科指導研修Ⅱ（1日）、社会体験研修Ⅰ（2日）、マネジメント研修（1日）、選択研修（3日）
- (エ) 養護教諭（小・中・高・特別支援）
  - a 校内研修（4日）
  - b 校外研修（6日）
    - 共通研修（1日）、専門領域研修（3日）、社会体験研修Ⅰ（1日）、選択研修（1日）
- (オ) 学校栄養職員（隔年実施）
  - a 校内研修（4日）
  - b 校外研修（6日）
    - 共通研修（1日）、専門領域研修（3日）、社会体験研修Ⅰ（1日）、選択研修（1日）

オ 中核教諭研修

教員個々の専門的知識・能力の深化や伸長を図るとともに、学級・学年経営等、全校的視野での教育活動の中核的立場として、広い視野に立った教育実践について力量の向上を図る研修である。

- (ア) 市町村立学校教諭
  - 教育センター（3日）
- (イ) 県立学校教諭
  - 教育センター（3日）
- (ウ) 中核養護教諭研修（隔年実施、令和5年度は実施せず）
  - 教育センター等（3日）
- (エ) 中核学校栄養職員研修（隔年実施、令和5年度実施）
  - 教育センター等（3日）

(2) 職能研修

新任の校長・副校長・教頭・主幹教諭・教務主任に対する職能研修Ⅰ及び学校の教育活動が円滑に展開できるよう担当教員の職責・職能に応じた研修を実施する職能研修Ⅱがある。

ア 職能研修Ⅰ

- (ア) 市町村立学校新任校長・副校長研修会
  - 所属校、教育センター（2日）
- (イ) 県立学校新任校長・副校長研修会
  - 教育センター（2日）

- (ウ) 市町村立学校新任教頭研修会
  - 所属校、教育センター（2日）
- (エ) 県立学校新任教頭研修会
  - 教育センター（2日）
- (オ) 新任主幹教諭研修会
  - 教育センター（1日）
- (カ) 新任教務主任研修会（小・中・高・特別支援）
  - 各地区（1日）（関係教育事務所または各中核市教育委員会による計画）

イ 職能研修Ⅱ

- (ア) 複式指導（国語・算数）担当教員研修会
  - 教育センター（2日）
- (イ) 免許外教科担任教員研修会
  - 所属校、教育センター（2日）
- (ウ) 校長のためのマネジメント講座
  - 所属校、教育センター（2日）
- (エ) 教頭のためのマネジメント講座
  - 所属校、教育センター（2日）
- (オ) 小・中学校におけるキャリア教育実践講座
  - 教育センター（1日）

(3) 専門研修

個に即応した指導力の向上を図るために、教科教育系、教育相談系、情報教育系、教科外教育系の4つの系統にわけて各研修講座を設けている。

2 研修講座

(1) 令和5年度研修講座数・受講者数

ア 基本研修

|        | 基本研修  |     |     |     |     | 計     |
|--------|-------|-----|-----|-----|-----|-------|
|        | 初任研   | 2年次 | 5年研 | 中堅研 | 中核研 |       |
| 講座数    | 6     | 3   | 5   | 5   | 3   | 22    |
| (延べ数)  | 52    | 5   | 8   | 21  | 5   | 91    |
| 延べ受講者数 | 2,464 | 239 | 200 | 715 | 87  | 3,705 |

イ 職能研修

|        | 職能研修  |       | 計   |
|--------|-------|-------|-----|
|        | 職能研修Ⅰ | 職能研修Ⅱ |     |
| 講座数    | 5     | 5     | 10  |
| (延べ数)  | 7     | 5     | 12  |
| 延べ受講者数 | 246   | 238   | 484 |

ウ 専門研修

|        | 専門研修 | 計    |
|--------|------|------|
| 講座数    | 52   | 52   |
| (延べ数)  | 52   | 52   |
| 延べ受講者数 | 1140 | 1140 |

エ 総計

|        | 基本研修  | 職能研修 | 専門研修 | 計     |
|--------|-------|------|------|-------|
| 講座数    | 22    | 10   | 52   | 84    |
| (延べ数)  | 91    | 12   | 52   | 155   |
| 延べ受講者数 | 3,705 | 484  | 1140 | 5,329 |

## (2) 令和5年度研修講座実施状況

## ア 基本研修

| 講座名                | 会場              | 期日              | 受講者数             |     |
|--------------------|-----------------|-----------------|------------------|-----|
| 初任者研修              | 幼稚園等            | 所属園、教育センター      | 7月5日、8月17日～18日   | 77  |
|                    | 小学校             | 所属校、国立磐梯青少年交流の家 | 5月16日～17日、30日    | 369 |
|                    |                 |                 | 5月16日～17日、31日    |     |
|                    |                 | 所属校、教育センター      | 7月21日、8月1日、9月14日 |     |
|                    |                 |                 | 7月21日、8月2日、9月19日 |     |
|                    |                 |                 | 7月21日、8月3日、9月26日 |     |
|                    | 中学校             | 所属校、国立磐梯青少年交流の家 | 5月16日～17日、30日    | 167 |
|                    |                 | 所属校、教育センター      | 7月26日～27日、9月6日   |     |
|                    |                 |                 | 7月26日、28日、9月7日   |     |
|                    | 高等学校            | 所属校、教育センター      | 4月4日～5日          | 114 |
|                    |                 | 所属校、教育センター      | 4月18日～19日、26日    |     |
|                    |                 | 所属校、教育センター      | 1月31日、2月7日～8日    |     |
|                    | 養護教諭            | 所属校、国立磐梯青少年交流の家 | 5月16日～17日、31日    | 12  |
|                    |                 | 所属校、教育センター      | 8月3日～4日          |     |
| 教育センター             |                 | 2月6日            |                  |     |
| 栄養職員               | 所属校、国立磐梯青少年交流の家 | 5月16日～17日、31日   | 3                |     |
|                    | 所属校、教育センター      | 8月29日～31日       |                  |     |
| 地区別研修              | 各地区で開催          | 各地区で定めた日程       | 1699             |     |
| 2年次教員<br>フォローアップ研修 | 小学校             | 教育センター          | 6月14日、30日        | 103 |
|                    | 中学校             | 教育センター          | 6月29日            | 65  |
|                    | 高等学校            | 教育センター          | 7月3日             | 38  |
|                    | 地区別研修           | 各地区で開催          | 各地区で定めた日程        | 34  |
| 5年経験者研修            | 小学校             | 所属校、教育センター      | 6月6日～7日、8月18日    | 85  |
|                    |                 | 所属校、教育センター      | 6月6日、8日、8月29日    |     |
|                    | 中学校             | 所属校、教育センター      | 9月8日、10月4日、18日   | 40  |
|                    |                 | 所属校、教育センター      | 9月15日、10月17日～18日 |     |
|                    | 高等学校            | 所属校、教育センター      | 9月8日、10月4日、18日   | 47  |
|                    |                 | 所属校、教育センター      | 9月15日、10月17日～18日 |     |
|                    | 養護教諭            | 所属校、教育センター      | 11月8日～10日        | 22  |
|                    | 学校栄養職員          | 所属校、教育センター      | 9月20日～21日        | 6   |
| 中堅教諭等<br>資質向上研修    | 幼稚園等            | 所属園、教育センター      | 6月22日～23日        | 18  |
|                    | 小学校             | 所属校、教育センター      | 6月19日～20日、10月3日  | 53  |
|                    | 中学校             | 所属校、教育センター      | 6月27日、9月28日～29日  | 29  |
|                    | 高等学校            | 所属校             | 4月12日            | 329 |
|                    |                 | 教育センター          | 6月16日            |     |
|                    |                 | 教育センター          | 7月4日             |     |
|                    |                 | 教育センター          | 7月10日            |     |
|                    | 教育センター          | 2月2日            |                  |     |
|                    | 養護教諭            | 所属校、教育センター      | 7月31日～8月2日       | 16  |
|                    | 学校栄養職員          | 所属校、教育センター      | 令和5年度は実施せず       | —   |
| 地区別研修              | 各地区で開催          | 各地区で定めた日程       | 268              |     |
| 中核教諭研修             | 小・中・特支          | 教育センター          | 10月11日～13日       | 29  |
|                    | 県立学校            | 教育センター          | 10月25日～27日       | 42  |
|                    | 養護教諭            | 所属校、教育センター      | 令和5年度は実施せず       | —   |
|                    | 学校栄養職員          | 所属校、教育センター      | 9月12日～14日        | 2   |

イ 職能研修

| 講 座 名     |                     | 期 日                     | 受講者数 |
|-----------|---------------------|-------------------------|------|
| 職能研修Ⅰ     | 市町村立学校新任校長・副校長研修会   | 4月24日～25日               | 61   |
|           |                     | 4月24日、26日               | 32   |
|           | 県立学校新任校長・副校長研修会     | 5月9日、10日                | 11   |
|           | 市町村立学校新任教頭研修会       | 4月27日～28日               | 61   |
|           |                     | 4月27日、5月12日             | 42   |
|           | 県立学校新任教頭研修会         | 5月11日～12日               | 15   |
|           | 新任主幹教諭研修会           | 5月23日                   | 24   |
| 新任教務主任研修会 | 各教育事務所の日程           | 91                      |      |
| 職能研修Ⅱ     | 複式指導（国語・算数）担当教員研修会  | 5月30日                   | 27   |
|           | 免許外教科担任教員研修会        | 5月17日～19日、<br>5月22日～26日 | 66   |
|           | 校長のためのマネジメント講座      | 6月8日～6月9日               | 56   |
|           | 教頭のためのマネジメント講座      | 8月31日、9月1日              | 59   |
|           | 小・中学校におけるキャリア教育実践講座 | 9月4日                    | 30   |

ウ 専門研修

| 講 座 名 |                                       | 期 日                    | 受講者数 |
|-------|---------------------------------------|------------------------|------|
| 教科教育系 | 「言葉による見方・考え方」を働かせ、深い学びを実現する小学校国語講座    | 9月4日                   | 21   |
|       | 「言葉による見方・考え方」を働かせ、深い学びを実現する中学校国語講座    | 7月13日                  | 13   |
|       | 授業改善に結び付く国語科の評価問題作成・研究講座              | 8月7日～8日                | 11   |
|       | 主体的・対話的で深い学びのための言語活動を構想する国語科授業づくり講座   | 10月5日～6日               | 11   |
|       | 地域素材の教材化を通して授業が楽しくなる社会科講座             | 7月21日、24日              | 13   |
|       | 地理歴史科における地理総合・歴史総合の授業づくり講座            | 8月22日                  | 11   |
|       | 社会科・地理歴史科・公民科における社会に参画する力を育成する授業づくり講座 | 9月4日                   | 12   |
|       | 算数科「数学的活動の充実を図る授業づくり」講座（Ⅰ班）           | 8月4日、7日                | 17   |
|       | 算数科「数学的活動の充実を図る授業づくり」講座（Ⅱ班）           | 8月4日、8日                | 14   |
|       | 教える授業から子どもが学ぶ授業に変わる数学科授業改善講座          | 11月24日                 | 18   |
|       | 観点別学習状況の評価に対応する高等学校数学科単元・授業づくり講座      | 8月28日                  | 16   |
|       | 新課程に対応した高等学校数学科統計授業づくり講座              | 10月2日                  | 12   |
|       | 子どもが目を輝かせて学びを進める理科授業づくり講座             | 8月10日                  | 12   |
|       | 見方・考え方を豊かにする中学校理科教材づくり講座              | 8月9日                   | 10   |
|       | 科学的に探究する力を育成する理科授業づくり講座               | 7月20日                  | 10   |
|       | 高等学校理科観察・実験講座                         | 7月13日、8月7日             | 19   |
|       | 主体的に表現する児童を育てる小学校外国語講座                | 11月2日                  | 24   |
|       | 観点別学習状況の評価のためのパフォーマンス評価実践講座           | 7月13日、9月29日            | 10   |
|       | 思考力、判断力、表現力を育成するための英語授業づくり実践講座        | 10月2日                  | 18   |
|       | 英語教員のための英語スキル向上研修                     | 8月4日、10月16日、<br>11月24日 | 12   |
|       | ICTで変わる音楽の授業づくり講座(小学校編)               | 11月1日                  | 15   |
|       | ICTで変わる音楽の授業づくり講座(中学・高等学校編)           | 11月13日                 | 18   |
|       | 児童・生徒が音楽を好きになる！歌唱指導法講座                | 11月8日                  | 16   |
|       | 思考力・判断力・表現力を育む器楽指導法講座（ギター編）           | 10月19日                 | 12   |
|       | 楽しみながら力を伸ばす図画工作科指導法講座                 | 10月24日                 | 12   |
|       | 創造性を育む図画工作・美術の鑑賞指導法講座                 | 11月1日                  | 12   |
|       | 創造性を育む美術の表現指導法講座                      | 10月12日～13日             | 12   |

|        | 講座名                                         | 期日        | 受講者数 |
|--------|---------------------------------------------|-----------|------|
| 教科教育系  | 発想と技法を学ぶ書道実技講座                              | 10月27日    | 10   |
|        | 運動が苦手な児童生徒のための体育指導講座                        | 8月9日      | 27   |
|        | 1人1台端末を活用した保健体育の授業づくり講座                     | 11月10日    | 20   |
|        | 実践力を高める技術科講座（情報・エネルギー変換編）                   | 8月10日、22日 | 8    |
|        | 家庭科の指導力向上をめざす基礎・基本講座（被服編）                   | 8月9日      | 10   |
|        | 保育に関する指導の充実をめざす家庭科講座                        | 11月9日～10日 | 8    |
|        | 問題の発見・解決に向かうプログラミング指導講座（Python・JavaScript編） | 7月28日     | 81   |
|        | 子どもの成長を見取り評価に生かす小学校道徳科講座                    | 7月14日     | 14   |
|        | 子どもの成長を見取り評価に生かす中学校道徳科講座                    | 10月19日    | 14   |
| 教育相談系  | 学校教育相談基本講座                                  | 8月8日      | 39   |
|        | 学校が変わる！解決志向で取り組む教育相談実践講座                    | 11月13日    | 20   |
|        | 人間関係づくりに生かす予防・開発的教育相談講座                     | 9月5日      | 42   |
|        | スマホ時代のいじめの理解と対応講座                           | 10月16日    | 38   |
|        | 不登校の理解と対応講座                                 | 9月27日     | 48   |
| 情報教育系  | 校務処理に生かす表計算活用講座                             | 10月24日    | 30   |
|        | 授業力向上のためのICT活用実践講座（義務系）                     | 11月6日     | 32   |
|        | 授業力向上のためのICT活用実践講座（高等学校系）                   | 10月31日    | 29   |
|        | グループウェアで活用するクラウドサービス実践講座                    | 7月21日     | 28   |
| 教科外教育系 | 子どもたちが支え合い、高め合う学級をつくる学級活動講座                 | 7月21日     | 37   |
|        | 放射線・防災教育指導力向上講座                             | 8月4日      | 17   |
|        | 児童・生徒が自己の生き方を考えていく総合的な学習・探究の時間授業づくり講座       | 12月1日     | 36   |
|        | 小学校プログラミング教育を取り入れた授業づくり講座                   | 8月28日     | 19   |
|        | 適切で責任ある行動力の育成を目指した情報モラル教育講座                 | 7月27日     | 22   |
|        | 養護教諭のための指導力向上講座（救急処置編）                      | 8月22日     | 48   |
|        | 養護教諭のための指導力向上講座（保健教育編）                      | 11月17日    | 30   |

### 3 指導主事派遣等

令和5年度の指導主事派遣の概要は次のとおりである。

（ ）内は昨年度比。「出前講座」での指導主事派遣件数は、指導主事派遣件数に含む。

|          |           |
|----------|-----------|
| 指導主事派遣件数 | 80件（29件減） |
| （内訳）小学校  | 16件（9件減）  |
| 中学校      | 9件（1件増）   |
| 高等学校     | 8件（2件減）   |
| 教育委員会等   | 9件（6件減）   |
| 各種教育団体等  | 38件（13件減） |

「出前講座」での指導主事派遣件数 30件

|         |     |
|---------|-----|
| （内訳）小学校 | 13件 |
| 中学校     | 4件  |
| 高等学校    | 4件  |
| 教育委員会等  | 4件  |
| 各種教育団体等 | 5件  |

### 第4節 情報教育事業

#### 研修講座の概要

小・中・高等学校・特別支援学校の情報教育に関する教員研修（専門研修）の概要は以下のとおりである。

#### 1 ネットワークを活用するための講座（小・中・高・特支）

グループウェアで活用するクラウドサービス実践講座

#### 2 授業実践講座（小・中・高・特支）

(1) 授業力向上のためのICT活用実践講座

(2) 適切で責任ある行動力の育成を目指した情報モラル講座

#### 3 校務の効率化を目指す講座（小・中・高・特支）

校務処理に生かす表計算活用講座

基本研修においては、国や県の情報教育の施策に基づき情報教育の意義や重要性を強調し、また、個人情報の扱いや情報セキュリティについても、その重要性・緊急性に言及した。

自主講座においては、6月3日に「基礎から学ぶクラウドサービス入門講座」を実施し、各地から28名の参加を得た。また、8月5日に一般社団法人「福島県情報産業協会」と連携し「子どものためのロボットワークショップ」実施し、県内の中学生及び小学6年生とその保護者18名の参加を得た。

## 第5節 教育相談

教育相談チームでは、来所及び電話による教育相談を受けている。令和5年度の来所相談・電話相談の概要は、以下のとおりである。

### 1 対象別

来所相談件数・電話相談回数

※ 対象の区分は、誰についての相談内容かで分けたものである。来所相談日数は117日、電話相談日数は245日であった。

| 種別       | 対象       |   |     |     |     |    |    | 計   |
|----------|----------|---|-----|-----|-----|----|----|-----|
|          | 来所<br>相談 | 幼 | 小   | 中   | 高   | 一般 | 教員 |     |
| 来所       | 件数       | 0 | 0   | 2   | 2   | 0  | 0  | 4   |
| 相談       | 人数       | 0 | 0   | 3   | 4   | 0  | 0  | 7   |
| 電話<br>相談 | 回数       | 0 | 104 | 104 | 105 | 64 | 0  | 377 |

### 2 区分別

来所相談件数・電話相談回数

※ 対象の区分で数値の高い「性格行動」には「不登校」の相談、「教育一般」には「いじめ」、「学校への不満」の相談が含まれる。

| 種別       | 対象 | 知能 | 性格  | 身体 | 進路 | 教育  | その | 計   |
|----------|----|----|-----|----|----|-----|----|-----|
|          |    | 学業 | 行動  | 神経 | 適性 | 一般  | 他  |     |
| 来所       | 件数 | 0  | 2   | 0  | 0  | 2   | 0  | 4   |
| 相談       | 人数 | 0  | 4   | 0  | 0  | 3   | 0  | 7   |
| 電話<br>相談 | 回数 | 4  | 102 | 1  | 8  | 174 | 88 | 377 |

### 3 地区別来所相談件数

| 県北 | 県中 | 県南 | 会津 | 南会津 | 相双 | いわき | 県外 | 計 |
|----|----|----|----|-----|----|-----|----|---|
| 2  | 2  | 0  | 0  | 0   | 0  | 0   | 0  | 4 |

### 4 月別相談件数・回数

| 種別   | 月  | 4        | 5  | 6  | 7  | 8  | 9  | 10 | 11 | 12 | 1  | 2  | 3  | 計   |
|------|----|----------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|
|      |    | 来所<br>相談 | 件数 | 0  | 0  | 2  | 0  | 0  | 0  | 0  | 1  | 0  | 0  |     |
| 相談   | 人数 | 0        | 0  | 4  | 0  | 0  | 0  | 0  | 1  | 0  | 0  | 2  | 0  | 7   |
| 電話相談 |    | 31       | 31 | 42 | 31 | 21 | 41 | 35 | 31 | 30 | 35 | 29 | 20 | 377 |

## 第6節 教育図書・資料事業

全国各教育研究機関から送付された研究紀要や資料及び県内各学校から寄せられた研究資料を収集、整理・保管し、レファレンスサービスを行っている。所の研究成果を普及するため、研究紀要や「所報ふくしま『窓』」を刊行した。

### 1 教育図書・教育資料の収集

|            |     |
|------------|-----|
| 教育図書購入冊数   | 35冊 |
| 定期刊行図書購入冊数 | 24冊 |
| 研究紀要等寄贈冊数  | 93冊 |
| 恵贈定期刊行物数   | 23冊 |

### 2 教育資料の刊行

|           |             |
|-----------|-------------|
| 研究紀要      | 第53集        |
| 所報ふくしま「窓」 | 第185号～第186号 |

### 付記

平成16年度より、教育センターにおいて、指導が不適切である教員等に対して長期特別研修を開始し、平成20年度から「指導が不適切である教員等の取扱いに関する要綱」に基づき、指導改善研修を実施している。令和5年度は研修者なし。

# 第13章 福島県特別支援教育センター

## 第1節 概要

昭和61年の開所以来、関係機関と連携協力しながら、教育相談、教職員の研修、調査・教育研究、図書・資料の収集と情報提供、広報・啓発等の事業を行ってきた。

今年度は、第7次福島県総合教育計画に基づき、早期からの教育的支援、小・中学校及び高等学校等に在籍する発達障がいを含む特別な支援を必要とする児童生徒等への支援、特別支援学校の専門性の向上と特別支援教育におけるセンターの機能の充実に向けた支援、関係機関との連携等の充実に努めてきた。

### 1 教育相談事業

障がい等の心配のある乳幼児・児童生徒に関する教育相談機関として、本人、保護者（家族）、保育所・幼稚園、小・中学校及び高等学校、特別支援学校関係者、教育委員会等からの依頼に応じ、疑問や悩みを一緒に話し合い、特別支援教育の専門的観点からの相談を行った。相談者の心情に寄り添い、相談を通して、子どもへの適切な支援策や指導法について共に見つけだすようにした。また、面接、行動観察等を行い、関係機関との連携を図りながら専門的・総合的観点からの相談を進めた。

センターでの相談受理件数は137件（昨年度比87.3%）、延べ件数は527件（昨年度比70.2%）であった。障がい種別による相談実件数では、発達障がいの相談が最も多く54.0%、続いてその他（医師による診断のない者）が29.2%であった。これらを合わせると実件数の83.2%を占めている。知的障がいに関する相談は約11.7%であり、合わせると実件数全体の94.9%を占める。相談者は、本人、保護者、教員、関係機関等である。

その他、学校等のニーズに応じて学校・地域等に出向き、支援を必要としている子どもに対し、教職員が適切な支援と指導が行えるよう必要な支援や助言、ケース検討会、校内研修会等の開催・運営等への支援を行った。さらに、地域における教育相談機能の質的向上を図るため、学校等と保健福祉の関係機関、教育委員会、教育事務所、医療機関等との適切な連携を支援し、地域の支援体制の整備を進めた。

### 2 教職員研修事業

教職員の資質と指導力の向上を図るために、「令和5年度福島県公立学校教職員現職計画」に基づいて各種の研修講座を計画した。

特別支援学校の基本研修においては、初任者研修、2年次教員フォローアップ研修、5年経験者研修・中堅教諭等資質向上研修と教職経験年数に応じて、基礎的・基本的な事項を中心とした研修や教員の専門的な知識・能力の深化と授業力・職務遂行能力の向上を図る研修、実践的授業能力の向上と

職務を遂行する上で必要とされる資質・能力の育成を図る研修など、教職経験と一人一人の課題に応じた指導力の向上を目指した研修等を実施した。また、小・中学校や高等学校、特別支援学校等の教員を対象とする職能研修では、特別支援学級等新任担当教員研修会や特別支援教育コーディネーター研修会など、教員一人一人の職責・職能に応じた教育活動に求められる資質・力量の向上を目指した研修を行った。さらに、専門研修の各講座では、特別な支援を必要とする幼児児童生徒の基礎的な理解と対応、各教科の指導の充実につながる研修を行うなど社会の変化に対応し、複雑化・多様化する教育課程に応じた各種講座を設け実施した。

基本研修の受講者総数は延べ417名（初任者研修、2年次教員フォローアップ研修、5年経験者研修、中堅教諭等資質向上研修）であった。職能研修の受講者総数は延べ567名（特別支援学級等新任担当教員研修会、特別支援学級担当教員（経験3年）研修会、小・中学校特別支援教育コーディネーター研修会、高等学校特別支援教育コーディネーター研修会、特別支援学校特別支援教育コーディネーター研修会、特別支援学校教務主任・学部主事研修会、特別支援学校養護教諭研修会、通級指導教室担当教員研修会）であった。そして、専門研修講座（16講座）については、受講者総数は延べ478名であった。また、研修の機会を広く提供する公開講座（7講座）の聴講者総数は235名であった。

### 3 調査研究・教育研究事業

本県が当面している特別支援教育の今日的課題及び学校における教育実践上の具体的課題解決に向けて、以下の研究等を行った。

#### (1) 調査研究

「小・中学校、高等学校における特別支援教育の充実にに向けた研修の在り方～特別支援教育の資質・能力を育成するために必要な研修内容・研修体系の再考～（一年次）」

我が国では障がいの有無に関わらず、誰もがその能力を発揮し、社会の一員として共に認め合い、支え合い、誇りをもって生きられる「共生社会」の構築を目指している。そのためには、特別支援教育の充実が求められ、管理職を含む全ての教員の特別支援教育に関する専門性の向上が不可欠である。

そこで、令和5～7年度の調査研究として、特別支援教育の資質・能力を育成するために必要な研修内容・研修体系について捉え直すことを通じて、小・中学校、高等学校における特別支援教育の充実にに向けた研修の在り方を追究することとした。なお、本研究は文部科学省実施「発達障害のある児童生徒等に対する支援事業（管理職をはじめとする教員の理解啓発・専門性向上のための体制構築事業）」の一環として実施したものである。

令和5年度は、小・中学校、高等学校における特別支援

教育に関する研修の実施状況や研修ニーズ、課題、教員の意識・考え方等のアンケート調査を実施し、分析した結果と小・中学校（義務教育学校を含む）、高等学校における教員の特別支援教育に関する取組状況、研修の実施状況や内容、研修の受講状況等について調査し、研修ニーズや課題等を把握した。また、分析結果と「校長及び教員としての資質の向上に関する指標【第2版】」の記載事項に基づき管理職を含む全ての教員に求められる特別支援教育に関する資質・能力についての整理と研修体系表（試案）の作成を行った。

## (2) 教育研究

「特別支援学校高等部における自立と社会参加につなげる自立活動の指導の在り方～生徒が学習の意義を理解して、主体的に学ぶ姿を目指した実践研究～（一年次）」

自立活動は、特別支援学校の教育課程に特別に設けられた指導領域であり、個々の幼児児童生徒が自立を目指し、障がいによる学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服することを目的としている。小・中学校の特別支援学級や、小・中学校、高等学校の通級による指導でも取り入れられており、障がいのある児童生徒にとって、自立と社会参加に向けた重要な学習となっている。

自立活動の指導は、特別支援学校の教員に求められる専門性の一つであり、これまでも、各特別支援学校でその充実に努めてきた。しかし、より一層充実させるためには、本人が学ぶ意義を理解し、主体的に取り組むことができる自立活動を目指す必要があると考える。

そこで、令和5・6年度の教育研究として、自立と社会参加に向けて生徒自身が学習の意義を理解し、主体的に学ぶ姿を目指した自立活動の実践研究を行い、指導の経過や成果をまとめることで、自立活動の指導の充実を目指している。

令和5年度は、聴覚支援学校（高等学校に準ずる教育課程）とたむら支援学校（知的障がいの教育課程）の2校を研究協力校とし、各校より高等部生徒2名を対象生徒として抽出し、①生徒一人一人に応じた自立活動の指導内容の設定方法（流れ図作成）、②生徒が学習の意義を理解し、主体的に学ぶための自立活動の指導方法について検討した。

研究協力校の実践から、自立活動の指導をより一層充実させるために必要なこととして、①「個別の指導計画は、生徒の学ぶ姿を通して見直し、妥当性のあるものにしていくこと」、②「生徒と『目指す姿』を共有し、それに向けた学習を、生徒と対話しながら決めていくこと」の2点に整理された。

## 4 教育図書・資料の収集・提供事業

本県特別支援教育の中心的施設としての機能の充実を目指して広く特別支援教育関係図書・資料の収集に努め、関係教職員等が活用できるよう、整備・充実を図った。

本年度も特別支援教育の指導に関する図書の充実と教育資料の収集、Webサイトによる紹介等を推進した。

なお、3月末日現在での特別支援教育関係図書の蔵書数は7,926冊、定期刊行物6種、教育資料数5,294点である。

## 5 広報・啓発事業

特別支援教育に関する情報及び資料、並びに本センターの事業内容を広報誌や各種発行物として関係諸機関等に配付し、特別支援教育に対する啓発や理解推進を図った。併せて、事業内容を多くの方々に伝えるため、Webサイトでも情報提供に努めた。

## 6 情報教育事業

専門研修講座を中心に、GIGAスクール構想の実現を踏まえた特別支援教育におけるICT活用に関する研修の企画運営を行った。障がいのある児童生徒の自立と社会参加に向けた学びの充実を図るためのICT活用を推進できるよう努めた。

## 第2節 教育相談事業

### 1 教育相談対象

教育相談は、障がいのある、またはその心配のある乳幼児、児童、生徒及びその保護者や関係者を対象として実施した。教育相談の障がい種別は次のとおりである。

- 視覚障がいにかかわる教育相談
- 聴覚障がいにかかわる教育相談
- 知的障がいにかかわる教育相談
- 肢体不自由にかかわる教育相談
- 病弱・身体虚弱にかかわる教育相談
- 言語障がいにかかわる教育相談
- 情緒障がい（場面緘黙等）にかかわる教育相談
- 発達障がいにかかわる教育相談
- その他（医師による診断のない者）の教育相談

### 2 形態

#### (1) センターでの教育相談

電話での申込みにより、来所日時をあらかじめ調整し、新型コロナウイルス感染症防止に努めながら、相談者の来所による教育相談を行った。また、教育相談の内容等によっては電話のみによる教育相談も行った。

#### (2) 要請を受けての学校・地域支援

困難な事例や特に必要な場合には保育所・幼稚園、認定こども園、小・中学校、義務教育学校、高等学校、特別支援学校から支援要請を受けて学校等に出向き、現地においての授業参観やケース会議を通しての教育相談を行った。

### 3 現状と課題

本センターでは、「相談者の思いや願いに寄り添い、健やかな成長を促す教育相談」の方針のもと、障がい等の心配のある乳幼児から高等学校までの生徒と、その保護者・教員等を

対象とした教育相談を実施している。

教育相談においては、「主体は本人であり、本人のを中心に話をし合うこと」を大切にしている。「傾聴・受容・共感に基づく対話」を基本とし、本人と対話を重ねることで信頼関係を構築し、その中で本人の思いや願いを丁寧に聞き、得られた情報から状況や課題を整理したり、リフレーミングしたりしてきた。

教育相談の主訴は、幼児については、養育及び就学に関する主訴が多い。小学生から高校生については、学校生活や学習面の対応、不登校に関する主訴が多く、教員が本人の特性等を理解せず、必要な支援を提供していないことによる「登校しぶり」「不登校」の教育相談や、「障がい特性に応じた支援内容の提供」についての教育相談がある。子どもが困難さを感じている背景・要因を探り、本人の意思を尊重しながら、必要な支援内容を整理している。

「不登校」や「障がい特性に応じた支援内容の提供」の教育相談は長期化する傾向にあるが、時間をかけて丁寧に教育相談を重ねることで、本人及び保護者、学校の気づきや理解が進み、状況が改善される傾向にある。また、本人が、できていることやがんばっていること、自分の考え方の傾向や周囲の人の多様な考え方を知り、自分はどのようになりたいか、困難な場面でどのように対応するとよいかなどの自己理解を促す教育相談も重ねている。そのことを保護者や学校と共有することも大切にしている。

本センターの教育相談においては、保護者、学校、地域等の組織とともに、本人の困難さの背景・要因を推察し、支援内容等を検討するケース会議も実施している。今後、学校が本人を支えるための校内体制を整備していくために、地域等の組織がどのように関与していけばよいか、さらに検討していく必要がある。

<年齢・学校別相談件数>

| 年齢・学校      |     | 乳幼児(歳) |    | 小学校(学年) |    |    |    |    |    | 中学校(学年) |    |    | 高等学校(学年) |   |    | 一般他 | 計   |
|------------|-----|--------|----|---------|----|----|----|----|----|---------|----|----|----------|---|----|-----|-----|
|            |     | 0~4    | 5  | 1       | 2  | 3  | 4  | 5  | 6  | 1       | 2  | 3  | 1        | 2 | 3  |     |     |
| センター<br>相談 | 実件数 | 7      | 4  | 9       | 14 | 11 | 15 | 9  | 18 | 12      | 11 | 7  | 10       | 4 | 3  | 3   | 137 |
|            | 延件数 | 18     | 11 | 21      | 46 | 63 | 68 | 25 | 54 | 58      | 78 | 26 | 32       | 9 | 10 | 8   | 527 |

<障がい種別相談件数>

| 障がい種       |     | 視覚障がい | 聴覚障がい | 知的障がい | 肢体不自由 | 病弱<br>虚弱 | 言語障がい | 情緒障がい | 発達障がい | その他 | 計   |
|------------|-----|-------|-------|-------|-------|----------|-------|-------|-------|-----|-----|
| センター<br>相談 | 実件数 | 1     | 2     | 16    | 2     | 0        | 2     | 0     | 74    | 40  | 137 |
|            | 延件数 | 8     | 7     | 53    | 4     | 0        | 2     | 0     | 357   | 96  | 527 |

<地区別相談件数>

| 地区  | 県北  | 県中  | 県南 | 会津 | 南会津 | 相双 | いわき | その他 | 計   |
|-----|-----|-----|----|----|-----|----|-----|-----|-----|
| 延件数 | 189 | 282 | 15 | 14 | 1   | 3  | 19  | 4   | 527 |

### 第3節 教職員研修事業

受講者の資質、指導力、専門性の向上を目指し、講座内容の一層の充実を図った。

- 専門研修講座を16講座設け、そのうち7講座を公開講座とし、受講者のニーズに応えるようにした。
- 講義、演習、協議という流れで進めることで、理論から実践へ内容を展開することができ、研修者の理解を深めることができた。演習での話し合い活動や協議では、新型コロナウイルス感染防止に配慮し、受講者同士の間隔を密にならないよう工夫して実施した。

- 特別支援教育に関する県内外の専門家や各学校で先進的な実践をしている教員などを招へいして、新たな知見を広げたり具体的な実践に触れたりする機会の充実を図った。
- 調査研究や教育研究等の成果を基にして、特別支援教育に関する専門的知識・技能の習得とともに、真摯に実践に取り組む資質の向上に努めた。

#### 1 教職員の研修講座

**(1) 基本研修**

| 研 修 名                       | 期日及び期間                            | 受講者数(人) |
|-----------------------------|-----------------------------------|---------|
| 特別支援学校初任者研修一般研修             | 4月12日～13日                         | 47      |
| 特別支援学校初任者研修カウンセリング研修        | 6月7日～8日                           | 44      |
| 特別支援学校初任者研修宿泊一次研修           | 7月25日～27日                         | 40      |
| 特別支援学校初任者研修教育課程別研修          | 9月6日                              | 41      |
| 特別支援学校初任者研修学部別研修            | 11月8日                             | 39      |
| 特別支援学校初任者研修宿泊二次研修           | 1月31日～2月2日                        | 39      |
| 特別支援学校2年次教員フォローアップ研修教科等指導研修 | 8月17日                             | 35      |
| 特別支援学校5年経験者研修               | 6月9・12・13日(1班)<br>6月14・15・16日(2班) | 46      |
| 特別支援学校中堅教諭等資質向上研修 共通研修      | 6月20日～22日<br>6月27日～29日            | 43      |
| 特別支援学校中堅教諭等資質向上研修 教科等指導研修   | 1月10日～11日<br>1月18日～19日            | 43      |
| 計                           |                                   | 417     |

**(2) 職能研修**

| 研 修 名                   | 期日及び期間               | 受講者数(人)    |
|-------------------------|----------------------|------------|
| 特別支援学級等新任担当教員研修会        | (共通) 4月<br>(地区別) 10月 | 144<br>105 |
| 特別支援学級担当教員(経験三年)研修会     | (地区別) 8月             | 45         |
| 小・中学校特別支援教育コーディネーター研修会  | (地区別) 5月             | 124        |
| 高等学校特別支援教育コーディネーター研修会   | 5月11日                | 43         |
| 特別支援学校特別支援教育コーディネーター研修会 | 5月10日                | 25         |
| 特別支援学校養護教諭研修会           | 8月1日                 | 18         |
| 通級指導教室担当教員研修会           | 7月11日                | 37         |
| 特別支援学校教務主任・学部主事研修会      | 6月1日                 | 26         |
| 計                       |                      | 567        |

**(3) 専門研修**

| 講 座 名                                                  | 期日及び期間 | 受講者数(人) |
|--------------------------------------------------------|--------|---------|
| 発達障がいのある幼児児童生徒の基礎的な理解と対応 ～「気づく」から始めよう～                 | 7月4日   | 28      |
| 発達障がいのある幼児・児童のライフステージに応じた支援<br>～今日の「できた」を未来(あした)へつなげる～ | 8月8日   | 29      |
| 発達障がいのある生徒のライフステージに応じた支援 ～豊かな現在(いま)が未来を拓く～             | 8月23日  | 23      |
| 教育相談(基礎編) ～わかり合うところがスタートライン～                           | 8月2日   | 42      |
| 教育相談(応用編) ～チームでつくる笑顔の相談～                               | 9月27日  | 17      |
| 指導に活かすアセスメント ～もっと知りたい 子どもたちのこと～                        | 7月21日  | 39      |
| 早期からの一貫した教育支援 ～教育的ニーズの整理と学びの充実～                        | 9月12日  | 28      |
| 特別支援学級の授業の充実 ～主体的に学べる授業を考えよう～                          | 8月22日  | 26      |
| 自立活動の指導の充実(小学校、中学校、高等学校編) ～実態把握と具体的な指導内容の設定～           | 7月13日  | 29      |
| 自立活動の指導の充実(特別支援学校編) ～指導事例から学ぶ～                         | 10月3日  | 32      |
| 特別支援学校における教科指導の充実 ～知的障がい国語編～                           | 9月21日  | 23      |
| 重度・重複障がいのある子どもの学びを支える ～伝わる・伝えたい関係づくり～                  | 7月5日   | 25      |
| 特別支援学校における授業の充実 ～確かな学びに向かう授業づくり～                       | 9月5日   | 37      |
| 児童生徒の可能性や個性を伸ばす進路指導 ～一人一人の多様な幸せと進路実現に向けて～              | 10月5日  | 30      |
| 授業におけるICTの活用(基礎編) ～やってみよう!写真・動画を使った授業～                 | 9月8日   | 39      |
| 授業におけるICTの活用(応用編) ～主体的な学びを支える実践の共有～                    | 8月10日  | 31      |
| 計                                                      |        | 478     |

(他に公開講座に235名が参加)

## 第4節 調査研究・教育研究事業

### 1 調査研究

「小・中学校、高等学校における特別支援教育の充実に  
向けた研修の在り方～特別支援教育の資質・能力を育成す  
るために必要な研修内容・研修体系の再考～（一年次）」

#### (1) 研究の趣旨と目的

福島県では「第7次福島県総合教育計画」を策定し、その  
施策の中で「地域で共に学び、共に生きる共生社会の形成  
に向けた特別支援教育の充実」に取り組んでいる。また、  
「校長及び教員としての資質の向上に関する指標【第2  
版】」（以下「指標【第2版】」と表記する）を策定し、研  
修を通じて身に付けるべき資質を示している。障がいの有  
無に関わらず、誰もがその能力を發揮し、社会の一員とし  
て共に認め合い、支え合い、誇りをもって生きられる「共生  
社会」の構築には、特別支援教育の充実が求められ、管理職  
を含む全ての教員の特別支援教育に関する専門性の向上が  
不可欠である。

福島県教育委員会が実施した「令和4年度体制整備状  
況調査」では、県内の幼稚園・認定こども園、小・中学校、  
高等学校における、特別支援教育に関する校内研修の実  
施率は、91.5%であることが明らかとなっている。一方  
で、研修の効果や研修ニーズはこれまでに調査されてい  
ない現状がある。このことから、新たな教育課題に対応し  
た研修や基礎的な知識・技能、専門性向上に関する研修  
等、研修の在り方を考える上で、小・中学校、高等学校で  
現在行われている研修の効果や特別支援教育に関する研  
修ニーズを調査することが必要であると考えた。

本研究は、これらの現状を踏まえ、特別支援教育の資質・  
能力を育成するために必要な研修内容・研修体系とはどの  
ようなものであるか、捉え直すことを通して、小・中学校、  
高等学校における特別支援教育の充実に向けた研修の在り  
方を追究することとした。

#### (2) 研究の経過

一年次の取組として、小・中学校、高等学校における特別  
支援教育に関する研修の実施状況及び研修ニーズ、課題、  
教員の意識・考え方等のアンケート調査・分析、小・中学校  
（義務教育学校を含む）、高等学校における教員の特別支  
援教育に関する取組状況や研修の実施状況、内容、研修の  
受講状況等について調査し、研修ニーズや課題等を把握し  
た。また、「指標【第2版】」に基づいて管理職を含む全て  
の教員に求められる特別支援教育の資質の整理・具体化を  
行った。アンケート調査結果と整理・具体化した特別支援  
教育の資質・能力を合わせて検討し、必要な研修項目を示  
した研修体系表（試案）を作成した。

研究の進め方、アンケート調査の方法・分析等について  
の妥当性を担保するため、実施検討委員会を定期的に実施  
し、研究アドバイザーより指導・助言を得ることとした。

ア 小・中学校、高等学校における特別支援教育に関する  
研修の実施状況や研修ニーズ、課題、教員の意識・考え

方等の調査・分析

#### (ア) アンケート調査の実施

本調査は、研修ニーズや課題等の把握を目的に、県  
内全ての小・中学校（義務教育学校を含む）、高等学校  
の管理職並びに主幹教諭、教諭、常勤講師（以下教諭等  
と表記）を対象として、意識や取組、課題等について質  
問した。管理職については各校1名、教諭等については  
全員を対象とした。なお、特別支援学級担任、通級指  
導教室担当については、職能研修等において、特別支  
援教育にかかる研修を受講する機会があることから、  
今回は対象外とした。

#### (イ) アンケート調査の視点

アンケート調査の視点を「指標【第2版】」の記載事  
項に基づき整理した。「指標【第2版】」における特別  
支援教育の専門性に関する語句を抽出し、それらの語  
句を、教員と子どもたちとの関係性の観点から4つの  
領域に分類した。その際、複数の領域に当てはまる語  
句は、最も関係が深いと考えられる領域に分類した。  
そして、文部科学省「発達障害を含む障害のある幼児  
児童生徒に対する教育支援整備ガイドライン～発達障  
害等の可能性の段階から、教育的ニーズに気づき、支  
え、つなぐために～」（2017；以下「ガイドライン」と  
表記する）を参照し、妥当性を確認し、「ガイドライン」  
の副題にある「気づく」「支える」「つなぐ」が「指標  
【第2版】」から導いた領域と関連が強いことを確認  
した。そこで、分類した4領域と、「気づく」「支える」  
「つなぐ」を関連付けるとともに、特別支援教育の理  
解にかかわる項目として、「指標【第2版】」から、「知  
る」を追加し、4領域の名称とした。そして、「知る」  
「気づく」「支える」「つなぐ」の4領域を因子として、  
調査結果から研修ニーズと「指標【第2版】」との関連  
を分析することとした。

#### (ウ) アンケートの集計結果の集計・分析

アンケート調査から分かったことは大きく以下の3  
点である。

第一に、教諭等は学校種にかかわらず「児童生徒の  
行動理解・実態把握」「障がい特性の理解」「具体的  
な対応・事例の紹介」を中心に、学んだり工夫や対応  
を行ったりしていることが分かった。同時に、これら  
を課題とも感じているということが分かった。このこ  
とから、「児童生徒の行動理解・実態把握」「障がい  
特性の理解」「具体的な対応・事例の紹介」が研修ニ  
ーズであると考えられる。学校現場が求めるこれらの  
研修ニーズを考慮した上で、必要な研修を構築してい  
くことが必要である。

第二に、特別支援学級等の経験の有無による分析結  
果から、「気づく」に関する内容が研修構築のポイント  
であることが分かった。特に「気づく」に含まれる子  
どもの見取りが「児童生徒の行動理解・実態把握」「障  
がい特性の理解」に影響することが考えられることから、

特別支援学級等の経験の有無にかかわらず、子どもの見取りの力を高めることのできるような研修が期待される。

第三に、管理職は子ども理解にかかわる「気付く」に加え、授業・学級づくりにかかわる「支える」への関心も高いことが分かった。教員を組織的に支えることにつながる、授業・学級づくりに関する研修が求められると考えられる。「気付く」に関する研修ニーズを満たすことで、この全ての教員が大切にしている教育の「土台」を確かなものにするのが期待される。また、子どもの見取りを軸とした、授業・学級経営につながるような、「気付く」「支える」に関する研修を充実させることで、管理職・教諭等ともに、特別支援教育に関する資質・能力を、より効果的に高めることができるのではないかと考えられる。アンケートでは、「具体的な対応・事例の紹介」も研修ニーズが高い結果が見られた。知識や情報を得るに加え、具体例や体感・実感を伴う経験に基づく校内研修が充実することにより、この研修ニーズも満たすことが期待できると考える。

研修実施については、「研修を受けたいが時間が取れない」「研修を受けたいが機会がない」という回答が特に多く見られ、研修を実施する体制に課題があることが分かった。また、自校で特別支援教育を推進するにあたっては、「時間が取れない」「講師になれる人材がない」「資料が準備できない」「何から行えばよいか分からない」の回答から、管理職が自校で研修を実施することに難しさを感じている可能性がうかがえる結果となった。

これらの結果から、時間・人材・資料などの体制を整えることが、研修ニーズの一つとして考えられる。その一方、学んだ実感が得られているか、本当に学びたいことが学べているかなどの視点から、研修ニーズを捉えることも必要である。つまり、体制と質の両輪でより良い方向に進むための方策を考えていく必要があるといえる。

#### イ 研修体系表（試案）の作成

##### (ア) 研修体系表とは

「指標【第2版】」に基づき、特別支援教育に関する専門性やキャリアに応じた資質を整理し、資質向上に必要な研修項目を示したものである。また、参照することで、特別支援教育の専門性向上に必要な事項、現状（ステップ）、該当ステージで求められる姿など、専門性向上の道筋を教員が自ら確認できるものである。

「ステージ」は、「指標【第2版】」に示された、教員としての成長過程を経験年数ごとに示している。本研究においては、3年間を通して、修正・改善を重ね、令和7年度末に完成を目指す。一年次は「研修体系表（試案）」として、完成・公表を目指して研究を進めた。

##### (イ) 研修体系表（試案）の内容

「指標【第2版】」に示されたステージと児童生徒を

指導・支援するためのステップを軸とした表で、教員が研修や経験を重ねながらキャリアを向上していく道筋を示したものとなっている。「ステップ」は、子どもに対する指導・支援の観点から4領域に分け、段階を設定している。ステージを示す縦軸では、自己のステージに求められる資質・能力を確認することができる。ステージごとの資質・能力の設定にあたっては、「指標【第2版】」の項目Ⅲ-9「特別な支援を必要とする児童生徒への対応」だけでなく、「Ⅲ児童生徒の理解と指導」の領域に示されている内容も含めて検討した。また、ステップを示す横軸は、「ガイドライン」を参考として、「子ども理解」を主軸とした支援のステップとの位置付けで内容を検討した。表では、各ステージ、各ステップで目指す姿の達成に必要な研修項目も示している。研修項目は、文部科学省、福島県の各種資料に基づき、内容を検討した。

研修体系表を活用することで、何を学べば良いかを確認したり、自己の研修や校内研修で参考としたりできる。具体的な活用例として、「校内研修を行いたいが、何から学べばよいか分からない」という場合に研修体系表を参照することで、研修項目の確認・選定ができるようになるなどが考えられる。

##### (ウ) 研修体系表（試案）の公表

作成した研修体系表（試案）は、県内の小・中学校、高等学校、市町村教育委員会に発出するとともに本センターWebサイトに掲載している。

URL: <https://special-center.fcs.ed.jp/>

### (3) 今後の取組

#### ア 二年次に向けて

二年次は、小・中学校、高等学校の研究協力校と実践研究に取り組む。研究協力校における「気付く」を重点とした校内研修を実施し、その効果を検証する。それを受けて研修コンテンツの作成、受講形態や研修内容に対応した工夫・改善に取り組み、多くの先生方が主体的に学ぶことができるための研修の在り方について検討する。そして、研修体系表の修正・反映、研修資料の開発・公開につなげたい。

#### イ 本研究により期待される姿

本センターは、三年間にわたる本研究を通して、特別支援教育の資質向上のための研修体系表を作成し、研修コンテンツ・研修パッケージの開発を行う。これらは、各学校における、より充実した研修の実施に向けた情報提供・研修支援の役割を果たすものとする。また、教員にとっては、特別支援教育に関する各学校のニーズに応じた研修が効果的に行われ、研修が充実することで、子どものかかわりの変容や校内支援体制の整備等につながることも期待される。

## 2 教育研究

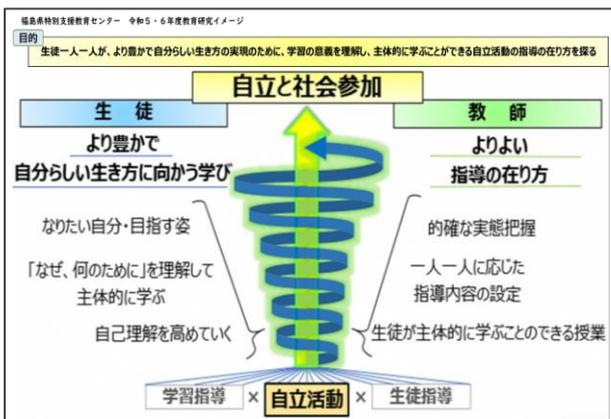
「特別支援学校高等部における自立と社会参加につなげる自立活動の指導の在り方～生徒が学習の意義を理解して、主体的に学ぶ姿を目指した実践研究～（一年次）」

### (1) 研究の趣旨と目的

自立活動は、特別支援学校の教育課程に特別に設けられた指導領域であり、個々の幼児児童生徒が自立を目指し、障がいによる学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服することを目的としている。小・中学校の特別支援学級や、小・中学校、高等学校の通級による指導でも取り入れられており、障がいのある児童生徒にとって、自立と社会参加に向けた重要な学習となっている。

自立活動の指導は、平成29年告示の特別支援学校学習指導要領では、具体的な指導内容を設定する際の考慮点として、「カ 自己選択・自己決定を促す指導内容」、「キ 自立活動を学ぶことの意義について考えさせるような指導内容」の2点が新たに追加された。これらは、自立と社会参加を目指し、幼児児童生徒自身が学習の意義を理解できるような取組が、より一層求められていることを示している。また、本県では、特別支援学校卒業後の課題として、周囲との適切なコミュニケーションの苦手さ、感情のコントロールの苦手さ、就労意識のもちにくさ等が挙げられており、個々の実態に応じた自立と社会参加に必要な力を学習する機会として、自立活動の指導の充実が求められている。さらに、自立活動の指導は教師個々の経験や専門性に任される部分が大きく、指導すべき課題の整理や指導目標の設定や主体的に取り組むことができる指導内容の設定等に、難しさを感じている教師が多い。

これらを踏まえて、自立と社会参加に向けて生徒自身が学習の意義を理解し、主体的に学ぶ姿を目指した自立活動の実践研究を行い、指導の経過や成果をまとめることで、自立活動の指導の充実に向けた一助にしたいと考える。



本研究のイメージ図

### (2) 研究の経過

聴覚支援学校（高等学校に準ずる教育課程）とたむら支援学校（知的障がいの教育課程）の2校を研究協力校とし、各校より高等部生徒2名を対象生徒として抽出し、2年間の指導と学びの経緯について考察していく。

ア 生徒一人一人に応じた自立活動の指導内容の設定方法

#### (ア) 実態把握

- a 聴覚支援学校の取組から
  - 学級担任が教科担任に、事前にヒアリングをしておいたことで、多角的な情報収集と短時間での効率的な実態の整理につながった。
  - 実態を自立活動の内容6区分に分類することで、障がいに関する実態や特性だけでなく、生徒の全体像を把握・整理することができた。
  - 生徒とかかわりが深い教員に加え、障がいに関する専門性の高い教員の視点が加わることで、より効果的な実態把握ができた。
- b たむら支援学校の取組から
  - 新たな環境に順応していく中で、生徒の実態に大きな変化が見られた。その都度実態を見え消し線で加除訂正し、課題を再確認した。

#### (イ) 課題の整理（中心的な課題）

- a 聴覚支援学校の取組から
  - 多くの実態や課題を分類・収束して整理し、中心的な課題を抽出するためには、課題となっている背景・要因を考えながら的確に課題を関連付けられる教師の専門性が必要だった。
- b たむら支援学校の取組から
  - 環境で変わる課題は中心的な課題ではないことに気付いた。

#### (ウ) 指導目標

- a たむら支援学校の取組から
  - 卒業後の生活をイメージし、幅広い人に気持ち伝わることを指導目標としたことで、指導内容が発音の不明瞭さに対する指導からタブレット端末を介したやりとりが変わった。

#### (エ) 指導内容から実際の指導へ

- a 聴覚支援学校の取組から
  - 個別の指導計画（流れ図）だけでは実際の授業がイメージしにくいと、授業が単発になりやすいという意見が出された。また、流れ図で導き出した指導内容を、単元・題材化したり、年間で指導するために計画化したりすることの難しさが挙げられた。

#### (オ) 学校組織としての取組

- a 聴覚支援学校の取組から
  - 聴覚障がいに関する知識や理解、言語指導等、障がい特性に関する指導ができる専門性が必要という課題が挙げられた。また、教師個々の専門性の向上に加え、教員間で協力・サポートできる校内体制の必要性が挙げられた。
  - 個別の指導計画は適宜見直ししながら活用することを、学校全体で共通理解することが必要である。見直す時期や期間、個別の指導計画へ反映させる方法等は、学校や学部で検討することが望ましい。

- 誰でも必要な時に見たり、必要に応じて修正・改善したりすることができ、かつ安全に管理できる仕組みを、学校や学部で検討することが望ましい。

b たむら支援学校の取組から

- 当センター所員と一緒に流れ図を作成した校内の教員が、各ブロックの中心となって他の生徒の流れ図を作成することで、学部内に流れ図の作成方法を波及していった。
- 年度当初、教職員全員で自立活動の講義（オンライン）を聴講した。自立活動の意義や基本を理解することに加え、各担任が流れ図の作成や見直しに生かすことができ、効果的だった。

イ 生徒が学習の意義を理解し、主体的に学ぶための自立活動の指導方法

(7) 信頼関係の構築

たむら支援学校の取組から

- 不安が強く、意思の表出が少ない対象生徒に対し、信頼関係を築くために担任が行った取組として、①「自分ノート」を作成し、自分の得意不得意を整理したり、他者から見た自分に気付けるようにしたりと、自己理解につなげる内容を取り入れた。②「交換ノート」を通し、学級担任とノートで対話することで、徐々に本音を見せるようになり、「伝えたい」という思いとその表出を引き出した。③本人に相談したり許可をとったり、否定せずに話を聞いたりし、まずは本人の意思を可能な限り尊重した。これらの取組により、主体的に学ぶための土台となる信頼関係を築くことにつながった。

(4) 目的意識をもった前向きな学び

聴覚支援学校の取組から

- 自分と他者との感じ方の違いを知り、適度な距離感をもつことを目指した指導をしていく中で、「自立活動は自分の将来に向けた前向きな学習のはずなのに、課題からの出発だと、本人の弱点を自認させるような取組になってしまう」という担任の悩みがあった。自分の苦手な部分や課題と直接向き合う学習は主体的な学びに結び付きにくい。そのため、「〇〇になりたい」「〇〇のために～しよう」という目的意識をもつことで、前向きな学び、主体的な学びに結び付けていくのではないかと考えた。このように指導目標や指導内容を設定する際の指導者の意識の転換の必要性が見出された。



目的意識をもった前向きな学び

(4) 自己理解に向けた学習

たむら支援学校の取組から

- マンダラートというシートを用い、中央のテーマ（目標）を実現するために必要なことを具体化させていった取組では、入学当初は、将来の仕事や学校生活に前向きな記入がなかった対象生徒だったが、教師との信頼関係が築かれ、教師とのやりとりや産業現場等における実習など体験的な活動を通し、自己理解が深まり、7月に実施したマンダラートでは、自分が好きな仕事は何か、どのような仕事が向いているか、客観的に自分に向かい、将来に向けた「今」を具体化する姿が見られた。

(5) 対話を重視した学習

たむら支援学校の取組から

- 対象生徒と担任が、対話をしながらコミュニケーションボードを作成した取組では、生徒の課題を改善・克服するための授業を一方向的に展開するのではなく、生徒と目指す姿を共有し、その姿を達成するために生徒と教師が対話しながら方向性を決め、柔軟に学習を進めた。生徒と教師が、「何を」「どのように」学ぶかを対話しながら確認していく授業は、生徒にとって「自分のための学習」であるという実感が得られ、自分事の学びにつながった。

(3) 研究のまとめ

本研究の取組から、自立活動の指導をより一層充実させるために必要なこととして、2つの視点が整理された。

ア 個別の指導計画は、生徒の学ぶ姿を通して見直し、妥当性のあるものにしていくこと。

- 個別の指導計画を根拠とした授業づくりがなされているか、そして生徒の学びや指導の評価が個別の指導計画の修正・改善に生かされているかを、改めて確認していく必要があると考える。
- 個別の指導計画と毎時間の自立活動の指導は連続している。個別の指導計画をPDCAサイクルで評価・改善し、授業づくりをPDCAサイクルで評価・改善する。それに加えて、生徒の学ぶ姿を通し、その両者間をPDCAサイクルで評価・改善することが必要である。

イ 生徒と「目指す姿」を共有し、それに向けた学習を、生徒と対話しながら決めていくこと。

○ 生徒の現在の課題だけに焦点を当てるのではなく、将来を見据えた少し先の目標に向けた学習になっているかを確認する必要がある。そして「何を、どのように学ぶか」を生徒と一緒に考える視点をもつことが重要である。

○ 目標は必ずしも一つではなく、変化していくことが考えられるとともに、目標にたどり着くための方法も複数考えられる。目標や方法は一つではないことを含めて、「生徒と対話しながら、生徒のための学習を決めていく」という教師の視点の転換が必要だと考える。

#### (4) 今後の取組

二年次は、次の点を中心に据え、研究協力校との対話を大切にしながら研究を深めていく。

- ① 個別の指導計画に生徒の「なりたい自分」や「目指す姿」を反映させること
- ② 個別の指導計画から導き出した指導内容を、実際の指導へ計画的につなげていくこと
- ③ 研究協力校が感じている課題や重点に応じた授業づくりを行い検証していくこと

### 3 長期研究員制度による研究

平成 29 年度より再び長期研究員制度を実施した。長期研究員は、各自が研究テーマを設定して、計画、実践、評価をして二年次に研究をまとめ、発表・報告を行うこととしている。令和 5 年度は 3 名が研究に取り組み、福島県特別支援教育センター研究発表会では二年次の 2 名が研究のまとめを発表し、一年次の 1 名がポスター発表で中間報告した。また、研究成果を「研究紀要」にまとめた。

## 第 5 節 教育図書・資料の収集・提供事業

### 1 教育図書の収集・整理

教育図書については、特別支援教育に関する専門図書の充実に努め、本年度 349 冊の新規購入及び受贈の結果、蔵書数は 7,926 冊になった。図書については、利用しやすいように障がい別（視覚障がい、聴覚障がい、知的障がい、肢体不自由、病弱、言語障がい、情緒障がい、重複障がい等）に配架している。

### 2 教育関係定期刊行物の収集・整理

教育関係定期刊行物は 6 種類購入し、いつでも閲覧できるように分類・配架した。

### 3 教育資料の収集・整理

全国の関係機関や県内の教育機関の協力により、研究紀要・研究報告書・ハンドブック等の収集に努め、本年度収集した 47 冊を分類・配架した。県内の資料についても、学校別に分類・配架した。

## 第 6 節 広報・啓発事業

### 1 所報「特別支援教育」(76 号)

#### (1) 内容

##### ア 巻頭言

「『学びの変革』を実現するレジリエントな教師の育成に向けて」

福島県立視覚支援学校長 郷家 俊哉 氏

##### イ 特集「すべての子どもの可能性と個性を伸ばし、多様性を力に変える教育を目指して」

(ア) 調査研究から「特別支援教育の充実に向けた研修の在り方」

(イ) 教育研究から「学習の意義を理解し主体的に学ぶ姿を目指した自立活動」

(ウ) 教育相談実践報告「すべてを明日の自分に生かす教育相談～共に悩み、共に考え、共に喜ぶ～」

##### ウ 研修ノート

(ア) 研修講座から「特別支援教育の情報アップデート(資料紹介)」

(イ) 学校教育指導委員から

##### エ 随想

(ア) 各学校の先生方から

(イ) 2 年間の長期研究を通して

##### オ 研修報告

(ア) 国立特別支援教育総合研究所での研修から

(イ) 福島大学教職大学院での研修から

##### カ インフォメーション

(ア) 教育相談「特別支援教育センターならではの『教育相談』」

(イ) 教員研修「対話することの大切さ～令和 5 年度 教員研修を振り返って～」

(ウ) 学校・地域支援「子どもの理解者・良き支援者となるために」

(エ) 教育資料・情報「当センター Web サイト『活用のススメ』」

##### キ 編集後記

#### (2) 規格、ページ等

ア 規格 A 4 判

イ ページ数 30 ページ

ウ Web サイトで公開

エ 各関係機関へ配付

### 2 研究紀要「第 37 号」

#### (1) 内容

ア はじめに

イ 調査研究

「小・中学校、高等学校における特別支援教育の充実に向けた研修の在り方～特別支援教育の資質・能力を育成するために必要な研修内容・研修体系の再考～(一年次)」

#### ウ 教育研究

「特別支援学校高等部における自立と社会参加につながる自立活動の指導の在り方～生徒が学習の意義を理解して、主体的に学ぶ姿を目指した実践研究～（一年次）」

#### エ 長期研究員研究

- 「特別支援教育の視点を取り入れた国語科の指導の在り方～『文字や単語の書き』につまずく要因の把握と効果的な指導と支援～（一年次）」
- 「通常の学級における特別支援教育の視点を取り入れた保健体育科の授業の在り方～生徒が運動の楽しさや喜びを味わえるための個に応じた効果的な指導と支援～（二年次）」
- 「特別支援教育の視点で児童のつまずきをとらえた音楽科の授業づくり～つまずく要因の把握と個に応じた指導の工夫～（二年次）」

#### オ おわりに

### (2) 規格、ページ、部数

- ア 規格 A4 判
- イ ページ数 62 ページ
- ウ Webサイトで公開
- エ 各関係機関へ配付

## 第7節 情報教育事業

### 1 ICT活用支援

専門研修講座において、ICTに関する講座を「授業におけるICTの活用（基礎編）～やってみよう！写真・動画を使った授業～」 「授業におけるICTの活用（応用編）～主体的な学びを支える実践の共有～」の2講座とし、研修者のニーズに応じた内容を設定し実施した。基礎編では、情報活用能力やICTの活用についての基礎的基本的な知識の講義や、タブレット端末の標準アプリやGoogleアプリの基本的な活用についての演習を行い、そこで得た知識や経験をもとに、今後の授業づくりの構想を協議する研修を行った。また、応用編では、情報活用能力を育成するための授業づくりや校内体制の工夫について、講義や協議をもとに考え、外部講師の講演をいただくことによって、ICTを活用し、専門性を発揮できるような実践について学ぶ機会とすることができた。

基本研修においては、初任者研修の中で情報モラルに関する講義を実施するとともに、職能研修においては、教務主任・学部主事研修会で校務処理の向上に関する演習を行った。

また、全ての講座において、ICTの基礎的な理解を促す内容の動画を流し、理解啓発に努めた。

### 2 情報機器活用

オンラインでの講義配信を行い、外部講師の講義をリアルタイムで配信する形での公開講座を行った。また、講義等でWi-Fi環境を活用したオンラインアンケートやGoogleアプリの演習などにも取り組んだ。

### 3 情報教育ネットワークとWebサイトの充実

Webサイトで本センターの事業内容を多くの方々に伝えるため、研修や研究の広報充実に努めた。

相談係と協力し、「教育相談だより」の掲載を行った。また、教育研究担当者と協力し、「教材・支援機器ポータル」にICT教材の活用事例の追加を行った。この事例については、国立特別支援教育相応研究所からの依頼を受け、当Webサイトの「特別支援教育教材ポータルサイト」に実践事例として公開された。

- 本センターWebサイトへのアクセス状況

Googleアナリティクス計測による、閲覧されたページ総数 119,789 ページビュー

(令和5年10月6日～令和6年3月31日 Googleアナリティクスのバージョン変更により、計測期間が限定的となっている。)

---

---

## 令和5年度実績 教育年報

発行 令和6年11月29日  
編集発行 福島県教育委員会  
福島市杉妻町2番16号  
TEL (024) 521-7759

---

---